



高崎健康福祉大学

Takasaki University of Health and Welfare

2019 年度

シラバス

人間発達学部 子ども教育学科



内容

基礎教養ゼミ(教養基礎)	1	ドイツ語(リテラシー)	90
日本語表現法(教養基礎)	3	フランス語(リテラシー)	92
日本国憲法(教養基礎)	5	ポルトガル語(リテラシー)	94
法学(教養基礎)	7	中国語(リテラシー)	96
経済学(教養基礎)	9	ハンガール語(リテラシー)	98
社会学(教養基礎)	11	コンピュータ入門Ⅰ(リテラシー)	100
生涯健康論(教養基礎)	13	コンピュータ入門Ⅱ	103
生涯学習概論(教養基礎)	16	コンピュータ実習Ⅰ(リテラシー)	105
生命と環境の科学(教養基礎)	18	コンピュータ実習Ⅱ(リテラシー)	107
国際関係論(教養基礎)	22	レクリエーション論(専門教養)	109
体育理論(教養基礎)	25	子どもと医療(専門教養)	111
体育実技(教養基礎)	27	宗教と倫理(専門教養)	114
キャリア形成論(教養基礎)	29	人間発達論(専門教養科目)	116
哲学(人間理解)	32	人間行動学(専門教養)	118
倫理学(人間理解)	34	音楽基礎Ⅰ(幼・保)(専門教養科目)	120
心理学(人間理解)	36	音楽基礎Ⅰ(小学校)(専門教養)	122
文学と人間(人間理解)	38	音楽基礎Ⅱ(幼・保)(専門教養科目)	125
芸術論(共通教養科目、人間理解)	40	音楽基礎Ⅱ(小学校)(専門教養)	127
ボランティア・市民活動論(人間理解)	42	現代教育論Ⅰ(専門教養)	130
人権論(人間理解)	45	現代教育論Ⅱ(専門教養)	134
人間関係論(人間理解)	47	世界と子ども(専門教養)	138
ジェンダー論(人間理解)	49	特別支援教育入門(専門教養)	140
共生の倫理(人間理解)	51	保育原理(保育・教育の原理)	142
チーム医療アプローチ論(人間理解)	53	教育基礎論A(保育・教育の原理)	144
国際医療事情(人間理解)	55	教育制度論A(保育・教育の原理)	146
Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)	57	地域教育社会論(保育・教育の原理)	148
囲碁の世界(人間理解)	60	子ども家庭福祉Ⅰ(保育・教育の原理)	150
英語ⅠA(リテラシー)	62	子ども家庭福祉Ⅱ(保育・教育の原理)	152
英語ⅠB(リテラシー)	64	障害者福祉論(保育・教育の原理)	154
英語ⅠC(リテラシー)	66	社会福祉(保育・教育の原理)	156
英語ⅡA(リテラシー)	68	社会的養護Ⅰ(保育・教育の原理)	158
英語ⅡB(リテラシー)	70	子どもの保健(保育・教育の原理)	160
英語ⅡC(リテラシー)	72	教育心理学A(保育・教育の原理)	162
英語ⅢA(リテラシー)	74	子ども家庭支援の心理学(保育・教育の原理)	164
英語ⅢB(リテラシー)	76	遊びの指導(保育・教育の原理)	166
英語ⅢC(リテラシー)	78	保育者論(保育・教育の原理)	168
英語ⅣA(リテラシー)	80	教師論A(保育・教育の原理)	170
英語ⅣB(リテラシー)	82	青年心理学(保育・教育の原理)	172
英語ⅣC(リテラシー)	84	こころの健康(保育・教育の原理)	175
Integrated EnglishⅠ(リテラシー)	86	保育内容総論(保育・教育の内容)	178
Integrated EnglishⅡ(リテラシー)	88	保育内容健康(保育・教育の内容)	180
		保育内容人間関係(保育・教育の内容)	182
		保育内容環境(保育・教育の内容)	184
		保育内容言葉(保育・教育の内容)	186
		保育内容表現(保育・教育の内容科目)	189

子どもの食と栄養Ⅰ(保育・教育の内容)	192	パーソナリティの心理学(保育・教育の内容)	283
子どもの食と栄養Ⅱ(保育・教育の内容)	194	特別の支援を必要とする子ども理解と支援法(保育・教育の方法技術)	285
乳児保育Ⅰ(保育・教育の内容)	196	子ども理解と援助(保育・教育の方法技術)	287
乳児保育Ⅱ(保育・教育の内容)	198	造形	289
障害児保育Ⅰ(保育・教育の内容)	200	幼児音楽(保育・教育の方法技術)	291
障害児保育Ⅱ(保育・教育の内容)	202	初等音楽演習Ⅰ(保育・教育の方法技術)	293
社会的養護Ⅱ(保育・教育の内容)	204	幼児音楽演習Ⅰ(保育・教育の方法技術科目)	295
子どもの健康と安全(保育・教育の内容)	206	初等音楽演習Ⅱ(保育・教育の方法技術)	297
幼児と健康(保育・教育の内容)	208	幼児音楽演習Ⅱ(保育・教育の方法技術科目)	299
幼児と人間関係(保育・教育の内容)	210	在宅保育論(保育・教育の方法技術)	301
幼児と環境(保育・教育の内容)	212	子ども家庭支援論(保育・教育の方法技術)	303
幼児と言葉(保育・教育の内容)	214	親子遊び論(保育・教育の方法技術)	305
幼児と表現(保育・教育の内容)	216	教育課程論A(保育・教育の方法技術)	307
国語(保育・教育の内容)	219	カリキュラム論(保育・教育の方法技術)	310
社会(保育・教育の内容)	222	幼児教育の方法と技術(保育・教育の方法技術)	313
算数(保育・教育の内容)	224	初等特別活動論(保育・教育の方法技術)	315
理科(保育・教育の内容)	226	初等教育方法論(保育・教育の方法技術)	317
生活(保育・教育の内容)	228	中等特別活動論(保育・教育の方法技術)	319
家庭(保育・教育の内容)	231	中等教育方法論(保育・教育の方法技術)	321
音楽(保育・教育の内容)	233	国語科指導法(保育・教育の方法技術)	323
図画工作(保育・教育の内容)	235	社会科指導法(保育・教育の内容)	326
体育(保育・教育の内容)	238	算数科指導法(保育・教育の方法技術)	329
外国語(英語)(保育・教育の内容)	241	理科指導法(保育・教育の方法技術)	331
英語学概論(保育・教育の内容)	244	生活科指導法(保育・教育の内容)	333
学校英文法論(保育・教育の内容)	246	家庭科指導法(保育・教育の方法技術)	335
現代英語学の理論と応用Ⅰ(保育・教育の内容)	248	音楽科指導法(保育・教育の方法技術)	337
現代英語学の理論と応用Ⅱ(保育・教育の内容)	250	図画工作科指導法(保育・教育の方法技術)	339
英語文学入門(保育・教育の内容)	252	体育科指導法(保育・教育の方法技術)	342
英語文学批評(保育・教育の内容)	254	外国語(英語)の指導(保育・教育の方法技術)	344
英語文学論(保育・教育の内容)	256	英語科指導法Ⅰ(保育・教育の方法技術)	347
英語児童文学論(保育・教育の内容)	258	英語科指導法Ⅱ(保育・教育の方法技術)	349
英語教育学Ⅰ(保育・教育の内容)	260	英語科教材研究Ⅰ(保育・教育の方法技術)	352
英語教育学Ⅱ(保育・教育の内容)	262	英語科教材研究Ⅱ(保育・教育の方法技術)	354
Communicative Classroom EnglishⅠ(保育・教育の方法技術)	264	小学校理科実験(保育・教育の方法技術)	357
Communicative Classroom EnglishⅡ(保育・教育の内容)	266	総合的な学習の時間論A(保育・教育の方法技術)	359
Writing for English Teaching(保育・教育の内容)	268	初等道德教育論(保育・教育の方法技術)	361
Writing for English Teaching	268	中等道德教育論(保育・教育の方法技術)	363
Speech Workshop(保育・教育の内容)	270	保育内容指導法(保育・教育の方法技術)	365
異文化コミュニケーション論(保育・教育の内容)	273	幼小教育相談(保育・教育の方法技術)	367
ヨーロッパ思想と多文化理解(保育・教育の内容)	275	中学校教育相談(保育・教育の方法技術)	370
表現演習(保育・教育の内容科目)	277	生徒指導論A(保育・教育の方法技術)	373
絵本論(保育・教育の内容)	279	初等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)	376
家庭教育と幼児教育(保育・教育の内容)	281	中等生徒指導論(保育・教育の方法技術)	378
		中等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)	380

子どもの英語コミュニケーション指導(保育・教育の方法技術)	382	学習指導と学校図書館(司書教諭)	472
学校危機管理論(保育・教育の方法技術)	384	読書と豊かな人間性(司書教諭)	474
心理検査法(保育・教育の方法技術)	386	情報メディアの活用(司書教諭)	476
家族療法(保育・教育の方法技術)	389		
保育方法論(保育・教育の方法技術)	391		
心身の発達と学習過程(保育・教育の方法技術)	393		
子育て支援(保育・教育の方法技術)	396		
チーム医療アプローチ演習(保育・教育の方法技術)	398		
保育実習Ⅰ(実習)	400		
保育実習指導Ⅰ(実習)	401		
保育実習Ⅱ(保育所)(実習)	405		
保育実習Ⅲ(施設)(実習)	406		
保育実習指導Ⅱ(実習)	407		
保育実習指導Ⅲ(実習)	409		
幼稚園教育基礎実習(実習)	411		
小学校教育基礎実習(事前事後指導含む)(実習)	412		
中学校教育基礎実習(実習)	414		
幼稚園教育実習(事前事後指導含む)(実習)	415		
小学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)	416		
中学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)	418		
特別支援学校教育基礎実習(実習)	419		
特別支援学校教育実習(事前事後指導を含む)(実習)	421		
保育・教職実践演習(幼)(実践演習)	423		
教職実践演習(小中)(実践演習)	425		
卒業研究(卒業研究)	428		
特別支援教育概論(特別支援)	431		
特別支援教育の課題と実践(特別支援)	433		
知的障害児の心理・生理・病理	435		
肢体不自由児の心理・生理・病理(特別支援)	438		
病弱児の心理・生理・病理(特別支援)	440		
障害児の発達診断(特別支援)	442		
知的障害児の指導(特別支援)	444		
肢体不自由児の指導(特別支援)	446		
病弱児の指導(特別支援)	448		
知的障害児教育演習(特別支援)	450		
肢体不自由児教育演習(特別支援)	453		
病弱児教育演習	456		
視覚障害・聴覚障害教育総論(特別支援)	459		
知的障害者教育総論(特別支援)	461		
重複障害児教育総論(特別支援)	463		
発達障害児教育総論(特別支援)	465		
学校経営と学校図書館(司書教諭)	467		
学校図書館メディアの構成(司書教諭)	470		

科目名	基礎教養ゼミ(教養基礎)			LAB001	講義
英文名	Freshman Seminar (FYE)				
担当教員	町田 修三、根岸 恵子、小泉 英明、武藤 洋一				
科目に関連する実務経験	小泉:人事、社員教育担当として企業にて勤務(経験) 武藤:記者、編集者として新聞社にて勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	充実して実り多い大学生活を送るには、どうしたらいいのだろうか? 大学で失敗しないためには、初年時に学生生活の送り方を修得しておくことが極めて大切である。本講義では大学生活のキーとなる、学習方法やレポート執筆等にかかる「学習スキル」、コミュニケーション能力をはじめとした「ソーシャルスキル」、読み書きや数的能力などの「アカデミックスキル」。学生にとって必要なこうしたスキルをしっかりと身につけていくことを、講義の目標としている。受講学生には、積極的に講義に参加する受講態度が求められる。				
到達目標	1.大学での学習生活を確立する。 2.基礎学力を確認し、自己学習の方向性をつかむ。 3.社会人に必要とされる言葉使い・文章表現を習得する。■ 4.総合適性検査(SPI)を意識し、対応するための基礎力を養成する。 5.キャリアデザインの構築を図るために、社会常識・マナー等を学び、自ら考え、自ら問える力を養う。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	参加度 50%、提出物 50%で総合的に評価する。総合評価 60%を合格とする。				
課題に対するフィードバック	提出物・レポート・小テストを返却し、解説をする。基礎力テストや実力テスト後に解説や結果を知らせる。				
使用教材	資料、プリント				
1	講義内容	学で何を学ぶか(意義と目的)			
	該当する到達目標	予習	事前にシラバスを読み、目標を確認し、大学生活をプランニングする。		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。		1 時間
2	講義内容	書くためのスキル(ノート、レポート・論文の書き方)			
	該当する到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。		1 時間
	1,2,3	復習	ノートテ—キング、レポートの書き方をマスターする。		1 時間
3	講義内容	基礎力テスト(計算/言葉)			
	該当する到達目標	予習	言語・作文・計算や数式など基礎力を確認しておく。		1 時間
	1,2,3,4	復習	今までの学習を振り返り、復習する。		1 時間
4	講義内容	解くためのワーク I (計算)			
	該当する到達目標	予習	計算方法や文章題の復習をしておく。		1 時間
	1,2,4	復習	配布した問題の残りを解く。		1 時間
5	講義内容	考えるためのワーク I (言葉の多様性①GW)■			
	該当する到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。		1 時間
	1,2,3	復習	添削を受けた作文を書き直す。		1 時間
6	講義内容	コミュニケーションスキル I (アクティブラーニング GW)			

	該当する到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	レポートを書く。	1 時間
7	講義内容	考えるためのワークⅡ (言葉の多様性②) ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
8	講義内容	解くためのワークⅡ (数的処理①)		
	該当する到達目標	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
	1,2,4	復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
9	講義内容	キャリアデザイン ■		
	該当する到達目標	予習	自らの人生設計について考えておく。	1 時間
	1,2,5	復習	レポート書き方を確認しておく。	1 時間
10	講義内容	考えるためのスキルⅠ (新聞を読み説く) ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3	復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
11	講義内容	解くためのワークⅢ (数的処理②)		
	該当する到達目標	予習	前回の問題を解いておく。	1 時間
	1,2,4	復習	配布した問題の残りを解く。	1 時間
12	講義内容	考えるためのワークⅢ (自己紹介・他者紹介) ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布した教材に目を通しておく。	1 時間
	1,2,3,5	復習	添削を受けた作文を書き直す。	1 時間
13	講義内容	コミュニケーションスキルⅡ (プレゼンテーション GW)		
	該当する到達目標	予習	事前配布した資料に目を通しておく。	1 時間
	1,2,5	復習	興味あるトピックについて発表できるようにする。	1 時間
14	講義内容	実力テスト		
	該当する到達目標	予習	今まで学習した内容を復習しておく。	2 時間
	1,2,3,4	復習	試験の内容を振り返り、学習する。	1 時間
15	講義内容	考えるためのスキルⅡ (社会を正しく理解する)		
	該当する到達目標	予習	これまでの講義内容を振り返り、どう活用するかを考えておく。	1 時間
	1,2,3,5	復習	大学生活を有意義に過ごすための方策を考える。	1 時間
備考	授業では、ジェネリックスキルをつけるため、できる限りアクティブラーニングを取り入れる。日本語作文能力と数学基礎力は、学習支援センターとのコラボレーションで提出と添削を繰り返して涵養を目指す。 予習復習については、試験前の学習で補完すること。 オフィスアワー: 学習支援センター (2 号館 2 階) は月～金開室。数的処理は常時、言語関係・レポート等は、木曜 3 時限より質問を受け付ける。 メールアドレス「machida@takasaki-u.ac.jp」 研究室: 1 号館 6 階 603 号室 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	日本語表現法(教養基礎)			LAB002	講義
英文名	Japanese Expression Method				
担当教員	武藤 洋一				
科目に関連した実務経験	記者として上毛新聞社に勤務。記事全般、コラムを執筆。(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	日本人の極端な日本語能力低下が問題視されている中で、「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。同時に他者の「考え」を発言や文面から把握、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。				
到達目標	1.自分の「考え」をまとめ、意思表示できる。 2.日本語の基礎知識を表現・文法・語彙の三側面から確認し、理解できる。 3.日本語表現の基本的ミスを確認し、理解できる。■ 4.文章の組み立て方を理解し、習得できる。 5.日本語表現的に正確な文章が書けるようにする。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	筆記試験(80%)・授業参加度(20%)によって、総合的に評価する。評価方法の基準は講義時に通達する。				
課題に対するフィードバック	提出した文章の欠点・修正点を謙虚に捉え、新たな文章作成の場に生かし、文章力向上に挑戦する。				
使用教材	『文章表現テクニック』(教育弘報研究所)				
1	講義内容	「考え」をまとめるための 5 段階■			
	該当する到達目標	予習	テキストの該当箇所を読み、自分なりの 5 段階法を考察しておく。		1.5 時間
	1,4	復習	実際に 5 段階法で文章を書き、文章構成の手法を振り返ってみる。		1.5 時間
2	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅰ 「公的」と「私的」■			
	該当する到達目標	予習	「公的」「私的」の違いを把握し、教科書のテスト 1 を解いておく。		1.5 時間
	1,5	復習	作文と小論文の違いをノートにまとめ、理解してみる。		1.5 時間
3	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句■			
	該当する到達目標	予習	テキストの該当部分を読み、テスト 2 を解いておく。		1.5 時間
	2,3,5	復習	「慣用句」についての理解を深めてみる。		1.5 時間
4	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語■			
	該当する到達目標	予習	テキストの該当部分を読み、テスト 3 を解いておく。		1.5 時間
	2,3,5	復習	「慣用句」～「故事成語」をノートにまとめ、自分でも調べてみる。		1.5 時間
5	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語■			
	該当する到達目標	予習	テキストの該当部分を読み、テスト 4 を解いておく。		1.5 時間
	2,3,5	復習	「四字熟語」の見識を深めるため日常的に使われている熟語を調べてみる。		1.5 時間
6	講義内容	日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法■			

	該当する到達目標	予習	比喩法の違いを把握しておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	比喩法を正確に識別できるか、試してみる。	1.5 時間
7	講義内容	日本語表現のミスⅠ 主述関係■		
	該当する到達目標	予習	主述関係のミスによる例文を考えておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	主述関係が正確に伝わる文章の条件を、ノートにまとめてみる。	1.5 時間
8	講義内容	日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語■		
	該当する到達目標	予習	修飾語・被修飾語の基本的知識を学んでおく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	修飾関係の乱れを生じさせない条件を、例文を使ってノートにまとめてみる。	1.5 時間
9	講義内容	日本語表現のミスⅢ 重複表現■		
	該当する到達目標	予習	重複表現の例を調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	重複表現を故意に使った駄洒落文を作ってみる。	1.5 時間
10	講義内容	日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用■		
	該当する到達目標	予習	陳述の副詞の誤用例を調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	社会の流れによって変わる「誤用」の要因を考えてみる。	1.5 時間
11	講義内容	日本語表現のミスⅤ 日本語表現の誤用■		
	該当する到達目標	予習	日常的に使われている誤用を調べておく。	1.5 時間
	2,3,5	復習	オリジナルの誤用を作り出してみる。	1.5 時間
12	講義内容	文章の組み立て方Ⅰ 起承転結■		
	該当する到達目標	予習	「起承転結」の意味を調べておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	「起承転結」に従って 400 字程度の小論文を書いてみる。	1.5 時間
13	講義内容	文章の組み立て方Ⅱ 5W1H■		
	該当する到達目標	予習	テキストを基に、5W1H の基本知識を習得しておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	5W1H に従いながら文章構成を考え、100 字以内の文章を作ってみる。	1.5 時間
14	講義内容	文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス■		
	該当する到達目標	予習	新聞の社説を利用し、キーワード・キーセンテンスを見つけておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	キーワード・キーセンテンスを選択する際の必要事項をノートにまとめてみる。	1.5 時間
15	講義内容	文章の組み立て方Ⅳ 字数制限■		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布された課題文の要旨を字数制限に従ってまとめておく。	1.5 時間
	1,4,5	復習	800 字の文章を 200 字に、200 字の文章を 400 字にする訓練を試みる。	1.5 時間
備考	受講に必要な資格はなし。 毎回、現代人がよく間違える慣用句や文章表現について、その都度実例を示しながら説明する。また、高校までに学ぶ機会が少なかったと思われる四字熟語・ことわざなどを、講義時間の一部を使って説明する。小論文を「書く→添削→返却」を 3 回程度実施する。 オフィスアワーは授業実施時限の前後 1～2 時間。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	日本国憲法(教養基礎)			LAB003	講義
英文名	Japanese Constitution				
担当教員	金井 洋行				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	憲法の基本理念と日本国憲法に関する基礎的知識を習得することを第一義的な学習目標とする。第二に、社会人として要求される価値規範意識を、憲法学習を通して醸成することを目標とする。終局的に、身近な生活関係の中から人々の権利の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題の理解を深めることを目標とする。				
到達目標	1.日本国憲法を貫いている思考や仕組みと日本国憲法の歴史的背景を理解することができる。 2.憲法が解決すべき紛争について、その歴史的、社会的背景を認識することができる。 3.市民相互間の法的関係や公的部門のそれに対する機能の関連性を考察することができる。 4.政治の世界で起きている出来事について、具体的な憲法規定と結びつけることができる。 5.主要な学説について、その対立の背景と主張のねらいを認識することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%) ・中間テストは概ね 3 回の知識テスト又はレポート、定期試験は知識と思考力のテスト				
課題に対するフィードバック	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)				
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキスト:有斐閣新書『注釈憲法』) *テーマによっては DVD の視聴あり。				
1	講義内容	憲法とは何か?ー憲法学習の意義と憲法の本質ー			
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 233-243 頁	2 時間	
	1	復習	予備知識アンケート	0.5 時間	
2	講義内容	国家・国民・政府ー憲法を構成する基本要素の内容ー			
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 5-6 頁、138-140 頁	1 時間	
	1	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
3	講義内容	日本国憲法の制定過程			
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 2-4 頁、資料;「日本国憲法の有効性」	1 時間	
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
4	講義内容	日本国憲法の基本構造と特色			
	該当する到達目標	予習	資料;「日本国憲法の体系」熟読と疑問点の究明	1 時間	
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
5	講義内容	国民主権と天皇制			
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 5-26 頁	1 時間	
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
6	講義内容	平和主義と 9 条解釈の変遷			

	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 27-33 頁	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	基本的人権の沿革と観念		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 40-44 頁、232-234 頁	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	基本的人権規定の適用問題(範囲と限界)		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 35-36 頁、40-45 頁	1 時間
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	個人主義・自由主義・平等主義		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 42-67 頁	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	日本国憲法上の諸権利の性格(消極的権利と積極的権利)		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 68-87 頁	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	国会の地位と選挙の構造と機能		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 109-121 頁、133-136 頁、145-149 頁	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	行政権の意義と内閣の組織・権限の特徴		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 154-168 頁	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	司法権の意義と裁判のルール		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 179-184 頁	1 時間
	4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	権力分立と地方自治・分権		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 111-120 頁、214-226 頁	1 時間
	1,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	憲法改正と憲法保障		
	該当する到達目標	予習	テキストの熟読と疑問点の究明 227-243 頁	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
備考	講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的あるいは国際的に大きな政治の動きがあった場合には、その話題を飛び入りのに割り込ませることはある。日々の社会や政治の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりに考えておくことを期待する。 出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。			

科目名	法学(教養基礎)			LAB004	講義
英文名	Law				
担当教員	金井 洋行				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	法の存在意義を人生の節目で生じる法律問題を通して理解することを基幹的目標とする。生活上生じる法律問題や法的処理事項の背景にある法社会学的意味を考える。法律関係は権利義務の変動の関係であるので、それぞれ権利義務とその変動要因にどのような種類があるかを知ることを目指す。法律関係の基本的システムを習得することによって、社会的生活者に要求される法規範意識を身につける。				
到達目標	1.法の存在意義や社会的機能の全体的な姿を理解することができる。 2.法制度の社会学的意義を理解することができる。 3.契約関係のシステムの意義と特色を理解することができる 4.家族関係の法的処理の方法を理解することができる。 5.法的紛争処理の限界を知り円滑な生活関係を維持する手法を考察することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%) ・中間テストは概ね 3 回の知識テスト又はレポート、定期試験は知識と思考力のテストを実施する。				
課題に対するフィードバック	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)				
使用教材	テーマ別レジュメ、概要・事例資料(テキストに代替するプリント) * テーマによっては DVD の視聴あり。				
1	講義内容	法の意義と機能			
	該当する到達目標	予習	高校時の社会の教科書「法分野」の箇所を読んでおくこと	2 時間	
	1,5	復習	予備知識アンケート	0.5 時間	
2	講義内容	成人と法—人の年齢と能力の法的意味			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間	
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
3	講義内容	就職と法—採用の法的意味と選別の法的問題			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間	
	2,3,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
4	講義内容	労働と法—労働契約の内容と労働条件の保護			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間	
	2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
5	講義内容	結婚と法—婚姻の要件と夫婦の法律関係			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間	
	2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間	
6	講義内容	親子と法その 1—出生をめぐる法律問題と親子関係の形成			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間	

	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	親子と法その 2—親権関係と扶養関係		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	教育と法—義務教育の意義と就学過程の法律問題		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	社会活動と法—団体の法律関係と団体生活の法律問題		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	社会負担と法—租税等の国民負担と公共生活上の法律問題		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	国際化と法—出入国管理の法律関係と涉外事件の処理		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	財産関係と法—取引の法律関係と契約締結上の法律問題		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,3	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	犯罪と法—犯罪・刑罰の法的意味と科罰手続の法律問題		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	争い事と法—紛争の法的処理方法と裁判の仕組み		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	老年期と法—介護・医療の法律問題と人の死の法的意味		
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「概要・事例資料」読み込み	1 時間
	1,2,4,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
備考	講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に大きな社会問題が発生した場合には、その話題あるいは関連する事項を飛び入りの割りに割り込ませることはある。日々の社会の動きに興味をもって様々なニュースソースに接し、自分なりにその背景や解決策を考えておくことを期待する。 出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。			

科目名	経済学(教養基礎)			LAB005	講義
英文名	Economics				
担当教員	町田 修三				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、多くの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても経済知識なしで投票に行くのは危険である。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。レベルとしては、新聞やテレビのニュースがしっかりと理解できるようになることを想定している。また、医療分野を専攻する学生にとっては、医療の経済面からの考察も講義に取り入れるので参考にして理解を深めてほしい。				
到達目標	1. 日本の経済の現状を説明できる 2. 需要と供給、市場メカニズムについて理解を深め、概説できる 3. 景気やGDPについて理解を深め、概説できる 4. 国の予算や税金制度について説明できる 5. お金の流れや物価変動について説明できる 6. 経済政策について理解を深め、他者に説明できる 7. 為替レートの変動と貿易の実態について概説できる 8. 新聞やテレビのニュースが理解でき、他者に解説できる				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	学期末試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物(クイズ、小レポートなど)20%				
課題に対するフィードバック	コメントカードに記載された質問事項、疑問点等に関しては、次回の講義で回答する。クイズについても次回の講義で解説する。小レポートにはコメントを付して返却する				
使用教材	必修テキストはない。推薦テキストは多数あるので、講義の中で必要に応じて紹介する。講義では毎回資料、データを配布する				
1	講義内容	イントロダクション(一部AL[アクティブラーニング]実施)			
	該当する到達目標 8	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく		1 時間
		復習	ニュースに触れる習慣(新聞、テレビ、ネット)を開始する		1 時間
2	講義内容	日本経済の流れ(世界との比較のなかで)			
	該当する到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく		1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習		1.5 時間
3	講義内容	経済政策の2大潮流—マーケット or ケインズ(一部AL実施)			
	該当する到達目標 1,8	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく		1 時間
		復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習		1.5 時間
4	講義内容	需要と供給(需要曲線の意味)			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく		1 時間

	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
5	講義内容	市場メカニズムと価格(どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
6	講義内容	価格の変動(どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	2,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
7	講義内容	国民所得 I (国の経済力はどう測るんだろう? GDPって何?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
8	講義内容	国民所得 II (あなたが 1 万円使うとGDPはいくら増える?)(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
9	講義内容	財政(日本の借金は大丈夫? 消費税は何%に?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,4,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
10	講義内容	景気と失業(不景気で学生の就職はどうなる?)(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,3,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
11	講義内容	金融(日本銀行は何をすること?)(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,5,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
12	講義内容	経済政策のしくみ(アベノミクスは何をした?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,6,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
13	講義内容	為替レートとメカニズム(円高、円安ってどうして起こるの?)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
14	講義内容	世界と日本(日本の貿易は黒字? 赤字?)(一部AL実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通しておく	1 時間
	1,7,8	復習	講義内容の再理解と、新聞・テレビのニュースを自主学習	1.5 時間
15	講義内容	まとめと確認のためのテスト		
	該当する到達目標	予習	これまで学習した事項について目を通し、理解を深めておく	3 時間
	1~8	復習	期末試験の出題意図、講義の理解度の再確認と今後の学習の方向性を考える	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 月曜日4限目、金曜日2限目 研究室: 1号館6階603 授業開始時に学生から出された質問・疑問に答えながら、前回の復習をする。授業中はクイズをはじめとした問いかけを多く出し、可能な限りアクティブラーニングの導入を試みる。 メールアドレス: machida@takasaki-u.ac.jp AL(アクティブラーニング)は、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン、ペアワーク、グループワークなど 予習・復習については、期末試験前の学習で補完すること			

科目名	社会学(教養基礎)			LAB006	講義
英文名	Sociology				
担当教員	安達 正嗣				
科目に関連した実務経験	兵庫県庁の家庭問題研究所において 3 年間、研究員および主任研究員として兵庫県の各市町村で家族・高齢者・福祉調査を実施して調査資料を作成することによって、各課への政策提言をおこなった。				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	社会学的なものの見方とは、どういうものか、社会学的にものを見るときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説することによって、基本的な社会学の考え方を身につける。				
到達目標	1.大学生として社会学の基本的な考え方を身につけることができる。 2.社会学を通じて、豊かな人間性と倫理観を身につけることができる。 3.日常の人間関係を理解することによって、コミュニケーション能力を身につけることができる。 4.社会の仕組みを理解して、現代社会における自分自身の立ち位置を知ることができる。 5.現代社会の社会問題を認識して、その解決を探る能力を身につけることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点(毎回、提出してもらうアクションペーパーについては、第 1 回目の講義で説明します)50%、学期末試験 50%です。				
課題に対するフィードバック	各受講生の提出したアクションペーパーに書かれた質問、意見、要望などに対して、つぎの講義の前にリプライを実施する。場合によって、担当教員と受講生、あるいは受講生同士のディスカッションをおこなうことを通じて、社会学の理解を深める。				
使用教材	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』晃洋書房。				
1	講義内容	オリエンテーション、第1章社会学とは何か(1～12 頁)について解説する。			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	第1章を読んでおくこと。1 頁の予習課題をしておくこと。		1.5 時間
		復習	第1章の内容を理解しておくこと。9 頁の課題をしておくこと。		1.5 時間
2	講義内容	第2章 社会を観察する方法(13～24 頁)を解説する。			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	第2章読んでおくこと。13 頁の予習課題をしておくこと。		1.5 時間
		復習	第2章の内容を理解すること。22 頁の課題をしておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	第3章 社会で生きる「私」(25～35 頁)を解説する。			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	第3章を読んでおくこと。25 頁の予習課題をしておくこと。		1.5 時間
		復習	第3章の内容を理解すること。34 頁の課題をしておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	第4章 変容する家族のかたち(36～47 頁)を解説する。実務で得た調査結果を提示する。■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	第4章を読んでおくこと。36 頁の予習課題をしておくこと。		1.5 時間
		復習	第4章の内容を理解すること。47 頁の課題をしておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	第5章 性の多様なあり方を考える(48～59 頁)を解説する。			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	第5章を読んでおくこと。48 頁の予習課題をしておくこと。		1.5 時間
		復習	第5章の内容を理解すること。57 頁の課題をしておくこと。		1.5 時間
6	講義内容	第6章 「現実を生きる」ための社会学—労働・産業・消費—(60～72 頁)を解説する。			

	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	第6章を読んでおくこと。60 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第6章の内容を理解すること。70 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
7	講義内容	第7章 日本で進展する環境・災害社会学(73～86 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	第7章を読んでおくこと。73 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第7章の内容を理解すること。84 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	第8章 社会学から医療を見つめる(87～97 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	第8章を読んでおくこと。87 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第8章の内容を理解すること。96 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	第9章 社会学は教育とどう向き合うのか(98～109 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	第9章を読んでおくこと。98 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第9章の内容を理解すること。108 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	第10章 逸脱行動と社会問題(110～121 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4,5	予習	第10章を読んでおくこと。110 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第10章の内容を理解すること。119 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	第11章 「格差」の社会学(122～134 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4,5	予習	第11章を読んでおくこと。122 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第11章の内容を理解すること。132 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	第12章 生活空間としての地域社会(135～149 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4,5	予習	第12章を読んでおくこと。135 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第12章の内容を理解すること。144 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	第13章 グローバル社会とエスニシティ(150～162 頁)を解説する。			
	該当する到達目標	1,2,3,4,5	予習	第13章を読んでおくこと。150 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第13章の内容を理解すること。162 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	第14章 宗教から社会を捉える(163～176 頁)を解説する。1,2,3,4,5			
	該当する到達目標	1,2,3,4,5	予習	第14章を読んでおくこと。163 頁の予習課題をしておくこと。	1.5 時間
			復習	第14章の内容を理解すること。173 頁の課題をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	全講義を振り返り、社会学の考え方についてまとめる。			
	該当する到達目標	1,2,3,4,5	予習	教科書とノートを読み直して、全講義の理解の確認をしておくこと。	3 時間
			復習	全講義の内容と概念について、再確認をしておくこと。	3 時間
備考	講義の進め方としては、毎回、講義後にリプライカードを受講生に配布して、その回の講義内容と質問・意見を記入してもらい、次回には質問・意見に応えながら前回の講義を振り返り理解を定着化させてから、講義をおこなっている。 各受講生が、毎回の講義内容を自分自身の身近な具体的な状況のなかで理解することによって、社会学の考え方を深めることができるので、そうした観点から意欲的に講義に臨んでほしい。 オフィスアワー: 火曜日 5 限・水曜日 3 限 ■: 実務経験に基づく内容を示す。				

科目名		生涯健康論(教養基礎)			LAB007	講義
英文名		Lifelong Health Theory				
担当教員		鈴木 忠				
科目に関連した実務経験		非常勤医師(循環器内科)として病院に勤務				
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		生涯を幸せで豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸に向けて生涯にわたる健康維持・管理について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎知識を身に着けることを目的としている。				
到達目標		1.健康の定義と集団の健康評価指標を理解する。■ 2.個体の健康を維持するため生体の調節機構について理解する。■ 3.環境・生活習慣の変容と疾病発症の関連について理解する。■ 4.健康寿命延伸にむけた取り組みについて理解する。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
			問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
			自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		授業参加度(課題に対する回答等)およびレポート:60 点、期末試験:40 点で総合 60 点以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック		レポートに対しコメントする。				
使用教材		テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。 参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向」を利用する				
1	講義内容	健康の定義と健康評価指標 WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、＜平均寿命＞、＜平均余命＞、＜健康寿命＞、＜最長寿命＞などの呼び方があり、現在の日本で重要なのは、健康寿命であることを理解する。				
	該当する到達目標	1	予習	「国民衛生の動向」より健康評価諸指標の年代推移を把握する。		1.5 時間
		1	復習	健康の定義と健康評価指標の理解を深める。		1.0 時間
2	講義内容	健康を維持するための構造と働き 健康を維持するための主たる生理機構は、＜物質代謝＞である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。■				
	該当する到達目標	2	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。		1.5 時間
		2	復習	物質代謝を理解し関わる体の構造とその働きについて理解を深める。		1.0 時間
3	講義内容	恒常性維持システムの役割と相互作用 物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持(＜ホメオスタシス＞)システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。■				
	該当する到達目標	3	予習	人体構造・生理学の参考書で該当部分を学習する。		1.5 時間
		3	復習	生体の恒常性(＜ホメオスタシス＞)維持機構について理解する。		1.0 時間

4	講義内容	食物と健康 物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできないエネルギー源<栄養素>だけでなく、生体調節機能を有する成分が含まれることを理解し、食生活が健康維持に密接に関連することを学習する。		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	食物の代謝過程を理解するとともに、食生活と健康との関連を学習する。	1.0 時間
5	講義内容	運動と健康 運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	健康維持における運動の生理学的意義と健康寿命延伸に向けた運動について理解する。	1.0 時間
6	講義内容	ストレスと生活環境 現代の社会・生活環境は個体にとって多くのストレスを生む。ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケア・栄養が健康維持にいかに関与するかを理解する。		
	該当する到達目標 2,3	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	ストレスが、健康を害するメカニズムを理解し、その対策について理解する。	1.0 時間
7	講義内容	喫煙による健康障害 たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	喫煙とその健康障害及び健康障害の機序を理解する。	1.0 時間
8	講義内容	21 世紀における国民健康づくり運動(健康日本 21) 2000 年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安静を<健康維持の 3 本柱>とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する<予防医学>がスタートした。		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	21 世紀における国民健康づくりと取り組みを理解する。	1.0 時間
9	講義内容	メタボリックシンドロームおよび特定健診 肥満<内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)>の病態を理解し、動脈硬化性疾患発症の高リスクとなることを理解する。メタボリックシンドローム対策として特定健診の結果を基に包括的生活指導・介入により、肥満(内臓脂肪肥満)改善により発病を予防できることを理解する。■		
	該当する到達目標 3,4	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
		復習	メタボリックシンドロームの病態・対策を理解する。	1.0 時間
10	講義内容	生活習慣病の危険因子としての糖尿病 生活習慣が発症に関連する<糖尿病>Ⅱ型は、冠状動脈や脳動脈の動脈硬化の危険因子となるのみならず、微小血管障害による腎障害、視力障害及び神経障害の<三大合併症>を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第 1 位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間

	3,4	復習	生活習慣病の危険因子としての糖尿病 を理解する。	1.0 時間
11	講義内容	生活習慣病(心疾患・脳卒中)と発症を予防する生活習慣 死亡原因の 2 位及び 3 位の<心疾患(狭心症・心筋梗塞症)>及び<脳卒中>は、動脈硬化<血液循環障害>による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。■		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣病(心疾患・脳卒中)の病態と発症と生活習慣との関連を理解する。	1.0 時間
12	講義内容	ロコモティブシンドローム 脳卒中と運動器障害は介護の主要原因となっている。骨粗鬆症・サルコペニア・運動器不安定を特徴とするロコモティブシンドローム対策が健康寿命の延伸に重要である。 ロコモティブシンドロームの早期診断と予防の重要性について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	加齢に伴う運動器障害を理解し、早期診断と予防の重要性について理解する	1.0 時間
13	講義内容	生活習慣病(がん)と生活習慣 日本人の死亡原因の 1 位はがん、2 位は心疾患、3 位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	生活習慣と発がんとの関係を理解し、がん対策基本計画などその対策について学習する。	1.0 時間
14	講義内容	最近の微生物・ウイルス感染症 感染症は死因として必ずしも上位ではないが、感染症の流行は社会生活に大きな影響をもたらす。新興・再興感染症が問題となっている。日本人の死亡原因の第 4 位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所(入院)者の<院内感染症>発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因<(医原性感染症)>となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。■		
	該当する到達目標	予習	人体構造・生理学の参考書及び「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	3,4	復習	最近の感染症の動向を理解しその対策について学習する。	1.0 時間
15	講義内容	地域における健康支援チーム構成員とその役割(チーム医療) これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えているのかを理解する。■		
	該当する到達目標	予習	「国民衛生の動向」で該当部分を学習する。	1.5 時間
	4	復習	地域包括ケアシステムを理解し、地域における健康づくりチームの構成員としての各人の役割を理解する。	1.0 時間
備考	講義においては、前半はテーマについて概要を説明し、後半は質疑応答する形式ですすめる。 レポートについても発表する時間を持ちたい。講義内容全てが教員の実務経験と関連する。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オフィスアワー: 月曜日 12:30~13:30 15:30~16:30 研究室 4 号館 2 階学部長室 メールアドレス: suzuki-t@takasaki-u.ac.jp ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生涯学習概論(教養基礎)			LAB008	講義
英文名	Introduction to Lifelong Learning				
担当教員	小西 尚之				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標	我々の多くは「学校教育」を中心に「教育」を受けてきたが、人間が学ぶ場は学校だけではない。本授業では、「教育」ではなく「学習」の視点から、公民館・博物館・図書館等の社会教育施設における学習など、「生涯学習」について学ぶ。授業の進め方としては、各テーマについての説明を聞くだけではなく、話し合い活動を通じて課題に取り組むことによって理解を深めていく。				
到達目標	1.「生涯学習」や「生涯学習社会」の理念について理解している。 2.社会教育施設等における学びの概要・特徴について理解している。 3.他者と協力しながら課題に積極的に取り組むことができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	小テストに約 20%、レポート・発表に約 50%、日常点(授業への参加、授業態度、課題への取り組み、討論、授業に対する貢献度等)に約 30%を配分して総合評価する。				
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。				
使用教材	授業担当者の作成資料による。				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでおく。		1.5 時間
	1	復習	資料を読んで、授業の概要を確認し、生涯学習を学ぶ意味を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	「学習」とは何か			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	なぜ「生涯学習」がクローズアップされるのか			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	人は発達段階に応じて何を学ぶか			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	就職すると人はどのような学習をするのか			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
6	講義内容	公民館とは何か			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。		1.5 時間
7	講義内容	図書館とは何か			

	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	博物館とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	美術館とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	青年の家・少年自然の家とは何か		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	グループ発表①		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	グループ発表②		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	2,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	グループ発表③		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	グループ発表④		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	グループ発表⑤		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,3	復習	資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
備考	授業の進め方:少人数や全体での話し合い活動に加え、フィールドワーク(生涯学習施設への訪問)、その成果の発表など多様な学習活動を行います。 学校教育の最終段階である大学で学ぶ皆さんにとって、今後の人生で重要となる「生涯学習」について学ぶ意義は大きいと思います。ただし、上記のような活動を重視するため、他者と協力しながら積極的に「学ぼう」という意欲が無い人には不向きです。 予習・復習については、小テストの学習等で補完してください。 オフィシアワー:水曜 6 限、木曜 6 限 メールアドレス:konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 4 階 409 研究室			

科目名	生命と環境の科学(教養基礎)			LAB009	講義
英文名	Science of Environment and Life				
担当教員	奥 浩之				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うことがあるので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。(パソコンは持参する必要はなく、自宅で使用できればよい。)				
到達目標	1.地球環境について元素、物質循環、気候変動の観点から説明できる。 2.生命を構成する分子(核酸、タンパク質)について、分子構造、反応機構、応用の観点から説明できる。 3.私たちの生活に関連して、食品、バイオマス、医薬品や医療機器、のトピックスについて説明できる。 4.グローバルな視点から、新しい感染症、ワクチン開発、などのトピックスについて説明できる。 5.様々な文献や資料を参照し、レポート形式または要約・箇条書きの形式でまとめられるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	レポート課題 50%、授業参加度 50%				
課題に対するフィードバック	提出されたレポート課題に対しては、コメントを付けて返却または講義時間内に課題の解説を行うことで受講学生へフィードバックする。				
使用教材	使用しない(講義にて用いるスライドを配布予定)				
1	講義内容	生命と環境ー地球における化学進化と生命における元素の役割			
	該当する到達目標 1,5	予習	元素周期表(http://stw.mext.go.jp/series.html)を読んでみよう。		1 時間
		復習	(1)人体を構成する元素の存在比 (2)主要元素・微量・超微量元素の具体的な元素名 (3)様々な元素の生体または医薬品における役割		1.5 時間
2	講義内容	生命と環境ー地球における元素の循環			
	該当する到達目標 1,5	予習	ヒトの活動による、水需要の増大、化石燃料の大量燃焼、窒素肥料の大量使用と地球環境への影響について調べてみよう。		1 時間
		復習	(1)大気・土壌における物質循環 (2)水循環、窒素循環、炭素循環、硫黄循環、リン循環の特徴 (3)人類の活動による物質循環への影響		1.5 時間
3	講義内容	生命と環境ー温室効果ガスによる地球温暖化			
	該当する到達目標 1,5	予習	温室効果ガスとは？温室効果は何故起こるか？調べてみよう。		1 時間
		復習	(1)地球上での物質循環は気候変動と密接に関連する (大気を暖める要因と冷やす要因) (物質循環の詳細な研究による、地球環境変化の予測) (2)IPCC 第 5 次報告書(2014 年)における RCP シナリオ (気候モデルによって予測された 21 世紀末の世界の気温)		1.5 時間

			(世界全体の CO ₂ 累積排出量と気温上昇量は比例する) (3)国連気候変動枠組条約 (日本における温室効果ガス削減目標)	
4	講義内容	生命と生体分子…DNA 二重らせんと X 線構造解析		
	該当する到達目標 2,5	予習	ワトソンとクリックによる DNA 二重らせんモデル (1)当時用いられた分子モデル(ロンドン・サイエンスミュージアム) http://www.sciencemuseum.org.uk/broughttolife/objects/display?id=6145 (2)1953 年の論文 http://www.nature.com/nature/dna50/watsoncrick.pdf (3)DNA 構造について(英文なので、最初は図を見るのがよい) 特に Figure 5 を見て、3 種類の二重らせん構造があることに注目しよう http://www.nature.com/scitable/topicpage/discovery-of-dna-structure-and-function-watson-397	1 時間
		復習	(1)DNA の分子構造は X 線回折法によって求められる (2)ブラッグの回折条件式 (3)DNA 繊維写真の X 型パターン	1.5 時間
5	講義内容	生命と生体分子…タンパク質の構造解析における 2 つの方法		
	該当する到達目標 2,5	予習	(1)タンパク質を構成する 20 種類のアミノ酸とは？ (2)アミノ酸の“光学活性”とは？	1 時間
		復習	(1)アミノ酸 20 種類の分子構造 (2)X 線回折測定によるタンパク質の 3 次元構造解析 (3)NMR 測定によるタンパク質の 3 次元構造解析	1.5 時間
6	講義内容	生命と生体分子…タンパク質の構造と機能		
	該当する到達目標 2,5	予習	(1)膜タンパク質とは？ (2)アイスクリームの成分について。 (3)低脂肪アイスクリームの成分がわかったら調べてみよう。	1 時間
		復習	(1)swiss-pdb によってカリウムチャンネルの分子構造を見てみよう (2)低脂肪アイスクリームにおける不凍タンパク質の機能について	1.5 時間
7	講義内容	生命と生体分子…さまざまなタンパク質		
	該当する到達目標 2,5	予習	(1)70S リボソームにおけるタンパク質合成 (2)電子伝達系における ATP 合成 (3)ビタミン B12 の役割 (4)マメ科植物における根粒菌とは？	1 時間
		復習	(1)70S リボソームと tRNA の分子構造(PDB ID: 4v4j) (PDB ID: 2tra) (2)F1-ATPase プロトン濃度勾配による ATP 合成 (3)カルモデュリンの分子構造変化(PDB ID: 3cln) (PDB entry 2bbm)	1.5 時間
8	講義内容	生命と生体分子…酵素・タンパク質の反応機構		
	該当する到達目標 2,5	予習	(1)セリンプロテアーゼによるタンパク質の加水分解機構 (2)加水分解酵素の活性中心における触媒反応を行うアミノ酸残基について (3)光合成における二酸化炭素固定反応について	1 時間
		復習	(1)酵素の活性中心におけるさまざまな金属イオンとその役割について (2)光合成における RuBisCO(二酸化炭素と水とリブローズ 1,5 ビスリン酸から二分子の 3-ホスホグリセリン酸を得る反応を触媒する)の反応機構につい	1.5 時間

			て。	
9	講義内容	生命と生体分子…ヘム蛋白(Mb、Hb、Cyt c、CYP450)		
	該当する到達目標 2,5	予習	(1)ヘムタンパク質とは？ (2)ミオグロビンとヘモグロビンの違いは？ (3)CYP3A4とは？	1 時間
		復習	(1)ミオグロビン (PDB ID, 1A6M) (2)チトクローム c (PDB ID, 2B4Z) (3)チトクローム P450 (PDB ID, 1W0E) (4)医薬品の代謝における CYP3A4 の影響について	1.5 時間
10	講義内容	ヒトの活動と環境: 食品の安全確保(加工食品の成分)		
	該当する到達目標 3,5	予習	(1)アクリルアミドの分子構造、用途、注意点	1 時間
		復習	(1)行政(農水省)では加工食品の安全確保についてどのような活動をおこなわれているか？	1.5 時間
11	講義内容	ヒトの活動と環境: バイオマスとバイオリファイナリー		
	該当する到達目標 3,5	予習	(1)バイオマスとは？ (2)バイオエタノールとは？	1 時間
		復習	(1)バイオリファイナリーとは？ (2)バイオガソリンの成分は？ (3)バイオマスプラスチックの具体的な事例は？	1.5 時間
12	講義内容	ヒトの活動と環境: 外科手術用の接着剤		
	該当する到達目標 3,5	予習	(1)ポリウレタンの分子構造とは？ (2)ポリウレタンはどのような原料から作られるか？	1 時間
		復習	(1)ウレタンプレポリマーによる血管の吻合メカニズム (2)血管の吻合における瞬間接着剤の欠点は？ (3)血管の吻合におけるウレタンプレポリマーの優れている点は？	1.5 時間
13	講義内容	生命と環境…インフルエンザワクチンの成分		
	該当する到達目標 4,5	予習	(1)ワクチンによる予防免疫のしくみ	1 時間
		復習	(1)様々なインフルエンザワクチンについて	1.5 時間
14	講義内容	生命と環境…グローバル化と感染症(ジカ熱、デング熱など)		
	該当する到達目標 4,5	予習	(1)蚊によって媒介される感染症とは？ (2)グローバル化におけるヒトの移動や経済活動の活発化について	1 時間
		復習	(1)グローバル化と感染症の拡大はどのように関係するか？ (2)ワクチンの開発例について	1.5 時間
15	講義内容	生命と環境…食べると甘い香りが発散するお菓子について		
	該当する到達目標 4,5	予習	(1)ワインやコーヒーの香りを分析する装置について調べてみよう(ヘッドスペース装置の付いたガスクログラフィー/質量分析計) (2)ヒトにおける薬物代謝のしくみ	1 時間
		復習	(1)ヒトの体の匂いに関与する成分はどのようにして分析されたか？ (2)お菓子を食べてから、体表面から香気成分が発散するまでの経路は？ (ヒトにおける薬物代謝から説明してみよう。)	1.5 時間
備考	毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・将来の課題などを説明してゆく。生命分子の構造学習を行うことがある。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

	質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。

科目名	国際関係論(教養基礎)			LAB010	講義
英文名	International Relations				
担当教員	片桐 庸夫				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標	新聞やテレビ等のニュースを見て、世界の動きや日本の外交について理解出来るようになること。				
到達目標	1.現代世界の理解 2.第 2 次世界大戦後の世界の基本構造の理解 3.国家間の対立要因の理解 4.国家間の相互理解の理解 5.自由主義イデオロギーと社会主義イデオロギーの理解 6.現代の戦争の特徴についての理解 7.国家の安全保障の理解 8.核の下での平和の理解 9.国際秩序概念の理解 10.国際秩序の喪失と国際テロ、難民、民族や宗教の違いに基づく紛争発生要因の理解 11.戦後日本の原型についての理解 12.戦後日本外交の歩み、「戦後」克服の意味の理解 13.日本の課題である国際貢献問題の理解				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	講義中に行う 3 回程度の試験(60%)、講義に臨む態度(20%)、講義参加度(20%)等により総合評価を行う。				
課題に対するフィードバック	原則として試験を行った翌週の講義の際に答案を返却する予定である。その際には、一人一人に論文やレポートの文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導する。				
使用教材	配布するプリントを教材として用いる。				
1	講義内容	講義概要(講義の展開、出席の取り方、試験の方法、成績評価等)についての説明を行う。			
	該当する到達目標	予習	必要ナシ		時間
		復習	必要ナシ		時間
2	講義内容	世界の混迷した状況や米国トランプ政権の一国主義、中国の影響力の拡大等について理解する。			
	該当する到達目標 1,3,7,8,10	予習	1 週間分の新聞の 1,2 面の記事に目を通しておくこと。		1.5 時間
		復習	ノートテイキングした部分の加筆、整理、それに新聞記事の内容を付加すること。		1.5 時間
3	講義内容	「冷戦の特異性」の意味と大規模な戦争の後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立を理解する。			
	該当する到達目標 1,2,3,9	予習	プリントのウィーン会議の部分をよく読んでおくこと。		1.5 時間
		復習	細谷雄一『国際秩序』中公新書の p.115-120,282 を読み、内容をノートにまとめること。		1.5 時間
4	講義内容	戦勝同盟国間の対立の典型的例であるウィーン会議について理解する。			

	該当する到達目標 2,4,7	予習	ウィーン会議参加国の価値観の共有についてプリントを利用して予習すること。	1.5 時間
		復習	『国際秩序』の p.121-124 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
5	該当する到達目標 3,4,5	予習	プリントの価値観の共有の項を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	『国際秩序』の p.128-130 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
6	該当する到達目標 2,3,4,5,8	予習	ウィーン会議とは正反対に共通の価値観の欠如していた米ソ間の体制間対立について理解する。	1.5 時間
		復習	プリントの体制間対立の項を読んでおくこと。	1.5 時間
7	該当する到達目標 3,5,7	予習	『国際秩序』の p.237-241 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
		復習	米ソ間のイデオロギー対立について理解する。	1.5 時間
8	該当する到達目標 6,7,8	予習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化(DVD 画像による)について理解する。	1.5 時間
		復習	プリントの安全保障観の相違と戦争の性格の変化の項を読んでおくこと。	1.5 時間
9	該当する到達目標 2,6,7,8	予習	DVD 画像を観ながらノートテイキングしたメモを参考にノートにまとめること。	1.5 時間
		復習	冷戦の定義、それに基づく冷戦の起源と終焉について理解する。	1.5 時間
10	該当する到達目標 1,6,7,8	予習	プリントの冷戦の定義とそれに基づく冷戦の起源と終焉についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	永井陽之介『冷戦の起源』中央公論社の p.6-10 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
11	該当する到達目標 1,7,8,9	予習	世界を滅ぼすことも可能な究極の兵器である核の下での平和について理解する。	1.5 時間
		復習	究極の兵器がもたらした核の下での平和についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
12	該当する到達目標 2,7,9	予習	『国際秩序』の p.253-255 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
		復習	冷戦の逆説である戦後の長い平和について理解する。	1.5 時間
13	該当する到達目標 6,7,10	予習	プリントのガディスの逆説論についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	『国際秩序』の p.256-260 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	該当する到達目標 7,11,12	予習	冷戦の終焉と終焉後の世界の不安定化の理由・要因について理解する。	1.5 時間
		復習	プリントの国際秩序維持勢力の喪失と国際秩序の喪失の項を読んでおくこと。	1.5 時間
15	該当する到達目標 1,10,13	予習	『国際秩序』の p.281-285 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
		復習	冷戦後初の戦争「湾岸戦争」の意義、テロ・民族対立・宗教対立、難民の大量発生を理由を理解する。	1.5 時間
備		予習	プリントの湾岸戦争、国際秩序なき時代についての項を読んでおくこと。	1.5 時間
		復習	『文明の衝突と 21 世紀の日本』集英社新書の P.21-36 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
14	該当する到達目標 7,11,12	予習	終戦、米国の対日占領政策、天皇制存置、SF 講和、憲法第 9 条、日米安保について理解する。	1.5 時間
		復習	プリントの終戦から SF 講和に至る項を読んでおくこと。	1.5 時間
15	該当する到達目標 1,10,13	予習	小此木・赤木共編『冷戦期の国際政治』慶應義塾大学出版会の p.288-306 を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
		復習	「戦後」の克服の意味、今日の日本外交の課題について理解する。	1.5 時間
備		予習	プリントの「戦後」の克服、国際貢献問題の項を読んでおく。	1.5 時間
		復習	講義中に配布する新聞の切り抜き記事を読み、内容をノートにまとめること。	1.5 時間
備			配布プリントを中心に、教員の実体験を交えつつ講義を行います。また、試験を 3 回程度実施します。返却の際	

考	には、一人一人に文体、文の構成、意味の曖昧な表現、誤字脱字等について指導します。 「復習」に挙げられている本は、参考文献も兼ねています。随時利用して下さい。予習・復習の結果、不明な点、わからない点などありましたら質問して下さい。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完して下さい。オフィスアワーは、前期木曜日の昼休み、場所は非常勤講師控室です。随時来てください。講義の後に直接訊ねることも可です。

科目名	体育理論(教養基礎)			LAB011	講義
英文名	Physical Education: Theory				
担当教員	山西 加織				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。				
到達目標	1.自己の身体活動や生活行動の実態から課題を見つけることができる。 2.体力を測り、評価することができる。 3.健康づくり・体力づくりに必要な方法を知り、実際の生活に活用することができる。 4.運動・スポーツによる心身への影響を理解し、説明することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度・態度(30%)、課題(10%)、期末試験(60%)を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。期末試験後に、問題出題の意図を説明する。				
使用教材	特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション 現代のライフスタイルと身体活動			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、健康づくり・体力づくりに関して、興味関心を高める。		0.5 時間
	1	復習	自分の生活を振り返り、十分な身体活動を確保できるよう心がける。		3.5 時間
2	講義内容	体力チェック (1)体力テスト(前半)			
	該当する到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。		2 時間
	1,2	復習	ライフスタイルや身体活動における課題をもとに、健康な生活を送れるよう意識して行動する。		2 時間
3	講義内容	体力チェック (2)体力テスト(後半)			
	該当する到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。		2 時間
	1,2	復習	ライフスタイルや身体活動における課題をもとに、健康な生活を送れるよう意識して行動する。		2 時間
4	講義内容	健康づくりのための運動方法			
	該当する到達目標	予習	健康づくりのための運動に関して調べる。		1 時間
	3,4	復習	授業で学習した健康づくり運動を実践する。		3 時間
5	講義内容	体力の評価			
	該当する到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。		2 時間
	1,2,3	復習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。		2 時間
6	講義内容	運動カルテの作成			
	該当する到達目標	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。		2 時間
	1,2,3	復習	授業で作成した運動カルテにもとづき、運動を実践する。		2 時間

7	講義内容	現代の健康問題と運動		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	2 時間
		復習	授業で作成した運動カルテにもとづき、運動を実践する。	2 時間
8	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。	2 時間
		復習	授業で学んだ健康づくり・体力づくりの方法を実際の生活に活用する。	2 時間
備考	【授業の進め方】パワーポイントや配布資料を活用しながら講義形式で進める。体力テスト実施後、体力の評価と運動プログラムの作成については、方法を説明した後、個人ワークで進める。 ※体力テストの際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 オフィスアワー:【前期】月曜 3 時限, 火曜 2 時限 【後期】月曜 5 時限, 火曜 5 時限 メールアドレス:yamanishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 505 研究室			

科目名	体育実技(教養基礎)				LAB012	演習
英文名	Physical Education: Sports and Physical Activities					
担当教員	山西 加織					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位			
講義目標	生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識や方法を学び、実際の生活に活用する能力を養う。様々な運動やスポーツの実践をとおして、基礎体力の保持・向上とともに、運動・スポーツを楽しむ習慣を身につける。					
到達目標	1.各基本運動の効果や方法を理解し、実践することができる。 2.さまざまなスポーツの方法やルールを理解し、役割分担をしてゲームを運営することができる。 3.さまざまなスポーツを得意・不得意に関係なく、楽しく実践することができる。 4.仲間と積極的にコミュニケーションをとり、協力しながら行動することができる。 5.生涯にわたり運動・スポーツに親しむために必要な態度を理解し、説明することができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
		専門的知識				
		問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業への参加度・態度(70%)、レポート課題(30%)を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	毎回、コメントシートを記入する機会を設ける。提出されたコメントシートは適宜返却し、授業時間内にフィードバックする。					
使用教材	特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。					
1	講義内容	オリエンテーション・レクリエーション				
	該当する到達目標 4,5	予習	自己の健康に興味関心をもち、体調を整える。			0.5 時間
		復習	授業を通じて触れ合った仲間と友好関係を深める。			0.5 時間
2	講義内容	基本運動:ストレッチ・ヨガ・ジョギング・ウォーキング				
	該当する到達目標 1,5	予習	「運動」「栄養」「休養」のバランスを心がけ、良好な生活習慣を保つ。			0.5 時間
		復習	実践したい基本運動を行う。			0.5 時間
3	講義内容	ドッジボール				
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	実践したい基本運動を行う。			0.5 時間
		復習	実践したいスポーツを仲間と行う。			0.5 時間
4	講義内容	バスケットボール				
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。			0.5 時間
		復習	実践したいスポーツを仲間と行う。			0.5 時間
5	講義内容	ティーボール				
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。			0.5 時間
		復習	実践したいスポーツを仲間と行う。			0.5 時間
6	講義内容	フットサル				
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。			0.5 時間
		復習	実践したいスポーツを仲間と行う。			0.5 時間
7	講義内容	ソフトバレーボール				

	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
8	講義内容	バドミントン		
	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
	講義内容	パドルテニス		
9	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
10	講義内容	キックベースボール		
	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
	講義内容	キンボール		
11	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
12	講義内容	タグラグビー		
	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
	講義内容	インディアカ (1)チーム練習・ゲーム		
13	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
14	講義内容	インディアカ (2)トーナメント戦		
	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	実践したいスポーツを仲間で行う。	0.5 時間
	講義内容	まとめ		
15	該当する到達目標	予習	実践したい基本運動を積極的に行う。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	これまでに実践した運動・スポーツを積極的に行う。	0.5 時間
備考	【授業の進め方】毎回、基本運動やレクリエーションでウォーミングアップを行った後に、ルールを説明した上でスポーツを実践していく。また、授業前後に自分の「こころ」と「からだ」の状態を記録する機会を設ける。 ※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 ※実技をする上で配慮を必要とする学生は事前に申し出ること。 オフィスアワー:【前期】月曜 3 時限, 火曜 2 時限 【後期】月曜 5 時限, 火曜 5 時限 メールアドレス:yamanishi@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 505 研究室			

科目名	キャリア形成論(教養基礎)			LAB013	講義
英文名	Career Development				
担当教員	小泉 英明				
科目に関連した実務経験	社員研修・人材育成・能力開発・キャリア開発のコンサルタント、トレーナーとして各企業・自治体で指導				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容が大きく変化しています。本講座では、大学生が社会(企業・組織)から求められている「能力」について理解を深め、社会ですぐに役立つ人材となることを目指します。授業では SGD(スモール・グループ・ディスカッション)を通じてお互いを高め合い、コミュニケーション能力・思考力・問題解決能力を醸成するとともに、様々なケーススタディによって社会・職場適応力を習得します。さらに、本学卒業後、社会人として適切なスタートを切ることができるよう、“自身”の強化プラン策定と目標管理を行いながら、将来のキャリア形成につながる基礎を固めます。				
到達目標	1.社会の出来事を理解し、社会に通用する就業観、勤労観を学ぶ。■ 2.自己の成長に向けて、自己を正しく理解するとともに、自己効力感を養う。 3.社会人基礎力を理解し、社会適応力を身につける。■ 4.読む・聞く・書く・話す力の基本を身につけ、コミュニケーション能力を高める。■ 5.論理を組み合わせる手法を学び、論理的思考力を高める。 6.アイデアの出し方を学び、創造的思考力を高める。 7.気づく力を身につけ、問題発見能力を高める。 8.問題解決のスキルと手法を学び、問題解決能力を高める。■ 9.自己変革のために必要な自身の問題点を探る。■ 10.自律型人材に向けての目標管理ができる。■ 11.社会における人間関係を学び、社会適応力を高める。				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	最終レポート 60%、授業後の提出課題 30%、授業参加度・授業態度 10% それぞれの評価基準については初回授業で説明します。総合評価 60%以上を合格とします。				
課題に対するフィードバック	授業後の提出課題については、随時コメントをつけてフィードバックします。 最終レポートの後に、出題テーマの意図を掲示によって示します。				
使用教材	講義内容を随時プリントして配布します。				
1	講義内容	ガイダンス／キャリア形成に必要なこと			
	該当する到達目標 1	予習	新聞、テレビなどのニュースから、社会の出来事を理解して臨む		1.5 時間
		復習	社会が求めていること、キャリア形成に必要なコアコンピタンスを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材■			
	該当する到達目標 1,3	予習	事前に配布する第 2 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。		1.5 時間
		復習	キャリア形成に必要な「社会人基礎力」について理解を深める。■		1.5 時間
3	講義内容	自己の理解			
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 3 回講義プリントを読む。自己理解シートに記入する。		1.5 時間

	2	復習	自己理解と、自己効力感を理解する。自分のパーソナリティを確認する。	1.5 時間
4	講義内容	コミュニケーション力■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 4 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	チェックシートによって自身のコミュニケーション力を客観的につかむ。	1.5 時間
5	講義内容	実践コミュニケーション力■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 5 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,4	復習	ディスカッションを振り返り、自身のストロング・ウィークポイントを知る。	1.5 時間
6	講義内容	気づく力		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 6 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,7	復習	事例研究課題に取り組む。気づく力が問題解決の入り口であることを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	考える力 I (ロジカルシンキング・クリティカルシンキング)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 7 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,5	復習	事例研究によって論理的思考を理解する。(課題→第 9 回の BS で使用)	1.5 時間
8	講義内容	考える力 II (クリエイティブシンキング)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 8 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,6,7,8	復習	事例研究によって創造的思考の重要性を理解する。アイデア発想演習。	1.5 時間
9	講義内容	創造力を伸ばす (BS 演習ほか)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 9 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,6,7,8,9	復習	ブレインストーミングをはじめ、創造力を伸ばす技法の理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	問題解決能力 I (問題点を探る・WHY ツリー)■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 10 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,7,8,9	復習	自身が抱える問題の「問題点」を WHY ツリーで探る。(課題→提出)	1.5 時間
11	講義内容	働く意味／「仕事力」と「就業力」		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 11 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	1,3	復習	「仕事観」「就業観」を理解し、レポートを書く。(課題→提出)	1.5 時間
12	講義内容	問題解決能力 II (問題解決の手法・HOW ツリー／目標設定・キャリアマニフェスト)■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 12 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,8,9,10	復習	自身の課題を解決するため、目標設定と計画立案を行う。(課題→提出)	1.5 時間
13	講義内容	社会における人間関係		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 13 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,11	復習	人との接し方と、よりよい人間関係を築く方法を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	自己の確立 (バリュープロポジション)■		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 14 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,10	復習	将来のキャリア形成に向けて、自己を確立することの重要性を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	ストレスマネジメント		
	該当する到達目標	予習	事前に配布する第 15 回講義プリントを読み、内容をつかんでおく。	1.5 時間
	3,11	復習	ストレス対処法を理解し、ストレスに対する耐性力に高める。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：木曜日(12～17 時) 事前に配布するプリントをもとに予習して授業に臨んでください。配布プリントはファイリングし、毎回持参してください。授業は積み上げ方式で進めていくので、授業後は必ず復習してください。新聞やテレビなどのニュースには常に関心を持ち、社会の出来事を理解し授業に臨んでください。			

【人間発達学部の学生に求められる基本的な資質】

- ①「保育者」・「教育者」を目指す強い意志を持つ
- ②子どもを取り巻く社会に対し、幅広い関心と課題意識を持つ
- ③他者との協調性とコミュニケーション能力
- ④チームワーキングへの参画
- ⑤探究心
- ⑥自己研鑽

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	哲学(人間理解)			LAH001	講義
英文名	Philosophy				
担当教員	大石 桂子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	「他者とどう関わっていけばよいか」「絶対に正しいことはあるのか」、「病気や“弱さ”」にどう向き合うか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち考えるのが哲学である。本講義では身近な題材を中心に、教育に関わる者として考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や、統計からみえる社会情勢などを手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。				
到達目標	1.人と人、人と社会の関係、平等性、自由と責任などについて、多様な視点から説明できる。 2.共生の意義や、弱者の排除が社会にもたらす影響を説明できる。 3.各テーマについて、自分の意見をもつことができる。 4.課題やグループワークを通して、自分の考えを他者に伝わりやすく表現できる。 5.自分と異なる他者の考えを受け止め、そこから新たな発見ができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(60%)，講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	提出された課題の内容にコメントを付けて、授業中に紹介する。				
使用教材	講義中にプリントを配布する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスの内容をよく読み、講義の目標や取り扱う内容を理解する。	1 時間	
		復習	「哲学」の目標、学ぶ意義について理解する。	1 時間	
2	講義内容	自分と他者(1)「人に認められたい」のは本能?——ヘーゲル			
	該当する到達目標 1,3	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間	
		復習	ヘーゲルのいう「承認への欲求」を理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	自分と他者(2)「本当の自分」とは何か——キルケゴール			
	該当する到達目標 1,3	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間	
		復習	キルケゴールの「大衆と実存」の違いを理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	自分と他者(3)人と人の関係性——ブーバー、サルトル			
	該当する到達目標 1,3	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間	
		復習	第 2 回から第 4 回までの内容を整理する。	1.5 時間	
5	講義内容	ディスカッション——これからの自分に大切なこと			
	該当する到達目標 1,3,4,5	予習	第 2 回から第 4 回までの内容について、自分の考えをまとめる。	1 時間	
		復習	自分にとって大切なことを改めて熟考し、課題を仕上げる。	1.5 時間	
6	講義内容	平等と共生(1)誰もが信じられる正しさはあるか——ロールズ			

	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	「機会の平等」と「結果の平等」を理解する。	2 時間
7	講義内容	平等と共生(2)環境は人の心にどう影響するのか		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3,4	復習	「無知のヴェール」について理解する。平等について課題を仕上げる。	1.5 時間
8	講義内容	自由・正しい自己決定のために——カント		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	「自律」の意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	心と身体(1)「私」を形づくるのは心か身体か——ニーチェ		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	身体がものの見方や価値観に影響する例を考える。	1.5 時間
10	講義内容	心と身体(2)人間の中心は脳なのか		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	脳死の問題について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	エンハンスメント(1)変化する「病」の定義		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	エンハンスメントや「医療化」について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	エンハンスメント(2)「弱さ」を否定する社会——ハーバーマス、サンデル		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2,3	復習	弱さを排除した場合の社会的影響について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ディスカッション——医療技術と自己決定		
	該当する到達目標	予習	個人の欲求でどこまで医療技術を利用してよいか、自分の考えをまとめる。	1 時間
	2,3,4,5	復習	エンハンスメントについての自分の考えをまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	責任(1)責任の範囲はどこまで？——アリストテレスほか		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3	復習	責任が問われる基準について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	責任(2)「何もしなかった」ことに責任はあるのか——ヤスパース		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,3,4	復習	講義中にあげた事例について、自分の考えを課題にまとめる。	1.5 時間
備考	配布プリントを中心に講義を行い、定期的に課題を提示し、学生同士が意見を交換する場を設けます。 本講義では知識の修得だけでなく、みずから考えることを重視するので、課題など積極的に取り組んで下さい。 オフィスアワー:水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。質問はメールでも受け付けます。 メールアドレス「oishi@takasaki-u.ac.jp」 研究室:1 号館 6 階 601 予習・復習については試験前の学習で補完すること。			

科目名		倫理学(人間理解)			LAH002	講義
英文名		Ethics				
担当教員		出雲 春明				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		現代の医療をめぐる問題をとりあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。				
到達目標		1.医療に関連する倫理的諸問題について正確な知識を習得し、 2.自分の考えを表現することができる。 3.また、自分と対立する考えについても理解を深める。				
学位授与方針		✓	豊かな人間性と教養			
との対応		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
			自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		授業への参加とその態度(20%)、小テスト・期末レポート(80%)から評価する。				
課題に対するフィードバック		講義中、課題を出し、自分の考えをまとめて提出してもらう場合がある。有意義な意見に関しては講義中に紹介する。				
使用教材		講義中に資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス—生命倫理学について				
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み講義の目的を理解する。			1 時間
	1	復習	生命倫理学の成立事情について、技術の発展と人間観の変化から理解する。			1.5 時間
2	講義内容	不妊治療(1)人工授精、体外受精				
	該当する到達目標	予習	人工授精の定義を確認し、書籍、報道から関連情報を取得しておく。			1 時間
	1,2,3	復習	人工授精の特徴とそこで生じる倫理的問題について理解する。			1.5 時間
3	講義内容	不妊治療(2)代理母出産をめぐる議論				
	該当する到達目標	予習	体外受精と人工授精の違い、代理母がなぜ求められるかを確認しておく。			1 時間
	1,2,3	復習	人工授精、体外受精、代理母の特徴とその倫理的問題について理解する。			1.5 時間
4	講義内容	遺伝子操作(1)ヒトゲノム計画がもたらす未来				
	該当する到達目標	予習	ヒトゲノム計画とは何かを調べておく。			1 時間
	1,2,3	復習	遺伝情報が現在社会においてどのように利用されようとしているか理解する。			1.5 時間
5	講義内容	遺伝子操作(2)遺伝子診断技術がもたらす未来				
	該当する到達目標	予習	遺伝子診断技術について調べておく。			1 時間
	1,2,3	復習	遺伝子診断技術がこれから社会に及ぼす変化を考えてみる。			1.5 時間
6	講義内容	人工妊娠中絶をめぐる問題				
	該当する到達目標	予習	日本における人工妊娠中絶の法的規定について調べておく。			1 時間
	1,2,3	復習	人工妊娠中絶をめぐる現在の状況、議論について理解する。			1.5 時間
7	講義内容	優生思想をめぐる問題				
	該当する到達目標	予習	優生思想とは何かを調べておく。			1 時間
	1,2,3	復習	これまでの議論を優生思想の問題と関連させて振り返っておく。			1.5 時間
8	講義内容	インフォームド・コンセントと患者の権利				

	該当する到達目標	予習	インフォームド・コンセントが求められた歴史的なきっかけを調べておく。	1 時間
	1, 2	復習	患者を主役とする医療という考え方について確認しておく。	1.5 時間
9	講義内容	QOL の追求		
	該当する到達目標	予習	QOL とは何かを調べておく。	1 時間
	1,2,3	復習	様々な QOL のあり方について考えてみる。	1.5 時間
10	講義内容	告知をめぐる問題		
	該当する到達目標	予習	告知をめぐる現状について調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	告知について自分ならどのような選択をするか考えてみる。	1.5 時間
11	講義内容	延命医療について		
	該当する到達目標	予習	延命医療について自分の考えをまとめてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	延命と QOL を関連させて考えてみる。	1.5 時間
12	講義内容	安楽死について		
	該当する到達目標	予習	安楽死の区分について調べてみる。	1 時間
	1,2	復習	安楽死の区分について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 時間
13	講義内容	臓器移植(1)生体臓器移植		
	該当する到達目標	予習	日本での生体臓器移植の位置づけについて調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	生体臓器移植の特徴とその倫理的問題について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	臓器移植(2)死後移植と臓器移植法改正		
	該当する到達目標	予習	日本における昨今の死後移植の位置づけについて調べてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	改正臓器移植法について理解し、自分の意見をまとめてみる。	1.5 時間
15	講義内容	総括—福祉に携わる者として		
	該当する到達目標	予習	企業による不祥事の隠蔽事件について調べ、自分の考えをまとめてみる。	1 時間
	1,2,3	復習	資料に提示されたケースをもとに自らがいかに行動すべきか考える。	1.5 時間
備考	なるべく平易な表現を用いて講義を行う。講義前にシラバスを確認し、当該テーマについて自分がどのようなイメージを持っているのかについて、講義後はそれがどのように変わったのかについて確認しておくこと。配付された資料に基づいて必ず復習しておくこと。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 参考文献:加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療—バイオ・エシックスの練習問題』、PHP 新書、1999 年。 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」は誰が決めるのか』、筑摩書房、2011 年。 オフィスアワー:質問などがある者は、授業の前後に教室および非常勤講師控え室で対応する。			

科目名	心理学(人間理解)			LAH003	講義
英文名	Psychology				
担当教員	角野 善司				
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。				
到達目標	1.心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。 2.人の成長・発達と心理との関係について説明できる。 ■ 3.日常生活と心の健康との関係について説明できる。 ■ 4.心理的支援の方法と実際について説明できる。 ■				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回の宿題 30%(復習課題 15%、予習課題 15%)、学期末テスト 70%(知識問題 50%、論述問題 20%)。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テストの得点に関わらず、単位を付与しない。				
課題に対するフィードバック	宿題は毎回授業時に、学期末テストは事後に講評解説の機会を設ける。				
使用教材	加藤伸司ほか「心理学理論と心理的支援[第2版]」ミネルヴァ書房 2014 年 2,800 円+税				
1	講義内容	こころのしくみの理解(1):心理学における主要な理論			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。		1.5 時間
2	講義内容	こころのしくみの理解(2):心と脳／情動・情緒			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。		1.5 時間
3	講義内容	こころのしくみの理解(3):欲求・動機づけと行動			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。		1.5 時間
4	講義内容	こころのしくみの理解(4):感覚・知覚・認知			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。		1.5 時間
5	講義内容	こころのしくみの理解(5):学習・記憶・思考／知能・創造性			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。		1.5 時間
6	講義内容	こころのしくみの理解(6):人格・性格／自己概念・自己実現			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。		1.5 時間

7	講義内容	こころのしくみの理解(7):集団		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
8	講義内容	こころのしくみの理解(8):適応／人と環境		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	1	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
9	講義内容	人の成長・発達と心理:発達の概念 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活と心の健康:ストレスとストレッサ ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
11	講義内容	心理的支援の方法と実際(1):心理検査の概要 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
12	講義内容	心理的支援の方法と実際(2):カウンセリングの概念と範囲 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
13	講義内容	心理的支援の方法と実際(3):カウンセリングとソーシャルワーク等の関連活動との関係 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
14	講義内容	心理的支援の方法と実際(4):心理療法の概要と実際 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでの学習内容を振り返る。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。	1.5 時間
備考	・オフィスアワー[後期]:火曜 3 限、木曜 3 限 研究室:8 号館 4 階 405 室 ・メールアドレス: zsumino@takasaki-u.ac.jp ・授業期間全体を通じた授業の進め方: 授業外学習の促進を意図して、毎回宿題として予習復習課題を課す。教科書の該当箇所に関する講義は、予習してあることを前提とするので、簡潔に進める。積極的に質問することを期待する。復習課題の解答解説は丁寧さを心掛ける。 ・宿題の提出は、C-learning による。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	文学と人間(人間理解)			LAH004	講義
英文名	Literature and Humanity				
担当教員	斎藤 順二				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD で味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。				
到達目標	1.視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることができる。 2.歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	まとめのレポートを 100 点満点で採点(90%)し、それに授業参加度を加味(10%)して総合評価する。				
課題に対するフィードバック	共通課題「授業で学んだ近代文学の名作の中から、人間と人間生活の理解に役立つと思われる 10 作品を選び、それぞれ 80～90 字で論評しなさい」を採点し、その結果を講評する。				
使用教材	小田切進『日本の名作』(中央公論新社)定価(本体 720+税)				
1	講義内容	二葉亭四迷『浮雲』・森鷗外『舞姫』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
2	講義内容	森鷗外『高瀬舟』・『雁』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
3	講義内容	幸田露伴『五重塔』・樋口一葉『たけくらべ』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
4	講義内容	尾崎紅葉『金色夜叉』・徳富蘆花『不如帰』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
5	講義内容	泉鏡花『高野聖』・島崎藤村『破戒』『夜明け前』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
6	講義内容	夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
7	講義内容	伊藤左千夫『野菊の墓』・田山花袋『田舎教師』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間	
8	講義内容	芥川龍之介『羅生門』『鼻』『地獄変』			
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間	

	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
9	講義内容	有島武郎『或る女』・武者小路実篤『友情』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
10	講義内容	川端康成『伊豆の踊子』・小林多喜二『蟹工船』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
11	講義内容	林芙美子『放浪記』・尾崎士郎『人生劇場』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
12	講義内容	谷崎潤一郎『春琴抄』『細雪』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
13	講義内容	志賀直哉『暗夜行路』・太宰治『人間失格』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
14	講義内容	壺井栄『二十四の瞳』・井上靖『天平の甍』		
	該当する到達目標	予習	教科書を通読し、作品理解へのアプローチとする。	1.5 時間
	1,2	復習	作者について調べ、発展的な読書につなげる。	1.5 時間
15	講義内容	学習の整理と展望(まとめのレポート)		
	該当する到達目標	予習	これまでに学んだ近代文学の名作の中から 10 作品に絞り込む。	1.5 時間
	2	復習	知的好奇心から問題意識を持ち、さらに読書の幅を広げる。	1.5 時間
備考	授業では、朗読 CD を活用して日本文学作品の梗概を理解しながら、人物相関図の板書とテキストの読解を行う。これをきっかけにして、さらに各自が近代文学に興味関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげることが望ましい。なお、質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。			

科目名	芸術論(共通教養科目、人間理解)				LAH005	講義
英文名	Theory of Art					
担当教員	石原 綱成、志尾 睦子					
科目に関連した実務経験	映画上映・宣伝・企画・製作、イベントプロデュース(志尾)					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	芸術を学ぶことで、豊かな人間性と教養を身につける。また、あらゆるジャンルの芸術(絵画、等)を深く理解する。					
到達目標	1.視覚芸術の歴史を理解できる 2.芸術を人間の営為の総体として理解できる。 3.映像芸術を通して、映画の文化史的意義を理解できる。■ 4.様々な文化を理解することで、グローバルな教養が身につく					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	中間テストの筆記試験(50%)と期末試験のレポート提出(50%)を総合評価する。					
課題に対するフィードバック	講義形式をとるが、一方的な講義にならぬよう、受講生の意見、学習状況は逐一確かめる。					
使用教材	教科書は使用せず、逐次プリントを配布する。また、授業においてはパワーポイントを使用する。					
1	講義内容	ガイダンス(石原・志尾)				
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。			1.5 時間
	2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。			1.5 時間
2	講義内容	芸術とは何かー芸術のイメージの調査ー				
	該当する到達目標	予習	芸術における各自のイメージを箇条書きできるようにしておく。			1.5 時間
	1,2,4	復習	配布したプリントをもとに芸術のジャンルを理解する。			1.5 時間
3	講義内容	芸術史概説				
	該当する到達目標	予習	芸術史の流れを体系的に理解しておく。			1.5 時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基に芸術史の歴史を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	宗教芸術とは何か				
	該当する到達目標	予習	世界の主要な宗教の特色を理解する。			1.5 時間
	1,2,4	復習	配布した資料を基にキリスト教の教義を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	キリスト教美術とシンボル				
	該当する到達目標	予習	シンボルの本質について理解する。			1.5 時間
	1,2,4	復習	キリスト教のシンボルの法則性を理解する。			1.5 時間
6	講義内容	ルネサンス美術ー古典古代の芸術ー				
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとに遠近法とは何かを理解する。。			1.5 時間
	1,2,4	復習	遠近法と人間の「主体」への意識を考える。			1.5 時間
7	講義内容	ルネサンス美術ー図像解釈学と美術ー				
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとにプラトンとアリストテレスの相違を理解する。			1.5 時間
	1,2,4	復習	アイデア論の違いが視覚芸術にいかに関与するかを理解する。			1.5 時間

8	講義内容	中間テスト		
	該当する到達目標	予習	今まで学んだ内容を理解しておく	1.5 時間
	1,2,4	復習	試験内容を自分なりに再考する	1.5 時間
9	講義内容	メディア芸術とは何か 映画芸術の入り口に立つ■		
	該当する到達目標	予習	メディア と称されるもののイメージを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画の成り立ちを理解する	1.5 時間
10	講義内容	映画の誕生と変遷を辿る■		
	該当する到達目標	予習	映画の仕組みを理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに映画史を体系的に理解する	1.5 時間
11	講義内容	映画の表現方法について学ぶ■		
	該当する到達目標	予習	様々な映像ジャンルを箇条書きできるようにしておく	1.5 時間
	2,3,4	復習	配布した資料をもとに表現方法の多様性を理解する	1.5 時間
12	講義内容	映画の構造を知る■		
	該当する到達目標	予習	映画を組み立てているものの役割を理解する	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が総合芸術であるという本質を理解する	1.5 時間
13	講義内容	演習 1: 見えるもの 見えないもの 映画が伝えることを意識する■		
	該当する到達目標	予習	映画を観てみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	感想を自分なりの言葉にしてみる	1.5 時間
14	講義内容	演習 2: 演出とは何か■		
	該当する到達目標	予習	課題のシナリオを読み、イメージを組み立ててみる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映像表現の可能性と奥深さを楽しむ	1.5 時間
15	講義内容	総論: 映画は時代を映す鏡である 映画で世界を知る■		
	該当する到達目標	予習	興味のある国について調べる	1.5 時間
	2,3,4	復習	映画が語る文化、時代性を考える	1.5 時間
備考	パワーポイントを使用した講義形式をとるが、一方的な講義にならぬよう、受講生の意見、学習状況を確認しながら進める。 石原オフィスアワー: 月曜日の 3 限、木曜日の 4 限、質問はメールで受け付ける。 石原メールアドレス: ishihara@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 501 志尾メールアドレス: m-shio@takasaki-cc.jp ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		ボランティア・市民活動論(人間理解)			LAH006	講義
英文名		Civil and Voluntary Activities				
担当教員		金井 敏				
科目に関連した実務経験		前職においてボランティア・市民活動支援センターの支援業務に従事していました。また、様々なボランティア活動実践者と交流があります。 現在、大学ボランティア・市民活動支援センター(VSC)でセンター長としてVSCを運営しています。				
学年・開講期		1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		ボランティア・市民活動は、手助けを求めている個人や団体に対して自主的に貢献する活動です。身近な地域や福祉、環境、情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在です。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践する力を養成します。				
到達目標		1.ボランティア・市民活動の対象者のニーズを学び、ボランティア・市民活動の意義を説明できる。■ 2.ボランティア・市民活動の多様な実践例を学ぶことにより、活動の実際の展開を説明できる。■ 3.ボランティア・市民活動支援センターを活用して、自身の関心に即した活動に参加する。■ 4.参加したボランティア・市民活動の実践を振り返り、成果や課題、次のチャレンジについて考察できる。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と幅広い教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
			自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		成績評価 ①学期末レポートによる評価(60%)。なお、追再試は実施しません。 ②ボランティア活動に参加して作成する実践レポートによる評価(20%)。 ③授業のリアクションペーパー(主にゲストスピーカーの5回)による評価(20%)。 その他の評価 ①授業開講数の2/3以上を出席することにより、成績の評価対象とします。 ②忌引きや実習、就職活動などによる欠席は、届け出(要添付書類)を提出すれば出席扱いとします。なお、15分以上の遅刻は欠席とみなします。 ③ボランティア実践の時間(1回当たり4時間×4回=16時間相当)も本時の講義時間に含めます。				
課題に対するフィードバック		実践や授業内容などに関する質問や意見については、授業のなかで取りあげるなど随時、学生にフィードバックします。				
使用教材		各講義に即したオリジナル・レジュメや関係資料は授業にて配布します。テキストは使用しません。参考文献は随時、紹介します。				
1	講義内容	ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い■ ボランティア・市民活動支援センター(VSC)の活用方法、授業の進め方を確認する。				
	該当する到達目標 1,3	予習	シラバスの内容をよく読んで、現時点でのボランティアの理解を把握する。			1.5 時間
		復習	講義内容、学位授与方針、成績評価方法、VSC 利用方法などを確認する。			1.5 時間
2	講義内容	ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割■				
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	自分の地元市町村のボランティアセンターの組織や活動内容を調べる。			1.5 時間
		復習	ボランティアセンターの活用方法を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	子どもの明日と子育てをサポートするボランティア活動■				
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	児童を対象としたボランティア活動を調べる。			1.5 時間
		復習	児童を対象としたボランティアの意義や活動上の注意事項などを理解する。			1.5 時間

4	講義内容	被災地に届け、災害支援ボランティア活動■		
	該当する到達目標	予習	我が国における災害ボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	被災地におけるボランティア活動の内容や活動上の注意事項などを理解する。	1.5 時間
5	講義内容	人々はどのようにボランティアに取り組んできたか～欧米と日本の歴史		
	該当する到達目標	予習	世界の国々でボランティア活動がどのように取り組まれているか調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	欧米と日本のボランティア活動の歴史の違いや長所を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	障害者スポーツ・レクリエーションをサポートするボランティア活動■		
	該当する到達目標	予習	障害者を対象としたスポーツやレクリエーションについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	障害者との接し方や支援の内容や方法を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	ボランティアと NPO～学生でも創れる NPO 法人■		
	該当する到達目標	予習	NPO 法人の概要について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	NPO 法人の活動内容や設立の要件、ボランティアとの違いなどを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	地域ささえあいのボランティア ～ふれあい・いきいきサロン～■		
	該当する到達目標	予習	地域で取り組まれているふれあい・いきいきサロンについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	高齢者の介護予防や健康、子育て家庭を住民で支える活動について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	身近な動物とボランティアの良い関係		
	該当する到達目標	予習	動物を対象としたボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	動物に対するボランティア活動の実際や人間との共生について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか■		
	該当する到達目標	予習	小中高校で取り組まれている福祉実践について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	小中高校における福祉教育のあり方や自身の関わり方について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	心と命をつなぐボランティア活動～いのちの電話の実践から考える■		
	該当する到達目標	予習	心の悩みや自殺予防に取り組むボランティア活動を調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	いのちの電話の役割と学生でもできる活動について考察する。	1.5 時間
12	講義内容	国際貢献・多文化共生とボランティア活動■		
	該当する到達目標	予習	海外で活躍するボランティア活動について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	国際貢献や多文化共生のボランティア活動のあり方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会～赤い羽根共同募金■		
	該当する到達目標	予習	赤い羽根共同募金の概要や寄付の実際について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	赤い羽根共同募金のあり方や寄付の文化とは何かを理解する。	1.5 時間
14	講義内容	行政に協力するボランティア ～民生委員・児童委員の活躍～■		
	該当する到達目標	予習	行政に協力するボランティアについて調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	民生委員・児童委員の活動を理解し、自分の地域の民生委員を確認する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ～新しい支え合いと 20 年後の自分の生き方■		
	該当する到達目標	予習	さまざまなボランティア活動を通じて理解した人々の生活のしづらさや今後の課題について考える。	1.5 時間
	1,3,4	復習	ボランティア活動の講義と実際の実践活動を踏まえて、ボランティア活動のあり方や自身の将来の役割について考察する。	1.5 時間
備考	毎回の授業は、ボランティアに関する映像視聴、テーマに基づく講義、ゲストスピーカー講義(6 回予定)、ディスカッション、振り返り、次週の予定、という流れで進めます。			

オフィスアワー:月曜日 12 時 15 分～13 時・水曜日 12 時 15 分～13 時で相談に応じます。

研究室:1 号館 3 階 310 研究室。

質問・意見はメールでも対応します。

ボランティア・市民活動支援センター(VSC, 9 号館 1 階)を活用してください。活動を始める前には必ず, ボランティア活動保険に加入すること。そのほかボランティアの相談に何でも応じます。

VSC 直通 TEL:027-352-1108, VSC メールアドレス:vsc@takasaki-u.ac.jp

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	人権論(人間理解)			LAH007	講義
英文名	Theory of Human Right				
担当教員	金井 洋行				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	人権の観念について、他の観念－人道、倫理、文化規範、宗教的信念、条理原則等－との比較を通して分析し、人間の本性(human nature)との関係を理解する。日本国憲法に規定する「国民の権利」の内容を知り、その効力にどのような制約や限界があるかについて認識する。身近な生活体験から感得した権利侵害や不条理の発生について、人権の観点から考察する姿勢を身につける。				
到達目標	1.人権について特にヨーロッパの歴史的発展を背景に人道等の他の価値観との比較で観念できる。 2.人権の様々な観念から憲法の人権規定の適用関係を認識できる。 3.個々の人権の性格を、内面的と外面的、精神的と経済的、消極的と積極的、等の区分で理解できる。 4.人権の擁護がどのような考え方と仕組みによって行われるのかについて、憲法規定を通して認識できる。 5.人権に関する主要な争点について裁判所、特に最高裁判所の考え方を整理できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	・平常の授業に対する姿勢(15%)、中間テスト(25%)、期末の定期試験(60%) ・中間テストは概ね 3 回の知識テスト又は、定期試験は知識と思考力のテスト				
課題に対するフィードバック	重要テーマについてのレポートに対してコメントを配布する(テーマについては適宜指示)				
使用教材	テーマ別レジュメ、基礎知識資料(テキストに代替するプリント) *テーマによって DVD の視聴あり				
1	講義内容	人権の観念と内容			
	該当する到達目標	予習	日本国憲法における基本的人権の項目の教科書等による再チェック		2 時間
	1	復習	予備知識アンケート		0.5 時間
2	講義内容	人権の享有主体と人権規定の適用関係			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み		1 時間
	1,2	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集		1.5 時間
3	講義内容	人権の制約と限界			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み		1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集		1.5 時間
4	講義内容	幸福追求権の意義と具体化			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み		1 時間
	1,2,4	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集		1.5 時間
5	講義内容	法の下での平等－平等権と平等原則－			
	該当する到達目標	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み		1 時間
	1,2,5	復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集		1.5 時間
6	講義内容	人間の内心の価値と保護			

	該当する到達目標	1,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
7	講義内容	自由と自由主義			
	該当する到達目標	1,3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
8	講義内容	表現の自由とその抑制			
	該当する到達目標	3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
9	講義内容	経済活動の自由と財産権			
	該当する到達目標	3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
10	講義内容	人身の自由と刑事手続の保障			
	該当する到達目標	3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
11	講義内容	政治活動の自由と参政権			
	該当する到達目標	3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
12	講義内容	生存権の意義と福祉国家の諸権利			
	該当する到達目標	3,4,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
13	講義内容	教育を受ける権利と学習権			
	該当する到達目標	3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
14	講義内容	人権の国際化			
	該当する到達目標	3,5	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
15	講義内容	人権の現状と今後の課題			
	該当する到達目標	1,4	予習	配布レジュメの考察項目の趣旨理解と今回「基礎知識資料」の読み込み	1 時間
			復習	レジュメの考察項目の内容チェックとノート編集	1.5 時間
備考	講義内容はできうるかぎり予定通り進行させるが、期間内に国内的にあるいは国際的に大きな人権をめぐる事象があった場合には、その話題を飛び入りの的に割り込ませることはある。日常の身の回りに起こる権利侵害や条約違反に目を向け、人権擁護の観点から自分なりに考えておくことを期待する。 出講日の放課後等において、質問及び学習相談を受ける。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。				

科目名	人間関係論(人間理解)				LAH008	講義
英文名	Theory of Human Relations					
担当教員	富田 純喜					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	人間関係論といえば、ホーソン実験を基盤として体系化された理論を指すことが多い。また、社会科学における研究アプローチを指すこともある。本講義では、広く生活上の諸現象を人と人との関係から理解することを目的とする。					
到達目標	1.人間関係論の基礎的内容を理解している。 2.人間関係を多角的な視点から説明できる。 3.人間関係の構築に関する基礎的なアプローチを説明できる。					
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	定期試験(70%)、授業参画度(30%)					
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。					
使用教材	必要に応じて資料を配布する。					
1	講義内容	ガイダンス				
	該当する到達目標	予習	各回の授業内容を確認し、人間関係について考えてみる。			1 時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	ホーソン実験と人間関係論				
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1 時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	自己と他者				
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	身体の個別性と共同性				
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	発達と人間関係(1) 対人関係のはじまり				
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
6	講義内容	発達と人間関係(2) 親子関係				
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
7	講義内容	発達と人間関係(3) 甘えと自律(自立)				
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1 時間

	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	個体能力論としての人間関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	関係論としての人間関係(1) 個と個の関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	関係論としての人間関係(2) 社会的関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	人間関係におけるコミュニケーション能力		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	人とのかかわり方(1) 一人称アプローチ		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	人とのかかわり方(2) 二人称アプローチ		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	人とのかかわり方(3) 三人称アプローチ		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	現代社会における人間関係		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	2 時間
	2,3	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
備考	授業は、主に講義形式でテーマの概要の説明を中心に進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 質問等は授業中に行うことが望ましいが、授業開始前もしくは終了後にも教室で応じる。 オフィスアワー：火曜 4 限、水曜 2 限(8 号館 4 階 406 研究室) メールアドレス:tomita-t@takasaki-u.ac.jp			

科目名	ジェンダー論(人間理解)				LAH009	講義
英文名	Gender Theory					
担当教員	前田 由美子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期		必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	人間の性とはどういう意味をもつのか。それによって形成されている秩序と、それゆえに起こるさまざまな葛藤を真摯にみつめ、性を制度設計に組み込む社会の問題を解き明かす。その上で、それらをどのように解決して行ったら良いのかを深く思索する。そうすることによってより豊かで包容力のある社会を創造する力を備え、行動する人になり、新しい自分や社会を発見することになるであろう。					
到達目標	1.自分自身の内部にある「性」のとらえ方を見つめ直す。 2.内面化している固定的な性のイメージや制度に対する固定観念に気づく。 3.他者や社会への豊かなまなざしを持てる。 4.豊かな社会創造への力を身につける。					
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養				
との対応	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	レポートを 4 日間それぞれに提出(1 日につき 25%相当)。合計で評価する。 総合評価 60%以上で合格とする。					
課題に対するフィードバック	レポートを返却し、コメント解説を行う。					
使用教材	授業用プリント、文献資料等を随時配布する。必要に応じてメディア教材を使用する。					
1	講義内容	講義全体の説明				
	該当する到達目標	予習	性別についての自分の考え方を見つめておく。			1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価法などを確認する。			1.5 時間
2	講義内容	ジェンダーと言う概念				
	該当する到達目標	予習	文献資料に目を通す。			1 時間
		1	復習	ジェンダー概念について理解する。		
3	講義内容	生き物としての性とその多様性				
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。			1 時間
		1,2	復習	性の多様性を理解する。		
4	講義内容	セクシュアリティ・性的指向				
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。			1 時間
		1,2,3	復習	セクシュアリティの多様性について理解する。		
5	講義内容	性役割と性規範				
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。			1 時間
		1,2	復習	身の回りの性役割や性規範について気づく。		
6	講義内容	ジェンダー・アイデンティティ				
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。			1 時間
		1,2,3	復習	ジェンダー・アイデンティティについて理解する。		

7	講義内容	性別と経済		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3	復習	経済と性別のつながりを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	女性と子ども		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	女性と子どものつながりへの偏重を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	男性と子ども		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	男性と子どものつながりの困難を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	労働と性別		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	労働と性別のつながりの問題を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	労働と性別とそれぞれの暮らし		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	ワーク・ライフ・バランスを理解し、問題解決法を考える。	1.5 時間
12	講義内容	男性のかかえる問題		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	男性をとりまく問題を理解し、女性の問題との関連を考える。	1.5 時間
13	講義内容	セクシュアル・ハラスメント		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	問題の本質を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	ドメスティック・バイオレンス		
	該当する到達目標	予習	文献資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	社会問題として理解する。	1.5 時間
15	講義内容	性別と社会の問題		
	該当する到達目標	予習	全ての文献のつながりを理解する。	1 時間
	3,4	復習	問題の確認と解決法を考える。	1.5 時間
備考	レジュメに基づき解説を行う。時にグループワークも行い、課題について考察を深める。集中講義なので、日ごとに短いレポートを作成提出してもらう。予習・復習については、予め配布される資料を読み込んで行い、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 仕事の選択、恋愛、卒業後の人生設計において、この授業で学ぶ知識は大きな影響をもたらすはずである。自身のために、社会を創るために是非学んでほしい。 質問等は、授業中もしくは終了後に応じ解説する。			

科目名	共生の倫理(人間理解)				LAH010	講義
英文名	Ethics of Symbiosis					
担当教員	大石 桂子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	現代では多様な価値観・文化をもった人々が、性別や年齢、職業や病気・障がいの有無などを超えて「共生」することが求められている。差別や排除をのりこえ、共生を実現するためどのような取り組みができるのか、基礎的な理論と方法の知識を習得することを目標にする。					
到達目標	1.現代社会での共生の意義について理解し、説明できる。 2.共生の歴史について理解し、説明できる。 3.共生を支える社会学、倫理学また教育や臨床的なアプローチを理解し、説明できる。 4.共生の具体的なあり方や事例について理解し、説明できる。 5.テーマについて自分の考えをもつことができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
		自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	定期試験(60%)、講義中に作成する課題(40%)に、参加態度を加えて総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	提出課題の内容にコメントを添えて、講義中に紹介する。					
使用教材	講義中にプリントを配布する。					
	講義内容	ガイダンス				
1	該当する到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、到達目標などを確認する。			1 時間
		復習	講義の目的や学ぶ意義を理解する。			1.5 時間
	講義内容	共生とは何か、共生に関わる社会意識				
2	該当する到達目標	予習	共生の定義を調べる。			1.5 時間
		1 復習	なぜ共生が必要とされるのか理解する。			1.5 時間
	講義内容	多文化社会と価値の多様化				
3	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
		1,5 復習	価値の多様化の社会的な影響について、事例を考え課題を作成する。			1.5 時間
	講義内容	分断と隔離の歴史				
4	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
		2,5 復習	近代以降に障がい者などの隔離が進んだ背景を理解する。			1.5 時間
	講義内容	優生思想				
5	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。			1 時間
		2,5 復習	20 世紀初頭～現在の優生思想について、問題点を理解する。			1.5 時間
	講義内容	共生の歴史: ノーマライゼーションからエンパワーメントへ				
6	該当する到達目標	予習	ノーマライゼーションの定義を調べる。			1 時間
		2,4,5 復習	ノーマライゼーションの意義と、他の概念へ置き換わった背景を理解する。			1.5 時間

7	講義内容	公共空間のユニバーサルデザイン		
	該当する到達目標	予習	ユニバーサルデザインの定義を調べる。	1 時間
	4,5	復習	ユニバーサルデザインの意義を理解し、身近な実例を考える。	1.5 時間
8	講義内容	共生をめざして(1) 社会学からのアプローチ		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	世代間保障について理解し、課題を作成する。	2 時間
9	講義内容	共生をめざして(2) 倫理学からのアプローチ		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	共感の道徳的な役割を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	共生をめざして(3) 教育学からのアプローチ		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	学校教育での共生の取り組みを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	共生をめざして(4) 非行臨床からのアプローチ		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	矯正教育の意義と成果について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	共生をめざして(5) 認知症ケアの臨床からのアプローチ		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	3,5	復習	介護での QOL 向上やコミュニケーション改善の取り組みを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	「排除型社会」がもたらすリスク		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1,5	復習	価値多様化の時代の「自己」のあり方、共済、相互扶助の意義を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	事例研究: 多民族、多文化の共生		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4,5	復習	講義の内容をふまえ、課題を作成する。	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでのノート・資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	共生の意義、方法について理解し、自分の考えをまとめる。	1.5 時間
備考	講義ではパワーポイントを用いる。定期的に資料に関する分析、考察する機会を設ける。 オフィスアワー: 月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス「oishi@takasaki-u.ac.jp」 研究室: 1 号館 6 階 601 予習・復習については試験前の学習で補完すること。			

科目名	チーム医療アプローチ論(人間理解)			LAH011	講義
英文名	Team Approach to Health Care				
担当教員	大川 喜代美、原田 欣宏、竹内 真理、土井 信幸、小笠原 映子、鈴木 忠、篠原 智行、丸山 健一				
科目に関連した実務経験	丸山:群馬大学医学部小児科及び群馬県立小児医療センターに小児科医として勤務(昭和 54 年～平成 30 年)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。				
到達目標	1.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。 2.各専門職の役割と活動について理解できる。 3.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業参加への積極性 40%、レポート 60%				
課題に対するフィードバック	・他学科の学生が参加していることから講義中に双方向型講義を行い、学生の考えや意見を導入しながら講義を展開する。 ・課題レポートを読んで感じた点や補足すべき点について文章化し、次回の授業時に受講生に配布する。				
使用教材	講義のスライドを随時プリントして配布する。				
1	講義内容	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について			
	該当する到達目標 1	予習	チーム医療とはどのようなものなのか、学習する。		1.5 時間
		復習	21 世紀の医療では、なぜ多職種協働のチーム医療が必須であるか理解する。		1.5 時間
2	講義内容	チーム医療における看護師・保健師の役割と活動			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	最近の多職種連携に関連する書籍、雑誌等を読んでおく		1.5 時間
		復習	看護師と多職種の役割との違い、連携について講義内容なら復習しておく。		1.5 時間
3	講義内容	チーム医療における理学療法士の役割と活動			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	リハビリテーションチームを構成する各職種について調べる		1.5 時間
		復習	チームの中でその役割を果たすために、なすべきことを確認する		1.5 時間
4	講義内容	チーム医療における薬剤師の役割と活動			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	チーム医療における薬剤師の役割と活動についてインターネット等の電子媒体を用いて調査する。		1 時間
		復習	講義受講後のレポート作成。チーム医療における薬剤師の役割について、地域包括ケアシステムの観点から整理すること		2 時間
5	講義内容	チーム医療における管理栄養士の役割と活動			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	事前に学習した他のコメディカルの役割と活動について復習し授業に臨む		1.5 時間
		復習	管理栄養士と他のコメディカルのチーム医療と、チーム内での役割や活動について考察する		1.5 時間
6	講義内容	チーム医療における社会福祉士の役割と活動			
	該当する到達目標	予習	①高齢化社会の現状を調べる ②地域医療の進展を調べる ③ 社会福祉専		1.5 時間

	1,2,3		門職の職場を調べる。	
		復習	疾患と障害の関連を理解し、地域で自立した生活支援に必要なチーム医療のあり方を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	チーム医療における保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動		
	該当する到達目標	予習	乳幼児期・学齢期に罹患しやすい病気の概要や主要な障害について予習をすること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭と各種医療職との連携のあり方について復習をすること。	1.5 時間
8	講義内容	チーム医療における診療情報士の役割と活動■		
	該当する到達目標	予習	診療情報管理士と病院事務について調べてみる。	0.5 時間
	1,2,3	復習	診療情報管理士と病院事務について得た知識を整理する。	0.5 時間
備考	【授業期間全体を通じた授業の進め方】 各講義ではテーマについて概要を説明し、パワーポイントにより要点を提示する。 予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。 【キーワード】専門職、チーム医療、チームアプローチ 【オフィスアワー】 大川(情報): 月曜日 1・2 限(1 号館 609 研究室)質問等はメールでも受付可. okawa-ki@takasaki-u.ac.jp 原田(福祉): 火 2 限、金 3 限(1 号館 506 研究室) 竹内(栄養): 木曜 2-4 時限(1 号館 308 研究室)質問等はメールでも受け付けます. mtakeuchi@takasaki-u.ac.jp 小笠原(看護): 月曜日 3 限(4 号館 505 研究室) 鈴木(理学): 月曜日 12:30～13:30、15:30～16:30(4 号館 2 階学部長室) 篠原(理学): 水曜 3 限、随時メールで問い合わせを受け付けます (shinohara-t@takasaki-u.ac.jp) 土井(薬学): 12:00～13:00(7 号館 319 研究室)doi-n@takasaki-u.ac.jp 丸山(子ども): 金曜 4 限(8 号館 408 研究室)k-maruyama@takasaki-u.ac.jp ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	国際医療事情(人間理解)			LAH012	講義
英文名	International Healthcare				
担当教員	クリストファー・ターン 町田 修三				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する				
到達目標	1.諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる 2.諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる 3.諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる 4.諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる 5.日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる				
学位授与方針との対応		豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	最終レポート(50%)、提出物(20%)、発表、討論など授業参加度(30%) 海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス(30%)、研修レポート(30%)、研修中のパフォーマンス(40%)				
課題に対するフィードバック	レポートや提出物については、コメントを付して返却する。発表や討論等のパフォーマンスについては、その都度コメントやアドバイスを伝える				
使用教材	特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと				
1	講義内容	イントロダクション			
	該当する到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1 時間	
		復習	自分の興味のある国の医療事情リサーチを開始する	1.5 時間	
2	講義内容	医療の国際化とは			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の復習、特に世界で進行中の医療の国際化についてしっかりと理解する	1.5 時間	
3	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療事情（一部 AL 実施）			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間	
4	講義内容	日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう			
	該当する到達目標 5	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間	
		復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間	

5	講義内容	先進国(アメリカ, イギリス, ドイツ)の医療教育		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
6	講義内容	先進国の医療事情Ⅰ (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
7	講義内容	先進国の医療事情Ⅱ (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
8	講義内容	先進国の病院		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
9	講義内容	その他の先進国(北欧, カナダ, オーストラリアなど)の医療事情Ⅰ (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
10	講義内容	その他の先進国の医療事情Ⅱ (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
11	講義内容	中進国(台湾, シンガポール, 中国など), 途上国(ベトナム, インドネシア, タイなど)の医療教育		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情リサーチ	1.5 時間
12	講義内容	中進国, 途上国の医療事情Ⅰ (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情発表準備	1.5 時間
13	講義内容	中進国, 途上国の医療事情Ⅱ (一部 AL 実施)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料・データに目を通しておく	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容の復習と興味ある国の医療事情発表準備	1.5 時間
14	講義内容	学生プレゼンテーション		
	該当する到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
15	講義内容	学生プレゼンテーションとまとめ		
	該当する到達目標	予習	発表原稿とプレゼンテーションの準備	3 時間
	1,2,3,4,5	復習	学生プレゼンテーションの復習とコメント記入	1.5 時間
備考	海外研修に参加して、実際に海外の医療現場を経験することを強く勧める。その際、どのような視点を持ってリサーチするかの示唆と、見聞したこと 요약法・分析法を教授する。リサーチ原稿の作成と発表までをもって1クールとする。 AL(アクティブラーニング)は、ペアワーク, グループワーク, ディスカッション, クローズドクエスチョン, オープンクエスチョンなど 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 オフィスアワー: 月曜日 4 限目, 金曜日 2 限目 研究室: 1 号館 6 階603 メールアドレス: machida@takasaki-u.ac.jp			

科目名	Introduction to Healthcare Sciences(人間理解)			LAH013	講義
英文名	Introduction to Healthcare Sciences				
担当教員	町田 修三、小澤 滯司、クリストファー・ターン、長谷川 恵子、下川 哲昭、今井 純、大石 時子、望月 経				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。				
到達目標	1.医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる 2.理解した内容について、第三者に説明できる 3.医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる 4.医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度(20%程度)や講義終了時に課す提出物または小レポート(80%程度)により、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する				
課題に対するフィードバック	提出物や小レポートには、コメントを付して返却する				
使用教材	各教員が作成した資料やデータを用いて講義する				
1	講義内容	Introduction of the course(町田)			
	該当する到達目標	予習	シラバスを熟読し、講義の概要や目標を理解しておく	1 時間	
	1	復習	講義内容の復習、特に専門用語(英語)を覚える	1 時間	
2	講義内容	Medical globalization and Japan's healthcare system(町田)			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
3	講義内容	Healthcare system of foreign countries(町田)			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	
4	講義内容	Introduction of social welfare system in Japan I(長谷川)			
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料、データに目を通す。特に専門用語(英語)を予習しておく、授業に参加する準備をしておく	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間	

5	講義内容	Introduction of social welfare system in Japan II (長谷川)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
6	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English I (小澤)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
7	講義内容	Using Medline Plus to obtain medical information in English II (小澤)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
8	講義内容	Immunity and diseases I (今井)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
9	講義内容	Immunity and diseases II (今井)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
10	講義内容	Immunity and diseases III (今井)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
11	講義内容	Genes and cancer : basic understanding of the disease I (下川)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
12	講義内容	Genes and cancer : basic understanding of the disease II (下川)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
13	講義内容	Mental Health(ターン)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
14	講義内容	Mental health and social skills(ターン)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習しておき, 授業に参加する準備をしておく	1.5 時間
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
15	講義内容	Summary and concluding remarks(ターン)		
	該当する到達目標	予習	あらかじめ配布した資料, データに目を通す. 特に専門用語(英語)を予習して	1.5 時間

	1,2,3,4		おき, 授業に参加する準備をしておく	
		復習	授業で学習した専門用語や内容の再理解	1.5 時間
備考	数人の教員がオムニバス形式で英語にて、学生の理解度を確認しながら講義を展開する。講義内容は学生の興味を持てそうな分野から、基礎的なものを選んでいく。学生の積極的な授業参加が求められる。 英語を使用する授業であるので、予習用に授業で用いる教材・資料・データ等をあらかじめ配布する。授業にはこれらの資料を十分に下調べしたうえで臨むことが特に重要である。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 オフィスアワー(町田): 月曜日 4 限目、金曜日 2 限目 研究室: 1 号館 6 階 603			

科目名	囲碁の世界(人間理解)			LAH014	講義
英文名	Introduction to Igo				
担当教員	三谷 哲也				
科目に関連した実務経験	2002 年日本棋院に入段、現在七段として東京本院に所属。				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	近年、囲碁は脳を活性化し考える力を養うということで注目されている。囲碁を学ぶことで「考える力」と「集中力」を磨き、「先を読む力」を身につける。また、日本の伝統文化である囲碁を体得することで、言葉と世代を超えたコミュニケーション力を身につけ、国際交流のコミュニケーション力を高める。				
到達目標	1.全く囲碁を知らない状態から囲碁の世界を知り、19 路盤で最後まで打てるようになる。 2.いくつかのパターンの囲碁の心得を覚え、囲碁の考え方を身につける。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回の授業貢献度、技術の習熟度を総合的に判断する(60%) 試験(20%)×2 回				
課題に対するフィードバック	試験後に解説を行う。				
使用教材	光文社新書「東大教養囲碁講座」				
1	講義内容	囲碁の歴史と基本ルール			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 1 章 1～3 に目を通し講義の目的を理解する。		1.5 時間
	1,2	復習	囲碁の基本的なルールを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	ルールの復習(1)			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-1～1-3 に目を通し基本ルールを確認する。		1.5 時間
	1,2	復習	囲碁の 5 つの基本ルールを理解する。		1.5 時間
3	講義内容	ルールの復習(2)			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 2 章 1-4～1-5 に目を通し基本ルールを確認する。		1.5 時間
	1,2	復習	打てない場所、打てる場所を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(1)			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 P97 に目を通し、囲碁の打ち方のポイントを確認する。		1.5 時間
	1,2	復習	基本的な 3 つの心得を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	ルールの復習及び初歩技術(2)			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 3 章 2 に目を通し、石の取り方を確認する。		1.5 時間
	1,2	復習	取れている石、シチョウを理解する。		1.5 時間
6	講義内容	問題演習			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章 1～2 に目を通し基本的な考え方を理解する。		1.5 時間
	1,2	復習	地の数え方、石のつながりを理解する。		1.5 時間
7	講義内容	技術の解説(1)			
	該当する到達目標	予習	教科書 P188～199 に目を通し終盤の考え方を確認する。		1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の終盤の考え方を理解する。		1.5 時間

8	講義内容	技術の解説(2)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P173～188 に目を通し中盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の考え方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	技術の解説(3)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P158～172 に目を通し序盤の考え方を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤の考え方を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	9 子局の解説・連碁(対局)		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 5 章 1 に目を通し 9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	9 子局の打ち方を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	技術の解説(4)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P207～220 に目を通し決め打ち碁のポイントを理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	隅の死活を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	技術の解説(5)とペア碁		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 4 章に目を通し、19 路盤の考え方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	問題演習		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 2 章 4 に目を通し、石の追い方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	石の取り方、死活、終局の仕方を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	技術の解説(6)		
	該当する到達目標	予習	教科書 P259～267 に目を通し、総合的な石の取り方を理解する。	1.5 時間
	1,2	復習	19 路盤の序盤～中盤の打ち方を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	連碁対局 まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 4 章～5 章に目を通し、これまで習ってきたことを確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	インターネットやスマートフォンで対局する。	1.5 時間
備考	授業内容全てが教員の実務経験と関連する。 授業は基本的に講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士で対局を行う。 囲碁の道具の片づけについても授業の一環である。スチューデントアシスタント(SA)の方がいても、積極的に片づけに関わること。 オフィスアワーは授業の前後 15 分ずつであるが、状況により次回の授業で対応となる場合がある。			

科目名	英語 IA(リテラシー)			LAL001	演習
英文名	English IA				
担当教員	バートラム テリー (Terry Bertram)				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	実用的な英語のコミュニケーション能力を習得できる様、単語数を増やし、ロールプレイなどを実践しながら 楽しく医療看護にかかわる英語を身につけることを目標とする。				
到達目標	1. 英語コミュニケーション能力と英文法 2. 職場で使える英語力を身に付ける				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加態度 20% , 小テスト 30% , 定期試験 50% (中間テスト 20% , 期末テスト 30%)				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	WORLD ENGLISH 2 – 2nd Edition ISBN: 978-1-285-84836-5				
1	講義内容	Introductions, review course syllabus, general review & assessment			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで学習内容を確認しておく		1 時間
	1	復習	Role-playing scenarios の音読		0.5 時間
2	講義内容	Unit 1 – Food from the Earth			
	該当する到達目標	予習	Unit1 に目を通し、未知の単語の意味を調べる		1.5 時間
	1, 2	復習	Unit1 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読		1.5 時間
3	講義内容	Unit 2 – Express Yourself			
	該当する到達目標	予習	Unit 2 に目を通し、未知の単語の意味を調べる		1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 2 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読		1.5 時間
4	講義内容	Unit 3 - Cities			
	該当する到達目標	予習	Unit 3 に目を通し、未知の単語の意味を調べる		1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 3 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読		1.5 時間
5	講義内容	Unit 4 – The Body			
	該当する到達目標	予習	Unit 4 に目を通し、未知の単語の意味を調べる		1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 4 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読		1.5 時間
6	講義内容	Unit 5 - Challenges			
	該当する到達目標	予習	Unit 5 に目を通し、未知の単語の意味を調べる		1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 5 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読		1.5 時間
7	講義内容	Unit 6 – Transitions			
	該当する到達目標	予習	Unit6 に目を通し、未知の単語の意味を調べる		1.5 時間
	1, 2	復習	試験対策 (Unit1 – 6)		1.5 時間

8	講義内容	MidTerm Exam		
	該当する到達目標	予習	試験対策(Unit 1－6)	1.5 時間
	1, 2	復習	テストで回答できなかったところを見直しておく。	0.5 時間
9	講義内容	Unit 7 - Luxuries		
	該当する到達目標	予習	Unit 7 に目を通し、未知の単語の意味を調べる	1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 7 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読	1.5 時間
10	講義内容	Unit 8 - Nature		
	該当する到達目標	予習	Unit 8 に目を通し、未知の単語の意味を調べる	1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 8 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読	1.5 時間
11	講義内容	Unit 9 – Life in the Past		
	該当する到達目標	予習	Unit 9 に目を通し、未知の単語の意味を調べる	1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 9 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読	1.5 時間
12	講義内容	Unit 10 - Travel		
	該当する到達目標	予習	Unit 10 に目を通し、未知の単語の意味を調べる	1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 10 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読	時間
13	講義内容	Unit 11 - Careers		
	該当する到達目標	予習	Unit 11 に目を通し、未知の単語の意味を調べる	1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 11 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読	1.5 時間
14	講義内容	Unit 12 - Celebrations		
	該当する到達目標	予習	Unit 12 に目を通し、未知の単語の意味を調べる	1.5 時間
	1, 2	復習	Unit 12 の新単語、内容理解 / Role-playing scenarios の音読	1.5 時間
15	講義内容	Final Exam Preparation		
	該当する到達目標	予習	試験対策(Unit 7 - 12)	1 時間
	1, 2	復習	テストで回答できなかったところを見直しておく。	0.5 時間
備考	質問はメールで受け付けます。 メールアドレス: tuhwbertram@gmail.com 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語 IB(リテラシー)			LAL001	演習
英文名	English IB				
担当教員	ジム・ヘイ				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	大学生に必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。				
到達目標	1. 英語の歌やゲームに親しみ、異文化に対する理解を深める。 2. 基礎的な英語表現を理解する。 3. 英語による日常的なコミュニケーション能力を獲得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業参加度(10%)と小テスト／課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	特に定めない。				
1	講義内容	Introduction, rules, Greetings review			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	シラバスを読んで学習内容を把握する	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
2	講義内容	TV Reporter pair work unit 1			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	アクティビティの準備	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
3	講義内容	TV Reporter pair work unit 2			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	アクティビティの準備	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
4	講義内容	be 動詞			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	アクティビティの準備	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
5	講義内容	Greetings unit 1			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	アクティビティの準備	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
6	講義内容	Greetings unit 2			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	アクティビティの準備	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
7	講義内容	He, She, It			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	アクティビティの準備	1.5 時間	
		復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間	
8	講義内容	過去形			

	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
9	講義内容	Songs and Poems		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
10	講義内容	“My Town” Listening unit		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
11	講義内容	“ing” Form		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
12	講義内容	Body Parts Unit		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
13	講義内容	Body Parts Songs		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
14	講義内容	Opposite unit and Games		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
15	講義内容	“Words Game” Team Contest		
	該当する到達目標	予習	アクティビティの準備	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	新出単語・表現の復習	1.5 時間
備考	授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語 IC(リテラシー)			LAL001	演習
英文名	English IC				
担当教員	中村 博生				
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	教員を目指す学生向けのテキストを使用し、教育現場で必要とされる英語のスキルを身につける。とりわけ小学校において、児童が英語でコミュニケーションを図る力を身につけるための授業を行う力が求められることから、英語でのアクティビティやクラスルーム・イングリッシュなど、指導に関する実践的な英語力を修得することを目標とする。				
到達目標	1. 異文化理解を深め、国際感覚を身につけることができる。 2. 教育現場で必要とされる英語表現を修得することができる。■ 3. アクティブ・ラーニングの学修方法・形態で学ぶことで、主体的に学修することができる。■				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業参加度(10%)、課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	課題(ワークシート)はコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	相羽千州子他, <i>Hello, English: English for Teachers of Children</i> (成美堂, 2016 年), 2,592 円				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1.0 時間
2	講義内容	Unit 1 ALT's First Visit to Minami Elementary School ■			
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 1 の予習をする。		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解		1.0 時間
3	講義内容	Unit 2 Getting to Know Each Other ■			
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 2 の予習をする。		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解		1.0 時間
4	講義内容	Unit 3 School Lunch ■			
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 3 の予習をする。		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解		1.0 時間
5	講義内容	Unit 4 Play Time ■			
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 4 の予習をする。		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解		1.0 時間
6	講義内容	Unit 5 The First English Class ■			
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 5 の予習をする。		1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解		1.0 時間
7	講義内容	Unit 6 Teaching Numbers 1 ■			

	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 6 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
8	講義内容	Unit 7 Teaching Numbers 2 ■		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 7 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
9	講義内容	Unit 8 Reflection ■		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 8 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
10	講義内容	Unit 9 Activities at a Kindergarten		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 9 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
11	講義内容	Unit 10 Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 10 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
12	講義内容	Unit 11 Making Onigiri and Curry		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 11 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
13	講義内容	Unit 12 Making a Town Map		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 12 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
14	講義内容	Unit 13 Introducing Japanese Culture ■		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 13 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
15	講義内容	Unit 14 Evacuation Drills ■		
	該当する到達目標	予習	ワークシートに従って Unit 14 の予習をする。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	ワークシートによる内容理解	1.0 時間
備考	オフィスアワー: 火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・授業はアクティブ・ラーニングの方法を用いる。テキストの内容についての授業外学修(ワークシート)を参考にしながら、ペアやグループでの協働学習を行い、その成果を英会話などで発表するという形式で進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語ⅡA（リテラシー）			LAL002	演習
英文名	English IIA				
担当教員	中村 博生				
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	教育に携わる者として、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を備えることを目標とする。社会の急速なグローバル化に備え、保育の現場における日常生活に關した題材を英語で取り扱いながら、特に学生のリスニング能力とスピーキング能力のレベルアップを図り、保育現場で英語でのコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。				
到達目標	1. 幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を備えることができる。■ 2. 子どもや保護者と英語での会話が行えるように、場面に応じた会話例を身に付けることができる。 3. 保育の現場で生じる会話を英語で作成し、学生同士でロールプレイを行い、子どもや保護者と英語でコミュニケーションする能力を身につけることができる(アクティブ・ラーニング)。 4. 主体的に英語を修得し、英語でのコミュニケーション能力を身につけ職場で活用することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業参加度(10%)、課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	課題(ワークシート)はコメント・添削の上返却する。 期末試験は採点の後返却する。				
使用教材	教科書 <i>Happy English for Childcare</i> 、土屋麻衣子著、金星堂、2015、2,150 円				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.0 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1.0 時間
2	講義内容	Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka			
	該当する到達目標	予習	Unit 1 に目を通す。		1.0 時間
	1,2,3,4	復習	担任の先生と保護者の会話を例として対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。		1.0 時間
3	講義内容	Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room?			
	該当する到達目標	予習	Unit 2 に目を通す。		1.0 時間
	1,2,3,4	復習	保護者に対する園内の案内に関する対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。		1.0 時間
4	講義内容	Unit 3 Good Morning. How Are You Today? ■			
	該当する到達目標	予習	Unit 3 に目を通す。		1.0 時間
	1,2,3,4	復習	園児との対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。		1.0 時間
5	講義内容	Unit 4 What Color Do You Like? ■			
	該当する到達目標	予習	Unit 4 に目を通す。		1.0 時間
	1,2,3,4	復習	工作の時間で園児をほめる対話文を作り、英語でコミュニケーション活動がで		1.0 時間

			きる。	
6	講義内容	Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf		
	該当する到達目標	予習	Unit 5に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	園外散歩の対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
7	講義内容	Unit 6 It's Time to Play Outside		
	該当する到達目標	予習	Unit 6に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	園庭で遊具で遊ぶ時の対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
8	講義内容	Unit 7 She Is Allergic to Eggs		
	該当する到達目標	予習	Unit 7に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	保護者からの相談(食物アレルギーなど)についての対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
9	講義内容	Unit 8 You Should Go to the Bathroom		
	該当する到達目標	予習	Unit 8に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	お昼寝の時間の対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
10	講義内容	Unit 9 We Made Masks Today		
	該当する到達目標	予習	Unit 9に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	降園時の園児と保護者に対する対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
11	講義内容	Unit 10 If It Rains, What Happens?		
	該当する到達目標	予習	Unit 10に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	保護者と行事予定について話す対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
12	講義内容	The Bamboo Princess ■		
	該当する到達目標	予習	Reading 教材 “The Bamboo Princess”に目を通す。	1.0 時間
	1, 4	復習	物語を読み、語彙、文法などを理解して内容を正確に把握できる。	1.0 時間
13	講義内容	Momotaro, The Peach Boy ■		
	該当する到達目標	予習	Reading 教材 “Momotaro, The Peach Boy”に目を通す。	1.0 時間
	1, 4	復習	物語を読み、語彙、文法などを理解して内容を正確に把握できる。	1.0 時間
14	講義内容	Review (1) Listening and Speaking ■		
	該当する到達目標	予習	自作の対話文の発表ができるように準備する。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	これまでの学習のまとめとしての対話文を作り、英語でコミュニケーション活動ができる。	1.0 時間
15	講義内容	Review (2) Reading and Writing ■		
	該当する到達目標	予習	Reading and Writing のまとめの学習の準備をする。	1.0 時間
	1, 4	復習	学習した範囲の語彙、文、文法などを駆使して正確に英文を読解したり、英作文したりすることができる。	1.0 時間
備考	オフィスアワー: 火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・授業はアクティブ・ラーニングの方法を用いて行い、テキストの内容についての授業外学修(ワークシート)を参考にしながら、ペアやグループでの協働学習を行い、その成果を英会話などで発表するという形式で進める。 12・13 回は講義形式が中心となる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語 IIB(リテラシー)			LAL002	演習
英文名	English IIB				
担当教員	Stacy Clause				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	This class's goal is to help students to use basic conversational English. We will also learn about and discuss issues in global health. Class participation and discussion are essential components of this course.				
到達目標	1. To foster a positive attitude toward communication through English. 2. To understand issues in global health. 3. To develop lifelong skills for learning English				
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	Introductions, greetings			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare presentation	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
2	講義内容	About me/my hometown presentation			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
3	講義内容	Practical English: Explanations -how to use something			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
4	講義内容	Practical English: Asking and giving information			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
5	講義内容	Practical English: compliments, apologies and other speech acts			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
6	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
7	講義内容	Lifelong learning: Metaphors in songs			

	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
8	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
9	講義内容	Lifelong learning: Songs (part 2)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
10	講義内容	Practical English: Getting around -at the hotel, restaurant, airport		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
11	講義内容	Presentation on an English speaking country		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
12	講義内容	Current health issues (Public Service announcements)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
13	講義内容	Comparative issues in medicine: technology		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
14	講義内容	Comparative issues in medicine: global health		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
15	講義内容	Future of medicine: class presentations		
	該当する到達目標	予習	Complete presentation with group	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オフィスアワー：月曜日 4 限、火曜日 3 限 メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 307 研究室 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語ⅡC(リテラシー)			LAL002	演習
英文名	English IIC				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	本授業では、保育・教育の現場で実践的な英語会話力が必要とされていることを考慮し、英語によるリスニング・会話練習に重点を置く。あわせて基本的な語彙、文法を確認しながら、英語のコミュニケーション能力を総合的に高める訓練を行う。				
到達目標	1. 基本的な語彙・文法を修得する。 2. 基本的な教室英語を使い、英語で授業運営できる素地を身につける。				
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度、発表、課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。				
使用教材	S. Williams & V. Morooka (2014). <i>Student Teacher: Introductory English for Education Majors</i> . 東京:南雲堂. 2,100 円				
1	講義内容	ガイダンス・Warm-up			
	該当する到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。		1.5 時間
	1, 2	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	Unit 1: Meeting and Greeting			
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 1 の指定された練習問題を解く。		1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 1 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。		1.5 時間
3	講義内容	Unit 2: Family and Friends			
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 2 の指定された練習問題を解く。		1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 2 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。		1.5 時間
4	講義内容	Unit 3: Likes and Dislikes			
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 3 の指定された練習問題を解く。		1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 3 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。		1.5 時間
5	講義内容	Unit 4: Good Habits and Bad Habits			
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 4 の指定された練習問題を解く。		1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 4 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。		1.5 時間
6	講義内容	Unit 5: Summer and Fun			
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 5 の指定された練習問題を解く。		1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 5 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。		1.5 時間
7	講義内容	Unit 6: Here and There			
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 6 の指定された練習問題を解く。		1.5 時間

	1, 2	復習	教科書 Unit 6 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書 Units 1-6 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Units 1-6 の内容を使って、音読、会話練習をする。	1.5 時間
9	講義内容	Unit 7: Giving and Receiving		
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 7 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 7 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
10	講義内容	Unit 8: Parties and Fashion		
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 8 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 8 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
11	講義内容	Unit 9: Physical Education and Health		
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 9 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 9 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
12	講義内容	Unit 10: Nursery School and Day Care		
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 10 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 10 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
13	講義内容	Unit 11: Educating and Caring		
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 11 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 11 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
14	講義内容	Unit 12: Bullying and Other Problems		
	該当する到達目標	予習	教科書 Unit 12 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Unit 12 の内容を理解する。また、授業で学んだ教室英語を練習する。	1.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書 Units 7-12 の指定された練習問題を解く。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書 Units 7-12 の内容を使って、音読、会話練習をする。	1.5 時間
備考	オフィスアワー： 木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス： shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室： 9 号館 303 研究室 授業では、教科書を中心に様々な教材を用いながら、英語によるコミュニケーション練習を行う。また、授業外学習においては、オンラインの授業支援システム CaLabo Bridge を使用する。			

科目名	英語 IIIA(リテラシー)			LAL003	演習
英文名	English IIIA				
担当教員	出雲 春明				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必修・単位数	必修 1 単位		
講義目標	大学生に必要とされるリーディング・スキル、コミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。				
到達目標	1. グローバル化する社会で必要とされる異文化理解を深め、国際感覚を身につける。 2. 基礎的な日常的実用英語表現を習得する。 3. これからの国際社会において必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを向上させる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、課題、小テストなど)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	課題・試験はコメント・添削の上返却する。				
使用教材	外山晴子『Enjoy English with Charlie Brown and Friends 『ピーナッツ』で学ぶ英語と比較文化』、南雲堂、2008 年。¥2,100+税。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスとテキストを照らし合わせ、予習、復習、評価方法について確認する。		1.5 時間
		復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	Lesson 1 Body Language in Peanuts ①			
	該当する到達目標 1, 3	予習	テキスト pp. 12-15.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5 時間
		復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。		1.5 時間
3	講義内容	Lesson 1 Body Language in Peanuts ②			
	該当する到達目標 1, 2	予習	テキスト pp. 16-17.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。		1.5 時間
		復習	不明であった文法事項を確認しておく。		1.5 時間
4	講義内容	Lesson 2 Lucy's Psychiatry Stand ①			
	該当する到達目標 1, 3	予習	テキスト pp. 18-21.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5 時間
		復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。		1.5 時間
5	講義内容	Lesson 2 Lucy's Psychiatry Stand ②			
	該当する到達目標 1, 2	予習	テキスト pp. 22-23.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。		1.5 時間
		復習	不明であった文法事項を確認しておく。		1.5 時間
6	講義内容	Lesson 3 Friends Forever ①			
	該当する到達目標 1, 3	予習	テキスト pp. 24-27.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5 時間
		復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。		1.5 時間
7	講義内容	Lesson 3 Friends Forever ②			
	該当する到達目標	予習	テキスト pp.28-29.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。		1.5 時間

	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
8	講義内容	Lesson 4 Peanuts as a Social Group ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp.32-35.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
9	講義内容	Lesson 4 Peanuts as a Social Group ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 36-37.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
10	講義内容	Lesson 5 Schroeder the Music Lover ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 38-41.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
11	講義内容	Lesson 5 Schroeder the Music Lover ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 42-43.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
12	講義内容	Lesson 6 Girls in Peanuts ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 44-47.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
13	講義内容	Lesson 6 Girls in Peanuts ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 48-49.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
14	講義内容	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 52-55.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
15	講義内容	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 56-57.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
備考	辞書必携。最低限の予習として不明な単語を調べておくこと。テキスト付属の CD を用いて発音の確認と練習をしておくとなおよい。 質問などがある場合、授業の前後の時間、教室ならびに非常勤講師控え室で対応する。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語 IIIB(リテラシー)			LAL003	演習
英文名	English IIIB				
担当教員	岡田 和子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	保育分野での実践的な語学力を養い、保育英語検定 3 級程度の英語の習得を目指す。				
到達目標	1. 保育園・幼稚園の日常活動に即した内容の基礎的語彙を身に付ける。 2. リスニング・ライティング・コミュニケーション等の総合的な英語運用能力を高める。 3. 保育に関する英文読解のためのリーディング・スキルを獲得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度・平常点 40% (単語試験、提出物など)、定期試験 60%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点後返却する。				
使用教材	改訂2版 保育英語検定3級テキスト 保育英語検定協会(著)				
1	講義内容	第1章 おはよう			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
2	講義内容	第2章(1) お話の時間です			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
3	講義内容	第2章(2) 音楽の時間です			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
4	講義内容	第3章 お絵描きしましょう			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
5	講義内容	第4章 トイレに行こう			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
6	講義内容	第5章(1) お外に出ましょう			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
7	講義内容	第5章(2)ブランコで遊ぼう			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間	
		復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間	
8	講義内容	第6章(1) 砂場で遊ぼう			

	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
9	講義内容	第6章(2) 教室に戻ろう		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
10	講義内容	第7章(1) 食事の準備		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
11	講義内容	第7章(2) 御馳走様でした		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
12	講義内容	第8章(1) お昼寝の時間です		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
13	講義内容	第8章(2) 起きる時間です		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
14	講義内容	第9章 お帰りの時間です		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んで内容を理解する	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	専門用語と表現をまとめ、ポイントの英語表現を暗記する	1.5 時間
備考	メールアドレス：非公開 オフィス・アワー：火・水曜の4限まで。1号館1階の講師室 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語 IIIC(リテラシー)			LAL003	演習
英文名	English IIIC				
担当教員	Stacy Clause				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	This class's goal is to help students to use basic conversational English. We will also learn about and discuss issues in global health. Class participation and discussion are essential components of this course.				
到達目標	1. To foster a positive attitude toward communication through English. 2. To understand issues in global health. 3. To develop lifelong skills for learning English				
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	Introductions, greetings			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare presentation	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
2	講義内容	About me/my hometown presentation			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
3	講義内容	Practical English: Explanations -how to use something			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
4	講義内容	Practical English: Asking and giving information			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
5	講義内容	Practical English: compliments, apologies and other speech acts			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
6	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
7	講義内容	Lifelong learning: Metaphors in songs			

	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
8	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
9	講義内容	Lifelong learning: Songs (part 2)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
10	講義内容	Practical English: Getting around -at the hotel, restaurant, airport		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
11	講義内容	Presentation on an English speaking country		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
12	講義内容	Current health issues (Public Service announcements)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
13	講義内容	Comparative issues in medicine: technology		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
14	講義内容	Comparative issues in medicine: global health		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
15	講義内容	Future of medicine: class presentations		
	該当する到達目標	予習	Complete presentation with group	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オフィスアワー：月曜日 2 限、火曜日 3 限 メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 307 研究室 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語 IVA(リテラシー)			LAL004	演習
英文名	English IVA				
担当教員	Stacy Clause				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	This class's goal is to help students to use basic conversational English. We will also learn about and discuss issues in global health. Class participation and discussion are essential components of this course.				
到達目標	1. To foster a positive attitude toward communication through English. 2. To understand issues in global health. 3. To develop lifelong skills for learning English				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	Introductions, greetings			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare presentation	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
2	講義内容	About me/my hometown presentation			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
3	講義内容	Practical English: Explanations -how to use something			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
4	講義内容	Practical English: Asking and giving information			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
5	講義内容	Practical English: compliments, apologies and other speech acts			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
6	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Prepare activity	1.0 時間	
		復習	Review new words and phrases	1.0 時間	
7	講義内容	Lifelong learning: Metaphors in songs			

	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
8	講義内容	Lifelong learning: Movies/TV		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
9	講義内容	Lifelong learning: Songs (part 2)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
10	講義内容	Practical English: Getting around -at the hotel, restaurant, airport		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
11	講義内容	Presentation on an English speaking country		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
12	講義内容	Current health issues (Public Service announcements)		
	該当する到達目標	予習	Prepare activity	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
13	講義内容	Comparative issues in medicine: technology		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
14	講義内容	Comparative issues in medicine: global health		
	該当する到達目標	予習	Take notes on TED talk	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
15	講義内容	Future of medicine: class presentations		
	該当する到達目標	予習	Complete presentation with group	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	1.0 時間
備考	予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オフィスアワー：月曜日 4 限、火曜日 3 限 メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 307 研究室 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語 IVB(リテラシー)			LAL004	演習
英文名	English IVB				
担当教員	出雲 春明				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	大学生に必要とされるリーディング・スキル、コミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。				
到達目標	1. グローバル化する社会で必要とされる異文化理解を深め、国際感覚を身につける。 2. 基礎的な日常的実用英語表現を習得する。 3. これからの国際社会において必要とされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを向上させる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	期末試験 50% 平常点 50%(授業への参加度、課題、小テストなど)の総合評価とする。				
課題に対するフィードバック	課題・試験はコメント・添削の上返却する。				
使用教材	外山晴子『Enjoy English with Charlie Brown and Friends 『ピーナッツ』で学ぶ英語と比較文化』、南雲堂、2008 年。¥2,100+税。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスとテキストを照らし合わせ、予習、復習、評価方法について確認する。		1.5 時間
		復習	講義におけるテキストの使用法について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	Lesson 1 Body Language in Peanuts ①			
	該当する到達目標 1, 3	予習	テキスト pp. 12-15.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5 時間
		復習	重要表現を復習し、それをを用いて自分で表現してみる。		1.5 時間
3	講義内容	Lesson 1 Body Language in Peanuts ②			
	該当する到達目標 1, 2	予習	テキスト pp. 16-17.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。		1.5 時間
		復習	不明であった文法事項を確認しておく。		1.5 時間
4	講義内容	Lesson 2 Lucy's Psychiatry Stand ①			
	該当する到達目標 1, 3	予習	テキスト pp. 18-21.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5 時間
		復習	重要表現を復習し、それをを用いて自分で表現してみる。		1.5 時間
5	講義内容	Lesson 2 Lucy's Psychiatry Stand ②			
	該当する到達目標 1, 2	予習	テキスト pp. 22-23.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。		1.5 時間
		復習	不明であった文法事項を確認しておく。		1.5 時間
6	講義内容	Lesson 3 Friends Forever ①			
	該当する到達目標 1, 3	予習	テキスト pp. 24-27.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。		1.5 時間
		復習	重要表現を復習し、それをを用いて自分で表現してみる。		1.5 時間
7	講義内容	Lesson 3 Friends Forever ②			
	該当する到達目標	予習	テキスト pp.28-29.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。		1.5 時間

	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
8	講義内容	Lesson 4 Peanuts as a Social Group ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp.32-35.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1,3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
9	講義内容	Lesson 4 Peanuts as a Social Group ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 36-37.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
10	講義内容	Lesson 5 Schroeder the Music Lover ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 38-41.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
11	講義内容	Lesson 5 Schroeder the Music Lover ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 42-43.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
12	講義内容	Lesson 6 Girls in Peanuts ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 44-47.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
13	講義内容	Lesson 6 Girls in Peanuts ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 48-49.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
14	講義内容	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle ①		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 52-55.の不明な単語を調べ、内容を把握しておく。	1.5 時間
	1, 3	復習	重要表現を復習し、それを用いて自分で表現してみる。	1.5 時間
15	講義内容	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle ②		
	該当する到達目標	予習	テキスト pp. 56-57.の不明な単語を調べ、英文を読んでみる。	1.5 時間
	1, 2	復習	不明であった文法事項を確認しておく。	1.5 時間
備考	辞書必携。最低限の予習として不明な単語を調べておくこと。テキスト付属の CD を用いて発音の確認と練習をしておくとなおよい。 質問などがある場合、授業の前後の時間、教室ならびに非常勤講師控え室で対応する。 授業は基本的に演習形式で進め、受講者の英語運用能力を高めるために、適宜、音声・映像教材を用いた活動を取り入れる。			

科目名	英語IVC（リテラシー）			LAL004	演習
英文名	English IVC				
担当教員	中村 博生				
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を備えることを目標とする。特に、実際のコミュニケーションに役立つ、発音の力を身に付けることをめざす。発音記号に基づき、正しい発音の方法を系統的に学習し、Nursery Rhyme などを読むことで正確で自然な発音を習得することをめざす。				
到達目標	1. 幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語に関する一般的な知識と技能を備えることができる。 2. 英語コミュニケーション能力を身に付けるために、自ら進んで英語の発音やリズムとイントネーションに習熟することができる(CALL 教室・個別学習)。 ■ 3. 音声教材を活用し、学生同士の教え合いや評価し合うことで、より正確な発音を身につけることができる(アクティブ・ラーニング)。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業参加度(10%)、課題遂行度(30%)、試験(60%)から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	テキストの課題に関する学修と評価の記述(ワークシート)はコメント・添削の上返却する。 授業における発表(英語の発音)では随時個人指導と全体指導を行う。 定期試験(英語の発音)に関する指導は、授業中に個人指導と全体指導で行う。				
使用教材	教科書 <i>English Pronunciation for Communication</i> 、小泉節子・杉森幹彦著、南雲堂、2012、2,300 円				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	教科書のはしがき、シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1.0 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.0 時間	
2	講義内容	Lesson 1 ([iː] - [i]) ~ Lesson 2 ([e] - [eɪ]), Nursery Rhymes 1,2			
	該当する到達目標	予習	Lesson 1 と Lesson 2 に目を通す。	1.0 時間	
	1,2,3,4	復習	母音([iː] - [i], [e] - [eɪ]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間	
3	講義内容	Lesson 3 ([æ]) ~ Lesson 4 ([ɑːr]), Passage for Reading (1), Nursery Rhymes 3,4			
	該当する到達目標	予習	Lesson 3 と Lesson 4 に目を通す。	1.0 時間	
	1,2,3,4	復習	母音([æ], [ɑːr]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間	
4	講義内容	Lesson 5 ([ɑ]) ~ Lesson 6 ([ʌ]), Passage for Reading (2), Nursery Rhymes 5,6			
	該当する到達目標	予習	Lesson 5 と Lesson 6 に目を通す。	1.0 時間	
	1,2,3,4	復習	母音([ɑ], [ʌ]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間	
5	講義内容	Lesson 7 ([ɔː] - [ou]) ~ Lesson 8 ([uː] - [u]), Nursery Rhymes 7,8,9, Poems 1,2			
	該当する到達目標	予習	Lesson 7 と Lesson 8 に目を通す。	1.0 時間	
	1,2,3,4	復習	母音([ɔː] - [ou], [uː] - [u]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間	

6	講義内容	Lesson 9 ([ə] - [ər] - [ə:r]), Nursery Rhyme 10, Poem 3 ■		
	該当する到達目標	予習	Lesson 9 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	母音([ə] - [ər] - [ə:r]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
7	講義内容	Lesson 10-(1) ([ai], [au], [oi], [iər], [iə]), Nursery Rhymes 11,12,13,14		
	該当する到達目標	予習	Lesson 10-(1) に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	二重母音([ai], [au], [oi], [iər], [iə]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
8	講義内容	Lesson 10-(2) ([ɛər], [ɛə], [ɔər], [ɔə], [ɔ:r], [uər], [uə], [juər]), Nursery Rhymes 15,16, Passage for Reading (3)		
	該当する到達目標	予習	Lesson 10-(2) に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	二重母音([ɛər], [ɛə], [ɔər], [ɔə], [ɔ:r], [uər], [uə], [juər]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
9	講義内容	Lesson 11 ([p] - [b])～Lesson12 ([t] - [d]), Tongue Twister1		
	該当する到達目標	予習	Lesson 11 と Lesson 12 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	子音([p] - [b],[t] - [d]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
10	講義内容	Lesson 13 ([k] - [g], [f] - [v]), Nursery Rhymes 17,18,19 ■		
	該当する到達目標	予習	Lesson 13 と Lesson 14 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	子音([k] - [g], [f] - [v]) の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
11	講義内容	Lesson 15 ([θ] - [ð])～Lesson 16 ([s] - [z]), Nursery Rhymes 20,21 ■		
	該当する到達目標	予習	Lesson 15 と Lesson 16 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	子音([θ] - [ð],[s] - [z])の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
12	講義内容	Lesson 17 ([ʃ] - [ʒ])～Lesson 18 ([h]), Tongue Twister 2		
	該当する到達目標	予習	Lesson 17 と Lesson 18 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	子音([ʃ] - [ʒ],[h])の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
13	講義内容	Lesson 19 ([tʃ] - [dʒ])～Lesson 20 ([r] - [l]), Nursery Rhyme 22		
	該当する到達目標	予習	Lesson 19 と Lesson 20 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	子音([tʃ] - [dʒ],[r] - [l])の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
14	講義内容	Lesson 21 ([m],[n],[ŋ])～Lesson 22 ([w],[r],[j]), Nursery Rhymes 23,24,25,26 ■		
	該当する到達目標	予習	Lesson 21 と Lesson 22 に目を通す。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	子音と半母音([m],[n],[ŋ],[w],[r],[j])の発音の方法を身につけ発音することができる。	1.0 時間
15	講義内容	Review		
	該当する到達目標	予習	Lesson 1 ～Lesson 22 で学習した発音を確認する。	1.0 時間
	1,2,3,4	復習	学習した発音を単語や文、文章を読んだり、会話をしたりする時に応用でき、正しく発音できる。	1.0 時間
備考	オフィスアワー: 火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・授業は、アクティブ・ラーニングの方法を用いて行う。前半は PC で個別学習を行い、後半はグループ学習、さらには全体への発表と講義を取り入れて進める。ワークシートへの記録は、学修の定着度を確認することに用いる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	Integrated English I (リテラシー)				LAL005	演習
英文名	Integrated English I					
担当教員	クリストファー・ターン					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位			
講義目標	本講義では、海外英語研修参加希望者を対象とする。英語による日常英会話レベルのコミュニケーション能力を獲得することを講義目標とする。					
到達目標	1.コミュニケーションの基礎知識を学ぶ 2.海外での様々な場面を想定した英会話の練習をする 3.プレゼンテーションの実践練習を行う また、海外英語研修にむけた事前準備や説明も行う。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
		専門的知識				
		問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%					
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する。個人面接を行う。					
使用教材	開講時に指示する。					
1	講義内容	What is communication?				
	該当する到達目標	予習	なし			0 時間
	1	復習	授業内容についての要約を書く。			1.5 時間
2	講義内容	Cognitive Psychology: Get to know yourself				
	該当する到達目標	予習	自分自身について書く。			1.5 時間
	1	復習	自分のインターナルコミュニケーションスキルについて書く。			1.5 時間
3	講義内容	Social skills.				
	該当する到達目標	予習	社会心理学について事前調べを行う。			1.5 時間
	1	復習	改善すべき自分の社会的スキルについて書く。			1.5 時間
4	講義内容	The power of imagination and innovation				
	該当する到達目標	予習	行きたい国、行きたい理由をあげる。			1.5 時間
	2	復習	その国について調べる。			1.5 時間
5	講義内容	learning to control a conversation				
	該当する到達目標	予習	言葉が理解できない状況でどのようなコミュニケーションが有効かを考える。			1.5 時間
	2	復習	ホストファミリーとの会話例を考える。			1.5 時間
6	講義内容	Listening strategies				
	該当する到達目標	予習	訪問国の英語発音について調べる。			1.5 時間
	2	復習	訪問国の短編映画やアニメを見る。			1.5 時間
7	講義内容	Basic English: Self introduction and first steps for communication in English				
	該当する到達目標	予習	自己紹介文を書く。			1.5 時間
	3	復習	自己紹介文を仕上げる。			1.5 時間

8	講義内容	Create your own English database		
	該当する到達目標	予習	ノートの準備をする。	1.5 時間
	3	復習	English Database を作成する。	1.5 時間
9	講義内容	Meet a foreigner		
	該当する到達目標	予習	外国人ゲストとの会話を考える。	1.5 時間
	2	復習	外国人ゲストとの会話から、スピーキングの課題を見つける。	1.5 時間
10	講義内容	Speech basics: Talking to an audience		
	該当する到達目標	予習	相手に伝わるプレゼンテーションについて調べる。	1.5 時間
	3	復習	大学紹介についてのパワーポイントプレゼンテーションを作成する。	1.5 時間
11	講義内容	Presentation 1(power point)		
	該当する到達目標	予習	自分の学科(専門)についてのプレゼンテーションを準備する。	1.5 時間
	3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする。	1.5 時間
12	講義内容	Presentation 2(power point)		
	該当する到達目標	予習	テーマーについてプレゼンテーションの準備をする。	1.5 時間
	3	復習	プレゼンテーションの直しと仕上げをする。	1.5 時間
13	講義内容	Make your own textbook 1		
	該当する到達目標	予習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する。	1.5 時間
	2	復習	海外研修・ホームステイを想定し自分自身のテキストブックを作成する。	1.5 時間
14	講義内容	Do group work to improve your textbook		
	該当する到達目標	予習	グループ毎に各自のテキストブックについて話し合い改善する	1.5 時間
	2	復習	想定した研修やホームステイについてレポートを書く。	1.5 時間
15	講義内容	Conclusion		
	該当する到達目標	予習	1～14 回の授業の復習をする	1.5 時間
	1,2,3	復習	全講義を通して学んだことについてレポートを書く。	1.5 時間
備考	本講義は、海外英語研修参加希望者を対象とする。 教員より、コミュニケーションを取る必要がある様々な場面設定が提示される。受講生はその対応を考え、実践演習を行う。その後課題を分析し、再度実践演習を行う。また、学生生活で学んだ英語をまとめてノートを作成する。 予習復習時間については各自補完すること。 オフィスアワー: 火曜日 3 限、金曜日 3 限			

科目名	Integrated English II (リテラシー)				LAL006	講義
英文名	Integrated English II					
担当教員	嶋田 和成					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必修・単位数	選択 1 単位			
講義目標	基本文法事項を整理しながら、TOEIC テスト受験に必要とされる基礎的な英語力養成を主眼とする。そのため授業では、TOEIC テスト形式の問題演習を中心に据えて、英語の基礎力を主にリスニングとリーディングの面から強化する。また、語彙を増やすことにも重点を置く。					
到達目標	1. TOEIC テストの形式と内容を理解できる。 2. 語彙力が身につく。 3. 文法事項を理解できる。 4. リスニング力が身につく。 5. リーディング力が身につく。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
		専門的知識				
		問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業への参加度、発表、課題(40%)、期末試験(60%)で評価する。					
課題に対するフィードバック	課題の解説をする。					
使用教材	妻鳥千鶴子他. (2016). <i>First Time Trainer for the TOEIC® Test</i> . 東京:センゲージラーニング. 2,000 円					
1	講義内容	ガイダンス・TOEIC テストとは				
	該当する到達目標	予習	教科書の前書き、シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。			1 時間
	1	復習	講義内容を理解し、TOEIC テストの概要と学習法を確認する。			1.5 時間
2	講義内容	Unit 1: Shopping				
	該当する到達目標	予習	Unit 1 の語彙の意味を調べる。			1 時間
	2, 3, 4, 5	復習	Unit 1 の練習問題の内容を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	Unit 2: Daily Life				
	該当する到達目標	予習	Unit 2 の語彙の意味を調べる。			1 時間
	2, 3, 4, 5	復習	Unit 2 の練習問題の内容を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	Unit 3: Transportation				
	該当する到達目標	予習	Unit 3 の語彙の意味を調べる。			1 時間
	2, 3, 4, 5	復習	Unit 3 の練習問題の内容を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	Unit 4: Jobs				
	該当する到達目標	予習	Unit 4 の語彙の意味を調べる。			1 時間
	2, 3, 4, 5	復習	Unit 4 の練習問題の内容を理解する。			1.5 時間
6	講義内容	Unit 5: Meals				
	該当する到達目標	予習	Unit 5 の語彙の意味を調べる。			1 時間
	2, 3, 4, 5	復習	Unit 5 の練習問題の内容を理解する。			1.5 時間

7	講義内容	Unit 6: Communication		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 6 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 6 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	Units 1-6 のまとめ		
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4, 5	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	1 時間
		復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	1.5 時間
9	講義内容	Unit 7: Fun		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 7 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 7 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	Unit 8: Office Work		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 8 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 8 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	Unit 9: Meeting		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 9 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 9 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	Unit 10: Travel		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 10 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 10 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	Unit 11: Finance		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 11 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 11 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	Unit 12: Business		
	該当する到達目標 2, 3, 4, 5	予習	Unit 12 の語彙の意味を調べる。	1 時間
		復習	Unit 12 の練習問題の内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	Units 7-12 のまとめ		
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4, 5	予習	指定されたリスニング・リーディングの問題を解く。	1 時間
		復習	解説を聞いて理解し、間違えたところを確認する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス：shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室：9 号館 303 研究室 授業は、教科書を使って TOEIC テスト形式の模擬問題演習と受講生同士によるコミュニケーション活動の形で進める。			

科目名		ドイツ語(リテラシー)			LAL007	講義
英文名		German				
担当教員		出雲 春明				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を持続していくための足がかりを築く。				
到達目標		1.ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。 2.初級文法を用いて基本的な会話をを行い、読み書きすることができる。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と幅広い教養			
			専門的知識			
			問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		授業への参加とその態度(20%)、小テスト・期末テスト(80%)で評価する。				
課題に対するフィードバック		授業の進行に応じて、練習問題を課し、採点して返却する。				
使用教材		羽根田知子・熊谷知実『ネコと学ぶドイツ語』、三修社(¥2,400)。なお、必要に応じて別途資料を配付する。				
1	講義内容	ガイダンス—日常のなかのドイツ語と、ドイツ語のアルファベット—				
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み講義内容を理解する。テキスト Lektion1 に目を通しておく。			1 時間
	1	復習	アルファベットの読みを声に出して練習する。			1.5 時間
2	講義内容	Lektion1 母音の発音、ドイツ語の挨拶(1)				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.1,8)を読み、付属の CD の対応する箇所を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
3	講義内容	Lektion1 子音の発音(1)、ドイツ語の挨拶(2)				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.1-2,8)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
4	講義内容	Lektion1 子音の発音(2)、ドイツ語の数字(1)				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.2,14)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
5	講義内容	Lektion1 特殊な発音、ドイツ語の数字(2)				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.1-2,8)の対応箇所、配付資料を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1	復習	テキストと配付した資料を用いて発音練習をしておくこと。			1.5 時間
6	講義内容	Lektion2 一般動詞の特徴とその人称変化(1)、ドイツ語の時刻表現				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.4-5,14)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1,2	復習	テキスト(p.4) を用いて人称変化の練習をしておくこと。			1.5 時間
7	講義内容	Lektion2 ドイツ語の一般動詞の特徴とその人称変化(2)				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.5-6)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間
	1,2	復習	テキストに出てくる動詞を用いて人称変化の練習をしておくこと。			1.5 時間
8	講義内容	Lektion2 ドイツ語の平叙文、疑問文、否定文、命令文(1)				
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.4-6)を読み、付属の CD を聞いておくこと。			1 時間

	1,2	復習	テキストに出てくる語句を用いて、ドイツ語での作文を練習しておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	Lektion2 ドイツ語の平叙文、疑問文、否定文、命令文(2)、ドイツ語での自己紹介		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.7)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	作文の練習だけでなく、CD の音声を参照しながら、正しい発音か確認しておく。	1.5 時間
10	講義内容	Lektion3 sein 動詞の特徴とその人称変化(1)		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.9-10,12)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	sein 動詞の変化を確認しておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	Lektion3 sein 動詞の特徴とその人称変化(2)		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.9,13)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	sein 動詞の使い方をテキストの語句を用いて練習しておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	Lektion3 haben の特徴とその人称変化(1)		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.9,11)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	haben の変化を確認、練習しておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	Lektion3 haben の特徴とその人称変化(2)		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.9,13)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	haben の使い方をテキストの語句を用いて練習しておくこと。	1.5 時間
14	講義内容	Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある(1)		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.15-16)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	ドイツ語の名詞には男性、女性、中性名詞の区別があることを理解すること。	1.5 時間
15	講義内容	Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある(2)		
	該当する到達目標	予習	テキスト(p.16-17)を読み、付属の CD を聞いておくこと。	1 時間
	1,2	復習	それぞれの名詞の性別について確認しておく。	1.5 時間
備考	ドイツ語でのコミュニケーションに最低限必要な文法や挨拶などの定型表現と一緒に練習していく。記述よりも実際に口に出して発音することを重視する。予習としてはシラバスを参考にテキストの該当部分に目を通しておくこと。余裕があれば単語の意味を調べておくことよい。語学は積み重ねが大切なので一つ一つの事項をきちんと復習しておくこと。特に、発音に関してはテキスト付属の CD を用いて確認し、おろそかにしないこと。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 オフィスアワー: 質問などがある者は、授業の前後、非常勤講師控え室で対応する。			

科目名		フランス語(リテラシー)			LAL008	講義
英文名		French				
担当教員		ロワイエ・アンヌ＝ソフィー				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		フランス語に興味を持ってもらう				
到達目標		1.基本の読み書きができる 2.級文法を用いて基本的な会話を行い、フランス語検定 5 級合格レベルに到達する				
学位 授与 方針との対応		✓	豊かな人間性と幅広い教養			
			専門的知識			
			問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		筆記試験 80%、宿題 20%				
課題に対するフィードバック		宿題を返却する。				
使用教材		「ゼロからは始める書き込み式フランス語 BOOK」成美堂出版				
1	講義内容	アルファベットとつづり字記号、発音				
	該当する到達目標	予習	テキストやシラバスを読んでおく			1.5 時間
	1	復習	テキストを読んてくる			1.5 時間
2	講義内容	リエゾンとアンシュヌマン				
	該当する到達目標	予習	テキストの単語を辞書で女性名詞か男性名詞か調べてくる			1.5 時間
	1	復習	テキストを読んてくる、宿題を出すのでやってくる			1.5 時間
3	講義内容	名詞(性)と冠詞、数字				
	該当する到達目標	予習	テキスト上のそれぞれの名詞に対して、冠詞を書いてくる			1.5 時間
	1	復習	宿題を出すのでやってくる			1.5 時間
4	講義内容	母音の発音				
	該当する到達目標	予習	テキストを読んてくる、テキスト付属の CD を聴いてくる			1.5 時間
	1	復習	発音練習をしてくる			1.5 時間
5	講義内容	子音の発音				
	該当する到達目標	予習	テキストを読んてくる、テキスト付属の CD を聴いてくる			1.5 時間
	1	復習	発音練習をしてくる			1.5 時間
6	講義内容	あいさつ表現				
	該当する到達目標	予習	テキストを読んてくる、テキスト付属の CD を聴いてくる			1.5 時間
	2	復習	発音練習をしてくる			1.5 時間
7	講義内容	依頼の表現				
	該当する到達目標	予習	自分の依頼表現を使う場面を考えてくる			1.5 時間
	2	復習	発音練習をしてくる			1.5 時間
8	講義内容	Be 動詞(être)				

	該当する到達目標	予習	テキストを読んでもくる	1.5 時間
	2	復習	宿題を出すのでやってくる	1.5 時間
9	講義内容	Have(avoir)動詞		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでもくる	1.5 時間
	2	復習	全員の自己紹介文を覚えてくる。練習をしてくる	1.5 時間
10	講義内容	第 1 群規則動詞(-er 動詞)		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでもくる	1.5 時間
	2	復習	自分の好きなものと嫌いなものをフランス語で書いてくる	1.5 時間
11	講義内容	否定文		
	該当する到達目標	予習	第 8～10 回授業の復習をしてくる	1.5 時間
	2	復習	自分で否定文を作成し、書いてくる。発音練習をする	1.5 時間
12	講義内容	時刻・年齢の表現		
	該当する到達目標	予習	第 3 回授業の復習をしてくる	1.5 時間
	2	復習	時刻をフランス語で書いてくる	1.5 時間
13	講義内容	第 2 群規則動詞(-ir 動詞)		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでもくる	1.5 時間
	2	復習	自分のスケジュールをフランス語でかいてくる	1.5 時間
14	講義内容	形容詞①		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでもくる	1.5 時間
	2	復習	宿題を出すのでやってくる	1.5 時間
15	講義内容	形容詞②		
	該当する到達目標	予習	テキストを読んでもくる	1.5 時間
	2	復習	第 1～15 回授業の復習をする	1.5 時間
備考	教科書の内容を中心に進める。コミュニケーションを目的にした授業のため、フランス語を用いた会話を随時取り入れる。必ず復習すること。質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。			

科目名	ポルトガル語(リテラシー)			LAL009	講義
英文名	Portuguese				
担当教員	伊勢島 セリア明美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。 又、ポルトガル語圏文化を紹介したいと思います。				
到達目標	1.初歩レベルの日常会話 2.多文化に触れる				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	小テスト(50%)及びミニ会話の発表(50%)で 100%評価。 総合評価 60%以上を合格とします。				
課題に対するフィードバック	会話の発表前に内容を確認し、必要に応じて補足の説明を行います。				
使用教材	Boa sorte! - Português para conversação -				
1	講義内容	ガイダンス、アルファベット、発音、挨拶の表現			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する。		1 時間
	1	復習	文字と発音を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	自己紹介ができる			
	該当する到達目標	予習	動詞 ser の活用形を覚える。		1 時間
	1	復習	挨拶と自己紹介ができるようにする。		1.5 時間
3	講義内容	好きなものを伝える			
	該当する到達目標	予習	動詞 gostar の活用形を覚える。色の名前を覚える。		1.5 時間
	1,2	復習	自分の好みを表現できるようにする。		1 時間
4	講義内容	家族の紹介			
	該当する到達目標	予習	規則動詞の活用形を覚える。		1.5 時間
	1	復習	家族の紹介とそれぞれの職業が言えるようにする。		1 時間
5	講義内容	予定を伝える			
	該当する到達目標	予習	動詞 ir の活用形を覚える。		1 時間
	1,2	復習	週末などの予定を言えるようにする。		1.5 時間
6	講義内容	今おこなっていることを伝える			
	該当する到達目標	予習	天気の状態を確認する。		1 時間
	1,2	復習	動詞 estar の活用形を覚える。現在進行形を確認する。		1.5 時間
7	講義内容	過去の行動を伝える			
	該当する到達目標	予習	規則動詞の完了過去の活用形を覚える。		1.5 時間
	1,2	復習	過去の行動や出来事を言えるようにする。		1 時間

8	講義内容	過去の習慣の表現		
	該当する到達目標	予習	規則動詞の未完了過去の活用形を覚える。	1.5 時間
	1	復習	「どこ」、「誰と」などの疑問詞が使えるようにする。	1 時間
9	講義内容	条件や婉曲の表現		
	該当する到達目標	予習	接続法未来の活用形を覚える。	1.5 時間
	1,2	復習	「もし～」、「～時」などを用いた表現ができるようにする。	1 時間
10	講義内容	「～してください」など、指示の丁寧な表現		
	該当する到達目標	予習	接続法現在の活用形を覚える。	1.5 時間
	1,2	復習	接続法現在の不規則動詞の活用形を確認する。	1 時間
11	講義内容	願望や要求の表現		
	該当する到達目標	予習	動詞 <i>querer</i> の活用形、及び目的代名詞を覚える。	1.5 時間
	1	復習	願望を表現できるようにする。	1 時間
12	講義内容	許可を得るの表現		
	該当する到達目標	予習	動詞 <i>poder</i> 活用形、及び数字を覚える。	1.5 時間
	1	復習	「～できます」、「～してもいいですか？」などの表現ができるようにする。	1 時間
13	講義内容	依頼の表現		
	該当する到達目標	予習	過去未来の活用形を覚える。	1.5 時間
	1,2	復習	敬称、丁寧な表現を確認する。	1 時間
14	講義内容	比較の表現		
	該当する到達目標	予習	＜形容詞＞、＜動詞＞、＜名詞＞を使用した比較表現の語順を確認する。	1.5 時間
	1,2	復習	比較表現を通して、相手の好みを確認できるようにする。	1 時間
15	講義内容	別れの挨拶や感謝の表現、小テスト		
	該当する到達目標	予習	感謝の表現、及びお別れの挨拶を覚える。	1.5 時間
	1	復習	小テストの解答例を確認する。	1 時間
備考	【授業の進め方】 テキストに沿って、文法事項を確認しながら、練習問題に答えて頂きます。 授業の後半は口頭練習を行い、最後にモデル会話を発表して頂きます。 【オフィスアワー】 授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。 【参考文献】 初級 ブラジル ポルトガル語 深沢暁著 東洋書店 【メッセージ】 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 第2又は第3外国語を話す楽しさを味わえて頂ければ嬉しく思います。			

科目名	中国語(リテラシー)			LAL010	講義
英文名	Chinese				
担当教員	渡邊 賢				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な語彙と構文とを身に付け、簡単なコミュニケーションができる語学力の養成を目指す。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。				
到達目標	1.中国の地理、風俗および言語とその多様性を理解する。 2.中国語音を表記する音声記号を習得する。 3.中国語音を表記する音声記号を正確に発音する能力を育成する。 4.中国語音を聞いて、弁別する聴力を育成する。 5.日常会話に不自由しない程度の語彙と語法とを習得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と幅広い教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回の小試験 20%、発音中間試験 30%、学期末筆記試験 50%により評価する。 総合評価 60%以上を合格とみなす。				
課題に対するフィードバック	毎回の小試験は採点の上、返却する。各自、未熟な点をよく自覚し克服されたい。				
使用教材	教科書『大学一年生のための合格中国語』小幡敏行著(朝日出版社) ISBN97-4-255-45224-1C1087				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 1	予習	シラバス内容、教科書第 8 頁「中国語について」を読み、講義目標や中国語の特性などについて理解する。		1 時間
		復習	不要		0 時間
2	講義内容	発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。			
	該当する到達目標 2,3,4	予習	不要		0 時間
		復習	業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。		1 時間
3	講義内容	発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声(子音)」の唇音・舌先音・舌根音などを学習する。			
	該当する到達目標 2,3,4	予習	不要		0 時間
		復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。		1 時間
4	講義内容	発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声(子音)」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。			
	該当する到達目標 2,3,4	予習	不要		0 時間
		復習	授業で学習したことを、毎日、一日 10 分程度、発音する。		1 時間
5	講義内容	教科書第1課、名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習。			
	該当する到達目標 2,3,4,5	予習	教科書第 1 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。		0.5 時間
		復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。		1.5 時間
6	講義内容	教科書第 2 課、指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習。			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。		0.5 時間

	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
7	講義内容	教科書第 3 課、形容詞述語文や数量表現などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
8	講義内容	教科書第 4 課、存在文や構造助詞「的」などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
9	講義内容	教科書第 5 課、介詞構造や方位詞などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
10	講義内容	教科書第 6 課、連動文や能願動詞などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
11	講義内容	教科書第 7 課、数量補語や動態助詞の「了」と語気詞の「了」などの学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 7 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
12	講義内容	教科書第 8 課、動態助詞「過」や程度補語などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 8 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
13	講義内容	教科書第 9 課、能願動詞「会」「能」「可以」などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 9 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
14	講義内容	教科書第 10 課、方向補語や結果補語などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 10 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
15	講義内容	教科書第 11 課、主述述語文や比較表現などについての学習。		
	該当する到達目標	予習	教科書第 11 課の本文および新出語句の発音を練習しておく。	0.5 時間
	2,3,4,5	復習	当該課の語彙、語法を理解する。また会話文や例文は毎日繰り返し練習する。	1.5 時間
備考	授業は全 15 回を通じて、音声および表記の反復学習を徹底する形で展開し、中国語基礎学力の定着を目指す。失敗を恐れず、積極的に楽しく学んでほしい。外国語学習には習慣性のある程度の忍耐が必要である。学生諸君には外国語の学習を通じて、習慣的学習や知的忍耐力を身に付けられたい。復習は机に向かうには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。毎回の積み重ねが肝要。後刻、自力でマスターしようとしてもほとんど不可能と心得よ。最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 質問等は、授業開始前もしくは授業終了後に応じる。			

科目名		ハングル語(リテラシー)			LAL011	講義
英文名		Korean				
担当教員		徐 明煥				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		はじめて韓国語をまなぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。				
到達目標		1.韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができる。 2.基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができる。 3.基本的な韓国語の 4 技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。 4.初級レベルの韓国語運用能力を身につける。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
			専門的知識			
			問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		宿題 30%、小テスト 20%、中間・期末試験 50%				
課題に対するフィードバック		宿題にはコメントを付けて返却する。 小テストを毎回返却し解説する。				
使用教材		李淑炫(2011)『チェミナ韓国語―自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社 ISBN-13:978-4891748593				
1	講義内容	授業概要、ハングルについて、第 1 課:母音				
	該当する到達目標	1	予習	テキストを用意し、12 頁～14 頁を読んでくる。韓国語のノートを用意する。		1.5 時間
			復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。		1.5 時間
2	講義内容	第 2 課:子音(平音と有声音)				
	該当する到達目標	1	予習	22 頁～25 頁を読んでくる。		1.5 時間
			復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	第 2 課:子音(激音と濃音)				
	該当する到達目標	1	予習	26 頁～31 頁を読んでくる。		1.5 時間
			復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	第 3 課:パッチム、パッチム 7 つの代表音				
	該当する到達目標	1	予習	32 頁～37 頁を読んでくる。		1.5 時間
			復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	第 4 課:二重母音、名前を書く、まとめ				
	該当する到達目標	1	予習	38 頁～43 頁を読んでくる。		1.5 時間
			復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。		1.5 時間
6	講義内容	第 5 課:発音の変化、発音の基本、パッチム音の変化				
	該当する到達目標	1	予習	46 頁～54 頁を読んでくる。		1.5 時間
			復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。		1.5 時間
7	講義内容	第 6 課:主題を表す助詞「～は」、体言について、指定詞の丁寧な表現 I				

	該当する到達目標	予習	56 頁～63 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	第 7 課: 指示代名詞(これ・それ・あれ)、「～ではありません」		
	該当する到達目標	予習	64 頁～71 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
9	講義内容	第 8 課: 主語を表す助詞「～が」、「～と」、「いる/ある、ない/いない」について、まとめ		
	該当する到達目標	予習	72 頁～81 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
10	講義内容	第 9 課: 場所や位置を表す表現、数詞 I		
	該当する到達目標	予習	82 頁～91 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
11	講義内容	第 10 課: 用言の丁寧形 I (改まった表現)、用言の否定形		
	該当する到達目標	予習	92 頁～97 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
12	講義内容	第 10 課: 羅列の表現、場所を表す助詞、目的格を表す助詞、まとめ		
	該当する到達目標	予習	97 頁～101 頁を読んでくる。まとめ	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
13	講義内容	第 6 課～10 課、総合まとめ		
	該当する到達目標	予習	第 6 課から第 10 課まで読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	今まで勉強した内容をもう一度、確認して理解しておく。	1.5 時間
14	講義内容	第 11 課: 指定詞(丁寧な表現Ⅱ)逆接を表す表現数詞Ⅱや時間の言い方		
	該当する到達目標	予習	102 頁～105 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	次回、授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。	1.5 時間
15	講義内容	第 11 課: 数詞Ⅱや時間の言い方		
	該当する到達目標	予習	106 頁～111 頁を読んでくる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	数詞Ⅰと数詞Ⅱの使い分けや読み方を理解する。	1.5 時間
備考	授業については、ハングルの文字及び単語、文章の発音練習、会話表現の練習を行う。 また、毎回小テストを行うため、必ず予習・復習を行うこと。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 質問等がある場合は授業の前後に応じる。もしくは intgvseo21jp@gmail.com までに連絡すること。 メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語: 名前」を必ず記入すること。			

科目名	コンピュータ入門Ⅰ(リテラシー)			LAL012	講義
英文名	Introduction to ComputerⅠ				
担当教員	片山 豪 木幡 直樹				
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	保育所, 幼稚園, 小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得する。そのために, インターネット, 電子メール, ワープロ, 表計算, プレゼンテーション等各種ソフトウェアの基本的な操作方法を身につける。				
到達目標	1.インターネットを用いて情報を検索することができる。 2.電子メールを用いて, 情報のやり取りをすることができる。 3.Word の基本的な操作をすることができる。 4.Picture Manager の基本的な操作をすることができる。 5.Excel の基本的な操作をすることができる。 6.Power Point の基本的な操作をすることができる。 7.保育・教育の現場でコンピュータを活用して職務を円滑に遂行する能力を身につけることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題に対する提出物(ファイル)の内容 90%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。				
課題に対するフィードバック	提出物(ファイル)の内容が, 求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し, その結果を学生に伝え, 必要に応じ, 再提出を求める。				
使用教材	30 時間でマスターoffice 2016(実教出版)。自作資料。授業において紹介。				
1	講義内容	学内コンピュータの利用法, 電子メールの基本操作			
	該当する到達目標 1,2,7	予習	シラバスを確認しておく。今までのコンピュータの知識をまとめておく。		1.5 時間
		復習	学内コンピュータの利用法, 電子メールの基本操作の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
2	講義内容	Windows の基本操作, インターネットの情報検索, 情報セキュリティ■			
	該当する到達目標 1,7	予習	教科書を読んでおく。		1.5 時間
		復習	Windows の基本操作, インターネットの情報検索の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
3	講義内容	Word 文書作成の基本操作・文字列の入力■			
	該当する到達目標 3,7	予習	文字列の入力に関する教科書の該当箇所を読んでおく。		1.5 時間
		復習	文字列の入力に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
4	講義内容	Word 文書の作成(1) 基本的な文書の作成, 書式の設定			
	該当する到達目標 3,7	予習	書式の設定に関する教科書の該当箇所を読んでおく。		1.5 時間
		復習	書式の設定に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
5	講義内容	Word 文書の作成(2) 文書の編集, 文書の印刷			
	該当する到達目標	予習	文書の編集, 印刷に関する教科書の該当箇所を読んでおく。		1.5 時間

	3,7	復習	文書の編集, 印刷に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
6	講義内容	Office のフォトレタッチ機能■		
	該当する到達目標	予習	Office のフォトレタッチ機能に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	3,4,7	復習	Office のフォトレタッチ機能に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	Word 文書の作成(3) 表と図表の作成		
	該当する到達目標	予習	表と図表の作成に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	3,7	復習	表と図表の作成に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	Word 課題, レポート作成■		
	該当する到達目標	予習	今まで勉強した Word 文書の作成方法を復習しておく。指示された写真を用意しておく。	1.5 時間
	1,2,3,7	復習	授業で指示したレポート課題を完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	Excel 基本操作(1) セルとワークシート■		
	該当する到達目標	予習	セルとワークシートに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	セルとワークシートに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	Excel 基本操作(2) 集計表の作成		
	該当する到達目標	予習	集計表の作成に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	集計表の作成に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	Excel の関数		
	該当する到達目標	予習	Excel の関数に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	Excel の関数に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	Excel の便利な機能(条件付き書式, 並び替え, フィルター)		
	該当する到達目標	予習	条件付き書式, 並び替え, フィルターに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	5,7	復習	条件付き書式, 並び替え, フィルターに関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	PowerPoint プレゼンテーション作成の基本操作■		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーション作成の基本操作に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	6,7	復習	プレゼンテーション作成の基本操作に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	PowerPoint 図形の描画		
	該当する到達目標	予習	図形の描画に関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	6,7	復習	図形の描画に関する課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	PowerPoint プレゼンテーション効果の活用, アニメーション		
	該当する到達目標	予習	プレゼンテーション効果の活用, アニメーションに関する教科書の該当箇所を読んでおく。	1.5 時間
	6	復習	プレゼンテーション効果の活用, アニメーションに関する課題の再確認を行う。	1.5 時間

		不完全だったところを完成させる。	
備考	各講義では、教科書にそって教員が各回の内容を説明し、(中間モニター利用)。学生は指示された課題をファイルにまとめて提出する方法で授業を進める。 オフィスアワー:水曜 3 限、金曜 2 限(片山), 水曜日 4 限, 金曜日 2 限(木幡) メールアドレス:katayama@takasaki-u.ac.jp(片山), kohata@takasaki-u.ac.jp(木幡) 研究室:9 号館 4 階 411 研究室(片山), 1 号館 6 階 602 研究室(木幡) ■:実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	コンピュータ入門Ⅱ			LAL013	講義
英文名	Introduction to Computer II				
担当教員	片山 豪 木幡 直樹				
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	保育所, 幼稚園, 小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの実践的な技術を習得する。そのために, コンピュータ入門Ⅰで学んだインターネット, ワープロ, 表計算ソフトの実践的な操作方法を身につける。また, データベースソフトや教育論文作成に便利なソフト及び統計の基本的な操作方法を身につけさせる。				
到達目標	1.インターネットを用いて実践的な検索をすることができる。 2.Excel の実践的な利用をすることができる。 3.Word の実践的な利用をすることができる。 4.文献管理ソフト(Mendeley)の基本的な操作をすることができる。 5.インターネットを活用してアンケートのフォーム(Google Form)を作成することができる。 6.Access の基本的な操作をすることができる。 7. 保育・教育の現場でコンピュータを活用して職務を円滑に遂行する能力を身につけることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題に対する提出物(ファイル)の内容 90%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。				
課題に対するフィードバック	提出物(ファイル)の内容が, 求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し, その結果を学生に伝え, 必要に応じ, 再提出を求める。				
使用教材	自作資料。授業において紹介。				
1	講義内容	HP の表の Excel での利用, 小学校の時間割の作成(Internet Explorer, Excel)■			
	該当する到達目標 1,2,7	予習	コンピュータ入門Ⅰで学んだ Internet Explorer,と Excel の使い方を確認しておく。		1.5 時間
		復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
2	講義内容	中学校の時間割の作成(Internet Explorer, Excel)			
	該当する到達目標 1,2,7	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。		1.5 時間
		復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
3	講義内容	学級通信の作成(Word, Excel)			
	該当する到達目標 2,3,7	予習	コンピュータ入門Ⅰで学んだ Word と Excel の使い方を確認しておく。		1.5 時間
		復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
4	講義内容	座席表の作成(Excel)			
	該当する到達目標 2,7	予習	コンピュータ入門Ⅰで学んだ Excel の使い方を確認しておく。		1.5 時間
		復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。		1.5 時間
5	講義内容	保護者あて文書の作成(Word, Excel)			
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門Ⅰで学んだ Word と Excel の使い方を確認しておく。		1.5 時間

	2,3,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
6	講義内容	タックシール印刷 (Word, Excel)		
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門 I で学んだ Word と Excel の使い方を確認しておく。	1.5 時間
	2,3,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
7	講義内容	差し込み印刷 (Word, Excel)		
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門 I で学んだ Word と Excel の使い方を確認しておく。	1.5 時間
	2,3,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
8	講義内容	教育論文の作成と文書校正 (Word), 文献管理ソフトの基本操作 (Mendeley)		
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門 I で学んだ Word の使い方を確認しておく。	1.5 時間
	3,4,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
9	講義内容	統計処理・基礎統計量 (Excel) ■		
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門 I で学んだ Excel の使い方を確認しておく。	1.5 時間
	2,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
10	講義内容	統計処理・ヒストグラム・回帰 (Excel)		
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門 I で学んだ Excel の使い方を確認しておく。	1.5 時間
	2,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
11	講義内容	統計処理・検定 (Excel)		
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門 I で学んだ Excel の使い方を確認しておく。	1.5 時間
	2,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
12	講義内容	アンケート作成ソフトの基本操作 (Form) ■		
	該当する到達目標	予習	Gmail を取得しておく。どのようなアンケートをしたいか考えておく。	1.5 時間
	5,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	データベースソフトの利用 1: テーブルとクエリの作成 (Access) ■		
	該当する到達目標	予習	データベースソフトの機能について調べておく。	1.5 時間
	6,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる	1.5 時間
14	講義内容	データベースソフトの利用 2: フォームの作成 (Access)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	1.5 時間
	6,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	データベースソフトの利用 3: レポートの作成 (Access)		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ操作を再確認しておく。	1.5 時間
	6,7	復習	授業の課題の再確認を行う。不完全だったところを完成させる。	1.5 時間
備考	各回で学んだことが保育・教育現場でどのように活用できるか説明しながら進める。 オフィスアワー: 火曜日 3 限, 金曜日 1 限 (片山), 水曜日 3 限, 金曜日 3 限 (木幡) メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp (片山), kohata@takasaki-u.ac.jp (木幡) 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室 (片山), 1 号館 6 階 602 研究室 (木幡) ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	コンピュータ実習 I (リテラシー)			LAL014	演習
英文名	Computer Practice I				
担当教員	片山 豪 木幡 直樹				
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	保育所, 幼稚園, 小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得することが目標である。本科目では, 特に教材作り等の能力の育成を念頭に, アニメーション, 画像, 動画等の各種ソフトウェアの基本的な操作方法を習得する。				
到達目標	1. Adobe Photoshop Elements を用いて初歩的な画像の処理をすることができる。 2. Adobe Premiere Elements を用いて初歩的な動画の編集をすることができる。 3. Adobe Animate CC を用いて簡単なアニメーションを作成することができる。 4. 保育・教育の現場でコンピュータを活用して職務を円滑に遂行する能力を身につけることができる。 ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題に対する提出物(ファイル)の内容 90%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。				
課題に対するフィードバック	提出物(ファイル)の内容が, 求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し, その結果を学生に伝え, 必要に応じ, 再提出を求める。				
使用教材	できる Photoshop Elements 2018 (インプレス社), 今すぐ使えるかんたん Premiere Elements 2018 (技術評論社), 自作資料。授業において紹介。				
1	講義内容	Adobe Photoshop Elements① 基本操作■			
	該当する到達目標 1,4	予習	シラバスを確認しておく。画像処理ソフトの機能について調べておく。		0.5 時間
		復習	画像処理ソフトの機能を再確認しておく。		0.5 時間
2	講義内容	Adobe Photoshop Elements② Elements Organizer による画像の管理			
	該当する到達目標 1,4	予習	前回学んだ基本操作を再確認しておく。		0.5 時間
		復習	画像管理の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。		0.5 時間
3	講義内容	Adobe Photoshop Elements③ クイックモードによる画像の補正			
	該当する到達目標 1,4	予習	Elements Organizer の操作を再確認しておく。		0.5 時間
		復習	クイックモードによる画像補正の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。		0.5 時間
4	講義内容	Adobe Photoshop Elements④ エキスパートモードによる画像の補正			
	該当する到達目標 1,4	予習	クイックモードの操作を再確認しておく。		0.5 時間
		復習	エキスパートモードによる画像補正の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。		0.5 時間
5	講義内容	Adobe Photoshop Elements⑤ 画像のレタッチ・合成・レイヤーの活用			
	該当する到達目標 1,4	予習	エキスパートモードの操作を再確認しておく。		0.5 時間
		復習	画像のレタッチ・合成・レイヤーの活用の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。		0.5 時間

6	講義内容	Adobe Premiere① 基本操作■		
	該当する到達目標	予習	動画編集ソフトの機能について調べておく。	0.5 時間
	2,4	復習	動画編集ソフトの機能を再確認しておく。	0.5 時間
7	講義内容	Adobe Premiere② クリップの基本操作		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ基本操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2,4	復習	クリップの基本操作の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
8	講義内容	Adobe Premiere③ エフェクトの基本操作		
	該当する到達目標	予習	クリップの基本操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2,4	復習	エフェクトの基本操作の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
9	講義内容	Adobe Premiere④ タイトル, 効果音, BGM の追加		
	該当する到達目標	予習	エフェクトの基本操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2,4	復習	タイトル, 効果音, BGM の追加の課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
10	講義内容	Adobe Premiere⑤ 編集したムービーの書き出し		
	該当する到達目標	予習	タイトル, 効果音, BGM の追加操作を再確認しておく。	0.5 時間
	2,4	復習	編集したムービーの書き出し課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
11	講義内容	Adobe Animate CC① 基本操作■		
	該当する到達目標	予習	アニメーションソフトの機能について調べておく。	0.5 時間
	3,4	復習	アニメーションソフトの機能を再確認しておく。	0.5 時間
12	講義内容	Adobe Animate CC② キーフレームアニメーション		
	該当する到達目標	予習	前回学んだ基本操作を再確認しておく。	0.5 時間
	3,4	復習	キーフレームアニメーションの課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
13	講義内容	Adobe Animate CC③ クラシックトウイーンアニメーション		
	該当する到達目標	予習	キーフレームアニメーションの操作を再確認しておく。	0.5 時間
	3,4	復習	クラシックトウイーンアニメーションの課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
14	講義内容	Adobe Animate CC④ モーショントウイーンアニメーション		
	該当する到達目標	予習	クラシックトウイーンアニメーションの操作を再確認しておく。	0.5 時間
	3,4	復習	モーショントウイーンアニメーションの課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
15	講義内容	Adobe Animate CC⑤ オリジナル作品の作成		
	該当する到達目標	予習	オリジナル作品の作成に向け, 理科の教科書等を調べる。 これまで学んだ操作を再確認しておく。	0.5 時間
	3,4	復習	オリジナル作品の出来具合を確認し, 授業外の時間も活用して完成させる。	1 時間
備考	各講義では, 教科書や自作資料にそって教員が各回の内容を説明し(中間モニター利用), 学生は指示された課題をファイルにまとめて提出する方法で授業を進める。 オフィスアワー: 水曜 3 限、金曜 2 限(片山), 水曜日 4 限, 金曜日 2 限(木幡) メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp (片山), kohata@takasaki-u.ac.jp (木幡) 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室(片山), 1 号館 6 階 602 研究室(木幡) ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	コンピュータ実習Ⅱ(リテラシー)			LAL015	演習
英文名	Computer Practice Ⅱ				
担当教員	片山 豪 木幡 直樹				
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	保育所, 幼稚園, 小学校等の教育現場で効果的に校務を遂行するためのコンピュータの基本的な技術を習得することが目標である。本科目では, 特に成績処理等の能力の育成を念頭に, 表計算ソフトの関数の実践的な使い方及びマクロ(VBA)の設定方法を習得する。				
到達目標	1.表計算ソフト Excel を用いて基本的な成績処理を行うことができる。 2.Excel マクロや VBA プログラミングの初歩を理解し, 簡単なマクロを作成することができる。 3.保育・教育の現場でコンピュータを活用して職務を円滑に遂行する能力を身につけることができる。 ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
		専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題に対する提出物(ファイル)の内容 90%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。				
課題に対するフィードバック	提出物(ファイル)の内容が, 求める課題の条件を満たしているかどうかを確認し, その結果を学生に伝え, 必要に応じ, 再提出を求める。				
使用教材	自作資料。授業において紹介。				
1	講義内容	考查(得点)の集計表(1) 表の概形の作成■			
	該当する到達目標 1,3	予習	シラバスを確認しておく。		0.5 時間
		復習	表の概形を完成させる。		0.5 時間
2	講義内容	考查(得点)の集計表(2) 男女別平均点(SumIF・CountIF・AverageIF 関数)			
	該当する到達目標 1,3	予習	SumIF・CountIF・AverageIF 関数を調べておく。		0.5 時間
		復習	男女別平均点が記載された表を完成させる。		0.5 時間
3	講義内容	考查(正解率)の集計表 得点別人数分布(CountIFs 関数)・セル(シート)の保護			
	該当する到達目標 1,3	予習	CountIFs 関数・セル(シート)の保護について調べておく。		0.5 時間
		復習	正解率・得点別人数分布を含んだ表を完成させる。		0.5 時間
4	講義内容	中間考查・学力テスト・期末考查を含む集計表への拡張(各種関数の再確認)			
	該当する到達目標 1,3	予習	これまで学んだ各種関数の操作を再確認しておく。		0.5 時間
		復習	集計表の拡張版を完成させる。		0.5 時間
5	講義内容	評定値を含む表への拡張とテスト別に重み付けのある場合の合計点の出し方			
	該当する到達目標 1,3	予習	重みの付け方にどんな方法があるか調べておく。		0.5 時間
		復習	評定値と重み付けされた合計点を含んだ表を完成させる。		0.5 時間
6	講義内容	順位付けと評定基準に基づく評定値の決定(Rank・IF 関数)			
	該当する到達目標 1,3	予習	Rank・IF 関数について確認しておく。		0.5 時間
		復習	評定基準に基づいた評定値が表示される表を完成させる。		0.5 時間
7	講義内容	評定値の決定(Vlookup 関数による方法)と入力規則の利用			
	該当する到達目標	予習	Vlookup 関数について確認しておく。		0.5 時間

	1,3	復習	Vlookup 関数と入力規則を活用した表を完成させる。	0.5 時間
8	講義内容	通年集計表の作成		
	該当する到達目標	予習	これまで学んだ関数や操作を再確認しておく。	0.5 時間
	1,3	復習	通年集計表を完成させる。	0.5 時間
9	講義内容	評定数と評定平均を含む表の作成		
	該当する到達目標	予習	評定平均について、Excel ではどんな出し方が可能か考えておく。	0.5 時間
	1,3	復習	評定平均を表示する表を完成させる。	0.5 時間
10	講義内容	条件に該当する者を見つけるためのチェック欄の作成と条件付き書式		
	該当する到達目標	予習	条件付き書式について調べておく。	0.5 時間
	1,3	復習	チェック欄と条件付き書式が正常に機能する表を完成させる。	0.5 時間
11	講義内容	該当者一覧用シートの作成 (Vlookup・Match・Index 関数)		
	該当する到達目標	予習	Vlookup 関数を再確認し、Match・Index 関数を調べておく。	0.5 時間
	1,3	復習	該当者が正常に一覧化されるシートを完成させる。	0.5 時間
12	講義内容	内申点・標準偏差を含む表の作成		
	該当する到達目標	予習	内申点・標準偏差とは何か、標準偏差を求める関数について調べておく。	0.5 時間
	1,3	復習	内申点及び標準偏差を正しく求められる表を完成させる。	0.5 時間
13	講義内容	マクロ(1) マクロ記録による操作の自動化■		
	該当する到達目標	予習	マクロ記録に関する Excel のサンプルファイルに目を通して内容の理解に努める。	0.5 時間
	2,3	復習	マクロ記録に関する課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
14	講義内容	マクロ(2) VBA(Visual Basic for Applications)プログラミングの基礎		
	該当する到達目標	予習	VBA に関する Excel のサンプルファイルに目を通して内容の理解に努める。	0.5 時間
	2,3	復習	VBA に関する課題を再確認する。不完全だったところを完成させる。	0.5 時間
15	講義内容	マクロ(3) VBA を用いた実用的マクロの作成		
	該当する到達目標	予習	実用的なマクロが組み込まれたサンプルファイルを事前に確認し、その動作やプログラムの理解に努める。	1 時間
	2,3	復習	授業外の時間も使って、実用的なマクロを完成させる。	2 時間
備考	各回で学んだことが保育・教育現場でどのように活用できるか説明しながら進める。 オフィスアワー: 水曜 3 限、金曜 2 限(片山), 水曜日 3 限, 金曜日 3 限(木幡) メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp (片山), kohata@takasaki-u.ac.jp (木幡) 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室(片山), 1 号館 6 階 602 研究室(木幡) ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	レクリエーション論(専門教養)			LSE001	講義
英文名	Recreation Theory				
担当教員	大家 千枝子				
科目に関連した実務経験	レクリエーション・インストラクター養成講習会講師として、公認指導者養成に従事(現在)。 (公益財団法人日本レクリエーション協会公認・群馬県レクリエーション協会主催、2015 年度～)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	人びとの「心を元気にする」ための手助けができるレクリエーション支援の強み(専門性)を理解する。支援の目的とそれを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。				
到達目標	1.レクリエーション支援の目的と手段を理解している。■ 2.レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることを理解している。■ 3.コミュニケーションの促進がレクリエーション支援の基盤であると理解している。■ 4.授業の性質やグループ内での個人の役割を理解し、行動することができる。 5.必要な資料や情報を収集して意見をまとめ、期日を守って提出できる(C-learning での回答を含む)。				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	グループ・ワークでの活発な議論・活動への貢献度 30%、授業での課題 35%、レポート 35% (※ 履修期間中、学内外のレク支援に自ら関わった場合は所定用紙提出で「課題」点に加点。)				
課題に対するフィードバック	自分以外の履修者による課題や感想、評価を知ることが学生相互の刺激になるため、C-learning を使ってフィードバックする。また授業期間中における紙媒体の提出課題は、適宜返却を予定している。ただし最終課題は返却する予定はないので、開示を希望するものは本人が直接申し出ること。				
使用教材	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」、公益財団法人日本レクリエーション協会、1,800 円+税 ISBN978-4-931180-95-6				
1	講義内容	ガイダンス、さまざまな現場でのレク支援について理解を深める(視聴覚教材使用)■			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	レクリエーション概論(レクリエーションの主旨と手段を理解する)■			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	テキスト第1章に目をとosす。		1.5 時間
		復習	レクリエーション支援の目的と方法について授業を振り返って、理解を深める。		1.5 時間
3	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論(楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	テキスト第2章に目をとosす。		1.5 時間
		復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。		1.5 時間
4	講義内容	楽しさと心の元気づくりの理論 (楽しさをとおした心の元気づくりを理解する)			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	テキスト第2章に目をとosす。		1.5 時間
		復習	楽しさをとおした心の元気づくりについて授業を振り返って、イメージをもつ。		1.5 時間
5	講義内容	レクリエーション支援の理論 (コミュニケーションと信頼関係づくりの理論)			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	テキスト第3章に目をとosす。		1.5 時間
		復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。		1.5 時間
6	講義内容	レクリエーション支援の理論 (良好な集団づくりの理論)			
	該当する到達目標	予習	テキスト第3章に目をとosす。		1.5 時間

	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
7	講義内容	レクリエーション支援の理論（自主的、主体的に楽しむ力を高める理論）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第3章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
8	講義内容	レクリエーション支援の方法（ホスピタリティの体験的理解 その1）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
9	講義内容	レクリエーション支援の方法（ホスピタリティの体験的理解 その2）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
10	講義内容	レクリエーション支援の方法（アイスブレーキング・モデルの体験）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
11	講義内容	レクリエーション支援の方法（アイスブレーキングのプログラムを体験する）■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
12	講義内容	レクリエーション支援の方法（ハードル設定の習得）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
13	講義内容	レクリエーション支援の方法（アレンジ方法の習得）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートに読み直し、復習する。	1.5 時間
14	講義内容	レクリエーション支援の方法（CSS プロセスの習得）		
	該当する到達目標	予習	テキスト第4章に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートを読み直し、復習する。	1.5 時間
15	講義内容	安全管理の方法■		
	該当する到達目標	予習	配布された資料に目をとおす。	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	授業でとったノートに読み直し、復習する。	1.5 時間
備考	【授業期間全体を通じた授業の進め方】 教員による講義がベースとなるが、グループワークによるテーマに沿った共同作業も予定している。「心を元気にする」ための理論をその実践へと結び付けるため、各グループによるレクリエーション活動を用いた短時間のレクリエーション支援を行い、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」という感覚を養う。授業ごとの意見や感想を C-learning で求めることがある。 【オフィスアワー】 火曜日 12:00～14:30、1 号館 3F302 研究室、3Fエレベータ前ポスト有。 【担当教員メールアドレス】 初回ガイダンスで「メールの書き方」とともに伝える。 【受講上の注意】 ①積極的に C-learning を活用する。スマホ所有やネット環境が整っていることが望ましい。（※整っていない場合は、大学 PC 室などを利用すること。） ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもと医療(専門教養)			LSE002	講義
英文名	Children and Health Care				
担当教員	丸山 健一				
科目に関連した実務経験	群馬大学医学部小児科及び群馬県立小児医療センターに小児科医として勤務(昭和54年～平成30年)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	子どもは、発熱やけいれん、けがなど突発的な症状を起こすことが多いので、子どもの特性を学ぶ。また、入院中の子どもやその家族への支援方法、疾病を持ちながら保育・教育生活を送っている子ども達が、より快適に過ごすことができるための方策を考えると共に、「命」について、「健康」について考える。				
到達目標	1.子どもに多い疾患とその対応について、基礎的な知識を得る。■ 2.医療を必要とする子どもやその家族の気持ちを理解し、支援方法を考えることができる。 3.「命」の大切さを考えることができる。 4.統計資料から現在の日本の子ども達の健康状態を読みとることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	子どもの病気や命についての書籍の抜粋を読み、自分の考えをまとめたレポート(6編程度)と、県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校見学後のレポート 80%、授業参加度・学習態度 20%で評価する。				
課題に対するフィードバック	レポートには、コメントをつけて返却する。医学用語が多いため、積極的に質問を促し、その都度回答するように努める。				
使用教材	その都度配布する。				
1	講義内容	ガイダンス及び健康診断で行った抗体価とワクチン接種について■			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標及び健康診断結果を確認する。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、成績評価方法等を確認すると共に、予防接種について確認する。		1.5 時間
2	講義内容	『今、伝えたい「いのちの言葉」』細谷亮太著から抜粋した資料を読み、感想をレポートにまとめる。			
	該当する到達目標	予習	「命」について考える。		1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み返し、療養中の子どもたちの気持ちを考える。		1.5 時間
3	講義内容	絵本「チャーリー：ブラウンなぜなんだい？」チャールズ・M・シュルツ作 細谷亮太訳 岩崎書店 「わすれられないおくりもの」スーザン・バーレイさく・え 小川仁央やく 評論社を読み、感想をレポートにまとめる。			
	該当する到達目標	予習	子どもの病気や入院についての書籍に目を通す。		1.5 時間
	1,2,3	復習	絵本について、どのように活用できるか考える。		1.5 時間
4	講義内容	健康について、病院の仕組み、用語の解説、病児・病後児保育について■			
	該当する到達目標	予習	健康について考えると共に、病気になった時の状況を考える。		1.5 時間
	1,2,4	復習	配布資料を読み直し、再度健康について、受診について理解を深める。		1.5 時間
5	講義内容	子どもに多い疾患について■			
	該当する到達目標	予習	自分自身が罹った病気について思い出す。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	配布資料を読み直し、理解を深める。		1.5 時間

6	講義内容	子どもに多い疾患への対応		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	前回の配布資料に目を通し、自分自身が罹った時の気持ちとその時の親の気持ちを考える。	1.5 時間
		復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	我が国における保健水準■		
	該当する到達目標 1,4	予習	我が国の保健水準についてのニュースに触れる。	1.5 時間
		復習	配布資料を読み直し、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校の見学について ■ 1. 事前学習		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	県立小児医療センター及び小児医療センター校についての情報に触れる。	1.5 時間
		復習	配布資料を読み直し、見学についての理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	県立小児医療センターの見学■		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	子どもを対象とした病院についての情報に触れる。	1.5 時間
		復習	担当者からの説明及び院内見学で得た知識をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	県立赤城特別支援学校小児医療センター校の見学■		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	病弱児を対象とした特別支援学校についての情報に触れる。	1.5 時間
		復習	担当者からの説明及び学校見学後に得た知識をまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	県立小児医療センター及び県立赤城特別支援学校小児医療センター校の見学について■ 2. 事後学習(レポート作成)		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	これまで持っていた病院や特別支援学校についてのイメージと、見学によるイメージについて考える。	1.5 時間
		復習	入院している子ども達や保護者の気持ちを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	県立小児医療センターに於ける病棟保育士の役割		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	県立小児医療センター見学について振り返る。	1.5 時間
		復習	講義内容と配布資料により、子どもに寄り添う保育者について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	チーム医療としての役割		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	これまでの配布資料や講義内容を読み直す。	1.5 時間
		復習	チーム医療における保育者の役割について理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	『「仲間と」がんと向きあう子どもたち 岩崎書店』『「種まく子どもたち 小児ガンを体験した 7 人の物語」佐藤律子編 ポプラ社』から抜粋した資料を読み、レポートを作成する。		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	子どもの闘病記に触れる	1.5 時間
		復習	配布資料を読み直し、子どもや保護者の気持ちを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	これまでの配布資料を読み直す。	1.5 時間
		復習	将来、保育者、教育者になった時、「命の大切さ」について理解を深めると共に、何らかの疾病を持ちながら保育や教育を受けている子ども達と保護者の気持ちとその対応について理解を深める。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:金曜日 14:30~16:30 8号館 4階 408 研究室 メールアドレス:k-maruyama@takasaki-u.ac.jp 配布資料に基づいて講義を進めるが、適宜スライドや DVD を使用し進めていく。また医学用語が多いため、積極的に質問を促し、その都度回答し、受講者の理解度を図りながら進めていく。 質問に対しては、次の講義の際に文書で回答。			

- ・県立小児医療センター等見学及び病棟保育士講義については、日程を変更することがある。また、インフルエンザ等感染症が流行した場合には、中止することがある。
- ・予防接種の必要な学生は、授業開始前までに必ず済ませておくこと。
- ・県立小児医療センター等の見学日程は、11 月下旬～12 月初旬を予定しているため、インフルエンザの予防接種を必ず受けておくこと。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	宗教と倫理(専門教養)				LSE003	講義
英文名	Religion and Ethics					
担当教員	出雲 春明					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。					
到達目標	1.講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。 2.そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。					
学位 授与 方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
		問題発見・解決力				
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業への参加と小レポート(30%)、期末レポート(70%)から評価する。					
課題に対するフィードバック	毎回、授業終了時に意見や質問などを提出してもらう(小レポート)。質問に関しては次回授業時に解説の時間を設ける。有意義な意見に関しても紹介の時間を設ける。					
使用教材	講義中に資料を配布する。					
1	講義内容	ガイダンス				
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標、到達目標、評価方法などについて確認しておく。			1 時間
	1	復習	これからの講義内容の大枠について確認しておく。			1.5 時間
2	講義内容	『聖書』の思想: 一神教の系譜				
	該当する到達目標	予習	一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)それぞれの関係性について調べておく。			1 時間
	1,2	復習	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、それぞれの特徴について確認しておく。			1.5 時間
3	講義内容	善人とは何か—『旧約聖書』(『ヨブ記』)より(1)「契約」について				
	該当する到達目標	予習	『ヨブ記』の概略について調べておく。			1 時間
	1,2	復習	「旧約」、「新約」とは何か、「応報主義」とは何か理解する。			1.5 時間
4	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(2)生誕の災い				
	該当する到達目標	予習	『ヨブ記』のプロローグを読んでおく。			1 時間
	1,2	復習	ヨブ記、ギリシア神話、仏教などにおけるペシミスティックな人間観を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(3)自己の在り方を省みる				
	該当する到達目標	予習	『ヨブ記』の登場人物の関係性について考えておく。			1 時間
	1,2	復習	自己と他者の間にある鏡像的な相互関係について理解する。			1.5 時間
6	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(4)現代の事例から考える				
	該当する到達目標	予習	ヨブと彼の友人たちの議論を確認しておく。			1 時間
	1,2	復習	自己批判の欠如がもたらす事態について歴史的的事件を通じて理解する。			1.5 時間
7	講義内容	善人とは何か—『ヨブ記』より(5)「懺悔」ということ				
	該当する到達目標	予習	『ヨブ記』エピローグを読んでおく。			1 時間
	1,2	復習	聖書の思想における「懺悔」の位置づけについて理解する。			1.5 時間

8	講義内容	旧約から新約へ：イエスの教え		
	該当する到達目標	予習	『ヨブ記』をめぐる議論について確認しておく。	1 時間
	1,2	復習	イエスの教えが登場してくる背景とその意義について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(1)『歎異抄』について		
	該当する到達目標	予習	『歎異抄』とはどんな書か調べておく。	1 時間
	1	復習	『歎異抄』第三条の特異性について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(2)罪の意識		
	該当する到達目標	予習	『歎異抄』第三条に関する様々な見解を確認しておく。	1 時間
	1	復習	親鸞の内面を支配していた深い罪の意識を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(3)浄土思想の展開(1)		
	該当する到達目標	予習	親鸞の師である法然が登場してきた時代背景について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	当時の人々の心に去来していた思いについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(4)浄土思想の展開(2)		
	該当する到達目標	予習	親鸞の生涯について調べておく。	1 時間
	1,2	復習	親鸞の罪の意識の由来について理解し、自らに引きつけて考える。	1.5 時間
13	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(5)「悪人正機説」		
	該当する到達目標	予習	これまでの議論について確認しておく。	1 時間
	1,2	復習	『歎異抄』第三条の悪人正機説の意味を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	悪人とは何か—『歎異抄』より(6)悪の不可避性とそれゆえの無力		
	該当する到達目標	予習	親鸞における悪について自らに引きつけて考えておく。	1 時間
	1,2	復習	我々が気づかず捕られている自己中心的な考え方について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	総括—東西の宗教		
	該当する到達目標	予習	聖書の思想と浄土思想の核心部分について確認しておく。	1 時間
	1,2	復習	東西の宗教、倫理思想の共通点について理解する。	1.5 時間
備考	なるべく平易な表現を用いて講義を行う。シラバスを参考にして、講義中に取り扱う書物や人物についてあらかじめ調べておくことが望ましい。また、配付された資料を読むなど復習は必ず行うこと。「宗教」は「非日常的なもの」として敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、しばしば漠然と過ごされている私たちの日常を省みる絶好の機会を提供してくれる。自分が普段、どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。なお、最終的に単位修得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。 参考図書：関根正雄(訳)『旧約聖書 ヨブ記』、岩波文庫、1971 年。 金子大栄『歎異抄』、岩波文庫、改版、1981 年。 オフィスアワー：質問などがある者は、授業の前後、非常勤講師控え室で対応する。			

科目名		人間発達論(専門教養科目)			LSE4	講義
英文名		Human Development				
担当教員		板津 裕己				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標		心身や社会性などの成長・発達過程と、それらに関連する今日の問題に興味や関心を持つことで、将来保育者や教師を目指す4年間の学習の基盤をつくる。				
到達目標		1.人の発達過程を理解できるようになる。 2.人の発達過程が、自分を取りまく人たちとの共同作業で進められていることが理解できるようになる。 3.自分自身の現在や近未来の発達に関わる諸問題について考える機会を持つ。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		評価は、個人ワーク課題の提出状況(20 点)、小テスト(20 点)、課題レポート(10 点)および期末試験(50 点)を総合して行う。				
課題に対するフィードバック		小テストは、採点後に返却をする。 課題レポートは、コメントを付けた後に返却する。				
使用教材		テキストは使用しない。授業進行に従いプリントや予習課題 を配布する。 参考書・補助教材 高橋恵子・波多野誼余夫(著) 生涯発達の心理学 岩波新書 1990 上里一郎(監修) 臨床心理学と心理学を学ぶ人のための心理学基礎事典 至文堂 2002 中島・箱田・繁樹(編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣 2005				
1	講義内容		オリエンテーション -生涯発達を学ぶ理由-			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	心身の発達過程を学ぶ理由について自分なりの考えをまとめておく。			1.5 時間
		復習	生涯発達を学ぶ理由について復習をしておく。			1.5 時間
2	講義内容		発達過程の概観、発達の原理			
	該当する到達目標 1,2	予習	予習課題に取り組む。			1.5 時間
		復習	発達過程の概観や発達の原理と発達を規定する要因、発達観の変遷について復習をしておく。			1.5 時間
3	講義内容		発達を規定する要因、発達観の変遷			
	該当する到達目標 1,2	予習	予習課題に取り組む。			1.5 時間
		復習	発達を規定する要因、発達観の変遷について復習をしておく。人の特徴や人間行動を理解する方法について復習をしておく。			1.5 時間
4	講義内容		人間理解の方法			
	該当する到達目標 1,2	予習	予習課題に取り組む。			1.5 時間
		復習	人の特徴や人間行動を理解する方法について復習をしておく。			1.5 時間
5	講義内容		発達課題			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	予習課題に取り組む。			1.5 時間
		復習	健やかに心身が成長・発達のために「壁」「挫折経験」の有益さを考える。			1.5 時間

6	講義内容	発達危機経験と人間の成長や発達		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	発達危機経験の大切さについて考える。小テスト準備。乳児像をイメージ化する。	1.5 時間
7	講義内容	胎児期と乳児期、第 1 講から第 6 講までの学習内容についての小テスト		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。幼児像をイメージ化する。	1.5 時間
	1,2	復習	胎児期や乳児期についての学習内容を復習しておく。	1.5 時間
8	講義内容	幼児期		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。児童像をイメージ化する。	1.5 時間
	1,2	復習	幼児期についての学習内容を復習しておく。	1.5 時間
9	講義内容	児童期		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。自分自身について考える。	1.5 時間
	1,2	復習	児童期についての学習内容を復習しておく。	1.5 時間
10	講義内容	青年期		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	本時の学習内容を復習しておく。青年期を取り巻く諸問題について考える。	1.5 時間
11	講義内容	成人期・中年期		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。成人期や中年期に関する諸問題について考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	本時の学習内容を復習しておく。	1.5 時間
12	講義内容	老年期		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2	復習	人の発達過程の全体像について復習をしておく。	1.5 時間
13	講義内容	家族や地域社会と発達、第 7 講から第 11 回までの学習内容についての小テスト		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。	1.5 時間
	1,2,3	復習	子どもの育ちを支える人たちについて考える。	1.5 時間
14	講義内容	発達過程と学校教育		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。学校での教育活動について考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	発達過程と学校教育の関連性について復習をしておく。	1.5 時間
15	講義内容	大人になるということ		
	該当する到達目標	予習	予習課題に取り組む。こころが大人とはどのような人かについて考えておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	全 15 講の学習内容を復習しておく。自分自身の現在と近未来の姿を考える。	2 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス: itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 3 階 301 ・予習課題は授業開始時に提出をする。 ・予習課題や小テストの他に課題レポートを課す。 ・前週に授業内容の予習課題を配布して事前学習をしてもらいます。授業では、当該テーマの基本的な事項を解説するほか、関連するトピックスを紹介します。数回の授業ごとに小テストを実施し、テスト解説をすることで、学生の理解度を確認していきます。グループワークと代表者に拠る発表と学生全体で意見を交換する場も設けます。以上の作業を通して、心身の発達過程への興味関心を高められるようにします。			

科目名		人間行動学(専門教養)			LSE5	講義
英文名		Theory of Human Behavior				
担当教員		富田 純喜				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		人間は社会的な存在であり、日常場面では、様々なモノや情報とかかわりながら生活している。それでは、何が人間の行動を導いたり制約したりするのだろうか。本講義では、心理学、認知科学を中心に、社会調査などとの関連も加え、人間の行動について学ぶ。				
到達目標		1.人間の行動と情報との関係について説明できる。 2.人間の行動と心理について説明できる。 3.人間の行動とモノとの関係について説明できる。 4.現代社会で生じている人間の行動に関する諸問題との関連について考察できる。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		定期試験(70%)、授業参画度(30%)				
課題に対するフィードバック		試験前後に出題の意図等を説明する。				
使用教材		必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	人間の行動を導くもの				
	該当する到達目標	予習	心理学、認知科学、社会調査、それぞれの意味を調べる。			1 時間
	1,2,3,4	復習	人間の行動を分析対象とする学問分野および方法論について理解する。			1.5 時間
2	講義内容	世論と統計				
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。			1 時間
	1,4	復習	世論と統計の特徴と人間の行動との関連について理解する。			1.5 時間
3	講義内容	社会調査				
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。			1 時間
	1,4	復習	社会調査の種類および方法、結果との向き合い方を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	因果と相関				
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。			1 時間
	1,4	復習	因果関係と相関関係の違いについて理解する。			1.5 時間
5	講義内容	情報の妥当性と信頼性				
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。			1 時間
	1,4	復習	妥当であり信頼できる情報を見分ける視点について理解する。			1.5 時間
6	講義内容	データの誤解釈				
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。			1 時間
	2,4	復習	データを誤って解釈してしまう心理について理解する。			1.5 時間
7	講義内容	データ解釈の歪み				
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。			1 時間

	2,4	復習	データの妥当性とデータがもたらす問題について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	伝聞情報		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	2,4	復習	伝聞(情報)の特徴と直面するパラドクスについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	信念と社会的承認		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	2,4	復習	信念の形成過程と人々に共有される際の傾向について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	誤信の実例		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	2,4	復習	実例を通して、信じ込みやすい人間の心理について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	道具のデザイン		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	3,4	復習	道具のデザインが人間の行動に与える影響について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	知識の所在		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	3,4	復習	知識の所在およびその曖昧さについて理解する。	1.5 時間
13	講義内容	プランと状況的行為		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	3,4	復習	プランが行動に与える影響および状況的行為について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	日常生活におけるエラー		
	該当する到達目標	予習	授業で検討する課題をこなす。	1 時間
	3,4	復習	エラーの型と特徴について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	14 回までの講義内容を振り返る。	2 時間
	1,2,3,4	復習	本講義で学習した内容と日常生活との関連について理解する。	1.5 時間
備考	授業は主に講義形式で進めるが、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 オフィスアワー:火曜 4 限、水曜 2 限(8 号館 4 階 406 研究室) メールアドレス:tomita-t@takasaki-u.ac.jp			

科目名	音楽基礎 I (幼・保)(専門教養科目)			LSE006	演習
英文名	Basic Music Skills for Nursery Teachers I				
担当教員	岡本 拓子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	保育士、幼稚園教諭および小学校教諭に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。				
到達目標	1. 音符、リズムと拍、音階、調号、和声等、音楽に関する基礎知識について理解する。 2. 保育所、幼稚園、および小学校(主として低学年)で学ぶ歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。 3. 伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験において、筆記試験 30%, 実技試験 30%, 毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。				
使用教材	井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー				
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表			
	該当する到達目標 1, 2	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。		1 時間
		復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。		1.5 時間
2	講義内容	楽譜の基本① 高音部譜表、音名			
	該当する到達目標 1	予習	教科書第 1 章「五線譜」、第 2 章「音部記号」を読んでおく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間
3	講義内容	歌唱教材の伴奏技法① 「あさのうた」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	「あさのうた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。		1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。		1.5 時間
4	講義内容	楽譜の基本② 音符と休符			
	該当する到達目標 1	予習	教科書第 3 章「音符と休符」を読んでおく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間
5	講義内容	歌唱教材の伴奏技法② 「しゃぼんだま」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	「しゃぼんだま」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。		1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。		1.5 時間
6	講義内容	楽譜の基本③ 拍子とリズム			
	該当する到達目標 1	予習	教科書第 4 章「拍子とリズム」を読んでおく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間

7	講義内容	歌唱教材の伴奏技法③「うみ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「うみ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
8	講義内容	楽譜の基本④ 音階と調号		
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章「音階と調号」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1.5 時間
9	講義内容	歌唱教材の伴奏技法④「めだかのがっこう」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「めだかのがっこう」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
10	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑤「せんせいとおともだち」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「せんせいとおともだち」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
11	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑥「やまのおんがくか」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「やまのおんがくか」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
12	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法①「あさのうた」、「しゃぼんだま」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
13	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法②「うみ」、「めだかのがっこう」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
14	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法③「せんせいとおともだち」、「やまのおんがくか」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
15	講義内容	音楽の基礎知識をいかして、歌唱教材の弾き歌いをする。		
	該当する到達目標	予習	すべての課題曲を練習しておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	歌唱教材の弾き歌い、伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1.5 時間
備考	授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。 選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 オフィスアワーは火曜 3 限、水曜 3 限である。それ以外の時間に課題をみてほしい場合は、メールにて事前予約すること。 okamoto@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 404 研究室 予習・復習は欠かさず行うこと。			

科目名		音楽基礎 I (小学校)(専門教養)			LSE7	演習
英文名		Basic Music Skills for Nursery Teachers I				
担当教員		吉田 恵子				
科目に関連した実務経験		公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、音楽科主任。音楽を用いた行事運営や学級経営を実践した(経験)。看護学校音楽担当、県内の教育・保育関係の指導者講習講師、子育てサロン音楽担当、地域の音楽活動等を通じて幅広い年齢層に音楽の楽しさを広めている(現在)。				
学年・開講期		1 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標		小学校の音楽指導に必要な基礎的知識及び技能を習得する。				
到達目標		1.音楽の基礎的知識について理解できる。 ■ 2.合唱の楽しさを味わうことができる。■ 3.ピアノ初心者はピアノの基礎的な演奏技術を習得し、読譜による演奏ができる。■ 中級者は弾き歌いの基礎を理解し、演奏ができる。 上級者は、弾き歌いの基礎、及び、伴奏法の理論を理解し、演奏ができる。				
学位授与方針		✓	豊かな人間性と教養			
との対応		✓	専門的知識			
			問題発見・解決力			
			多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		実技発表及び検定 50%、筆記試験 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。				
課題に対するフィードバック		実技検定、実技発表はコメント・評価をする。筆記試験は、回答を返却する。				
使用教材		① バイエル著『標準バイエルピアノ教則本』、全音楽譜出版社 ②群馬県音楽教育研究会編『歌集風の子』、教育芸術社 ③その他、歌唱教材楽譜、楽典等、資料を配布				
1	講義内容	1)オリエンテーション 2)鍵盤楽器の構造、歴史■ 3)楽譜の知識①高音部譜表、音名、音符と休符 ■ 4)奏法の基礎①運指				
	該当する到達目標	予習	音符と休符について予習する。テキスト①p.5			1 時間
	1	復習	音名と鍵盤の位置を覚える。課題曲の練習をする。			3 時間
2	講義内容	ピアノ演奏:電子ピアノの機能と奏法、 音楽理論: 楽譜の知識②低音部譜表、拍子、音の長さ■				
	該当する到達目標	予習	低音部譜表について、事前学習しておく。			1 時間
	1,3	復習	拍子について理解する。課題曲の練習をする。			3 時間
3	講義内容	ピアノ演奏:コード譜の読み方と演奏法 ■、 音楽理論:音階、調号■				
	該当する到達目標	予習	コードについて事前学習しておく。			1 時間
	1,3	復習	音階、調号について理解する。検定課題曲の練習をする。			3 時間
4	講義内容	ピアノ演奏: 音楽理論:長調と短調、マイナーとメジャーコード ■ 第 1 回検定				
	該当する到達目標	予習	マイナーとメジャーコードについて事前学習しておく。			1 時間
	1,3	復習	長調と短調、マイナーとメジャーコーについて理解する。課題曲の練習をする。			3 時間

5	講義内容	ピアノ演奏: 音楽理論:全音と半音 全音音階と半音階		
	該当する到達目標	予習	全音と半音について事前学習しておく。	1 時間
	1,3	復習	楽典配布資料を復習する。課題曲の練習をする。	3 時間
6	講義内容	ピアノ演奏:カデンツ 音楽理論:カデンツの機能 ■		
	該当する到達目標	予習	ハ長調のカデンツを弾けるようにしておく。	1 時間
	1,3	復習	ハ長調、ト長調、ヘ長調のカデンツを暗譜で弾けるようにする。課題曲の練習をする。	3 時間
7	講義内容	ピアノ演奏 音楽理論:カデンツからみる子どもの歌 ■		
	該当する到達目標	予習	ハ長調の子どもの歌のコード進行を調べておく。	1 時間
	1,2,3	復習	第 2 回検定に向けて課題曲の練習をする。	3 時間
8	講義内容	弾き歌い①前奏、間奏 ■ 第 2 回検定		
	該当する到達目標	予習	どのような前奏のパターンがあるか、歌唱教材から調べておく。	1 時間
	1,2,3	復習	これまでの課題曲に前奏をつけて演奏する。	3 時間
9	講義内容	弾き歌い②ベースとメロディ唱 ■		
	該当する到達目標	予習	課題曲の歌詞を暗譜して歌う。左手でベースが弾けるようにしておく。	1 時間
	1,2,3	復習	ベースの付け方とメロディ唱の復習・練習をする。	3 時間
10	講義内容	弾き歌い③コード伴奏とメロディ唱 ■		
	該当する到達目標	予習	課題曲の歌詞を暗譜して歌う。コードを両手で弾けるようにする。	1 時間
	1,2,3	復習	コード伴奏とメロディ唱の復習をする。	3 時間
11	講義内容	弾き歌い④ベースとメロディ奏、メロディ唱 ■		
	該当する到達目標	予習	課題曲の歌詞を暗譜して歌う。	1 時間
	1,2,3	復習	ベースとメロディ奏、メロディ唱の復習をする。	3 時間
12	講義内容	弾き歌い⑤アルペジオ、第 3 回検定		
	該当する到達目標	予習	コードの基本形をピアノで弾けるようにしておく。	1 時間
	1,2,3	復習	アルペジオ奏法の復習と練習をする。	3 時間
13	講義内容	いろいろな記譜法 (含日本の伝統音楽) ■		
	該当する到達目標	予習	能楽の記譜法について調べておく。	1 時間
	1	復習	伝統音楽の記譜法について、その特徴をまとめる。	3 時間
14	講義内容	音によるコミュニケーション: アンサンブル		
	該当する到達目標	予習	自分のパート練習。	2 時間
	1,2,3	復習	発表に向けてアンサンブル練習をする。	2 時間
15	講義内容	聴き手に伝える表現:実技発表と相互評価		
	該当する到達目標	予習	実技発表曲の練習をする。	3 時間
	1,2,3	復習	実技発表を振り返り、復習をする。	1 時間
備考	オフィスアワー: 月曜1限, 水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方: 一斉指導と個別指導により、毎時習熟度を確認しながら目標に到達できるように進めます。 担当教員メールアドレス: yoshikei@takasaki-u.ac.jp			

研究室:8号館 503 研究室

履修に関して: 当該科目の未履修者は、2 年後期「音楽」(必修)の履修にあたり、当該科目内容相当の実技・筆記試験を受験し、合格することを条件とします。

課 題 : ピアノは、初級者、中級者、上級者に応じて毎時課題を出します。

楽典はインターネット上の予習復習課題により、一人ひとりのペースに合わせて学習します。

ルール : ピアノ課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。

欠席をした場合は、レッスン補習を受け、次回の課題を把握して、次の授業に臨んでください。

学習に関して: 1)ピアノが初めての人も、楽譜の読めない人も、日々の練習によって弾き歌いが出来るようになります。課題意識をもって積極的に臨んでください。

2)テキストの他に使用する資料は、授業内で配布・紹介します。

■: 実技経験に基づく内容を示す。

科目名	音楽基礎Ⅱ(幼・保)(専門教養科目)			LSE008	演習
英文名	Basic Music Skills for Nursery Teachers II				
担当教員	岡本 拡子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	音楽基礎Ⅰに引き続き、保育士、幼稚園教諭および小学校教諭に必要な、音楽に関する基礎知識と実践的な演奏技術を習得する。具体的には、音楽の基礎理論と技術、読譜力、ソルフェージュ力、及びピアノ等の楽器の基礎的な演奏技術や弾き歌い技術の習得をめざす。				
到達目標	1. 音程、音階、調号、和声・コード、および音楽記号と用語等、音楽に関する基礎知識について理解する。 2. 保育所、幼稚園、および小学校(主として低学年)で学ぶ歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。 3. 伴奏しながら歌う弾き歌いの演奏技法を習得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験において、筆記試験 30%, 実技試験 30%, 毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。				
使用教材	井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー				
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表			
	該当する到達目標 1, 2	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。		1 時間
		復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。		1.5 時間
2	講義内容	楽譜の基本① 音階と調号			
	該当する到達目標 1	予習	教科書第 6 章「音階と調号」を読んでおく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間
3	講義内容	歌唱教材の伴奏技法①「おべんとう」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	「おべんとう」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。		1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。		1.5 時間
4	講義内容	楽譜の基本② 音程			
	該当する到達目標 1	予習	教科書第 5 章「音程」を読んでおく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間
5	講義内容	歌唱教材の伴奏技法②「おかえりのうた」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	「おかえりのうた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。		1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。		1.5 時間
6	講義内容	楽譜の基本③ 和声・コード			
	該当する到達目標 1	予習	教科書第 7 章「和声」および巻末のコード表を読んでおく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間

7	講義内容	歌唱教材の伴奏技法③「あめふりくまのこ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「あめふりくまのこ」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
8	講義内容	楽譜の基本④ 音楽記号と用語		
	該当する到達目標	予習	教科書第 9 章「音楽記号と用語」を読んでおく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1.5 時間
9	講義内容	歌唱教材の伴奏技法④「とけいのうた」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「とけいのうた」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
10	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑤「とんぼのめがね」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「とんぼのめがね」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
11	講義内容	歌唱教材の伴奏技法⑥「まっかな秋」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「まっかな秋」の楽譜を読み、右手、左手それぞれ練習しておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
12	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法①「おべんとう」、「おかえりのうた」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
13	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法②「あめふりくまのこ」、「とけいのうた」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
14	講義内容	歌唱教材の弾き歌い技法③「とんぼのめがね」、「まっかな秋」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
15	講義内容	音楽の基礎知識をいかして、歌唱教材の弾き歌いをする。		
	該当する到達目標	予習	すべての課題曲を練習しておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	歌唱教材の弾き歌い、伴奏において基礎知識がどのようにいかされるのか理解を深めておく。	1.5 時間
備考	授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表する時間を設ける。 オフィスアワーは火曜 3 限、水曜 3 限である。それ以外の時間に課題をみてほしい場合は、メールにて事前予約すること。 okamoto@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 404 研究室 予習・復習は欠かさず行うこと。			

科目名	音楽基礎Ⅱ(小学校)(専門教養)			LSE9	演習
英文名	Basic Music Skills for Elementary School Teachers II				
担当教員	吉田 恵子				
科目に関連した実務経験	公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、音楽科主任。音楽を用いた行事運営や学級経営を実践した(経験)。看護学校音楽担当、県内の教育・保育関係の指導者講習講師、子育てサロン音楽担当、地域の音楽活動等を通じて幅広い年齢層に音楽の楽しさを広めている(現在)。				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	「音楽基礎Ⅰ(小学校)」に引き続き、さらに小学校の音楽指導に必要な知識及び技能を習得する。合唱、ピアノに加えて、リコーダー並びに鍵盤ハーモニカの演奏・指導技術を習得する。小学校音楽鑑賞教材の理解をする。				
到達目標	1.輪唱・合唱の楽しさを味わうことができる。■ 2.ピアノ中級者は、習得した伴奏法を小学校教材の伴奏に応用できる。コード進行を理解し、メロディを見て伴奏ができる。 上級者は、子どもの歌しやすい音域に移調して弾ける。様々な伴奏法でアレンジができる。 3.リコーダーや鍵盤ハーモニカの特性を理解し、音の美しさを生かしたアンサンブルができる。■ 4.小学校鑑賞教材の理解を深めることができる。■ 5.小学校高学年の楽典指導内容を理解できる。 ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実技発表及び検定 50%、筆記試験 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。				
課題に対するフィードバック	毎時の実技課題はその都度コメントする。				
使用教材	「音楽基礎Ⅰ」のテキストを引き続き使用する。(『バイエル』全音楽譜出版社、群馬県音楽教育研究会編『歌集 風の子』教育技術社) 他、資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション、低学年の音楽活動■ 「ラデツキー行進曲」、弾き歌い、			
	該当する到達目標	予習	低学年の音楽活動について、1年生の教科書から、その目的を理解する。		1 時間
	1,2,3	復習	各自の実技課題の復習をする。		3 時間
2	講義内容	低学年の音楽活動「シンコペティドクロック」、弾き歌い、鍵盤ハーモニカの特性と曲■			
	該当する到達目標	予習	鍵盤ハーモニカの特色を調べる。		1 時間
	2,3,4	復習	各自の実技課題の復習をする。		3 時間
3	講義内容	リコーダーの鑑賞曲、弾き歌い、			
	該当する到達目標	予習	リコーダーの鑑賞曲について調べる。		1 時間
	2,3,4	復習	各自の実技課題の復習をする。		3 時間
4	講義内容	音の色:管楽器の鑑賞曲 第1回検定			
	該当する到達目標	予習	管楽器の鑑賞曲について調べる。		1 時間
	2,4,5	復習	各自の実技課題の復習をする。		3 時間
5	講義内容	旋律の重なり			
	該当する到達目標	予習	旋律の重なりの教材について、音楽教科書から調べる		1 時間
	1,2,4	復習	各自の実技課題の復習をする。		3 時間

6	講義内容	二重唱		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	二重唱について、音楽教科書掲載曲から調べる、	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
7	講義内容	弦楽器の響き		
	該当する到達目標 2,4	予習	弦楽器の響きの特色や弦楽器の曲について調べる。	1 時間
		復習	ラテン音楽の課題の練習及び各自の実技課題の復習をする。	3 時間
8	講義内容	ラテン音楽と打楽器 第 2 回検定		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	ラテン音楽の打楽器について奏法を調べる	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
9	講義内容	物語と音楽		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	物語と音楽について、音楽教科書掲載曲から調べる。	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
10	講義内容	オーケストラの響き		
	該当する到達目標 2,4	予習	オーケストラの編成及び曲について調べる。	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
11	講義内容	合唱曲		
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書掲載の合唱曲について調べる、	1 時間
		復習	能の課題の練習、及び、各自の実技課題の復習をする。	3 時間
12	講義内容	日本の伝統音楽■		
	該当する到達目標 4,5	予習	能の発声について調べる。	1 時間
		復習	第 3 回検定の実技練習をする。	3 時間
13	講義内容	自然と音楽■ 第 3 回検定		
	該当する到達目標 2,4	予習	サウンドスケープについて調べる。	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
14	講義内容	音を創る■		
	該当する到達目標 1,2,5	予習	低学年・中学年・高学年の音づくりの特色を調べる。	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
15	講義内容	実技発表と相互評価		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	実技発表に向けての練習をする。	1 時間
		復習	各自の実技課題の復習をする。	3 時間
備考	オフィスアワー：月曜1限, 水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方：一斉指導と個別指導により、毎時習熟度を確認しながら目標に到達できるように進めます。 担当教員メールアドレス： yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室：8 号館 503 研究室 履修に関して：当該科目の未履修者は、2 年後期「音楽」（必修）の履修にあたり、当該科目内容相当の実技・筆記試験を受験し、合格することを条件とします。 課 題：ピアノは、初級者、中級者、上級者に応じて毎時課題を出します。 楽典はインターネット上の予習復習課題により、一人ひとりのペースに合わせて学習します。 ルール：ピアノ課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。 欠席をした場合は、レッスン補習を受け、次回の課題を把握して、次の授業に臨んでください。			

学習に関して:1)日々の練習によって弾き歌いが出来るようになります。課題意識をもって積極的に臨んでください。

2)テキストの他、資料は、授業内で配布・紹介します。

3)ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを準備してください。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	現代教育論Ⅰ（専門教養）			LSE10	演習
英文名	Contemporary Education I				
担当教員	子ども教育学科教員				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	今日の教育活動や保育活動の現状を認識し、教育や保育に関わる諸問題を教育学的視点から理解し、説明できることをめざす。 （保育・教育コース） 幼児教育や保育活動に関連した専門的な知識や技術は、新しい知識や技術が要求されるため保育者は、関連領域の知見を随時取り入れ、幼児教育や保育の専門知識や技術を結び付けた活動をめざす。幼児教育、保育や社会福祉の視点から、今日の保育・教育を取り巻く諸問題解決にむけた知識を習得する。 （教員養成コース） 現代教育の動向や諸相を認識し、教育に関わる諸問題を人文・社会・自然などの科学的視点や教育学的視点から理解し、説明できることをめざす。また、現代教育に関する一般的な知識と幅広い視野をもつことで、教育に関する諸問題を解決する力を習得する。さらに、学校教育に携わる者としての自覚をもち、現代の教育に関する情報を、興味をもって収集し分析することとおして、教育活動に生かせる力を身に付ける。				
到達目標	（保育・教育コース） 1. 幼児の発達と教育や保育に関連した専門的知識や技術を習得できる 2. 障害の知識や支援方法と各関連領域の観点を取り入れ、支援することができる 3. 家庭や家族にむけた専門知識や支援方法を理解し活動することができる 4. 幼児教育、保育の視点から、地域社会を含む保育・教育問題解決にむけた知識を習得できる 5. 生活環境と保育・教育の必要性について説明することができる （教員養成コース） 1. 現代教育の動向や諸相を認識することができる。 2. 現代教育の諸問題を、人文・社会・自然などの科学的視点や教育学的視点から理解し説明できる。 3. 現代教育に関する一般的な知識と幅広い視野をもち、諸問題の解決に生かすことができる。 4. 学校教育に携わる者としての自覚をもち、教育に関する情報を収集し教育活動に生かすことができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	各担当教員 5 名で 20 点配分として総合 100 点とする。				
課題に対するフィードバック	感想シートへのコメント 定期試験課題についての意図を提示する				
使用教材	担当教員による講義スライド等プリントして配付する。				
（保育・教育コース）					
	講義内容	教育と学習（富田）			

1	該当する到達目標	予習	これまで受講した授業を振り返り、教育と学習について整理する。	0.5 時間
	1,5	復習	講義・ディスカッションの内容を踏まえ、自らの考えを整理する。	0.5 時間
講義内容		学習と学び(富田)		
2	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、学習と学びの共通点や相違点を整理する。	0.5 時間
	1,5	復習	講義・ディスカッションの内容を踏まえ、自らの考えを整理する。	0.5 時間
講義内容		保育における教育と学習・学び(富田)		
3	該当する到達目標	予習	配布した保育実践の事例を読み、保育・教育・学習・学びの関連を整理する。	0.5 時間
	1,4,5	復習	講義・ディスカッションの内容を踏まえ、自らの考えを整理する。	0.5 時間
講義内容		子どもの権利と教育(千葉)		
4	該当する到達目標	予習	子どもの権利と教育の関連性について配布した資料を読み予習する。	0.5 時間
	1,3,5	復習	子どもの権利と教育の関連性で得られた知識を復習する。	0.5 時間
講義内容		家族と教育(千葉)		
5	該当する到達目標	予習	家族と教育の必要性について配布した資料を読み予習する。	0.5 時間
	1,3,5	復習	子どもの育つ環境を含め家族と教育の必要性について得られた知識を復習する。	0.5 時間
講義内容		子育て支援と養育の問題(千葉)		
6	該当する到達目標	予習	子育て支援と養育問題の事例について配布した資料を読み予習する。	0.5 時間
	1,3,5	復習	子育て支援と養育問題を併せて理解し、得られた知識を復習する。	0.5 時間
講義内容		毒親と子ども(板津)		
7	該当する到達目標	予習	前週に配布された本授業での学習課題プリントを用いて、事前に予習する。	0.5 時間
	1,5	復習	保育者からの視点をも踏まえて学習内容を復習しておく。	0.5 時間
講義内容		子どもと発達課題(板津)		
8	該当する到達目標	予習	前週に配布された本授業での学習課題プリントを用いて、事前に予習する。	0.5 時間
	1,5	復習	保育者からの視点をも踏まえて学習内容を復習しておく。	0.5 時間
講義内容		教育者や保育者の資質の問題(板津)		
9	該当する到達目標	予習	前週に配布された本授業での学習課題プリントを用いて、事前に予習する。	0.5 時間
	1,5	復習	保育者からの視点をも踏まえて学習内容を復習しておく。	0.5 時間
講義内容		社会的養護を必要とする子どもたちと教育の問題(野田)		
10	該当する到達目標	予習	厚生労働省 HP 社会的養護の課題と将来像の実現に向けて p.1-7, 58 をダウンロードし目を通し予習する。	0.5 時間
	2,3,4	復習	要保護児童の学習上の課題を家庭・地域・学校における内外環境の視点から理解する。	0.5 時間
講義内容		特別な支援を必要とする子どもたちと教育の問題(野田)		
11	該当する到達目標	予習	文部科学省 HP 特別支援教育＞13.卒業者の進路 統計調査結果について目を通し予習する。	0.5 時間
	2,3,4	復習	特別支援学校卒業者の進路の実態について概要を把握し、職業教育の方法と課題を理解する。	0.5 時間
講義内容		知的発達に遅れのある子ども達と教育問題(野田)		
12	該当する到達目標	予習	文部科学省 HP 特別支援教育に関する調査結果について目を通し予習する。	0.5 時間

	2,3,4	復習	福祉的就労に向けた特別支援教育上の課題を理解する。	0.5 時間
13	講義内容	生活環境と教育の問題1ー子どもを取り巻く地域社会の問題ー(今井邦枝)		
	該当する到達目標	予習	自分が関心をもった地域社会の問題を調べ予習する。	0.5 時間
	4,5	復習	地域社会の現状を整理し、問題に対する自分の意見をまとめる。	0.5 時間
14	講義内容	生活環境と教育の問題2ー子どもを取り巻く家族の問題ー(今井邦枝)		
	該当する到達目標	予習	配布された資料を事前に読み予習する。	0.5 時間
	4,5	復習	家族の役割について理解したこと、また、問題に対する自分の意見をまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	生活環境と教育の問題3ー家庭や地域社会の教育力ー(今井邦枝)		
	該当する到達目標	予習	配布された資料を事前に読み予習する。	0.5 時間
	4,5	復習	家庭や地域社会の教育力について理解したこと、問題に対する自分の意見をまとめる。	0.5 時間
備考	担当の先生のオフィシアワーとメールアドレスは、他の科目で確認してください。 各担当教員の研究室は、8 号館、9号館。 授業の進め方:各担当者による授業展開をし、幼児教育、保育や社会福祉や今日の保育・教育を取り巻く諸問題解決にむけた知識を習得するための授業を行う。授業毎配布する資料やスライドで学生が理解できる授業を行う。			

(教員養成コース)

1	講義内容	現代教育と文字（武井英昭）		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領「国語」の「文字」に関する部分に目を通す。	0.5 時間
	2,3,4	復習	講義で扱ったトピックスについて自分なりに調べ直して、理解を確かなものにする。	0.5 時間
2	講義内容	現代教育と文学（武井英昭）		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領「国語」の文学教材に関する部分に目を通す。	0.5 時間
	2,3,4	復習	講義で扱ったトピックスについて自分なりに調べ直して、理解を確かなものにする	0.5 時間
3	講義内容	現代教育と読解・鑑賞（武井英昭）		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領「国語」の「読解」「鑑賞」に関する部分に目を通す。	0.5 時間
	2,3,4	復習	講義で扱ったトピックスについて自分なりに調べ直して、理解を確かなものにする。	0.5 時間
4	講義内容	現代教育と倫理（角野善司）		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」を精読する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領および授業資料を再読する。	0.5 時間
5	講義内容	現代教育と英語表現(英文)（嶋田和成）		
	該当する到達目標	予習	教育の現場に関する英文資料に目を通す。	0.5 時間
	2,3,4	復習	講義で扱った英文中の具体的な表現を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	現代教育と英語表現（会話）（嶋田和成）		
	該当する到達目標	予習	教育の現場で話される会話に関する資料に目を通す。	0.5 時間
	2,3,4	復習	講義で扱った会話文を覚えて、実際に発話できるようにする。	0.5 時間
7	講義内容	現代教育と英語表現(文字)（嶋田和成）		
	該当する到達目標	予習	英語教育の現場でどのように文字を導入、指導するかを各自考えておく。	0.5 時間

	2,3,4	復習	講義で扱った文字の導入、指導の方法を理解する。	0.5 時間
8	講義内容	現代教育と音楽（吉田恵子）		
	該当する到達目標	予習	日本の現代の音楽教育の特色と課題を挙げる。	0.5 時間
	2,3,4	復習	授業で扱った資料から、現代の音楽教育について理解し、まとめる。	0.5 時間
9	講義内容	現代教育と美術（増田金吾）		
	該当する到達目標	予習	日本における現代美術教育の特色と課題を、書籍、雑誌、インターネット等で調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
10	講義内容	現代教育と体育（山西加織）		
	該当する到達目標	予習	「体育」に関して、興味関心のあるトピックスを新聞、雑誌、インターネット等で調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で取り扱ったテーマに関して考察し、教師として児童の体育活動にどのように関わっていきたいのか、レポートにまとめる。	0.5 時間
11	講義内容	現代教育と歴史・地理（栗原幸正）		
	該当する到達目標	予習	これまで学習した歴史と地理に関して整理し、歴史と地理に関する現代の教育的な課題についてインターネット等で調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
12	講義内容	現代教育と政治・経済（栗原幸正）		
	該当する到達目標	予習	これまで学習した政治と経済に関して整理し、政治と経済に関する現代の教育的な課題についてインターネット等で調べる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
13	講義内容	現代教育と数学（小泉健輔）		
	該当する到達目標	予習	算数・数学教育に関わる今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べてみる。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業で取り扱った内容をもとにして、今日における算数・数学教育の現状や課題について考察した上で、教師としてどのように向き合っていくのかについてレポートにまとめる。	0.5 時間
14	講義内容	現代教育と生物・化学・物理・地学（片山 豪）		
	該当する到達目標	予習	理科教育及び科学に関する今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	現代教育と情報リテラシー（片山 豪）		
	該当する到達目標	予習	情報教育及び ICT に関する今日的な話題について、新聞やインターネット等で調べておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業の内容を整理して、指定された課題についてレポートにまとめる。	0.5 時間
備考	担当の先生のオフィスアワーとメールアドレスは、他の科目で確認してください。 各担当教員の研究室は、8 号館、9号館。 授業の進め方:授業は、講義形式、資料を基にした個人学修、話し合いや発表を中心としたグループや全体での活動など、テーマに沿った形で進める。			

科目名	現代教育論Ⅱ（専門教養）			LSE12	演習
英文名	Contemporary Education II				
担当教員	子ども教育学科教員				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	今日の教育活動や保育活動の現状を認識し、教育や保育に関わる諸問題を教育学的視点から理解し、説明できることをめざす。 （保育・教育コース） 幼児教育や保育活動に関連した専門的知識や技術は、子どもの成長や発達や豊かな感性に育ちに影響を与える。本講義では、「子どもの遊び」「心身の発達」「造形的表現」「音楽的表現」「地域との関わり」の各専門領域から幼児期の教育に関する課題や教育活動のありかたについて総合的に学ぶ。 （教員養成コース） 現代教育の現状を認識し、教育に関わる諸問題を教育学的視点から理解し、説明できることをめざす。また、教育学に内包される諸科学の一般的な知識と幅広い視野をもつことで、教育に関する諸問題を解決する力を習得する。さらに、学校教育に携わる者としての自覚をもち、教育現場の現象に目を向け、関係する科学の理論を駆使して現実的な問題の解決と、積極的な教育現場への参加に意欲をもつことができる。				
到達目標	（保育・教育コース） 1. 幼児教育や保育活動等の専門知識や技術を、子どもの成長発達や豊かな感性を育ちと関連づけて理解することができる 2. 子どもの心身の発達や健康づくりと幼児教育における教育活動を関連づけて理解することができる。 3. 子どもの造形的表現や音楽的表現と幼児教育における教育活動を関連付けて理解することができる。 4. 幼児教育における地域社会との関わりについて理解することができる （教員養成コース） 1. 現代教育の現状を認識することができる。 2. 現代教育の諸問題を、教育学的視点から理解し説明することができる。 3. 教育学的見地からの一般的な知識と幅広い視野をもち、諸問題の解決に生かすことができる。 4. 学校教育に携わる者としての自覚をもち、理論的背景をもって現実的な問題の解決を図る力を身につけ、教育現場への参加に意欲を示すことができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	各担当教員 5 名で 20 点配分として総合 100 点とする。				
課題に対するフィードバック	感想シートにはコメントをする。また定期試験後出題の意図について提示をする。				
使用教材	授業担当者による必要な資料や使用するスライドをプリントし配布する。				

(保育・教育コース)				
1	講義内容	子どもの遊びと教育活動1ー保育の場における遊びー(内田)		
	該当する到達目標	予習	幼稚園教育要領解説 P.23～38 を読んでくること。	0.5 時間
	1,3,4	復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。	0.5 時間
2	講義内容	子どもの遊びと教育活動2ー遊びと指導計画ー(内田)		
	該当する到達目標	予習	幼稚園教育要領解説 P.39～43 を読み予習する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。	0.5 時間
3	講義内容	子どもの遊びと教育活動3ー保育者の役割ー(内田)		
	該当する到達目標	予習	幼稚園教育要領解説 P.44～48 を読み予習する。	0.5 時間
	1,3,4	復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。	0.5 時間
4	講義内容	子どもの健康をめぐる現代的課題(山西)		
	該当する到達目標	予習	乳幼児期の子どもの健康に関して、興味関心のあるトピックスを新聞、雑誌、インターネット等で調べ予習する。	0.5 時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめ復習する。	0.5 時間
5	講義内容	子どもの心身の発達と健康づくり(山西)		
	該当する到達目標	予習	乳幼児期の発達過程について、これまでの授業で学習してきたことを振り返る。	0.5 時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめ復習する。	0.5 時間
6	講義内容	子どもの運動遊びと身体表現活動(山西)		
	該当する到達目標	予習	これまでの実習やボランティアで見てきた子どもの運動遊びや身体表現活動を振り返る。	0.5 時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめ復習する。	0.5 時間
7	講義内容	音楽表現活動と教育1ー子どもの音楽表現活動の実際ー(岡本)		
	該当する到達目標	予習	配付した資料を事前に読み予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。	0.5 時間
8	講義内容	音楽表現活動と教育2ー音楽表現活動の指導ー(岡本)		
	該当する到達目標	予習	配付した資料を事前に読み予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。	0.5 時間
9	講義内容	音楽表現活動と教育3ー領域「表現」から見る音楽表現活動ー(岡本)		
	該当する到達目標	予習	配付した資料を事前に読み予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で学んだことをレポートにして提出し復習する。	0.5 時間
10	講義内容	造形表現活動と教育1ー子どもの教育に必要な日本美術史概説ー(石原)		
	該当する到達目標	予習	配布する日本美術史のプリントに沿って、時代区分や作品と作者を予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	プリントの内容で小テストを実施し復習する。	0.5 時間
11	講義内容	造形表現活動と教育2ー子どもの教育に必要な西洋美術史概説ー(石原)		
	該当する到達目標	予習	配布する西洋美術史のプリントに沿って、時代区分や作品と作者を予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	プリントの内容で小テストを実施し復習する。	0.5 時間
12	講義内容	造形表現活動と教育3ー子どもの教育に必要な美術用語解説ー(石原)		
	該当する到達目標	予習	事前に配布した保育士に必要な課題や問題内容プリントを読み予習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	プリントの内容で小テストを実施し復習する。	0.5 時間

13	講義内容	幼児教育活動と地域社会1ー 子どもが育つ地域社会とはー (今井麻美)		
	該当する到達目標 1,4	予習	自分が地域社会とどのように関わりながら育ってきたのかについて考えてくる。	0.5 時間
		復習	次回、授業内容の振り返りを行うので復習をしておく。	0.5 時間
14	講義内容	幼児教育活動と地域社会2ー 地域社会に支えられる保育内容ー (今井麻美)		
	該当する到達目標 1,4	予習	地域社会と保育内容の関わりについて、自分の経験を踏まえて考えてくる。	0.5 時間
		復習	次回、授業内容の振り返りを行うので復習をしておく。	0.5 時間
15	講義内容	幼児教育活動と地域社会3ー 文化的な行事と保育内容ー (今井麻美)		
	該当する到達目標 1,4	予習	文化的な行事と保育内容の関わりについて、自分の経験を踏まえて考えてくる。	0.5 時間
		復習	授業内容の復習をする。	0.5 時間
備考	担当の先生のオフィスアワーとメールアドレスは、他の科目で確認してください。 各担当教員の研究室は、8 号館、9号館。 授業の進め方:各担当者による授業展開をし、幼児教育、保育や社会福祉や今日の保育・教育を取り巻く諸問題解決にむけた知識を習得するための授業を行う。授業毎配布する資料やスライドで学生が理解できる授業を行う。			

(教員養成コース)

1	講義内容	教育の意義・目的 (吉田恵子)		
	該当する到達目標 1	予習	教育の現状を踏まえ、教育の意義・目的を述べることができる。	0.5 時間
		復習	現代教育の意義・目的を理解し、課題をまとめる。	0.5 時間
2	講義内容	学校教育制度と生涯教育制度 (吉田恵子)		
	該当する到達目標 1,2	予習	学校教育制度と生涯教育制度の特徴を述べることができる。	0.5 時間
		復習	学校教育制度と生涯教育制度の基礎資料を理解し、課題をまとめる。	0.5 時間
3	講義内容	学習指導要領 (栗原幸正)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	学習指導要領について調べ、現代の教育と関連する課題を洗い出す。	0.5 時間
		復習	講義内容を踏まえて、学習指導要領に関する課題をレポートにまとめる。	0.5 時間
4	講義内容	障害児の理解 (小竹利夫)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	障害児の心理・生理・病理などの授業で学んだことを振り返る。	0.5 時間
		復習	講義内容を振り返り、障害児の理解について知識・視点を整理する。	0.5 時間
5	講義内容	特別支援教育 (小竹利夫)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	特別支援教育のシステムとその実際について授業で学んだことを振り返る。	0.5 時間
		復習	講義内容を振り返り、特別支援教育の全体像を整理する。	0.5 時間
6	講義内容	近世・近代西洋教育史 (小西尚之)		
	該当する到達目標 3,4	予習	資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間
		復習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	0.5 時間
7	講義内容	近現代西洋教育史 (小西尚之)		
	該当する到達目標 3,4	予習	資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間
		復習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	0.5 時間
8	講義内容	近世・近代日本教育史 (小西尚之)		
	該当する到達目標 3,4	予習	資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間
		復習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	0.5 時間

9	講義内容	近現代日本教育史（小西尚之）		
	該当する到達目標 3,4	予習	資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間
		復習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	0.5 時間
10	講義内容	教育心理（角野善司）		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	既修の関連諸科目のノート等を読み直す。	0.5 時間
		復習	授業資料を再読する。	0.5 時間
11	講義内容	発達と学習（角野善司）		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	既修の関連諸科目のノート等を読み直す。	0.5 時間
		復習	授業資料を再読する。	0.5 時間
12	講義内容	憲法・教育基本法・学校教育法（小西尚之）		
	該当する到達目標 3,4	予習	資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間
		復習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	0.5 時間
13	講義内容	教育行政・教職員等に関する法令（小西尚之）		
	該当する到達目標 3,4	予習	資料を読んで、講義内容を理解する。	0.5 時間
		復習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	0.5 時間
14	講義内容	道徳教育・特別活動・生徒指導（吉田恵子）		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	道徳教育・特別活動・生徒指導の関連性について調べる。	0.5 時間
		復習	日本の児童・生徒の育ち・まなびについて、課題をまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	現代教育と教育時事（栗原幸正）		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	現代の教育に関するニュースやその背景的知識を調べる。	0.5 時間
		復習	講義内容を踏まえて、現代の教育に関する課題をレポートにまとめる。	0.5 時間
備考	担当の先生のオフィスアワーとメールアドレスは、他の科目で確認してください。 授業の進め方: 授業は、講義形式、資料を基にした個人学修、話し合いや発表を中心としたグループや全体での活動など、テーマに沿った形で進める。			

科目名	世界と子ども(専門教養)				LSE14	講義
英文名	Introduction to the Worlds Surrounding Children					
担当教員	中村・片山・菅野・小泉・山西・岡本・石原・小竹・丸山・栗原・千葉・板津・小西・富田					
科目に関連した実務経験	中村:英語教諭として中学校に勤務(経験) 片山:理科教諭として高等学校に勤務(経験)					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位			
講義目標	学部の教員が輪番で、それぞれの専門分野に基づいて子どもと子どもを取り巻く世界について、話題を提供し学生の問題意識を喚起する。毎回、講義内容に関連した課題を提示しレポートを作成させ、子どもと保育・教育に関する分野への興味・関心を高め、今後の方向性を確認させることを目標とする。					
到達目標	1.子どもと子どもを取り巻く世界について、保育・教育の各専門分野の視点から考えることができる。 2.子ども・保育・教育に対する関心を高めることができる。 3.各自の今後の学修の方向性を明確にすることができる。 4.各講義の分野に関して、子どもに興味・関心を持たせることができる。■					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学修する力				
評価方法	毎回提出する課題文(各回 10 点満点)及び授業への貢献度を総合して評価する。 全体の総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	毎回課される課題文は、担当者がコメントを記入し、次週に学生に返却する。					
使用教材	テキストはないが、必要に応じて資料を担当教員が配布する。					
1	講義内容	オリエンテーション(中村博生) ■				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスを読んで、子どもの保育・教育に関する新聞記事や書籍に触れる。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。			1.5 時間
2	講義内容	子どもと科学(片山豪):身近な環境に目を向ける動機づけを行う。■				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。特に子どもの理科に対する興味・関心と学習意欲に関するところを調べる。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、関連書籍等に目を通す。子どもが理科を好きになる意義を考え、そのためにはどうしたら良いか考えをまとめる。			1.5 時間
3	講義内容	子どもと言葉(菅野陽一郎)				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。			1.5 時間
4	講義内容	子どもと数(小泉健輔)				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。			1.5 時間
5	講義内容	子どもと運動(山西加織)				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。			1.5 時間
6	講義内容	子どもと音楽(岡本拓子)				

	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
7	講義内容	子どもと美術(石原綱成)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
8	講義内容	支援を要する子どもの心(小竹利夫)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
9	講義内容	子どもと健康(丸山健一)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
10	講義内容	子どもと生活(栗原幸正)		
	該当する到達目標	予習	「しつけ」に関して新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
11	講義内容	子どもと家族(千葉千恵美)		
	該当する到達目標	予習	子どもと家族に関連する社会の動向を知るため新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料を見直し講義内容の理解を深め、関連書籍等に目を通し整理をする。	1.5 時間
12	講義内容	子どものこころ(板津裕己)		
	該当する到達目標	予習	予習課題(事前に配布)に取り組み、子どもに係るこころの問題に関心を持つ。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義内容が、身近に起こり得る問題であるという認識のもとに理解を深める。 事後課題に取り組む。	1.5 時間
13	講義内容	子どもと人権(小西尚之)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
14	講義内容	子どもと保育(富田純喜)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
15	講義内容	子どもと英語(中村博生) ■		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する新聞記事や書籍に触れる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料を読み直し、講義内容の理解を深めるとともに、課題に取り組む。	1.5 時間
備考	担当の先生のオフィスアワーとメールアドレスは、他の科目で確認してください。 各講義の内容について関心を深めるために、講義形式やグループ討議などで講義を進める。課題に関する問題意識を高め、レポートを課し評価を加えて返却することで子どもを取り巻く環境についての理解を促す。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		特別支援教育入門(専門教養)			LSE015	講義
英文名		Introduction to Special Needs Education				
担当教員		小竹 利夫 五十嵐 一徳 村田 美和				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標		学生が特別支援教育の概念・システム・専門職に求められること等の骨格について理解すること。				
到達目標		1.特別支援教育に関する基礎的事項について説明できる。 2.就学前の保育における特別支援教育について説明できる。 3.就学後の教育における特別支援教育について説明できる。				
学位授与方針		✓	豊かな人間性と教養			
との対応		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		定期試験 70%と毎回のコメント 30%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック		コメントに対して、随時授業内でフィードバックする。				
使用教材		教科書の他に、「特別支援学校 教育要領・学習指導要領」および「特別支援学校学習指導要領解説」を使用する。				
1	講義内容	授業の目標、進め方、評価の仕方について				
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。			1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。			1.5 時間
2	講義内容	特別支援教育の基礎知識(特別支援教育とは)				
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。			1 時間
		1	復習	特別支援教育の概要について理解する。		
3	講義内容	特別支援教育の基礎知識(特別支援教育の枠組みやそれを進める上でのシステムなど)				
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。			1 時間
		1	復習	特別支援教育の枠組みやそれを進める上でのシステムなどを理解する		
4	講義内容	特別な支援が必要な子ども(自閉症スペクトラム障害・知的障害)				
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。			1 時間
		1	復習	自閉症スペクトラム障害・知的障害について理解する。		
5	講義内容	特別な支援が必要な子ども(言語障害・情緒障害)				
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。			1 時間
		1	復習	言語障害・情緒障害について理解する。		
6	講義内容	特別な支援が必要な子ども(LD・ADHD)				
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。			1 時間
		1	復習	LD・ADHD について理解する。		
7	講義内容	特別な支援が必要な子ども(肢体不自由・病弱)				
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。			1 時間
		1	復習	肢体不自由・病弱について理解する。		

8	講義内容	特別支援が必要な子ども(視覚障害・聴覚障害)		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1	復習	視覚障害・聴覚障害について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	特別支援教育に関わる法令(発達障害者支援法・障害者総合支援法など)		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1	復習	特別支援教育に関わる法令について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	特別支援学校の役割について		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	特別支援学校の役割について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	就学前の特別支援教育と保護者との連携について		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	2	復習	就学前の特別支援教育と保護者との連携について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	就学後の特別支援教育と卒後の進路について		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	3	復習	就学後の特別支援教育と卒後の進路について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	支援に必要なツールについて		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	2,3	復習	支援に必要なツールについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	これからの特別支援教育(共生社会に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育など)		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1,2,3	復習	これからの特別支援教育(共生社会に向けたインクルーシブ教育システムなど)について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	14 回までの講義内容を復習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	14 回までの講義内容を復習する。	2 時間
備考	・小竹(オフィスアワー:月 3 限、火 4 限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 4 階 403) ・五十嵐(オフィスアワー:木曜日 2 限目、金曜日 2 限目 メールアドレス:igarashi-k@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 5 階 506) ・村田 (オフィスアワー:火曜 2 限、金曜 2 限 メールアドレス:murata-m@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 502 号室) ・授業期間全体を通じた授業の進め方:配付プリントに基づき視覚機器を用いながら説明をします。 ・参考書については授業内で紹介する。 ・予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	保育原理(保育・教育の原理)			CEP151	講義
英文名	Principles of Early Childhood Education				
担当教員	岡本 拡子 ・ 内田 祥子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	保育という営みの背後にある歴史や原理を理解する。				
到達目標	1.保育の意義を理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。				
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業内での課題 30%・期末試験 70%				
課題に対するフィードバック	課題にコメントし返却する				
使用教材	保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・認定こども園教育・保育要領解説				
1	講義内容	オリエンテーション 保育について学ぶ意義・保育の理念とは			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでくる		1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
2	講義内容	児童の最善の利益を考慮した保育			
	該当する到達目標	予習	児童の最善の利益とは何かについて考え、自分なりの考えを書いてくる		1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
3	講義内容	保育の社会的意義			
	該当する到達目標	予習	保育の社会的意義とは何かについて考え、自分なりの考えを書いてくる		1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
4	講義内容	保育所保育と家庭的保育			
	該当する到達目標	予習	保育所保育の特徴とは何かを考え、自分なりの考えを書いてくる		1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
5	講義内容	保育所保育指針の制度的位置づけ			
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針第 1 章を読んでくる		1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
6	講義内容	保育の基本①養護と教育の一体性			
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる		1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
7	講義内容	保育の基本②環境を通しておこなう保育			
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んでくる		1.5 時間

	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
8	講義内容	保育の基本③発達過程に応じた保育		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んてくる	1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
9	講義内容	保育の基本④保護者との緊密な連携		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んてくる	1.5 時間
	2	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
10	講義内容	保育の方法①生活と遊びを通して総合的にこなう保育		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んてくる	1.5 時間
	3	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
11	講義内容	保育の方法②保育における個と集団への配慮		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んてくる	1.5 時間
	3	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
12	講義内容	保育の方法③計画・実践・記録・評価・改善の循環過程		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針の該当ページを読んてくる	1.5 時間
	3	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
13	講義内容	保育の思想①諸外国の保育思想		
	該当する到達目標	予習	諸外国の保育思想について調べてくる	1.5 時間
	4	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
14	講義内容	保育の基本②日本の保育思想		
	該当する到達目標	予習	日本の保育思想について調べてくる	1.5 時間
	4	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
15	講義内容	まとめ：保育における現代的課題		
	該当する到達目標	予習	保育における現代的課題について自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	5	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
備考	授業は講義形式で行う。テキストとともに毎時教員が作成した資料を配布し説明を行う。復習では、毎時配布する資料に記載された課題に取り組むこととする。 内田のオフィスアワーは月曜 2・3 限です。(研究室 410) uchida-s@takasaki-u.ac.jp 岡本のオフィスアワーは火曜 3 限、水曜 4 限です(研究室 404) okamoto@takasaki-u.ac.jp			

科目名	教育基礎論 A(保育・教育の原理)				CEP001	講義
英文名	Principles of Education A					
担当教員	浦崎 源次 小西 尚之 富田 純喜					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位			
講義目標	本講義は、教育学の基礎的な知識となる、教育の原理、歴史、思想、教育制度、様々な現代の問題や様々な教育実践について学び、教職に携わる者に求められる基礎的な資質の獲得を目指す。特に、近・現代の公教育の歴史を学ぶことや、教育の原点と言われる障害児教育の実践から学ぶこと、さらには教育に関わる様々な事象を社会問題として認識する方法を学ぶことを通して、教育の現代的問題について、歴史や社会構造の観点を含んで考察できる力の獲得を目指す。					
到達目標	1.教職に携わる者に求められる教育学に関する基礎的な知識を身につけている。 2.教育実践を行うに必要な基礎的な資質を身につけている。					
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業中に行う小テスト(約 70%)、授業への参加・貢献度など平常点(約 30%)を総合して評価する。					
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。					
使用教材	授業担当者の作成資料による。					
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスを読んで、毎回の授業内容を確認し、自分との関連などを考えておく。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、授業の概要を確認し、教師論を学ぶ意味を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	教育とは何か				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	人間形成と教育				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	子ども観の変遷				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	就学前の教育と保育(1) 教育と保育の違い				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間
6	講義内容	就学前の教育と保育(2) 実践における基本的な考え方				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			1.5 時間

7	講義内容	西洋の教育の歴史		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	日本の教育の歴史 (1) 古代～近代(明治)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	日本の教育の歴史(2) 近代(大正)～現代(平成)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	授業と評価(カリキュラムを含む)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	青年期と教育		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	現代日本の障害児教育		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	教育の公共性と教師の問題		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	「能力」の問題		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	障害児の教育実践から見た教育のあり方		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	15回分の資料を読み直し、講義内容を理解する。	1.5 時間
備考	(浦崎)オフィスアワー: 金曜 3 限 メールアドレス: g-urasaki@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 407 研究室 (小西)オフィスアワー: 水曜 6 限、木曜 6 限 メールアドレス: konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 409 研究室 (富田)オフィスアワー: 火曜 4 限、水曜 2 限 メールアドレス: tomita-t@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 406 研究室 3 人の担当者がそれぞれの専門分野を講義し、その後に小テストで理解度を確認していく、という方法で行う。 予習・復習については、小テストの学習等で補完すること。			

科目名	教育制度論 A(保育・教育の原理)			CEP002	講義
英文名	Theory of Educational Systems A				
担当教員	小西 尚之				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択必修 2 単位		
講義目標	教師を目指す者にとって、我が国の教育制度を正しく理解しておくことは重要なことである。本授業では、「子ども」や「教育」に関わる制度について、主に「社会」との関係から考察していく。授業の進め方としては、各テーマについての説明を聞くだけではなく、話し合い活動を通じて課題に取り組むことによって理解を深めていく。さらに、関連するテーマについて調査し発表することによって、発展的な学習を行う。				
到達目標	1.我が国の教育制度の概要について理解している。 2.他者と協力しながら課題に積極的に取り組むことができる。 3.各自のテーマについて意欲的に調べ発表をすることができる。				
学位 授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	小テストに約 30%、レポート・発表に約 40%、日常点(授業への参加、授業態度、課題への取り組み、討論、授業に対する貢献度等)に約 30%を配分して総合評価する。				
課題に対するフィードバック	試験後に出題の意図等を説明する。				
使用教材	教科書:『教師のための教育学シリーズ 11 子どもと教育と社会』腰越滋編著、学文社、2016 年、2,100 円(税別)				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスや教科書のまえがきを読んでおく。	1.5 時間	
	1	復習	資料を読んで、授業の概要を確認し、教育制度を学ぶ意味を理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	学校の制度			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	教員の制度			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	社会教育の制度			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	教育の機会均等			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	日本国憲法と教育基本法			

	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	世界の子育て事情		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 1 章(1～18 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	社会化と子ども観・青年期		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 2 章(19～38 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	教育とジェンダー		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 3 章(39～52 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校教育と受験体制		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 4 章(53～80 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	学習する意義		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 5 章(81～99 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	大学教育の変容		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 6 章(100～126 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	教師と学校組織		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章(127～147 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	生涯学習社会		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 8 章(148～169 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	日本社会における子ども		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 9 章(170～185 ページ)を読んでおく。	1.5 時間
	2,3	復習	教科書・資料を読んで、専門用語について理解する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー： 水曜 6 限、木曜 6 限 メールアドレス： konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室： 8 号館 4 階 409 研究室 担当者が専門分野を講義し、その後に小テストで理解度を確認していく、という方法で行う。 予習・復習については、小テストの学習等で補完すること。 履修上の注意： 少人数や全体での話し合い活動に加え、全員が各自の興味があるテーマをグループで調査・発表してもらう予定です。他者と協力しながら、主体的・積極的に学ぶ意欲が無い人には不向きです。			

科目名	地域教育社会論(保育・教育の原理)			CEP003	講義
英文名	Regional Communities and Education				
担当教員	吉田 恵子				
科目に関連した実務経験	公立小・中・高校の教歴あり:担任、学年主任、保健衛生主任、JRC 担当、緑化担当、地域連携担当等(経験)。群馬県社会教育委員:学社連携に務める(経験)。カウンセラー:保護者・児童・教員の相談にあたる(現在)。日本キャンプ協会・群馬県オリエンテーリング協会員:児童生徒の野外教育にあたる(現在)。主任児童委員:地域と学校の連携および事案の連絡調整に務める(現在)				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択必修 2 単位		
講義目標	幼稚園・小学校・中学校は、子どもの教育を受ける権利を保障する学校であり、地域住民や保護者との社会的な連携協力なしには円滑に教育活動ができない。この点に鑑み、その具体的な連携協力のあり方を、幼稚園・小学校・中学校と地域・保護者との望ましい関係、また、地域住民・保護者から寄せられるさまざまなクレーム、さらにはトラブルにまで発展してしまったケースなどを提示して、その対応と解決を考え、相互のあるべき連携協力関係を実践的に構想できるようにする。				
到達目標	1.地域住民や保護者たちとどのように連携協力していくか、教育にあたる上での基本的事項が理解できる。 2.幼稚園・小学校・中学校が地域社会の中でどのような制度的位置を占めているかを理解できる。 3.地域住民・保護者と幼稚園・小学校・中学校で生じるトラブル事例などを素材に、問題の処理・解決について具体的に考えられる。■ 4.ロールプレイを通じて、問題の処理・解決について実践力をつけることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中に行う 3 回の小テストに 70%、授業貢献度に 30%を配分して総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	授業中の貢献度やロールプレイはその都度評価する。				
使用教材	資料を配布する。				
1	講義内容	子どもの教育を受ける権利と学校制度			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、授業概要を理解する	1.5 時間	
	1,2	復習	講義の方針を理解し、子どもの教育を受ける権利をめぐる諸問題を理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	学校教育・教師と地域社会■			
	該当する到達目標	予習	地域社会における学校の位置づけを調べる。	1.5 時間	
	1,2	復習	学校に寄せられる地域社会のクレーム・トラブルの概要を理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	学校教育・教師と保護者■			
	該当する到達目標	予習	保護者とのトラブルについて調べる。	1.5 時間	
	3	復習	保護者の求めているものを理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	障害のある子どもの教育を受ける権利			
	該当する到達目標	予習	障害のある子どもの入園・入学について調べる。	1.5 時間	
	2,3	復習	特別支援教育におけるクレーム・トラブルの概要を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	学校・地域・保護者の連携協力関係■ 第 1 回小テスト			

	該当する到達目標	予習	学校・地域・保護者の連携について、実践事例を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	資料に基づき、連携の課題を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	学校・教師に対する地域住民・保護者のクレーム■		
	該当する到達目標	予習	学校・教師にどのようなクレームがあるか、調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ロールプレイの復習をし、クレームの処理・対応力をつける。	1.5 時間
7	講義内容	学校・教師と地域住民・保護者との間のトラブル■		
	該当する到達目標	予習	学校・教師と地域住民・保護者間のトラブルについて調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ロールプレイの復習をし、クレームの処理・対応力をつける。	1.5 時間
8	講義内容	教育内容・方法をめぐる苦情とその対応■		
	該当する到達目標	予習	教育内容・方法をめぐる苦情を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ロールプレイの復習をし、苦情の処理・対応力をつける。	1.5 時間
9	講義内容	教育環境をめぐる問題■		
	該当する到達目標	予習	教育環境をめぐる問題を調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ロールプレイの復習をし、問題の処理・対応力をつける。	1.5 時間
10	講義内容	教育評価をめぐる問題■ 第2回小テスト		
	該当する到達目標	予習	教育評価をめぐるトラブルについて調べる。	1.5 時間
	3,4	復習	ロールプレイの復習をし、問題の処理・対応力をつける。	1.5 時間
11	講義内容	入園・入学をめぐる裁判事例		
	該当する到達目標	予習	入園・入学をめぐる裁判事例を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	判例の読み方を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	送迎をめぐる裁判事例		
	該当する到達目標	予習	送迎をめぐるトラブルについて調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	判例の読み方を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	教育施設をめぐる裁判事例		
	該当する到達目標	予習	教育施設をめぐるトラブル・裁判について調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	裁判のメリット・デメリットについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	プール事故をめぐる裁判事例		
	該当する到達目標	予習	プール事故をめぐる裁判事例を調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	安全教育と事故防止について、学校・教師の役割を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	保護者・地域の連携協力 第3回小テスト		
	該当する到達目標	予習	保護者・地域の連携協力のあり方を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	授業で得た講義の内容を振り返り、学校・地域の連携を理解する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 月曜1限, 水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方: グループワークでロールプレイや討議を繰り返しながら、理論と共に実践力を付けていきます。 担当教員メールアドレス: yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8号館 503 研究室 履修に関して: 教育・保育の問題やトラブルに関するニュースに目を配り、新聞記事等を収集しておくこと。 交渉術、仲裁のロールプレイがある。意欲的に授業に参加すること。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

4. 科目名		子ども家庭福祉Ⅰ（保育・教育の原理）			CEP152	講義
英文名		Child Family WelfareⅠ				
担当教員		千葉 千恵美				
科目に関連した実務経験		過去の場合：保育士として市立保育所に勤務経験 現在の場合：大学内機関「子ども家族支援センター」で保育士、心理相談員として勤務(現在)				
学年・開講期		2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		現代の子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。また子ども家庭福祉の現状と課題、制度や実施体系、子ども家庭福祉の動向と課題および解決方法を理解する				
到達目標		1.子ども家庭福祉の現状と課題、動向について理解する事が出来る ■ 2.子ども家庭福祉の歩みと歴史、子どもの人権について理解する事が出来る 3.子ども家庭福祉に関する法制度と実施機関、障害児について理解する事が出来る■ 4.母子保健、ひとり親支援、社会的養護の必要性や子育て支援保育内容について理解する事が出来る■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		事前の予習及び積極的な授業参加、授業後の感想シート 20%、定期試験を評価する 80%				
課題に対するフィードバック		業終了後提感想シートを記述し提出する、その内容についてコメントをおこないフィードバックする。また試験課題についても内容をフィードバックする				
使用教材		保育士をめざす子ども家庭福祉（株）みらい 2018				
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標 1,2	予習	子ども家庭福祉について事前に第 1 章 p11-p23 を調べ予習する			1.5 時間
		復習	子ども家庭福祉にむけた内容について振り返り復習をする			1.5 時間
2	講義内容	子どもの権利について				
	該当する到達目標 1,2	予習	子どもの権利について事前に第 2 章 p24-p39 を調べ予習する			1.5 時間
		復習	子どもの権利について必要な事項を整理し復習をする			1.5 時間
3	講義内容	子ども家庭福祉の成り立ちについて				
	該当する到達目標 1,2	予習	子ども家庭福祉の成り立ちについて事前に第 3 章 p40-p55 を調べ予習する			1.5 時間
		復習	子ども家庭福祉の成り立ちや考え方を整理し復習する			1.5 時間
4	講義内容	子ども家庭福祉の法と行政・実施機関について■				
	該当する到達目標 1,2	予習	子ども家庭福祉関連法律と行政を事前に第 4 章 p56-p78 を調べ予習する			1.5 時間
		復習	子ども家庭福祉関連法律と行政について内容を整理し復習する			1.5 時間
5	講義内容	子ども家庭福祉の施設について■				
	該当する到達目標 2,3	予習	子ども家庭福祉施設の役割と種類・第 5 章 p79-p95 を読み事前に予習する			1.5 時間
		復習	子ども家庭福祉施設の役割と種類・運営について整理し復習する			1.5 時間
6	講義内容	社会的養護とはなにか■				
	該当する到達目標 2,3,4	予習	社会的養護について事前に第 6 章 p96-p115 を調べ予習する			1.5 時間
		復習	社会的養護と子ども家庭福祉機関の保育士役割に必要な事項を復習する			1.5 時間
7	講義内容	保育サービスと地域子育て支援 ■				
	該当する到達目標	予習	保育サービスの現状や地域子育て支援を事前に第 7 章を調べ予習する			1.5 時間

	1,3,4	復習	多様化する保育ニーズと地域子育て支援の取り組みや課題を理解し復習する	1.5 時間
8	講義内容	障害児福祉サービスについて		
	該当する到達目標	予習	障害児を取り巻く現状を事前に第 8 章 p131-p149 を調べ予習する	1.5 時間
	2,3,4	復習	障害児と家庭福祉サービス現状を整理し復習する	1.5 時間
9	講義内容	子どもを取り巻く諸問題■		
	該当する到達目標	予習	児童虐待について第 9 章 150-p158 について事前に調べ予習する	1.5 時間
	1,2,4	復習	児童虐待について現状を整理し対応策の復習をする	1.5 時間
10	講義内容	子どもの健全育成とはなにか		
	該当する到達目標	予習	子どもの健全育成について事前に第 10 章 p168-p177 を調べ予習する	1.5 時間
	1,2,4	復習	子どもの健全育成や放課後児童、児童厚生施設の役割を復習する	時間
11	講義内容	少年非行について		
	該当する到達目標	予習	少年非行の現状と子どもたちの背景を事前に p162-p168 を調べ予習する	1.5 時間
	3,4	復習	少年非行の対応と専門機関および専門職の役割の必要性について復習する	1.5 時間
12	講義内容	ひとり親家庭への支援について■		
	該当する到達目標	予習	ひとり親の生活実態、支援について事前に p177-p182 を調べ予習する	1.5 時間
	1,3,4	復習	ひとり親の経済的状況を含めた生活実情や具体的な支援方法を復習する	1.5 時間
13	講義内容	母子保健と子育て支援サービス■		
	該当する到達目標	予習	母子保健のサービスや現状について事前に p182-p187 を調べ予習する	1.5 時間
	4	復習	妊娠・出産等母子保健サービスとの関連性を含め必要事項について復習する	1.5 時間
14	講義内容	子ども家庭福祉の専門職と専門技術について■		
	該当する到達目標	予習	子ども家庭福祉に関わる専門職を事前に第 11 章 p188-p205 を読み予習する	1.5 時間
	4	復習	子ども家庭福祉に必要な専門職や支援内容について復習する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 子ども家庭福祉で学んだ内容について		
	該当する到達目標	予習	今後保育現場で必要な子ども家庭福祉に関する事項を事前に調べ予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	子ども家庭福祉の課題と今後の課題方向性や総合的に学んだ内容を復習する	1.5 時間
備考	授業の進め方: 授業の内容として講義形式をとり、その後それぞれ考えたことをグループで話し合い、毎回自分のまとめを行う オフィスアワー 火曜日 4, 5 限目 chiba@takasaki-u.ac.jp KEY WORD 子ども家庭福祉の現状と課題 (■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	子ども家庭福祉Ⅱ（保育・教育の原理）			CEP153	講義
英文名	Child Family Welfare II				
担当教員	千葉 千恵美				
科目に関連した実務経験	過去の場合：保育士として市立保育所に勤務経験 現在の場合：大学内「子ども家族支援センター」心理相談員として勤務				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	子ども家庭福祉の現状を理解するとともに、複雑化し多様化する保育現場で対応できる保育に必要な知識や技術を習得し、子ども家庭福祉に必要な知識と技術を応用できる実践力の獲得を目指す				
到達目標	1.子ども家庭福祉の現状を知り,様々な課題を見つけ支援する事が出来る。■ 2.子ども家庭福祉の法体系と対応や役割を理解し家族に添った支援を考える事が出来る。 3.他機関連携や社会的養護を含む里親制度を理解し、社会的養護の支援、応用を考える事が出来る。■ 4.相談支援方法について様々な家庭や家族を理解し子育て支援にむけた対応する事が出来る。■ 5.教育を含め地域や学校 家庭で対応する支援について考える事が出来る。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	事前の予習や授業の積極的な参加、授業後の感想シート 20%、定期試験判断する 80%				
課題に対するフィードバック	子どもや家庭福祉への具体的な支援方法について、授業で示した事例や支援方法を感想シート等授業中フードバックする。試験課題内容についてはコメントをする				
使用教材	知識を生かし実践力をつける子ども家庭福祉 流石智子監修 浦田雅夫編著 2018				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標 1.	予習	子ども家庭福祉で示される課題を事前に第 1 章 p13-p26 を読み予習する	1.5 時間	
		復習	子ども家庭福祉に必要な支援課題と支援内容を整理し復習する	1.5 時間	
2	講義内容	子ども家庭福祉について必要な対応と子どもへの理解■			
	該当する到達目標 1,2	予習	子ども家庭福祉について必要な事項を事前に第 2 章 p29-p33 で調べ予習する	1.5 時間	
		復習	子ども家庭福祉の考え方について、必要事項を整理し復習する	1.5 時間	
3	講義内容	子ども家庭福祉のこれからの課題について■			
	該当する到達目標 1,2	予習	子ども家庭福祉に必要な課題について事前に第 3 章 p36-p48 を調べ予習する	1.5 時間	
		復習	子ども家庭福祉の課題について整理した内容を復習する	1.5 時間	
4	講義内容	子ども家庭福祉に関連する法と支援内容 専門職の役割について			
	該当する到達目標 1,2,3,	予習	児童福祉六法について事前に第 4 章 p49-p52 で調べ予習する	1.5 時間	
		復習	子ども家庭福祉の法律と支援内容、専門職の役割について結び付け復習する	1.5 時間	
5	講義内容	保育サービスと地域子育て支援の状況■			
	該当する到達目標 2,3,4	予習	保育サービスの現状と課題について事前に第 5 章 p62-p74 を予習する	1.5 時間	
		復習	保育サービスと地域子育て支援を結びつけ必要な専門職の役割復習する	1.5 時間	
6	講義内容	母子の健康と子育て支援サービス■			
	該当する到達目標 1,4	予習	結婚、妊娠出産など家庭と育児不安を事前に第 6 章 p76-p87 を読み予習する	1.5 時間	
		復習	母子の健康と子育て支援サービスを理解し子育て支援の役割を復習する	1.5 時間	
7	講義内容	障害児福祉 の家庭支援、具体的支援、サービスについて■			

	該当する到達目標	予習	障害児と家庭への福祉サービスについて第7章 p89-p98を予習する	1.5 時間
	1.2,4.	復習	障害児と家庭に向けた支援内容について復習する	1.5 時間
8	講義内容	子どもの健全育成について一健やかに育つ環境とは何かを考えるー		
	該当する到達目標	予習	健全育成と児童厚生施設の役割機能に第8章 p99-p112を読み予習をする	1.5 時間
	1,4,5	復習	健全育成について具体的に必要な関わり実践方法を復習する	1.5 時間
9	講義内容	社会的養護の実際について 1ー社会的養護の実情ー■		
	該当する到達目標	予習	社会で子育てをする実情について事前に第9章で調べ予習する	1.5 時間
	1,3,4	復習	児童養護と社会的養護、背景や対応や保育士の役割について整理し復習する	1.5 時間
10	講義内容	社会的養護の実際について 2ー里親による養育についてー■		
	該当する到達目標	予習	里親による養育についての現状を事前に第9章 p119-p121を読み予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	里親についての必要申請事項などを含め支援内容を整理し復習する	1.5 時間
11	講義内容	非行とその支援について事例検討からーロールプレイによる対応ー		
	該当する到達目標	予習	少年非行にむけた支援について事前に第10章 p130-p137を読み予習する	1.5 時間
	1,2,3,5	復習	少年非行の支援にむけた事例検討や必要事項を整理し復習する	1.5 時間
12	講義内容	ひとり親家庭への支援方法 事例検討からーロールプレイによる対応ー■		
	該当する到達目標	予習	ひとり親家庭についての支援方法を事前に第11章で調べ予習する	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	事例検討によるロールプレイから得られた実践的支援方法を整理し復習する	1.5 時間
13	講義内容	外国籍の子どもへの支援 事例検討■		
	該当する到達目標	予習	日本に住む外国籍の子ども達の実情について第12章で事前に調べ予習する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	具体的な支援方法など保育現場の課題を整理し復習する	1.5 時間
14	講義内容	学校での子ども達に向けた支援について		
	該当する到達目標	予習	学校で何が問題になっているのか事前に第13章を読み予習する	1.5 時間
	1,3,4,5	復習	教育現場の実情といじめ、不登校の支援方法の事項を整理し復習する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 保育現場における子ども家庭福祉相談活動の実際■		
	該当する到達目標	予習	子ども家庭福祉の相談援助支援について事前に第14章を調べ学習する	1.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	子ども家庭福祉に必要な支援を総合的に必要事項について整理し復習する	1.5 時間
備考	授業の進め方: 毎回講義後、学んだ事柄をグループワークで、話し合い自分のまとめを行い内容の整理をする。 オフィスアワー火曜日 4, 5 限目 chiba@takasaki-u.ac.jp KEY WORD 児童家庭福祉の課題と解決方法 相談援助支援 事例検討 (■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	障害者福祉論(保育・教育の原理)			CEP154	講義
英文名	Welfare of Persons with Disabilities				
担当教員	野田 敦史				
科目に関連した実務経験	指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	現代は障害児者の施設や特別支援学校・学級に限らず、小中学校・幼稚園・保育所にも障害をもった子どもが多く在籍しており、障害児者の福祉に関する基礎知識は保育者・教育者には必要かつ重要である。障害者福祉の理念や国内外の歴史、障害の概念や障害者の実態、障害者に関する法律や制度・サービス内容について理解し、必要な体系的知識習得をめざす。特に身体・知的・精神の3障害と発達障害に関する知識及び障害者自立支援法に基づく知識理解を必須とする。				
到達目標	1.障害の意味と障害を持つ人々の立場について説明することができる。■ 2.障害者福祉の歴史について説明することができる。 3.わが国の障害者の実態を社会的統計資料や記録から理解することができる。■ 4.障害者福祉現場にかかわりのある各種の専門職の役割について説明することができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 50%、平常点 25%、小テストおよびレポート点 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。				
使用教材	教科書:小澤 温 編「よくわかる障害者福祉」ミネルヴァ書房。 その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。				
	講義内容	ガイダンス ―障害者福祉論を学ぶ意義―■			
1	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。		1.5 時間
	講義内容	障害の定義・障害者の生活実態(1)(全体)			
2	該当する到達目標	予習	教科書 II-1 を読んでおく。		1 時間
	1,3	復習	「障害構造論」について理解する。		1.5 時間
	講義内容	障害者の生活実態(2)(知的障害)■			
3	該当する到達目標	予習	教科書 II-4 を読んでおく。		1 時間
	3	復習	AAMD、文部科学省、厚生労働省の定義の違いを理解する。		1.5 時間
	講義内容	障害者の生活実態(3)(身体障害)■			
4	該当する到達目標	予習	教科書 II-3 を読んでおく。		1 時間
	3	復習	身体障害の種類と構成割合が理解できる。		1.5 時間
	講義内容	障害者の生活実態(4)(精神障害)■			
5	該当する到達目標	予習	教科書 II-5 を読んでおく。		1 時間
	3	復習	精神障害の特性、構造、福祉的アプローチなどを理解する。		1.5 時間

6	講義内容	障害の概念・分類(ICIDH と ICF)		
	該当する到達目標	予習	教科書 II-2 を読んでおく。	1 時間
	1	復習	ICIDH と ICF の相違などについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	障害者福祉思想と支援の歴史		
	該当する到達目標	予習	教科書 I-7,8,9,10,11 を読んでおく。	1 時間
	2	復習	ノーマライゼーション、リハビリテーション、自己決定などの用語を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	障害者福祉制度と支援体系■		
	該当する到達目標	予習	教科書 VIII-1,2,3 を読んでおく。	1 時間
	2,3,4	復習	社会福祉基礎構造改革以降の障害者福祉関連法の内容と目的を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	障害者支援サービスの内容■		
	該当する到達目標	予習	教科書 VIII-4 を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	障害者総合支援法に規定する支援サービス内容を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	障害児に対する支援と教育■		
	該当する到達目標	予習	教科書 IV-12,13 を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	分離教育と統合教育の利点と課題を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	就労支援と所得保障		
	該当する到達目標	予習	教科書 V-11 を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	一般就労と福祉的就労の内容と方法について理解する	1.5 時間
12	講義内容	専門職の役割と関係機関との連携■		
	該当する到達目標	予習	教科書 IV-6,7,8 を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	各相談所・センターの機能および専門職について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	発達障害者支援法		
	該当する到達目標	予習	教科書 II-4 を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	発達障害者支援法の目的と内容について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	障害者差別解消法と人権		
	該当する到達目標	予習	内閣府 HP「障害者差別解消法」概要に目を通しておく。	1 時間
	3,4	復習	障害者差別解消法の目的と取り組みについて理解する。	1.5 時間
15	講義内容	バリアフリーとユニバーサルデザイン		
	該当する到達目標	予習	教科書 VII-3 を読んでおく。	1 時間
	1,4	復習	バリアフリーとユニバーサルデザインの違いについて理解する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:木曜 3 限と 4 限、質問はメールでも受け付ける。 授業の進め方:予習でテキストを読んでおいた箇所の現場資料や記録(映像含む)を読解・視聴しながらディスカッションを通じて理解を深めさせる。 メールアドレス:noda@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会福祉(保育・教育の原理)				CEP155	講義
英文名	Social Welfare					
担当教員	野田 敦史					
科目に関連した実務経験	指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	現代社会における社会福祉の意義と国内外の歴史的変遷について理解し、社会福祉と児童家庭福祉および児童の人権や家庭支援との関連について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解し、今後の社会的動向と福祉的課題について考える。そのために身近な事例やビデオ教材などを用いて基礎を理解してから諸問題をについて考えていくようにする。					
到達目標	1.社会福祉の歴史について説明することができる。 2.わが国の社会福祉の制度および実施機関について体系的理解と説明ができる。■ 3.社会的統計資料から、わが国の社会福祉的課題について説明できる。 4.社会福祉現場にかかわりのある各種の専門職の役割について説明することができる。■					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	定期試験 50%、平常点 25%、小テストおよびレポート点 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。					
使用教材	教科書:基本保育シリーズ「社会福祉」監修 児童育成協会 中央法規出版 その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。					
	講義内容	ガイダンス ―社会福祉を学ぶ意義―				
1	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する			1 時間
	2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。			1.5 時間
	講義内容	社会福祉の概念と理念				
2	該当する到達目標	予習	教科書 第1講 Step1 を読んでおく。			1 時間
	1	復習	ノーマライゼーション、エンパワメント、自立の概念などを理解する。			1.5 時間
	講義内容	社会福祉の歴史的変遷				
3	該当する到達目標	予習	教科書 第1講 Step2 を読んでおく。			1 時間
	1	復習	エリザベス救貧法、恤救規則、福祉6法の内容・成立時期などを理解する。			1.5 時間
	講義内容	社会福祉の一分野としての児童家庭福祉■				
4	該当する到達目標	予習	教科書 第2講 全て を読んでおく。			1 時間
	1,2,3	復習	児童家庭福祉の対象・理念、児童福祉法の意義・概要・改正点などを理解する。			1.5 時間
	講義内容	児童の人権擁護と社会福祉				
5	該当する到達目標	予習	教科書 第3講 全て を読んでおく。			1 時間

	1,2,3	復習	児童の権利に関する条約の内容などを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	家庭支援と社会福祉■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第4講 全て を読んでおく。	1 時間
	1,2,3	復習	子どもの最善の利益を尊重する家庭支援の内容などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	社会福祉の制度と法体系■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第5講 全て を読んでおく。	1 時間
	1,2	復習	社会福祉 8 法それぞれの目的などを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	社会福祉行政と実施機関		
	該当する到達目標	予習	教科書 第6講 全て を読んでおく。	1 時間
	2,4	復習	福祉事務所、各種相談所・センター等の役割などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	社会福祉施設等■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第7講 全て を読んでおく。	1 時間
	2,4	復習	福祉サービス費用負担の方法、各社会福祉施設の役割などを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	社会福祉の専門職・実施者■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第8講 全て を読んでおく。	1 時間
	4	復習	保育士、社会福祉士、介護福祉士、児童福祉司等の役割などを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	相談援助の意義と原則■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第10講 全て を読んでおく。	1 時間
	4	復習	社会福祉援助技術の体系などを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第12講 全て を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	権利擁護制度などを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	少子高齢社会への対応		
	該当する到達目標	予習	教科書 第13講 全て を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	人口動態と少子化・高齢化の統計的理解をする。	1.5 時間
14	講義内容	地域福祉の推進とネットワーク■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第14講 全て を読んでおく。	1 時間
	3,4	復習	地域福祉の概念、市町村地域福祉計画などを理解する	1.5 時間
15	講義内容	社会福祉の諸外国の動向		
	該当する到達目標	予習	教科書 第15講 全て を読んでおく。	1 時間
	1,3	復習	福祉レジーム 3 類型、ネウボラなどを理解する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:木曜 3 限と 4 限、質問はメールでも受け付ける。 授業の進め方:予習でテキストを読んでおいた箇所のテーマについてスライド(パワーポイント)や現場資料、記録(映像含む)を提示しながら講義・解説する。 メールアドレス:noda@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	社会的養護 I (保育・教育の原理)			CEP156	講義
英文名	Social Care I				
担当教員	野田 敦史				
科目に関連した実務経験	指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	社会福祉の授業内容を踏まえて、現代社会における社会的養護の意義や国内外の歴史的変遷について理解をめざす。合わせて社会的養護の制度や仕組み、実践体系について理解する。また、施設養護の実際について、その原理や社会的養護との関連、施設養護の実際について、テキストのほかに施設の様子 のわかるビデオを視聴し、理解する。さらに児童家庭福祉との関連性や児童の権利擁護について考える。				
到達目標	1.社会的養護の歴史について説明することができる。 2.わが国の社会的養護の制度および実施機関について体系的理解と説明ができる。■ 3.社会的統計資料から、わが国の社会的養護の課題について説明できる。 4.要保護児童の支援について児童家庭福祉や権利擁護の視点から説明することができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 50%、平常点 25%、小テストおよびレポート点 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。				
使用教材	教科書:大竹智 山田利子編「保育と社会的養護原理」みらい。 その他、適宜レジュメを配布。動画記録等も視聴する。				
1	講義内容	ガイダンス ―社会的養護を学ぶ意義―			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する		1 時間
	2	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。		1.5 時間
2	講義内容	社会的養護の定義・理念・基本原理■			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 1 章を読んでおく。		1 時間
	2	復習	社会的養護の定義・理念・基本原理などを理解する。		1.5 時間
3	講義内容	社会的養護の体系■			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 6 章を読んでおく。		1 時間
	2	復習	施設養護と家庭養護、家庭的養護の体系的理解をする。		1.5 時間
4	講義内容	施設養護の特質と基本原則■			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 7 章を読んでおく。		1 時間
	2	復習	施設養護の特質、基本原理、各施設運営指針などを理解する。		1.5 時間
5	講義内容	施設養護の実際(1)乳児院			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 8 章-1 を読んでおく。		1 時間
	1,2,3,4	復習	乳児院の目的、支援内容、課題などを理解する。		1.5 時間
6	講義内容	施設養護の実際(2)母子生活支援施設			

	該当する到達目標	予習	教科書 第8章-2を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	母子生活支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
7	講義内容	施設養護の実際(3)児童養護施設 自立援助ホーム		
	該当する到達目標	予習	教科書 第8章-3を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	児童養護施設、自立援助ホームの目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
8	講義内容	施設養護の実際(4)障害児入所施設■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第9章-1,2を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	障害児入所施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
9	講義内容	施設養護の実際(5)児童発達支援センター		
	該当する到達目標	予習	教科書 第9章-3を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	児童発達支援センターの目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
10	講義内容	施設養護の実際(6)情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設		
	該当する到達目標	予習	教科書 第10章-1,2,3を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	施設養護の実際(7)障害者支援施設■		
	該当する到達目標	予習	前週で配布した障害者支援施設に関する資料を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	障害者支援施設の目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	家庭養護の実際(1)里親制度 養子縁組制度		
	該当する到達目標	予習	教科書 第11章-1,2を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	里親の定義、種類と要件、支援などを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	家庭養護の実際(2)ファミリーホーム		
	該当する到達目標	予習	教科書 第11章-3を読んでおく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	ファミリーホームの目的、支援内容、課題などを理解する。	1.5 時間
14	講義内容	社会的養護にかかわる専門職・専門機関■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第12章を読んでおく。	1 時間
	2,4	復習	児童相談所、児童家庭支援センター、FSW などの専門機関・専門職を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	社会的養護とソーシャルワーク■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第13章を読んでおく。	1 時間
	2,4	復習	個別支援計画の目的・意義、作成過程などを理解する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:木曜 3 限と 4 限、質問はメールでも受け付ける。 授業の進め方:予習でテキストを読んでおいた箇所のテーマについてスライド(パワーポイント)や現場資料、記録(映像含む)を提示しながら講義・解説する。 メールアドレス:noda@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの保健(保育・教育の原理)			CEP157	講義
英文名	Children's Health				
担当教員	丸山 健一				
科目に関連した実務経験	群馬大学医学部小児科及び群馬県立小児医療センターに小児科医として勤務(昭和 54 年～平成 30 年)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	子どもに多い疾患について、その症状と予防方法及び対処方法や簡単な処置の方法の知識を身につけ、乳幼児の保育・教育の現場で活用できるようにする。				
到達目標	1. 子どもに多い疾患について理解し、現場で対応できるようになる。■ 2. 保育中の子ども達の体調の変化に気付けるようになる。■ 3. 子どもの保健に関する様々な情報に対する関心を高める。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 80%、毎回授業終了時に提出する講義のまとめ及び質問・感想(小レポート)、授業参加度・学習態度 20%。				
課題に対するフィードバック	授業終了時に提出された小レポートについて、次の授業開始時に質問については回答し、必要に応じて再度説明する。				
使用教材	・保育保健 2016 監修・遠藤郁夫 編集・一般社団法人日本保育保健協議会 日本小児医事出版社 2,000 円＋税 ・保育所保育指針解説平成 30 年 3 月 厚生労働省編 フレーベル館 320 円＋税				
1	講義内容	オリエンテーション、最近の子どもの保健に関する情報の収集とレポート作成について			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	シラバスを読んで、子どもの健康に関するニュース、書籍に触れる。		1.5 時間
		復習	教科書 P.87～92 に目を通し、今後の学習への理解を深める。		1.5 時間
2	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 1.アレルギー疾患及び皮膚疾患について■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 P.104～109、167～168 入力目を通す。		1.5 時間
		復習	教科書及び配布資料を読み直し、アレルギー及び皮膚疾患についての理解を深める。		1.5 時間
3	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 2.小児がんについて■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 P.168 に目を通すとともに小児がんに関するニュース、書籍に触れる。		1.5 時間
		復習	教科書及び配布資料を読み直し、小児がんについての理解を深める。		1.5 時間
4	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 3.先天性心疾患及び川崎病について■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 P.169 に目を通すとともに、先天性心疾患に関するニュース、書籍に触れる。		1.5 時間
		復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。		1.5 時間
5	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 4.呼吸器疾患について■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 P.87～90、170 に目を通す。		1.5 時間
		復習	教科書及び配布資料を読み直し、呼吸器疾患についての理解を深める。		1.5 時間
6	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 5.消化器疾患について■			

	該当する到達目標	予習	教科書 P.88～89、170 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、消化器疾患についての理解を深める。	1.5 時間
7	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 6.腎臓・泌尿器疾患について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.171 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 7.発育(低身長等)・内分泌・代謝異常の疾患について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.166～167 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 8.低出生体重児及び脳・神経系疾患について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.168～169 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 9.運動器(筋肉・関節・骨)の疾患について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.169 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 10.目・耳・鼻・口・のどの疾患について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.171～172 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 11.先天異常、染色体異常、遺伝性疾患について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.167 に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	子どもの疾患の基礎知識 12.子どもと生活習慣病について■		
	該当する到達目標	予習	最近の子どもをめぐるニュース(肥満・やせ等)に関心を持つ。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教科書及び配布資料を読み直し、各疾患についての理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	保育中の子どもの健康状態、体調の変化について■		
	該当する到達目標	予習	教科書 P.2～7 及び配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配布資料及び教科書を読み直し、子どもの健康状態の変化に気付くための手法を考える。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書及び配布された資料を読み直す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	子どもを保育する上での重要な点を再度確認する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:金曜日 14:30～16:30 8号館 4階 408号室 メールアドレス:k-maruyama@takasaki-u.ac.jp 教科書の内容を補完する形で資料を配布し、学生が理解しやすいように適時スライドやDVDを使用し進めていく。また、授業終了時に小レポートを実施し、受講者の理解度を把握し、講義を進めていく。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	教育心理学 A(保育・教育の原理)			CEP004	講義
英文名	Educational Psychology A				
担当教員	板津 裕己				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	人が社会生活を営んでいくためには、学ぶよろこびや知る楽しみの経験を通して、自分自身で問題解決できる能力が求められる。このような能力を育てていくために、そして、人間関係能力の育成を促進するために教育心理学領域などで見いだされた研究成果を学ぶ。				
到達目標	1. 幼児、児童や生徒にとって経験することが大切な学習の機会であることを理解できるようになる。 2. 「学習」は楽しい経験であることを、学生自身が理解できる。また、子どもたちに伝えられるようになる。 3. 教育場面で、「意欲」や「健康な自己観」が大切であることに気づく。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	評価は、個人ワーク課題の提出状況(20 点)、小テスト(20 点)、課題レポート(10 点)および期末試験(50 点)を総合して行う。				
課題に対するフィードバック	小テストは、採点后に返却をする。 課題レポートは、コメントを付けた後に返却をする。				
使用教材	テキストは使用しない。授業進行に従いプリントや予習課題 を配布する。 参考書・補助教材 桜井茂男 学習意欲の心理学 –自ら学ぶ子供を育てる- 誠信書房 1997 中島・箱田・繁樹(編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣 2005 坂原明(編著) 保育のための教育心理学 –学ぶよろこび知る楽しさを育てる- おうふう 2009				
1	講義内容	心理学と教育心理学、発達課題と学習・学び			
	該当する到達目標 1	予習	「学習」や「意欲・やる気」について自分なりの考えをまとめておく。		1.5 時間
		復習	発達課題と学習・学びの意味について復習をしておく。		1.5 時間
2	講義内容	身体やこころの発達①–身体の発達、運動能力、言語能力-			
	該当する到達目標 1	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。		1.5 時間
		復習	身体や言葉の発達について復習をしておく。		1.5 時間
3	講義内容	身体やこころの発達②–記憶、思考、問題解決能力-			
	該当する到達目標 1,2	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。		1.5 時間
		復習	記憶、思考、問題解決能力といったこころの働きについて復習をしておく。		1.5 時間
4	講義内容	身体やこころの発達③–知的能力・創造性-			
	該当する到達目標 1,2	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。		1.5 時間
		復習	知的能力や創造性について復習をしておく。小テストへの準備。		1.5 時間
5	講義内容	自己観や社会性の発達、小テスト①			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。		1.5 時間
		復習	人との係わり経験を踏まえた自己観の発達過程について復習をしておく。		1.5 時間

6	講義内容	学びのさまざま、教授学習の理論		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	「学習とは何か」について考える。	1.5 時間
7	講義内容	意欲、欲求と動機づけ		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	意欲、欲求や動機づけが人間行動に及ぼす影響について考える。	1.5 時間
8	講義内容	学習意欲と原因帰属、学習と個性		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	原因帰属や個性と学習の関係について考える。	1.5 時間
9	講義内容	学校教育と学習意欲		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	学習意欲促進する方法について考える。	1.5 時間
10	講義内容	学習意欲を育てる方法		
	該当する到達目標 3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	学校教育場面で学習意欲を高めていく実際例を考える。	1.5 時間
11	講義内容	自己肯定感を育てる教育活動		
	該当する到達目標 3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	自己肯定感を育てる具体的な教育活動を自分で考える。小テストへの準備。	1.5 時間
12	講義内容	共感性、道徳観と思いやりのこころ、第 5 回から第 11 回までの学習内容について的小テスト		
	該当する到達目標 3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	集団生活を過ごす中で、道徳・倫理や思いやりの心の大切さについて考える。	1.5 時間
13	講義内容	パーソナリティと適応		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	「個性とは何か」「個性を引き出すとは」等の問題を考える。	1.5 時間
14	講義内容	学級集団づくり、集団行動		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	学校生活を楽しく生活するために必要なことについて考える。	1.5 時間
15	講義内容	学校教育での評価		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	本時の授業内容の key-word プリントを用いて、用語の確認を行う。	1.5 時間
		復習	公平・平等な評価のあり方について考える。全 15 回の学習内容を復習しておく。定期試験の準備を行う。	2 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス: itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 3 階 301 ・予習課題は、授業開始時に提出する。 ・予習課題や小テストの他に課題レポートを課す。 ・前週に授業内容の予習課題を配布して事前学習をしてもらいます。授業では、当該テーマの基本的な事項を解説するほか、関連するトピックスを紹介します。数回の授業ごとに小テストを実施し、テスト解説をすることで、学生の理解度を確認していきます。グループワークと代表者に拠る発表と学生全体で意見を交換する場も設けます。以上の作業を通して、心理学的知見の教育活動への積極的な適用ができるようにします。			

科目名	子ども家庭支援の心理学(保育・教育の原理)			CEP158	演習
英文名	Child and Family Support Psychology				
担当教員	板津 裕己				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	子どもとその家庭・家族を包括する視点から、親子関係や家族関係について学ぶ。さらに、乳幼児期の生じやすいこころの健康問題や、子どもの健やかな成長・発達を支える大人のこころの健康についても理解を深める。				
到達目標	1.乳幼児期までの発達過程について学び直す。 2.保育者として家庭支援への意識を高めるとともに、必要な知識や技術を得る。 3.保育者として乳幼児などへのこころの健康支援への意識を高めるとともに、必要な知識や技術を得る。 4.今日的な乳幼児や家族の諸問題について問題意識を持って考えられるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	小テスト(@10*5)、レポート課題(@15*2)と予習課題(20)を総合して評価を行います。				
課題に対するフィードバック	小テストは、採点后に返却をする。 課題レポートは、コメントを付けた後に返却をする。				
使用教材	保育所保育指針解説(平成 30 年3月) 厚生労働省(編) フレーベル館 その他、授業進行に従ってプリントを配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション:生涯発達心理学を学ぶ理由			
	該当する到達目標	予習	乳幼児が健やかに育つことができるための要件について考えておく。	1.5 時間	
		復習	人の生涯において乳湯叔父期の大切さを確認する。	1.5 時間	
2	講義内容	乳幼児期の発達過程① 身体的発達の視点から			
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間	
		復習	健やかな身体の発達に必要な要件について整理をする。	1.5 時間	
3	講義内容	乳幼児期の発達過程② 心理・社会的発達の視点から			
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間	
		復習	健やかな心や社会性の発達に必要な要件について整理をする。小テスト①への準備。	1.5 時間	
4	講義内容	家族と家庭、乳幼児と養育者との関係、小テスト①			
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間	
		復習	家族の大切さについて考える。	1.5 時間	
5	講義内容	家庭で行われる教育、家庭的養護			
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間	
		復習	今日の家庭教育の課題について考える。	1.5 時間	
6	講義内容	子どもとのコミュニケーションスキル			
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間	

		復習	乳幼児への係わり方について考える。小テスト②への準備。	1.5 時間
7	講義内容	子どもを取りまく諸問題について考えてみよう1 親子関係に起因する問題、小テスト②		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	今日の親子関係の課題について考える。	1.5 時間
8	講義内容	子どもを取りまく諸問題について考えてみよう2 父母の役割に係わる問題		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	子供が健やかに育つために父母が果たす役割について考える。小テスト③への準備。	1.5 時間
9	講義内容	こころの健康の考え方、幼児の不適応行動(概観、情緒障害とコミュニケーション障害)、小テスト③		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	幼児に生じそうな不適応行動について経験例などを参考に考える。	1.5 時間
10	講義内容	愛着障害と分離不安障害		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	乳幼児期の母子関係について考える。	1.5 時間
11	講義内容	登園しぶり、幼児のこころの健康ケアの留意点		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	登園しぶりをする子への対応を具体的に考える。小テスト④への準備。	1.5 時間
12	講義内容	こころの病、小テスト④		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	こころの病、こころの健康と不健康について復習をする。	1.5 時間
13	講義内容	保育者のこころの健康さが必要な理由		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	保育者のこころの健康さの大切さとその理由についてしっかりと理解する。	1.5 時間
14	講義内容	保護者の保育者への期待、ラポール		
	該当する到達目標	予習	グループワーク課題について自分の考えをまとめておく。	1.5 時間
		復習	保護者の期待に応えるために必要なことについて経験を踏まえて考える。小テスト⑤への準備。	1.5 時間
15	講義内容	発達援助における連携と協働、小テスト⑤		
	該当する到達目標	予習	協力や連携の意義について考える。	1.5 時間
		復習	本科目の学修内容を全体的に復習する。	2 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス: itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 3 階 301 ・授業時間内にグループワークを取り入れていきます。グループワーク課題は、事前に予習課題として各自で考えてきてもらいます。 ・レポート課題のテーマ、書式、提出方法や期限は、授業時間内に連絡をします。 ・前週に授業内容の予習課題を配布して事前学習をしてもらいます。授業では、当該テーマへの簡単な導入的解説、グループワークと発表、発表内容へのコメント、毎時間のテーマについて基本的事項を解説するという流れで進めていきます。さらに、数回の授業ごとに小テストを実施し、テスト解説をすることで、学生の理解度を確認していきます。以上の作業を通して、将来、保育者になる者として、家庭支援や子どものこころの健康などへの問題意識を高められるようにします。			

科目名	遊びの指導(保育・教育の原理)			CEP101	講義
英文名	Teaching through Play Activities				
担当教員	内田 祥子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	幼児教育の原理を踏まえ、遊びによる総合的な指導と教師の役割について理解できるようにする。				
到達目標	1.遊びによる総合的な指導について理解し説明ができる 2.遊びにおける教師の役割について理解し説明ができる 3.現代の遊びをめぐる状況を踏まえ、教師に求められている役割について説明できる 4.海外における保育実践の良さや ICT の活用に仕方について理解し説明できる				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業内での課題 30%・期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする				
課題に対するフィードバック	課題にコメントし返却する				
使用教材	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説				
1	講義内容	幼児教育における指導とは			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでくる		1.5 時間
	1・2	復習	幼児教育における指導の特徴をまとめる		1.5 時間
2	講義内容	幼児教育における遊びとは			
	該当する到達目標	予習	幼児教育における遊びの位置づけをまとめる		1.5 時間
	1・2	復習	幼稚園教育要領解説の遊びに関する記述を読む		1.5 時間
3	講義内容	幼児教育における総合的指導とは			
	該当する到達目標	予習	総合的な指導の意味をまとめる		1.5 時間
	1・2	復習	幼稚園教育要領解説の総合的指導に関する記述を読む		1.5 時間
4	講義内容	幼児期の発達特性と幼小連携:生活概念の形成			
	該当する到達目標	予習	子どもの遊びにおける学びとはどのようなものかを考える		1.5 時間
	1・2・3	復習	幼小連携における課題を考える		1.5 時間
5	講義内容	「主体的な遊び」とは(指導計画立案と模擬保育を含む)			
	該当する到達目標	予習	保育事例を踏まえ指導計画シートを作成		1.5 時間
	1・2・3	復習	指導計画シート修正		1.5 時間
6	講義内容	「対話的な遊び」とは(指導計画立案と模擬保育を含む)			
	該当する到達目標	予習	保育事例を踏まえ指導計画シートを作成		1.5 時間
	1・2・3	復習	指導計画シート修正		1.5 時間
7	講義内容	「遊びによる深い学び」とは(指導計画立案と模擬保育を含む)			
	該当する到達目標	予習	保育事例を踏まえ指導計画シートを作成		1.5 時間
	1・2・3	復習	指導計画シート修正		1.5 時間

8	講義内容	現代の遊びをめぐる状況		
	該当する到達目標	予習	遊び環境の変化を調べる	1.5 時間
	1・2・3	復習	遊び環境の変化要因をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	保育者に求められる遊び指導者としての役割		
	該当する到達目標	予習	実習時の保育を振り返り、保育者のあそび指導をまとめる	1.5 時間
	1・2・3	復習	現代の保育者に求められる役割を考える	1.5 時間
10	講義内容	海外の保育アプローチ①レッジョエミリア		
	該当する到達目標	予習	レッジョエミリアについて調べる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	日本の保育との違いをまとめる	1.5 時間
11	講義内容	海外の保育アプローチ②ドキュメンテーションとは		
	該当する到達目標	予習	ドキュメンテーションについて調べる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	日本の保育記録との違いをまとめる	1.5 時間
12	講義内容	海外の保育アプローチ③ラーニングストーリー		
	該当する到達目標	予習	ラーニングストーリーについて調べる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	日本の保育記録との違いをまとめる	1.5 時間
13	講義内容	ICT を活用した保育実践①保育者のための ICT		
	該当する到達目標	予習	保育における情報機器の活用方法を調べる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	遊びの指導における ICT の活用事例を考える	1.5 時間
14	講義内容	ICT を活用した保育実践②子どものための ICT		
	該当する到達目標	予習	保育における情報機器の活用方法を調べる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	遊びの指導における ICT の活用事例を考える	1.5 時間
15	講義内容	まとめ：遊びの指導における保育者の役割		
	該当する到達目標	予習	現代の保育者にどのような専門性が求められているかを考える	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	授業の内容を踏まえ、遊びの指導に求められる保育者の専門性についてレポートを作成する	1.5 時間
備考	オフィスアワーは月曜の 1・2 限です(研究室 410) uchida-s@takasaki-u.ac.jp 授業は教員の作成した資料の基づき、適宜映像資料を用いながら講義形式でおこないます。			

科目名	保育者論(保育・教育の原理)			CEP102	講義
英文名	Theory of Kindergarten and Nursery Teachers				
担当教員	富田 純喜				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	本講義では、保育者の職務や専門性について学んでいく。保育者は、子どもの傍に寄り添い、一緒に生活するだけの存在ではない。より高度な専門性が求められている。本講義をとおして、客観的な視点から保育者像を捉え直し、現代社会に求められる保育者の資質や知識、技能などを検討していく。				
到達目標	1.保育者の社会的位置づけについて説明できる。 2.保育者にまつわる法制度について説明できる。 3.保育者に求められる役割、専門性について考察できる。 4.現代社会における課題の理解をとおして、求められる保育者像について説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	レポート(70%)、授業内課題・小テスト(20%)、授業参画度(10%)				
課題に対するフィードバック	各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。				
使用教材	必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	保育者の仕事			
	該当する到達目標	予習	保育者の仕事について現時点での自身の考えを整理する。		1.5 時間
	1,4	復習	保育者の仕事と本講義で扱う内容について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	資料にみる保育者の姿			
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。		1.5 時間
	1,3,4	復習	保育者が置かれている現状を資料から読み取る。		1.5 時間
3	講義内容	保育者の倫理・服務			
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。		1.5 時間
	1,2,4	復習	保育者の職業倫理や服務について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	幼稚園教諭・保育教諭・保育士(1)誕生と変遷			
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。		1.5 時間
	1,2	復習	保育者の誕生と変遷を制度面から理解する。		1.5 時間
5	講義内容	幼稚園教諭・保育教諭・保育士(2)養成の仕組み			
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。		1.5 時間
	1,2	復習	保育者養成の仕組みと養成カリキュラムについて理解する。		1.5 時間
6	講義内容	保育者の役割(1)子ども理解			
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。		1.5 時間
	3,4	復習	子ども理解の基本を理解する。		1.5 時間
7	講義内容	保育者の役割(2)指導と援助			

	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	指導と援助の違いから保育者の役割を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	保育者の役割(3)子どもの個性・主体性の尊重		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	子どもの個性・主体性を尊重するための保育者の役割を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	保育者の専門性(1)専門職としての知識・技術		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	保育者に求められる知識や技能について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	保育者の専門性(2)保育の省察		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	省察の意義と方法から保育者の専門性について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	保育者の専門性(3)学び続ける保育者と研修		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	学び続ける保育者像と研修の意義について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	保育者の専門性(4)保育者のキャリア形成		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	保育者のキャリア形成について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	現代社会の課題と保育者(1)保育ニーズの多様化		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	多様化する保育ニーズへの対応について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	現代社会の課題と保育者(2)子育て支援と保育者の役割		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	子育て支援の意義と保育者の役割について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	現代社会の課題と保育者(3)保護者および地域社会との連携		
	該当する到達目標	予習	配布資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	これまでの講義を振り返り、保育者に求められる知識や技能について検討する。	1.5 時間
備考	授業は、主に講義形式でテーマの概要の説明を中心に進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。 オフィスアワー:火曜 4 限、水曜 2 限(8 号館 4 階 406 研究室) メールアドレス:tomita-t@takasaki-u.ac.jp			

科目名	教師論 A(保育・教育の原理)				CEP005	講義
英文名	Theory of Teacher's Profession A					
担当教員	吉田 恵子 小西 尚之					
科目に関連した実務経験	吉田: 公立小・中・高校で教歴あり。公立小学校・高等学校でスクールカウンセラー歴あり。(経験) 小西: 教諭として公立高等学校に勤務(経験)					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位			
講義目標	小学校・中学校及び特別支援学校における教職の意義と役割を学ぶ。具体的には、さまざまな課題が山積しうる教育現場の現状に鑑み、学校教育における教師のあり方や求められる教師像について、歴史的及び実践的に考察する。さらに、学生が授業を通して自らの適性を考え、将来に対する展望を持つべく、進路選択の機会を提供する。					
到達目標	1.教師の社会的責任や教師の任務・職務及び教師としての生き方について理解している。■ 2.いかにして教師の力量及び人間性を高めて子どもたちに接していくべきかを理解している。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業中に行う小テストに 70%、授業貢献度に 30%を配分して総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	試験前後に出題の意図等を説明する。					
使用教材	資料を配布					
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標 1,2	予習	本学科のカリキュラムについて調べ、シラバスを読んでおく。			1.5 時間
		復習	資料を読んで、授業の概要を確認し、教師論を学ぶ意味を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	西洋における教師の歴史				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読んで、講義内容を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	日本における教員養成の歴史 ①戦前				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読んで、講義内容を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	日本における教員養成の歴史 ②戦後				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読んで、講義内容を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	日本における教員養成の歴史 ③現在				
	該当する到達目標 1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読んで、講義内容を理解する。			1.5 時間
6	講義内容	教員の任用と服務■				
	該当する到達目標 1,2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			1.5 時間
		復習	資料を読んで、講義内容を理解する。			1.5 時間
7	講義内容	教師の研修■				

	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	教師の役割と仕事■		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2	復習	資料を読んで、講義内容を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	教員免許と資格		
	該当する到達目標	予習	小学校教師になるために必要な履修科目と単位数を調べる。	1.5 時間
	1	復習	教員免許をめぐる新たな課題をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	専門職としての教師		
	該当する到達目標	予習	専門職とは何かを調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	専門職をめぐる論争を理解し、まとめる。	1.5 時間
11	講義内容	学校運営:校務分掌・生徒指導■		
	該当する到達目標	予習	校務分掌について調べる。	1.5 時間
	1	復習	関係条文から、校長の校務分掌権限等についてまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	学校運営:特別支援教育・安全教育・健康指導など■		
	該当する到達目標	予習	学校事故について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	学校事故防止のための学校・教員の義務についてまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	教員の資質・適格性		
	該当する到達目標	予習	教員にふさわしい資質・適格性について調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	教員は社会から何を求められているか、資料からまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	教師をめぐるトラブル■		
	該当する到達目標	予習	学校に寄せられるクレーム・トラブルを調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	クレーム・トラブルの処理・解決に向け、何が重要であるか資料からまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	教職への展望		
	該当する到達目標	予習	理想とする教師像をまとめる。	1.5 時間
	1,2	復習	講義を振り返り、教職への意欲を高める。	1.5 時間
備考	(吉田)オフィスアワー: 月曜 1 限, 火曜 1 限 メールアドレス:yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 503 研究室 (小西)オフィスアワー:火曜 5 限, 金曜 2 限 メールアドレス:konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 4 階 409 号室 2 人の担当者がそれぞれの専門分野を講義し、その後に小テストで理解度を確認していく、という方法で行う。 予習・復習については、小テストの学習等で補完すること。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	青年心理学(保育・教育の原理)			CEP501	講義
英文名	Adolescent Psychology				
担当教員	板津 裕己				
科目に関連した実務経験	学生相談室カウンセラー(経験)、中学校・高等学校スクールカウンセラー(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	昨今の青少年たちに生じる諸問題などを通して、こころが「大人・おとな」になることとはどのようなことかを、参加学生とともに考えていく。さらに、上記の問題について考えていくことで、履修学生が真の意味での「大人・おとな」になる総仕上げをすることを目標とする。				
到達目標	1.生涯発達の視点から青年期の位置づけを理解できるようになる。 2.青年期に生じやすい心理身体的諸問題に対して問題意識を持てるようになる。 ■ 3.青年期の発達課題を自分自身の問題として考えられるようになる。 ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	評価は、個人ワーク課題(30点))の提出状況および期末試験(レポート課題)(70点)を総合して行う。				
課題に対するフィードバック	期末試験レポートは、コメントを付けた後に返却する。 予習課題シートは、内容確認の後に返却をする。				
使用教材	テキストは使用しない。授業進行に従いプリントや予習課題 を配布する。 参考書・補助教材 上里一郎(監修) 臨床心理学と心理学を学ぶ人のための心理学基礎事典 至文堂 2002 中島・箱田・繁樹(編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣 2005 板津裕己 こころの健康の基礎理解 教育新聞社 2007 ダニエル・ピンク デキるやつに生まれかわる6つのレッスン 講談社 2009 日本こども家庭総合研究所(編) 日本子ども資料年鑑 新聞や雑誌の記事など				
1	講義内容	オリエンテーション、生涯発達過程の復習			
	該当する到達目標	予習	生涯発達過程における青年期の心身の発達特徴について復習をしておく。		1.5 時間
	1	復習	生涯発達過程の復習。		1.5 時間
2	講義内容	児童期			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1	復習	児童期の発達特徴について復習をしておく。		1.5 時間
3	講義内容	青年期の課題、思春期・青年期と自己、アイデンティティの問題			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1,2,3	復習	青年期の発達特徴について復習をしておく。		1.5 時間
4	講義内容	人間関係の拡大 ー注意したい人との係わりー			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1,2,3	復習	人間関係の社会問題に意識を向ける。		1.5 時間
5	講義内容	青年期の心理身体的問題の概観			

	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	青年期の心理身体的問題について復習しておく。	1.5 時間
6	講義内容	いじめやハラスメント ■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習しておく。いじめの問題に意識を高める。	1.5 時間
7	講義内容	不登校・学校不適応■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習しておく。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
8	講義内容	非行・反社会的行動■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習しておく。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
9	講義内容	引きこもりや家庭内暴力■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習しておく。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
10	講義内容	情報化社会やメディアが青少年におよぼす影響■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習する。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
11	講義内容	青年期と身体意識 ■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習する。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
12	講義内容	青年期といのちの問題 ■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習する。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
13	講義内容	学校不適応、社会不適応傾向にある人や社会的養護を必要とする人たちの自立支援 ■		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。発表の準備。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習する。本時に扱った問題や関連問題について意識を高める。	1.5 時間
14	講義内容	20 代頃までに考えておきたいこと、実践しておきたいこと		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習内容を復習する。自分自身の生活を振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	青年期以降の身体・こころ・社会性の発達		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	全 15 回の学習内容を復習しておく。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス: itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 3 階 301 ・予習課題は、授業終了時に提出をする。 ・前週に授業内容の予習課題を配布して事前学習をしてもらいます。授業では、当該テーマの基本的な事項の解説と関連するトピックスを紹介します。第 6 回から第 13 回は、当該テーマへの導入解説、グループワークと発表、発表内容へのコメント、毎時間のテーマについて基本的事項を解説するという流れで進めていきます。			

	以上の作業を通して、自らも生きる青年期のこころの問題への興味や関心が高められるようにします。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)

科目名	こころの健康(保育・教育の原理)			CEP502	講義
英文名	Health Psychology				
担当教員	板津 裕己				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	社会では、多くの人が支えあい協力し合って生活している。本講義では、将来、責任ある社会人として活動していくために、自分自身を見つめなおし、自分の周囲にいる人の気持ちを察知して、適切な対応が取れるような自己学習やグループ学習をおこなう。				
到達目標	1.こころの健康の大切さを自覚できるようになる。 2.セルフ・マネージメント能力を向上させる。 3.健康な自己を育てる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	評価は、個人ワークやグループワーク課題の提出状況(30点)および期末試験(レポート課題)(70点)などを総合して行う。				
課題に対するフィードバック	確認作業シートは、内容確認の後に返却をする。 期末試験レポートは、コメントを付けた後に返却をする。				
使用教材	板津裕己 こころの健康の基礎理解 教育新聞社 2007 授業進行に従いプリントを配布する。 参考書・補助教材 上里一郎(監修) 臨床心理学と心理学を学ぶ人のための心理学基礎事典 至文堂 2002 中島・箱田・繁樹(編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣 2005 高垣忠一郎 自己肯定感って、なんやろう かもがわ出版 2008				
1	講義内容	オリエンテーション -こころの健康とは-			
	該当する到達目標 1,2	予習	「何故、こころの健康が重要なのか」について自分なりの考えをまとめておく。		1.5 時間
		復習	「何故、こころの健康が重要なのか」について自分なりの考えを振り返る。		1.5 時間
2	講義内容	こころの健康の要件			
	該当する到達目標 1,2	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
		復習	「こころの健康」を学ぶ必要性について考える。自己啓発ワークの見直し。		1.5 時間
3	講義内容	人間らしいこころの働き -適応、自己実現の欲求、適応に関わるこころの働き-			
	該当する到達目標 1,2	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
		復習	「人間らしさとは」について考える。自己啓発ワークの見直し。		1.5 時間
4	講義内容	人間関係とこころの健康			
	該当する到達目標 1,2	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
		復習	人間関係と「こころの健康」の関係について復習をしておく。自己啓発ワークの見直し。確認作業への準備。		1.5 時間
5	講義内容	ライフタスクと共同体感覚、勇気づけと勇気づき、第1回から第5回までの学習内容についての確			

	認作業			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	「積極的に生きること」について考える。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
6	講義内容	ストレスと人間行動、ワーカホリック		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	ストレスが人間に及ぼす影響について復習をしておく。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
7	講義内容	ストレス・マネージメント、「こころが強い人」と「気が強い人」		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	セルフ・マネージメントの大切さを考える。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
8	講義内容	より良い人間関係をつくっていく方法		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「より良い人間関係をつくっていく方法」について具体策を考える。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
9	講義内容	健康なパーソナリティ		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	健康なパーソナリティ像について復習をしておく。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
10	講義内容	自己受容の心理学1 -自己受容の発達過程-		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己受容性の働きや発達過程について復習をしておく。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
11	講義内容	自己受容の心理学2 -自己受容している人の行動特徴-		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自己受容している人の行動特徴を「こころの健康」と照らし合わせて復習する。確認作業への準備。	1.5 時間
12	講義内容	学校や施設での生活とこころの健康、第6回から第 11 回までの学習内容についての確認作業		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	学校や施設での生活と「こころの健康」について復習をしておく。	1.5 時間
13	講義内容	教育者や保育者のこころの健康		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	教育者や保育者の「こころの健康」の大切さを考える。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
14	講義内容	大人の発達障害		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	大人の発達障害の特徴について復習しておく。自己啓発ワークの見直し。	1.5 時間
15	講義内容	「生きること」と「死」についての教育		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2,3	復習	全15回の学習内容を復習しておく。自己啓発ワークの全体的な見直し。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス: itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 3 階 301 ・授業は、講義のほかに、各時間に自己啓発を目的とした個人ワークやグループワークを実施する。			

- ・予習課題は、授業終了時に提出をする。
- ・前週に授業内容の予習課題を配布して事前学習をしてもらいます。授業では、当該テーマの基本的な事項を解説するほか、関連するトピックスを紹介します。数回の授業ごとに確認作業を実施することで、学生の理解度を確認していきます。適宜、自己啓発を目的とした個人ワークやグループワークを取り入れます。以上の作業を通して、自分自身や周囲の人たちのこころの健康の大切さの認識を高められるようにします。

科目名	保育内容総論(保育・教育の内容)			CES101	演習
英文名	Introduction to Early Childhood Education and Care				
担当教員	今井 麻美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位		
講義目標	本授業は、保育内容について学ぶ最初の授業である。前期に学んだ教育原理や保育原理を踏まえ、保育内容 5 領域について保育実践に即して理解を深める。本授業で学んだ内容が、次年度以降の保育内容各論において、さらに深められることが望まれる。				
到達目標	1.保育内容のねらい及び内容について理解し、各領域で子どもが経験し身につけていく内容の総合性や関係性について理解する。 2.子どもの興味や関心、発達に応じた具体的な指導のあり方を理解し、実践するための技能を身につける。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度 20%, 授業時に書く振り返りレポート 20%, 期末試験 60%。				
課題に対するフィードバック	毎回、授業の後半に授業内容を一人一人が振り返り、レポートとしてまとめる。そのレポートにコメントをつけて返却する。期末試験後に、問題出題の意図を説明する。				
使用教材	適宜プリントを配布する				
1	講義内容	保育内容とは何か			
	該当する到達目標 1,2	予習	前期で学んだ保育原理、教育原理について復習する		0.5 時間
		復習	保育内容とは子どもの生活全体であることを理解する		0.5 時間
2	講義内容	子どもの興味、関心という視点から、子どもが遊ぶ姿を観察し、記録をとる。			
	該当する到達目標 2	予習	子どもの心情、遊びに関する前期の学びを復習する		0.5 時間
		復習	授業時に見た遊び場面から見た子どもの心情を整理する		0.5 時間
3	講義内容	子どもの興味、関心という視点から、子どもが遊ぶ姿を観察し、気づいた内容について、グループディスカッション			
	該当する到達目標 2	予習	前回授業時に見た遊び場면을振り返る		0.5 時間
		復習	グループディスカッションの内容を振り返る		0.5 時間
4	講義内容	発達の視点から、3 歳未満児が遊ぶ姿を観察し、記録をとる。			
	該当する到達目標 2	予習	3 歳未満児の頃、自分自身がどのような気持ちで、どのように遊んでいたのかを振り返ってくる		0.5 時間
		復習	授業時の記録を整理する		0.5 時間
5	講義内容	発達の視点から、3歳以上児が遊ぶ姿を観察し、記録を取る			
	該当する到達目標 2	予習	3 歳以上児の頃、自分自身がどのような気持ちで、どのように遊んでいたのかを振り返ってくる		0.5 時間
		復習	3 歳未満児の遊ぶ姿と比較して、気づいたことについてまとめてくる		0.5 時間
6	講義内容	発達の視点から子どもの姿を観察して、気づいた内容についてグループディスカッション			

	該当する到達目標	予習	これまでとった記録の内容を振り返ってくる	0.5 時間
	2	復習	子どもの発達に応じた保育内容の必要性について理解を深める	0.5 時間
7	講義内容	子どもの興味、関心、発達に応じた保育内容を展開する必要性について		
	該当する到達目標	予習	保育内容 5 領域のねらいと内容を読む	0.5 時間
8	2	復習	保育内容 5 領域のねらいと内容についての理解を深める	0.5 時間
	講義内容	子どもの興味、関心、発達に応じた指導計画案を作成するための手順と配慮について		
9	該当する到達目標	予習	保育内容 5 領域のねらいと内容を読み、理解を深める	0.5 時間
	1,2	復習	子どもの興味、関心、発達に応じた指導計画案を作成するための配慮点についてまとめる	0.5 時間
10	講義内容	模擬保育を行う		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う	0.5 時間
11	1,2	復習	模擬保育の自分自身と他者の実践について気づいたことをまとめる	0.5 時間
	講義内容	模擬保育を振り返る①グループディスカッション		
12	該当する到達目標	予習	模擬保育の自分自身の実践を振り返ってくる	0.5 時間
	1,2	復習	具体的な保育実践と保育内容 5 領域を結びつけて考える	0.5 時間
13	講義内容	模擬保育を振り返る②グループごとに発表し、クラス全体でディスカッション		
	該当する到達目標	予習	グループディスカッションの内容を振り返ってくる	0.5 時間
14	1,2	復習	具体的な保育実践と保育内容 5 領域を結びつけて理解を深める	0.5 時間
	講義内容	子どもの興味、関心、発達に応じた指導計画案を作成するための記録について		
15	該当する到達目標	予習	子どもの心情・意欲・態度を育むための保育内容について、これまでの授業内容をもとに振り返る	0.5 時間
	1,2	復習	子どもの心情・意欲・態度を育むための保育内容を展開するために、保育者には丁寧な省察が求められることを理解する	0.5 時間
16	講義内容	幼児教育と小学校における教育の円滑な接続について		
	該当する到達目標	予習	幼児教育の内容、方法について、これまでの授業を振り返ってくる	0.5 時間
17	1,2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
	講義内容	授業内容を振り返り、自分自身の子ども理解の傾向に気づく。		
18	該当する到達目標	予習	授業内容を振り返り、授業を通して得た自分の気づきを振り返ってくる	0.5 時間
	1,2	復習	今後学びたい内容を整理する	0.5 時間
備考	主に、パワーポイントを使いながら、授業を進めます。授業では、映像資料や事例など、具体的な保育実践がイメージできる教材を使用します。 自分なりに気づいたり、感じたりしたことを発信する姿勢を望みます。 オフィスアワー：火曜 3 限、金曜 2 限 メールアドレス：imai-a@takasaki-u.ac.jp 研究室：8 号館 5 階 504			

科目名	保育内容健康(保育・教育の内容)				CES102	演習
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Health)					
担当教員	山西 加織					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 後期	必修・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位			
講義目標	領域「健康」のねらいと内容を踏まえ、幼児期の心身の発達や学びの過程を理解するとともに、実際の援助や環境構成について考えていく。さらに、幼児期の発達段階に応じた運動遊びの指導計画を作成し、模擬保育の実践と振り返りを行うことで、保育に必要な指導技術や視点を身につける。また、領域「健康」に関する各場面への ICT 活用のあり方を考え具体的な活用法を学ぶ。					
到達目標	1.領域「健康」のねらいと内容を理解し、説明できる。 2.領域「健康」において幼児が身につける内容を理解し、指導上の留意点や具体的な援助と関連付けることができる。 3.幼児期の運動発達に応じた運動遊びについて、指導計画を作成し指導することができる。 4.子どもの健康をめぐる現代的課題から、改善に向けて援助や環境構成を考えることができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業への貢献度(20%)、指導案(20%)、模擬保育(20%)、レポート課題(40%)を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。					
使用教材	教科書「保育内容『健康』生きる力を育む健やかな心とからだ」宮下恭子編著(大学図書出版)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、その他適宜資料を配布する。					
1	講義内容	オリエンテーション 領域「健康」のねらい及び内容				
	該当する到達目標	予習	領域「健康」のねらいと内容を確認する。			0.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			0.5 時間
2	講義内容	領域「健康」における他領域との関連と小学校との連携				
	該当する到達目標	予習	各領域のねらいと内容を確認する。			0.5 時間
	1	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			0.5 時間
3	講義内容	基本的生活習慣に関する指導のポイント				
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章をよく読み、これまで学習した内容を復習する。			0.5 時間
	2,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			0.5 時間
4	講義内容	安全に関する指導のポイント				
	該当する到達目標	予習	教科書第 8 章、第 9 章をよく読み、これまで学習した内容を復習する。			0.5 時間
	2,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			0.5 時間
5	講義内容	運動遊びに関する指導のポイント				
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章、第 3 章をよく読み、これまで学習した内容を復習する。			0.5 時間
	2,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			0.5 時間
6	講義内容	運動遊びの教材研究と環境構成				

	該当する到達目標	予習	運動遊びをひとつ取り上げ、遊び内容をノートにまとめる。	0.5 時間
	2,3	復習	取り上げた運動遊びについて、教材研究を行う。	0.5 時間
7	講義内容	運動遊びの指導計画立案		
	該当する到達目標	予習	取り上げた運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	2,3	復習	取り上げた運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
8	講義内容	模擬保育の実践(1)3 歳児		
	該当する到達目標	予習	3 歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	2,3	復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間
9	講義内容	模擬保育の振り返り(1)3 歳児		
	該当する到達目標	予習	3 歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	4	復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間
10	講義内容	模擬保育の実践(2)4 歳児		
	該当する到達目標	予習	4 歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	4	復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間
11	講義内容	模擬保育の振り返り(2)4 歳児		
	該当する到達目標	予習	4 歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	4	復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間
12	講義内容	模擬保育の実践(3)5 歳児		
	該当する到達目標	予習	5 歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	4	復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間
13	講義内容	模擬保育の振り返り(3)5 歳児		
	該当する到達目標	予習	5 歳児の運動遊びについて、指導計画を立案する。	0.5 時間
	4	復習	立案した指導計画を修正する。	0.5 時間
14	講義内容	領域「健康」における現代的課題の事例検討と保育現場への ICT 活用法の学修		
	該当する到達目標	予習	子どもの健康や運動経験で課題となっていることを取り上げ、援助や対策を考える。	0.5 時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間
備考	【授業の進め方】パワーポイントや配布資料を用いて、講義とグループワークで授業を進める。模擬保育では、模擬保育を実践後、意見交換を行う形式で進めていく。 ※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 オフィスアワー:【前期】月曜 3 時限, 火曜 2 時限 【後期】月曜 5 時限, 火曜 5 時限 メールアドレス:yamanishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 505 研究室			

科目名	保育内容人間関係(保育・教育の内容)				CES103	演習
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care(Human Relationships)					
担当教員	内田 祥子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 1単位 教員養成コース 選択 1単位			
講義目標	乳幼児期における人間関係の発達と役割を踏まえ、指導方法を実践できる					
到達目標	1.乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明することができる。 2.保育内容「人間関係」の位置づけを理解し、説明することができる。 3 ロールプレイングを通じて、「人間関係」の育ちを促す保育者の援助について理解し、説明することができる。 4.ICTを用いた保育実践の方法を理解する。 5.「人間関係」をめぐる現代的課題について理解し説明することができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする					
課題に対するフィードバック	課題にコメントし、返却する					
使用教材	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「認定こども園保育・教育要領」					
1	講義内容	授業概要・評価方法の確認				
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでくる			1.5 時間
	1・2	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題			1.5 時間
2	講義内容	保育内容人間関係のねらいと内容				
	該当する到達目標	予習	「人間関係」のねらいと内容を読んでくる			1.5 時間
	1・2	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題			1.5 時間
3	講義内容	ロールプレイング事例:入園初期の不安が強い乳幼児				
	該当する到達目標	予習	入園児の幼児の心理について考えてみよう			1.5 時間
	1・2	復習	幼児の心理特徴をまとめる			1.5 時間
4	講義内容	援助方法を話し合ってみよう:入園初期の不安が強い幼児				
	該当する到達目標	予習	援助方法を考えてみよう			1.5 時間
	1・2	復習	援助方法の要点をまとめる			1.5 時間
5	講義内容	ロールプレイング事例:幼児同士のいざこざ				
	該当する到達目標	予習	幼児のいざこざの特徴を考えてみよう			1.5 時間
	3	復習	幼児の心理特徴をまとめる			1.5 時間
6	講義内容	援助方法を話しあってみよう:幼児同士のいざこざ				
	該当する到達目標	予習	援助方法を考えてみよう			1.5 時間
	3	復習	援助方法の要点をまとめる			1.5 時間

7	講義内容	ロールプレイング事例:きまりを守らない幼児		
	該当する到達目標	予習	幼児の規範意識の特徴を考えてみよう	1.5 時間
	3	復習	幼児の心理特徴をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	援助方法を話し合ってみよう		
	該当する到達目標	予習	援助方法を考えてみよう	1.5 時間
	3	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	協同性をはぐくむ活動		
	該当する到達目標	予習	幼児の協同性の発達について考えてみよう	1.5 時間
	3	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	保育実践における ICT の活用:ドキュメンテーションの作成方法を学ぶ		
	該当する到達目標	予習	ドキュメンテーションについて調べる	1.5 時間
	4	復習	ドキュメンテーションの意義をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	保育実践における ICT の活用:幼児が ICT を使って同年代の子どもたちの様子を調べる方法を実践的に学ぶ		
	該当する到達目標	予習	ICT を使った保育実践例を調べる	1.5 時間
	4	復習	保育内容人間関係における ICT の活用例をかんがえる	1.5 時間
12	講義内容	小学校以降の人間関係の育ち		
	該当する到達目標	予習	児童期の人間関係について考える	1.5 時間
	5	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	行事と人間関係の育ち		
	該当する到達目標	予習	年間を通してどのような行事があるかをまとめてくる	1.5 時間
	5	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	幼小の交流活動と人間関係の育ち		
	該当する到達目標	予習	幼小の交流活動にどのようなものがあるかまとめてくる	1.5 時間
	5	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	地域の人々との関わりと人間関係の育ち		
	該当する到達目標	予習	地域にどのような人がいるかをまとめてくる	1.5 時間
	5	復習	援助方法の要点をまとめる	1.5 時間
備考	オフィスアワーは月曜の 1・2 限です。(研究室 410) uchida-s@takasaki-u.ac.jp ロールプレイング等を実施し、実践的な視点から指導の仕方を考えます。			

科目名	保育内容環境(保育・教育の内容)				CES104	演習
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Environment)					
担当教員	望月 文代					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位			
講義目標	本授業では、領域「環境」について理解を深めるとともに、実際の保育現場における様々な「環境」について学んでいく。さらに幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが出来る様な領域「環境」に関わる具体的な保育場면을想定した保育の構想や指導方法、実践力を身に付ける。					
到達目標	1.領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 2.領域「環境」に関わる様々な環境について理解する。 3.領域「環境」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導方法を理解する。 4.指導案の構造を理解し、具体的な保育場면을想定した指導案を作成することが出来る。 5.模擬保育の振り返りを通して、保育を省察・評価・改善を行うことが出来る。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	指導案作成・模擬保育(教材研究含)の実践(50%)、筆記試験(50%)					
課題に対するフィードバック	提出物等は適宜返却するので、各自見直しを行うこと。 指導案はコメントをつけて返却をする。					
使用教材	教科書①「幼稚園教育要領」＜平成29年告示＞文部科学省、フレーベル館、2017年、160円 教科書②「保育所保育指針」＜平成29年告示＞厚生労働省、フレーベル館、2017年、160円 教科書③「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」＜平成29年告示＞内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2017年、160円 教科書④「保育内容 環境」小田豊・湯川秀樹、北大路書房、2018 年、1836 円 教科書⑤「指導計画の作成と保育の展開」文部科学省、フレーベル館、2013 年、270 円					
1	講義内容	領域「環境」の意義、ねらい、内容、内容の取扱いについて				
	該当する到達目標	予習	シラバス及び教科書①、②、③を読んでおく。			0.5 時間
	1	復習	教科書①、②、③を理解する。			0.5 時間
2	講義内容	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」、領域「環境」に関連の深い項目と評価について				
	該当する到達目標	予習	教科書①、②、③を読んでおく。			0.5 時間
	1.2	復習	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の 10 項目を理解する。			0.5 時間
3	講義内容	様々な保育環境—人的環境・物的環境・自然環境等について—				
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 5・6・7 章を読んでおく。			0.5 時間
	2.3	復習	様々な環境について理解し、具体的な保育場면을想定する。			0.5 時間
4	講義内容	保育室の環境構成を中心に情報機器及び教材の活用を実践的に学ぶ				
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 5・6・7 章を読んでおく。			0.5 時間

	2.3	復習	保育室で活用される情報機器及び教材について理解を深める。	0.5 時間
5	講義内容	自然環境としての動植物 ―生物・自然(虫や植物について)―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 7 章を読んでおく。	0.5 時間
	2.3	復習	自然環境の重要性を理解し、虫や植物の名前を覚える。	0.5 時間
6	講義内容	日常生活の中での興味・関心① ―数量・図形(新聞・広告紙・空き箱・空き容器等の教材の活用方法)について―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 8 章及び教科書①の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	2.3	復習	数量・図形を保育現場でどのように活用するのか理解する。	0.5 時間
7	講義内容	日常生活の中での興味・関心② ―標識・文字(身近な標識や文字を通して)について―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 8 章及び教科書①の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	2.3	復習	身近な標識や文字を乳幼児にどのように伝えていくのか理解する。	0.5 時間
8	講義内容	日常生活の中での興味・関心③ ―情報・施設(園生活や遊びを通して)について―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 8 章及び教科書①の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	2.3	復習	幼稚園・保育所・認定こども園以外の子どもを取り巻く施設を理解する。	0.5 時間
9	講義内容	園行事の意義と指導方法―映像を通して園行事の環境(運動会、お遊戯会、お誕生日会等)を考える―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 9 章及び教科書①の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	2.3	復習	地域との交流や園行事を理解する。	0.5 時間
10	講義内容	乳幼児期の安全教育・防災教育について―子どもたちに危険をどのように伝えるのか情報機器及び教材の活用を通して考える―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 11 章を読んでおく。	0.5 時間
	2.3	復習	様々な災害を想定し、安全な環境構成を行なうことが出来る。	0.5 時間
11	講義内容	模擬保育で活用する素材の収集、自然物を用いた教材研究		
	該当する到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3.4	復習	領域「環境」に関する教材研究を行う。	0.5 時間
12	講義内容	保育内容「環境」に関連する指導計画の立案		
	該当する到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3.4	復習	領域「環境」に関する指導計画の立案を行う。	0.5 時間
13	講義内容	模擬保育を通して情報機器及び教材の活用を実践する。		
	該当する到達目標	予習	教科書⑤の第 2 章を読んでおく。	0.5 時間
	3.4	復習	保育実践の振り返りを行なう。	0.5 時間
14	講義内容	模擬保育の振り返り、省察・評価・改善		
	該当する到達目標	予習	教科書⑤の第 4 章を読んでおく。	0.5 時間
	3.4.5	復習	模擬保育の省察・評価・改善をまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	保育内容「環境」から見た実践的課題 ―小学校の教科等とのつながり―		
	該当する到達目標	予習	教科書④の第 12 章、教科書⑤の第 3 章を読んでおく。	0.5 時間
	1.2.3	復習	保育内容「環境」と通した幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する。	0.5 時間
備考	・毎時間プリントを配布し、保育内容環境の基礎を学んでいく。その後、保育場面を想定した模擬保育等の内容を主とした内容で進めていく。 質問等がある場合は授業の前後に応じる。			

科目名	保育内容言葉(保育・教育の内容)			CES105	演習
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Language)				
担当教員	今井 邦枝				
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位		
講義目標	乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
到達目標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場면을想定した保育を構想する方法を身に付ける。 3. 指導案の構造を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な保育を想定した指導案を作成する。■ 4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。■ 5. 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育構想に活用する。 6. 幼稚園教育における評価の考え方を踏まえ、小学校の教科等とのつながりを理解する。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題レポート 40%、指導案作成 30%、毎時間の授業振り返りシート 30%				
課題に対するフィードバック	課題にコメントし、返却する				
使用教材	ことばと保育(改訂版) 近藤幹生他4名著 ひとなる書房 2016				
1	講義内容	乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の発達の基盤には信頼関係が不可欠であることや、言葉を獲得する前の非言語的なコミュニケーションの重要性について理解できるように、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。			
	該当する到達目標 1	予習	教科書を読んでくる。p30－79		1.5 時間
		復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題		1.5 時間
2	講義内容	乳幼児が人の話を聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりすることで、相互に伝え合う喜びを味わうように過程を具体的な事例を通して理解し、教師の援助の在り方を考える。			
	該当する到達目標 2	予習	幼稚園教育基礎実習での子どもとのかかわりの事例をまとめる。		1.5 時間
		復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題		1.5 時間
3	講義内容	乳幼児の感情体験と言葉について、映像資料や事例等の子どもの姿を通して具体的に理解し、意見を調整し合えるようになるための教師の援助の在り方について考える。			
	該当する到達目標 2	予習	教科書を読んでくる。P80－99		1.5 時間
		復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題		1.5 時間
4	講義内容	乳幼児が遊びや生活の中で、文字の有用性や必要性に気づき、文字を使おうとしている事例を基			

		に、教師の援助や環境構成について、具体的に考える。また、生活中にある情報機器での言葉体験の事例から、情報機器について有効的な活用方法を考える。		
	該当する到達目標	予習	実習での文字環境についてまとめる。	1.5 時間
	5	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5 時間
5	講義内容	ごっこ遊びにおける言葉の役割について、具体的な事例を基に理解し、展開していくための環境や教師の援助について、具体的に考える。■		
	該当する到達目標	予習	実習でのごっこ遊びの事例をまとめる。	1.5 時間
	1	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5 時間
6	講義内容	しりとりやなぞなぞ等の言葉遊びを体験し、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深め、言葉遊びの指導案を作成する。■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んてくる。p134－151	1.5 時間
	3	復習	指導案作成。	1.5 時間
7	講義内容	言葉遊びの指導案についてグループで話し合い、その振り返りから、指導案の改善点を考え、保育の視点を身に付ける。■		
	該当する到達目標	予習	指導案を作成する。	1.5 時間
	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
8	講義内容	乳幼児にとっての絵本の意義について、読んだり聞いたりする体験を通して理解し、子どもの年齢や時期を考え、具体的な指導案を作成する。■		
	該当する到達目標	予習	教材とする絵本を選び、教材研究をする。	1.5 時間
	3	復習	指導案を作成する。	1.5 時間
9	講義内容	絵本の指導案を基に模擬保育を行い、ICT 機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。■		
	該当する到達目標	予習	指導案を作成する。	1.5 時間
	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
10	講義内容	乳幼児にとってのパネルシアターの意義について、読んだり聞いたりする体験を通して理解し、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえて、具体的な指導案を作成する。■		
	該当する到達目標	予習	教材とするパネルシアターを選び、教材研究をする。	1.5 時間
	3	復習	指導案を作成する。	1.5 時間
11	講義内容	パネルシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT 機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。■		
	該当する到達目標	予習	指導案を作成する。	1.5 時間
	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
12	講義内容	乳幼児にとってのエプロンシアターの意義について、読んだり聞いたりする体験を通して理解し、子どもが経験する内容と指導上の留意点を考え、具体的な指導案を作成する。■		
	該当する到達目標	予習	教材とするエプロンシアターを選び、教材研究をする。	1.5 時間
	3	復習	指導案を作成する。	1.5 時間
13	講義内容	エプロンシアターの指導案を基に模擬保育を行い、ICT 機器を用いたグループでの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。■		
	該当する到達目標	予習	指導案を作成する。	1.5 時間
	4	復習	改善点を踏まえ、指導案を修正する。	1.5 時間
14	講義内容	言葉に遅れがある子どもや外国籍の子ども等への援助について、具体的な事例を通して理解し、具体的な場面における教師の援助の在り方を考える。また、障害に適した ITC 機器に関する知識を深		

		め、援助としての活用方法を理解する。		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p176－189	1.5 時間
	5	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1.5 時間
	講義内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における領域「言葉」について、映像資料や事例を通して理解し、小学校の評価に対する考え方の違いや連携について考える。■		
15	該当する到達目標	予習	ことばに関する幼児教育の課題について考える	1.5 時間
	6	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
備考	各時間に配布するプリントにそって講義を進める。グループで活動し、個別の発表を行う。 オフィスアワー: 月曜 4 限、火曜 4 限 メールアドレス: kimai@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 507			

科目名	保育内容表現(保育・教育の内容科目)				CES106	演習
英文名	Methods of Early Childhood Education and Care (Arts and Expression)					
担当教員	岡本 拡子 石原 綱成					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位 教員養成コース 選択 1 単位			
講義目標	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするという保育内容「表現」の本質、および保育におけるさまざまな活動の場での子どもの表現についての基礎知識を深めながら、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法について実践的に学ぶ。					
到達目標	1.領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 2.実践事例を通して、子どもの表現過程について、発達の視点から読み取りができるようにする。 3 子どもの表現を育むための具体的な指導場面を想定した保育を構想し、環境構成や援助について学ぶ。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	課題への取り組み 30%, 期末レポート 70%を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	毎回授業終了時に振り返りを行い、個々の課題を明確化し共有する。 期末レポートについては個々の課題を明確に示したコメントを付して返却する。					
使用教材	保育所保育指針解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説, 幼稚園教育要領解説 岡本拡子著 感性をひらく表現遊び―実習に役立つ活動例と指導案 北大路書房 その他適宜プリント等を配布する。					
1	講義内容	領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現する姿を関連付けることを通して理解する(岡本)。				
	該当する到達目標	予習	シラバスをよく読み、授業内容を理解しておく。			1 時間
	1	復習	領域「表現」についての理解を深めておく。			1.5 時間
2	講義内容	幼児の表現あるいは表出に関する場面について、ビデオを視聴して具体的な事例を挙げ、その表現の背景や要因を考察し、さらにその表現が広がる指導方法について学習する(岡本)。				
	該当する到達目標	予習	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各解説を読んでおく。			1 時間
	1, 2	復習	実践事例と領域「表現」の関連についてまとめる。			1.5 時間
3	講義内容	幼児期の表現活動と、小学校の体育, 生活, 音楽や図画工作, その他さまざまな教科と学びの連続性について具体的な実践例から学ぶ(岡本)。				
	該当する到達目標	予習	領域「表現」の内容について熟読しておく。			1 時間
	1, 2	復習	実践事例と領域「表現」の関連について課題をまとめる。			1.5 時間
4	講義内容	国内外の保育研究の論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自ら保育構想の向上に取り組む(岡本)。				
	該当する到達目標	予習	テキストの該当箇所を熟読しておく。			1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめる。			1.5 時間

5	講義内容	インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な素材を用いた具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用について学習する(岡本)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
6	講義内容	五感を通じた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを学ぶ(岡本)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
7	講義内容	手足・身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを学ぶ(岡本)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
8	講義内容	自然や自然物を用いた幼児の総合的な表現活動を実践的に学習する。情報機器を用いて加工したり観察したりして、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを学ぶ(石原)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
9	講義内容	OHC やプロジェクターなど情報機器を用いて、幼児の総合的な表現活動について実践的に学習する。様々な素材を用いた光と影による表現活動の面白さ、留意点などを学ぶ(石原)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
10	講義内容	年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について学ぶ(岡本)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
11	講義内容	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、実際に体験することを通して、保育構想に活用できるアイデアについて学習する(石原)。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	保育構想についての課題をまとめ、発表準備を行う。	1.5 時間
12	講義内容	これまでの学びを踏まえ、総合的な表現活動を実践するために、指導案をグループで作成する(岡本)。		
	該当する到達目標	予習	グループで指導案作成を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	ねらいと内容の立て方の理解を深め、模擬保育での課題を解決する。	1.5 時間
13	講義内容	総合的な表現活動を実践するために、グループで作成した指導案に沿って教材研究を深める(石原)。		
	該当する到達目標	予習	グループで教材研究を進める。	1 時間
	1,2,3	復習	教材研究に対する理解を深め、模擬保育での課題を解決する。	1.5 時間
14	講義内容	グループで総合的な表現活動を指導案に沿って実践し、その振り返りを通して改善を試みる(石原)。		
	該当する到達目標	予習	グループで総合的な表現活動の準備を行う。	1 時間
	1,2,3	復習	総合的な表現活動に関する課題を解決する。	1.5 時間
15	講義内容	これまで学んだ総合的な表現活動の実践を通して、保育の場における表現活動について考える。特に、写真や動画などを用いた記録方法としてのドキュメンテーションの手法を用いた保育の振り返りについて実践的に学ぶ(石原)。		
	該当する到達目標	予習	ドキュメンテーションの手法についてグループで話し合っておく。	1 時間
	1,2,3	復習	自分自身の保育実践を行う上で、保育内容表現の意義や課題がどのように影響するか理解を深めておく。	1.5 時間
備	授業は演習形式で行う。グループワークを中心に進め、各グループで取り組んだ課題について発表する時間を			

考	設ける。教材はテキストを用いる他, 必要に応じてプリントを配布する。 オフィスアワー: 水曜 3 限, 水曜 4 限(岡本) , 月曜 3 限, 木曜 4 限 それ以外の時間に課題をみてほしい場合は, メールにて事前予約すること。 岡本: okamoto@takasaki-u.ac.jp 石原: ishihara@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 404 研究室(岡本), 8 号館 5 階 501(石原) 予習・復習は欠かさず行うこと。

科目名	子どもの食と栄養Ⅰ（保育・教育の内容）			CES151	演習
英文名	Food and Nutrition for Infant and Child I				
担当教員	高梨 美穂				
科目に関連した実務経験	高崎市保健所受託 マタニティー教室及び乳幼児健診における栄養相談業務（経験）				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	保育士が接する乳幼児期の子どもたちにおける「食」は、生命の維持・心身の健やかな発育・発達に必要不可欠なものであり、且つ将来の食習慣にも大きな影響を与えるため、保育の現場における食育は非常に重要と言える。本科目では、講義やグループ学習等を通して栄養の基本や子供たちの発育に関する基礎知識を習得し、食育活動へ展開できる力の習得を目指す。				
到達目標	1.子どもたちをとりまく食生活上の問題点を見出し、解決策を考察する。■ 2.栄養に関する基礎知識を習得する。 3.発達段階に応じた食や栄養の特徴、体の機能を知る。■ 4.個人または他者とともに、食育媒体・課題を仕上げる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への取り組み姿勢（10%）、授業中の課題（20%）、定期試験（70%）で総合的に評価する。5 回以上の欠席で受験資格なし。				
課題に対するフィードバック	授業中の課題は適宜返却し、説明する。グループ発表の際は、良い点、改善が見込める点等を説明し、履修者同士で評価し合う時間も設ける。定期試験は実施後解答・解説を提示する。				
使用教材	教科書「子どもの食と栄養」 児玉浩子 編著（中山書店）2,100 円＋税				
1	講義内容	オリエンテーション、子どもの健康と食生活			
	該当する到達目標	予習	教科書第 1 章に目を通す。	0.2 時間	
	1	復習	講義内容、評価方法、今後の方針を確認する。	0.5 時間	
2	講義内容	子どもの食生活の現状と課題 ■			
	該当する到達目標	予習	第 1 回講義時配布資料に目を通す。	0.5 時間	
	1	復習	子どもの食生活の現状と課題を理解する。	0.5 時間	
3	講義内容	栄養に関する基礎知識①・・・ヒトの体と食べ物のゆくえ			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章に目を通す。	0.5 時間	
	2	復習	ヒトの体と食べ物の関係を理解する。	0.5 時間	
4	講義内容	栄養に関する基礎知識②・・・栄養素の種類とはたらき			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章に目を通す。	0.5 時間	
	2	復習	主要栄養素を理解する。	0.5 時間	
5	講義内容	栄養に関する基礎知識③・・・食事摂取基準・食事バランスガイド・食生活指針 ■			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章に目を通す。	0.5 時間	
	2	復習	食事摂取基準・食事バランスガイド・食生活指針を理解する	0.5 時間	
6	講義内容	献立作成・調理の基本			
	該当する到達目標	予習	配布資料に目を通す。	0.5 時間	

	2	復習	献立作成・調理の基本を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	子どもの発育・発達と食生活 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通す。	0.5 時間
	1,2	復習	子どもの発育・発達および栄養評価について理解する。	0.5 時間
8	講義内容	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3	復習	乳児期の授乳・離乳と食生活について理解する。	0.5 時間
9	講義内容	幼児期の心身の発達と食生活 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3	復習	幼児期の心身の発達と食生活について理解する。	0.5 時間
10	講義内容	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活		
	該当する到達目標	予習	配布資料に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3	復習	学童期・思春期の心身の発達と食生活について理解する。	0.5 時間
11	講義内容	食育の基本		
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	食育の基本を理解し、テーマを考案する。	0.5 時間
12	講義内容	食育の計画①～保育所における食育年間計画の作成		
	該当する到達目標	予習	計画作成のための情報収集。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループ発表準備。	0.5 時間
13	講義内容	食育の計画②～保育所・幼稚園における食育実施計画		
	該当する到達目標	予習	グループ発表準備。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループ発表準備。	0.5 時間
14	講義内容	食育の実践～グループ発表・評価		
	該当する到達目標	予習	グループ発表準備。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループ発表考察。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでの内容を整理する。	1 時間
	1,2,3,4	復習	前期全体を復習し、試験に向けて整理する。	1 時間
備考	※授業中の配布資料は各自ファイリングし、教科書とともに毎時間持参すること。 オフィスアワー: 木曜 3 限 授業の進め方: 教科書・配布資料をもとに講義およびグループワークを実施する。 研究室: 6 号館 1 階 メールアドレス: takanashi-m@takasaki-u.ac.jp ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ（保育・教育の内容）			CES152	演習
英文名	Food and Nutrition for Infant and Child II				
担当教員	高梨 美穂				
科目に関連した実務経験	高崎市保健所受託 マタニティー教室及び乳幼児健診における栄養相談業務（経験）				
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	保育士が接する乳幼児期の子どもたちにおける「食」は、生命の維持・心身の健やかな発育・発達に必要な不可欠なものであり、且つ将来の食習慣に大きな影響を与えるため、保育の現場における食育は非常に重要と言える。本科目では、講義やグループ演習・実習を通して、乳幼児期を中心とした食生活の特徴について学び、保育士として乳幼児およびその保護者への食に関する支援について対応できる力の習得を目指す。				
到達目標	1.ライフスタイル別の食事の特徴・方法、支援方法を習得する。■ 2.食物アレルギーおよび子どもの疾病・体調不良時における栄養について説明できる。■ 3.保育中の食事における危険な場面を想定し、回避・対処方法を説明できる。 4.乳幼児期の食事・おやつの特徴を説明でき、作ることができる。■ 5.人の命を預かる責任能力を高める。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への取り組み姿勢（20％）、授業中の課題（20％）、レポート（60％）で総合的に評価する。5 回以上の欠席、レポートの未提出は単位取得できない。				
課題に対するフィードバック	授業中の課題は適宜返却し、説明する。レポートはコメントをつけて返却する。				
使用教材	教科書「子どもの食と栄養」 児玉浩子 編著（中山書店）2,100 円＋税				
	講義内容	成人期・妊娠期・授乳期の食生活 ■			
1	該当する到達目標	予習	成人期における食生活の問題点について情報収集。		0.5 時間
	1	復習	成人期、妊娠期、授乳期の食生活について理解する。		0.5 時間
	講義内容	乳児期の食生活①～母乳栄養と人工栄養・離乳食とベビーフード ■			
2	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通す。		0.5 時間
	1,3,4	復習	母乳・人工栄養、離乳食、ベビーフードの特徴と注意点について理解する。		0.5 時間
	講義内容	幼児期の食生活①～幼児食 ■			
3	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章に目を通す。		0.5 時間
	1,3,4	復習	幼児期の発育を理解し支援方法について考察する。幼児食・おやつを考案する。		0.5 時間
	講義内容	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ■			
4	該当する到達目標	予習	教科書第 7 章に目を通す。		0.5 時間
	13,4	復習	子どもの疾病と体調不良の特徴とその食事について理解する。		0.5 時間
	講義内容	施設における衛生管理・食中毒			
5	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章に目を通す。		0.5 時間

	1,2,3,4,5	復習	衛生管理の基本を理解する。	0.5 時間
6	講義内容	乳児期の食生活②～離乳食の実践 ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
7	講義内容	乳児期の食生活③～離乳食の実践 ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
8	講義内容	成人期・妊娠期・授乳期の食生活②～調理の基本、妊娠期の食事の実践 ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	3,5	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
9	講義内容	成人期・妊娠期・授乳期の食生活③～調理の基本、妊娠期の食事の実践 ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,4	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
10	講義内容	幼児期の食生活②～おやつの実践 ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
11	講義内容	幼児期の食生活③～おやつの実践 ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
12	講義内容	幼児期の食生活④～幼児食の実践(行事食) ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
13	講義内容	幼児期の食生活⑤～幼児食の実践(行事食) ■		
	該当する到達目標	予習	調理実習準備	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	調理実習まとめ・レポート作成	0.5 時間
14	講義内容	食を通した保護者への支援 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章に目を通す。	0.5 時間
	1,2,4	復習	児童福祉施設や家庭における食と栄養の特徴を理解し、保護者への支援方法について考察する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでの内容を整理する。	0.5 時間
	1,2,3,4,5	復習	全体の復習、レポート作成。	0.5 時間
備考	※授業中の配布資料は各自ファイリングし、教科書とともに毎時間持参すること。 ※調理室に入る回は、指示のあったものを必ず持参し、身支度を整え、入室すること。 オフィスアワー: 木曜 3 限 授業の進め方: 教科書・配布資料をもとに講義・グループ演習および実習を実施する。 研究室: 6 号館 1 階 メールアドレス: takanashi-m@takasaki-u.ac.jp ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	乳児保育 I (保育・教育の内容)				CES153	講義
英文名	Infant Care and Education I					
担当教員	今井 麻美					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	乳児の発達を知り、発達に即した保育環境や保育内容について理解を深める。					
到達目標	1.乳児の発達を理解する 2.乳児の発達に応じたかかわりの必要性について理解する 3.乳児の発達に応じた生活や遊びについて考えることができる 4.乳児保育において、一人一人に応じるための保育方法の必要性について理解する					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業内で取り組む課題, 小レポート 40%, 最終試験 60%					
課題に対するフィードバック	提出された課題にはコメントを付けて返却する。 期末試験後に、問題出題の意図を説明する。					
使用教材	保育所保育指針 解説書					
1	講義内容	ガイダンス				
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標等を理解する			0.5 時間
		復習	講義内容, 講義目標, 到達目標, 評価方法等を確認する			0.5 時間
2	講義内容	乳児保育の基本と実践 ①乳児保育の実践を知る・グループディスカッション				
	該当する到達目標 2,3,4	予習	これまで学んできた授業内容を乳児保育という視点から振り返る			0.5 時間
		復習	実践場面を見て気づいた内容を自分なりに整理する			0.5 時間
3	講義内容	乳児保育の基本と実践 ②まとめ				
	該当する到達目標 2,3,4	予習	グループディスカッションを通して、考えたことをグループメンバーと整理する			0.5 時間
		復習	授業を通して得た気づきや考えを、保育所保育指針に照らし合わせながら理解を深める			0.5 時間
4	講義内容	乳児保育の必要性和意義				
	該当する到達目標 2,3,4	予習	乳児保育の必要性について、自分なりに考えてくる			0.5 時間
		復習	乳児保育の歴史的変遷と現在の乳児保育の意義について理解を深める			0.5 時間
5	講義内容	0 歳児の発達と保育 ①身体・運動能力の発達				
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する			0.5 時間
		復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する			0.5 時間
6	講義内容	0 歳児の発達と保育 ②対人関係の発達				
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する			0.5 時間
		復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する			0.5 時間
7	講義内容	0 歳児の発達と保育 ③発達に即した保育環境				
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書 p108－112 を読み、予習する			0.5 時間

	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
8	講義内容	1 歳児の発達と保育 ①身体・運動能力の発達		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
9	講義内容	1 歳児の発達と保育 ②対人関係・言葉の発達		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
10	講義内容	1 歳児の発達と保育 ③発達に即した保育環境		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書 p112～115 を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
11	講義内容	2 歳児の発達と保育 ①自我の育ち		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
12	講義内容	2 歳児の発達と保育 ②遊び		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
13	講義内容	2 歳児の発達と保育 ③発達に即した保育環境		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書 p112～115 を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
14	講義内容	基本的生活習慣		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針解説書第 2 章を読み、予習する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	乳児の発達過程とその理解の必要性について整理する	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	乳児の発達過程に即した保育環境や援助方法について整理する	0.5 時間
備考	主にパワーポイントを使いながら授業を進めます。 授業では、映像資料や事例など、具体的な保育実践がイメージできる教材を使用します。 オフィスアワー：火曜 3 限、金曜 2 限。質問は、メールでも受け付けます。 メールアドレス：imaira@takasaki-u.ac.jp 研究室：8 号館 5 階 504			

科目名	乳児保育Ⅱ(保育・教育の内容)			CES154	演習
英文名	Infant Care and EducationⅡ				
担当教員	佐々木 由美子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	乳児保育Ⅰで学習したことを基礎とし、保育施設における乳児にかかわる保育内容について、より実践的な視点から具体的・総合的に理解する。				
到達目標	1.低年齢児との望ましいかかわり方について考える。 2.低年齢児における保育について、実践方法を知る。 3.低年齢児における仲間との関わりをつなぐ援助について理解を深めることができる。 4.低年齢児における保育施設と家庭の連携のあり方について、方法を知る。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験60%、発表20%、提出物20%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	提出物にはコメントをつけて返却する。 発表には総評を行う。 試験後に、問題出題の意図を説明する。				
使用教材	なし				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標等を理解する。		1 時間
		復習	講義内容、講義目標、到達目標、評価方法等を確認する。		1 時間
2	講義内容	乳児保育における援助とかかわり			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	乳児保育における援助について調べる。		1 時間
		復習	乳児保育における援助のポイントを理解する。		1 時間
3	講義内容	子ども同士のかかわり①0児の発達と保育			
	該当する到達目標 1,2	予習	0歳児の発達と保育について調べる。		1 時間
		復習	子ども同士のかかわりから、0歳児の特徴を理解する。		1 時間
4	講義内容	教材研究①新聞紙遊び			
	該当する到達目標 2,3	予習	新聞紙を用意し、新聞紙を使った乳児の遊びについて調べる。		1 時間
		復習	乳児期の遊びについて理解する。		1 時間
5	講義内容	子ども同士のかかわり②1児の発達と保育			
	該当する到達目標 1,2,	予習	1歳児の発達と保育について調べる。		1 時間
		復習	子ども同士のかかわりから、1歳児の特徴を理解する。		1 時間
6	講義内容	保育実践① ちぎり絵			
	該当する到達目標 2,3	予習	折り紙や画用紙、ちぎり絵に必要な道具等を準備する。		1 時間
		復習	乳児期の遊びについて理解する。		1 時間

7	講義内容	子ども同士のかかわり③2児の発達と保育		
	該当する到達目標 1,2	予習	2歳児の発達と保育について調べる。	1 時間
		復習	子ども同士のかかわりから、2歳児の特徴を理解する。	1 時間
8	講義内容	保育実践②小麦粉粘土を作る		
	該当する到達目標 2,3	予習	小麦粉粘土の材料を用意する。	1 時間
		復習	自分の体験から、乳児が遊びについて理解する。	1 時間
9	講義内容	教材研究②身近な素材で手作り玩具を作る		
	該当する到達目標 2,3	予習	乳児の遊びに適した素材を見つけ準備する。	1 時間
		復習	乳児期の遊びについて理解する。	1 時間
10	講義内容	教材研究③発表		
	該当する到達目標 2,3	予習	発表の準備をする。	1 時間
		復習	他者が考えた遊びについても理解する。	1 時間
11	講義内容	保育施設的环境		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	乳児に適した保育施設的环境について調べる。	1 時間
		復習	乳児に適した保育施設的环境について理解する。	1 時間
12	講義内容	保育実技おむつ交換		
	該当する到達目標 1	予習	おむつ交換の手順を調べる。	1 時間
		復習	おむつ交換の手順と配慮について理解する。	1 時間
13	講義内容	保護者対応①保護者との連携		
	該当する到達目標 4	予習	現代の保護者の状況について調べる。	1 時間
		復習	低年齢児における保育施設と家庭の連携のあり方について、方法を知る。	1 時間
14	講義内容	保護者対応②連絡帳の活用		
	該当する到達目標 4	予習	連絡帳を読んでみる。	1 時間
		復習	連絡帳の書き方とその役割について理解する。	1 時間
15	講義内容	まとめと振り返り・試験		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	乳児保育における援助方法をこれまでの授業を踏まえて、自分なりに整理してみる。	1 時間
		復習	一人ひとりに応じる乳児保育を行う上で必要とされる配慮や工夫についての理解を深める。	1 時間
備考	オフィスアワー:授業終了後の休憩時間。質問は、メールでも受け付けます。 メールアドレス:sasaki@ashikaga.ac.jp 授業は講義と演習を中心としますが、事例検討やワークも取り入れ、授業の中でフィードバックします。			

科目名	障害児保育 I(保育・教育の内容)			CES155	演習
英文名	Childcare for Children with Disabilities I				
担当教員	野田 敦史				
科目に関連した実務経験	指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	現代は、幼稚園・保育所にも必ずと言ってよいほど障害を持った乳幼児が在籍している。その子どもに対して保育者は個別的にもクラス集団の中でも十分な保育の対応ができなければならない。まず、障害児保育を支える理念や歴史的変遷を理解し、障害児保育の実践について原理・原則を踏まえた実践方法の習得をめざす。次に、身体障害、知的障害、発達障害など様々な障害について知り、その特性を理解する。そして一人ひとりに合った援助の方法や環境構成について分析・提示する思考力の獲得をめざす。さらに障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。				
到達目標	1.障害児保育を支える理念・理論に基づく実践が示せる。 2.障害児保育の実践形態と効果・留意点を踏まえた保育者の実践が示せる。■ 3.身体障害、知的障害、発達障害等の障害特性に基づく対応方法が示せる。■ 4.障害児保育に必要な保護者や関係機関との連携の在り方について説明できる。■				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
	定期試験 50%、演習貢献度 25%、小テスト 25%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レジュメは授業回1～2ごとに配布し、毎回、回収し評価点(A～C)を付けて返却する。 定期試験の後に、出題の意図を掲示によって示す。				
使用教材	教科書:野田敦史・林恵編著「保育と障害のある子ども」みらい その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。				
1	講義内容	ガイダンス ―障害児保育を学ぶ意義―			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する。		0.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。		0.5 時間
2	講義内容	障害とは			
	該当する到達目標 1	予習	教科書 第 1 章, 第 2 章の演習課題に目を通しておく		0.5 時間
		復習	医学モデル, 社会モデル、ICF などを理解する。		0.5 時間
3	講義内容	発達と障害			
	該当する到達目標 1	予習	教科書 第 3 章の演習課題に目を通しておく		0.5 時間
		復習	就学前までの発達における阻害要因などを理解する。		0.5 時間
4	講義内容	障害児保育とその歴史			
	該当する到達目標 1	予習	教科書 第 4 章の演習課題に目を通しておく		0.5 時間
		復習	日本の障害児・者観、障害児教育と保育のあゆみなどを理解する。		0.5 時間
5	講義内容	肢体不自由児の理解と援助■			
	該当する到達目標	予習	教科書 第 5 章の演習課題に目を通しておく		0.5 時間

	2,3,4	復習	肢体不自由の定義、程度、支援方法などを理解する。	0.5 時間
6	講義内容	視覚障害の理解と援助■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 6 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,3,4	復習	視覚障害の定義、程度、支援方法などを理解する。	0.5 時間
7	講義内容	聴覚障害の理解と援助■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 7 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,3,4	復習	聴覚障害の定義、程度、支援方法などを理解する。	0.5 時間
8	講義内容	知的障害の理解と援助■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 8 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,3,4	復習	知的障害の定義、程度、支援方法などを理解する。	0.5 時間
9	講義内容	発達障害の理解と援助(1)AD/HD LD■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 9 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,3,4	復習	AD/HD LD の定義、程度、支援方法などを理解する。	0.5 時間
10	講義内容	発達障害の理解と援助(2)自閉症スペクトラム■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 10 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,3,4	復習	自閉症スペクトラムの定義、程度、支援方法などを理解する。	0.5 時間
11	講義内容	配慮を必要とする子どもの理解と援助■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 11 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,3,4	復習	愛着障害の定義、原因、支援方法などを理解する。	0.5 時間
12	講義内容	障害児保育の方法と形態■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 12 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2	復習	分離保育と統合保育の違いについて理解する。	0.5 時間
13	講義内容	個別の指導計画と個別の(教育)支援計画■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 13 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,4	復習	個別の指導計画と個別の(教育)支援計画の違いについて理解する	0.5 時間
14	講義内容	障害児保育の記録と評価■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 15 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,4	復習	障害児現場における評価・記録の在り方などを理解する	0.5 時間
15	講義内容	基本的生活習慣獲得の援助■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第 16 章の演習課題に目を通しておく	0.5 時間
	2,4	復習	障害を持つ子どもに対する基本的生活習慣獲得の援助方法について理解する。	0.5 時間
備考	オフィスアワー: 木曜 3 限と 4 限、質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス: noda@takasaki-u.ac.jp 学習上の助言: 予習については、演習課題を熟読しておくこと。授業では簡単な説明のみで即、演習に入る場合がある。復習については、演習をおこなった内容と合致する専門的な理論・方法等のキーワードを教科書で確認しておくこと。小テストおよび定期試験はキーワードを中心に出题するので理解が必要となる。 授業の進め方: 映像と事例(エピソード記録)を用いながら、保育上の課題意識を把握することや対応スキルの習得について講義を織り交ぜながら演習形式で進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	障害児保育Ⅱ（保育・教育の内容）				CES156	演習
英文名	Childcare for Children with Disabilities Ⅱ					
担当教員	野田 敦史					
科目に関連した実務経験	指導員（社会福祉士・介護福祉士）として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務（経験）					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位			
講義目標	障害児保育Ⅰでの学びに基づき、分離・統合保育実践現場それぞれを想定した事例検討、テーマ別研究、支援技術体験を通じ、高度な分析力と応用的な実践技術習得をめざす。					
到達目標	1.分離・統合保育現場における課題を抽出することができる。 2.専門的テーマに基づく情報集・分析・考察・解決方法の立案ができる。■ 3.障害児保育の実践現場を想定した他職種・他機関の連携の必要性・協働方法の提示ができる。■ 4.障害種別に特化した効果的な方法提示と実践ができる。■					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	演習貢献度 50%、演習成果物 50%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	演習終了後に回収するレジュメ、リアクションペーパーは、コメントもしくは評価（A～C）を付けて返却する。 演習成果物の評価結果は授業回 3～5 回を目安に開示する。					
使用教材	教科書：野田敦史・林恵編著「保育と障害のある子ども」みらい その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。					
	講義内容	集団生活と遊びの援助				
1	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 第 17 章の演習課題に目を通しておく			0.5 時間
		復習	基本的日常生活動作と遊びの意義、保育者の配慮などを理解する			0.5 時間
	講義内容	保護者や家庭への支援■				
2	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 第 18 章の演習課題に目を通しておく			0.5 時間
		復習	保護者支援の方法・実際などを理解する。			0.5 時間
	講義内容	小学校・特別支援学校との連携■				
3	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 第 19 章の演習課題に目を通しておく			0.5 時間
		復習	就学前審査・相談の内容などを理解する			0.5 時間
	講義内容	事例検討（1）AD/HD■				
4	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 第 22 章の事例課題に目を通しておく			0.5 時間
		復習	討議した内容を思い出しながら教科書 第 9 章を確認する。			0.5 時間
	講義内容	事例検討（2）自閉症スペクトラム■				
5	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書 第 23 章の事例課題に目を通しておく			0.5 時間
		復習	討議した内容を思い出しながら教科書 第 10 章を確認する。			0.5 時間
	講義内容	手話ダンス（1）技術習得方法と発表に向けて				
6	該当する到達目標 4	予習	インターネット等で手話ダンス動画作品を数点、視聴しておく			0.5 時間
		復習	自グループメンバーで役割等の確認・練習			0.5 時間

7	講義内容	手話ダンス(2)技術習得		
	該当する到達目標	予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	0.5 時間
	4	復習	自グループメンバーで役割等の確認・練習	0.5 時間
8	講義内容	手話ダンス(3)発表		
	該当する到達目標	予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	0.5 時間
	4	復習	授業時に配布した資料の内容を理解する。	0.5 時間
9	講義内容	点字翻訳と名刺製作(1)		
	該当する到達目標	予習	前回授業時に配布した「点字表」に目を通しておく。	0.5 時間
	4	復習	点字器で課題に基づく製作物を作成する。	0.5 時間
10	講義内容	点字翻訳と名刺製作(2)		
	該当する到達目標	予習	点字器で課題に基づく製作物を作成する。	0.5 時間
	4	復習	授業時に配布した資料の内容を理解する。	0.5 時間
11	講義内容	テーマ別研究(1)研究と発表の方法■		
	該当する到達目標	予習	前回授業時に配布した「研究計画書」を作成する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	0.5 時間
12	講義内容	テーマ別研究(2)フィールドワーク■		
	該当する到達目標	予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	0.5 時間
13	講義内容	テーマ別研究(3)フィールドワーク■		
	該当する到達目標	予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	自グループメンバーで役割等の確認・「研究計画書」を作成する。	0.5 時間
14	講義内容	テーマ別研究(4)発表■		
	該当する到達目標	予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	他グループの発表を振り返り自グループの発表に活かせるよう検討する。	0.5 時間
15	講義内容	テーマ別研究(5)発表■		
	該当する到達目標	予習	自グループメンバーで申し合わせた内容を各自おこなう。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	リフレクションカードの記入と提出。	0.5 時間
備考	オフィスアワー: 火曜 3 限と水曜 3 限、質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス: noda@takasaki-u.ac.jp 学習上の助言: 予習については、演習課題を熟読しておくこと。授業では簡単な説明のみで即、演習に入る場合がある。また、グループワーク実施期間中はメンバー相互の連絡調整に十分留意し準備をおこなうこと。復習については、演習をおこなった内容と合致する専門的な理論・方法等のキーワードを教科書で確認しておくこと。グループワーク実施期間中は予習同様、メンバー相互の連絡調整に十分留意し準備をおこなうこと。 授業の進め方: 映像と事例の活用あるいはグループ・テーマ別課題学習を通じて演習を行う。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		社会的養護Ⅱ(保育・教育の内容)			CES157	演習
英文名		Social Care Ⅱ				
担当教員		野田 敦史				
科目に関連した実務経験		指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期		3 年 前期	必修・単位数	選択 1 単位		
講義目標		社会的養護で学んだ原理・原則等をもとに、多様な社会的養護現場での実践的事象を把握・分析し、具体的な支援方法および関係機関・関連職種との連携・方策を学生個々が提示できることを目指す。				
到達目標		1.社会的養護現場での実践的事象に対して社会的養護の原理・原則に基づき、課題を抽出できる。■ 2.抽出した課題に対して子どもの最善の利益に基づいた目標設定と具体的な実践方法を立案することができる。■ 3.家庭支援、アフターケア等、我が国の社会的養護の課題全般に対して地域・他機関連携等を図りながら解決するソーシャルワークに立脚した支援方法の提示ができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法		演習貢献度 50%、演習成果物 50%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック		演習終了後に回収するレジュメ、リアクションペーパーは、コメントもしくは評価(A~C)を付けて返却する。 演習成果物の評価結果は授業回 3~5 回を目安に開示する。				
使用教材		教科書: 吉田眞理編著「～演習～社会的養護」萌文書林 その他、適宜レジュメを配布。DVD ビデオも視聴する。				
1	講義内容	ガイダンス ―社会的養護内容を学ぶ意義―				
	該当する到達目標	1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標など理解する。		0.5 時間
		1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法など確認する。		0.5 時間
2	講義内容	事例検討(1)児童の権利擁護				
	該当する到達目標	1,2	予習	教科書 第1章・Ⅰを読んでおく。		0.5 時間
		1,2	復習	子どもの最善の利益, 生存と発達の保障, 子どもの権利擁護を理解する。		0.5 時間
3	講義内容	事例検討(2)保育士等の倫理および責務				
	該当する到達目標	1,2,3	予習	教科書 第1章・Ⅱを読んでおく。		0.5 時間
		1,2,3	復習	支援者の子ども観, バーンアウトと共依存の予防を理解する。		0.5 時間
4	講義内容	事例検討(3)施設養護の特性および実際①児童養護施設の暮らし■				
	該当する到達目標	1,2,3	予習	教科書 第2章・Ⅱ-§1 を読んでおく。		0.5 時間
		1,2,3	復習	集団生活場面における個別対応の実践について理解する。		0.5 時間
5	講義内容	事例検討(4)施設養護の特性および実際②乳児院の暮らし■				
	該当する到達目標	1,2,3	予習	教科書 第2章・Ⅱ-§2 を読んでおく。		0.5 時間
		1,2,3	復習	面会時の保護者支援の方法、措置変更に向けた援助内容などを理解する。		0.5 時間
6	講義内容	事例検討(5)施設養護の特性および実際③医療型・医療型障害児入所施設の暮らし■				

	該当する到達目標	予習	教科書 第2章-II-§3を読んでおく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	重症心身障害児、脳性まひ児のケアの方法を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	事例検討(6)施設養護の特性および実際④児童自立支援施設・情緒短期治療施設の暮らし■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第2章-II-§4を読んでおく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	夫婦小舎制の利点・欠点、家庭裁判所の決定による入所などを理解する。	0.5 時間
8	講義内容	事例検討(7)施設養護の特性および実際①障害者支援施設の暮らし■		
	該当する到達目標	予習	教科書 第2章-II-§5を読んでおく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	障害者支援施設における知的障害者の支援内容などを理解する。■	0.5 時間
9	講義内容	座談会(1)乳児院現場職員の語りから		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	3	復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3章-I,II,IIIで確認する。	0.5 時間
10	講義内容	座談会(2)児童養護施設現場職員の語りから		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	3	復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3章-I,II,IIIで確認する。	0.5 時間
11	講義内容	座談会(3)アフターケア —あの頃を振り返って—		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	3	復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書で確認する。	0.5 時間
12	講義内容	座談会(4)措置機関の職務と課題		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	3	復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書で確認する。	0.5 時間
13	講義内容	ロールプレイ(1)スーパービジョン		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	3	復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3,4章で確認する。	0.5 時間
14	講義内容	ロールプレイ(2)施設内でのケースカンファレンス■		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	3	復習	リフレクションカードに記入した内容を思い出しながら教科書 第3,4章で確認する。	0.5 時間
15	講義内容	ダイアログ形式による情報共有とまとめ		
	該当する到達目標	予習	事前配布の資料に目を通しておく。	0.5 時間
	1,2,3	復習	リフレクションカードの記入と提出。	0.5 時間
備考	オフィスアワー:木曜3限と4限、質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス:noda@takasaki-u.ac.jp 学習上の助言:予習については、教科書および事前配布資料を熟読しておくこと。授業では簡単な説明のみで即、演習に入る場合がある。また、グループワーク実施期間中はメンバー相互の連絡調整に十分留意し準備をおこなうこと。復習については、演習をおこなった内容と合致する専門的な理論・方法等のキーワードを教科書で確認しておくこと。グループワーク実施期間中は予習同様、メンバー相互の連絡調整に十分留意し準備をおこなうこと。 授業の進め方:映像と事例(エピソード記録)を用いながら、社会的養護上の課題把握や対応のポイントについて講義を織り交ぜながら演習形式で進める。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの健康と安全(保育・教育の内容)			CES158	演習
英文名	Health and Security for Children				
担当教員	細谷 京子				
科目に関連した実務経験	看護師として病院小児病棟に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	保育・教育現場における子どもの保健及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。 子どもの体調不良や傷害発生時の対処方法について理解し、適切に実践できる能力を修得する。				
到達目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する 2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する■ 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について理解する 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの成長・発達や健康増進に向けた具体的援助技術を修得する■ 6. 子どもの健康および安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 60%、保健活動に関するレポート 30%、授業終了時のリフレクションレポート 10%				
課題に対するフィードバック	授業ごとに提出するリフレクションレポートに記述された質問内容への回答や理解不足に対する補足を次の授業開始時に行い理解の充足を図る。 期末試験後に、問題出題意図や解答について解説する。				
使用教材	子どもの保健演習ブック 松本峰雄監修 ミネルヴァ書房 2,200 円＋税				
1	講義内容	オリエンテーション、子どもの発育・健康①;『子どもの健康と安全』を学ぶ目的、子どもの発育の特徴			
	該当する到達目標 1	予習	子どもの保健演習ブックp10～12、58～64 を読む		0.5 時間
		復習	子どもの発育の特徴、発育を支援することの意義を再考する		1.0 時間
2	講義内容	子どもの発育・健康②;子どもの健康観察の意義及びその方法			
	該当する到達目標 1,5	予習	子どもの保健演習ブックp24～29 を読む		0.5 時間
		復習	子どもの健康状態を正しく評価することの意義を考察する		1.0 時間
3	講義内容	子どもの発育・健康③;身体計測の種類と方法・評価《実習》■			
	該当する到達目標 1,5	予習	子どもの保健演習ブックp13～22 を読む		0.5 時間
		復習	安全で正しい計測であったかの自己評価及び計測値のアセスメントをする		1.0 時間
4	講義内容	子どもの発育・健康④;体温・呼吸・心拍の観察と評価《実習》■			
	該当する到達目標 1,3,5	予習	子どもの保健演習ブックp26～28 を読む		0.5 時間
		復習	保育者として子どもの生理的状态を把握することの意義を再確認する		1.0 時間

5	講義内容	子どもの生活行動①;抱っこ、おんぶ、衣服の着脱、おむつ交換《実習》■		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp40~45、p47を読む	0.5 時間
	1,5	復習	教科書・資料を読み直し、実習を振り返る	1.0 時間
6	講義内容	子どもの生活行動②;子どもの身体の清潔(手洗い・沐浴・歯みがき)《実習》■		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp41~ 47を読む	0.5 時間
	1,5	復習	教科書・資料を読み直し、実習を振り返り、安全な援助について再確認する	1.0 時間
7	講義内容	子どもの生活行動③;授乳、食事の援助、与薬《実習》■		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp34~35、p84~85を読む	0.5 時間
	1,5	復習	教科書・資料を読み直し、実習を振り返り、安全な援助について再確認する	1.0 時間
8	講義内容	子どもの安全①;環境衛生と安全管理		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp48~ 55を読む	0.5 時間
	1,2,4,6	復習	保育環境における衛生・安全管理の意義を考察する	1.0 時間
9	講義内容	子どもの安全②;子どもの事故と事故防止、応急処置、ヒヤリハットの意義		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp128~ 152を読む	0.5 時間
	1,2,6	復習	子どもの生活場面をイメージし、事故防止の具体策を整理する	1.0 時間
10	講義内容	子どもの安全③;感染予防		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp86~ 103を読む	0.5 時間
	4,6	復習	子どもの感染予防における保育者の役割を考察する	1.0 時間
11	講義内容	子どもの安全④;子どもによくみられる症状への対応■		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp80~ 84を読む	0.5 時間
	3	復習	各症状が子どもに及ぼす影響を再確認し、適切な対応を整理する	1.0 時間
12	講義内容	子どもの安全⑤;慢性疾患や障害のある子どもの保育■		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp104~ 124を読む	0.5 時間
	3,5	復習	子どもの身体特性に応じた適切な援助についての知識を整理する	0.1 時間
13	講義内容	保健活動と保育①;地域における子育て支援システム		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp154~ 160を読む	0.5 時間
	6	復習	教科書・資料を読み直し、地域保健活動と保育との関係について理解を深める	1.0 時間
14	講義内容	保健活動と保育②;保育所における保健活動		
	該当する到達目標	予習	子どもの保健演習ブックp164~ 170を読む	0.5 時間
	6	復習	教科書・資料を読み直し、保健だより作成の準備をする	1.0 時間
15	講義内容	保健活動と保育③;保健だよりの作成、15 回のまとめ		
	該当する到達目標	予習	保健だより作成に必要な情報・資料を収集する	0.5 時間
	2,6	復習	作成した保健だよりを評価・修正するとともに、子どもの健康増進・安全を守るための自己の役割を再確認する	1.0 時間
備考	保育現場で必要とされる養護技術、子どもの発育状態や生理的状态を知るための測定技術等、実技演習を可能な限り取り入れた授業構成にする。毎回、講義内容の振り返りができるように行動目標を提示するとともに、リフレクションレポートにより理解状況の確認と質問への対応をする。			

科目名	幼児と健康(保育・教育の内容)			CES107	講義
英文名	Health in Early Childhood				
担当教員	山西 加織				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	乳幼児期の心身の健康および発育発達について理解を深め、子どもに必要な体験とは何かを学ぶ。また、園生活をとらして子どもたちが心と体の健康を培っていくために、保育者として子どもの運動遊びや基本的生活習慣の形成、安全等をどのように支え、役割を果たしていけばよいのかを考えていく。				
到達目標	1. 乳幼児期における心身の発達に関する知識を身につける。 2. 幼児期の運動発達の特徴と発達に必要な運動経験を説明できる。 3. 幼児期の生活習慣形成と安全教育に関する意義や基本的な考え方を理解している。 4. 子どもの健康をめぐる現代的課題とその背景を理解している。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への貢献度(30%)、レポート課題(10%)、筆記試験(60%)				
課題に対するフィードバック	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。期末試験後に、問題出題の意図を説明する。				
使用教材	教科書「保育内容『健康』生きる力を育む健やかな心とからだ」宮下恭子編著(大学図書出版)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、その他適宜資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション 子どもの健康とは			
	該当する到達目標	予習	教科書第 1 章を読み、子どもの健康について興味関心を高める。	0.5 時間	
	1	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
2	講義内容	子どもの健康をめぐる現代的課題			
	該当する到達目標	予習	子どもの健康や運動経験で課題となっていることを新聞、雑誌、インターネット等で調べる。	0.5 時間	
	1,4	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
3	講義内容	乳幼児期の身体発達			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章(31～32 頁)をよく読む。	0.5 時間	
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
4	講義内容	乳幼児期の運動発達			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章(33～48 頁)をよく読む。	0.5 時間	
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	
5	講義内容	子どもの体力・運動能力			
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章をよく読む。	0.5 時間	
	1,2,4	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間	

6	講義内容	子どもの健康な生活習慣の獲得		
	該当する到達目標	予習	教科書第4章をよく読む。	0.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間
7	講義内容	子どもの安全への配慮と安全教育		
	該当する到達目標	予習	教科書第8章、第9章をよく読む。	0.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間
8	講義内容	幼児期の運動遊びや身体活動		
	該当する到達目標	予習	幼児期の運動遊びや身体活動をいくつか挙げ、対象年齢や遊び・活動内容をノートにまとめる。	0.5 時間
	1,2	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間
9	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実践(1)3歳未満児		
	該当する到達目標	予習	3歳未満児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	0.5 時間
10	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実践(2)3歳児		
	該当する到達目標	予習	3歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	0.5 時間
11	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実践(3)4歳児		
	該当する到達目標	予習	4歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	0.5 時間
12	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びの実践(4)5歳児		
	該当する到達目標	予習	5歳児の遊びをいくつか挙げ、遊び内容と援助の留意点を考える。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で取り上げた遊びについて、ノートにまとめる。	0.5 時間
13	講義内容	多様な動きを引き出す運動遊びと環境構成		
	該当する到達目標	予習	授業で取り上げた遊びについて、環境構成を考えノートにまとめる。	0.5 時間
	1,2,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間
14	講義内容	これからの子どもの健康づくり		
	該当する到達目標	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間
	4	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ 定期試験		
	該当する到達目標	予習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書や配布資料を読み返し、全体を復習する。	0.5 時間
備考	【授業の進め方】パワーポイントや視聴覚メディア(DVD)等を活用し、講義とグループワークで授業を進める。 遊びの実践では、実技を中心に補足説明を加えながら進めていく。 ※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 オフィスアワー:【前期】月曜3時限、火曜2時限 【後期】月曜5時限、火曜5時限 メールアドレス:yamanishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館505研究室			

科目名	幼児と人間関係(保育・教育の内容)			CES108	講義
英文名	Human Relationships in Early Childhood				
担当教員	内田 祥子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項を理解する				
到達目標	1.乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明することができる。 2.保育内容「人間関係」の位置づけを理解し、説明することができる。 3.「人間関係」の育ちを促す保育者の援助について理解し、説明することができる。 4.「人間関係」をめぐる現代的課題について理解し説明することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする				
課題に対するフィードバック	課題にコメントし、返却する				
使用教材	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「認定こども園保育・教育要領解説」				
1	講義内容	授業概要・評価方法の確認			
	該当する到達目標 1・2	予習	シラバスを読んでくる	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	
2	講義内容	乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題			
	該当する到達目標 1・2	予習	幼稚園教育要領等の「人間関係」のねらいと内容を読んでくる	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	
3	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」①身近な大人との関わり			
	該当する到達目標 1・2	予習	入園児の幼児の心理について考えてみよう	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	
4	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」②保育者の関わり			
	該当する到達目標 1・2	予習	保育者が人間関係に果たす役割を考えてみよう	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	
5	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間」関係」③幼児同士のかかわり			
	該当する到達目標 1・2	予習	幼児のいざこざの特徴を考えてみよう	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	
6	講義内容	乳幼児期の発達と領域「人間関係」④遊びと生活			
	該当する到達目標 1・2	予習	遊びにおける人間関係の特徴を考えてみよう	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	
7	講義内容	自立心の発達過程			
	該当する到達目標 1・2	予習	自立心はどのように発達するのかを考えてみよう	1.5 時間	
		復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間	

8	講義内容	事例を通じて考える自立心の育ちと援助		
	該当する到達目標	予習	援助方法を考えてみよう	1.5 時間
	1・2・3	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
9	講義内容	協同性の発達過程		
	該当する到達目標	予習	幼児の協同性の発達について考えてみよう	1.5 時間
	1・2・3	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
10	講義内容	事例を通じて考える協同性の育ちと援助		
	該当する到達目標	予習	協同性をはぐくむ保育活動について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
11	講義内容	道徳性・規範意識の芽生え		
	該当する到達目標	予習	規範意識の発達について考えよう	1.5 時間
	1・2・3	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
12	講義内容	事例を通じて考える規範意識の育ちと援助		
	該当する到達目標	予習	児童期の人間関係について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
13	講義内容	保育における人間関係の育ちを支える環境		
	該当する到達目標	予習	年間を通してどのような行事があるかをまとめてくる	1.5 時間
	3,4	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
14	講義内容	家庭との関わりと人間関係		
	該当する到達目標	予習	保育者と保護者との関わりについて考える	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
15	講義内容	地域の人々との関わりと人間関係		
	該当する到達目標	予習	地域にどのような人がいるかをまとめてくる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	授業内の内容にかんする小テスト形式の復習課題	1.5 時間
備考	オフィスアワーは月曜の 1・2 限です。(研究室 410) uchida-s@takasaki-u.ac.jp 授業では、様々な保育事例を紹介しながら、子どもの発達や指導方法について具体的に講義します。			

科目名	幼児と環境(保育・教育の内容)			CES109	講義
英文名	Environment in Early Childhood				
担当教員	望月 文代				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	現代の乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題と、子どもにとって身近な環境との関わり、発達等に必要な領域「環境」についての知識や技能を身に付ける。さらに子どもにとって望ましい環境はどのような環境であるのか授業を通して学んでいく。				
到達目標	1. 乳幼児を取り巻く環境(人的環境・物的環境・自然環境)を理解する。 2. 領域「環境」への乳幼児の関わり方が説明できる。 3. 領域「環境」に関する知識・技能を身に付ける。 4. 乳幼児の物理的、数量・図形との関わりが説明できる。 5. 乳幼児の自然物との関わりに必要な事項を説明できる。 6. 乳幼児期における環境の重要性を理解する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	筆記試験(50%)、課題等への取組(30%)、発表(20%)				
課題に対するフィードバック	・提出物等は適宜返却するので、各自見直しを行うこと。				
使用教材	教科書①「幼稚園教育要領」<平成29年告示>文部科学省、フレーベル館、2017年、160円 教科書②「保育所保育指針」<平成29年告示>厚生労働省、フレーベル館、2017年、160円 教科書③「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」<平成29年告示>内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2017年、160円 教科書④「保育内容 環境」小田豊・湯川秀樹、北大路書房、2018 年、1836 円				
1	講義内容	現代社会を取り巻く乳幼児の環境について ―グループディスカッション―			
	該当する到達目標	予習	子どもを取り巻く環境の実態について調べておく。		1.5 時間
	1.2	復習	乳幼児に望ましい環境について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	子どもにとっての身近な環境とは ―領域「環境」との関わり方について―			
	該当する到達目標	予習	教科書①、②、③及び教科書④第 1 章を読んでおく。		1.5 時間
	2.3	復習	領域「環境」について理解を深める。		1.5 時間
3	講義内容	乳幼児期の生活に関連の深い情報との関わり ―子どもの興味・関心にあった素材とは―			
	該当する到達目標	予習	子どもが興味・関心を抱く素材とは何かを考えておく。		1.5 時間
	2.3	復習	乳幼児期に適した素材とは何かを理解する。		1.5 時間
4	講義内容	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり ―身近な素材を用いたおもちゃ作り―			

	該当する到達目標	予習	教科書①、②、③及び教科書④第2・8章を読んでおく。	1.5 時間
	3.4	復習	数量・図形に関する学びの実際について理解する。	1.5 時間
	講義内容	乳幼児の自然物との関わり① ー保育場面を想定した栽培方法の検討ー		
5	該当する到達目標	予習	保育場面で栽培されている自然物を調べる。	1.5 時間
	3.5	復習	保育場面で栽培されている自然物の栽培方法を理解する。	1.5 時間
	講義内容	乳幼児の自然物との関わり② ー栽培の実践ー		
6	該当する到達目標	予習	保育場面で栽培されている自然物の栽培方法の手順を調べておく。	1.5 時間
	3.5	復習	栽培の実践時に配慮すべき点を理解する。	1.5 時間
	講義内容	乳幼児の自然物との関わり③ ー身近な生物探しー		
7	該当する到達目標	予習	子どもを取り巻く身近な環境にどのような生物がいるか調べておく。	1.5 時間
	1.5	復習	身近にいる生物が子どもの発達にどのような影響を与えるのか理解する。	1.5 時間
	講義内容	乳幼児の自然物との関わり④ ー身近な草花を通しての色水遊びー		
8	該当する到達目標	予習	子どもを取り巻く環境の中にどのような草花があるのか調べておく。	1.5 時間
	1.5	復習	身近な草花で色水が作成できる種類を理解し、実践する力を身に付ける。	1.5 時間
	講義内容	乳幼児の自然物との関わり⑤ ー栽培物の収穫ー		
9	該当する到達目標	予習	栽培物の収穫時の注意点を調べておく。	1.5 時間
	2.5	復習	栽培物をどのように保育の中に取り入れるのか理解する。	1.5 時間
	講義内容	乳幼児の環境を題材としたオリジナルカード作り ー絵、文字、図形、マーク等ー		
10	該当する到達目標	予習	環境を題材としたオリジナルカード作りの案を考える。	1.5 時間
	2.4	復習	どのような文字、図形、マーク、素材を使用して作成するのか理解する。	1.5 時間
	講義内容	オリジナルカードの実践		
11	該当する到達目標	予習	カード作成時に使用する材料、素材等の準備を行う。	1.5 時間
	4.6	復習	カードを実際の保育場面でどのように活用するのか考える。	1.5 時間
	講義内容	園外の自然環境体験 ー幼児向けマップの作成ー		
12	該当する到達目標	予習	園外にはどのような自然環境があるのか調べておく。	1.5 時間
	5.6	復習	幼児向けマップ作成の手順を理解する。	1.5 時間
	講義内容	文化と伝統に触れる① ー園行事から考えるー		
13	該当する到達目標	予習	日本の文化と伝統について調べておく。	1.5 時間
	1.6	復習	どのような園行事があるのか理解する。	1.5 時間
	講義内容	国旗に親しむ ー色や形に触れるー		
14	該当する到達目標	予習	世界にはどのような国旗があるのか調べておく。	1.5 時間
	4.6	復習	国旗にはどのような色や形があるのか理解する。	1.5 時間
	講義内容	子どもにとって望ましい環境とは ーグループディスカッションー		
15	該当する到達目標	予習	教科書④第12章を読んでおく。	1.5 時間
	1.6	復習	子どもにとって望ましい環境とは何か理解する。	1.5 時間
備考	・毎時間講義内容に関するプリントを配布する。内容については、講義内容を基礎としながら、その内容がどのように保育実践に活かされているのかを想定しながら進めていく。 ・教科書①、②、③については読み込んでおくこと。 質問等がある場合は授業の前後に応じる。			

科目名		幼児と言葉(保育・教育の内容)			CES110	講義
英文名		Language in Early Childhood				
担当教員		今井 邦枝				
科目に関連した実務経験		非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)				
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標		領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を、具体的な乳幼児の姿や児童文化財を通して身に付ける。				
到達目標		1. 言葉の意義や機能を理解する。 2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。■ 3. 乳幼児としての児童文化財(絵本・パネルシアター・エプロンシアターなど)の意義を理解する。 4. 言葉を育てる環境について理解する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法		課題レポート 70%、毎時間の授業振り返りシート 30%				
課題に対するフィードバック		課題にコメントし、返却する				
使用教材		ことばと保育(改訂版) 近藤幹生他4名著 ひとなる書房 2016				
1	講義内容	言葉の発達過程において、乳幼児が言葉の意義と機能をどのように理解していくのか、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。				
	該当する到達目標	予習	シラバス、教科書を読んでくる。p2－29			1 時間
	1	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題			1 時間
2	講義内容	言葉の意義や機能について、「言葉獲得前の伝え合い」(共同注意)を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な乳幼児の姿を基に理解する。				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p30－42			1 時間
	1	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題			1 時間
3	講義内容	言葉の意義や機能について、「言葉による伝え合い」(コミュニケーションとしての機能)を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解する				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p43－64			1 時間
	1	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題			1 時間
4	講義内容	言葉の意義や機能について、「文字の意味や役割」(文字の機能)を取り上げ、映像資料や事例を通して、具体的な幼児の姿を基に理解する。				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p65－79			1 時間
	1	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題			1 時間
5	講義内容	しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験し、乳幼児の言葉の発達の視点から分析する。■				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p100－133			1 時間
	2	復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題、教材分析			1 時間

6	講義内容	言葉遊びの分析から、言葉遊びと乳幼児の言葉の発達との関連について理解する。		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p100－133	1 時間
		復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1 時間
7	講義内容	幼児にとっての児童文化財の重要性を理解し、様々な児童文化財について種類や特性を理解する。 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p100－133	1 時間
		2 復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1 時間
8	講義内容	様々な絵本を分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めとともに保育教材として教材研究をする。■		
	該当する到達目標	予習	教材とする絵本を選び、その理由について考える。	1 時間
		2 復習	絵本分析をする。	1 時間
9	講義内容	様々な絵本を実際に読むことを通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。■		
	該当する到達目標	予習	絵本を保育に用いるための教材研究をする。	1 時間
		3 復習	保育に用いる絵本についてまとめる。	1 時間
10	講義内容	様々なパネルシアターを分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めとともに保育教材として教材研究をする。■		
	該当する到達目標	予習	教材とするパネルシアターを選び、その理由について考える。	1 時間
		2 復習	パネルシアターを分析する。	1 時間
11	講義内容	様々なパネルシアターを実際に演じることを通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。■		
	該当する到達目標	予習	パネルシアターを保育に用いるための教材研究をする。	1 時間
		3 復習	保育に用いるパネルシアターについてまとめる	1 時間
12	講義内容	様々なエプロンシアターを分析することで、描かれている子どもの姿を読み解き、子ども理解を深めとともに保育教材として教材研究をする。■		
	該当する到達目標	予習	教材とするエプロンシアターを選び、その理由について考える。	1 時間
		2 復習	エプロンシアターを分析する。	1 時間
13	講義内容	様々なエプロンシアターを実際に演じることを通して、その楽しさを体験的に理解し、保育への取り入れ方を具体的に話し合う。■		
	該当する到達目標	予習	エプロンシアターを保育に用いるための教材研究をする。	1 時間
		3 復習	保育に用いるエプロンシアターについてまとめる	1 時間
14	講義内容	話し言葉を育てる環境について、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p80－99	1 時間
		4 復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1 時間
15	講義内容	書き言葉への興味や関心を育てる環境について、映像資料や事例を通して、具体的に理解する。		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んでくる。p65－79	1 時間
		4 復習	授業内の内容に関する小テスト形式の復習課題	1 時間
備考	各時間に配布するプリントにそって講義を進める。講義中心であるが、グループ活動、個人発表を行う。 オフィスアワー：月曜 4 限、火曜 4 限 メールアドレス：kimai@takasaki-u.ac.jp 研究室：8 号館 5 階 507			

科目名		幼児と表現(保育・教育の内容)			CES111	講義
英文名		Arts and Expression in Early Childhood				
担当教員		岡本 拓子 石原 綱成				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標		幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境について実践的に学び、幼児期の表現活動を援助するための知識・技能・表現力を習得する。				
到達目標		1. 幼児の表現の姿やその発達過程を理解する。 2. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 3. 造形表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 4. 様々な表現の基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。				
学位授与方針		✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
	評価方法					
課題に対するフィードバック		課題への取り組み 30%, 期末試験 70%を総合的に評価する。				
使用教材		毎回授業終了時に振り返りを行い、個々の課題を明確化し共有する。 期末試験については個々の課題を明確に示したコメントを付して返却する。				
使用教材		保育所保育指針解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説, 幼稚園教育要領解説 その他、適宜プリント等の必要資料を配布する。				
1	講義内容	領域「表現」のねらい及び内容について理解する(その1)(岡本)。 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解する。				
	該当する到達目標 1	予習	保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 幼稚園教育要領に示される領域「表現」のねらい及び内容を読んでおく。			1 時間
		復習	領域「表現」についての理解を深めておく。			1.5 時間
2	講義内容	領域「表現」のねらい及び内容について理解する(その2) (岡本)。 自分自身の表現を振り返り、その生成過程における「感じる・気づく・考える」といった内的な作用の重要性やモノとの関わりについて理解する。				
	該当する到達目標 1	予習	自分自身の表現の生成過程の振り返りをおこなう。			1 時間
		復習	領域「表現」についての理解を深めておく。			1.5 時間
3	講義内容	乳幼児の表現の発達を理解する(その1) (岡本)。 映像や事例から、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し、幼児の素朴な表現に気づき、共感的に理解する。				
	該当する到達目標 1	予習	テキストの当該箇所を熟読する。			1 時間
		復習	視聴したビデオに関する課題をまとめる。			1.5 時間
4	講義内容	幼児の表現の発達を理解する(その2) (石原)。 小学校低学年における音楽科や図画工作科での学習内容を低学年の学習指導要領や教科書から理解し、学びの連続性について考える。				

	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキストの当該箇所を熟読する。	1 時間
		復習	表現における学びの連続性に関する課題をまとめる。	1.5 時間
5	講義内容	乳幼児の表現を育むための環境について理解する(岡本)。 乳幼児が、どのように身体の諸感覚を通して環境と対話し、豊かな感受性を育むか、そのために必要な環境とは何かについて、実際に自身と環境との対話を通して理解する。		
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキストの当該箇所を熟読する。	1 時間
		復習	表現と環境に関する課題をまとめる。	1.5 時間
6	講義内容	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び(その1) (岡本)。 生活や遊びの中にある音や声の面白さに気づく。声や動き等、自ら創り出す音の多様性を生かした表現をおこなう。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	身近な音に関する課題をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び(その2) (岡本)。 声や楽器などを用いて、応答的な音楽表現を即興的に行う。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	音楽表現に関する課題を行う。	1.5 時間
8	講義内容	音・歌遊びがどのようにして「学び」に繋がるのかを理解する(岡本)。 簡易な楽器を用いて、乳幼児の発達に即したリズム遊びの展開について考える。わらべうたや手遊び歌を体験することを通して、乳幼児の「音楽を通した学び」について考える。		
	該当する到達目標 1, 2	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	音楽表現に関する課題を行う。	1.5 時間
9	講義内容	身の周りの様々な素材を用いた造形遊び(その1) (石原)。 絵具やクレヨン等、様々な画材に触れ、その特性を生かした造形表現を体験する。		
	該当する到達目標 1, 3	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	造形表現に関する課題を行う。	1.5 時間
10	講義内容	身の周りの様々な素材を用いた造形遊び(その2) (石原)。 折り紙、布、廃材など、様々な造形遊びに用いる素材に触れ、その特性を生かした造形表現を体験する。		
	該当する到達目標 1, 3	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	造形表現に関する課題を行う。	1.5 時間
11	講義内容	造形遊びがどのようにして「学び」に繋がるのかを理解する(石原)。 身近な素材を用いて、乳幼児の発達に即した造形遊びの展開について考える。絵を描くことや遊びに用いるモノを作る体験をすることを通して、乳幼児の「造形を通した学び」について考える。		
	該当する到達目標 1, 3	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	造形表現に関する課題を行う。	1.5 時間
12	講義内容	コミュニケーションとしての表現活動について理解する(岡本)。 表現は対象への呼びかけ・応答であるコミュニケーションとして成り立つことを体験し、表現を生成する過程を分析的にとらえる。楽しさを生み出す要因について理解を深める。		
	該当する到達目標 1, 4	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	楽しさを生み出す表現の要因に関する課題を行う。	1.5 時間

13	講義内容	乳幼児の表現を読み取る力を身に着ける(岡本)。 乳幼児の表現する姿をみることを通して、何を感じ、どのように表現しようとしているのかを理解する。素朴な表現を見出し、受け止め、共感的に理解し分析的に読み取る力を習得する。		
	該当する到達目標 1, 4	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	表現の読み取りや理解に関する課題を行う。	1.5 時間
14	講義内容	音楽・身体・造形的な表現を統合し、総合的表現として乳幼児の表現を理解する(石原)。 様々な表現媒体を用い、それらを統合した劇遊びを体験することを通して、総合的な表現としての乳幼児の表現とそのために必要な環境について理解する。		
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	総合的表現として乳幼児の表現を理解に関する課題を行う。	1.5 時間
15	講義内容	ICTの活用と総括(石原) ICTを活用した表現活動の実践例を具体的に考える。学習のまとめを発表する。		
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	予習課題を行う。	1 時間
		復習	ICTを活用した表現活動に関する課題を行う。	1.5 時間
備考	授業に臨んでは予習・復習をしておくこと。授業は演習形式で実施し、ディスカッションや発表を中心に進める。 毎時、取り組むテーマに関するプリントを配布し、要点について説明を行った後、グループで課題に取り組む時間を設ける。 オフィスアワー:水曜 3 限, 水曜 4 限(岡本) , 月曜 3 限, 木曜 4 限 それ以外の時間に課題をみてほしい場合は、メールにて事前予約すること。 岡本: okamoto@takasaki-u.ac.jp 石原: ishihara@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 404 研究室(岡本), 8 号館 5 階 501(石原)			

科目名	国語(保育・教育の内容)				CES201	講義
英文名	Japanese Language					
担当教員	武井 英昭					
科目に関連した実務経験	中学校での国語科の指導(経験)					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位			
講義目標	国語の基礎並びに小学校の国語の指導内容を理解し、教員として国語力を高め、指導力の基礎を培う。					
到達目標	1.国語の基礎を理解する。 2.国語の理解を踏まえ、国語を通して「教師が教える・子どもが学ぶ」ということの意義を理解する。■ 3.子どもが小学校で学ぶ「国語」の内容の概略について小学校学習指導要領により理解する。 4.国語科について、教科書教材を通して知識・理解を深める。 5.小学校教員(保育者)としての国語の力を高めるとともに指導力の基礎を培う。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	15 回の授業の取り組みと毎回の課題(52%【4×13】)及び 2 回のレポート(48%【24×2】)で総合して評価する。					
課題に対するフィードバック	毎時間課題を提示する。その際に出題意図と採点基準を示す。提出物には必要に応じ加筆訂正を行う。また全体に必要な解説を行う。レポートについても同様である。					
使用教材	小学校学習指導要領解説「国語」編、毎回配布する教材プリント、小学校4年国語教科書(教育出版)					
1	講義内容	ガイダンス(自己紹介と学習上の留意点) 国語(日本語)とは何か その1 国語の種々相				
	該当する到達目標 1	予習	言語とは何か、国語とは何かについて考えをまとめる。			1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。			1.5 時間
2	講義内容	国語(日本語)とは何か その2 国語のコミュニケーション				
	該当する到達目標 1	予習	コミュニケーションの成立とはどういうことかについて考えまとめる。			1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。			1.5 時間
3	講義内容	国語(日本語)とは何か その3 国語の語順				
	該当する到達目標 1	予習	国語の語順の自由度と制約について考えをまとめる。			1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。			1.5 時間
4	講義内容	国語(日本語)とは何か その4 語の意味				
	該当する到達目標 1	予習	語の意味について考えをまとめる。			1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。			1.5 時間
5	講義内容	国語(日本語)とは何か その5 国語の語彙及び和語・漢語・外来語				
	該当する到達目標 1	予習	語彙とはどういうことか、また自分の言語生活でどのような語が多用されているかを考える。			1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。			1.5 時間
6	講義内容	国語(日本語)とは何か その6 国語の表記・仮名遣い				
	該当する到達目標 1	予習	国語の表記法や仮名遣いについてその基本をまとめる。			1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。			1.5 時間

7	講義内容	小学校学習指導要領解説「国語」編の概観。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力など」の理解。及び「話すこと・聞くこと」		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	講義 1-6 を踏まえ、小学校学習指導要領解説「国語」編の指定された部分を読むについて読んで考える。	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
8	講義内容	学級・学習におけるグランドルールについて■		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	コミュニケーションや学習におけるグランドルールがなぜ必要かを考える。	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
9	講義内容	「書くこと」■		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	講義 1-6 を踏まえ、小学校学習指導要領解説「国語」編の「書くこと」について読み、大事な点を押さえる。	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
10	講義内容	「事実」と「意見」		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	事実の表現、意見の表現とはどういうものか、その違いを説明する。	1.5 時間
		復習	「事実」と「意見」を読み分けるとともに書き分ける。講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
11	講義内容	「読むこと」 説明的な文章について■		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	講義 1-6 を踏まえ、小学校学習指導要領解説「国語」編の「読むこと」について読み、大事な点を押さえる。どの事項が説明・文学的な文章にかかわるかも考える	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
12	講義内容	「読むこと」 文学的な文章について■		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	講義 1-6 を踏まえ、小学校学習指導要領解説「国語」編の「読むこと」について読み、大事な点を押さえる。11に同じ	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
13	講義内容	「言語事項・古典等」及び書写■		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	講義 1-6 を踏まえ、小学校学習指導要領解説「国語」編の「知識・技能」を低中高学年の関係を考えながら読み、大事な点を押さえる。	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解を確かなものとする。	1.5 時間
14	講義内容	教育課程における国語科と他教科		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	他教科の学習における国語について考えをまとめる	1.5 時間
		復習	講義内容についてさらに調べたりして理解や意欲を確かなものとする。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	15回の講義全体を整理する	3 時間
		復習	15回の講義を振り返り、学修上の自己課題を明らかにし、その課題解決に向けて意欲を確かなものとする。	2 時間
備考	オフィスアワー：月曜2時限 研究室：8 号館 407 研究室 メールアドレス： h-takei@takasaki-u.ac.jp 講義形式の授業もあるが主としてアクティブラーニングとする。 準備 小学校学習指導要領解説「国語」編、教育出版4年の国語教科書上下 ■ 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	社会(保育・教育の内容)			CES202	講義
英文名	Social Studies				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	社会認識に係る社会科の意義と内容について、具体的事例を通して、理論や歴史的背景等を元に考察し、理解する。また、社会科の授業づくりににおいて必要な方法を習得する。				
到達目標	1.主に小学校社会科の学習内容について、具体的な事例を通して理解し、指導の見通しを持つことができる。 2.社会科における現代的課題について討議し、自分の考えを説明することができる。■ 3.社会科の授業づくりに必要な知識や方法並びにその意義を習得することができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(小論文を含む)50% 日常の提出物(小テストや感想を含む)やプレゼンテーション(50%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体(授業感想・成果物等)については評価の明記並びに評価コメント。 プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	小学校学習指導要領解説社会編(142円)				
1	講義内容	オリエンテーション(北海道に係る地域学習の導入示範授業)・群馬の農業に係る協議			
	該当する到達目標 1.3	予習	小学校学習指導要領解説社会編に目を通しておく。		2 時間
		復習	示範授業からの気づきをカードに記述しておくと共に、講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。		1 時間
2	講義内容	社会科の目標と内容の概略説明・社会科個人調査活動の提示			
	該当する到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p10～p17 に目を通しておく。		1 時間
		復習	社会科の目標と内容について理解すると共に社会科個人調査活動の目的・方法を理解する。		1 時間
3	講義内容	第 3・4 学年の内容(地域学習の解説)			
	該当する到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p18～p47 に目を通しておく。		2 時間
		復習	第 3・4 学年の学習内容の特色と留意点について理解する。社会科個人調査活動に取り組む。		1 時間
4	講義内容	第 3・4 学年の内容(社会に開かれた教育課程の創造の理解)			
	該当する到達目標 2.3	予習	平成29年3月告示新学習指導要領に目を通しておく。		0,5 時間
		復習	社会科における「社会に開かれた教育課程」創造のあり方をチームで再検討する。		1 時間
5	講義内容	第 3・4 学年の内容(社会科における「社会に開かれた教育課程」の検討)と社会科個人調査発表①			
	該当する到達目標 2.3	予習	前時の協議を元に発表内容をチームで検討しておく。		1 時間
		復習	社会科における「社会に開かれた教育課程」について理解する。		1 時間
6	講義内容	第 3・4 学年の実践から学ぶ①(佐々木実践:地域の介護施設＝命の授業)・社会科個人調査発表②			

			■	
	該当する到達目標	予習	事前配布の実践資料に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	佐々木実践を理解し、概要をノートにまとめておく。	1 時間
7	講義内容	第 3・4 学年の実践から学ぶ②(佐々木実践の授業研究)・社会科個人調査発表③■		
	該当する到達目標	予習	佐々木実践の意義について検討しておく。	1,5 時間
	2.3	復習	チームで協議した事項をまとめ、発表に向けての計画を立てる。	1 時間
8	講義内容	第 3・4 学年の実践から学ぶ③(佐々木実践の授業研究の検討)・社会科個人調査発表④■		
	該当する到達目標	予習	発表に係る準備及び練習をチームで行う。	1 時間
	1.3	復習	実践を通して体験学習の重要性や保護者参加型授業の必要性について理解する。	1 時間
9	講義内容	第 5 学年の内容(国土学習)・社会科個人調査発表⑤		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p70～p99 に目を通しておく。	2 時間
	1	復習	第 5 学年の国土学習の特色と留意点について整理しノートにまとめる。	1 時間
10	講義内容	第 5 学年の内容(産業学習)・社会科個人調査発表⑥		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p70～p99 に目を通しておく。	1 時間
	1	復習	第 5 学年の産業学習の特色と留意点について整理しノートにまとめる。	1,5 時間
11	講義内容	第 5 学年の実践から学ぶ(栗原実践:野菜づくり)・社会科個人調査発表⑦■		
	該当する到達目標	予習	事前配布の実践資料に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	実践の意義について話し合った内容を元に整理しまとめる。	1 時間
12	講義内容	社会科と新聞(社会科と NIE 教育)・社会科個人調査発表⑧		
	該当する到達目標	予習	小中高の社会科関連の授業を想起し、新聞が使われた授業を記述しておく。	1 時間
	2.3	復習	社会科において、新聞を資料として用いることの効果と課題についてまとめる。	1 時間
13	講義内容	第 6 学年の内容(歴史学習・政治学習)・社会科個人調査発表⑩		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p84～p117 に目を通しておく。	1 時間
	1	復習	歴史学習・政治学習における指導上重要なポイントをノートに整理し、必要な知識を中学校の歴史・公民の教科書を通して習得する。	1 時間
14	講義内容	社会科とシティズンシップ教育(環境教育を通して)・社会科個人調査発表⑪■		
	該当する到達目標	予習	日本の現代的な環境問題について、情報を集めておく。	1 時間
	2.3	復習	社会科における態度化とシティズンシップ形成について、小論文として記述する。	1 時間
15	講義内容	平成 29 年 3 月告示の学習指導要領における社会科		
	該当する到達目標	予習	平成29年3月告示新学習指導要領に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	平成29年3月告示新学習指導要領における社会科の改訂内容について理解する。	1 時間
備考	オフオフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを具現化する。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint を使用できる環境を準備しておく。(■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	算数(保育・教育の内容)				CES203	講義
英文名	Elementary Mathematics					
担当教員	小泉 健輔					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位			
講義目標	小学校算数科の指導を行うための基盤として、歴史文化的な背景や数学的な考えについて理解を深められるようにするとともに、算数科の授業をつくるための視点を得られるようにする。					
到達目標	1.小学校算数科の内容の背景に関わる知識や数学的な考えを深めることができる。 2.小学校算数科の指導内容について、歴史的な観点や文化的な観点などを踏まえて、対比的に理解することができる。 3.数学的活動の意義・必要性について、活動を通して具体的に考え、理解することができる。 4.数学的な問題を協同的に解決することのよさを感じ得る。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業での取り組み(活動及び授業内課題 40%・発表会 20%)、提出物の充実度(期末レポート 40%)により総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	授業での活動と課題については、毎時間評価をする。 発表会においては、受講者同士の他者評価も取り入れる。					
使用教材	必要に応じて資料を配布する。					
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで講義の概略について知る。		1 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、評価方法などについて確認する。		1.5 時間	
2	講義内容	数の概念と表記の成立 ①「数を数える」行為について考える				
	該当する到達目標	予習	日常生活場面と数との関わりについて考える。		0.5 時間	
	1,2	復習	専門用語の意味を理解し、算数科の指導内容との関連について考える。		2 時間	
3	講義内容	数の概念と表記の成立 ②記数法と命数法				
	該当する到達目標	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。		0.5 時間	
	1,2	復習	専門用語の意味を理解し、算数科の指導内容との関連について考える。		2 時間	
4	講義内容	数の概念と表記の成立 ③十進位取り記数法の特長				
	該当する到達目標	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。		0.5 時間	
	1,2	復習	専門用語の意味を理解し、算数科の指導内容との関連について考える。		2 時間	
5	講義内容	世界的に見た歴史的計算方法 ①記数法と計算方法				
	該当する到達目標	予習	現在用いられている計算様式について、学習指導要領や教科書等で調べる。		1 時間	
	1,2	復習	講義の内容を受けて、我が国の現在の指導内容と対比して考える。		1.5 時間	
6	講義内容	世界的に見た歴史的計算方法 ②いろいろな筆算				
	該当する到達目標	予習	現在用いられている筆算について、学習指導要領や教科書等で調べる。		1 時間	
	1,2	復習	講義の内容を受けて、我が国の現在の指導内容と対比して考える。		1.5 時間	

7	講義内容	作業的・体験的活動を取り入れた数学的活動 ①折り紙を折って考える		
	該当する到達目標	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
	1,3	復習	講義の内容を受けて、算数科の指導内容との関連について考える。	2 時間
8	講義内容	作業的・体験的活動を取り入れた数学的活動 ②ジオボード		
	該当する到達目標	予習	各自でジオボードを作成する。	1 時間
	1,3	復習	講義の内容を受けて、算数科の指導内容との関連について考える。	1.5 時間
9	講義内容	作業的・体験的活動を取り入れた数学的活動 ③タングラム		
	該当する到達目標	予習	各自でタングラムを作成する。	1 時間
	1,3	復習	講義の内容を受けて、算数科の指導内容との関連について考える。	1.5 時間
10	講義内容	身の回りにある算数・数学 ①日常生活に生かされる数学		
	該当する到達目標	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3	復習	講義の内容を受けて、算数科の指導内容との関連について考える。	2 時間
11	講義内容	身の回りにある算数・数学 ②社会に生かされる数学		
	該当する到達目標	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
	1,2,3	復習	講義の内容を受けて、算数科の指導内容との関連について考える。	2 時間
12	講義内容	グループごとの課題選択・解決		
	該当する到達目標	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
	1,3,4	復習	割り振られた課題の解決に向けて考える。	2 時間
13	講義内容	グループごとの課題解決・発表準備		
	該当する到達目標	予習	割り振られた課題を解決する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	課題解決の過程をふり返り、表現の仕方について考える。	1 時間
14	講義内容	課題解決発表会		
	該当する到達目標	予習	発表の準備を行う。	1.5 時間
	1,3,4	復習	他のグループの発表内容について振り返り、まとめる。	1 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	この講義での学習内容を網羅的に振り返る。	1 時間
	1,2,3,4	復習	指定された期末レポートを作成する。	1.5 時間
備考	授業期間全体を通じた授業の進め方:本授業では、上記の到達目標を達成するために、まずは数(第2回～第4回)と計算(第5回～第6回)の観点から本質的な理解へと深められるように進める。そして次に、算数・数学の活動性(第7回～第9回)、日常及び社会生活との関係(第10回～第11回)といった、算数科の授業づくりの根幹に関わる部分に対する考察ができる機会を設定する。そしてそれらを踏まえて、学生たち自身が数学の課題解決とその表現を協同的に行う場を設定することにより、算数科の授業づくりで大切にすべきことが実感的に理解できるようにする。 オフィスアワーがないため、授業時間外の質問はメールにて受け付ける(メールアドレスは授業時に連絡)。 予習・復習については、適宜発表会前の学修や期末レポートの作成等により補完すること。			

科目名	理科(保育・教育の内容)			CES204	講義
英文名	Science				
担当教員	片山 豪				
科目に関連した実務経験	教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小学校理科に関連した物質, エネルギー, 生命, 地球に関わる発展的な内容を学び, 観察・実験を通じて科学的リテラシーを身につける。また, 小学校理科の実験を計画することで, 科学的な見方や考え方を身につけ, 小学校理科実験の指導に関する汎用的な能力を養う。				
到達目標	1.理科を総合的に学習することで科学的な見方や考え方を身に付けることができる。■ 2.小学校で理科を教えるにあたっての基本的な知識, 観察及び実験の技能を習得することができる。 3.自ら調べ, 教材を開発する能力を養うことができる。■ 4.小学校理科以降に, どのように小学校理科が発展するのか, サイエンスとしてどのような背景があるのか知ることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回提出するレポート 80%, パフォーマンステスト及び考査 10%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにおける修正すべき点を示し, 再レポートを促す。 パフォーマンステストにおける修正すべき点を説明する。				
使用教材	小学校学習指導要領解説理科編, 評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料, 小学校理科教科書, 自作プリント等				
1	講義内容	オリエンテーション, 学習指導案について			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編の総説, 小学校理科の目標を読んでおく。		1.5 時間
		1,2	復習	講義の方針を確認するとともに, 学習指導案の内容を理解する。	
2	講義内容	実験の計画と実践, 実験レポートの書き方■			
	該当する到達目標	予習	コンピュータ入門で学習した Word や Excel の使い方を復習しておく。		1 時間
		1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	
3	講義内容	化学(小学校で扱う主な薬品とその調整)■			
	該当する到達目標	予習	濃度計算に関する課題を行う。		1 時間
		1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	
4	講義内容	小学校理科実験(3 年生:エネルギー・粒子)			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。		1.5 時間
		1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	
5	講義内容	現場教師による指導の実際(魚の誕生)			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。		1 時間
		1,2,3,4	復習	レポート(メダカの発生の観察記録)を書く。	
6	講義内容	小学校理科実験(3 年生:生命・地球, 4 年生:エネルギー)			

	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	生物(生命倫理, 体のつくりとはたらき)		
	該当する到達目標	予習	生命倫理に関する課題をまとめておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2 時間
8	講義内容	小学校理科実験(4 年生:粒子・生命・地球)		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	地学(地質, 天文)		
	該当する到達目標	予習	方位磁針, 星座早見, 顕微鏡の使い方を調べておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2 時間
10	講義内容	小学校理科実験(5 年生:エネルギー・粒子)		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	生物(水の中の小さな生き物)■		
	該当する到達目標	予習	顕微鏡の使い方を調べておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2 時間
12	講義内容	小学校理科実験(5 年生:生命・地球, 6 年生:エネルギー)		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	物理(速度, エネルギー)		
	該当する到達目標	予習	速度やエネルギーの計算に関する課題を行う。	1 時間
	1,2,3,4	復習	実験のレポートを書く。	2 時間
14	講義内容	小学校理科実験(6 年生:粒子・生命・地球)		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実験のワークシートをまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	パフォーマンステスト(薬品の調整, 顕微鏡の使い方)■		
	該当する到達目標	予習	教師として薬品の準備や顕微鏡の指導ができるように練習しておく。	1.5 時間
	1,2	復習	指摘事項を確認し, 再度練習する。	1.5 時間
備考	各講義の前半は, 学生主体の小学校理科実験の模擬実験を行い, 後半は教員主体の理科実験をおこなう。 各会 2 時間連続で 7 回の講義(14 コマ分)と 2 回のパフォーマンステスト(15 コマ目分)を行う。期末試験(16 コマ目)を行う。 オフィスアワー:水曜 3 限、金曜 2 限 メールアドレス:katayama@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 4 階 411 研究室 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生活(保育・教育の内容)			CES205	講義
英文名	Living Environment Studies				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験) ・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小学校教育における生活科の意義と内容について、具体的事例を通して、方法や内容について理解する。また、生活科においては、近年幼児教育との関連性が重視されてきていることから、その方向性について検討する。				
到達目標	1.小学校生活科の学習内容について、具体的な事例を通して理解し、指導の見通しを持つことができる。 2.生活科の成立過程を知ることを通して、生活科の意義を理解し説明することができる。 3.生活科の授業づくりについての具体的知識や方法を習得することができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(小論文を含む)50% 日常の提出物(小テストや感想を含む)やプレゼンテーション(50%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体(授業感想・成果物等)については評価の明記並びに評価コメント。 プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	小学校学習指導要領解説生活編(134円) 生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—(学術図書出版 2000 円+税				
1	講義内容	生活科の意義と目標・生活科個人調査活動			
	該当する到達目標 1.2	予習	小学校学習指導要領解説生活編に目を通しておく。		2 時間
		復習	目標と意義について、事例をもとにノートにまとめる。個人調査課題の調査、まとめを実施する。		1 時間
2	講義内容	生活科の変遷・生活科単元のグループ調査活動			
	該当する到達目標 2	予習	生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—の p9～p20 に目を通しておく。		1 時間
		復習	生活科導入の経緯と、学校における定着の推移についてノートにまとめる。グループで担当発表単元を検討する。		1 時間
3	講義内容	生活科の内容構成			
	該当する到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説生活編 p19～p23 及び生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—の p9～p20 に目を通しておく。		1 時間
		復習	生活科の内容構成について理解し、ノートにまとめる。		1 時間
4	講義内容	生活科と教育課程①(教育課程における位置づけ)・生活科単元のグループ調査発表①			
	該当する到達目標 1.2	予習	小学校学習指導要領解説生活編 p68～p81 に目を通しておく。		0,5 時間
		復習	講義全体をふり返り、教育課程における生活科の位置づけを理解する。		1 時間
5	講義内容	生活科と教育課程②(生活科の課題)・生活科単元のグループ調査発表②			

	該当する到達目標	予習	前時の復習を元に、生活科の問題点について整理しておく。	1 時間
	1.2	復習	生活科が、「社会に開かれた教育課程」にとって重要である事を理解する。	1 時間
6	講義内容	生活科の指導計画①(年間指導計画の理解)・生活科単元のグループ調査発表③■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編 p41～p59 及び生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—の第 5 章に目を通しておく。	1 時間
	1.2.3	復習	生活科の年間指導計画について理解し、年間指導計画のモデルを作成する。	1 時間
7	講義内容	生活科の指導計画②(年間指導計画の作成)・生活科単元のグループ調査発表④■		
	該当する到達目標	予習	年間指導計画のモデル作成の構想を立案する。	1 時間
	1.2.3	復習	学習指導要領に基づいた年間指導計画モデルを作成する。	1 時間
8	講義内容	生活科の内容①(自然・動植物に係る領域)・生活科単元のグループ調査発表⑤・生活科の単元構成①(単元構想の立案方法)■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編 p60～p63 及び生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—の第 6 章に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	単元を構成する基本的要素を知り、自らの単元をつくり構想をまとめる。	1 時間
9	講義内容	生活科の単元構成②(単元構想シート作成)・生活科単元のグループ調査発表⑥■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領と自身の年間指導計画表をもとに、単元構想を検討する。	1 時間
	1.3	復習	単元構想シートに、単元構想を記述し提出する。	1 時間
10	講義内容	生活科の内容②(遊び・季節に係る領域)・生活科単元のグループ調査発表⑦■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導案生活編・生活科教育改訂新版・生活科教科書の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	遊び・季節に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。	1 時間
11	講義内容	生活科の内容③(社会生活に係る領域)・生活科単元のグループ調査発表⑧■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導案生活編・生活科教育改訂新版・生活科教科書の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	自分に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。	1 時間
12	講義内容	生活科の内容④(自分・家族に係る領域)・生活科単元のグループ調査発表⑨■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導案生活編・生活科教育改訂新版・生活科教科書の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	自分・家族に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。	1 時間
13	講義内容	保幼小連携・生活科の単元構成③(学習指導案作成)■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編 p54～p59 及び生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—の p54～p57 に目を通しておく。自分の年間指導計画及び単元構成シートを元に学習指導案の構成を検討しておく。	1 時間
	2.3	復習	幼児教育との連携の必要性について理解し、自分の考えをまとめる。学習指導案を年間指導計画、単元構想と整合性をもって学習評価も考慮して作成する。	1 時間
14	講義内容	生活科の内容⑤(人々・学校・地域に係る領域)・生活科単元のグループ調査発表⑩■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導案生活編・生活科教育改訂新版・生活科教科書の講義内容に係る箇所に目を通しておく。	1 時間
	1.3	復習	人々・学校・地域に係る領域を対象とした生活科の取り組み内容を理解する。	1 時間
15	講義内容	生活科と評価■		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説生活編 p62～p63 及び生活科教育改訂新版—21 世	1 時間

	2.3		紀のための教育創造—の第 7 章に目を通しておく。	
		復習	生活科における評価の方法と、学校現場における実際について理解する。	1 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを具現化する。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint を使用できる環境を準備しておく。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名		家庭(保育・教育の内容)			CES206	講義
英文名		Home Economics				
担当教員		内田 幸子				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標		家庭科教育が生きる力を育て、よりよい生活者を育てる教科であることを理解する。小学校5・6年生の家庭科で学ぶ学習内容について理解し、小学校家庭科の指導に必要な基礎的知識と技術を得ることができる。				
到達目標		1.小学校家庭科で学ぶ学習内容について関心を深めることができる 2.衣生活、食生活、家庭生活、消費生活の基礎的な知識・技術を身につける 3.各分野の課題に意欲的に取り組むことができる				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		定期試験 70%、レポート 30%で評価する 総合評価 60%以上を合格とする				
課題に対するフィードバック		レポートは評価して返却する 定期試験後に掲示で正解を示す				
使用教材		教科書「わたしたちの家庭科」(開隆堂)ISBN978-4-304-08064-7 プリント				
1	講義内容	ガイダンス、小学校家庭科の目標及び内容				
	該当する到達目標	1,2	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する		1 時間
			復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する		1.5 時間
2	講義内容	衣生活:衣服の働きと快適な着方				
	該当する到達目標	1,2	予習	教科書 4, 9 に目を通す		1 時間
			復習	暑い季節と寒い季節を快適にする工夫を理解する		1.5 時間
3	講義内容	衣生活:衣服の手入れ				
	該当する到達目標	1,2,3	予習	教科書 4 に目を通す		1 時間
			復習	手洗いによる洗濯をしてレポートを作成する		1.5 時間
4	講義内容	衣生活:実習(手縫いのしかた)				
	該当する到達目標	1,2,3	予習	教科書 3 に目を通す		1 時間
			復習	手縫い、ボタンつけ、フェルトの小物を完成させレポートを作成する		1.5 時間
5	講義内容	衣生活:実習(ミシン縫い・小物作成)				
	該当する到達目標	1,2,3	予習	教科書 6 に目を通す		1 時間
			復習	ミシンの安全な使い方を理解して作品を完成する		1.5 時間
6	講義内容	住生活:快適な住まい				
	該当する到達目標	1,2	予習	教科書 4, 9 に目を通す		1 時間
			復習	あたたかく住まう工夫、涼しく住まう工夫を理解する		1.5 時間

7	講義内容	住生活: 掃除のしかた		
	該当する到達目標	予習	教科書 3 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	掃除のしかたを理解する	1.5 時間
8	講義内容	家庭生活: 子どもと家庭生活		
	該当する到達目標	予習	教科書 8 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	生活時間を調査し、家庭でできる仕事を理解する	1.5 時間
9	講義内容	家庭生活: お金の管理と消費生活		
	該当する到達目標	予習	教科書 8 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	生活とお金、金銭の管理と消費生活について理解する	1.5 時間
10	講義内容	家庭生活: 地域での暮らし		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	地域での生活を理解する	1.5 時間
11	講義内容	食生活: 食事の意義		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	なぜ食べるのか理解する	1.5 時間
12	講義内容	食生活: 栄養素の種類と働き		
	該当する到達目標	予習	教科書 7 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	栄養素の種類と働きを理解する	1.5 時間
13	講義内容	食生活: 献立作成と調理のしかた		
	該当する到達目標	予習	教科書 2 に目を通す	1 時間
	1,2	復習	調理実習 I、II の手順を確認する	1.5 時間
14	講義内容	食生活: 調理実習 I		
	該当する到達目標	予習	調理実習プリントに目を通す	1 時間
	1,2,3	復習	各グループで安全に調理、試食、片付け、レポートを作成する	1.5 時間
15	講義内容	食生活: 調理実習 II		
	該当する到達目標	予習	調理実習プリントに目を通す	1 時間
	1,2,3	復習	各グループで安全に調理、試食、片付け、レポートを作成する	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 月曜日 3 限 水曜日 3 限 小学校家庭科で取り扱う学習内容について理解できるよう講義し、衣生活実習・調理実習も入れ進めていく メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp 研究室: 1 号館 5 階 512 予習・復習については、試験前の学習で補完すること			

科目名		音楽(保育・教育の内容)			CES207	講義
英文名		Music				
担当教員		吉田 恵子				
科目に関連した実務経験		公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、音楽科主任。音楽を用いた行事運営や学級経営を実践した(経験)。看護学校音楽担当、県内の教育・保育関係の指導者講習講師、子育てサロン音楽担当、地域の音楽活動等を通じて幅広い年齢層に音楽の楽しさを広めている(現在)。				
学年・開講期		2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標		小学校における児童の音楽活動を豊かに展開する為の、音楽表現の知識や技術を習得することを目的とする。				
到達目標		1.生活や遊びの中での音楽表現の実際を理解する。■ 2.楽器遊びや楽器作り、器楽を中心とした表現活動とその展開の方法を理解できる。■ 3.音楽的な環境の構成を理解できる。■ 4.子どもたちの自発的な表現を促すための打楽器・鍵盤楽器等楽器の演奏・指導技術を身につけることができる。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		レポート 30%、発表 30%、毎回の授業課題・授業の貢献度 40%を総合する				
課題に対するフィードバック		レポートはコメントを付けて返却する。 授業課題、発表はその都度コメントする。				
使用教材		資料を配布する				
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、授業概要を理解する。			1.5 時間
	1,3	復習	授業内容を確認し、実技課題を練習する。			1.5 時間
2	講義内容	生活や遊びの中での音楽表現■				
	該当する到達目標	予習	生活や遊びの中の音楽表現を見つける。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	各自の実技課題を練習する。			1.5 時間
3	講義内容	音遊びと自然■ レポート課題提示				
	該当する到達目標	予習	自然物を使った音あそびについて調べる。			1.5 時間
	1,3,4	復習	音遊びと自然について講義内容を理解する。実技課題を練習する。			1.5 時間
4	講義内容	楽器作りと音遊び① 叩いたりこすったりして音を出す楽器■ 第 1 回検定				
	該当する到達目標	予習	身近な物から作れる打楽器について調べる。			1.5 時間
	1,2,4	復習	打楽器や弦楽器の構造を理解する。実技課題を練習する。			1.5 時間
5	講義内容	楽器作りと音遊び② 吹いたり吸ったりして音を出す楽器■				
	該当する到達目標	予習	身近な物から作れる管楽器について調べる。			1.5 時間
	2,4	復習	管楽器の構造を理解する。実技課題を練習する。			1.5 時間
6	講義内容	楽器遊びを中心とした表現活動■				
	該当する到達目標	予習	楽器を用いた音楽あそびについて調べる。			1.5 時間

	1,2	復習	楽器遊びを中心とした表現活動の発展を考える。実技課題を練習する。	1.5 時間
7	講義内容	手作り楽器を用いたアンサンブル■		
	該当する到達目標	予習	手作り楽器を準備する。	1.5 時間
	1,2	復習	手作り楽器のアンサンブルから、音楽活動の発展を考える。	1.5 時間
8	講義内容	鍵盤楽器とその奏法、レポート提出 第2回検定		
	該当する到達目標	予習	鍵盤楽器の奏法について調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	実技課題を練習する。	1.5 時間
9	講義内容	打楽器とその奏法① 太鼓、他		
	該当する到達目標	予習	ラテン音楽の打楽器の奏法を調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	実技課題を練習する。	1.5 時間
10	講義内容	打楽器とその奏法② シロフォン、他		
	該当する到達目標	予習	シロフォン等、打楽器の奏法を調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	実技課題を練習する。	1.5 時間
11	講義内容	打楽器による即興表現■		
	該当する到達目標	予習	オルフの音楽教育について調べる。	1.5 時間
	2,4	復習	実技課題を練習する。	1.5 時間
12	講義内容	日本の伝統音楽の表現■ 第3回検定		
	該当する到達目標	予習	日本の伝統音楽について、事前配布資料を読む。	1.5 時間
	2,4	復習	講義で得た知識をもとに、実技課題を復習する。	1.5 時間
13	講義内容	マーチングの指導 ①楽器の構成、フォーメーション■		
	該当する到達目標	予習	楽器の構成を調べる。	1.5 時間
	2,3	復習	自作のフォーメーションを確認する。	1.5 時間
14	講義内容	マーチングの指導 ②マーチング発表		
	該当する到達目標	予習	発表に向けて個別練習する。	1.5 時間
	2,3,4	復習	発表を振り返り、フォーメーションを再構成する。	1.5 時間
15	講義内容	器楽発表会		
	該当する到達目標	予習	発表に向けてグループ練習する。	1.5 時間
	4	復習	発表を振り返り、スキルアップに向けて、自己課題を設定する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 月曜1限, 水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方: 小学校教師に必要な音楽表現の知識や技術を習得するため、一斉指導とグループ活動により、毎時の課題と習熟度を確認しながら目標に到達できるように進めます。 担当教員メールアドレス: yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8号館 503 研究室 履修に関して: 当該「音楽」を履修するにあたり、「音楽基礎Ⅰ」「音楽基礎Ⅱ」「初等音楽演習Ⅰ」が履修済であることが条件です。未履修者は、未履修科目内容に相当する実技・筆記音楽試験を受けてください。 ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカを準備してください。 実技課題(含第二楽器)は、毎日練習して授業に臨んでください。 ■: 実務経験に基づく経験を示す。			

科目名	図画工作(保育・教育の内容)			CES208	演習
英文名	Drawing and Handicrafts				
担当教員	増田 金吾				
科目に関連した実務経験	中学校美術科教諭として東京都公立中学校に勤務(経験)、幼稚園長として国立大学附属幼稚園に勤務(経験)、東京都公立小学校で教育実習の指導教員を行う(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位、教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	図画工作科を指導する際、子ども理解とその教科内容の把握が重要である。 「小学校学習指導要領 図画工作」が示す造形遊びをする活動、絵や立体に表す活動、工作に表す活動、鑑賞の活動など各学年の内容を、美術教育の意義や諸領域の教育的意義・目標を踏まえた上で演習し習得する。				
到達目標	1.小学校図画工作科の目標と内容、及びその意義を理解できる。 2.教材や資料等について触れ、演習を通して実践的な指導力を身に付ける。■ 3.題材研究について、演習を通して理解し習得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題作品(80%)、「造形遊び」の活動に関わる自己の記録(20%)により総合的に判断する。 総合評価60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	課題作品は、必要に応じてコメントを付して返却する。「造形遊び」の活動に関わる自己の記録は、コメントを付して返却し、結果を全体的に解説する。				
使用教材	教科書は使用しない。その代わりに、プリントを配付するのでファイルにとじるなどしておき、とじたもの全体を毎回持参すること(このシラバスもとじておくこと)。				
1	講義内容	ガイダンス。美術教育映画「トントンギコギコ」の鑑賞 (DVD 使用)(この回のみ、207 教室で行う)。実践に基づいた説明を行う。■			
	該当する到達目標	1	予習	シラバスを読んで、本講義の目標などを理解しておくこと。	1.5 時間
			復習	演習の到達目標、内容、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5 時間
2	講義内容	絵に表す:「物語の絵」(1) 製作(題材)の意義説明、製作(鉛筆、水彩絵の具など)。導入で実践に基づいた説明を行う。■			
	該当する到達目標	1,2,3	予習	どんな物語を扱うかを考える。充実した作品となるよう、構想を練る。	2.0 時間
			復習	「物語の絵」の題材としての意義を考える。	1.0 時間
3	講義内容	絵に表す:「物語の絵」(2) 製作(続き)(鉛筆、水彩絵の具など)			
	該当する到達目標	1,2,3	予習	創造的な技能を考え、より充実した作品となるよう、構想を練る。	1.5 時間
			復習	「物語の絵」の題材としての意義を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	立体に表す:「ぎゅっとしたい私の友だち」(1) 製作(題材)の意義説明、製作(アイデアを生かす)。導入で実践に基づいた説明を行う。■			
	該当する到達目標	1,2,3	予習	動物や魚など、どんな「友だち」にするか考える。	2.0 時間
			復習	アイデアとは何かを考える。	1.0 時間
5	講義内容	立体に表す:「ぎゅっとしたい私の友だち」(2) 製作(クラフト紙で袋を作り、中に紙を詰め込んで製作)			

	該当する到達目標	予習	製作の過程を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	アイデアと製作活動との結びつきを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	立体に表す:「ぎゅっとしたい私の友だち」(3) 製作(作品完成)		
	該当する到達目標	予習	製作の表現としての意味を考える。今まで受けた授業の理論面について整理する。	2.0 時間
	1,2,3	復習	「立体に表す」の題材としての意義を理解する。	1.0 時間
7	講義内容	工作に表す:小物入れ (1) 製作(題材)の意義説明、製作(アイデアを生かす)。導入で実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標	予習	どのような小物入れを作るか考える。	2.0 時間
	1,2,3	復習	「工作に表す」の題材としての意味を考える。	1.0 時間
8	講義内容	工作に表す:小物入れ (2) 製作(紙粘土など)		
	該当する到達目標	予習	どのような小物入れとして仕上げるか考え、同時に創造的な技能を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	製作と指導の関係性を考える。	1.5 時間
9	講義内容	工作に表す:小物入れ (3) 製作(紙粘土、ニスなど)		
	該当する到達目標	予習	創造的な技能を考え、より充実した作品となるよう、構想を練る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「工作に表す」の題材としての意義を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	造形遊び:「新聞紙で何ができるかな」(1) 活動(題材)の意義説明、活動(アイデアを生かす、新聞紙など)。導入で実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標	予習	新聞紙で何ができるか、加えて自分が使いたい材料を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「造形遊び」の題材としての意味を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	造形遊び:「新聞紙で何ができるかな」(2) 活動(新聞紙など)、「造形遊び」の活動を記録		
	該当する到達目標	予習	どんな活動になるか構想してみる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「造形遊び」の題材としての意義を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	絵に表す(版に表す):紙版画 (1) 製作(題材)の意義説明、アイデアと下絵作成。導入で実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標	予習	紙版画に用いる主題を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	「絵に表す」のうち、「版に表す」題材としての意義を考える。	1.5 時間
13	講義内容	絵に表す(版に表す):紙版画 (2) 製作(刷り、版画用の紙、インクなど)		
	該当する到達目標	予習	紙版画の創造的技法について考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	紙版画における主題と技法との関係性を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	絵に表す(版に表す):紙版画 (3) 製作(作品完成)		
	該当する到達目標	予習	紙版画等、図画工作の題材についてその意義を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	紙版画等、図画工作の題材についての意義を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	題材研究:合評会(鑑賞)。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標	予習	鑑賞の活動としての題材研究にふさわしく、最も他の人に見てもらいたい自分の作品1点を準備する。	1.0 時間
	1,2,3	復習	自己評価を行うと共に、表現と鑑賞の意味について理解し、題材研究の意義を理解する。	2.0 時間
備考	・授業は、通常は実習室で行うが、DVD を使用する 1 回目の授業は教室で実施します。 ・オフィスアワーとしては、出講日の昼休みには講師控室(または、8 号館 4 階 407 研究室)にあります。 ・授業期間全体を通じた授業の進め方としては、全員が演習(実技中心)を充実して行えるよう努めます。 ・授業担当教員のメールアドレス:kingomasuda@me.com ・予習・復習の際に生じた不明な点があれば、当日の授業中のことも含め質問を授業中にしてください。クラス全			

員で共有することが大切であるためです。しかし、その後別の質問等が生じたら、メールで連絡してください。できるだけ速やかに答えます。

- ・ルールとしては、けじめのある態度で受講するようお願いします。
- ・参考文献「教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育」橋本美保・田中智志監修、増田金吾編著、一藝社、平成27年4月発行、2,200 円＋税。

■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名		体育(保育・教育の内容)			CES209	講義
英文名		Physical Education				
担当教員		山西 加織				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標		小学校における体育科学習領域の内容について、さまざまな運動や運動遊びの実践をととして理解を深めていく。それぞれの運動の特性を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた教材の工夫や援助・指導の方法について学習する。				
到達目標		1.幼少期の運動発達の特徴を説明することができる。 2.各運動の基本的技術を身につけることができる。 3.発達に適した教材を選択し、活動内容を工夫することができる。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		授業への参加度(60%)、グループワークへの貢献度(10%)、レポート課題(30%)を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック		提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。				
使用教材		教科書「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省(東洋館出版社) その他、適宜資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション 幼少期の運動遊び・体育				
	該当する到達目標 1	予習	シラバスと教科書に目を通し、授業でどのようなことを学んでいくのかを確認する。			1.5 時間
		復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			1.5 時間
2	講義内容	体づくりの運動遊び・体づくり運動				
	該当する到達目標 2	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。			1.5 時間
		復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。			1.5 時間
3	講義内容	走の運動遊び・運動				
	該当する到達目標 2	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。			1.5 時間
		復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。			1.5 時間
4	講義内容	跳の運動遊び・運動				
	該当する到達目標 2	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。			1.5 時間
		復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。			1.5 時間
5	講義内容	器械・器具を使つての運動遊び				
	該当する到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体			1.5 時間

	2		を動かし準備体操を行っておく。	
		復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
6	講義内容	器械運動		
	該当する到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
7	講義内容	ゲーム・ボール運動(ゴール型)		
	該当する到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
8	講義内容	ゲーム・ボール運動(ネット型)		
	該当する到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
9	講義内容	ゲーム・ボール運動(ベースボール型)		
	該当する到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
10	講義内容	表現リズム遊び・表現運動		
	該当する到達目標	予習	基本的な運動技能を身につけられるよう運動に取り組む。授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	1.5 時間
	2	復習	授業で学習した運動内容を記録し、教材研究を行う。	1.5 時間
11	講義内容	教材研究		
	該当する到達目標	予習	児童期の運動発達を踏まえ、どのような運動・運動遊び経験が必要とされているのか、教科書をよく読む。	1.0 時間
	3	復習	グループで教材研究を進める。	2.0 時間
12	講義内容	教材の紹介(1)低学年の運動・運動遊び		
	該当する到達目標	予習	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5 時間
	3	復習	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5 時間
13	講義内容	教材の紹介(2)中学年児童の運動		
	該当する到達目標	予習	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5 時間
	3	復習	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5 時間
14	講義内容	教材の紹介(3)高学年児童の運動		
	該当する到達目標	予習	授業開始前には体を動かし準備体操を行っておく。	0.5 時間
	3	復習	紹介した教材について、グループで振り返り、指導する上での留意点や工夫を話し合う。	2.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	授業全体を振り返り、要点を復習する。	1.0 時間
	1,3	復習	運動・運動遊びの教材研究におけるポイントと、子どもの運動経験をどのように支えていきたいのかを考え、レポートにまとめる。	2.0 時間

備 考	【授業の進め方】実技を中心に、補足説明を加えながら授業を進めていく。教材研究と教材の紹介は、グループで行う。 ※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 ※実技をする上で配慮を必要とする学生は事前に申し出ること。 オフィスアワー:【前期】月曜 3 時限, 火曜 2 時限 【後期】月曜 5 時限, 火曜 5 時限 メールアドレス:yamanishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 505 研究室

科目名	外国語(英語)(保育・教育の内容)				CES210	講義
英文名	Foreign Language (English) Learning and Teaching					
担当教員	中村 博生 嶋田 和成 松田 幸子 ステイシー・クローズ					
科目に関連した実務経験	中村:英語教師として中学校に勤務(経験) 嶋田:英語教科書担当編集者として出版社に勤務(経験)					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位			
講義目標	小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力と授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。					
到達目標	1. 外国語(英語)教育を理解し、児童に対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。 2. 外国語(英語)に関する実践的な英語運用力を身につけるために、英語に関する基本的な知識・技能を身につけることができる。■ 3. 第二言語習得・児童文学・異文化理解に関する基本的な知識を学び、授業実践に生かすことができる。 4. 自ら進んで小学校の外国語教育に携わる意欲を高めることができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
		問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	レポート 60%、授業内の貢献度 40%で評価する。 総合 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントをつけて返却する。 授業中の貢献度についてはその都度評価する。					
使用教材	小学校学習指導要領(平成29年3月31日告示 文部科学省) 『新編 小学校英語教育入門』(樋口忠彦他、研究社、2017、2,100 円) Let's Try! 1 (文部科学省) Let's Try! 2 (文部科学省) We Can! 1 (文部科学省) We Can! 2 (文部科学省) デジタル教材 Hi, friends! Plus (文部科学省)					
1	講義内容	ガイダンス・Hi, friends! Plusを用いたアルファベットの導入の仕方(嶋田)■				
	該当する到達目標 1, 2, 4	予習	テキストのまえがき、シラバスの内容をよく読んで、授業の目標などを理解する。			1.5 時間
		復習	デジタル教材 Hi, friends! Plus の特徴とその使い方を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	We Can! 1, 2を用いた英語の語彙と発音の指導(嶋田)■				
	該当する到達目標 1, 2, 4	予習	テキスト第 4 章と We Can! 1, 2に目を通し、どのような語彙が使われているのかを確認する。			1.5 時間
		復習	We Can! 1, 2に収録されている語彙の種類・レベルを理解し、児童への単語の発音指導の具体例を身につける。			1.5 時間
3	講義内容	母語習得と第二言語習得の違いについて(嶋田)				
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキスト第 2 章の母語習得と第二言語習得の違いに関する記述と配布資料に目を通す。			1.5 時間

		復習	母語習得と第二言語習得の違いについて復習し、児童の発達段階にあわせた外国語教育のあり方を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	第二言語習得と学習者要因について(嶋田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第2章の第二言語習得と学習者要因に関する記述と配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	学習者における様々な認知・情意要因が第二言語習得にどのように影響しているのかを理解する。	1.5 時間
5	講義内容	第二言語習得と児童の発達段階に即した動機づけについて(嶋田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第2章の動機づけに関する記述と配布資料に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	動機づけの種類を理解したうえで、児童の発達段階においてどのようにすれば外国語学習の動機づけが高まるのかを考えてみる。	1.5 時間
6	講義内容	児童向けの絵本と小学校におけるその使用法(松田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト7章4節の絵本について読む。	時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	時間
7	講義内容	英語による歌・チャンツと小学校におけるその使用法(松田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト7章1節のうた・チャンツについて読む。	時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	時間
8	講義内容	英語におけるゲームと小学校におけるその使用法(松田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト7章3節クイズについて読む。	時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがってハンドアウトをまとめる。	時間
9	講義内容	異文化コミュニケーションとは何か:英語圏の子ども文化(松田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト2章5節異文化コミュニケーションについて読む。	時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業内容にしたがって、異文化コミュニケーションを生かしたレッスン・プランを考えてくる。	時間
10	講義内容	小学校における異文化コミュニケーションの実践(松田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト8章2節教材研究について読む	時間
	1, 2, 3, 4	復習	グループごとにレッスン・プランをまとめて提出する。	時間
11	講義内容	英語のやり取りを中心とした言語活動(聞くこと・話すこと)(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領と教科書の第6章に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	やり取り(聞くこと・話すこと)の指導に必要な知識と技能を身につけることができる。	1.5 時間
12	講義内容	自己紹介・地域や文化などの紹介(話すこと:発表)(中村・クローズ)		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領の話すこと[発表]に関する箇所に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	話すこと[発表]の指導に必要な知識と技能を身につけることができる。	1.5 時間
13	講義内容	場面や目的に応じたALTとの会話(話すこと:やり取り)(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領のALTと話すこと[やり取り]に関する箇所に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	ALTとのTTを行うために必要な知識と技術を身につけることができる。	1.5 時間
14	講義内容	テキストの読みと板書などにおける英語の表記(読むこと・書くこと)(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領の読むことと書くことに関する箇所に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	読むことと書くことの指導に必要な知識と技術を身につけることができる。	1.5 時間
15	講義内容	授業場面を意識した実践的な英語運用力、まとめ(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領の授業における言語活動に関する箇所に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	授業で使用する実践的な英語運用能力を身につけることができる。	1.5 時間

備 考	中村:オフィスアワーは、火曜日の 3 限、メールアドレス:nakamura-h@takasaki-u.ac.jp 嶋田:オフィスアワーは、木曜日 3 限、金曜日 5 限。メールアドレス:shimada-k@takasaki-u.ac.jp 松田:オフィスアワー水曜 3 限。メールアドレス:matsuda-y@takasaki-u.ac.jp クローズ:オフィスアワーは、月曜日の 2 限、:stacy-c@takasaki-u.ac.jp ・授業(1～5 回)は、第二言語習得の特徴を理解しながら、外国語学習の初期段階における指導の理論と方法を学ぶ。 ・授業(6～10 回)は、児童向けの英語の歌、チャンツ、ゲームなどを学び、英語に関わる文化を理解するとともに異文化コミュニケーションの力を養う。 ・授業(11～15 回)は、身につけた英語の知識や技能を用いて、授業指導を行うための英語コミュニケーション能力を培う。 ・これらの授業は、テキストなどを中心とした講義と、グループ単位の討議や英語での言語活動の実践を行うことで進める。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	英語学概論(保育・教育の内容)				CES301	講義
英文名	Introduction to English Linguistics					
担当教員	嶋田 和成					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	英語学分野における主なテーマや問題について、異文化コミュニケーションの視点から考察し、国際共通語である英語に対する理解を深める。そのため授業では、様々な英語の用例を検討しながら、コミュニケーションでどのような役割を果たすのかを議論することに重点を置く。					
到達目標	1. 英語の構造と機能を分析しながら、英語という言葉の特徴を理解する。 2. 異文化コミュニケーションという場で、英語の果たす役割を理解する。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
		問題発見・解決力				
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業への参加度、発表(50%)、期末レポート課題(50%)で総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。					
使用教材	平賀正子.(2016).『ベーシック新しい英語学概論』. 東京:ひつじ書房. 1,700 円					
1	講義内容	ガイダンス・英語学とは何か				
	該当する到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。			1.5 時間
	1, 2	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。			1.5 時間
2	講義内容	英語の歴史とさまざまな英語(母語、第二言語、外国語としての英語)				
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章を読む。			1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 2 章の専門用語の意味等を理解する。			1.5 時間
3	講義内容	母語英語の特徴(イギリス英語、オーストラリア英語の音声、語彙、文法の特徴)				
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章を読む。			1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 3 章の専門用語の意味等を理解する。			1.5 時間
4	講義内容	母語英語の特徴(アメリカ英語、カナダ英語の音声、語彙、文法の特徴)				
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章を読む。			1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 4 章の専門用語の意味等を理解する。			1.5 時間
5	講義内容	英語と社会的属性(社会言語学の観点から)				
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章を読む。			1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 5 章の専門用語の意味等を理解する。			1.5 時間
6	講義内容	語用論と対人コミュニケーション				
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。			1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 6 章前半の専門用語の意味等を理解する。			1.5 時間
7	講義内容	英語の発話行為				
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。			1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 6 章後半の専門用語の意味等を理解する。			1.5 時間

8	講義内容	英語のポライトネスと談話分析		
	該当する到達目標	予習	教科書第 7 章を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 7 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	英語文化とコミュニケーション・スタイル		
	該当する到達目標	予習	教科書第 8 章・9 章を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 8 章・9 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	語彙から見る英語らしさ(形態論の観点から)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 10 章を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 10 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	文法から見る英語らしさ(統語論の観点から)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 11 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 11 章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	語彙や文の意味から見る英語らしさ(意味論の観点から)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 11 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 11 章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	音声から見る英語らしさ(音声学の観点から)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 12 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 12 章前半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	音韻から見る英語らしさ(音韻論の観点から)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 12 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 12 章後半の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ・国際共通語としての英語コミュニケーション		
	該当する到達目標	予習	教科書各章末の演習課題に取り組む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書各章末の演習課題の内容を復習する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス：shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室：9 号館 303 研究室 授業は、教科書の内容を踏まえ、異文化コミュニケーションの視点で英語学の基礎的内容を解説する講義形式と受講生とのディスカッションをまじえた形で進める。			

科目名	学校英文法論（保育・教育の内容）				CES302	講義
英文名	Theory of Teaching Grammar in English Classes					
担当教員	中村 博生					
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務(経験)					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	英語教師をめざすために、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることを目標とする。特に、英語の文法に関する知識を習得し、学習者に分かりやすく英語の基本的な文法の現象を説明できることをめざす。					
到達目標	1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.英語の文法に関する知識を理解し身につけることができる。 3.文法の知識を応用して、学習者に分かりやすく英語の基本的な文法の現象を説明することができる。■ 4.自ら進んで英語の文、品詞、準動詞、関係詞、構文、修飾語句などについて、発表したり議論したりして、文法の知識をさらに深めて学習者の疑問に答えることができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
		問題発見・解決力				
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学修する力				
評価方法	小テスト 30%、レポート 60%、授業内の発表など 10%から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	小テスト・レポートには、評価及びコメントを付けて返却する。					
使用教材	教科書『改訂版 英文法総覧』、安井稔、開拓社、2015、2,476 円					
1	講義内容	ガイダンス（国際共通語としての英語の使用と日本の英語教育）				
	該当する到達目標	予習	教科書の目次を読み、英文法の学修内容を概観する。			1.5 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位受与方針、成績評価方法などを確認する。			1.5 時間
2	講義内容	文に関する文法とその現象の説明				
	該当する到達目標	予習	教科書の第 1 章～第 7 章に目を通す。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	文に関する文法を理解し、文法の現象を学習者に説明することができる。			1.5 時間
3	講義内容	品詞 (1) 名詞、代名詞、形容詞に関する文法とその現象の説明				
	該当する到達目標	予習	教科書の第 8 章～第 10 章に目を通す。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	名詞、代名詞、形容詞の文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。			1.5 時間
4	講義内容	品詞 (2) 冠詞、副詞、動詞に関する文法とその現象の説明				
	該当する到達目標	予習	教科書の第 11 章～第 13 章に目を通す。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	冠詞、副詞、動詞の文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。			1.5 時間
5	講義内容	品詞 (3) 助動詞、接続詞、前置詞に関する文法とその現象の説明 ■				
	該当する到達目標	予習	教科書の第 14 章～第 16 章に目を通す。			1.5 時間
	1,2,3,4	復習	助動詞、接続詞、前置詞の文法を理解し、その現象を学習者に説明することが			1.5 時間

			できる。	
6	講義内容	準動詞に関する文法とその現象の説明 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 17 章～第 19 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	準動詞の文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
7	講義内容	関係詞に関する文法とその現象の説明 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 20 章～第 21 章に目を通す。	1.5 時間
		復習	関係詞の文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
8	講義内容	構文 (1) 時制に関する文法とその現象の説明 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 22 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	時制に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
9	講義内容	構文 (2) 態に関する文法とその現象の説明 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 23 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	態に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
10	講義内容	構文 (3) 仮定法、話法に関する文法とその現象の説明		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 24 章～第 25 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	仮定法、話法に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
11	講義内容	構文 (4) 比較、否定に関する文法とその現象の説明		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 26 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	比較と否定に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
12	講義内容	構文 (5) 動詞、名詞、形容詞に関する文法とその現象の説明		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 28 章～第 30 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	動詞、名詞、形容詞を中心とする構文に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
13	講義内容	構文 (6) 一致、形式語 it、there を中心とする構文に関する文法とその現象の説明		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 31 章～第 32 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	一致、形式語 it、there を中心とする構文に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
14	講義内容	修飾語句(1) 形容詞的修飾語句、副詞的修飾語句に関する文法とその現象の説明		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 33 章～第 34 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	形容詞的修飾語句、副詞的修飾語句に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
15	講義内容	修飾語句(2) 副詞節と副詞句に関する文法とその現象の説明		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 35 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	副詞節と副詞句に関する文法を理解し、その現象を学習者に説明することができる。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・授業は、テキストに関する講義と既習事項の小テストの実施とその解説、課題のレポートについての発表や討議を行いながら進める。小テストやレポートの課題は、中学生への文法の説明に関する事項である。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	現代英語学の理論と応用 I (保育・教育の内容)			CES303	講義
英文名	Theory and Practical Applications of English Linguistics I				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の読解力を高める訓練を行いながら、英語の構造と機能を分析する力をつけることを目的とする。				
到達目標	1. 英語の構造と機能を分析できるようになる。 2. 英語の形態論、統語論の理論が中学校・高等学校の外国語(英語)の授業内容、教材にどのように反映しているのかを理解できる。 3. 比較的平易に書かれた英語学に関する文献を英語で読めるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度、発表、課題(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。				
使用教材	影山太郎他. (2004). <i>First Steps in English Linguistics</i> (2nd ed.). 東京:くろしお出版. 1,600 円				
1	講義内容	ガイダンス・Why Study English Linguistics (1): What is English Linguistics?			
	該当する到達目標	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	Why Study English Linguistics (2): How English Has Been Studied			
	該当する到達目標	予習	教科書第 1 章を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	教科書第 1 章の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
3	講義内容	How English Has Changed over the Centuries (1): The Old and Middle English Period			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章前半を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	教科書第 2 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
4	講義内容	How English Has Changed over the Centuries (2): The Modern English Period			
	該当する到達目標	予習	教科書第 2 章後半を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	教科書第 2 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
5	講義内容	How Words Are Made (1): Morphology			
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章前半を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	教科書第 3 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
6	講義内容	How Words Are Made (2): Derivation, Conversion, and Inflection			
	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章後半を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	教科書第 3 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
7	講義内容	形態論(Morphology)のまとめ			

	該当する到達目標	予習	教科書第 3 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 3 章で学んだ形態論に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5 時間
8	講義内容	How English Phrases Are Formed (1): What Is Syntax?		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
9	講義内容	How English Phrases Are Formed (2): Complements and Adjuncts		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
10	講義内容	How English Phrases Are Formed (3): Labeled Bracketing and Tree Diagrams		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
11	講義内容	How English Sentences Are Formed (1): VP-deletion		
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
12	講義内容	How English Sentences Are Formed (2): T-to-C movement		
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
13	講義内容	How English Sentences Are Formed (3): <i>wh</i> -movement		
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
14	講義内容	統語論(Syntax)のまとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章、第 6 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 5 章、第 6 章で学んだ統語論に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5 時間
15	講義内容	本学期的まとめ、ディスカッション(形態論・統語論の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか)		
	該当する到達目標	予習	本学期で学んだ専門用語の意味をもう一度整理する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	本学期で学んだ英語の構造と機能について、中学校英語のレベルの例文で説明できるようにする。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス：shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室：9 号館 303 研究室 授業は、教科書の内容を踏まえ、現代の英語学の基礎的な知識を解説する講義形式と受講生とのディスカッションをまじえた形で進める。			

科目名	現代英語学の理論と応用Ⅱ（保育・教育の内容）			CES304	講義
英文名	Theory and Practical Applications of English Linguistics II				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	「現代英語学の理論と応用Ⅰ」に引き続き、英語学分野における主なテーマや問題について、関連する文献を英語で読み、実際の教育現場でどのように英語学の知識が活かせるのかを検討する。この授業を通して、英語の読解力を高める訓練を行いながら、英語の構造と機能を分析する力をつけることを目的とする。				
到達目標	1. 英語の構造と機能を分析できるようになる。 2. 英語の語用論、意味論、音声学、音韻論の理論が中学校・高等学校の外国語（英語）の授業内容、教材にどのように反映しているのかを理解できる。 3. 比較的平易に書かれた英語学に関する文献を英語で読めるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度、発表、課題（50%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。				
使用教材	影山太郎他. (2004). <i>First Steps in English Linguistics</i> (2nd ed.). 東京:くろしお出版. 1,600 円				
1	講義内容	ガイダンス・形態論と統語論の復習			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5 時間	
		復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	How to Communicate with Other People (1): What is Pragmatics?			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	教科書第 8 章前半を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 8 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
3	講義内容	How to Communicate with Other People (2): Conversational Implicature			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	教科書第 8 章後半を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 8 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
4	講義内容	The Sound of English (1): Phonetics			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	教科書第 9 章前半を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 9 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
5	講義内容	The Sound of English (2): Phonology			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	教科書第 9 章後半を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 9 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	
6	講義内容	Regional Varieties of English (1): Intranational Variation			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	教科書第 10 章前半を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 10 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間	

7	講義内容	Regional Varieties of English (2): International Variation		
	該当する到達目標	予習	教科書第 10 章後半を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 10 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
8	講義内容	第2回～第7回のまとめ、ディスカッション(語用論、音声学、音韻論の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 8 章、第 9 章、第 10 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 8 章、第 9 章、第 10 章で学んだ語用論、音声学、音韻論、社会言語学に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。	1.5 時間
9	講義内容	English in Society (1): Grammatical Variation		
	該当する到達目標	予習	教科書第 11 章前半を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 11 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
10	講義内容	English in Society (2): Phonological Variation		
	該当する到達目標	予習	教科書第 11 章後半を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 11 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
11	講義内容	How Words Mean (1): Kinds of Meaning		
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章前半を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 4 章前半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
12	講義内容	How Words Mean (2): Semantic Networks		
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章後半を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 4 章後半の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
13	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (1): Theories of Language Acquisition		
	該当する到達目標	予習	教科書第 12 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
14	講義内容	How English as a Second/Foreign Language Is Acquired (2): Applied Linguistics		
	該当する到達目標	予習	教科書第 13 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書の指定された箇所の専門用語の意味を確認しながら、再度、英文を読む。	1.5 時間
15	講義内容	第 9 回～第 14 回のまとめ、ディスカッション(意味論、社会言語学、応用言語学の知識をどのように中学校・高等学校の英語の授業に応用するか)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章、第 11 章、第 12 章、第 13 章の演習問題に取り組む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	教科書第 4 章、第 11 章、第 12 章、第 13 章で学んだ意味論、社会言語学、応用言語学に関する知識をどのように中学校英語の授業に活かすのかを検討する。また、本学で学んだ英語の構造と機能について、中学校英語のレベルの例文で説明できるようにする。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス：shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室：9 号館 303 研究室 授業は、教科書の内容を踏まえ、現代の英語学の基礎的な知識を解説する講義形式と受講生とのディスカッションをまじえた形で進める。			

科目名	英語文学入門(保育・教育の内容)			CES305	講義
英文名	Introduction to English Literature				
担当教員	松田 幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	社会的・歴史的なコンテキストにしたがって、英語で書かれた文学作品を原文で読解することで、英語による表現の理解を深めるとともに、英語圏の文化について理解し、中学校における外国語(英語)の授業を行うに資する知見を身につける。				
到達目標	1.社会的・歴史的なコンテキストにしたがって英語文学史について理解する。 2.英語文学を原文で読む。 3.英語圏で文学テキストが担ってきた文化的・社会的な意味をとらえる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度(10%)、リアクション・ペーパー(40%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題については添削・コメントをしたのち返却する。				
使用教材	清宮倫子、清宮協子『よくわかるイギリスの文学:The Poetry and Prose of British Literature』(南雲堂、2012 年)				
1	講義内容	イントロダクション: 英語文学とは何か			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト第 1 章を読む	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間	
2	講義内容	中英語チョーサー『カンタベリー物語』			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「ジェフリー・チョーサー」を読む	1.5 時間	
		復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間	
3	講義内容	ルネサンスの詩と演劇: 宮廷・民衆・劇場			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「16 世紀: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間	
4	講義内容	シェイクスピア作品の概観			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	「ウィリアム・シェイクスピア」を読む	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間	
5	講義内容	シェイクスピアを読む:『ハムレット』			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	ハムレットあらすじを読む	1.5 時間	
		復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間	
6	講義内容	王政復古期の詩と演劇			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	テキスト「17 世紀: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 時間	
		復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間	
7	講義内容	18 世紀における小説の起源: デフォー『ロビンソン・クルーソー』			

	該当する到達目標	予習	テキスト「18 世紀: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	センチメンタル(sentimental)の時代: リチャードソン『パミラ』		
	該当する到達目標	予習	「サミュエル・リチャードソン」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
9	講義内容	18 世紀における小説の成熟: オースティン『高慢と偏見』		
	該当する到達目標	予習	「ジェイン・オースティン」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
10	講義内容	ゴシック小説と恐怖: 理性への抵抗		
	該当する到達目標	予習	「ゴシック・ファンタジー」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
11	講義内容	ロマン主義の到来とロマン派詩人: ブレイク、ワーズワス、シェリー		
	該当する到達目標	予習	テキスト「ロマン主義の時代」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
12	講義内容	ヴィクトリア朝の社会と文学: ダーウィニズム・都市化・帝国主義		
	該当する到達目標	予習	テキスト「ヴィクトリア時代: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
13	講義内容	ヴィクトリア朝の小説: ディケンズ、トマス・ハーディ、キプリング		
	該当する到達目標	予習	「チャールズ・ディケンズ」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	ハンドアウトの内容にしたがって講義をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	20 世紀の小説: ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』		
	該当する到達目標	予習	テキスト「20 世紀前半: 歴史／文学史のアウトライン」を読む	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
15	講義内容	現代の英語文学: カズオ・イシグロ『私を離さないで』		
	該当する到達目標	予習	『私を離さないで』指定部を読んでくる	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	テキスト該当部の日本語訳	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 水曜 3 限 研究室: 9 号館 304 号室 メールアドレス: matsuda-y@takasaki-u.ac.jp 授業は、テキストを抜粋したワークシートと、概要をまとめたハンドアウトを用いながら講義形式によって進め、 図版や映像資料を活用することで、よりよい英語文学・文化の理解につなげる。			

科目名	英語文学批評(保育・教育の内容)			CES306	講義
英文名	English Literary Criticism				
担当教員	松田幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	英語文学を論じ、教育現場で教える際に必要となる、文学理論について学ぶ。理解力・思考力・プレゼン能力を高めるため、担当者には、指定テキスト担当箇所についてのまとめと発表を課す。また、テキスト終了後は、それらの文学理論を用いて、主に 19 世紀に書かれた英語圏の短編小説を毎時間読み、それについてのディスカッションを行う。				
到達目標	1.文学を批評的に論じるための文学理論について理解を深める。 2.英語圏の文学作品についてプレゼンテーションとディスカッションを行う。 3.英語圏の文学テキストを原語で読み、自らの考えを述べることができるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	出席点(10%)、授業での発表(40%)、期末課題(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	期末課題については、添削しコメントを付したのち返却する。				
使用教材	ピーター・バリー『文学理論講義』高橋和久訳(ミネルヴァ書房、2014 年)				
1	講義内容	オリエンテーション、担当の決定			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキストの序章を読んでくる	1.5 時間	
		復習	講義をふまえ、「考えてみよう」に解答する	1.5 時間	
2	講義内容	英文学はどこから来たか			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト第 1 章を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間	
3	講義内容	批評的態度とは何か			
	該当する到達目標 1,2	予習	配布資料(批評的態度)を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間	
4	講義内容	英語文学と精神分析批評			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「精神分析批評」を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間	
5	講義内容	英語文学とジェンダー批評			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「ジェンダー批評」を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間	
6	講義内容	英語文学と新歴史主義			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「新歴史主義批評」を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間	

7	講義内容	英語文学とポスト・コロニアリズム		
	該当する到達目標	予習	テキスト「ポスト・コロニアリズム批評」を読んでくる	1.5 時間
	1,2	復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間
8	講義内容	Conrad, “The Disturber of Traffic”①: 読解と解説		
	該当する到達目標	予習	Conrad, “The Disturber of Traffic”を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間
9	講義内容	Conrad, “The Disturber of Traffic”②: ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	Conrad, “The Disturber of Traffic”	1.5 時間
	2,3	復習	ディスカッションをまとめる	1.5 時間
10	講義内容	Stevenson, “The Bottle Imp”①: 読解と解説		
	該当する到達目標	予習	Stevenson, “The Bottle Imp”を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間
11	講義内容	Stevenson, “The Bottle Imp”②: ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	Stevenson, “The Bottle Imp”を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	ディスカッションをまとめる	1.5 時間
12	講義内容	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”①: 読解と解説		
	該当する到達目標	予習	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”	1.5 時間
	2,3	復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間
13	講義内容	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”②: ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	Hardy, “Barbara of the House of Grebe”	1.5 時間
	2,3	復習	ディスカッションをまとめる	1.5 時間
14	講義内容	Dickens, “A Madman's Manuscript”①: 読解と解説		
	該当する到達目標	予習	Dickens, “A Madman's Manuscript”を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	ハンドアウトの設問に解答する	1.5 時間
15	講義内容	Dickens, “A Madman's Manuscript”②: ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	Dickens, “A Madman's Manuscript” を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	ディスカッションをまとめる	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 木曜 4 限 研究室: 9 号館 304 号室 メールアドレス: matsuda-y@takasaki-u.ac.jp 講義はテキスト該当部についての学生の発表と、それについての学生同士の議論によって進める。また、教員は適宜ハンドアウトや映像資料を用いて学生の発表について解説し、英語文学の批評的観点を具体的に示す。			

科目名	英語文学論(保育・教育の内容)			CES307	講義
英文名	Studies in English Literature				
担当教員	松田 幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語圏の文学作品の中でも、代表的なシェイクスピアによる演劇テキストを、英語で精読し、英語圏の文化・歴史についての理解を深める。シェイクスピア演劇における英語表現に親しむことで、英語圏文化の深層を理解し、中学校における英語教育に資する言語的・文化的知見を得る。				
到達目標	1.文学作品を英語で読解できるようになる。 2.英語圏の文化について理解する。 3.英語によるテキストを批評的に読解できるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	出席点(10%)、授業での発表(50%)、期末課題(40%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	授業での発表・期末課題については添削・コメントしたうえで返却する。				
使用教材	シェイクスピア『マクベス』今西雅章編注(大修館、1987 年) 松岡和子『マクベス』(筑摩書房、1996 年)				
1	講義内容	オリエンテーション:シェイクスピアについて			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでくる	1.5 時間	
	2	復習	ハンドアウトを内容にしたがってまとめる	1.5 時間	
2	講義内容	イギリス・ルネサンス演劇とシェイクスピアの悲劇			
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでくる	1.5 時間	
	2, 3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間	
3	講義内容	『マクベス』1 幕 1 場～1 幕 3 場			
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでくる	1.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間	
4	講義内容	『マクベス』1 幕 4 場～1 幕 7 場			
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでくる	1.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間	
5	講義内容	『マクベス』2 幕 1 場～2 幕 2 場			
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでくる	1.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間	
6	講義内容	『マクベス』2 幕 3 場～2 幕 4 場			
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでくる	1.5 時間	
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間	
7	講義内容	『マクベス』3 幕 1 場～3 幕 3 場			

	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでもくる	1.5 時間
	2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間
8	講義内容	『マクベス』3 幕 4 場～3 幕 6 場		
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間
9	講義内容	『マクベス』4 幕 1 場～4 幕 2 場		
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間
10	講義内容	『マクベス』5 幕 1 場～5 幕 4 場		
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間
11	講義内容	『マクベス』5 幕 5 場～5 幕 8 場		
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間
12	講義内容	『マクベス』5 幕 9 場～5 幕 11 場		
	該当する到達目標	予習	テキスト該当部のまとめを読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	テキストを日本語訳する	1.5 時間
13	講義内容	『マクベス』批評の概観 ①: 魔女と予言		
	該当する到達目標	予習	テキスト指定部を読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	ハンドアウトをまとめる	1.5 時間
14	講義内容	『マクベス』批評の概観 ②: 王権とスコットランド		
	該当する到達目標	予習	テキスト指定部を読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	ハンドアウトをまとめる	1.5 時間
15	講義内容	日本における『マクベス』受容の歴史		
	該当する到達目標	予習	テキスト指定部を読んでもくる	1.5 時間
	1,2,3	復習	ハンドアウトをまとめる	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 水曜 3 限 研究室: 9 号館 304 号室 メールアドレス: matsuda-y@takasaki-u.ac.jp 講義はテキストの論点についての教員の解説と、学生の発表で交互に進める。また、教員は適宜ハンドアウトや映像資料を用いて学生の発表について解説し、英語テキスト・文化の学生の理解を深める。			

科目名	英語児童文学論(保育・教育の内容)			CES308	講義
英文名	Studies in English Children's Literature				
担当教員	松田 幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語児童文学を原文で読むことで、英語圏の子どものありようが、児童文学のなかでどのように変化してきたのかを学ぶ。多様な社会・文化における子ども像を理解し、教育と文学のかかわりについて考え、中学校で英語の授業を行うに資する能力を身につける。				
到達目標	1.英米児童文学を原文で読めるようになる。 2.子どものありようが、英米児童文学のなかでどのように変化してきたのかを学ぶ。 3.多様な社会・文化における子ども像を理解し、教育と文学のかかわりについて考える。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	出席点(10%)、授業への貢献度(30%)、期末課題(60%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	レポートは、添削・コメントを付したのち返却する。				
使用教材	川端有子『児童文学の教科書』(玉川大学出版、2013) メアリー・ノートン『床下の小人たち』林容吉訳(岩波書店、2000)				
1	講義内容	イントロダクション:英語児童文学とは何か？			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	今まで読んだことのある英米児童文学の作品名を挙げる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトにしたがって講義の内容をまとめる	1.5 時間	
2	講義内容	〈子ども〉の発見と児童文学の誕生			
	該当する到達目標 2,3	予習	テキスト「子どもの発見」を読んてくる	1.5 時間	
		復習	「子どもの発見」とはなにかまとめる	1.5 時間	
3	講義内容	教育と児童文学:乳母・学校・教師			
	該当する到達目標 2,3	予習	「教育と児童文学」を読んてくる	1.5 時間	
		復習	児童文学と教育のかかわりについてまとめる	1.5 時間	
4	講義内容	『トム・ブラウン』(1857)と『チョコレート戦争』(1974)			
	該当する到達目標 2,3	予習	『チョコレート戦争』指定箇所を訳文で読んてくる	1.5 時間	
		復習	『チョコレート戦争』指定箇所を和訳する	1.5 時間	
5	講義内容	家族と児童文学			
	該当する到達目標 2,3	予習	「家族と児童文学」を読んてくる	1.5 時間	
		復習	家族と児童文学にかかわりについてまとめる	1.5 時間	
6	講義内容	『小公子』(1886)、『小公女』(1888)、『若草物語』(1868)			
	該当する到達目標 2,3	予習	『小公子』指定箇所を訳文で読んてくる	1.5 時間	
		復習	『小公子』指定箇所を和訳する	1.5 時間	

7	講義内容	社会問題と児童文学:孤児・労働・貧困		
	該当する到達目標	予習	「社会問題と児童文学」を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	児童文学の中で社会問題がどのように描かれてきたかまとめる	1.5 時間
8	講義内容	『水の子』(1863)と『赤毛のアン』(1908)		
	該当する到達目標	予習	『水の子』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	『水の子』指定箇所を和訳する	1.5 時間
9	講義内容	ファンタジーと児童文学		
	該当する到達目標	予習	「ファンタジーと児童文学」を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	「ファンタジー」とはどのようなジャンルかまとめる	1.5 時間
10	講義内容	『柳に吹く風』(1911)と『ホビット』(1937)		
	該当する到達目標	予習	『柳に吹く風』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	『柳に吹く風』指定箇所を和訳する	1.5 時間
11	講義内容	メアリー・ノートン『床下の小人たち』①		
	該当する到達目標	予習	『床下の小人たち』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	『床下の小人たち』指定箇所を和訳する	1.5 時間
12	講義内容	メアリー・ノートン『床下の小人たち』②		
	該当する到達目標	予習	『床下の小人たち』指定箇所を訳文で読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	『床下の小人たち』指定箇所を和訳する	1.5 時間
13	講義内容	『借りぐらしのアリエッティ』における小人と人間		
	該当する到達目標	予習	『借りぐらしのアリエッティ』あらすじをまとめる	1.5 時間
	2,3	復習	『借りぐらしのアリエッティ』について批評の観点をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	『床下の小人たち』と『借りぐらしのアリエッティ』分析		
	該当する到達目標	予習	『床下の小人たち』と映画の相違点をまとめる	1.5 時間
	2,3	復習	講義内容にしたがって、相違点の意味について考察する	1.5 時間
15	講義内容	教育現場における英語児童文学の可能性		
	該当する到達目標	予習	「現代の児童文学」を読んでくる	1.5 時間
	2,3	復習	これまでの講義内容にしたがって、現代の児童文学の変化を考察する	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜 3 限 研究室:9 号館 304 号室 メールアドレス:matsuda-y@takasaki-u.ac.jp 授業は、テキストを抜粋したワークシートと、概要をまとめたハンドアウトを用いながら講義形式によって進める。その際、図版や映像資料を活用することで、よりよい児童文学・文化理解につなげる。			

科目名	英語教育学 I (保育・教育の内容)			CES309	講義
英文名	English Language Teaching I				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語教育学分野における主なテーマや問題について、これまでの英語教育・教授法の流れを概観しながら、俯瞰的に捉える力を養う。その上で、授業では、第二言語習得研究の知見に基づいた、新しい英語教育のアプローチである「フォーカス・オン・フォーム (FonF)」の理解を深めることを目標とする。また授業では、講義だけでなく、受講生による発表や討論も行う。				
到達目標	1. 伝統的教授法、コミュニケーション言語教授法、フォーカス・オン・フォームの特徴を理解する。 2. 日本の英語教育の現場で、複数の教授法をどのように取捨選択、活用すればよいのかを検討できる力を身につける。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度、発表(50%)、期末レポート課題(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。				
使用教材	和泉伸一.(2009).『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』. 東京:大修館書店. 2,200円				
1	講義内容	ガイダンス・英語教育観と第二言語習得研究			
	該当する到達目標 1, 2	予習	教科書のまえがき、シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.5 時間	
		復習	教科書第 1 章を参考にして、自分がこれまで受けてきた英語教育を振り返りながら、その長所・短所をまとめる。	1.5 時間	
2	講義内容	伝統的教授法 (1): 教え方			
	該当する到達目標 1, 2	予習	教科書第 2 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 2 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	伝統的教授法 (2): 限界と問題点			
	該当する到達目標 1, 2	予習	教科書第 2 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 2 章を参考にして、伝統的教授法の長所・短所をまとめる。	1.5 時間	
4	講義内容	コミュニケーション言語教授法 (1): 内容中心教授法の特徴			
	該当する到達目標 1, 2	予習	教科書第 3 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 3 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	コミュニケーション言語教授法 (2): 内容中心教授法の課題			
	該当する到達目標 1, 2	予習	教科書第 3 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間	
		復習	教科書第 3 章を参考にして、内容中心教授法の長所・短所をまとめる。	1.5 時間	
6	講義内容	コミュニケーション言語教授法 (3): タスク中心教授法の特徴			

	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 4 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	コミュニケーション言語教授法 (4): タスク中心教授法の課題		
	該当する到達目標	予習	教科書第 4 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 4 章を参考にして、タスク中心教授法の長所・短所をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	第 1 回～第 7 回のまとめ、ディスカッション (日本の英語教育が伝統的教授法からコミュニケーション言語教授法になぜシフトしていったのか)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 1 章～4 章までをもう一度読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	日本の英語教育が伝統的教授法からコミュニケーション言語教授法になぜシフトしていったのか、その理由をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (1): FonF の特徴		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 5 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (2): 内容中心教授法と FonF		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	内容中心教授法と FonF の違いをまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (3): タスク中心教授法と FonF		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	タスク中心教授法と FonF の違いをまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	フォーカス・オン・フォーム (4): FonF の課題		
	該当する到達目標	予習	教科書第 6 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 6 章を参考にして、FonF の長所・短所をまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	これからの日本の英語教育 (1): 理解可能なインプットからアウトプットへどう結び付けるか		
	該当する到達目標	予習	教科書第 7 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 7 章の専門用語の意味等を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	これからの日本の英語教育 (2): 学習者、学習環境、カリキュラムと教授法の間を考える		
	該当する到達目標	予習	教科書第 7 章の指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	教科書第 7 章を参考にして、学習者、学習環境、カリキュラムと教授法の間について、理解したことをまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	第 9 回～第 14 回のまとめ、ディスカッション (FonF を実際の授業でどのように取り入れて、英語学習への学習者の動機づけと自律性を高めていくか)		
	該当する到達目標	予習	教科書第 5 章～7 章までをもう一度読む。	1.5 時間
	1, 2	復習	FonF を日本の英語教育でどのように取り入れていけばよいか、その具体的な実践例を検討する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス: shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 303 研究室 授業は、教科書の内容を踏まえ、英語教授法の基礎的な知識を解説する講義形式と受講生とのディスカッションをまじえた形で進める。			

科目名	英語教育学Ⅱ（保育・教育の内容）			CES310	講義
英文名	English Language Teaching II				
担当教員	中村 博生				
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語教師をめざすために、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることを目標とする。特に、英語教育学に基づいて、英語教育の基盤となる歴史的、理論的背景や教授理論を学び、自立して英語を学び続ける力を育み、時代のニーズに応えられる英語教師をめざす。				
到達目標	1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.中学校英語教育で必要とされる英語教育の歴史的背景や現代の教授理論に関する知識を身に付けることができる。 3.英語教育に関する学校現場での問題点を整理して、解決策を講じ実践的に応用することができる。■ 4.学習者や教育現場のニーズに応えられる英語教育の理論を、自ら進んで追求することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学修する力			
評価方法	提示された課題についてのレポート 60%、授業での発表 20%から総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートは、コメントを付けて返却する。 授業での発表は、その都度コメントする。				
使用教材	教科書『新・英語教育学概論』高梨康雄、高橋正夫、金星堂、2016、2,850 円				
1	講義内容	ガイダンス、外国語としての英語教育の目的			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	教科書のはじめにと第1章に目を通し、講義の目標と英語教育の目的を理解する。		1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価などを確認する。また、日本の外国語学習の目的を理解できる。		1.5 時間
2	講義内容	小学校の英語教育（早期英語教育）と中・高等学校の英語教育 ■			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第 2 章と第 10 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	小学校の英語教育（早期英語教育）と中・高等学校の英語教育について理解を深めることができる。		1.5 時間
3	講義内容	現代の英語指導法			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第 3 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	指導法の変遷を学び、現代の主な指導法を理解できるようになる。		1.5 時間
4	講義内容	評価論			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	教科書の第 4 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	評価に関する基本的な概念を理解し、観点別評価など 5 領域の実践的な評価を展開できるよう知識を得ることができる。		1.5 時間
5	講義内容	聞くことの指導原理			

	該当する到達目標	予習	教科書の第 5 章第 1 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	リスニングの指導原理を理解し、指導方法や技術を身に付けることができる。	1.5 時間
6	講義内容	話すことの指導原理		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 5 章第 2 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	スピーキングの指導原理を理解し、指導方法や技術を身に付けることができる。	1.5 時間
7	講義内容	読むことの指導原理		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 5 章第 3 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	リーディングの指導原理を理解し、指導方法や技術を身に付けることができる。	1.5 時間
8	講義内容	書くことの指導原理		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 5 章第 4 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ライティングの指導原理を理解し、指導方法や技術を身に付けることができる。	1.5 時間
9	講義内容	コミュニケーション能力の基礎を養う指導原理		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 5 章第 5 節に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	コミュニケーション・スキルの指導原理を理解し、指導方法や技術を身に付けることができる。	1.5 時間
10	講義内容	英語教育と情報技能		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 6 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	現代の様々な情報技能を英語教育に応用することの重要性を理解することができる。	1.5 時間
11	講義内容	授業論 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案に基づく授業展開と授業に関する研究について理解を深め、授業指導に応用できる知識をもつことができる。	1.5 時間
12	講義内容	国際理解教育		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 9 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	国際理解教育と異文化理解の教育について理解することができる。	1.5 時間
13	講義内容	教師論、教育実習 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 11 章と 12 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	求められる教師像と実習生として必要な能力について理解することができる。	1.5 時間
14	講義内容	教材開発と教育機器(含 ICT)		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 13 章と第 14 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教材作成とその活用、また教育機器(含 ICT)の活用方法を学び、事業指導に活かすことができる。	1.5 時間
15	講義内容	英語教育研究法		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 15 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	英語教育関係の卒業研究について、研究方法や論文の書き方について理解することができる。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・授業は、テキストに関する講義と学生による発表、また課題についての討論などで構成する。課題は毎時間出され、授業中での評価や討議も行いながら進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	Communicative Classroom English I(保育・教育の方法技術)			CES311	演習
英文名	Communicative Classroom English I				
担当教員	ステイシー・クローズ				
科目に関連し	ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	生徒への理解可能な英語でのインプットとインタラクションを行うために、様々なジャンルや話題、目的、場面に応じて、情報や考えを理解し英語で話すこと(やり取り・発表)や書くことができるように授業を構成する。				
到達目標	1. 文化と言語の違いを理解しながら教室英語を使用することができる。■ 2. 流暢さと理解力を伴った英語で授業を行うことができる。 3. ALT とのコラボレーション環境でレッスンを設計、計画、指導、評価できる。■				
学位 授与方 針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%、定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対する フィードバック	課題はコメントをつけて返却する。				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	ガイダンス、中・高等学校の英語の授業に資する 5 領域の十分な英語運用能力について			
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity		1.0 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
2	講義内容	家族・友達に関する話題の英語を聞いて、話者の音声的な特徴を理解する力の修得■			
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity		1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
3	講義内容	家族・友達に関する話題の英語を聞いて、要旨の把握から細部の内容把握をできる力の習得■			
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity		1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
4	講義内容	家族・友達に関する話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解する力の習得■			
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity		1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
5	講義内容	衣食住に関する話題の英語の精読指導を通じた内容理解の力の習得■			
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity		1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
6	講義内容	衣食住に関する話題の英語の速読指導を通じた内容理解の力の習得■			
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity		1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
7	講義内容	健康・衣食住に関する英語の多読指導を通じた内容理解の力の習得■			

	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
8	講義内容	旅行など趣味に関する話題について、英語で会話をする力(やり取り)の習得■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	旅行など趣味に関する話題について、英語でディスカッションする力(やり取り)の習得■		
9	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	旅行など趣味に関する話題について、英語でスピーチする力(発表)の習得■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
10	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	教育や Internet に関する話題について、和文英訳する力の習得■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
11	講義内容	教育や Internet に関する話題について、パラグラフからエッセイまでを英語で書く力の習得■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	教育や Internet に関する話題について、手紙や電子メールなどを英語で書く力の習得■		
12	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	英文で読んだ内容について自分の考えを加えてスピーチする力(発表)の習得■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
13	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	他者の発表を聞いて、その話題についてディスカッションする力(やり取り)の習得		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	2.0 時間
	1, 2	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
備考	メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp 前期 オフィスアワーは、月曜日の 2 限、(質問はメールでも受け付ける) 研究室: 9 号館 307 研究室 We will use ICT(blogs, internet, powerpoint)to share and present ideas. Students will present, discuss, and critique model lessons. Students will be evaluated on individual portfolios, participation in class discussions, and a final project. ■:実務経験に基づく内容を示す			

科目名	Communicative Classroom English II(保育・教育の内容)			CES312	演習
英文名	Communicative Classroom English II				
担当教員	ステイシー・クローズ				
科目に関連し	ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	Communicative Classroom English I の発展科目として、様々なジャンルや話題、目的、場面に応じて、情報や考えを理解し英語で話すこと(やり取り・発表)や書くことができるように授業を構成する。特にペア・グループ・全体での情報交換、発表、討論を中心として行う。				
到達目標	1. 文化と言語の違いを理解しながら教室英語を使用することができる。■ 2. 流暢さと理解力を伴った英語で授業を行うことができる。 3. ALT とのコラボレーション環境でレッスンを設計、計画、指導、評価できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。Quizzes and assignments due every week based on the previous week.				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	ガイダンス、文化に関する英語を聞いて理解し、英語で情報交換できる能力の習得			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	シラバスを読んで講義内容を把握する。	1.5 時間	
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間	
2	講義内容	文化に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間	
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間	
3	講義内容	文化に関する様々な考えについて英語で読み・討論できる能力の習得 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間	
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間	
4	講義内容	教育に関する英語を聞いて理解し、英語で情報交換できる能力の習得 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間	
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間	
5	講義内容	教育に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間	
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間	
6	講義内容	教育に関する様々な考えについて英語で読み・討論できる能力の習得 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間	
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間	
7	講義内容	Internet に関する英語を聞いて理解し、英語で情報交換できる能力の習得			

	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
8	講義内容	Internet に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	Internet に関する様々な考えについて英語で読み・討論できる能力の習得		
9	該当する到達目標	予習		1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
10	講義内容	感情に関する英語を聞いて理解し、英語で情報交換できる能力の習得 ■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	感情に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 ■		
11	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
12	講義内容	感情に関する様々な考えについて英語で読み・討論できる能力の習得 ■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	社会問題に関する英語を聞いて理解し、英語で情報交換できる能力の習得 ■		
13	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
14	講義内容	社会問題に関する様々な情報を聞き、自分の考えをまとめて英語で発表できる能力の習得 ■		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
	講義内容	社会問題に関する様々な考えについて英語で読み・討論できる能力の習得 ■		
15	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
備考	メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp オフィスアワーは、月曜日の 4 限、(質問はメールでも受け付ける) 研究室: 9 号館 307 研究室 We will use ICT(blogs, internet, powerpoint)to share and present ideas. Students will present, discuss, and critique model lessons. Students will be evaluated on individual portfolios, participation in class discussions, and a final project. ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	Writing for English Teaching(保育・教育の内容)			CES313	講義
英文名	Writing for English Teaching				
担当教員	ステイシー・クローズ				
科目に関連した実務経験	ALT として小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	中学校及び高等学校において、英語教師に必要なとされる書くことの能力を身に付けるために、様々なジャンルや話題の英語を読んで話し合い、目的や場面、トピックなどに応じて英語でパラグラフ・ライティングができるよう授業を構想する。				
到達目標	1. 執筆プロセスを理解する■ 2. 効果的な教育のためのライティングスキルを向上させ、開発する■ 3. 一節を分析できるようにする読書の一節を分析できるようにする				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点後返却する。				
使用教材	Provided by instructor				
1	講義内容	ガイダンス、中・高等学校における書くことの能力と学修に必要な要素			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	Writing journal (every week)		1.5 時間
		復習	Review new words and phrases		.5 時間
2	講義内容	短めの「自己紹介」のパラグラフを英語で読んで話し合い、自分の自己紹介を書く■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	Writing journal (every week)		1.5 時間
		復習	Review new words and phrases		.5 時間
3	講義内容	「過去の出来事」の英語を読んで話し合い、「過去の出来事」に関するパラグラフを書く。■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	Writing journal (every week)		1.5 時間
		復習	Review new words and phrases		.5 時間
4	講義内容	的を絞って書くことについて理解し、「日常生活」の英語を読んで話し合いパラグラフを書く。■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	Writing journal (every week)		1.5 時間
		復習	Review new words and phrases		.5 時間
5	講義内容	トピック・センテンスについて理解し、「自分の考えや信念」を題材とした英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	Writing journal (every week)		1.5 時間
		復習	Review new words and phrases		.5 時間
6	講義内容	主となるサポーティング・センテンスについて理解し、「将来の職業」を題材とした英語を読んで話し合いパラグラフを書く			

	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1,2,3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
7	講義内容	主となるサポーター・センテンスを支える文について理解し、「尊敬する人」を題材とした英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習		.5 時間
8	講義内容	復習として、これまでの題材の中から 1 つ選び 100 語程度のパラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
9	講義内容	描写パラグラフとして「旅行したい場所」を題材とした英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
10	講義内容	例示パラグラフとして「(不) 愉快的こと」を題材とした英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
11	講義内容	物語パラグラフとして時間軸に沿って書かれた物語の英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
12	講義内容	定義パラグラフとして「若者言葉」を題材とした英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
13	講義内容	分類パラグラフ(比較・対照)として「人のタイプ」を題材とした英語を読んで話し合い、		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
14	講義内容	因果関係パラグラフ(原因と結果)として「社会的な問題」を題材とした英語を読んで話し合い、パラグラフを書く。■		
	該当する到達目標	予習	Writing journal (every week)	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
15	講義内容	復習として、後半のテーマの中から 1 つ選び 200 語程度のパラグラフを書く。		
	該当する到達目標	予習	Submit writing journal, summary report	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review new words and phrases	.5 時間
備考	メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp 前期 オフィスアワーは、月曜日の 4 限、(質問はメールでも受け付ける) 研究室: 9 号館 307 研究室 We will use ICT(blogs, internet, powerpoint) to share and present ideas. Students will present, discuss, and critique model lessons. Students will be evaluated on individual portfolios, participation in class discussions, and a final project. ■: 実務経験に基づく内容を示す			

科目名	Speech Workshop(保育・教育の内容)			CES314	講義
英文名	Speech Workshop(保育・教育の内容)				
担当教員	ステイシー・クローズ				
科目に関連し	ALTとして小学校、保育園、幼稚園に勤務(経験)				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	生徒への理解可能な英語でのインプットとインタラクションを行うために、様々なジャンルや話題、目的、場面に応じて、スピーチの企画・構成を行い聞き手に理解される発表ややり取りができるように授業を構成する。 In order to become competent classroom teachers who can interact and teach in English, students will design and perform speeches of different genres, with topics and objectives relevant to the junior and high school English context.				
到達目標	1. 適切に設計されたプレゼンテーションの原則を学ぶ 2. 英語を話すプレゼンテーションの自信を高める 3. プレゼンテーションを行うスキルを開発する ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	平常点 40%(単語試験、提出物など)、発表 30%, 定期試験 30%を総合的に評価する。 Quizzes or homework due every week based on previous lesson.				
課題に対するフィードバック	レポートは添削・コメントを付した後返却する。 期末試験は採点后返却する。				
使用教材	Materials provided				
1	講義内容	ガイダンス、中・高等学校の英語の授業に資する5領域の十分な英語運用能力について Understand the main types of speech and the elements of presentation			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	シラバスを読んで講義内容を把握する。		1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
2	講義内容	様々なジャンルや話題の英語のスピーチを聞いて、話者の音声的な特徴を理解する力の習得■ Listen and discuss English speeches on a variety of genres and topics, and get used to the sound characteristics of the speaker			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Presentation 1 impromptu		1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
3	講義内容	即興での英語を聞いたり話したりして、要旨の把握から細部の内容把握をできる力の習得■ Learning the ability to listen and give impromptu speeches on a variety of topics.			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity		1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases		1.5 時間
4	講義内容	様々なジャンルや話題の英語の例を見聞きして、情報を提供するスピーチの構成を理解する力の習得■ Learn to understand the organization of an informative speech through watching and			

		listening to examples		
	該当する到達目標	予習	Presentation 2	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
5	講義内容	様々なジャンルや話題の英語の精読を通して、発表内容を理解する力の習得■ Learning the ability to understand presentation content through careful reading of English in various genres and topics		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
6	講義内容	様々なジャンルや話題の英語を聞いて、内容を理解する力の習得 Learning the ability to understand content through listening to English in various genres and topics		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
7	講義内容	様々なジャンルや話題の英語の多読指導を通じた内容理解の力の習得(デジタル表示) ■ Plan and design visuals for speeches using technology by reading, watching videos, using powerpoint		
	該当する到達目標	予習	Presentation 3	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
8	講義内容	ビデオや他者のスピーチを聞いて、説得力のある発表について理解する力の習得。 Understand about persuasive speeches through watching video and listening to others.		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the midterm exam	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
9	講義内容	新聞を読むことや周りのできごとを通して、中・高校生のスピーチについて英語で議論する力の習得。 Discuss relevant high school and junior high speech topics through reading newspapers and current events		
	該当する到達目標	予習	Prepare for activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
10	講義内容	英語で説得力のあるスピーチを行い、英語で聞き手と意見交換(やり取り)をする力の習得。■ Give a persuasive speech and get feedback from classmates		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
11	講義内容	スピーチにおける体やジェスチャーの役割を理解する力の習得。 Understand the role of the body and gestures in speech		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
12	講義内容	スピーチにおける音声の正しい使い方(音声の明瞭性)について理解する力の習得。 Learn to use the voice correctly in speech: volume, tone, and clarity		
	該当する到達目標	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
13	講義内容	メモを取ったりあらすじを書いたりして、スピーチを企画、構成する力の習得。 Learn the ability to plan and organize your speech through writing notes and outlines		

	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
14	講義内容	様々なジャンルや話題の英語を自分の考えを加えてスピーチする力(発表)の習得 Mastering the ability (speech) to speak in a variety of genres and topics		
		該当する到達目標	予習	Preparation for the activity
	1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
15	講義内容	他者の発表を聞いて評価し、その話題についてディスカッションする力(やり取り)の習得■ Acquire the ability to give, evaluate, and discuss speeches based on mastery of English content, using appropriate voice and gestures		
		該当する到達目標	予習	Preparation for the activity
	1, 2, 3	予習	Preparation for the activity	1.5 時間
		復習	Review the new words and phrases	1.5 時間
備考	メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp 前期			
	オフィスアワーは、月曜日の 2 限、(質問はメールでも受け付ける) 研究室:9 号館 307 研究室 We will use ICT(blogs, internet, powerpoint)to share and present ideas. Students will present, discuss, and critique model lessons. Students will be evaluated on individual portfolios, participation in class discussions, and a final project. ■:実名経験に基づく内容を示す			

科目名	異文化コミュニケーション論(保育・教育の内容)			CES315	講義
英文名	Studies in Intercultural Communication				
担当教員	松田 幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	異文化について理解するための英文エッセイを参照しつつ、「文化とは何か」、「見える文化」と「見えない文化」、ステレオタイプ、集団主義と個人主義、外国語の学習、交渉力など、異文化間コミュニケーションにおける基本的な事項について学ぶ。また、近隣の市町村の外国にルーツのある子どもたちとの交流を通し、多様な文化的背景を持つ子どもとの関わりの実践活動を行い、国際化しつつある現代の教育現場において必要とされる異文化についての理解、コミュニケーション・スキルを向上させる。				
到達目標	1.グローバル化社会における多様性と異文化理解の必要性を学ぶ。 2.グローバル化しつつある現代の教育現場において必要とされるコミュニケーション・スキルを身につける。 3.多文化主義を教育現場においてどのように実践するかについて学ぶ。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
		問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度(10%)、リアクション・ペーパー(50%)、期末課題(60%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題については添削・コメントして返却する。				
使用教材	八代京子ほか『異文化コミュニケーションワークブック』(三修社、2001 年) <i>A Gate to Intercultural Communication</i> (松柏社、2011 年)				
1	講義内容	オリエンテーション:異文化コミュニケーションとは何か			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト第 1 章「異文化コミュニケーションとは」を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5 時間	
2	講義内容	ステレオタイプと異文化理解への態度			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「ステレオタイプ」を読んでくる	1.5 時間	
		復習	「ステレオタイプ」とはなにかまとめる	1.5 時間	
3	講義内容	文化とコミュニケーション:コンテキストの理解			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「文化とコミュニケーション」を読んでくる	1.5 時間	
		復習	ハンドアウトにしたがって講義内容の理解	1.5 時間	
4	講義内容	コミュニケーションにおける自己開示			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「自己開示」について読んでくる	1.5 時間	
		復習	「双方向コミュニケーション」とはなにかまとめる	1.5 時間	
5	講義内容	子どもたちとの交流活動① 外国にルーツのある子どもたちとの関わり方の体験的な理解			
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト該当部を読んでくる	1.5 時間	
		復習	講義の概要をハンドアウトにまとめる	1.5 時間	

6	講義内容	異文化コミュニケーションとパラ言語		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「パラ言語」について読んでくる	1.5 時間
		復習	「パラ言語」とはなにかまとめる	1.5 時間
7	講義内容	異文化における言語コミュニケーション		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「言語コミュニケーション」を読んでくる	1.5 時間
		復習	講義内容にしたがって自己紹介文を作成する	1.5 時間
8	講義内容	異文化における非言語コミュニケーション		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「非言語コミュニケーション」を読んでくる	1.5 時間
		復習	「非言語コミュニケーション」とはなにかまとめる	1.5 時間
9	講義内容	コミュニケーションにおける空間と対人距離		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「空間と対人距離」を読んでくる	1.5 時間
		復習	「空間と対人距離」について自分の意見をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	子どもたちとの交流活動② 遊びを通した異文化交流の意義の体験的な理解		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト該当部を読んでくる	1.5 時間
		復習	本時の活動についてまとめる	1.5 時間
11	講義内容	異文化ケース・スタディーとコミュニケーション・スタイル		
	該当する到達目標 1,2	予習	「異文化ケース・スタディー」を読んでくる	1.5 時間
		復習	自分の異文化ケース・スタディーをハンドアウトにしたがって行う	1.5 時間
12	講義内容	コミュニケーションにおける対立管理スタイル		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「対立管理スタイル」を読んでくる	1.5 時間
		復習	自分の「対立管理スタイル」について書き出す	1.5 時間
13	講義内容	他者理解と共感(エンパシー)		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「共感(エンパシー)」について読んでくる	1.5 時間
		復習	「共感(エンパシー)」とはなにかまとめる	1.5 時間
14	講義内容	異文化コミュニケーションにおける D.I.E.メソッド		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「D.I.E.メソッド」を読んでくる	1.5 時間
		復習	「D.I.E.メソッド」とはなにかまとめる	1.5 時間
15	講義内容	子どもたちとの交流活動③ 英語を用いたコミュニケーション活動についての体験的な理解		
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「アサーティヴ・コミュニケーション」を読んでくる	1.5 時間
		復習	「エポケー」とはなにかまとめる	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜 3 限 研究室:9 号館 304 号室 メールアドレス:matsuda-y@takasaki-u.ac.jp 授業はテキストと作業用のワークシートを用いながら講義形式によって進める。また、実際の異文化コミュニケーションとして、県内に在住する外国籍の子どもとかかわる活動を設け、実践的な学びを深める。			

科目名	ヨーロッパ思想と多文化理解(保育・教育の内容)			CES501	講義
英文名	European Philosophy and Kultur				
担当教員	石原 綱成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 前期	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標	1,ヨーロッパ思想を体系的に学べる。 2,多文化を理解することで、日本の文化を再考できる。 3,幅広い教養を身に着けることができる。 4,国際社会への理解と見識を深めることができる。				
到達目標	この講義を通して、様々な文化を学び、より豊かな知識と人間性を養うことができる。また、平和、人権についても深く考察し、国際人としての教養を身に着けることができる。				
学位授与方針との対応	✓	1.豊かな人間性と教養			
	✓	2.専門的知識			
		3.問題発見・解決力			
	✓	4.多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	✓	5.自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	講義中に課題を逐次出し、報告を行う。また試験の代わりにレポート提出により評価する。				
課題に対するフィードバック	与えられたテーマについて報告し、討論を行う 指定された文献を収集し研究史を整理する。 期末試験としてのレポートはコメントを付け返却する。				
使用教材	教科書は使用せず、逐次プリントを配布する。必要な教材は別途指示する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。	1.5 時間	
		2	復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。	1.5 時間
2	講義内容	子どもの発見ーアリエスの学説			
	該当する到達目標	予習	アリエスの『子供の発見』の指定されたページを読む。	1.5 時間	
		1,2,4	復習	現代の子ども観を再考する。	1.5 時間
3	講義内容	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って①			
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとにブリューゲルの芸術作品を理解する。	1.5 時間	
		1,2,4	復習	「子どもの遊戯」の図像のテーマを理解する。	1.5 時間
4	講義内容	ペーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」を巡って②			
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。	1.5 時間	
		1,2,4	復習	中世の子ども像を概観する。	1.5 時間
5	講義内容	絵で読む子供の社会史①			
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとに子どもの図像から子どもの姿を理解する。	1.5 時間	
		1,2,4	復習	中世の子ども像を概観する。	1.5 時間
6	講義内容	歴史の中の女性①ージェンダーの起源ー			
	該当する到達目標	予習	配布したプリントをもとに図像に現れた女性の姿を理解する。	1.5 時間	
		1,2,4	復習	近世における女性像を理解する。	1.5 時間

7	講義内容	歴史の中の女性②ー聖書の中の女性ー		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	キリスト教の教義を理解する。	1.5 時間
		復習	配布した聖書を読む。	1.5 時間
8	講義内容	世界の宗教を理解する。ーキリスト教ー		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	キリスト教の教義を理解する。	1.5 時間
		復習	キリスト世界の特徴を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	世界の宗教を理解する。ー仏教ー		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	仏教の教えを理解する。	1.5 時間
		復習	多神教と一神教の特色を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	教育史のなかの「よい子」を考えるー戦中の教育ー		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	配布したプリントをもとに戦争中現れた子どもの姿を理解する。	1.5 時間
		復習	軍事教育とは何かを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	戦争の本質ー多文化理解欠如の悲惨ー		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	戦争の歴史を理解する。	1.5 時間
		復習	戦争の原因を理解する。帝国主義の末路を考える。	1.5 時間
12	講義内容	原子爆弾投下の背景		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	原子爆弾の構造と破壊力への理解。	1.5 時間
		復習	ヒロシマ・ナガサキで起こったことを理解する。	1.5 時間
13	講義内容	ナチス・ドイツと戦争		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	ホロコーストについて調べる	1.5 時間
		復習	人種差別の問題を問い直す	1.5 時間
14	講義内容	ハンナ・アーレントと全体主義		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	ハンナ・アーレントの思想を理解する。	1.5 時間
		復習	全体主義の現代的意味を考察する	1.5 時間
15	講義内容	多文化理解と他者理解		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	今までの授業を総合的に振り返る。	1.5 時間
		復習	教育者・保育者が心がけるべき「平和」を考える。	1.5 時間
備考	石原オフィスアワー: 月曜日の 3 限、木曜日の 4 限、質問はメールで受け付ける。 メールアドレス ishihara@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 501 講義の進め方は、レポート、発表(報告)、文献購読、視覚教材にて行う。講義に関して必ずフィードバックを行う。			

科目名	表現演習(保育・教育の内容科目)			CES502	演習
英文名	Expression Practice				
担当教員	岡本 拡子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	子どもを対象とした人形劇やミュージカル等の舞台制作について、企画、台本制作、演出、舞台装置や衣装制作等を行い、さらにそれらを演じる技術を習得し発表する。また、保育・教育現場において子どもが発表会等で行う表現活動の指導方法についても実践を通して学ぶ。				
到達目標	1. 子どもを対象とした表現発表の舞台制作を企画立案し、制作・発表を行う。 2. 保育・教育現場における子どもの表現活動の指導方法の実践を学ぶ。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題への取り組み 40%, 期末のレポート課題 60%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	毎授業ごとに振り返りの時間を設け、次週までの課題を明確にして共有をはかる。				
使用教材	なし				
1	講義内容	オリエンテーション。授業の概要説明とグループ分け。演目検討。			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標を理解する。		1 時間
		復習	講義内容、評価方法を確認する。		1.5 時間
2	講義内容	台本制作、演出、舞台装置、衣装制作、出演者等の役割ごとの作業確認と準備。			
	該当する到達目標 1	予習	どのような表現媒体を用いるか、検討しておく。		1 時間
		復習	授業時間内でまとまらなかった意見について検討しておく。		1.5 時間
3	講義内容	各グループの演目について発表し、意見交換を行い内容についての再検討。			
	該当する到達目標 1	予習	演目について発表準備を行う。		1 時間
		復習	表現媒体の準備を進める。		1.5 時間
4	講義内容	音楽練習。使用楽曲の選曲、パート練習			
	該当する到達目標 1	予習	予め使用楽曲について調べておく。		1 時間
		復習	音楽練習を進めておく。		1.5 時間
5	講義内容	立ち稽古① 実際に演じながら練習および演技指導。			
	該当する到達目標 1	予習	台本制作等準備を行う。		1 時間
		復習	修正点をグループ内で共有し練習する。		1.5 時間
6	講義内容	中間発表。各グループの演目を発表し、意見交換、演技指導。			
	該当する到達目標 1	予習	中間発表に向けてグループ内で課題について検討しておく。		1 時間
		復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。		1.5 時間
7	講義内容	立ち稽古② 中間発表を踏まえて、修正、演技指導。			
	該当する到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。		1 時間

	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1.5 時間
8	講義内容	通しリハーサル① 照明, 衣装, 舞台装置等確認		
	該当する到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1.5 時間
9	講義内容	通しリハーサル② 最終リハーサル		
	該当する到達目標	予習	修正点をグループ内で共有し、発表準備を行う。	1 時間
	1	復習	課題を明確化し、翌週の準備を行う。	1.5 時間
10	講義内容	舞台発表		
	該当する到達目標	予習	準備不足のないようグループ内で意見交換を行っておく。	1 時間
	1	復習	発表の反省と評価を行う。	1.5 時間
11	講義内容	発表後の振り返り 反省と評価		
	該当する到達目標	予習	課題を明確にしておく。	1 時間
	1, 2	復習	他者の意見を受けて、グループあるいは個々の課題を明確化する。	1.5 時間
12	講義内容	子どもの発表会における表現活動の指導方法について。模擬保育の内容検討		
	該当する到達目標	予習	模擬保育に実施する内容について検討しておく。	1 時間
	2	復習	授業内でまともななかった課題についてさらに検討しておく。	1.5 時間
13	講義内容	表現活動の指導について。指導案の作成		
	該当する到達目標	予習	指導案作成に向けての教材研究を事前に行っておく。	1 時間
	2	復習	授業内でまともななかった指導案の作成を終わらせておく。	1.5 時間
14	講義内容	模擬保育 グループごとに発表し相互に評価し合う。		
	該当する到達目標	予習	模擬保育に向けて必要な準備を各自で進める。	1 時間
	2	復習	反省点の振り返りを行う。	1.5 時間
15	講義内容	指導案再検討 模擬保育後の反省と評価。指導案の再検討を行う。		
	該当する到達目標	予習	指導案再検討に向けて課題を明確にしておく。	1 時間
	2	復習	個々の課題を明確にし、実践にいかす。	1.5 時間
備考	授業は演習形式でグループワークを中心に行う。毎時、取り組むテーマに関するプリント等を配布し、要点について説明を行った後、グループで課題に取り組む時間を設ける。 オフィスアワーは火曜 3 限、水曜 3 限である。それ以外の時間に課題をみてほしい場合は、メールにて事前予約すること。 okamoto@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 404 研究室 予習・復習は欠かさず行うこと。			

科目名	絵本論(保育・教育の内容)			CES503	演習
英文名	Studies of Picture Story Books				
担当教員	今井 邦枝				
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園、小学校に勤務(経験) 非常勤職員として子育て支援センターに勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	保育の現場において絵本は、多く使われている児童文化材の一つであり、子どもたちが楽しむことができる媒体である。この講義では多くの絵本に触れ、絵本の特性や種類などについて理解を深める。また、子どもに読み聞かせをする際の絵本の選択の仕方、絵本の読み聞かせに関する方法を習得する。				
到達目標	1.児童文化材の一つである絵本についての種類や特性を理解する。 2.保育教材として絵本を捉え、保育現場での活用法などを学び、実践力を養う。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	絵本分析シート(15 回提出)90%、授業の参加度 10%				
課題に対するフィードバック	提出された絵本分析シートは、適宜返却するので、各自見直しておくこと。				
使用教材	各時間に必要な絵本を指定するので、図書館などで用意をすること。				
1	講義内容	児童文化材としての絵本			
	該当する到達目標	予習	自分の好きな絵本を準備し、読む。		0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。		0.5 時間
2	講義内容	保育教材としての絵本			
	該当する到達目標	予習	子どもに読んであげたい絵本を準備し、読む。		0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。		0.5 時間
3	講義内容	絵本の種類①:赤ちゃん絵本			
	該当する到達目標	予習	赤ちゃん絵本を準備し、読む。		0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。		0.5 時間
4	講義内容	絵本の種類②:創作・物語絵本			
	該当する到達目標	予習	創作・物語絵本を準備し、読む。		0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。		0.5 時間
5	講義内容	絵本の種類③:昔話・民話絵本			
	該当する到達目標	予習	昔話・民話絵本を準備し、読む。		0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。		0.5 時間
6	講義内容	絵本の種類④:知識絵本(科学絵本、図鑑絵本、数の絵本)			
	該当する到達目標	予習	知識絵本を準備し、読む。		0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。		0.5 時間
1	講義内容	絵本の種類⑤:言葉の絵本、文字のない絵本、写真絵本			
	該当する到達目標	予習	ことば絵本、文字なし絵本、写真絵本などを準備し、読む。		0.5 時間

	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
8	講義内容	絵本の種類⑥:しかけ絵本		
	該当する到達目標	予習	しかけ絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
9	講義内容	絵本の歴史		
	該当する到達目標	予習	出版年を確認し、古い絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
10	講義内容	絵本分析方法論		
	該当する到達目標	予習	比較する 2 冊の絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
11	講義内容	絵本分析①(構造分析)		
	該当する到達目標	予習	構造的に面白い絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
12	講義内容	絵本分析②(ストーリー分析)		
	該当する到達目標	予習	ストーリー展開が面白い絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
13	講義内容	絵本分析③(教材分析) ■		
	該当する到達目標	予習	保育に良く用いられる絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	1,2	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
14	講義内容	保育現場での絵本の展開■		
	該当する到達目標	予習	実習で読んだことのある絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
15	講義内容	読み聞かせの実践方法、まとめ■		
	該当する到達目標	予習	読み聞かせをしたい絵本を準備し、読む。	0.5 時間
	2	復習	絵本分析シートを作成する。	0.5 時間
備考	各自行った絵本分析を順番に発表し、それについてディスカッションする形式で授業を進める。 オフィスアワー: 月曜 3 限、火曜 3 限。質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス: kimai@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 507			

科目名	家庭教育と幼児教育(保育・教育の内容)				CES504	講義
英文名	Home-based Education and Early Childhood Education and Care					
担当教員	今井 麻美					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	4 年 後期		必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	これまでの授業の中で、家庭教育と幼児教育それぞれについての理解は深められてきたと考える。それらを踏まえ、本授業では、家庭教育と幼児教育、それぞれの役割や機能に関する議論を歴史的に学ぶ。さらに、現在、家庭教育と幼児教育との関係は、どのように位置づけられているのかについて検討を行う。					
到達目標	1. 家庭教育と幼児教育、それぞれの役割や機能に関する議論を歴史的に理解する。 2. 家庭教育と幼児教育、それぞれ独自の役割や機能について自分なりに考えを深めることができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	議論への参加意欲, 貢献 40%, 最終レポート 60%					
課題に対するフィードバック	課題の意義について説明する。 提出された課題にはコメントを付けて返却する。					
使用教材	適宜資料を配布する					
1	講義内容	ガイダンス				
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する			1.5 時間
	1,2	復習	講義内容, 到達目標, 学位授与方針, 成績評価方法などを確認する			1.5 時間
2	講義内容	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ①幼児教育の誕生				
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む			1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する			1.5 時間
3	講義内容	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ②両者の対等性				
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む			1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する			1.5 時間
4	講義内容	家庭教育と幼児教育の関係のあり方に関する議論 ③現在の問題と課題				
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む			1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する			1.5 時間
5	講義内容	近代家族と「学校」				
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む			1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する			1.5 時間
6	講義内容	近年の家庭教育関係施策				
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む			1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り、自分の意見や考えを整理する			1.5 時間
7	講義内容	行政文書から捉える「家庭教育」				
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む			1.5 時間

	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
8	講義内容	メディアから捉える「家庭教育」		
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
9	講義内容	家庭教育と幼児教育に対する自分たちのものの見方		
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
10	講義内容	家庭教育言説から捉える子ども像, 親像 ①文献検討		
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
11	講義内容	家庭教育言説から捉える子ども像, 親像 ②ディスカッション		
	該当する到達目標	予習	他者と共有したい内容を整理する	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションを通して, 気づいたことを整理する	1.5 時間
12	講義内容	家庭教育から幼児教育への移行 ①親にとっての変化		
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
13	講義内容	家庭教育から幼児教育への移行 ②親子が保育者と関わることの意味		
	該当する到達目標	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返り, 自分の意見や考えを整理する	1.5 時間
14	講義内容	家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義 ①グループディスカッション		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業内容を振り返り, 自分なりの考えを整理する	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションを通して, 気づいたことを整理する	1.5 時間
15	講義内容	家庭教育と幼児教育のそれぞれの役割と意義 ②レポート作成		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業内容を振り返り, 自分なりの考えを整理する	1.5 時間
	1,2	復習	レポートを読み返し, 自分自身のものの見方がどのように変化したのかについて考えたり, 気づいたりする	1.5 時間
備考	関係する文献を読み進めながら, 授業を進めます。 そのため, 授業で扱う資料を必ず読んだ上で, 授業に参加することを求めます。また, 授業内容を自分なりに噛み砕いて, 自分なりの意見を持つとする姿勢を求めます。 オフィスアワー: 火曜 3 限、金曜 2 限 メールアドレス: imai-a@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 504			

科目名	パーソナリティの心理学(保育・教育の内容)			CES505	講義
英文名	Personality Psychology				
担当教員	板津 裕己				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	主なパーソナリティ理論を学ぶことを通して、人間行動などに見いだされる「個性」の考え方や「個性理解」「人間理解」の大切さを修得する。				
到達目標	1.将来、教育者や保育者として、向き合う人の個性を尊重することの大切さが自覚できるようになる。 2.「心理学検査法」やその他の心理臨床関連科目の基礎学習として、心理学的なパーソナリティ理論の基礎を理解できるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	評価は、個人ワーク課題の提出状況(20点)、確認作業(@10*3:30点)および期末試験(レポート課題)(50点)などを総合して行う。				
課題に対するフィードバック	確認作業は、確認テスト実施後に簡単な解説を行うとともに、採点した答案を返却します。 課題レポートおよび期末試験レポートは、コメントを付けた後に返却をする。				
使用教材	テキストは使用しない。授業進行に従いプリントや予習課題 を配布する。 参考書・補助教材 D.シュルツ(著)、上田 吉一(監訳) 健康な人格・人間の可能性と七つのモデル 川島書店 1982 上里一郎(監修) 臨床心理学と心理学を学ぶ人のための心理学基礎事典 至文堂 2002 中島・箱田・繁樹(編) 新・心理学の基礎知識 有斐閣 2005				
1	講義内容	オリエンテーション ―パーソナリティとは―			
	該当する到達目標	予習	「個性」や「個性の形成要因」について自分なりの考えをまとめておく。		1.5 時間
	1	復習	「個性」について日常生活を踏まえつつ復習をしておく。		1.5 時間
2	講義内容	心理学における個性への関心 ―個性研究の歴史―			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1	復習	「個性」について日常生活を踏まえつつ復習をしておく。		1.5 時間
3	講義内容	適応の問題			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1,2	復習	自分を活かし、周囲を活かしていくことについて考える。		1.5 時間
4	講義内容	コンフリクト、フラストレーション、防衛機制			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1,2	復習	人間行動の不思議さについて考える。確認作業への準備。		1.5 時間
5	講義内容	類型論や特性論からの個性理解、第 1 回から第 4 回までの学習内容の確認作業			
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。		1.5 時間
	1,2	復習	人間理解の方法について考える。		1.5 時間

6	講義内容	精神分析学の立場からのパーソナリティ理解 1 ―概観、フロイト―		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	無意識行動の長所と問題点について考える。	1.5 時間
7	講義内容	精神分析学の立場からのパーソナリティ理解2 ―ユングとアドラー―		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	社会生活を心地よく過ごしていく方法について考える。	1.5 時間
8	講義内容	精神分析学の立場からのパーソナリティ理解3 ―フロムとエリック・バーン―		
	該当する到達目標	予習	前本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	環境が個性形成に与える影響について考える。確認作業への準備。	1.5 時間
9	講義内容	ヒューマニスティック心理学からの立場からのパーソナリティ理解1 ―オルポートとロジャース―、第 5 回から第8回までの学習内容の確認作業		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	こころの働きの中で「意識」の大切さについて考える。	1.5 時間
10	講義内容	ヒューマニスティック心理学からの立場からのパーソナリティ理解2 ―マスローの考え方―		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	「人間らしさとは」について考える。	1.5 時間
11	講義内容	実存心理学からのアプローチ ― فرانクルのパーソナリティ観―		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	「生きる意味」について考える。	1.5 時間
12	講義内容	内向性と外向性		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	向性の特徴について復習しておく。	1.5 時間
13	講義内容	双生児		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	双生児の不思議さについて考える。	1.5 時間
14	講義内容	「嘘」と人間行動		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	「嘘」の意味について考える。確認作業への準備。	1.5 時間
15	講義内容	健康なパーソナリティ、第 9 回から第 14 回までの学習内容の確認作業		
	該当する到達目標	予習	本時の授業内容に関する予習課題を行う。	1.5 時間
	1,2	復習	全 15 回の学習内容を復習しておく。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス: itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 3 階 301 ・予習課題は授業終了後に提出をする。 ・授業進行に際して、学習内容に関する個人・グループ作業や自己啓発作業を取り入れていく。 ・前週に授業内容の予習課題を配布して事前学習をしてもらいます。授業では、当該テーマへの簡単な導入的解説、グループワークと発表、発表内容へのコメント、毎時間のテーマについて基本的事項を解説するという流れで進めていきます。さらに、数回の授業ごとに確認作業を実施し、テスト解説をすることで、学生の理解度を確認していきます。以上の作業を通して、将来、保育者や教師になる者として、人間理解や個性理解への興味関心を高められるようにします。			

科目名	特別の支援を必要とする子ども理解と支援法(保育・教育の方法技術)			CEW001	講義
英文名	Understanding and Supporting Children with Special Needs				
担当教員	千葉 千恵美 五十嵐 一徳				
科目に関連した実務経験	現在の場合:大学内子ども家族支援センターで心理相談員として勤務(千葉)				
学年・開講期	2 年 後期	必修・単位数	必修 2 単位		
講義目標	①通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。 ②個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。■				
到達目標	1.特別の支援を必要とする子どもについて説明できる。 2.特別の支援を必要とする子どもへの教育的対応について説明できる。 3.特別の支援を必要とする子どもに対する支援システムについて説明できる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 70%と毎回のリアクションペーパー30%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	コメントに対して、随時授業内でフィードバックする。				
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する				
1	講義内容	特別の支援を必要とする子ども理解とは			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	特別支援教育の概要とシステム			
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。		1 時間
	1,2	復習	特別支援教育の概要とシステムについて理解する。		1.5 時間
3	講義内容	障害の基礎的知識			
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。		1 時間
	1	復習	障害の基礎的知識について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	知的障害の理解			
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。		1 時間
	1	復習	知的障害について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	発達障害の理解Ⅰ 自閉症スペクトラム障害			
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。		1 時間
	1	復習	自閉症スペクトラム障害について理解する。		1.5 時間
6	講義内容	発達障害の理解Ⅱ ADHD・LD			
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。		1 時間
	1	復習	ADHD・LD について理解する。		1.5 時間
7	講義内容	発達障害の理解Ⅲ 言語障害・情緒障害			

	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1	復習	言語障害・情緒障害について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	運動・感覚面に困難のある幼児児童生徒の理解		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1	復習	運動・感覚面に困難のある幼児児童生徒について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	通常学級における教育的支援		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	2	復習	通常学級における教育的支援について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	特別の支援を必要とする幼児児童生徒への個別的支援 ■		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	2	復習	特別の支援を必要とする幼児児童生徒への個別的支援について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子ども■		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	1	復習	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもについて理解する。	1.5 時間
12	講義内容	幼稚園・保育園における特別な支援を必要とする幼児への支援■		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	2	復習	幼稚園・保育園における特別な支援を必要とする幼児への支援について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	乳幼児期の支援システム■		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	3	復習	乳幼児期の支援システムについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	関係機関との連携■		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	1 時間
	3	復習	関係機関との連携について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	特別の支援を必要とする子どものいる家族支援■		
	該当する到達目標	予習	参考書に目を通す。	0.5 時間
	2,3	復習	特別の支援を必要とする子どものいる家族支援について理解する。	2 時間
備考	・質問はメールでも受け付ける。 ・担当教員情報 千葉 オフィスアワー:月曜日 1 日(確認してから来てください) メール chiba@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 4 階 401 五十嵐 オフィスアワー:木曜日 2 限目、金曜日 2 限目、 メール igarashi-k@takasaki-u.ac.jp, 研究室:8 号館 5 階 506 ・授業期間全体を通じた授業の進め方:配付プリントに基づき視覚機器を用いながら説明をする。毎回感想シートに学んだことを整理して提出する。 ・参考書については授業内で紹介する。 ・予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	子ども理解と援助(保育・教育の方法技術)			CEW112	演習
英文名	Understanding and Supporting Children				
担当教員	内田 祥子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	こども理解は保育のあらゆる営みの基本となるものである。こどもの生活や遊びの実態に即して、こどもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができることを目指す。				
到達目標	1. 幼児理解の意義を理解している 2. 幼児理解から発達及び学びを捉える原理を理解している 3. 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している 4. 観察及び記録の意義並びに目的に応じた観察方法等の基礎的な事柄を例示することができる。 5. 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解している 6. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係及びその他の背景から理解することができる。 7. 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解している。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする				
課題に対するフィードバック	課題にコメントし、返却する				
使用教材	保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 認定こども園教育保育要領解説				
1	講義内容	幼児理解とは			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んでくる		1.5 時間
	1	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
2	講義内容	幼児の発達及び子育て支援に関わる現代的課題			
	該当する到達目標	予習	講義テーマについて考え、自分なりの考えを書いてくる		1.5 時間
	1・2・3	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
3	講義内容	保育における幼児理解の特質			
	該当する到達目標	予習	保育における子ども理解の特質と意義について考え、自分なりの考えを書いてくる		1.5 時間
	1・2・3	復習	授業の内容にかんする小レポート		1.5 時間
4	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法①時系列			
	該当する到達目標	予習	時系列記録の特徴をまとめる		1.5 時間
	1・2・3・4	復習	時系列記録を作成する		1.5 時間
5	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法②個人記録			
	該当する到達目標	予習	個人記録の特徴をまとめる		1.5 時間

	1・2・3・4・5	復習	個人記録を作成する	1.5 時間
6	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法③エピソード記録		
	該当する到達目標	予習	エピソード記録の特徴をまとめる	1.5 時間
	1・2・3・4・5	復習	エピソード記録を作成する	1.5 時間
7	講義内容	幼児理解のための観察・記録方法④環境図記録		
	該当する到達目標	予習	環境図記録の特徴をまとめる	1.5 時間
	1・2・3・4・5	復習	環境図記録を作成する	1.5 時間
8	講義内容	気になる子どもへの対応①登園拒否		
	該当する到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6	復習	授業内容に関する小レポート	1.5 時間
9	講義内容	気になる子どもへの対応②気持ちのコントロールが苦手		
	該当する到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
10	講義内容	気になる子どもの理解と対応③自己表現が苦手		
	該当する到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6・	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
11	講義内容	気になる子どもの理解と対応④集団活動が苦手		
	該当する到達目標	予習	事例をよみ、自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6・	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
12	講義内容	保育におけるカウンセリングマインドの意義		
	該当する到達目標	予習	カウンセリングマインドとはなにか、自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6・7	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
13	講義内容	保護者への対応		
	該当する到達目標	予習	保護者への対応に関して、自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6・7・	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
14	講義内容	保育者・地域との連携		
	該当する到達目標	予習	ビデオカンファレンスの意義について自分なりの考えを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6・7	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
15	講義内容	現代の保育におけるこども理解の課題		
	該当する到達目	予習	講義全体を通じて学んだことを書いてくる	1.5 時間
	1・2・3・4・5・6・7・	復習	授業の内容にかんする小レポート	1.5 時間
備考	内田のオフィシアワーは 月曜日 1・2 限です。(研究室 410) uchida-s@takasaki-u.ac.jp 様々な記録方法や事例検討を通じて、子どもの発達や心情を理解する方法を具体的に示します。			

科目名	造形			CEW113	演習
英文名	Art and Design for Children				
担当教員	石原 綱成				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	実際の制作を通して、教育者・保育者に必要な専門的知識を身につけ、豊かな人間性を育むことができる。さらに、造形表現を通して、豊かなコミュニケーション能力を身につけることができる。。				
到達目標	1.子どもの造形原理を理解できる。 2.保育者に必要な造形への実践力が身につく。 3.保育現場にてすぐに役立つ造形の指導力がつく。 4.保育者に必要な人間力をつけることができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中に行った制作を作品として提出することにより評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回課題を出し、完成させる。 課題の意味や意義は毎回解説する。 制作のアドバイスは丁寧に行う。				
使用教材	教科書は使用せず、逐次制作のプリントを配布する。必要な教材は別途指示する。				
1	講義内容	ガイダンス			
	該当する到達目標 2	予習	シラバスの内容を理解し授業の目標を理解する。		0.5 時間
		復習	授業内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法を確認する。		0.5 時間
2	講義内容	子どもの絵画の原理を学ぶ①(子どもの絵画の造形原理)			
	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。		0.5 時間
		復習	課題を完成させる。		0.5 時間
3	講義内容	子どもの絵画の原理を学ぶ②(対象へのまなざし)			
	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。		0.5 時間
		復習	課題を完成させる。		0.5 時間
4	講義内容	子どもと画材①(クレヨンの特色と使い方を学ぶ)			
	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。		0.5 時間
		復習	課題を完成させる。		0.5 時間
5	講義内容	子どもと画材②(絵の具の特色と使い方を学ぶ)			
	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。		0.5 時間
		復習	課題を完成させる。		0.5 時間
6	講義内容	子どものイメージーションを考える(糸引き版画とデカルコマニー)			
	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。		0.5 時間
		復習	課題を完成させる。		0.5 時間
7	講義内容	画材の安全性の指導を理解する(マーブリングの実践)			

	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
8	講義内容	保育者に必要なデッサン力(キャラクター作りの実践)		
	該当する到達目標 1,2,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
9	講義内容	壁面構成の作成①(保育室にある小物を作る)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
10	講義内容	壁面構成の作成③(夏の壁面構成)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
11	講義内容	壁面構成の作成④(秋の壁面構成)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
12	講義内容	壁面構成の作成⑤(冬の壁面構成)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
13	講義内容	壁面構成の作成⑥(お誕生日の壁面構成)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
14	講義内容	指導案の作成		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
15	講義内容	造形表現と保育者の関わり(提出課題の確認)		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事前に配布した、プリントをよく理解し、制作の手順を理解しておく。	0.5 時間
		復習	課題を完成させる。	0.5 時間
備考	講義ごとに出された課題を実践することにより、演習形式で進める。試験は課題提出とする。 石原オフィスアワー: 月曜日の 3 限、木曜日の 4 限、質問はメールで受け付ける。 メールアドレス ishihara@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 501 年間を通して、制作を中心に授業を進めるが、途中で、制作に関する全体的なアドバイスを。また、画材、文具等を指定することがある。			

科目名	幼児音楽(保育・教育の方法技術)			CEW151	演習
英文名	Music for Children				
担当教員	岡本 拡子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	乳幼児期の子どもの音楽表現について理解し、保育の中で子どもの遊びや音楽活動を豊かに展開するために必要な保育者の音楽表現の知識や演奏技法を習得する。				
到達目標	1. 子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。 2. 基本的な歌唱法や楽器の奏法を習得し、音の出る仕組みについて理解する。 3. 保育内容における音楽表現について理解する。 4. 様々な音楽表現について理解し、豊かな音楽表現力を習得する。 5. 音楽表現に必要な音楽の基礎的知識に関する理解を深める。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	課題への取り組み 20%, 実技試験 40%, 筆記試験 40%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	毎時、授業についての振り返りの時間を設け、課題を明確にし、改善点について助言を行う。				
使用教材	こどものうた 100(チャイルド社), 続こどものうた 200(チャイルド社), はじめての楽譜の読み方(kmp)				
1	講義内容	子どもの発達と音楽表現の基本について理解する。			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスをよく読み、授業内容について理解を深めておく。		1 時間
		復習	子どもの発達と音楽表現の基本について理解を深めておく。		1.5 時間
2	講義内容	幼児の声帯と発声および歌唱表現の発達について理解する。			
	該当する到達目標 1	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。		1 時間
		復習	幼児、児童の歌唱表現の発達について理解を深めておく。		1.5 時間
3	講義内容	基本的な発声法の習得 発声のメカニズム, 姿勢, 呼吸法			
	該当する到達目標 2	予習	自身の歌唱表現についての課題を明確にしておく。		1 時間
		復習	授業で学んだ発声法について繰り返し復習する。		1.5 時間
4	講義内容	保育内容における子どもの音楽表現について理解する。			
	該当する到達目標 3	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。		1 時間
		復習	保育内容における音楽表現について理解を深めておく。		1.5 時間
5	講義内容	歌唱教材① 手遊び歌に関する知識と演奏技法を習得する。			
	該当する到達目標 3, 4	予習	手遊びについて予め下調べをしておく。		1 時間
		復習	授業で学んだ手遊び歌を繰り返しかえし練習する。		1.5 時間
6	講義内容	歌唱教材② 乳幼児の歌唱曲に関する知識と演奏技法を習得する。			
	該当する到達目標 2, 3, 4	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。		1 時間
		復習	授業で学んだ曲を繰り返しかえし練習する。		1.5 時間

7	講義内容	輪唱や合唱など、重なり合う声の響きを楽しむ音楽表現技法を習得する。		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1 時間
	2, 3, 4	復習	授業で学んだ曲を繰り返しかえし練習する。	1.5 時間
8	講義内容	楽器作りと音遊び① 叩いたりこすったりして音を出す楽器の表現技法を習得する。		
	該当する到達目標	予習	楽器作りにかける身近な材料を探しておく。	1 時間
	2, 3, 4	復習	製作した楽器を用いた音楽表現を行う。	1.5 時間
9	講義内容	楽器作りと音遊び② 吹いたり吸ったりして音を出す楽器の表現技法を習得する。		
	該当する到達目標	予習	楽器作りにかける身近な材料を探しておく。	1 時間
	2, 3, 4	復習	製作した楽器を用いた音楽表現を行う。	1.5 時間
10	講義内容	手作り楽器を製作し、音の鳴る仕組みを理解する。		
	該当する到達目標	予習	楽器作りにかける身近な材料を探しておく。	1 時間
	2, 3, 4	復習	手作り楽器を用いたアンサンブルの練習をしておく。	1.5 時間
11	講義内容	器楽合奏 様々な楽器を組み合わせたアンサンブルの演奏技法を習得する。		
	該当する到達目標	予習	様々な楽器の奏法について予め調べておく。	1 時間
	2, 3, 4	復習	課題曲の練習を行う。	1.5 時間
12	講義内容	生活や遊びの中での音楽表現について理解する。		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1 時間
	3, 5	復習	生活や遊びの中でどのような音楽表現を用いているか理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	自然の中にある音に気づき、聴くことへの意識を高め、音の環境について理解する。		
	該当する到達目標	予習	自然の中にある音、音環境について考えておく。	1 時間
	3, 5	復習	授業で学んだことをいかし、日常生活の中での音や自然音を書きだす。	1.5 時間
14	講義内容	子どもの音楽表現を引き出すための音楽的な環境構成について理解する。		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1 時間
	3, 5	復習	音楽的な環境構成について理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	音楽表現に必要な音楽の基礎的知識に関する理解を深める。		
	該当する到達目標	予習	テキストの該当箇所を読み、事前に理解しておく。	1 時間
	3, 5	復習	音楽の基礎的知識について理解を深めておく。	1.5 時間
備考	授業は演習形式で行い、グループワークを中心に進める。 毎時、取り組むテーマに関するプリントを配布し、要点について説明を行った後、グループで課題に取り組む時間を設ける。 オフィスアワーは火曜 3 限、水曜 3 限である。それ以外の時間に課題をみてほしい場合は、メールにて事前予約すること。 okamoto@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 404 研究室 予習・復習は欠かさず行うこと。			

科目名	初等音楽演習Ⅰ（保育・教育の方法技術）				CEW502	演習
英文名	Music Practice for Elementary School Teachers I					
担当教員	吉田 恵子					
科目に関連した実務経験	公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、音楽科主任。音楽を用いた行事運営や学級経営を実践した（経験）。看護学校音楽担当、県内の教育・保育関係の指導者講習講師、子育てサロン音楽担当、地域の音楽活動等を通じて幅広い年齢層に音楽の楽しさを広めている（現在）。					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位			
講義目標	小学校の教員に必要な、様々な楽器の演奏技術及び音楽を通して、実践的技能の習得を目指す。					
到達目標	1.ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能および伴奏法を理解し、習得する。 2.小学校で用いるさまざまな楽器のアンサンブルを習得する。■ 3.児童の活動に応じた移調奏、リズム伴奏、即興演奏等を理解し、習得する。■ 4.各自が選んだ第二楽器の基礎的知識を理解し、演奏技術を習得する。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	実技発表及び検定 50%、筆記試験 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。					
課題に対するフィードバック	実技課題及び実技検定はその都度コメントをする。 実技課題は、必要に応じて、適宜補習を行う。					
使用教材	「音楽基礎Ⅰ、Ⅱ」で用いたテキストは引き続き使用する。その他資料を配布する。第二楽器については、個別にテキストを指定、または資料を配布する。					
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容を理解する。			0.5 時間
		復習	実技課題を復習する。			3 時間
2	講義内容	リズム伴奏:いろいろな奏法■				
	該当する到達目標 1,3	予習	伴奏のリズムパターンを調べる。第二楽器の用意をする。			0.5 時間
		復習	実技課題を復習する。			3 時間
3	講義内容	コード進行 長調				
	該当する到達目標 1,3,4	予習	長調のコード進行について調べる。			0.5 時間
		復習	実技課題を復習する。			3 時間
4	講義内容	コード進行 短調 第1回検定				
	該当する到達目標 1,3,4	予習	短調のコード進行について調べる。			0.5 時間
		復習	実技課題を復習する。			3 時間
5	講義内容	輪唱の作り方■				
	該当する到達目標 1,3,4	予習	輪唱歌を調べる。			0.5 時間
		復習	実技課題を復習する。			3 時間
6	講義内容	旋法を使った創作				
	該当する到達目標 1,3,4	予習	日本の旋法について調べる。			0.5 時間
		復習	実技課題を復習する。			3 時間

7	講義内容	子どもの動きと即興①■		
	該当する到達目標	予習	子どもの動きについて調べる。	0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
8	講義内容	第 2 回検定		
	該当する到達目標	予習	検定の準備をする。	0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
9	講義内容	子どもの動きと即興②■		
	該当する到達目標	予習	子どもの歩き, 走りについて調べる。	0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
10	講義内容	子どもの動きと即興③■		
	該当する到達目標	予習	子どもの動きの特徴について調べる。	0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
11	講義内容	イメージを音にする:効果音を使った展開		
	該当する到達目標	予習	雪の降る音、太陽の音、赤い音、寒い音、等々を考える。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
12	講義内容	イメージを楽譜にする:効果音を使った展開 第 3 回検定		
	該当する到達目標	予習	図形譜について調べる。	0.5 時間
	1,2,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
13	講義内容	いろいろな楽器: 日本の伝統音楽■		
	該当する到達目標	予習	日本の伝統音楽の楽器について調べる。	0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
14	講義内容	まとめと発表準備		
	該当する到達目標	予習	実技発表の準備をする。	0.5 時間
	1,2,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
15	講義内容	児童の音楽活動を支える: 実技発表と相互評価		
	該当する到達目標	予習	実技発表(含第二楽器)の準備をする。	0.5 時間
	1,2,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
備考	オフィスアワー: 月曜1限, 水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方: 一斉指導と個別指導により、毎時習熟度を確認しながら目標に到達できるように進めます。 担当教員メールアドレス: yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 503 研究室 受講のルール: 当該科目の未履修者は、2 年後期「音楽」の履修にあたり、当該科目内容相当の実技・筆記試験を受験し、合格することを条件とします。 ピアノ及び第二楽器の実技課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。 欠席をした場合はレッスン補習を受け、次回の課題を把握してください。 ■: 実務経験に基づく経験を示す。			

科目名		幼児音楽演習Ⅰ（保育・教育の方法技術科目）			CEW501	演習
英文名		Music Practice for Nursery TeachersⅠ				
担当教員		坂田 恭子				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標		保育士、幼稚園教諭および小学校教諭に必要な、音楽に関する知識と実践的な演奏技法を習得する。具体的には、読譜に必要な音楽に関する知識をさらに深めるとともに、弾き歌いや伴奏法の習得をとおして、保育者・教師に必要な音楽的表現力を身につける。				
到達目標		1. 音階、調号、和声、コード等、音楽に関する知識についての理解を深める。 2. 音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏の演奏技法を習得する。 3. 伴奏しながら歌う弾き歌いの際の音楽的表現力を身につける。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		定期試験において、筆記試験 30%、実技試験 30%、毎回の授業課題 40%を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック		毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。				
使用教材		井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー				
1	講義内容		オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表			
	該当する到達目標 1, 2	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。			1 時間
		復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。			1.5 時間
2	講義内容		音楽の知識に関する理解① 音階と調号 ハ長調、ト長調、ニ長調			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。			1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。			1.5 時間
3	講義内容		音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法① 「おかえりのうた」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	「おかえりのうた」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。			1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。			1.5 時間
4	講義内容		音楽の知識に関する理解② 音階と調号 ヘ長調、変ロ長調、イ短調			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。			1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。			1.5 時間
5	講義内容		音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法② 「まっかな秋」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	「まっかな秋」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。			1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。			1.5 時間
6	講義内容		音楽の知識に関する理解③ ハ長調、ト長調、ニ長調の主要三和音、属七和音とコード奏			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を読み、カデンツの練習をしておく。			1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。			1.5 時間

7	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法③「もみじ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「もみじ」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
8	講義内容	音楽の知識に関する理解④ ヘ長調、変ロ長調、イ短調の主要三和音、属七和音とコード奏		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を読み、カデンツの練習をしておく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1.5 時間
9	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法④「ふしぎなポケット」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「ふしぎなポケット」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
10	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑤「ゆき」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「ゆき」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
11	講義内容	音楽に関する知識をいかした歌唱教材の伴奏技法⑥「さんぽ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	「さんぽ」の楽譜を読み、歌唱表現の留意点について考えておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
12	講義内容	弾き歌いにおける音楽的表現力①「おかえりのうた」、「まっかな秋」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
13	講義内容	弾き歌いにおける音楽的表現力②「もみじ」、「ふしぎなポケット」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
14	講義内容	弾き歌いにおける音楽的表現力③「ゆき」、「さんぽ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題を歌いながら弾く練習をしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
15	講義内容	音楽に関する知識をいかした、歌唱教材の弾き歌いにおける音楽的表現力		
	該当する到達目標	予習	すべての課題曲について、音楽的表現を考えながら弾き歌いができるようにしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育者・教師に必要な音楽的表現力とは何かについて理解を深めておく。	1.5 時間
備考	授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。 選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 予習・復習は欠かさず行うこと。 質問等がある場合は授業の前後に応じる。			

科目名	初等音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術）			CEW504	演習
英文名	Music Practice for Elementary School Teachers II				
担当教員	吉田 恵子				
科目に関連した実務経験	公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、音楽科主任。音楽を用いた行事運営や学級経営を実践した（経験）。看護学校音楽担当、県内の教育・保育関係の指導者講習講師、子育てサロン音楽担当、地域の音楽活動等を通じて幅広い年齢層に音楽の楽しさを広めている（現在）。				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 1単位		
講義目標	本授業では、「初等音楽演習Ⅰ」に引き続き、小学校の教員に必要な様々な楽器の演奏技術、および音楽を通しての指導に関する実践的技能の習得をめざす。また、習熟度に応じて弾き歌いを初めとするさまざまな楽器の演奏技法を習得する。				
到達目標	1. 小学校音楽教材から、範唱・範奏、模擬指導ができる。■ 2. 移調奏、即興演奏、コード伴奏等の演奏技法を習得し、演奏できる。■ 3. 「初等音楽演習Ⅰ」に引き続き、第二楽器の技術を習得し、演奏できる。 4. 楽器演奏に伴う、音楽の理論・歴史を理解できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実技発表及び検定 50%、模擬指導 20% 毎回の授業課題 30%を総合する。				
課題に対するフィードバック	実技課題はその都度コメントをする。				
使用教材	「初等音楽演習Ⅰ」で用いたテキストは引き続き使用する。その他資料を配布する。『小学校学習指導要領』（平成 29 年度告示）解説音楽編』文部科学省				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、講義の目標や内容を理解する。		0.5 時間
	1	復習	実技課題を復習する。学習指導要領音楽の目標を読む。		3 時間
2	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲1（バロック）■ 初見奏1			
	該当する到達目標	予習	バロックの作曲家について調べる。		0.5 時間
	1,2,3	復習	実技課題を復習する。学習指導要領音楽の低学年を読む。		3 時間
3	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲2（古典派1）■, 初見奏2			
	該当する到達目標	予習	古典派の作曲家について調べる。		0.5 時間
	1,3, 4	復習	実技課題を復習する。学習指導要領音楽の中学年を読む。		3 時間
4	講義内容	第 1 回検定、教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲3（古典派2）■			
	該当する到達目標	予習	クラシック音楽：古典派の音楽について調べる。		0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。学習指導要領音楽の高学年を読む。		3 時間
5	講義内容	行事と伴奏音楽、教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲4（ロマン派）■			
	該当する到達目標	予習	クラシック音楽：ロマン派の音楽・作曲家について調べる。		0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。新学習指導要領音楽の目標を現行と比較する。		3 時間
6	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲5（印象派）■			
	該当する到達目標	予習	印象派の音楽について調べる。		0.5 時間

	1,3,4	復習	実技課題を復習する。新学習指導要領音楽の内容を現行と比較する。	3 時間
7	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲6(ラテン音楽)■		
	該当する到達目標	予習	ラテンのリズムについて調べる。	0.5 時間
	1,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
8	講義内容	第 2 回検定, メロディ譜の伴奏づけの方法		
	該当する到達目標	予習	和音進行について調べる。	0.5 時間
	2,3	復習	実技課題を復習する。	3 時間
9	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲7(ジャズ・ポップス)■		
	該当する到達目標	予習	カデンツを理解する。ジャズ, ポピュラー音楽を調べる。	0.5 時間
	2,3,4	復習	実技課題を復習する。ジャズ, ポピュラー音楽史を読む。	3 時間
10	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲8(民謡)■, メロディ譜の初見伴奏 ①		
	該当する到達目標	予習	移調の方法を調べる。日本の民謡を調べる。	0.5 時間
	2,3,4	復習	実技課題を復習する。日本の民謡と文化について資料を読む。	3 時間
11	講義内容	教育の活動に生かすさまざまなジャンルの曲9(現代)■, メロディ譜の初見伴奏 ②		
	該当する到達目標	予習	転調の曲を調べる。現代日本の音楽を調べる。	0.5 時間
	2,3,4	復習	実技課題を復習する。日本の大衆音楽の資料を読む。	3 時間
12	講義内容	第 3 回検定, 音楽における西洋の美		
	該当する到達目標	予習	西洋の音の美について調べる。	0.5 時間
	4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
13	講義内容	音楽における日本の美: 日本の伝統音楽		
	該当する到達目標	予習	日本の音の美について調べる。	0.5 時間
	4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
14	講義内容	まとめ: 学校教育における音楽的環境の構成■		
	該当する到達目標	予習	学校の音環境について調べる。	0.5 時間
	4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
15	講義内容	表現を深める: 実技発表と相互評価		
	該当する到達目標	予習	発表準備をする	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	実技課題を復習する。	3 時間
備考	オフィスアワー: 月曜1限, 水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方: 一斉指導・グループ指導・個別指導により、毎時習熟度を確認しながら目標に到達できるように進めます。 担当教員メールアドレス: yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 503 研究室 受講のルール: 実技課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。 欠席をした場合はレッスン補習を受け、次回の課題を把握して授業に臨んでください。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	幼児音楽演習Ⅱ（保育・教育の方法技術科目）			CEW503	演習
英文名	Music Practice for Nursery Teachers Ⅱ				
担当教員	坂田 恭子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	幼児音楽演習Ⅰに引き続き、保育士、幼稚園教諭および小学校教諭に必要な、音楽に関する知識と実践的な演奏技法を習得する。 音楽に関する知識をさらに深め、弾き歌いにおける初見伴奏、移調奏、コード奏、およびリズム遊びなどで用いる即興演奏の技法などを習得する。				
到達目標	1. 音階と調号に関する理解を深め、移調奏についての知識を深める。 2. 子どもの歌の弾き歌いにおける初見伴奏、移調奏、コード奏等の演奏技法を習得する。 3. 即興演奏の技法を習得する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験において、筆記試験 30％、実技試験 30％、毎回の授業課題 40％を総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回小テストを実施し、自己採点時に解説する。 毎回実技発表を行い、個々の課題について説明する。				
使用教材	井戸和秀編「こどものうた 100」チャイルド社 石川良子著「はじめての楽譜の読み方」ケイ・エム・ピー				
1	講義内容	オリエンテーション 音楽基礎知識に関する課題、実技発表			
	該当する到達目標 1, 2	予習	シラバスをよく読み、講義目標、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを理解しておく。		1 時間
		復習	音楽基礎知識や実技発表に関する自己課題を明確にしておく。		1.5 時間
2	講義内容	音楽の知識に関する理解① 各調の関係について			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間
3	講義内容	音楽の知識に関する理解② 移調について			
	該当する到達目標 2	予習	教科書の該当箇所を読み、音階の練習をしておく。		1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。		1.5 時間
4	講義内容	子どもの歌の伴奏法① 移調奏「雪のこぼうず」を教材として			
	該当する到達目標 1	予習	課題曲を練習しておく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間
5	講義内容	子どもの歌の伴奏法② 移調奏「とけいのうた」を教材として			
	該当する到達目標 2	予習	課題曲を練習しておく。		1 時間
		復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。		1.5 時間
6	講義内容	子どもの歌の伴奏法③ 移調奏「かたつむり」を教材として			
	該当する到達目標 1	予習	課題曲を練習しておく。		1 時間
		復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。		1.5 時間

7	講義内容	子どもの歌の伴奏法④ 初見伴奏「もりのくまさん」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題曲の旋律を弾けるようにしておく。	1 時間
	2	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑤ 初見伴奏「おもちゃのチャチャチャ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題曲の旋律を弾けるようにしておく。	1 時間
	1	復習	小テストの自己採点結果を確認しながら、理解を深めておく。	1.5 時間
9	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑥ コード伴奏「せかいじゅうのこどもたちが」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題曲を歌えるようにしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
10	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑦ コード伴奏「カレンダーマーチ」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題曲を歌えるようにしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
11	講義内容	子どもの歌の伴奏法⑧ コード伴奏「ふるさと」を教材として		
	該当する到達目標	予習	課題曲を歌えるようにしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
12	講義内容	即興演奏① 歩く、走る		
	該当する到達目標	予習	歩いたり走ったりすることのできる音楽について調べておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
13	講義内容	即興演奏② スキップ		
	該当する到達目標	予習	スキップすることのできる音楽について調べておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
14	講義内容	即興演奏③ 様々な動き		
	該当する到達目標	予習	様々な動きのできる音楽について調べておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	授業時間内で習得できなかった技法を復習しておく。	1.5 時間
15	講義内容	音楽に関する知識をいかした、歌唱教材の弾き歌いにおける音楽的表現力		
	該当する到達目標	予習	すべての課題曲について、音楽的表現を考えながら弾き歌いができるようにしておく。	1 時間
	1, 2, 3	復習	保育者・教師に必要な音楽的表現力とは何かについて理解を深めておく。	1.5 時間
備考	授業は演習形式で実施する。音楽の基礎知識の習得については、テキストを使用して説明した後、毎回小テストを実施する。また基礎技能の習得については、個別の指導を行った後、毎回発表を行う時間を設ける。 選択科目ではあるが、音楽の基礎知識に不安のある学生、音楽初学者は履修することが望ましい。 予習・復習は欠かさず行うこと。 質問等がある場合は授業の前後に応じる。			

科目名	在宅保育論(保育・教育の方法技術)				CEW505	講義
英文名	Home Childcare Theory					
担当教員	富田 純喜					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	「居宅訪問型保育・家庭訪問保育」とは、保育所などの施設ではなく、乳幼児の生活の基盤である個々の家庭で行う保育のことである。同じ保育の名が付いているものの、それらは施設での保育とは異なる知識や技能が必要となる。本講義では、近年の子育て支援事業の展開を踏まえ、家庭訪問保育者(ベビーシッター)として不可欠な知識や技能を体系的に学んでいく。					
到達目標	1. 居宅訪問型保育・家庭訪問保育の歴史や制度、役割、現状について説明できる。 2. 施設における保育との違いについて説明できる。 3. 居宅訪問型保育・家庭訪問保育で必要とされる知識・技能を習得し、実践できる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	定期試験(40%)、小テスト(30%)、授業内課題(20%)、授業参画度(10%)					
課題に対するフィードバック	各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。					
使用教材	公益社団法人全国保育サービス協会(2017)『家庭訪問保育の理論と実際』中央法規出版。					
1	講義内容	家庭訪問保育の体系と保育マインド				
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「序章 1・2」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。			1.5 時間
		復習	わが国の保育政策と家庭訪問保育の体系、保育マインドについて理解する。			1.5 時間
2	講義内容	居宅訪問型保育の概要				
	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト「第 1 章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。			1.5 時間
		復習	居宅訪問型保育の歴史や実態、有効性と課題について理解する。			1.5 時間
3	講義内容	乳幼児の生活と遊び・発達と心理				
	該当する到達目標 2,3	予習	テキスト「第 2・3 章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。			1.5 時間
		復習	乳幼児期の子どもの発達および子どもにとっての生活、遊びについて理解する。			1.5 時間
4	講義内容	乳幼児の食事と栄養				
	該当する到達目標 2,3	予習	テキスト「第 4 章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。			1.5 時間
		復習	授乳・離乳、栄養、アレルギーおよび乳幼児期の食育について理解する。			1.5 時間
5	講義内容	小児保健(心肺蘇生法を含む)				
	該当する到達目標 2,3	予習	テキスト「第 5・6 章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。			1.5 時間
		復習	子どもに多い病気や事故とその対応について理解する。			1.5 時間
6	講義内容	居宅訪問型保育の保育内容				
	該当する到達目標 2,3	予習	テキスト「第 7 章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。			1.5 時間
		復習	居宅訪問型保育の特徴を踏まえ、保育ニーズや配慮事項について理解する。			1.5 時間

7	講義内容	居宅訪問型保育における環境整備		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第8章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	保育における環境とその整備、安全の確保について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	居宅訪問型保育の運営		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第9章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	居宅訪問型保育の業務の流れ、マナーについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	安全の確保とリスクマネジメント		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第10章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	事故の予防や緊急時の対応、リスクマネジメント、賠償責任について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第11章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,2	復習	職業倫理や自己管理、評価、地域や行政との関係について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	居宅訪問型保育における保護者への対応		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第12章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	保護者支援の必要性と保護者への対応について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	子ども虐待		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第13章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	子ども虐待の定義や実態、対応について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	特別に配慮を要する子どもへの対応		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第14章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	特別に配慮を要する子どもの行動特徴と対応について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	保育技術(お世話・遊び)		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第15・16章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	2,3	復習	居宅訪問型保育に必要な保育技術を習得する。	1.5 時間
15	講義内容	さまざまな家庭訪問保育と業務の流れ		
	該当する到達目標	予習	テキスト「第17・18章」を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	一般型家庭訪問保育の事業形態や業務について理解する。	1.5 時間
備考	授業は、主に講義形式でテーマの概要の説明を中心に進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。 オフィスアワー: 火曜 4 限、水曜 2 限(8 号館 4 階 406 研究室) メールアドレス: tomita-t@takasaki-u.ac.jp			

科目名	子ども家庭支援論(保育・教育の方法技術)			CEW152	演習
英文名	Child Family Support theory				
担当教員	千葉 千恵美				
科目に関連した実務経験	過去の場合: 保育士として市立保育所に勤務経験 現在の場合: 大学内子ども家族支援センターで保育士、心理相談員として勤務				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭の支援体制、多様なニーズに応じた支援の展開と関連機関との連携について理解し学ぶ				
到達目標	1.家庭の意義と機能や役割や子育て家庭への支援、子育て施策について理解する事が出来る。■ 2.家族支援の必要性や保育場面で対応する子育て支援方法を考え、応用的に活動する事が出来る。■ 3.地域社会の変化と様々な課題をもつ家庭支援の事例検討や支援の必要性を理解する事が出来る。■ 4.具体的な支援方法として他機関連携の必要性や保育現場ができる役割機能を理解する事が出来る。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業前の予習、授業の積極的参加、授業後の感想シート 20%、試験を総合的に評価する 80%				
課題に対するフィードバック	授業終了後は、課題整理し感想シート内容のコメントは授業を通じて行う。試験は課題をコメントする				
使用教材	白幡久美子編集「保育士をめざす人の家庭支援」(株)みらい 2016				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	家庭支援にむけた内容を事前に序論 p13-p25 を調べ予習する		1.5 時間
	1	復習	家庭支援の必要性について、オリエンテーションから得た事項の復習をする		1.5 時間
2	講義内容	家庭の意義と機能について■			
	該当する到達目標	予習	家庭機能意義について内容を事前に第 1 章 p26-p38 を調べ予習する		1.5 時間
	1	復習	家族や家庭機能の役割と社会問題と関連づけて内容を復習する		1.5 時間
3	講義内容	家族が抱える子育ての悩みについて■			
	該当する到達目標	予習	家庭が抱える子育ての悩みと関連して事前に p39-p59 を調べ予習する		1.5 時間
	1,2	復習	家庭の悩みと解決にむけた対応を整理し必要事項を復習する		1.5 時間
4	講義内容	子育て家庭と地域の関係について■			
	該当する到達目標	予習	家庭や家族社会環境の変化について第 3 章 p57-p70 を事前に調べ予習する		1.5 時間
	2,3	復習	家庭支援や課題を整理し必要事項について復習する		1.5 時間
5	講義内容	保育所と他の専門機関との連携について■			
	該当する到達目標	予習	保育所と他機関連携について第 4 章 p71-p86 を事前に調べ予習する		1.5 時間
	3,4	復習	家族背景や状況や事項、また他機関連携について必要性を復習する		1.5 時間
6	講義内容	施設での家庭支援の考え方について			
	該当する到達目標	予習	児童福祉施設について家族支援の視点第 5 章 p87-p100 を調べ予習する		1.5 時間
	2,3,4	復習	児童福祉施設と家庭支援の取り組みについて必要性を復習する		1.5 時間
7	講義内容	保育所による家庭支援の実際について■			

	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	保育所による家庭支援の実際を第7章 p120-p126 を事前に調べ予習する	1.5 時間
			復習	保育所の役割や家庭支援の状況について復習する	1.5 時間
8	講義内容	各家庭に対する支援の実際について			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	子育て家庭の姿や状況について第8章 p143-p158 を事前に調べ予習する	1.5 時間
			復習	具体的な子育て支援にむけた社会資源の必要内容を復習する	1.5 時間
9	講義内容	特別な配慮を要する家庭への支援の実際について 1ー現状について知るー			
	該当する到達目標	2,3,4	予習	児童虐待についての対応 第9章を事前に読み予習する	1.5 時間
			復習	児童虐待の現状について実際の状況を整理し復習する	1.5 時間
10	講義内容	特別な配慮を要する家庭への支援の実際について 2ー事例検討するー			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	児童虐待についての対応 第9章を事前に読み予習する	1.5 時間
			復習	児童虐待についての事例検討を通じて得られた必要事項を復習する	1.5 時間
11	講義内容	子育て支援サービスとその課題■			
	該当する到達目標	2,3,4	予習	障害をもつ子どもと親支援への対応 p178-p181 を読み予習する	1.5 時間
			復習	障害をもつ子どもと親支援の具体的な対応課題の復習をする	1.5 時間
12	講義内容	地域の子育て家庭にむけた支援の必要性■			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	地域子育て支援を必要とする子育て相談 p126-p141 を読み予習する	1.5 時間
			復習	地域子育て支援のニーズと対象家庭にむけた課題内容を復習する	1.5 時間
13	講義内容	家庭支援の基本としての相談支援 要保護児童と家庭にむけた支援ー			
	該当する到達目標	2,3,4	予習	家庭支援の必要性について第6章 p101-p119 を事前に読み予習する	1.5 時間
			復習	要保護児童家庭支援の課題と事例検討を行い、問題整理を復習する	1.5 時間
14	講義内容	子育て支援施策と次世代育成支援の施策にむけた推進			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	子育て支援内容や制度について事前に p143-p154 を読み予習する	1.5 時間
			復習	次世代育成と今後の子ども・子育て支援施策内容を復習する	1.5 時間
15	講義内容	総合まとめ 家庭支援の内容について総合的なまとめを行う			
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	授業を通じて家庭支援について学んだ内容を事前に予習する	1.5 時間
			復習	家庭支援の授業を通じて得られたことを振り返り必要事項を復習する	1.5 時間
備考	授業の進め方: 家族に必要な事例検討を行い、グループワークを行う中で問題解決にむけて各自まとめ整理を行い、感想シートに整理する オフィスアワー火曜日 4, 5 限目 chiba@takasaki-u.ac.jp KEY WORD 家庭支援 子育て支援 親支援 (■:実務経験に基づく内容を示す。)				

科目名	親子遊び論(保育・教育の方法技術)			CEW114	講義
英文名	Parent and Child Relationships through Play Activities				
担当教員	今井 麻美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	親子関係を多角的な視点から捉えうることを学び、理解を深めることを通して、保育者として親子を援助するための視野を広げる。				
到達目標	1.現代の親子関係の在り方や遊びを多角的な視点から理解することができる 2.保育とのかかわりから親子関係や遊びを理解し、家庭生活とのつながりをもった保育内容を構想することができる				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(60%), 毎回の授業時に提出する小レポート 40%				
課題に対するフィードバック	毎回、授業の前半に、提出されたレポートに対するコメントや解説を行う。 課題の意義について説明する。				
使用教材	菅野幸恵(2012)『あたりまえの親子関係に気づくエピソード 65』新曜社. 1900 円。 その他の資料については適宜配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション:授業の概要と進め方			
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する	1.5 時間	
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する	1.5 時間	
2	講義内容	親子関係を捉えるものの見方(1) 発達心理学の知見から			
	該当する到達目標 1,2	予習	「親子」に関する既習の内容を振り返る	1.5 時間	
		復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	1.5 時間	
3	講義内容	親子関係を捉えるものの見方(2) 社会学の知見から			
	該当する到達目標 1,2	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間	
		復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	1.5 時間	
4	講義内容	親子関係を捉えるものの見方(3) 歴史的な視点から			
	該当する到達目標 1,2	予習	文献資料の指定箇所を読む	1.5 時間	
		復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	1.5 時間	
5	講義内容	親子の遊びの観察(1) どのような遊びがなされているのか			
	該当する到達目標 1,2	予習	自分が子どもだった頃家庭でどのような遊びをしたのか振り返ってくる	1.5 時間	
		復習	記録をまとめる	1.5 時間	
6	講義内容	親子の遊びの観察(2) 父親と母親とでは遊び方や遊ぶ内容は違うのか			
	該当する到達目標 1,2	予習	父親との遊び、母親との遊び、自分が持っているそれぞれの遊びに対するイメージを整理してくる	1.5 時間	
		復習	記録をまとめる	1.5 時間	

7	講義内容	親子の遊びの観察③ 保育現場で展開される遊びと違うのか		
	該当する到達目標	予習	保育現場で展開される遊びと親子での遊びの違いについて考えてくる	1.5 時間
	1,2	復習	自分なりに気づいた点をノートにまとめる	1.5 時間
8	講義内容	親子の遊びを 5 領域の視点から捉える		
	該当する到達目標	予習	保育内容 5 領域を振り返ってくる	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	1.5 時間
9	講義内容	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性		
	該当する到達目標	予習	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性について、既習の内容を振り返る	1.5 時間
	1,2	復習	授業内容を振り返りノートに整理し、復習する	1.5 時間
10	講義内容	家庭生活とつながりを持った保育内容を展開するための指導案 (1) 教材研究		
	該当する到達目標	予習	指導案を立てる活動を考えてくる	1.5 時間
	1,2	復習	自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 時間
11	講義内容	家庭生活とつながりを持った保育内容を展開するための指導案 (2) グループディスカッション		
	該当する到達目標	予習	教材研究を踏まえた指導案を考えてくる	1.5 時間
	1,2	復習	グループディスカッションを踏まえて、指導案を修正する	1.5 時間
12	講義内容	模擬保育を振り返る(1) グループディスカッション		
	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備をしてくる	1.5 時間
	1,2	復習	自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 時間
13	講義内容	模擬保育を振り返る(2) グループディスカッションの内容を発表し、クラス全体でディスカッション		
	該当する到達目標	予習	グループディスカッションを踏まえて、指導案の改善点を考えてくる	1.5 時間
	1,2	復習	家庭生活とのつながりを持った保育内容が展開される必要性について、理解を深める	1.5 時間
14	講義内容	保育者として親子関係や遊びを援助する方法や配慮事項		
	該当する到達目標	予習	保育者として親子での遊びに対して、どのように援助できるのか考える	1.5 時間
	1,2	復習	保育者として親子での遊びに対する援助方法を自分なりに深める	1.5 時間
15	講義内容	親子関係の在り方や遊びに対する自分自身の「ものの見方」の変化		
	該当する到達目標	予習	これまでの授業内容と自分自身の気づきを振り返る	1.5 時間
	1,2	復習	親子関係を多角的な視点から捉えうることが保育実践にどのように活きるのか自分なりに考える	1.5 時間
備考	指定した教科書以外にも、関係する文献を読む機会を多く取りながら授業を進めます。 そのため、授業で扱う資料を必ず読んだ上で、授業に参加することを求めます。また、授業内容を自分なりに噛み砕いて、自分なりの意見を持とうとする姿勢を求めます。 オフィスアワー:火曜 3 限, 金曜 2 限 メールアドレス: imai-a@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 504			

科目名	教育課程論 A(保育・教育の方法技術)			CEW201	講義
英文名	School Curriculum A				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小・中学校教育における教育課程の意義や編成の方法について、学習指導要領総則編の読解や教育課程(教育内容)の変遷を知ることを通して理解すると共に、学校の実情を踏まえた、現代的な教育的課題に対応するカリキュラム・マネジメントの重要性について理解する。				
到達目標	1.教育課程とは何かについて具体的に理解し、設問等に解答し、記述することができる。 2.教育課程が不易な教育的内容の定着を図るためにあるのと同時に、社会からのニーズによって編成されていることを知り、変遷の過程を説明する事ができる。 3.教育課程編成の主体である学校組織について理解を深め教育実習に向けての視点を明確にできる。■ 4.カリキュラム・マネジメントについての認識を深め、説明することができる。■ 5.教育課程編成に重要な意味を持つ、道徳教育等を理解することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験50% 授業後の小レポート(20%) 日常の提出物や授業内プレゼンテーション(30%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体については評価の明記並びに評価コメント。プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	文部科学省小学校学習指導要領解説総則編(購入のこと各 130 円程度) 幼稚園教育要領 生徒指導提要 学校要覧(プリントして配付) その他講義に必要なプリントを随時配付する。				
1	講義内容	小・中学校学習指導要領と幼稚園教育要領			
	該当する到達目標 1.2	予習	学習指導要領解説総則編(小)及び幼稚園教育要領に目を通し、講義目標をつかむ。		1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。		1 時間
2	講義内容	教育課程の意義と基本原理及びその変遷			
	該当する到達目標 1.2	予習	学習指導要領の資料「学習指導要領の改訂の経過」に目を通す。		1 時間
		復習	社会的ニーズと教育課程の関連について、自分の考えを説明できる。		1.5 時間
3	講義内容	教育課程の具体としての学校要覧Ⅰ(学校教育目標・学校経営案)■			
	該当する到達目標 1.3	予習	貸与資料「学校要覧」の上記関係箇所目を通す。		1 時間
		復習	教育課程を規定する関係法規や社会的ニーズと学校経営について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	教育課程の具体としての学校要覧Ⅱ(授業時数・日課表・校務分掌)■			
	該当する到達目標 1.3	予習	貸与資料「学校要覧」の上記関係箇所目を通す。		1 時間
		復習	教育課程を具現化するために機能する学校体制を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	教育課程の具体としての学校要覧Ⅲ(全体計画・年間計画と学校組織)■			
	該当する到達目標	予習	貸与資料「学校要覧」の上記関係箇所目を通す。		1 時間

	1.3	復習	教育課程を具現化するために機能する学校組織を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	カリキュラム・マネジメントⅠ(学校教育全体で取り組むカリキュラム・マネジメント)		
	該当する到達目標	予習	事前配資料に目を通しておく。	1 時間
	2.4	復習	カリキュラム・マネジメントとは何かについて理解する。	1.5 時間
7	講義内容	カリキュラム・マネジメントⅡ(2校のカリキュラム・マネジメント実践・評価を比較検討)		
	該当する到達目標	予習	事前配資料に目を通しておく。	1 時間
	2.4	復習	2校における校長のマネジメントの把握を通して、学校組織の活動について理解する。	2 時間
8	講義内容	学習評価の現状と課題(学習評価演習を含む)		
	該当する到達目標	予習	事前配資料に目を通しておくとともに、自身のこれまでの評価に対する経験について想起し、ノートにまとめておく。	1 時間
	3	復習	学習評価演習の課題をまとめ、学習評価の課題を検討する。	1.5 時間
9	講義内容	道徳教育		
	該当する到達目標	予習	文部科学省小学校学習指導要領解説道徳編に目を通す。	0.5 時間
	5	復習	道徳教育の歴史的経緯を踏まえ、道徳教育の目的と課題について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	特別支援教育と生徒指導(アセスメントからプランニングへ)		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説総則編並びに道徳編の障がいがある児童生徒の指導に係る章及び生徒指導提要に目を通す。	1 時間
	1.2.3.4	復習	特別支援教育実施に必要なカリキュラム・マネジメントについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	教科・領域を横断する生活科・総合的な学習とキャリア教育		
	該当する到達目標	予習	自分の小中学校時代の総合的な学習の時間の経験を想起し、ノートにまとめる。	1 時間
	5	復習	生活・総合的な学習の時間の意義と、授業づくりの方法について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校実態に沿った現代的課題に向けての教育課程Ⅰ(保幼小連携・福祉教育・情報教育)		
	該当する到達目標	予習	文部科学省ホームページの福祉・情報教育等に係る項目に目を通す。	1 時間
	5	復習	現代的課題に対応する教育の意義について理解する。	1 時間
13	講義内容	学校実態に沿った現代的課題に向けての教育課程Ⅱ(防災安全教育・命の教育)		
	該当する到達目標	予習	文部科学省ホームページの防災・命の教育等に係る項目に目を通す。	1 時間
	5	復習	現代的課題に対応する教育の意義について理解する。	1 時間
14	講義内容	総合的な視点から教育課程及び指導計画の改善を目指すカリキュラム評価と授業研究■		
	該当する到達目標	予習	文部科学省ホームページの学校評価に係る項目に目を通す。	1 時間
	1.4	復習	学校における授業研究の意義について理解する。	1 時間
15	講義内容	「社会に開かれた教育課程」創造に向けて		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領論点整理に目を通す。	1 時間
	1.2.3.4	復習	ノートをまとめ、「社会に開かれた教育課程」やアクティブラーニング・道徳教育・外国語活動等について理解する。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを具現化する。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp			

予習・復習については、試験前の学習で補完すること。

※PowerPoint 及び Excel・Word を使用できる環境を準備しておく。

(■:実務経験に基づく内容を示す。)

科目名	カリキュラム論(保育・教育の方法技術)			CEW115	講義
英文名	Curriculum Theory				
担当教員	富田 純喜				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	保育は意図的に実践を展開すべきものであり、教育課程や保育課程、計画や評価なしには成立しない。また、それらは所与のものではなく、長い歴史のなかで構想、構築されてきた。本講義では、保育の基本的な考え方を踏まえたカリキュラムの編成や計画、評価に関して理解を深める。				
到達目標	1.保育におけるカリキュラムの意義を説明できる。 2.カリキュラムの変遷を説明できる。 3.計画・評価のために必要な視点について説明できる。 4.上記の学習を基盤に、計画の作成および評価ができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(70%)、小テスト・小レポート(20%)、授業参画度(10%)				
課題に対するフィードバック	各課題の出題の意図等は、その都度、授業内で説明する。				
使用教材	必要に応じて資料を配布する。 〔参考書〕幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
1	講義内容	カリキュラムとはなにか			
	該当する到達目標 1	予習	カリキュラムの意味を調べ整理する。	1.5 時間	
		復習	カリキュラムの意味と機能について理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	制度としてのカリキュラム			
	該当する到達目標 1,2	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間	
		復習	カリキュラムを制度的側面から理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	カリキュラムの諸要素			
	該当する到達目標 1,3	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間	
		復習	カリキュラムの要素と作用について理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	カリキュラムの変遷① 保育制度と保育計画			
	該当する到達目標 1,2	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間	
		復習	制度と計画の歴史からカリキュラムの変遷を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	カリキュラムの変遷② 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習す	1.5 時間	

	1,2		る。	
		復習	幼稚園教育要領などからカリキュラムの変遷を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	教育課程・保育課程の意味とその必要性		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3	復習	保育実践との関連から教育課程・保育課程の意味と必要性を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	教育課程・保育課程の編成		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	教育課程・保育課程編成の手順および留意点について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	カリキュラムのデザイン		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3	復習	保育実践における計画の意味と機能について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	教育課程・保育課程から指導計画へ① 長期指導計画		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	長期指導計画の意味と作成手順および留意点について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	教育課程・保育課程から指導計画へ② 短期指導計画		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	3,4	復習	短期指導計画の意味と作成手順および留意点について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	カリキュラム・マネジメントのあり方① 意義とカリキュラム評価の方法		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	保育実践における評価の種類や意義、計画との関連について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	カリキュラム・マネジメントのあり方② 省察と記録		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	保育実践における省察と記録の意義、方法について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	要録の構成と記載内容		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	要録の意味と構成、記載内容について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	子どもの評価とその方法		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,3,4	復習	ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価など評価の種類と方法を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	現代社会と保育カリキュラム		
	該当する到達目標	予習	前回の授業で配布した資料を読み、わからない言葉を調べるなどして予習する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	現代社会における保育カリキュラムのあり方について整理する。	1.5 時間

備考	授業は、主に講義形式でテーマの概要の説明を中心に進めるが、ワークやグループディスカッションを随時取り入れる。なお、授業内で扱える内容は限られているため、紹介する参考文献などを使って理解を深めること。 オフィスアワー: 火曜 4 限、水曜 2 限(8 号館 4 階 406 研究室) メールアドレス: tomita-t@takasaki-u.ac.jp

科目名	幼児教育の方法と技術(保育・教育の方法技術)				CEW116	講義
英文名	Teaching Methods and Skills of Early Childhood Education and Care					
担当教員	内田 祥子					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位			
講義目標	幼児教育の基本を理解し、実際の指導に生かすための専門性を高める					
到達目標	1.幼児教育における活動と評価の特性について理解し説明することができる。 2.教材研究の重要性を理解し実践することができる。 3.こどもの実態に即して適切な指導計画をたてることができる。 4. ICT を活用した実践例を学び、自分の指導計画に取り入れることができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業の取り組み 30% 期末試験 70% ※評価方法は初回にアナウンスする					
課題に対するフィードバック	課題にコメントし、返却する					
使用教材	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育保育要領解説					
1	講義内容	幼児教育における方法と技術①主体的・対話的で深い学び				
	該当する到達目標	予習	主体的・対話的で深い学びの特徴をまとめる			1.5 時間
	1	復習	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる			1.5 時間
2	講義内容	幼児教育における方法と技術②育みたい資質能力と幼児理解に基づいた評価				
	該当する到達目標	予習	幼児教育における評価の特徴をまとめる			1.5 時間
	1	復習	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる			1.5 時間
3	講義内容	幼児教育における方法と技術③ICT を活用した幼児教育の意義				
	該当する到達目標	予習	幼児理解における視聴覚資料の意義をまとめる			1.5 時間
	4	復習	幼児教育における ICT 活用事例を調べる			1.5 時間
4	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開①ー1 制作活動における子ども				
	該当する到達目標	予習	制作活動における保育事例を読んでくる			1.5 時間
	1・2	復習	制作活動における子どもへの留意事項を考える			1.5 時間
5	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開①ー2 グループでの話し合い(ICT の活用事例も含む)				
	該当する到達目標	予習	制作活動における子どもへの留意点を踏まえた指導内容を考える			1.5 時間
	1・2	復習	グループワークでの学びをまとめる			1.5 時間
6	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開②ー1 ルール遊びにおける子ども				
	該当する到達目標	予習	ルール遊びにおける保育事例を読んでくる			1.5 時間
	1・2	復習	ルール遊びにおける子どもへの留意事項を考える			1.5 時間
7	講義内容	子どもの姿に即した活動の展開②ー2 グループでの話しあい(ICT の活用事例も含む)				
	該当する到達目標	予習	ルール遊びにおける子どもへの留意点を踏まえた指導内容を考える			1.5 時間

	1・2	復習	グループワークでの学びをまとめる	1.5 時間
8	講義内容	教材研究の意義		
	該当する到達目標	予習	教材研究の意義を考える	1.5 時間
	1・2	復習	教材研究の意義をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	教材研究①ー1 制作に関する題材		
	該当する到達目標	予習	題材の特性や面白さ、学びの可能性について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート作成	1.5 時間
10	講義内容	教材研究①ー2 活動の流れと評価のポイントを考える		
	該当する到達目標	予習	教材ワークシート作成	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート修正	1.5 時間
11	講義内容	教材研究②ー1 ルール遊びに関する題材		
	該当する到達目標	予習	題材の特性や面白さ、学びの可能性について考える	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート作成	1.5 時間
12	講義内容	教材研究②ー2 活動の流れと評価のポイントを考える		
	該当する到達目標	予習	教材ワークシート作成	1.5 時間
	1・2・3	復習	教材ワークシート修正	1.5 時間
13	講義内容	部分指導案作成		
	該当する到達目標	予習	題材をきめる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	指導案作成	1.5 時間
14	講義内容	全日指導案作成		
	該当する到達目標	予習	題材を決める	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	指導案作成	1.5 時間
15	講義内容	まとめ: 子どもの視点から指導計画をたてるということ		
	該当する到達目標	予習	幼稚園教育要領解説の該当ページを読んでくる	1.5 時間
	1・2・3・4	復習	本実習に向けての課題を明確にする	1.5 時間
備考	オフィスアワーは、月曜日の 1・2 限です。(研究室 410)uchida-s@takasaki-u.ac.jp 授業は教員が作成した資料に基づき、適宜グループワークも取り入れながら講義形式で行います。			

科目名	初等特別活動論(保育・教育の方法技術)				CEW202	講義
英文名	Special Activities in Elementary School					
担当教員	栗原 幸正					
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位			
講義目標	教育基本法が示すとおり、教育の目標は人格の完成である。そのためには知識や技術の習得のみならず、社会集団の中でよりよい人間関係を生み出す自己研鑽が不可欠である。本講義では、児童生徒の社会性を育む特別活動の実際について知ると共に、活動に潜む課題について検討し、教員としての実践力を高めることを目標とする。					
到達目標	1.特別活動の意義について理解し、説明することができる。 2.特別活動の具体的活動について知り、その課題を具体的事例を通して考え、対応策を検討する力を習得することができる。■ 3.特別活動に係る課題について知り、教員としての実践力を高める事ができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	定期試験(小論文を含む)60% 日常の提出物(小論文ト)(20%) 課題レポート(20%)					
課題に対するフィードバック	定期試験については評価の明記並びに評価コメント。 小論文・課題レポート等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。					
使用教材	小学校学習指導要領解説特別活動編(141 円) 討議に必要な資料(別途配付) 学校要覧(別途貸与)					
1	講義内容	特別活動の意義とその概要				
	該当する到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、概要をつかんでおく。			1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。また、特別活動の概要を理解する。			1 時間
2	講義内容	学級活動Ⅰ(学級組織と運営、席替え、お楽しみ会、PTA 連携)■				
	該当する到達目標 2.3	予習	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学級活動の概略を把握する。			1 時間
		復習	効果的な学級経営のための具体的方法を理解し、ノートにまとめる事ができる。			1 時間
3	講義内容	学級活動Ⅱ(清掃指導、給食指導、学校図書館)■				
	該当する到達目標 2.3	予習	小学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学級活動の概略を把握する。			1 時間
		復習	清掃指導の計画立案を通して、学級活動における教員の重要性を理解する。			1 時間
4	講義内容	児童会活動(代表委員会、委員会活動)■				
	該当する到達目標 2.3	予習	配付資料に目を通しておく。			1 時間
		復習	児童会活動の持つ意義や課題について自分の考えを説明することができる。			2 時間

5	講義内容	クラブ活動と教育的効果■		
	該当する到達目標 2.3	予習	経験した小学校におけるクラブ活動について、その内容と教育的効果についてノートにまとめておく。	1 時間
		復習	クラブ活動の意義について理解する。	2 時間
6	講義内容	学校行事 I (儀式的行事・文化的行事とカリキュラムマネジメント)■		
	該当する到達目標 2.3	予習	貸与資料の学校要覧に目を通し、学校における行事の位置づけを把握しておく。	1 時間
		復習	儀式的行事の持つ課題について自分の考えを説明することができる。	1 時間
7	講義内容	学校行事 II (健康安全体育的行事・遠足集団宿泊的行事とカリキュラムマネジメント)■		
	該当する到達目標 2.3	予習	貸与資料の学校要覧に目を通し、学校における行事の位置づけを把握しておく。	1 時間
		復習	学校コンプライアンスについての自分の考えをまとめることができる。	1 時間
8	講義内容	「社会に開かれた教育課程」と特別活動		
	該当する到達目標 1.3	予習	事前配付プリントに目を通しておく。	1 時間
		復習	新学習指導要領に基づく特別活動について、その改定経緯も含めノートにまとめる。	1 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:学習指導要領及び実務経験に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議・演習を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを具現化する。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint を使用できる環境を準備しておく。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	初等教育方法論(保育・教育の方法技術)			CEW203	講義
英文名	Educational Methods in Elementary School				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位		
講義目標	教育方法論の対象領域は、児童の発達段階等の心理学的視点から教育の歴史、教科・特別活動の内容と広範である。その全てに精通することは教員としての資質形成にとって重要であるが、講義としてではなく教員の実践知として形成されるものとする。そこで、本講義では、次世代を作る児童の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を習得するため、小学校教員として学校現場に出る際に必要と思われる重要トピック(学級崩壊・多様な教育観・授業技術・教科書・授業研究等)をセレクトし、具体的事例に則して知識や技術を習得する。				
到達目標	1.教育の質の向上に向けて、教育方法学的重要性を理解する事ができる。 2.多様な教育観を理解し、資質・能力の育成に効果的な授業構成論を取得する。 3.学習指導要領の具現化に向けての教育技術を習得し、授業づくりをする方法論を理解する。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(小論文を含む)50% 授業後の小レポート(10%) 課題レポート(20%) 成果物(20%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体については評価の明記並びに評価コメント。プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	教育の方法(佐藤学 放送大学叢書 本体 1, 524 円) 小学校学習指導要領解説 総則編 講義 内容に応じて関係資料を配付				
1	講義内容	学級崩壊と教育方法(学級崩壊と教育方法の関連について)			
	該当する到達目標 1	予習	自分の小中学校時代の経験に即し、学級崩壊について想起する。	1 時間	
		復習	学級崩壊の要因としての教員の教育方法について理解し、自分自身の教員的資質について考察する事ができる。	1 時間	
2	講義内容	教育方法の変遷(ギリシャ哲学から、ヘルバルト、デューイ、ビゴツキーへ)			
	該当する到達目標 2	予習	教科書「教育の方法」に目を通し、これまでの教育方法学の変遷を教育学者の取り組みを通して把握しておく。	1 時間	
		復習	教育方法学の変遷を知り、現代の教育における教育方法の多様性を理解する。	2 時間	
3	講義内容	示範授業と授業研究協議(社会科授業実践「浮魚と底魚」を元にして)■			
	該当する到達目標 3	予習	小学校学習指導要領解説 総則編の授業づくりに係る箇所に目を通しておく。	1 時間	
		復習	師範授業で得た教育方法について、ノートにまとめる。	1 時間	
4	講義内容	単元学習と授業分析(理科「粒論」を元にした電気の授業」の授業分析を通して)■			
	該当する到達目標	予習	電気に係る学習について、小学校・中学校・高等学校の内容を想起しておく。	1 時間	

	3	復習	単元学習について、必要な教育方法について、講義内容をまとめる。	1時間
5	講義内容	教科書と授業づくり（無償給与教科書とデジタル教科書）		
	該当する到達目標	予習	小・中・高において、教科書をどう活用してきたかを想起しておく。	1時間
	2	復習	日本の教科書給与のシステムを海外諸国の実情と比較しながら整理し、ノートにまとめておく。	1時間
6	講義内容	授業づくりの方法①（年間計画・単元計画）		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説 総則編の年間計画に係る箇所を目を通しておく。	0.5時間
	2.3	復習	年間計画と単元計画の関連性について理解する。	1.5時間
7	講義内容	授業づくりの方法②（教材研究と学習指導案・学習評価）		
	該当する到達目標	予習	教科書の関連する箇所を目を通すと共に、小学校学習指導要領解説 総則編の学習指導案及び教育評価に係る箇所を目を通しておく。	1時間
	2.3	復習	学習指導案と学習評価の関連についてノートにまとめる。	1時間
8	講義内容	授業と情報機器		
	該当する到達目標	予習	パワーポイントを用いて、学級における自己紹介プレゼン資料を作っておく。	1時間
	1.3	復習	授業において効果的に情報機器を用いる留意点をまとめる。	1時間
備考	オフィスアワー：水曜日 2 限・金曜日 2 限 質問等はメールで常時受けつける。 授業期間全体を通じた授業の進め方：教科書に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての研究協議・演習を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを具現化する。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス：kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 研究室：9 号館 3 階 305 号室 パワーポイントを利用できる環境を準備しておくこと。 （■：実務経験に基づく内容を示す。）			

科目名		中等特別活動論(保育・教育の方法技術)			CEW204	講義
英文名		Special Activities in Junior High School				
担当教員		栗原 幸正				
科目に関連した実務経験		・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)				
学年・開講期		3 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標		学校教育全体を通して実施する特別活動の意義と内容を理解し、具体的な実践事例を通して、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や方法を身に付ける事ができると共に、思春期における課題について検討し、教員としての実践力を高めることを目標とする。				
到達目標		1.特別活動の意義について理解し、説明することができる。 2.特別活動の具体的活動について知り、その課題を具体的事例を通して考え、対応策を検討する力を習得することができる。■ 3.特別活動に係る思春期における特性について理解する事ができる。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		定期試験(60%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(20%)				
課題に対するフィードバック		紙媒体については評価の明記並びに評価コメント。プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材		中学校学習指導要領解説特別活動編(256 円) 中学校学校要覧(別途貸与)				
1	講義内容	特別活動の意義と内容				
	該当する到達目標 1.3	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、概要をつかんでおく。			1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法等を確認する。また、特別活動の概要を理解する。			1 時間
2	講義内容	思春期とは				
	該当する到達目標 3	予習	学習指導要領に記述された「思春期」に関する内容に目を通しておく。			1 時間
		復習	思春期の特性について理解し、自分の身の回りに存在した思春期に係る事例をレポートとしてまとめる。			1 時間
3	講義内容	学級活動Ⅰ(学級組織と運営、席替え、PTA 連携)■				
	該当する到達目標 1.2	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。			1 時間
		復習	効果的な学級経営のための具体的方法を理解し、ノートにまとめる事ができる。			1 時間
4	講義内容	学級活動Ⅱ(清掃指導、給食指導、学校図書館)■				
	該当する到達目標 1.2	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。			1 時間
		復習	効果的な学級経営のための具体的方法を理解し、ノートにまとめる事ができる。			1 時間
5	講義内容	進路指導の内容				
	該当する到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。			1 時間

	1.2.3	復習	中学校における進路指導について理解する。	2 時間
6	講義内容	生徒会活動・部活動の現状と課題		
	該当する到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編の関連箇所に目を通しておく。また、部活を巡る課題について、新聞等から情報を集める。	1 時間
	1.2.3	復習	生徒会の活動や部活についてのメリットとデメリットをノートにまとめる。	1 時間
7	講義内容	学校行事Ⅰ（儀式的行事・文化的行事）		
	該当する到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学校行事Ⅰに係る概略を把握する。	0,5 時間
	1.2	復習	儀式的行事の持つ課題について自分の考えを説明することができる。	1 時間
8	講義内容	学校行事Ⅱ（健康安全体育的行事・旅行集団宿泊的行事）		
	該当する到達目標	予習	中学校学習指導要領解説特別活動編に目を通し、学校行事Ⅱに係る概略を把握する。	1 時間
	1.2.	復習	スクールコンプライアンスについての自分の考えをまとめることができる。	1 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:学習指導要領に沿った講義を中心としつつ、関連した項目についての協議を組み合わせ、アクティブ・ラーニングを具現化する。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint を使用できる環境を準備しておく。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	中等教育方法論(保育・教育の方法技術)			CEW205	講義
英文名	Educational Methods in Junior High School				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	次世代を作る生徒の資質・能力を育成するために必要な教育観・教育方法・教育技術についての基礎的な知識・技能を習得する。				
到達目標	1. 多様な教育観について理解し、中学における教育方法学の現状と課題について理解できる。 2.授業の在り方の重要性並びに方法について理解し、学校現場で主体的に授業研究に参画することができる素養を習得する。 3.授業づくりの方法について、学習指導要領の示す具体的方策に沿って習得する事ができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(50%) 授業後の小レポート(20%) 課題レポート(20%) 成果物(10%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体については評価点の明記並びに評価コメント。 プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	教育方法学(佐藤学著 岩波テキストブックス本体 2,000 円)				
1	講義内容	学習観の変遷(教育方法の歴史的意義)			
	該当する到達目標	予習	テキスト p7～p32 に目を通し、教育の概要をつかんでおく。		1 時間
	1	復習	教育観の変遷の流れをノートにまとめる。		1 時間
2	講義内容	中学校における教育方法の現状と課題			
	該当する到達目標	予習	自身の中学校時代の授業を想起し、授業方法の課題をノートにまとめておく。		1 時間
	1.2	復習	中学校における教育方法学の課題について講義内容を元に理解しておく。		1 時間
3	講義内容	教育方法の実際①(中学校数学科の授業ビデオを元にした授業研究)			
	該当する到達目標	予習	テキスト p33～p62 に目を通しておく。		1 時間
	2.3	復習	理系授業と授業研究についてその特徴をノートにまとめる。		1 時間
4	講義内容	教育方法の実際②(中学校公民の授業ビデオを元にした授業研究)			
	該当する到達目標	予習	テキスト p33～p62 に目を通しておく。		1 時間
	2.3	復習	文系授業と授業研究についてその特徴をノートにまとめる。		1 時間
5	講義内容	中学校におけるアクティブラーニングの可能性			
	該当する到達目標	予習	テキストの関連箇所(学び会い・ふかい学び等)に目を通しておく。		1 時間
	3	復習	中学校においてアクティブラーニングを実践するための手立てをまとめる。		1 時間
6	講義内容	中学校における授業づくりの方法①(学年計画・教科計画・評価計画)■			
	該当する到達目標	予習	模擬授業に向けて、実践したい授業内容を検討しておく。		1 時間

	2.3	復習	講義内容を元にして、具体的な授業づくりのための教育方法を考える。	1,5 時間
7	講義内容	中学校における授業づくりの方法②（教材研究と学習指導案・学習評価作業）■		
	該当する到達目標	予習	模擬授業実践に向けて、授業に必要な教材等を準備しておく。	1 時間
	2.3	復習	講義内で検討された授業の質を上げるために、準備や練習をしておく。	2 時間
8	講義内容	情報機器を用いた授業構成（パソコンを用いた授業づくり演習）		
	2.3	予習	パソコン用いた模擬授業をグループで完成させておく。	1 時間
		復習	模擬授業で気づかされた教育方法について、ノートにまとめる。	1 時間
備考	オフィスアワー：水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室：9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方：初等教育方法論を基盤としたよりアカデミックな講義内容を目指し、教科書や配付資料に沿った講義を中心とする。関連した項目については協議・演習を行い、アクティブ・ラーニングを具現化する。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス：kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint を使用できる環境を準備しておく。 （■：実務経験に基づく内容を示す。）			

科目名		国語科指導法(保育・教育の方法技術)			CEW206	講義
英文名		Teaching Methods in Japanese Language				
担当教員		武井 英昭				
科目に関連した実務経験		中学校国語科教員として勤務(経験)				
学年・開講期		3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標		小学校の国語教師としての基礎的な知識・技能を確かなものとする。 (学習指導要領についての基本的な理解を踏まえ、具体的な教材を使用して教材研究・学習目標・学習活動・学習評価等を検討し、学習指導案を作成し、模擬授業を行う実践的な活動を通して。)				
到達目標		1.「国語」についての理解を深める。 2.教科「国語科」(小学校学習指導要領解説 国語編)を基本的に理解する。 3.国語科教員の基礎・基本的な指導力を身につける。■ 4.想定する子どもの理解や具体的な教材を通して実践的な国語科教員の指導力を身につける。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
			多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		作成した学習指導案(40%)、模擬授業の状況・相互評価(20%)及び、授業ごとの課題の取り組み(40%)を、総合して評価する。				
課題に対するフィードバック		毎時間、課題を提示する。その際に出題意図と採点基準について解説する。必要な解説を加えた上で返却する。指導案の場合は全て添削して返却する。				
使用教材		小学校学習指導要領解説「国語」編。毎回配布する教材プリント、模擬授業時に配布される学習指導案、教科書(小4、光村図書・教育出版共に上巻)				
1	講義内容	ガイダンス(自己紹介、学習上の留意点)				
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説「国語」編、教科書を準備し概要をつかむ。			2 時間
	1,2	復習	小学校で「国語」を授業することの意義を確認し学修の全体像を理解する。			1 時間
2	講義内容	国語教師の指導力 その1 求められる教師の資質・能力				
	該当する到達目標	予習	優れた教師の条件、教師に求められる資質・能力について考えをまとめる。			1.5 時間
	2,3	復習	求められる教師の資質・能力をまとめ、自分の現在での課題を明確にする			2 時間
3	講義内容	国語教師の指導力 その2 求められる国語教師の力				
	該当する到達目標	予習	「国語」とは何かについて考えをまとめる。			1.5 時間
	1,2,3	復習	子どもにつけるべき国語の力を理解し、そのために必要な国語教師としての力の概要をつかむ。			2 時間
4	講義内容	子ども主体の授業づくりの学習指導構想 その1 学習指導案と学習者の実態について				
	該当する到達目標	予習	学習指導案の形式を理解しておく。なぜ指導案が必要なのか考える。			1.5 時間
	3	復習	学習目標・学習者の実態・学習活動・評価について一体的に構想すること理解する。			1.5 時間
5	講義内容	子ども主体の授業づくりの学習指導構想 その2 学習活動は手立てである				
	該当する到達目標	予習	子どもの小学校 3 年生までの学習経験を概括する。学習活動を具体的に取り出せるだけ取り出してみる。			1.5 時間
3						

		復習	子どもの学習経験を踏まえた学習活動を構想できる。	1.5 時間
6	講義内容	子ども主体の授業づくりの学習指導構想 その3 子どもの学習活動と教師の支援・指導		
	該当する到達目標	予習	子どもが主体的に学習活動に取り組むにはどうしたらいいかを考える。	1.5 時間
	3	復習	子どもの学習活動と教師の支援・指導について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	学習指導要領の指導事項と学習活動・学習評価、〔知識及び技能〕の取り扱いを含む、情報機器の活用について		
	該当する到達目標	予習	小4の国語の指導事項について学習指導要領を読み理解する。	1.5 時間
	2,3	復習	小4の国語科の指導計画・評価計画を概括的に作成する。	3 時間
8	講義内容	話すこと・聞くことの目標・指導・評価及び説明文教材の目標・指導・評価、録音録画機器の活用法について、コンピュータでの調べる活動の指導について		
	該当する到達目標	予習	指定の教材を読み、学習指導を構想する。	1.5 時間
	3,4	復習	話すこと・聞くことに関する教材、説明文教材における学習指導の基本をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	文学的文章教材の目標・指導・評価、筆者調査等におけるコンピュータの活用		
	該当する到達目標	予習	指定の文学的文章教材を読み、学習指導を構想する。	1.5 時間
	3,4	復習	文学的文章教材の学習指導の基本をまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	書くことの学習指導（書写を含む）における目標・指導・評価、漢字変換、作文・構成等のコンピュータの活用法について		
	該当する到達目標	予習	指定の作文教材を読み、コンピュータを活用した学習指導を構想する。	1.5 時間
	3,4	復習	作文教材の学習指導の基本をまとめる。	1.5 時間
11	講義内容	模擬授業 その1 以下模擬授業は、与えられた教材から選択し学習指導案を作成し模擬授業を行う。情報機器の活用を含む。■		
	該当する到達目標	予習	選択した教材の学習指導案を作成し、実際の授業を構想する。	4.5 時間
	3,4	復習	批評や指導を踏まえ指導案を改善する。	3 時間
12	講義内容	模擬授業 その2 以下模擬授業は、与えられた教材から選択し学習指導案を作成し模擬授業を行う。情報機器の活用を含む。■		
	該当する到達目標	予習	選択した教材の学習指導案を作成し、実際の授業を構想する。	4.5 時間
	3,4	復習	批評や指導を踏まえ指導案を改善する。	3 時間
13	講義内容	模擬授業 その3 以下模擬授業は、与えられた教材から選択し学習指導案を作成し模擬授業を行う。情報機器の活用を含む。■		
	該当する到達目標	予習	選択した教材の学習指導案を作成し、実際の授業を構想する。	4.5 時間
	3,4	復習	批評や指導を踏まえ指導案を改善する。	3 時間
14	講義内容	アクティブ・ラーニング並びに国語科とカリキュラム・マネジメント		
	該当する到達目標	予習	アクティブ・ラーニングについて、また国語科の役割について調べる・考える。	1.5 時間
	3,4	復習	学び手は子どもであること、国語科はすべての教科の元であることを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	学修の全体を振り返り、国語科教師の実践的で基礎的基本的な指導力をまとめる。	2 時間
	3,4	復習	講義2の課題が解決できたか、また新たな課題を明確にできたか、その自己課題解決に向けてどう学修を重ねるかを明らかにする。	1.5 時間
備	オフィスアワー：月曜2限 研究室：8号館 407 研究室			

考	メールアドレス:h-takei@takasaki-u.ac.jp 講義形式の授業も行うが、全体としてアクティブラーニングとする。 小学校学習指導要領解説国語編、小学校4年生の国語(光村図書・教育出版)を準備のこと。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	社会科指導法(保育・教育の内容)			CEW207	講義
英文名	Teaching Methods in Social Studies				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験)				
学年・開講期	3 年 前期	必修・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	社会科における学習指導要領に基づく授業づくりについて、社会科で目指すべき資質・能力を理解した上で、具体的事例や具体的活動を通して、各学問と関連づけながら多面的に考える事ができる。また同時に、社会科に係る技術や方法を習得することで、社会科の授業実践をする事ができる。				
到達目標	1.学習指導要領に基づく社会科における資質・能力の育成について理解する事ができる。 2.授業づくりに不可欠な、教材研究、授業技術、取り組み手法を習得し、実践することができる。 3.社会科の授業づくりに係る課題について知り、課題克服に向けて考える事ができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(40%) 授業後の小レポート(10%) 授業内で作製した成果物(20%) 模擬授業と発表(30%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体(授業感想・成果物等)については評価の明記並びに評価コメント。プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	小学校学習指導要領解説社会編(142 円) 新社会科授業づくりハンドブック(全国社会科教育学会編 2260 円＋税 明治図書)				
1	講義内容	社会科教育の現状と課題			
	該当する到達目標 1.3	予習	小学校学習指導要領解説社会編 p10～p19 並びに新社会科授業づくりハンドブック第 1 章に目を通しておく。		1 時間
		復習	社会科教育の目標と、現状についてノートにまとめる。		1 時間
2	講義内容	社会科授業の実際Ⅰ(4 年地域学習・栗原実践「海物語」を通して)■			
	該当する到達目標 1.3	予習	事前配布資料に目を通し、実践内容の概要をつかんでおく。		1 時間
		復習	実践内容の概略と意義についての自分の考えをまとめる。		1 時間
3	講義内容	社会科授業の実際Ⅱ(授業の画一化と社会科の授業について)			
	該当する到達目標 2.3	予習	社会科教育と教育の「画一化」について、自分の意見をまとめる。		1 時間
		復習	社会科における授業の画一化のメリットとデメリットについて理解する。		1 時間
4	講義内容	社会科授業の実際Ⅲ(社会科における防災教育①:中澤実践を通して)			
	該当する到達目標 1.2,3	予習	新社会科授業づくりハンドブック p204～p213 に目を通しておく。		1 時間
		復習	中澤実践の概要をノートにまとめ、講義中のセッションを踏まえて、実践の成果と課題について検討する。		1 時間
5	講義内容	社会科授業の実際Ⅳ(社会科における防災教育②:山井実践を通して)			
	該当する到達目標	予習	新社会科授業づくりハンドブック p214～p223 に目を通しておく。		1 時間

	1.2.3	復習	山井実践の概要をノートにまとめ、講義中のセッションを踏まえて、実践の成果と課題について検討する。	2 時間
6	講義内容	社会科授業の実際Ⅴ(高学年国土学習:栗原実践単元「日本・世界名産品調べ」)■		
	該当する到達目標	予習	事前配付資料に目を通して、授業の概略を掴む。	1 時間
	1.2.3	復習	社会科の授業づくりに不可欠な教材研究及び保護者連携の重要性を理解する。	2 時間
7	講義内容	社会科授業の実際Ⅵ(5年産業学習:栗原実践「ハンバーガーショップを作ろう」①)■		
	該当する到達目標	予習	事前配付資料に目を通して、授業の概略を掴む。	1 時間
	1.2.3	復習	5年社会科の授業づくりに不可欠な教材研究の重要性を理解する。	2 時間
8	講義内容	社会科授業の実際Ⅶ(6年キャリア教育:栗原実践「ハンバーガーショップを作ろう」②)■		
	該当する到達目標	予習	事前配付資料に目を通して、授業の概略を掴む。	1 時間
	1.2.3	復習	6年社会科の授業づくりに不可欠な多方面からの教材研究の重要性を理解する。	2 時間
9	講義内容	社会科と教育方法・学習評価		
	該当する到達目標	予習	前講義をふり返し、授業づくりの概略を把握し、実践の意義を検討する。	2 時間
	2	復習	社会科の授業づくりに必要な、直接体験や外部支援と、柔軟な授業構造の重要性について理解する。また、社会科授業の評価についても理解する。	1 時間
10	講義内容	教科書と学習指導案		
	該当する到達目標	予習	自分自身の社会科の教科書の使用経験についての想起し、ノートにまとめる。	1 時間
	2	復習	社会科における教科書の意義と、その効果的な使用について、デジタル教科書も含めて理解する。また、教科書と学習指導要領との関係性も理解する。	1 時間
11	講義内容	社会科教育における授業づくりⅢ(実践研究:「ハンバーガーショップを作ろう」発展編)■		
	該当する到達目標	予習	前講義をふり返し、児童や保護者が授業づくりにのめり込んでいった理由を考察する。	1 時間
	1.2.	復習	社会科の授業づくりを通して、社会的なものの見方が育成されると同時に、学級経営も授業を通してできることを理解する。	2 時間
12	講義内容	模擬授業①(模擬授業の構想と授業づくり)		
	2	予習	事前提示のあったテーマに沿って、授業化する領域・内容を検討しておく。	1 時間
		復習	授業づくりに取り組むための教材や方法に係る準備をする。	1 時間
13	講義内容	模擬授業②(模擬授業の実際と授業評価)		
	該当する到達目標	予習	授業づくりに向けての各自のアイデアをノートにまとめておく。	1 時間
	2	復習	模擬授業実施に向けて、チームで方法・役割分担を決める。	1 時間
14	講義内容	模擬授業③(模擬授業の実際と授業評価)		
	該当する到達目標	予習	模擬授業の方法についてチームで検討する。	1 時間
	2	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1 時間
15	講義内容	社会科における授業研究(レッスンスタディ)の方法		
	該当する到達目標	予習	模擬授業の方法についてチームで検討する。	1 時間
	1.2.3	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	2 時間
備	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室			

考	授業期間全体を通じた授業の進め方:社会科の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint 及び Excel・Word を使用できる環境を準備しておく。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)

科目名	算数科指導法(保育・教育の方法技術)			CEW208	講義
英文名	Teaching Methods in Elementary Mathematics				
担当教員	小泉 健輔				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小学校算数科の目標および4領域の内容について、数学的立場および教育的立場から考察することにより、理解を深められるようにする。また、算数科の授業を行う上での実践的な指導力の基礎を養うことができるようにする。				
到達目標	1.小学校算数科の目標および4領域の内容について理解することができる。 2.小学校算数科の内容の系統と、その教育的な意味について理解することができる。 3.小学校算数科における具体的な指導を構想・計画し、評価することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業での取り組み(活動及び授業内課題 40%)、提出物の充実度(レポート及び期末レポート 60%)により総合的に評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	授業での活動と課題については、毎時間評価をする。 レポート・期末レポートは添削し、コメントを付けて返却する。				
使用教材	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 算数編』 それ以外は、必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	算数教育の目的について			
	該当する到達目標 1	予習	算数科の学習指導要領に目を通す。		1 時間
		復習	学習指導要領における教科の目標について、講義内容と関連付けて考える。		1.5 時間
2	講義内容	算数科の目標と学習内容の系統について			
	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「内容の構成」に目を通す。		1 時間
		復習	学習指導要領の記述について、講義内容と関連付けて考える。		1.5 時間
3	講義内容	算数教育の今日的な課題について			
	該当する到達目標 1,2	予習	全国学力・学習状況調査などの大規模調査についての基本的な情報を知る。		0.5 時間
		復習	今日的課題について、講義内容と関連付けて自分なりにまとめる。		2 時間
4	講義内容	「数と計算」領域について (1)数の拡張			
	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「A 数と計算」領域に目を通す。		0.5 時間
		復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。		2 時間
5	講義内容	「数と計算」領域について (2)たし算・ひき算			
	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「A 数と計算」領域における、加法・減法に関連する記述に目を通す。		0.5 時間
		復習	加法・減法の内容の系統と具体的な授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。		2 時間
6	講義内容	「数と計算」領域について (3)かけ算・わり算			

	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「A 数と計算」領域における、乗法・除法に関連する記述に目を通す。	0.5 時間
		復習	乗法・除法の内容の系統と具体的な授業づくりについて、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
7	講義内容		「図形」領域について	
	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「B 図形」領域について目を通す。	0.5 時間
		復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
8	講義内容		「測定」及び「変化と関係」領域について	
	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「C 測定」及び「C 変化と関係」領域について目を通す。	0.5 時間
		復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
9	講義内容		「データの活用」領域について	
	該当する到達目標 1,2	予習	学習指導要領解説の「D データの活用」領域について目を通す。	0.5 時間
		復習	学習指導要領における内容の系統について、講義内容と関連付けて考える。	2 時間
10	講義内容		数学的な見方・考え方について (1)統合的・発展的に考える	
	該当する到達目標 1,2	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
		復習	統合的・発展的に考える視点からある教材を選び、分析する。	2 時間
11	講義内容		数学的な見方・考え方について (2)数学的モデル化	
	該当する到達目標 1,2	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
		復習	数学的モデル化の視点からある教材を選び、分析する。	2 時間
12	講義内容		算数科の授業づくりについて (1)理論と方法	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	授業づくりに関わることについて、他の講義で学んだことを振り返る。	1.5 時間
		復習	専門用語の意味を理解し、まとめる。	1 時間
13	講義内容		算数科の授業づくりについて (2)学習指導計画の作成	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
		復習	実際の授業を分析した結果についてまとめる。	2 時間
14	講義内容		算数科の授業づくりについて (3)授業研究	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	前回の終わりに配布された資料に目を通す。	0.5 時間
		復習	講義内容を踏まえて、学習指導案を作成する。	2 時間
15	講義内容		算数科の授業づくりについて (4)授業研究の振り返りとまとめ	
	該当する到達目標 1,2,3	予習	これまでの講義内容をふり返り、期末レポートの作成に備える。	0.5 時間
		復習	指定された期末レポートの作成に取り組む。	2 時間
備考	授業期間全体を通じた授業の進め方:本授業では、小学校算数科の指導法に関する理論とそれに基づく実践のあり方をテーマとして取り扱う。上記の到達目標を達成するために、全15回の授業について、算数教育の総論的な内容(第1回～第3回)、算数教育の各論的な内容とその発展(第4回～第11回)、算数科授業の実際(第12回～第15回)の大きく3つに分けることにより具体化し、各々の側面から考察を深めることで、算数科の授業を行う教師としての資質・能力を総合的に高められるようにする。 オフィスアワーがないため、授業時間外の質問はメールにて受け付ける(メールアドレスは授業時に連絡)。予習・復習については、適宜レポートや期末レポートの作成により補完すること。			

科目名	理科指導法(保育・教育の方法技術)			CEW209	講義
英文名	Teaching Methods in Science				
担当教員	片山 豪				
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小学校理科の授業における指導法を学習指導要領の内容を理解する。また, 小学校理科の授業を行うにあたって計画, 準備ができるとともに, 学習指導案の書き方を習得する。				
到達目標	1.小学校理科の授業における指導法を学習指導要領の内容を理解することができる。 2.小学校理科の授業の計画, 準備ができる。 3.詳細な学習指導案が書くことができる。■ 4.学習指導要領の理科の目的に伴った理科授業が行うことができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	学習指導要領の解説のための資料(プレゼン資料, 小テスト)作成 10%, 学習指導案 20%, 小テスト 10%, 考査 50%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 10%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	学習指導案に関して修正すべき点を示し, 再度提出していただく。 小テストを返却する。				
使用教材	小学校学習指導要領解説理科編, 評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料, 小学校理科教科書, 自作プリント等				
1	講義内容	オリエンテーション, 学習指導要領について			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編の総説, 小学校理科の目標を読んでおく。		1.5 時間
	1,2,3,	復習	講義の方針を確認するとともに, 学習指導要領の内容を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	学習指導案の書き方, 評価規準について			
	該当する到達目標	予習	評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料。		1.5 時間
	1,2,3,	復習	評価規準を理解し, 学習指導案の構成を再度確認する。		1.5 時間
3	講義内容	学習指導要領の総説, 理科の目標及び内容について			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。		1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	現場教師による指導の実際(授業の組み立て方と学習指導案の書き方)			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料を読んでおく。		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	講義内容を復習して授業の組み立て方と学習指導案の書き方を理解する。		1.5 時間
5	講義内容	第3学年 A 物質・エネルギーの内容について■			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。		1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。		1.5 時間
6	講義内容	第3学年 B 生命・地球の内容について■			
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。		1.5 時間

	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
7	講義内容	第4学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
8	講義内容	第4学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
9	講義内容	第5学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
10	講義内容	第5学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
11	講義内容	第6学年 A 物質・エネルギーの内容について■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
12	講義内容	第6学年 B 生命・地球の内容について■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3	復習	学習指導要領の内容を理解する。この単元に関わる学習指導案を見直す。	1.5 時間
13	講義内容	指導計画の作成と内容の取扱い他について		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	学習指導要領の内容を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業を振り返り, 良い点, 改善点をまとめておく。模擬授業の学習指導案を見直す。	1.5 時間
15	講義内容	模擬授業 B 生命・地球の内容■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領, 小学校理科教科書を読んでおく。担当する学習指導案を書く。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	模擬授業を振り返り, 良い点, 改善点をまとめておく。模擬授業の学習指導案を見直す。	1.5 時間
備考	各講義の前半は, 学習指導要領に関する講義や学生の発表を行い, 後半は学生が作成した学習指導案についての検討会を行う。 オフィスアワー: 火曜日 3 限, 金曜 1 限 メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	生活科指導法(保育・教育の内容)			CEW210	講義
英文名	Teaching Methods in Living Environment Studies				
担当教員	栗原 幸正				
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験) ・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	生活科における学習指導要領に基づく授業づくりについて、生活科で目指すべき資質・能力を理解した上で、具体的事例や具体的活動を通して、各学問と関連づけながら多面的に考える事ができる。また同時に、生活科に係る技術や方法を習得することで、生活科の授業実践をする事ができる。				
到達目標	1.児童生徒や学校の実態に即した、学習指導要領の主旨に沿った、生活科の理論を習得する事ができる。 2.生活科に係る、授業技術や教材研究の手法を習得する。 3.生活科に係る授業づくりを行い、模擬授業を行うことができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(40%) 授業後の小レポート(20%)課題レポート(20%) 成果物(20%)				
課題に対するフィードバック	紙媒体(授業感想・成果物等)については評価の明記並びに評価コメント。 プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。				
使用教材	生活科教科書(光村図書 上 871 円) 【小学校学習指導要領解説生活編(134 円) 生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—(学術図書出版 2000 円+税)については 2 年次で購入済み。編入等の学生は自分で注文して要購入。				
1	講義内容	生活科の意義と目標			
	該当する到達目標 1	予習	生活科の意義と目標	2 時間	
		復習	目標と意義について、事例をもとにノートにまとめる。	1 時間	
2	講義内容	生活科の内容構成			
	該当する到達目標 1.2	予習	小学校学習指導要領解説生活編及び生活科教育改訂新版—21 世紀のための教育創造—の p9～p20 に目を通しておく。	1 時間	
		復習	生活科の内容構成について理解し、ノートにまとめる。	1 時間	
3	講義内容	単元としての生活科(栗原実践「基地づくり」を通して)			
	該当する到達目標 1.2.	予習	事前配付資料に目を通す。	1 時間	
		復習	生活科単元の広がり、単元構成について理解する。	1 時間	
4	講義内容	生活科の実際①学内探検(学校に係る領域)			
	該当する到達目標 1.2	予習	学習指導要領並びに教科書を読み、実践の概要をつかむ。	1 時間	
		復習	学内探検について、生活科としての留意点を理解する。	2 時間	
5	講義内容	生活科の実際②情報機器を用いた学区探検発表会(生活科の評価)			
	該当する到達目標	予習	自然観察の準備をすると共に、写真が撮れる機材をそろえておく。	1 時間	

	1.2	復習	見つけた夏を、所定の書式で発表用の資料としてまとめ提出する。	2 時間
6	講義内容	生活科の実際③おもちゃを作ろう(遊びに係る領域)		
	該当する到達目標	予習	事前に指示された遊び道具づくりに必要な材料を準備する。	1 時間
	1.2.	復習	作成した遊び道具を写真に撮り、振り返りを記述して提出する。	1 時間
7	講義内容	生活科の実際④情報機器を効果的に活用したおもちゃ鑑賞会(生活科の評価)		
	該当する到達目標	予習	製作したおもちゃの製作意図及び工夫を発表できるようにする。	2 時間
	1.2	復習	生活科における作品の鑑賞についての留意点を理解する。	1 時間
8	講義内容	生活科の実際⑤自分コラージュ製作(自分に係る領域)		
	該当する到達目標	予習	コラージュ製作に必要な写真や新聞、文字等を準備しておく。	1 時間
	1.2	復習	コラージュの主旨がわかりやすくなるよう作品の完成度をあげる。	1 時間
9	講義内容	生活科の実際⑥実物投影機を効果的に使って自分コラージュ発表会(表現技術と評価)		
	該当する到達目標	予習	作成コラージュの制作意図が他者に伝わるような説明ができるようにしておく。	1 時間
	1.2	復習	発表を聞き、生活科の評価の留意点をノートにまとめる。	1 時間
10	講義内容	生活科における教育方法と教材研究		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領と教科書の金田実践に目を通しておく。	1 時間
	2.3	復習	授業づくりに必要な教育方法をノートにまとめる。	1 時間
11	講義内容	生活科における教科書と学習指導案		
	該当する到達目標	予習	生活科の教科書に目を通しておく。	1 時間
	2.3	復習	教科書の用い方の留意点をまとめるとともに、生活科の学習指導案の作り方を復習しておく。	2 時間
12	講義内容	模擬授業実施に向けた情報機器活用の視点を入れた授業構想検討と教材研究・授業準備		
	該当する到達目標	予習	授業づくりに向けての各自のアイデアをノートにまとめておく。	1 時間
	2.3	復習	模擬授業実施に向けて、チームで方法・役割分担を決める。	1 時間
13	講義内容	模擬授業発表と授業研究①■		
	該当する到達目標	予習	模擬授業に向けての各自の分担に基づき教材研究を行う。	1 時間
	3	復習	模擬授業実施に向けて、授業の質を高める。	1 時間
14	講義内容	模擬授業発表と授業研究②■		
	該当する到達目標	予習	模擬授業の質を高めると共に、授業研究の視点を明確にする。	1 時間
	3	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点についてノートにまとめる。	1 時間
15	講義内容	模擬授業発表と授業研究③■		
	該当する到達目標	予習	模擬授業の質を高めると共に、授業研究の視点を明確にする。	1 時間
	3	復習	模擬授業の発表・参観を通して得た、方法や留意点について理解する。	2 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:生活科の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint 及び Excel・Word を使用できる環境を準備しておく。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	家庭科指導法(保育・教育の方法技術)			CEW211	講義
英文名	Teaching Methods in Home Economics				
担当教員	内田 幸子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小学校家庭科の目標及び内容を理解し、授業をつくるために必要な知識と授業構成力を身につけることができる。学習指導案が作成でき、模擬授業を行うことができる。				
到達目標	1.小学校家庭科で学ぶ学習内容について知識を得る 2.衣生活、食生活、家庭生活、消費生活の実践的な学びを深めることができる 3.家庭科の学習内容を学ぶための指導を考えることができる 4.グループワークを通じて他を尊重して自己表現できる 5.授業の中で児童の考えを引き出すことができる				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業実践 30%、提出された指導案 70%により評価する 総合評価 60%以上を合格とする				
課題に対するフィードバック	指導案は評価して返却する				
使用教材	教科書「小学校学習指導要領解説」(文部科学省)ISBN978-4-491-02374-8 プリント 参考図書 「はじめての家庭科指導」櫻井順子著(開隆堂)ISBN978-4-304-02076-6 「家庭科の基本」流田直著(学研)ISBN978-4-05-405222-2				
	講義内容	ガイダンス グループ分け			
1	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する		1 時間
	1, 4	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する		1.5 時間
	講義内容	小学校家庭科の目標と内容			
2	該当する到達目標	予習	教科書と学習指導要領解説に目を通す		1 時間
	1, 2	復習	小学校家庭科の目標と内容を理解する		1.5 時間
	講義内容	さまざまな指導法 教材研究(衣生活)			
3	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す		1 時間
	1, 2, 3	復習	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる		1.5 時間
	講義内容	さまざまな指導法 教材研究(食生活)			
4	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す		1 時間
	1, 2, 3	復習	グループワークでグループ毎にまとめ、授業をつくる視点を広げる		1.5 時間
	講義内容	ビデオによる授業観察			
5	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す		1 時間
	1, 2, 3	復習	次週までに各自観察記録を作成する		1.5 時間

6	講義内容	家庭科の評価について		
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1 時間
	1, 2, 3	復習	家庭科の評価について理解する	1.5 時間
7	講義内容	単元と学習指導案について		
	該当する到達目標	予習	前回配布したプリントに目を通す	1 時間
	1, 2, 3	復習	各単元と学習指導案について理解する	1.5 時間
8	講義内容	学習指導案の書き方		
	該当する到達目標	予習	前回配布した指導案作成用プリントに目を通す	1 時間
	1, 2, 3	復習	学習指導案を作成する	1.5 時間
9	講義内容	学習指導案の作成Ⅰ（食生活）		
	該当する到達目標	予習	前回配布した指導案作成用プリントに目を通す	1 時間
	1, 2, 3, 4	復習	学習指導案を作成する	1.5 時間
10	講義内容	学習指導案の作成Ⅱ（衣生活）		
	該当する到達目標	予習	前回配布した指導案作成用プリントに目を通す	1 時間
	1, 2, 3, 4	復習	学習指導案を作成する	1.5 時間
11	講義内容	学習指導案の作成Ⅲ（家庭生活・消費生活）		
	該当する到達目標	予習	前回配布した指導案作成用プリントに目を通す	1 時間
	1, 2, 3, 4	復習	学習指導案を作成する	1.5 時間
12	講義内容	模擬授業Ⅰ（食生活）		
	該当する到達目標	予習	模擬授業に備え準備する	1 時間
	1, 2, 3, 5	復習	相互評価をする	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業Ⅱ（衣生活）		
	該当する到達目標	予習	模擬授業に備え準備する	1 時間
	1, 2, 3, 5	復習	相互評価をする	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業Ⅲ（家庭生活・消費生活）		
	該当する到達目標	予習	模擬授業に備え準備する	1 時間
	1, 2, 3, 5	復習	相互評価をする	1.5 時間
15	講義内容	相互評価による学習指導案の再考		
	該当する到達目標	予習	模擬授業の学習指導案に目を通す	1 時間
	1, 2, 3	復習	相互評価をもとに学習指導案を再考し、提出する	1.5 時間
備考	オフィスアワー：月曜日 3 限 水曜日 3 限 現行の学習指導要領を理解し、学習指導案の作成、模擬授業ができるよう各回テーマを決め進めていく メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp 研究室：1 号館 5 階 512 予習・復習については、指導案の作成、模擬授業準備で補完すること			

科目名	音楽科指導法(保育・教育の方法技術)			CEW212	講義
英文名	Teaching Methods in Music				
担当教員	吉田 恵子				
科目に関連した実務経験	公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、音楽科主任。音楽を用いた行事運営や学級経営を実践した。(経験)。公立小中学校音楽専科教員講習講師、幼児教育指導者対象音楽講習講師、特別支援教育音楽講習講師(経験・現在)。看護学校音楽担当、子育てサロン音楽担当、地域の音楽活動等を通じて幅広い年齢層に音楽の楽しさを広めている(現在)。				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	本講義では、「音楽基礎1・Ⅱ」「初等音楽演習Ⅰ・Ⅱ」「音楽」で学んだ音楽技術と知識を踏まえ、小学校における音楽科指導法を学ぶ。具体的には、①幼稚園・小学校における音楽教育の目的と概要 ②実技指導の実際 ③幼稚園・小学校の音楽教育の歴史と音楽教育を取り巻く現状から、音楽指導の理論と実践を学ぶ。また、模擬授業を行う中で、指導法や音楽教材についての考えを深めていく。				
到達目標	1.幼稚園・小学校における音楽指導の意義・目的を理解し、説明できる。 2.幼児・児童の音楽表現力を引き出す指導者としての知識・技術を習得し、範奏・範唱、伴奏、弾き歌い、指揮等ができる。 3.授業作りの基礎能力を身につけ、学習指導案作成や模擬授業ができる。■ 4.様々なジャンルの音楽に関心意欲を示し、教材化について課題や意見を述べる事が出来る。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	レポート 30%、実技発表 30% 毎回の授業課題・授業の貢献度 40%を総合する。				
課題に対するフィードバック	レポートはコメントをつけて返却する。実技課題はその都度コメントをする。				
使用教材	①文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』、②初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法[改訂版]』音楽之友社				
	講義内容	オリエンテーション 音楽科の目標			
1	該当する到達目標 1	予習	テキスト①音楽科の目標、テキスト②pp.11-12 を読んでおく。		1 時間
		復習	音楽科の目標を理解し、まとめる。1 年生歌唱共通教材の弾き歌いをする。		2 時間
	講義内容	幼稚園及び小学校における音楽の位置づけと内容			
2	該当する到達目標 1,2	予習	幼稚園教育要領、保育所保育指針(テキスト②p.253)を読んでおく。		1 時間
		復習	幼小の教育の繋がりをまとめる。2 年生歌唱共通教材の弾き歌いをする。		2 時間
	講義内容	子どもの発達と音楽表現			
3	該当する到達目標 1,2	予習	テキスト①各学年の目標と内容を読んでおく。		1 時間
		復習	3 年生歌唱共通教材の弾き歌いをする。ハンドサインを復習する。		2 時間
	講義内容	音楽の学習指導計画■			
4	該当する到達目標 1,2,3	予習	テキスト②pp.26-35 を読んでおく。		1 時間
		復習	4 年生歌唱共通教材の弾き歌いをする。		2 時間
5	講義内容	歌を中心とした表現活動の指導■			

	該当する到達目標 1,2,3	予習	テキスト②pp.50-55 を読んでおく。	1 時間
		復習	5年生歌唱共通教材の弾き歌いをする。	2 時間
6	該当する到達目標 1,2,3	講義内容 楽器を中心とした表現活動の指導:叩いて音を出す楽器■		
		予習	テキスト②pp.62-67 を読んでおく。	1 時間
		復習	6年生歌唱共通教材の弾き歌いをする。打楽器の指導法や留意点をまとめる。	2 時間
7	該当する到達目標 1,2,3	講義内容 楽器を中心とした表現活動の指導:吹いて音を出す楽器■ レポート課題提示		
		予習	ソプラノリコーダーの運指(テキスト②p.114)を確認しておく。	1 時間
		復習	リコーダーの指導法や留意点をまとめる。(テキスト②p.70-72)	2 時間
8	該当する到達目標 1,3,4	講義内容 聴く活動の指導■		
		予習	テキスト②pp.94-96、pp.218-221 を読んでおく。	1 時間
		復習	鑑賞指導のポイントをまとめる。	2 時間
9	該当する到達目標 1,3,4	講義内容 聴く活動の評価■		
		予習	テキスト②pp.232-235、238-239 学習指導案から評価の基準を読んでおく。	1 時間
		復習	鑑賞指導の評価についてまとめる。	2 時間
10	該当する到達目標 1,3,4	講義内容 音楽作りの指導■、レポート提出		
		予習	テキスト②pp.82-91、227-231 を読んでおく。	1 時間
		復習	音楽づくりの指導と評価のポイントをまとめる。	2 時間
11	該当する到達目標 1,3	講義内容 各活動・各教科との関連■		
		予習	テキスト②pp.124-134 を読んでおく。	1 時間
		復習	音楽と特別活動との関連及び指導の目標についてまとめる。、	2 時間
12	該当する到達目標 1	講義内容 幼稚園・小学校音楽教育史概説		
		予習	テキスト②pp.218-221 を読んでおく。	1 時間
		復習	明治・大正・昭和・平成の音楽教育の流れをまとめる。	2 時間
13	該当する到達目標 1,4	講義内容 郷土芸能・日本の伝統音楽の指導■		
		予習	テキスト②p.162、pp.118-121 を読んでおく。	1 時間
		復習	日本の伝統音楽の教材化の課題についてまとめる。	2 時間
14	該当する到達目標 1	講義内容 指導において教師に求められるもの		
		予習	テキスト②pp.116-117 を読んでおく。	1 時間
		復習	学校音楽教育の目的および、自己の音楽教育観をまとめる。	2 時間
15	該当する到達目標 1,2	講義内容 教材の範唱・範奏(発表)		
		予習	範唱。範奏の準備をする。	1 時間
		復習	テキスト②pp.242-25 I を復習する。	2 時間
備考	オフィスアワー: 月曜1限、水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方: 毎回、児童へのミニ模擬授業を行い、技術指導のポイントを習得します。 担当教員メールアドレス: yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8号館503研究室 受講資格: 「音楽」履修者。 ルール: ピアノや表現活動に苦手意識のある人も、課題意識をもって積極的に臨んでください。 学習に関して: 1) 教材に関する音源、楽器演奏法、楽典等はインターネット上で閲覧入手できます。 2) ピアノやリコーダー等技術課題は、毎回予習復習をして授業に臨んでください。 参考文献: 必要な資料は、授業内で配布・紹介します。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	図画工作科指導法(保育・教育の方法技術)			CEW213	講義
英文名	Teaching Methods in Drawing and Handicrafts				
担当教員	増田 金吾				
科目に関連した実務経験	中学校美術科教諭として東京都公立中学校に勤務(経験)、幼稚園長として国立大学附属幼稚園に勤務(経験)、東京都公立小学校で教育実習の指導教員を行う(経験)				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	図画工作科を指導する際、子ども理解とその教科内容の把握が重要である。加えて、その内容をいかに児童に伝えていくかを考えた時、十分に検討された方法を踏まえなければ望ましい指導はできないと言える。 造形教育の歴史や様々な考え方を広く考察することを通して、子どもの日常生活から生まれる表現活動の意義を捉え、図画工作科の目標、教育内容・方法(実際の授業例や指導法など)の全体像を把握する。				
到達目標	(1) 図画工作科の特性、子どもの発達、思考、表現、知識・技能などについて理解できる。 (2) 造形教育の歴史や意義を踏まえつつ、図画工作科教育の目標や課題が分かる。 (3) 教材や資料等(情報機器の活用を含む)について理解し、題材研究の仕方が分かる。 (4) 図画工作科の教育内容・実践的指導方法を理解し、学習指導案が書ける。■				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	中間まとめ(小テスト)(20%)、「学習指導案」作成(20%)、最終段階での提出レポート(60%)の内容により総合的に判断する。 総合評価60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	小テストは各自に返却し、課題の解説と結果に対するコメントを全体的に行う。学習指導案には、個々にコメントをつけて返却する。最終レポートについては、最終回に課題の解説を行う。				
使用教材	教科書 (1) 教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育(平成 27 年4月発行 橋本美保・田中智志監修、増田金吾編著、一藝社) (2) 小学校学習指導要領解説 図画工作編(平成 29 年告示 文部科学省)				
1	講義内容	ガイダンス、今日の教育現場と図画工作科、図画工作科の目標について、実践的視点で解説する。■			
	該当する到達目標 2	予習	シラバスの内容を読んで本講義の目標・内容などを理解する。教科書(1)のまえがき、序章 今日の教育と美術科教育 第1・2・3節に目を通す。		2.0 時間
		復習	講義の到達目標、内容、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1.0 時間
2	講義内容	図画工作科の実態映画(DVD VIDEO)「トントンゴゴゴ 図工の時間」の鑑賞を通して、実践に基づいた詳細な説明を行う。■			
	該当する到達目標 1,3	予習	教科書(2)の中の学習指導要領部分「小学校学習指導要領 図画工作」に目を通す。		1.5 時間
		復習	「小学校学習指導要領 図画工作」を踏まえて、映画で見た授業から継承したい点をまとめる。		1.5 時間
3	講義内容	美術教育の意義について。実践に基づいた説明を行う。■			
	該当する到達目標 2	予習	教科書(1)の第1章 美術教育の意義 第1・2・3・4節に目を通す。		1.5 時間
		復習	美術教育の意義を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	戦前の図画工作教育について			
	該当する到達目標	予習	教科書(1)の第2章 戦前の図画工作・美術教育史 第1・2・3節に目を通す。		1.5 時間

	2	復習	戦前の図画工作教育の歴史を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	学習指導要領の変遷を中心とした戦後の図画工作教育について		
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書(1)の第3章 美術教育の歴史 戦後 ― 学習指導要領の変遷を軸にして 第1・2・3・4節に目を通す。	1.5 時間
		復習	学習指導要領誕生の意義と変遷について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	造形表現と発達段階1) なぐり描き期、前図式期、図式期。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標 1	予習	教科書(1)の第5章 造形表現と子どもの成長 第1・2節、第3節1.と第3節2.の(1)～(4)に目を通す。	1.5 時間
		復習	子どもの発達と造形表現との関係、なぐり描き期、前図式期、図式期を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	造形表現と発達段階2) 写実の芽生え期、擬写実期、決定期。実践に基づいた説明を行う。■ この頃(時期未定)、中間まとめとして小テストを実施		
	該当する到達目標 1	予習	教科書(1)の第5章 造形表現と子どもの成長 第3節2.の(5)～(7)に目を通す。	1.5 時間
		復習	写実の芽生え期、擬写実期、決定期を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	表現と鑑賞の活動 ― 平成29年版小学校学習指導要領図画工作科を踏まえて。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書(2)全体に目を通す。	2.0 時間
		復習	平成 29 年版「小学校学習指導要領解説 図画工作」を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	小学校低学年の題材と指導事例。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標 1,3	予習	教科書(1)の第8章 小学校低学年の題材と指導事例 第1・2・3節に目を通す。	1.5 時間
		復習	小学校低学年の図画工作の題材と指導事例を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	小学校中学年・高学年の題材と指導事例。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	教科書(1)の第9章 小学校中学年の題材と指導事例 第1・2・3節、同 第10章 小学校高学年の題材と指導事例 ― 指導計画と評価 第1・2・3節に目を通す。	2.0 時間
		復習	小学校中学年・高学年の図画工作の題材と指導事例を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	授業と学習の構想、指導計画・学習指導案(情報機器の活用法を含む)の作成。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	教科書(2)の「指導計画の作成と内容の取扱い」を熟読する。	1.5 時間
		復習	図画工作科指導計画・学習指導案の作成について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	題材研究と教師の働きかけ、指導法と学習評価。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	教科書(1)の第10章 小学校高学年の題材と指導事例 ― 指導計画と評価 第1・2・3節を熟読する。	1.5 時間
		復習	指導法と学習評価について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	図画工作科学学習指導案提出、模擬授業。実践に基づいた解説を行う。■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	図画工作科学学習指導案を作成し、提出する。模擬授業をするための準備を行う。教科書(1)の終章 美術科教育の過去と現在 ― その指導法を中心として ― 第2・3節に目を通す。	1.5 時間
		復習	図画工作科学学習指導案について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業(続き)。実践に基づいた解説を行う。■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	模擬授業をするための準備を行う。教科書(1)の終章 美術科教育の過去と現在 ― その指導法を中心として ― 第2・3節を熟読する。	1.5 時間
		復習	図画工作科学学習指導案の理解を深める。	1.5 時間

15	講義内容	レポート提出、図画工作科指導法のあり方。実践に基づいた説明を行う。■		
	該当する到達目標	予習	課題レポートを作成する。本授業の全体をまとめる。	2 時間
	1,2,3,4	復習	図画工作科指導法の望ましいあり方を理解する。	1.5 時間
備考	・オフィスアワーとしては、出講日の昼休みには講師控室(または、8 号館 4 階 407 研究室)にあります。 ・授業期間全体を通じた授業の進め方としては、全員が授業を充実して受けることができるよう努めます。また、講義に加えて模擬授業の時間も設け、教育実践に結びつけるようにします。 ・授業担当教員のメールアドレス:kingomasuda@me.com ・予習・復習の際に生じた不明な点があれば、当日の授業中のことも含め質問を授業中にしてください。クラス全員で共有することが重要であるためです。しかし、その後別の質問等が生じたら、メールで連絡してください。できるだけ速やかに答えます。 ・ルールとしては、はじめのある態度で受講するようお願いします。 ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	体育科指導法(保育・教育の方法技術)				CEW214	講義
英文名	Teaching Methods in Physical Education					
担当教員	山西 加織					
科目に関連した実務経験						
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位			
講義目標	小学校学習指導要領における体育科の目標と内容を踏まえ、生涯にわたって運動に親しみ、心と体の健康を維持する態度を育むための指導法について学習する。各学年における運動領域や保健領域の授業づくりに関して、基本的な進め方を理解し、指導計画の作成および教材づくり、評価など、授業を運営する能力を身につける。さらに、ビデオカメラ等を用いて児童が運動課題を視覚的に見つけて自らの技能を高められるようにするなど、学習場面に応じた ICT 機器の効果的な活用法を学習する。					
到達目標	1.小学校学習指導要領「体育科」の目標および内容について理解することができる。 2.各運動領域における実践内容を学習し、指導法を習得する。 3.小学校体育科の学習指導案を作成することができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業への貢献度(20%)、学習指導案(20%)、模擬授業(20%)レポート課題(40%)を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック	提出された課題は適宜返却するので、復習しておくこと。					
使用教材	教科書「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省(東洋館出版社) その他、適宜資料を配布する。					
	講義内容	オリエンテーション なぜ「体育」の授業があるのか？				
1	該当する到達目標	予習	教科書を読み、小学校学習指導要領体育科の目標と内容を学習する。			1.5 時間
	1	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			1.5 時間
	講義内容	小学校体育科の目標及び各運動領域の内容				
2	該当する到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。			1.5 時間
	1,3	復習	授業で学習した内容をノートにまとめる。			1.5 時間
	講義内容	体育科における年間・単元学習計画作成のポイント				
3	該当する到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。			1.5 時間
	1,3	復習	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。			1.5 時間
	講義内容	体育科における指導方法と評価方法				
4	該当する到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。			1.5 時間
	1,3	復習	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。			1.5 時間
	講義内容	体育科における教材研究と学習指導案作成				
5	該当する到達目標	予習	教科書を読み、運動領域ごとの内容を学習する。			1.5 時間
	1,3	復習	学年・運動領域を選択し、学習指導案を作成する。			1.5 時間
	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(1)体づくり運動				
6	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「体づくり運動」の学習指導案を作成する。			1.5 時間

	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
7	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(2) 器械・器具を使つての運動遊び、器械運動		
	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「器械・器具を使つての運動遊び」または「器械運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
8	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(3) 走・跳の運動遊び		
	該当する到達目標	予習	低学年の「走・跳の運動遊び」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
9	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(4) 走・跳の運動、陸上運動		
	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「走・跳の運動」または「陸上運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
10	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(5) 水遊び、水泳運動		
	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「水遊び」または「水泳運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
11	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(6) ゲーム		
	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「ゲーム」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
12	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(7) ボール運動		
	該当する到達目標	予習	高学年の「ボール運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(8) 表現リズム遊び、表現運動		
	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「表現リズム遊び」または「表現運動」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業の実践と振り返り(9) 保健		
	該当する到達目標	予習	学年を選択し、「保健」の学習指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	模擬授業を振り返り、実際に指導する上での改善点や工夫を記録する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	これまでに実施した学習指導案や模擬授業から課題を見つける。	1.0 時間
	1,2,3	復習	小学校体育科における学習指導案作成や授業実践のポイントをレポートにまとめる。	2.0 時間
備考	【授業の進め方】講義により小学校体育の授業計画・運営について概説する。その後、学習指導案の作成と模擬授業の実践を繰り返して進めていく。模擬授業後には、意見交換によるフィードバックの機会を毎回設ける。 ※実技の際にはトレーニングウェアとトレーニングシューズ(体育館用、外履き用)を着用し、運動にふさわしい身だしなみで参加すること。貴重品は各自で管理すること。 ※実技をする上で配慮を必要とする学生は事前に申し出ること。 オフィスアワー:【前期】月曜 3 時限, 火曜 2 時限 【後期】月曜 5 時限, 火曜 5 時限 メールアドレス:yamanishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 505 研究室			

科目名	外国語(英語)の指導(保育・教育の方法技術)			CEW215	講義
英文名	Teaching Methods in Foreign Language (English) Classes				
担当教員	中村 博生 嶋田 和成 スティシー・クローズ				
科目に関連した実務経験	中村:英語教師として中学校に勤務(経験) 嶋田:英語教科書担当編集者として出版社に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	小学校外国語教育の役割を理解し、外国語活動(中学年)や外国語(高学年)の学習、指導、評価に関する基本的な英語教育の知識や指導技術を身に付ける。				
到達目標	1. 外国語(英語)教育を理解し、児童に対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。 2. 第二言語習得の特徴を理解し、実践に必要な基本的な指導技術(英語での語りかけなど)を身につけることができる。 3. 学習指導要領に基づいた、実際の授業づくりに必要な知識・技術(指導計画作成など)を習得することができる。■ 4. 自ら進んで小学校の外国語教育に携わる意欲を高めることができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	レポート・模擬授業 80%、授業内の貢献度 20%で評価する。 総合 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントをつけて返却する。 授業中の貢献度についてはその都度評価する。				
使用教材	『新編 小学校英語教育法入門』(樋口忠彦他、研究社、2017、2,100 円) Let's Try! 1 (文部科学省) Let's Try! 2 (文部科学省) We Can! 1 (文部科学省) We Can! 2 (文部科学省)				
1	講義内容	ガイダンス、学習指導要領にもとづく小学校外国語教育について(嶋田)			
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキストの資料②学習指導要領を読み、小学校外国語教育の目的と目標を確認する。		1.5 時間
		復習	学習指導要領をもう一度読み、外国語活動(中学年)と外国語(高学年)の違いを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	小・中・高の外国語教育における小学校の役割について(嶋田)			
	該当する到達目標 1, 2, 3, 4	予習	テキスト第 1 章に目を通す。特に小・中・高の外国語教育の目標を確認する。		1.5 時間
		復習	義務教育段階の外国語教育における外国語活動・外国語の役割を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	小学校外国語活動・外国語における主な教材の構成と内容について(嶋田)■			
	該当する到達目標	予習	テキスト第 4 章の小学校外国語活動・外国語における教材に関する記述に目を通		1.5 時間

	1, 2, 3, 4		す。	
		復習	<i>We Can! 1・2</i> と <i>Let's Try! 1・2</i> の構成と内容を理解する。	1.5 時間
4	講義内容	児童の多様性に応じた外国語の指導と母語使用について(嶋田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 2 章に目を通す。特に児童の多様性に関する記述を確認する。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	外国語の指導において、いつ、そしてどの程度母語を使用すれば効果的であるかを児童の状況に応じて考えてみる。	1.5 時間
5	講義内容	児童の発達段階の特性を踏まえた外国語の学習形態(一斉、グループ、ペア、個人)の選択について(嶋田)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 2 章に目を通す。特に児童の言語習得の特徴に関する記述に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	児童の発達段階に即した授業づくりの例とそのねらいを理解する。	1.5 時間
6	講義内容	音声によるインプットの内容を類推し理解するプロセス、児童の発達段階の特徴を踏まえた音声によるインプットの在り方(中村・クローズ)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 7 章に目を通す。 <i>We Can! 1・2</i> と <i>Let's Try! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	児童の発達段階を踏まえた音声指導を身につけることができる。	1.5 時間
7	講義内容	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りの重要性を理解し、受信から発信、音声から文字へと進むプロセス、国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについての理解とその指導(中村・クローズ)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 8 章に目を通す。 <i>We Can! 1・2</i> と <i>Let's Try! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	国語と英語の両面から、コミュニケーションの重要性や面白さに気づく指導を身につけることができる。	1.5 時間
8	講義内容	児童の発話につながる英語での語りかけとやり取り、その実践練習(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 7 章に目を通す。学習指導要領の聞くことに関する事項に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	教師や ALT 等の語りかけが、児童の発話につながる指導を身につけることができる。	1.5 時間
9	講義内容	題材の選定、教材研究、ICT 等の活用、文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方に関する実践練習(中村・クローズ)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 10 章に目を通す。 <i>We Can! 1・2</i> と <i>Let's Try! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	適切な教材提示により、児童の読む活動、書く活動を円滑に行う指導を身につけることができる。	1.5 時間
10	講義内容	学習到達目標、指導計画(年間指導計画、学習指導案、短時間学習などの授業時間の設定を含むカリキュラム・マネジメント等)、学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)について(中村・クローズ)		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 12 章に目を通す。学習指導要領の目標に関する事項に目を通す。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	学習到達目標、指導計画、学習状況の評価等の基本を理解し、授業実践に結びつく指導案作成を行うことができる。	1.5 時間
11	講義内容	ALT 等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方について(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第 9 章 4 節に目を通す。 <i>We Can! 1・2</i> と <i>Let's Try! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	ALT との TT に向けての準備、授業実践、評価を行う知識・技能を身につける	1.5 時間

			ことができる。	
12	講義内容	模擬授業(3年生)、授業づくり(発話につながる語りかけ)についてのディスカッション(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第13章に目を通す。 <i>Let's Try! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	<i>Let's Try! 1・2</i> などを教材として、発話につながる語りかけを中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
13	講義内容	模擬授業(4年生)、授業づくり(発話を引き出すやり取り)についてのディスカッション(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第13章に目を通す。 <i>Let's Try! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	<i>Let's Try! 1・2</i> などを教材として、発話を引きだすやり取りを中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
14	講義内容	模擬授業(5年生)、授業づくり(読む活動中心)についてのディスカッション(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第13章に目を通す。 <i>We Can! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	<i>We Can! 1・2</i> などを教材として、読む活動を中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
15	講義内容	模擬授業(6年生)、授業づくり(書く活動中心)についてのディスカッション、まとめ(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標	予習	テキスト第13章に目を通す。 <i>We Can! 1・2</i> の関連箇所を予習。	1.5 時間
	1, 2, 3, 4	復習	<i>We Can! 1・2</i> などを教材として、書く活動を中心とした授業を行う知識・技能を身につけることができる。	1.5 時間
備考	中村: オフィスアワーは、火曜日の3限。メールアドレス: nakamura-h@takasaki-u.ac.jp 嶋田: オフィスアワーは、木曜日3限、金曜日5限。メールアドレス: shimada-k@takasaki-u.ac.jp クローズ: オフィスアワーは、月曜日の2限。メールアドレス: stacy-c@takasaki-u.ac.jp ・授業(1～5回)は、学習指導要領に基づいた小学校外国語活動・外国語の目的と目標及びその教材の特徴を理解し、児童の発達段階に応じた指導方法を学ぶ。 ・授業(6～15回)は、身につけた授業指導の知識や技能を用いて、授業指導の実践を行うための知識・技能を身につける学修をおこなう。 ・これらの授業は講義形式と模擬授業、それらに関する討議などで構成し進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語科指導法Ⅰ（保育・教育の方法技術）			CEW301	講義
英文名	English Teaching MethodsⅠ				
担当教員	中村 博生				
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務（経験）				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語教師をめざすために、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることを目標とする。また、小・中・高等学校の学習指導要領やそれぞれで使用する教科書を理解し、英語教育の授業指導に生かせる専門性と実践力を身に付けることを目標とする。特に、5領域の能力とその背景的知識を身に付け、授業指導に生かせることを目標とする。				
到達目標	1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.英語科教育法の理論に基づいて 5 領域の指導方法と指導技術を理解することができる。■ 3.5 領域の指導を効率的に行うための指導方法と指導技術を身に付けることができる。■ 4.教育課程の意義及び編成の方法と「言語活動」や「言語材料」などを理解し、学習指導要領に従って、自ら進んで英語の授業を計画し、生徒の実態に即した授業指導を展開できる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学修する力			
評価方法	5 領域に関する小テスト 30%、授業演習 60%、授業内の議論の内容等 10%から総合的に評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	小テストは評価しコメントを付けて返却する。 授業演習（模擬授業）には、全員での議論と指導を行う。				
使用教材	教科書『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』、望月明彦他、大修館書店、2012、2,300 円 講義のスライドをプリントして配布する。				
1	講義内容	ガイダンス、英語教員に求められること、学習指導要領（小・中・高等学校） ■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の目次や第 3 章と第 5 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、英語教員が備えておくべき能力と学習指導要領（小・中・高等学校）について、理解することができる。		1.5 時間
2	講義内容	小・中・高等学校で使われている英語の教科書 ■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 3 章と第 17 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	小・中・高等学校の英語の教科書を概観し、言語材料と言語活動に関して理解する。		1.5 時間
3	講義内容	外国語として学ぶ英語の音声の特徴とその聞き方と発音の仕方 ■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 10 章と第 11 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	英語の音声の特徴とその聞き方と発音の仕方について理解することができる。		1.5 時間
4	講義内容	授業指導で使用する英語の語、語句、文、文章の表現指導 ■			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書の第 19 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	英語の語、語句、文、文章の表現指導について理解することができる。		1.5 時間
5	講義内容	授業指導で用いる文法 ■			

	該当する到達目標	予習	教科書の第 18 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	英語習得の1つの手段として文法をとらえ、指導方法を理解することができる。	1.5 時間
6	講義内容	アルファベットからまとまりのある文章までの文字指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 13 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	アルファベットから文章までの文字指導の手順について理解することができる。	1.5 時間
7	講義内容	話し手の意向などを理解できる「聞くこと」の指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 10 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	話し手の意向などを理解できる「聞くこと」の指導方法を身に付けることができる。	1.5 時間
8	講義内容	自分の考えなどを話す「話すこと(やり取り・発表)」の指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 11 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自分の考えなどを話すことができる「話すこと」の指導方法を身に付けることができる。	1.5 時間
9	講義内容	語、語句、文単位からまとまりのある文章まで理解できる「読むこと」の指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 12 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	文単位からまとまりのある文章までの英語を読んで、書き手の意向などを理解できる「読むこと」の指導方法を身に付けることができる。	1.5 時間
10	講義内容	語、語句、文単位からまとまりのある文章を書く「書くこと」の指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 13 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	文単位からまとまりのある文章を書くことができる「書くこと」の指導方法を身に付けることができる。	1.5 時間
11	講義内容	異文化(教科書に登場する外国の文化や外国の友など)の理解の指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 2 章と第 19 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	教科書に登場する外国の文化や ALT の出身地などの文化を、教材として活用して、異文化理解の指導に応用できる指導方法を身に付ける。	1.5 時間
12	講義内容	学習到達目標に基づく複数の領域の学習指導案の作成とその模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章と「実習の手引き」に目を通す。指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5 時間
13	講義内容	英語でのインタラクションを中心とした学習指導案の作成とその模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章と「実習の手引き」に目を通す。指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5 時間
14	講義内容	生徒の実態や特性、習熟度を考慮した学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章と「実習の手引き」に目を通す。指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	指導案と模擬授業を振り返り、今後の授業実践の基礎とすることができる。	1.5 時間
15	講義内容	ALT等とのチーム・ティーチングの授業の学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 14 章に目を通す。指導案を作成する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	外国語指導助手とのチーム・ティーチングの授業についての理解を深め、実践できるようにする。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・スライドやテキストを用いた講義と学生による模擬授業で構成される。前半は講義中心で、後半は講義内容に沿った模擬授業とその内容についての討議で進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語科指導法Ⅱ（保育・教育の方法技術）			CEW302	講義
英文名	English Teaching Methods II				
担当教員	中村 博生				
科目に関連した実務経験	英語教師として中学校に勤務（経験）				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	英語教師をめざすために、幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることを目標とする。また、中学校の英語教育の学習指導要領及び教科書について理解し、必要な英語教授法と英語科指導に関する知識と技術を身に付けることを目標とする。さらに、学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学ぶ。				
到達目標	1.幅広い教養と豊かな人間性の上に、英語教育の専門性と実践力を備えることができる。 2.英語教授法の知識と技術、5 領域の指導を行うための指導方法と技術を身に付けることができる。■ 3.英語科教育法の理論に基づいて、5 領域を意識した授業計画を立て、生徒に 5 領域の能力を確実に身につけるよう指導することができる。■ 4.学習到達目標を踏まえ、年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画の作成と、その実践と評価の方法を学び、さらに外国語指導助手の活用などに配慮した授業等を実践することができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）			
	✓	自律的・意欲的に学修する力			
評価方法	授業演習 70%、授業内の議論の内容等 30%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	模擬授業に対しては、その都度評価しコメントやアドバイスをする。 模擬授業などに関する議論については、その都度コメントやアドバイスをする。				
使用教材	教科書『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』、望月明彦他、大修館書店、2012、2,300 円				
1	講義内容	ガイダンス、小・中・高等学校の英語教育と中学校及び高等学校の学習指導要領			
	該当する到達目標	予習	教科書の第 1、2、3 章に目を通す。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法の確認と、日本の小・中・高等学校の英語教育の実態を確認する。	1.5 時間	
2	講義内容	英語教授法を背景に、学習到達目標に基づいた授業の構想と展開			
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章に目を通す。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業の目標に応じた英語教授法を背景に、授業を構想し展開する能力を身に付けることができる。	1.5 時間	
3	講義内容	学習到達目標に合った教材作成、言語活動、ICT の活用 ■			
	該当する到達目標	予習	教科書の第 16 章と第 17 章に目を通す。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業の目標に応じて、指導方法に合った教材作成等を行うことができる。	1.5 時間	
4	講義内容	「CAN-DO リスト」などに基づいた言語能力の測定と評価			
	該当する到達目標	予習	教科書の第 3 章と第 15 章に目を通す。	1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	「CAN-DO リスト」を学び、教育課程や学習指導要領との関連性において、実際の授業で配慮することを理解することができる。	1.5 時間	
5	講義内容	学習指導案の構成と内容の理解及び年間指導計画や単元毎の指導計画との関連性			

	該当する到達目標	予習	教科書の第3章、第4章、第15章に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案の構成と内容を理解し、教育課程に基づく年間指導計画や単元毎の指導計画との関連性を理解することができる。	1.5 時間
6	講義内容	観点別学習状況の評価とそれに基づく評価基準の設定や評価への総括		
	該当する到達目標	予習	教科書の第3章、第4章、第15章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案の例(教育課程を踏まえた『実習の手引』参照)を見て、学習指導案を作成し、実際の授業との関連性を理解することができる。	1.5 時間
7	講義内容	中学校3年間の英語学習過程と第二言語習得プロセス ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第4章、第7章、第8章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	第二言語習得の理論に基づいた英語教育を理解し、英語教授法に基づいた学習指導案を学習者の実態に応じて作成することができる。	1.5 時間
8	講義内容	学習指導案(日本語版・英語版)と実際の授業指導 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の第14章に目を通す。『実習の手引』を参考にする。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学習指導案の日本語版と英語版を参考にして、実際の授業指導の展開を理解したり、構想したりすることができる。	1.5 時間
9	講義内容	授業演習(1) TT の学習指導案作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	TT の指導案を作成し、実践できるように準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	TT の模擬授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
10	講義内容	授業演習(2) 「聞くこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	「聞くこと」中心の指導案を作成し、実践できるように準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「聞くこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
11	講義内容	授業演習(3) 「話すこと(やり取り・発表)」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	「話すこと(やり取り・発表)」中心の指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「話すこと(やり取り・発表)」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
12	講義内容	授業演習(4) 「読むこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	「読むこと」中心の指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「読むこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
13	講義内容	授業演習(5) 「書くこと」の指導を中心とした学習指導案の作成と模擬授業 ■		
	該当する到達目標	予習	「書くこと」中心の指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	「書くこと」の指導を中心とした授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
14	講義内容	授業演習(6) ICT を活用した学習指導案の作成と模擬授業		
	該当する到達目標	予習	ICT を活用した授業の指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	ICT を活用した授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業に反映することができる。	1.5 時間
15	講義内容	授業演習(7) All in English の学習指導案の作成と模擬授業		
	該当する到達目標	予習	All in English の授業の指導案を作成し、実践できるよう準備する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	All in English の授業を行い、終了後の議論の反省事項を活かし今後の授業	1.5 時間

			に反映することができる。	
備考	オフィスアワー: 火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。nakamura-h@takasaki-u.ac.jp ・授業は、前半はテキストに基づいた講義と討論、後半は実習を意識した模擬授業の練習で構成する。模擬授業は、指導案の作成から授業の実施、終了後の全体での討議を行うことで進められる。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語科教材研究 I (保育・教育の方法技術)			CEW303	講義
英文名	English Teaching Materials I				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験	英語教科書担当編集者として出版社に勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学習指導要領に沿って、どのような教材を用いれば、生徒が効率的かつ興味をもちながら英語を学べるかを考える。そのため授業では、中学校及び高等学校で用いられる教科書を中心に、デジタル教材、オンライン教材などへの理解を深め、その活用方法を模擬授業形式で学ぶ。				
到達目標	1. 英語科の教材について、どのような教材があるのかを理解する。■ 2. 英語科の教材がどのような目的・手順で開発(デザイン)されているのかを理解する。■ 3. 英語科の教材をどのように分析・評価すればよいのかを理解する。■ 4. 中学校の英語教科書を使って、学習指導要領で示された 5 領域の指導ができるようにする。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度、発表(20%)、模擬授業(30%)、レポート課題(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。				
使用教材	講義内で適宜資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス・中学校・高等学校外国語(英語)における教材について■			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。	1.0 時間	
	1	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	教材研究の方法 (1): 教材分析■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊を比較、検討し、そのデザインの違いを理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	教材研究の方法 (2): 教材とシラバス■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊のシラバスデザインを理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	教材研究の方法 (3): 言語材料とタスク■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.5 時間	
	1, 2, 3	復習	言語材料とタスクの概念を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	「教科書を教える」と「教科書で教える」(教材のアダプテーション)■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.5 時間	
	1, 2	復習	「教科書を教える」と「教科書で教える」ことの違いを理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	中学校英語教科書の分析(1): 第二言語習得理論と教材のシラバスの観点から■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.0 時間	
	1, 2, 3	復習	中学校英語教科書を第二言語習得理論とシラバスの観点から分析し、その教	2.0 時間	

			材の特徴を把握する。	
7	講義内容	中学校英語教科書の分析(2):第二言語習得理論と教材の言語材料の観点から■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	中学校英語教科書を第二言語習得理論と言語材料の観点から分析し、その教材の特徴を把握する。	2.0 時間
8	講義内容	中学校英語教科書の分析(3):第二言語習得理論と教材のタスクの観点から■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.0 時間
	1, 2, 3	復習	中学校英語教科書を第二言語習得理論とタスクの観点から分析し、その教材の特徴を把握する。	2.0 時間
9	講義内容	小学校外国語活動・外国語(英語)の教科書と中学校英語教科書の違いについて■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	小学校外国語活動・外国語(英語)で使用されている教科書の利用方法を学び、中学校英語教科書との違いを理解する。	2.0 時間
10	講義内容	デジタル教材とオンライン教材の活用について■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	授業で紹介されたデジタル教材とオンライン教材を使って、その長所・短所をまとめてみる。	1.5 時間
11	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(1):読むこと		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業(読むこと)の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
12	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(2):聞くこと		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業(聞くこと)の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
13	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(3):話すこと[やりとり・発表]		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業(話すこと)の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
14	講義内容	中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(4):書くこと		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業(書くこと)の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
15	講義内容	まとめ・中学校英語教科書の活用(模擬授業)と振り返り(5):複数の領域		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書を使った模擬授業(複数の領域)の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3, 4	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、改善点を検討する。	1.0 時間
備考	オフィスアワー: 木曜日 3 限、金曜日 5 限 メールアドレス: shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 303 研究室 授業は、英語科の教材についての基礎的な知識を解説する講義形式と受講生の模擬授業・ディスカッションをまじえた形で進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	英語教科教材研究Ⅱ（保育・教育の方法技術）			CEW304	講義
英文名	English Teaching Materials II				
担当教員	嶋田 和成				
科目に関連した実務経験	英語教科書担当編集者として出版社に勤務(経験)				
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	中学校・高等学校の英語教科書を軸に、それぞれの内容と使い方について理解を深め、教科書のもととなるシラバス、言語材料、言語活動、トピックなどについて研究する。また、教員としての授業実践力をつけるために、教科書をもとにした補助教材の作成を行い、実際に模擬授業を通して、作成した教材の改善点を検討する。				
到達目標	1. 中学校英語教科書を様々な観点から分析したり、教材の利点・欠点を述べることができる。■ 2. 補助教材の作成においては、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を育成できるよう、フォーカス・オン・フォームや CLIL(内容言語統合型学習)の知見を踏まえた工夫ができる■ 3. 中学校英語教科書と自作の補助教材を使って、実際に授業を行うことができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
		多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業への参加度、発表(20%)、模擬授業(30%)、レポート課題(50%)で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題にはコメントをつけて返却する。				
使用教材	講義内で適宜資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス・学習指導要領と中学校・高等学校外国語(英語)教科書のシラバスについて■			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで、授業の目標などを理解する。		1.0 時間
	1	復習	Warm-up 用の配布プリントの内容を理解する。		1.5 時間
2	講義内容	学習指導要領と中学校英語教科書に含まれる言語材料について■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。		1.5 時間
	1	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊において、どのような言語材料が用いられているのかを確認する。		1.5 時間
3	講義内容	学習指導要領と中学校英語教科書をもとにした言語活動について■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。		1.5 時間
	1	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊において、どのような言語活動が用いられているのかを確認する。		1.5 時間
4	講義内容	学習指導要領と中学校英語教科書で扱われるトピックについて■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。		1.5 時間
	1	復習	授業で紹介した中学校英語教科書数冊において、どのようなトピックが用いられているのかを確認する。		1.5 時間
5	講義内容	教科書のアダプテーション(1): 中学校英語教科書を用いたフォーカス・オン・フォームの授業■			
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。		1.5 時間
	1, 2	復習	フォーカス・オン・フォームの授業を行うことを目的として、教科書のアダプテーション		1.5 時間

			ンを行う。	
6	講義内容	教科書のアダプテーション(2):中学校英語教科書を用いた CLIL の授業■		
	該当する到達目標	予習	配布プリントの指定された箇所を読む。	2.0 時間
	1, 2	復習	CLIL の授業を行うことを目的として、教科書のアダプテーションを行う。	1.0 時間
7	講義内容	中学校英語教科書に沿ったリーディング教材作成■		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書に沿ったリーディング教材を作成する。	2.0 時間
	1, 2	復習	自作のリーディング教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0 時間
8	講義内容	模擬授業とその振り返り(1):リーディング教材を主とした授業		
	該当する到達目標	予習	自作のリーディング教材を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、自作のリーディング教材の改善点を検討する。	1.0 時間
9	講義内容	中学校英語教科書に沿ったリスニング教材作成■		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書に沿ったリスニング教材を作成する。	2.0 時間
	1, 2	復習	自作のリスニング教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0 時間
10	講義内容	模擬授業とその振り返り(2):リスニング教材を主とした授業		
	該当する到達目標	予習	自作のリスニング教材を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、自作のリスニング教材の改善点を検討する。	1.0 時間
11	講義内容	中学校英語教科書に沿ったスピーキング教材作成■		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書に沿ったスピーキング教材を作成する。	2.0 時間
	1, 2	復習	自作のスピーキング教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0 時間
12	講義内容	模擬授業とその振り返り(3):スピーキング教材を主とした授業		
	該当する到達目標	予習	自作のスピーキング教材を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、自作のスピーキング教材の改善点を検討する。	1.0 時間
13	講義内容	中学校英語教科書に沿ったライティング教材作成■		
	該当する到達目標	予習	中学校英語教科書に沿ったライティング教材を作成する。	2.0 時間
	1, 2	復習	自作のライティング教材の長所・短所をまとめ、教科書の内容を最大限に活かすにはどうすればよいかを検討する。	1.0 時間
14	講義内容	模擬授業とその振り返り(4):ライティング教材を主とした授業		
	該当する到達目標	予習	自作のライティング教材を使った模擬授業の準備をする。	2.0 時間
	1, 2, 3	復習	模擬授業でうまくいかなかった点を振り返り、自作のライティング教材の改善点を検討する。	1.0 時間
15	講義内容	まとめ・生徒の言語習得を促す教材とは何か■		
	該当する到達目標	予習	教科書と補助教材を使って、中学生の英語の 5 領域をどのように高めていくことができるのかを検討する。	1.5 時間
	1, 2, 3	復習	クラスメートの作った補助教材の長所・短所をまとめた上で、自作の補助教材の改善点を検討する。	2.0 時間
備	オフィスアワー: 木曜日 3 限、金曜日 5 限			

考	メールアドレス: shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 303 研究室 授業は、英語科の教材についての基礎的な知識を解説する講義形式と受講生の模擬授業・ディスカッションをまじえた形で進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	小学校理科実験(保育・教育の方法技術)				CEW506	実験
英文名	Science Laboratory in Elementary School					
担当教員	片山 豪					
科目に関連した実務経験	教諭(理科)として高等学校に勤務(経験)					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位			
講義目標	小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を指導する。そして、学生が授業を行うにあたって観察・実験を用いた授業の計画、準備ができるようになる。また、博物館や科学学習センターなどと連携、協力を測りながら、それらを積極的に活用する態度を養う。					
到達目標	1.小学校理科の授業における観察・実験及びその指導法を習得することができる。 2.学生自ら観察・実験における既存の教材教具の問題点を改善し、新たな教材教具の開発ができる能力を身につけることができる。					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	毎回提出するレポート 80%, 授業への参加度, 態度, 積極性等 20%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバック	レポートにおける修正すべき点を示し、再レポートを促す。 実験技術に関して修正すべき点を指摘し、改善のアドバイスを受けることができる。					
使用教材	小学校学習指導要領解説理科編, 評価規準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料, 小学校理科教科書, 自作プリント等					
1	講義内容	観察・実験の方法, 教材教具の開発方法				
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編の総説, 小学校理科の目標を読んでおく。			0.5 時間
	1,2	復習	講義の方針を確認するとともに, 学習指導案の内容を理解する。			2.5 時間
2	講義内容	身近な生物の観察Ⅰ(野外実習)				
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。			0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。			2.5 時間
3	講義内容	身近な生物の観察Ⅱ(野外実習)				
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。			0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。			2.5 時間
4	講義内容	実験の指導(1) 第3学年 A 物質・エネルギーの内容■				
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。			0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。			2.5 時間
5	講義内容	実験の指導(2) 第3学年 B 生命・地球■				
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。			0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。			2.5 時間
6	講義内容	実験の指導(3) 第4学年 A 物質・エネルギーの内容■				
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。			0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。			2.5 時間

7	講義内容	実験の指導(4) 第4学年 B 生命・地球■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
8	講義内容	実験の指導(5) 第5学年 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
9	講義内容	実験の指導(6) 第5学年 B 生命・地球■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
10	講義内容	実験の指導(7) 第6学年 A 物質・エネルギーの内容■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
11	講義内容	実験の指導(8) 第6学年 B 生命・地球■		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
12	講義内容	博物館や科学学習センターなどの利用(1) 講義		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
13	講義内容	博物館や科学学習センターなどの利用(2) 実践		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
14	講義内容	博物館や科学学習センターなどの利用(3) まとめ		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
15	講義内容	教材教具案の発表会(学生が開発した教材教具案)		
	該当する到達目標	予習	学習指導要領解説理科編, 小学校の教科書を読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実験のレポートを書く。自ら観察・実験の教材教具を開発する。	2.5 時間
備考	実験(野外実習や博物館見学を含む)や学生による模擬授業を行う。 野外観察に出たり, 博物館や科学学習センターなどに出向いたりすることがある。 現職教員による指導をお願いすることもある。 オフィスアワー: 火曜日 3 限, 金曜 1 限 メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	総合的な学習の時間論 A(保育・教育の方法技術)				CEW216	講義
英文名	Teaching Methods in Integrated Studies A					
担当教員	栗原 幸正					
科目に関連した実務経験	・公立小学校に、教諭・教頭・校長として勤務(経験) ・市町村教育委員会に、指導主事として勤務(経験) ・保幼小連携教育協議会の役員として協議会を運営(経験)					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位			
講義目標	小・中学校における総合的な学習における学習指導要領に基づく授業づくりについて、総合的な学習で目指すべき資質・能力を理解した上で、具体的事例や具体的活動を通して、各教科と関連づけながら多面的に考える事ができる。また同時に、総合的な学習の授業づくりに係る技術や方法を習得することで、総合的な学習の授業実践を生み出す事ができる。					
到達目標	1. 総合的な学習の意義と内容について、学習指導要領と関連付けて理解する事ができる。 2. 総合的な学習の授業づくりに必要な技術・教育評価・アクティブ・ラーニングを理解する。 3. 総合的な学習の授業づくりができる。■					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	定期試験(50%) 授業後の小レポート(20%)課題レポート(20%) 成果物(10%)					
課題に対するフィードバック	紙媒体(授業感想・成果物等)については評価の明記並びに評価コメント。 プレゼンテーション等については、テーマ設定・発表方法・発表時間・質疑等の評価規準を明確にして評価内容を伝える。					
使用教材	小学校学習指導要領解説総合的な学習編(126 円)					
1	講義内容	小・中学校各々の実態に即した総合的な学習の意義と目標・内容				
	該当する到達目標 1	予習	小学校学習指導要領解説総合的な学習編に目を通しておく。			1.5 時間
		復習	総合的な学習の意義並びに目標・内容の概略をノートにまとめる。			1 時間
2	講義内容	実践検討①(中学校総合的な学習実践「職業体験しよう」)の授業研究				
	該当する到達目標 1.2	予習	中学校における総合的な学習の自分自身の体験を想起し、ノートにまとめておく。			1.5 時間
		復習	中学校における総合的な学習の取り組みについて理解する。			1.5 時間
3	講義内容	総合的な学習の方法と評価				
	該当する到達目標 1.2	予習	小学校学習指導要領解説総合的な学習編の関連する箇所に目を通す。			1.5 時間
		復習	総合的な学習に係る授業づくりに必要な教育方法と教育評価の在り方について理解する。			1 時間
4	講義内容	総合的な学習とカリキュラム・マネジメント				
	該当する到達目標 2	予習	小学校学習指導要領解説総合的な学習編の関連する箇所及び事前配付資料に目を通す。			1.5 時間
		復習	効果的な総合的な学習とカリキュラム・マネジメントの関係についてまとめる。			1 時間
5	講義内容	実践検討1(5年生総合的な学習実践「お弁当を作ろう」)の授業研究■				
	該当する到達目標	予習	小学校における総合的な学習の自分自身の体験を想起し、ノートにまとめておく。			1.5 時間

	1.2.3		く。	
		復習	小学校における総合的な学習の取り組みについて理解する。	1 時間
6	講義内容	年間指導計画と単元計画・学習指導案		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説総合的な学習編の関係する箇所に通しておく。	1.5 時間
	2.3	復習	総合的な学習の単元計画を作成する。	1 時間
7	講義内容	年間指導計画と単元計画・学習指導案作成を通じた総合的な学習の授業づくり演習		
	該当する到達目標	予習	小学校学習指導要領解説総合的な学習編の関係する箇所に通しておく。	1.5 時間
	2.3	復習	単元計画を元にして、総合的な学習の学習指導案を作成する。	1 時間
8	講義内容	単元構想・学習指導案検討会■		
	該当する到達目標	予習	単元計画に元にした学習指導案をプレゼンテーションする準備を整える。	1.5 時間
	2.3	復習	総合的な学習の授業づくりの留意点をまとめる。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 限・金曜日 2 限 研究室:9 号館 305 研究室 授業期間全体を通じた授業の進め方:総合的な学習の時間の実践を元にした講義に、関連した項目についてのワークショップや協議・演習を組み合わせ、実践的な授業構成力の育成を図る。また、授業後に行う感想シートを活用して理解度を把握すると共に、小論文作成の技術を高める。 メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 ※PowerPoint 及び Excel・Word を使用できる環境を準備しておく。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	初等道徳教育論(保育・教育の方法技術)			CEW217	講義
英文名	Elementary Moral Education				
担当教員	大石 桂子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必修・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標	道徳教育を通じた人間形成は、道徳的な判断力のほか、他者への思いやりや共感(道徳的心情)、正しいことを行おうとする意志と実践力を身につけることでもある。本講義では道徳教育の歴史、道徳性とその発達に関する基礎的知識を習得するほか、児童・生徒の発達の段階に応じた教育課題の理解、それに応じた教育法を考察する。また生徒の思考を深め、道徳的実践力を育成する対話型授業の手法、指導案作成と模擬授業といった演習を通して、道徳教育に必要な素養と指導力を養う。				
到達目標	1.教育勅語、教育基本法と、戦前・戦後の道徳教育の変化を理解し、概説できる。 2.道徳性について発達論的な視点や社会学的な視点から理解し、概説できる。 3.学習指導要領にある道徳教育の目標や内容、課題などについて理解し、概説できる。 4.道徳授業でのねらいの設定、展開や発問、評価の方法を理解し、応用できる。 5.講義内容をいかして指導案を作成し、模擬授業という形式で実践できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	指導案作成および模擬授業(50%)、講義中に作成する課題(50%)に参加態度などを加味して総合的に評価する。評価基準については、講義中に説明する。				
課題に対するフィードバック	課題内容については、講義中に学生発表、教員による評価を行う。また模擬授業については、学生による相互評価を取り入れる。				
使用教材	文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成 29 年)を、各自で文部科学省 HP からダウンロードすること。また、講義中に補助プリントを配布する。				
1	講義内容	ガイダンス:道徳とは何か、道徳教育の目標と現代的な課題			
	該当する到達目標 3	予習	シラバスを読み、講義の目標・内容を確認する。文部科学省 HP から、指導要領解説をダウンロードし、「改訂の経緯」に目を通す。		1.5 時間
		復習	「特別の教科 道徳」への改訂理由と、主な変更点を理解する。		1 時間
2	講義内容	道徳教育の変遷① 教育勅語と修身科			
	該当する到達目標 1	予習	教育勅語について調べる。		1.5 時間
		復習	戦前の道徳教育の変遷、国定教科書の内容などを理解する。		1 時間
3	講義内容	道徳教育の変遷② 教育基本法、「特別の教科 道徳」へ			
	該当する到達目標 1	予習	教育基本法について調べる。		1.5 時間
		復習	戦後の道徳教育の変遷、主な改訂の内容を理解する。		1 時間
4	講義内容	学習指導要領と道徳教育の位置づけ			
	該当する到達目標 3	予習	配布プリントに目を通す。		1 時間
		復習	学校教育における道徳教育の役割を理解する。		1.5 時間

5	講義内容	道徳性の発達論的理解:ピアジェ、コールバーグ等		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	2	復習	子どもが自律的な道徳判断を獲得する過程を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	道徳性の社会的理解:デュルケーム、ロールズ等		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1.5 時間
	2	復習	道徳教育と社会的な目的の関連を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	初等道徳教育の特性と道徳的課題①公德心と社会的態度		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	社会規範を尊重する意義を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	初等道徳教育の特性と道徳的課題②生命の尊重と人権		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	2 時間
	3	復習	障がいへの多様な視点、生命の尊厳を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	初等道徳教育の特性と道徳的課題③自律性の獲得		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	自由のあり方、自律の意義について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	道徳教育と家庭、地域社会の関わり		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1 時間
	3	復習	学校と家庭・地域社会の連携の実例、教育に対する市民の意識を理解する。 指導計画の意義を理解する。	1 時間
11	講義内容	道徳教育の実践①指導方法と実践事例の分析		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	児童の思考を深める「ねらい」の設定、発問の仕方を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	道徳教育の実践②教材研究の方法		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	児童の思考を深める展開の手法を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	道徳教育の実践③指導案の作成、評価の方法		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	評価の方法、指導案の内容や作成法を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	道徳教育の実践④模擬授業		
	該当する到達目標	予習	模擬授業の指導案、使用する教材の準備をする。	20 時間
	5	復習	相互評価表などをもとに、授業の成功した点、改善点を分析する。	3 時間
15	講義内容	模擬授業の振り返り、総括		
	該当する到達目標	予習	これまでの配布プリントに目を通し、模擬授業の改善案を考える。	1 時間
	4,5	復習	模擬授業の改善策をまとめる。	1 時間
備考	講義は「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」と配布プリントを中心に行う。定期的に課題を与え、その内容について学生同士での意見交換を行う。 オフィスアワー: 月曜日の 3 時限、金曜日の 2 時限。質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス「oishi@takasaki-u.ac.jp」 研究室: 1 号館 6 階 601			

科目名	中等道徳教育論(保育・教育の方法技術)			CEW305	講義
英文名	Secondary School Moral Education				
担当教員	大石 桂子				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	人々の価値観が多様化し、家庭や地域社会の教育力低下がしたといわれる現在、学校の道徳教育への期待は高まっている。情報モラルの習得、自己肯定感の獲得、いじめ問題の解決など、学校教育の課題に、道徳教育はどのように貢献できるか。国内外の道徳教育の理論・手法を手引きに、学生各自が探求・考察することを目標とする。				
到達目標	1.価値の多様化、情報化社会など、現代の状況から生じる道徳的課題を理解し、概説できる。 2.学習指導要領にある道徳教育の目標や内容、課題などについて理解し、概説できる。 3.道徳授業でのねらいの設定、展開や発問、評価の方法を理解し、概説できる。 4.国内外の道徳授業の、多様なアプローチを理解し、概説できる。 5.いじめなど学校教育の抱える問題について主体的に探究し、意見交換を通して思考を深めることができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	学生発表およびグループワーク(50%)、講義中に作成する課題(50%)に参加態度などを加味して総合的に評価する。評価基準については、講義中に説明する。				
課題に対するフィードバック	提出課題については、コメントを添えて返却する。				
使用教材	文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」を、各自で文部科学省 HP からダウンロードすること。また、講義中に補助プリントを配布する。				
1	講義内容	ガイダンス、「特別の教科 道徳」の位置づけ			
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスを読み、講義の目標・内容を確認する。文部科学省 HP から、指導要領解説をダウンロードし、「改訂の経緯」に目を通す。		1.5 時間
		復習	「特別の教科 道徳」への改訂理由と、主な変更点を理解する。		1 時間
2	講義内容	価値多様化の時代と道徳性			
	該当する到達目標 1	予習	配布プリントに目を通す。		1 時間
		復習	多様な文化・価値観が存在する中、善の共有がいかに可能か理解する。		1.5 時間
3	講義内容	学習指導要領と学校における道徳教育の位置づけ			
	該当する到達目標 2	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。		2 時間
		復習	指導要領改訂の具体的な内容、道徳性を構成する三要素を理解する。		1 時間
4	講義内容	中等道徳教育の特性と道徳的課題:「自律」「個性の伸長」など			
	該当する到達目標 2	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。		1.5 時間
		復習	個性の定義、「個性を伸ばす」意義と課題を理解できる。		1 時間
5	講義内容	中等道徳教育の特性と道徳的課題:自己肯定感の獲得			

	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	1	復習	自己肯定感が低下している現状と、問題解決の取り組みについて理解する。	1 時間
6	講義内容	中等道德教育の特性と道徳的課題・情報モラルと現代的な課題		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1 時間
	1,2	復習	情報モラルなど、現代特有の課題への具体的なアプローチを理解する。	1 時間
7	講義内容	道德教育の実践① ねらいの設定、授業の展開と視覚化の工夫		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	生徒の思考を深める「ねらい」の設定、授業展開の仕方を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	道德教育の実践② 発問・評価の工夫		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1 時間
	3	復習	生徒の思考を深める発問・評価の仕方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	道德教育の実践③ 指導計画・指導案作成の方法		
	該当する到達目標	予習	指導要領解説の該当箇所に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	指導案の内容や作成法を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	国内外の道德教育① 価値の明確化、モラルジレンマ授業		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	価値の明確化やモラルジレンマ授業の理論、授業展開、課題を理解する。	1 時間
11	講義内容	国内外の道德教育② モラルスキルトレーニング (MoST)		
	該当する到達目標	予習	配布プリントに目を通す。	1 時間
	4	復習	MoST の理論、授業展開、課題を理解する。	1.時間
12	講義内容	学生発表とグループワーク① いじめはなぜ起こる？心理、背景の分析		
	該当する到達目標	予習	いじめが発生する心理、社会的背景や環境を調べる。	5 時間
	5	復習	グループワークの成果を踏まえて、課題を完成させる。	1.5 時間
13	講義内容	学生発表とグループワーク② 昔と今のいじめの特徴・事例		
	該当する到達目標	予習	事例を通して、時代によるいじめの特徴を調べる。	5 時間
	5	復習	グループワークの成果を踏まえて、課題を完成させる。	1.5 時間
14	講義内容	学生発表とグループワーク③ 学校教育といじめ対策、国内外の取り組み		
	該当する到達目標	予習	国内外の学校で行われている、いじめ対策と成果を調べる。	5 時間
	5	復習	グループワークの成果を踏まえて、課題を完成させる。	1.5 時間
15	講義内容	総括		
	該当する到達目標	予習	第 1 回から第 14 回のノート等を見直す。	2 時間
	1,2,3,4,5	復習	道德授業について、目標、内容、具体的手法などを概説できる。	1.5 時間
備考	講義は「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」と、配布プリントを中心に行う。また、多様な道德授業の実践例について検討し、学生同士による意見交換、グループワークを行う。 オフィスアワー:水曜日の 2 時限、金曜日の 2 時限。質問はメールでも受け付ける。 メールアドレス「oishi@takasaki-u.ac.jp」 研究室:1 号館 6 階 601			

科目名	保育内容指導法(保育・教育の方法技術)			CEW117	講義
英文名	Teaching Methods in Early Childhood Education and Care				
担当教員	今井 麻美 富田 純喜				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	保育内容 5 領域を総合的に実践するための具体的な方法に対する理解を深める。				
到達目標	1. 5 領域のねらい及び内容を踏まえた、具体的な保育を構想することができる 2. 子どもの興味や関心、発達に応じた保育内容を計画し、保育を改善する視点を身につける				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 50%, 指導案の作成等の課題 50%				
課題に対するフィードバック	提出された課題には、コメントを付けて返却する。 課題の意義について説明する。				
使用教材	適宜資料を配布する				
1	講義内容	オリエンテーション:授業の概要と進め方			
	該当する到達目標 1,2	予習	シラバスの内容を読んで、講義の目標などを理解する		1.5 時間
		復習	講義内容, 到達目標, 学位授与方針, 成績評価方法などを確認する		1.5 時間
2	講義内容	5 領域という視点から子どもの姿を理解する(1)3 歳未満児			
	該当する到達目標 1	予習	保育内容5領域のねらい・内容を振り返ってくる		1.5 時間
		復習	保育内容5領域を具体的な子どもの姿と結びつけながら、理解を深める		1.5 時間
3	講義内容	5 領域という視点から子どもの姿を理解する(2)3 歳以上児			
	該当する到達目標 1	予習	保育内容5領域のねらい・内容を振り返ってくる		1.5 時間
		復習	保育内容5領域を具体的な子どもの姿と結びつけながら、理解を深める		1.5 時間
4	講義内容	5 領域を踏まえた、ねらいの立て方			
	該当する到達目標 1	予習	保育内容の各論の授業内容を振り返ってくる		1.5 時間
		復習	保育者がねらいを持って実践する意義について理解を深める		1.5 時間
5	講義内容	ねらいに即した遊びや遊びの展開			
	該当する到達目標 1,2	予習	遊びに用いることができそうな身近な素材を考え、準備する		1.5 時間
		復習	自分なりの気づきをノートに整理する		1.5 時間
6	講義内容	子どもの興味、関心、発達に応じた指導計画案の作成			
	該当する到達目標 1,2	予習	指導計画案を立てる遊びを考えてくる		1.5 時間
		復習	授業内容を踏まえて、指導計画案を修正する		1.5 時間
7	講義内容	指導計画案を実施するための教材研究(1)各自で教材研究			
	該当する到達目標 1,2	予習	教材研究に必要なものを考え、準備する		1.5 時間
		復習	自分なりの気づきをノートに整理する		1.5 時間
8	講義内容	指導計画案を実施するための教材研究(2)グループディスカッション			

	該当する到達目標	予習	グループディスカッションで検討したい点をまとめる	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5 時間
9	講義内容	教材研究を踏まえた、指導計画案の練り直し		
	該当する到達目標	予習	教材研究を通して気づいた指導計画案の修正点を整理してくる	1.5 時間
	1,2	復習	これまでの授業内容を振り返りながら、指導計画案を自己添削する	1.5 時間
	講義内容	模擬保育		
10	該当する到達目標	予習	模擬保育の準備をする	1.5 時間
	1,2	復習	模擬保育を振り返り、自分なりの気づきをノートに整理する	1.5 時間
11	講義内容	模擬保育を振り返る(1)グループディスカッション		
	該当する到達目標	予習	模擬保育を振り返り、他のメンバーと話し合いたい点を整理する。	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションの内容を踏まえて、修正点を整理する	1.5 時間
	講義内容	模擬保育を振り返る(2)グループディスカッションの内容を発表し、クラス全体でディスカッション		
12	該当する到達目標	予習	グループディスカッションを振り返り、クラス全体でのディスカッション準備を行う	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションの内容を踏まえて、修正点を整理する	1.5 時間
13	講義内容	模擬保育の振り返りを踏まえた、指導計画案の練り直し		
	該当する到達目標	予習	指導計画案の修正点を整理してくる	1.5 時間
	1,2	復習	これまでの授業内容を振り返りながら、指導計画案を自己添削する	1.5 時間
	講義内容	練り直された指導計画案についてグループディスカッション		
14	該当する到達目標	予習	グループディスカッションで検討したい点をまとめる	1.5 時間
	1,2	復習	ディスカッションを通して気づいたことを整理する	1.5 時間
15	講義内容	5 領域のねらい及び内容、子どもの興味、関心、発達に応じた保育内容を展開する上で大事なこと、大事にしたいこと		
	該当する到達目標	予習	授業を通して、気づいたことや理解したことを整理する	1.5 時間
	1,2	復習	授業を通して学んできた指導案作成時の留意点が自身の指導案に反映されているか、自己評価を行う	1.5 時間
	備考	学生自身が課題に取り組んだことによって得られる気づきを出発点に授業を進め、学生同士がディスカッションする機会を多く取りながら、授業内容を深めていきます。そのため、学生のみなさんには、課題、グループディスカッション等への積極的な参加を求めます。 オフィスアワー: 火曜 3 限、金曜 2 限。質問は、メールでも受け付けます。 メールアドレス: imai-a@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 504		

科目名	幼小教育相談(保育・教育の方法技術)			CEW001	講義
英文名	Educational Counseling in Kindergartens and Elementary Schools				
担当教員	角野 善司				
科目に関連した実務経験	カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	必修 2 単位		
講義目標	幼児や児童、その保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を習得する。 この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。				
到達目標	1.幼児児童の教育における教育相談の意義と理論を理解する。 2.幼児児童の教育において教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。 ■ 3.幼児児童の教育における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回の小レポート 75%、学期末レポート 25%				
課題に対するフィードバック	宿題は毎回授業時に、学期末レポートは事後に講評解説の機会を設ける。				
使用教材	原田眞理(編著)「教育相談の理論と方法 小学校編」玉川大学出版部 2016 年 2,400 円＋税 文部科学省「生徒指導提要」教育図書 2010 年 276 円＋税				
1	講義内容	幼児児童の教育における教育相談の意義と課題			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間
2	講義内容	幼児児童の教育における教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間
3	講義内容	幼児児童の不応や問題行動の意味／幼児児童の発するシグナルに気づき把握する方法 ■			
	該当する到達目標 2	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間
4	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(1): カウンセリングマインド ■			
	該当する到達目標 2	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。		1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間
5	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(2): 受容・共感・傾聴 ■			

	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
6	講義内容	職種・校務分掌に応じた教育相談 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	学校・園における問題の理解と対応(1): いじめ / 不登校 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	学校・園における問題の理解と対応(2): 学級崩壊 / 児童虐待 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	学校・園における問題の理解と対応(3): 非行 / インターネットトラブル ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	学校・園における教育相談の年間計画および校内体制の整備 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	幼児児童の保護者に対する教育相談 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	地域の専門機関との連携 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	障害のある子どもの理解と対応 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	幼児児童に起こりやすい病気と対応 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	教員のメンタルヘルス ■		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
3		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間

			ことを小レポートにまとめ、提出する。	
備考	・オフィスアワー[前期]:月曜3限、木曜4限 研究室:8号館4階405室 ・メールアドレス:zsumino@takasaki-u.ac.jp ・授業期間全体を通じた授業の進め方: 基本的に、毎回の授業は、①教科書の該当箇所に関する講義 と ②授業テーマと関連したグループワーク の二相から構成される。①は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。②は、時間が許す限りさまざまなワークを行う。 ・宿題の提出は、C-learning による。 ・■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		中学校教育相談(保育・教育の方法技術)			CEW306	講義
英文名		Educational Counseling in Junior High Schools				
担当教員		角野 善司				
科目に関連した実務経験		カウンセラーとして臨床心理センターに勤務(経験)				
学年・開講期		3 年 前期	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標		中学生およびその保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を習得する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。				
到達目標		1.中学校における教育相談の意義と理論を理解する。 2.中学校において教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。 ■ 3.中学校における教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。 ■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		平常点(ワーク・ロールプレイ等への積極的参加度、小レポート)80%、学期末レポート 20%。				
課題に対するフィードバック		小レポートは毎回授業時に、学期末レポートは事後に講評解説の機会を設ける。				
使用教材		以下を参考書として用いる： 文部科学省「生徒指導提要」教育図書 2010 年 276 円＋税				
1	講義内容	中学校における教育相談の意義と課題				
	該当する到達目標	1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間	
2	講義内容	中学校における教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念				
	該当する到達目標	1	予習	事前配布資料を精読する。		1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間	
3	講義内容	生徒の不適応や問題行動の意味／生徒の発するシグナルに気づき把握する方法 ■				
	該当する到達目標	2	予習	事前配布資料を精読する。		1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間	
4	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(1): カウンセリングマインド ■				
	該当する到達目標	2	予習	事前配布資料を精読する。		1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。		1.5 時間	
5	講義内容	教師に求められるカウンセリングに関する基礎的な知識(2): 受容・共感・傾聴 ■				
	該当する到達目標	2	予習	事前配布資料を精読する。		1.5 時間
		復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートに		1.5 時間	

			まとめ、提出する。	
6	講義内容	職種・校務分掌に応じた教育相談 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
7	講義内容	中学校における問題の理解と対応(1): いじめ ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
8	講義内容	中学校における問題の理解と対応(2): 不登校 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
9	講義内容	中学校における問題の理解と対応(3): 非行 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
10	講義内容	中学校における問題の理解と対応(4): インターネットトラブル ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
11	講義内容	中学校における教育相談の年間計画および校内体制の整備 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
12	講義内容	保護者に対する教育相談 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
13	講義内容	地域の専門機関との連携 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
14	講義内容	障害のある生徒の理解と対応／生徒に起こりやすい病気と対応 ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
15	講義内容	教員のメンタルヘルス ■		
	該当する到達目標	予習	事前配布資料を精読する。	1.5 時間
	3	復習	配布資料・ノートを再読する。授業での学習を通じて考えたことを小レポートにまとめ、提出する。	1.5 時間
備	・オフィスアワー[前期]: 月曜 3 限、木曜 4 限 研究室: 8 号館 4 階 405 室			

考	・メールアドレス:zsumino@takasaki-u.ac.jp ・授業期間全体を通じた授業の進め方: 基本的に、毎回の授業は、①講義 と ②グループワーク の二相から構成される。①は 2 年前期科目「幼小教育相談」で学習したと有機的に関連づけつつ、簡潔に進める。②は、時間が許す限り、授業テーマに関わるさまざまなワークを行う。 ・宿題の提出は、C-learning による。 ・■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名		生徒指導論A(保育・教育の方法技術)			CEW218	講義
英文名		Student Guidance A				
担当教員		角野 善司				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位		
講義目標		小学校教育において、学習指導と並ぶ重要な教育活動である生徒指導を効果的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。				
到達目標		1. 生徒指導の意義や原理を理解する。 2. すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 3. 児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法		学期途中に実施する筆記試験 25%、学期末に実施する筆記試験 50%、平常課題 25%。				
課題に対するフィードバック		平常課題は毎回授業時に、筆記試験は事後に講評解説の機会を設ける。				
使用教材		文部科学省「生徒指導提要」教育図書 2010 年 276 円＋税				
1	講義内容	教育課程における生徒指導の位置付け				
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。教科書の該当箇所を精読する。			1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。中間試験に向けた学習を始める。			1.5 時間
2	講義内容	集団指導・個別指導の方法原理				
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。中間試験に向けた学習を重ねる。			1.5 時間
3	講義内容	各教科・道徳教育における生徒指導				
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。中間試験に向けた学習を重ねる。			1.5 時間
4	講義内容	総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導				
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。中間試験に向けた学習を重ねる。			1.5 時間
5	講義内容	生徒指導と教育相談				
	該当する到達目標 1	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。			1.5 時間
		復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。中間試験に向けた学習を重ねる。			1.5 時間

			ねる。	
6	講義内容	生徒指導の意義や原理に関する総括(中間試験の実施及び解説を含む)		
	該当する到達目標	予習	これまでの学習内容をまとめる。	1.5 時間
	1	復習	中間試験での出題内容について、再学習する。	1.5 時間
7	講義内容	学校における生徒指導体制		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を始める。	1.5 時間
8	講義内容	基本的な生活習慣の確立／規範意識の醸成に関する指導		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
9	講義内容	自己の存在感が育まれるような場や機会の設定		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	2	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
10	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(1): 暴力行為		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
11	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(2): いじめ		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
12	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(3): 不登校		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
13	講義内容	生徒指導上の課題及び対応(4): 今日的な生徒指導上の課題		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
14	講義内容	生徒指導に関する法制度等		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
15	講義内容	学校と家庭・地域・関係機関との連携		
	該当する到達目標	予習	教科書の該当箇所を精読する。予習課題に解答する。	1.5 時間
	3	復習	教科書の該当箇所・配布資料・ノートを再読する。学期末試験に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
備考	・オフィスアワー[後期]: 火曜 3 限、木曜 3 限 研究室: 8 号館 4 階 405 室 ・メールアドレス: zsumino@takasaki-u.ac.jp			

・授業期間全体を通じた授業の進め方： 基本的に、毎回の授業は、①教科書の該当箇所に関する講義 と ②授業テーマと関連したグループディスカッション の二相から構成される。①は、予習をしてあることを前提とするので、簡潔に進める。②は、基礎実習での経験なども振り返りつつ積極的に討論してもらいたい。

科目名	初等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)			CEW219	講義
英文名	Elementary Career Education				
担当教員	吉田 浩之				
科目に関連した実務経験	公立学校教員(経験), 教育委員会のアドバイザー及び委員等(現在)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位		
講義目標	本講義は、小学校教諭を目指す上で理解しておくべき進路指導及びキャリア教育に関する基礎的知識と具体的な方法論を学ぶ。				
到達目標	1. 教育課程における進路指導・キャリア教育の意義や原理について述べることができる。 2. 学級の進路指導・キャリア教育の年間計画案を作成することができる。■ 3. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った指導の考え方と在り方について論じることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎時実施の確認シート記述(40%), 課題レポート(60%)				
課題に対するフィードバック	・前時確認シート記述状況について、次時に取り上げ、全体あるいは個別に解説する。 ・課題提出前後に、出題意図を説明する。				
使用教材	授業者作成資料を配付し使用する。				
1	講義内容	進路指導・キャリア教育の意義・目的			
	該当する到達目標 1	予習	小学校学習指導要領総則(キャリア教育の充実)を読むこと。		1 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		2 時間
2	講義内容	学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方			
	該当する到達目標 1	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制と家庭・関係機関との連携 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	学級における進路指導・キャリア教育の年間計画作成の方法 ■			
	該当する到達目標 2	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	学級における進路指導・キャリア教育の実践 ■			
	該当する到達目標 2	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
6	講義内容	個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方 ■			
	該当する到達目標 2	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
7	講義内容	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った人生設計の考え方と方法 ■			
	該当する到達目標	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間

	3	復習	本時確認シートのまとめておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力 ■		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。	1.5 時間
	3	復習	本時確認シートのまとめておくこと。	1.5 時間
備考	連絡先(e-mail :yoshida-h@gunma-u.ac.jp) 授業の進め方(進路指導・キャリア教育の意義や目的を理解した上で、全ての児童を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方と、児童個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方について、配付資料等を通じて具体例を示し、学生相互の討議・発表等を取り入れ、講義を進めていく。) 参考文献(中学校・高等学校学習指導要領解説・総則編, 中学校・高等学校学習指導要領解説・特別活動編) ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名		中等生徒指導論(保育・教育の方法技術)			CEW307	講義
英文名		Secondary Student Guidance				
担当教員		小西 尚之				
科目に関連した実務経験		教諭として公立高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期		3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		生徒指導は、学校教育において学習指導(教科指導)と並ぶ重要な分野として位置付けられる。本授業では、学校における教師の生徒指導について、理論と実践の両面から考察していく。授業の進め方としては、各テーマについての説明を聞くだけではなく、話し合い活動を通じて課題に取り組むことによって理解を深めていく。				
到達目標		1.生徒指導の理論について理解している。 2.生徒指導について実践的に思考することができる。■ 3.他者と協力しながら課題に積極的に取り組むことができる。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		小テスト(35%)、グループ発表(35%)、日常点(30%)				
課題に対するフィードバック		試験前後に出題の意図等を説明する。				
使用教材		教科書:『よくわかる生徒指導・キャリア教育』(小泉令三編著、ミネルヴァ書房、2010 年) 参考書:『生徒指導提要』(平成 22 年 3 月 文部科学省)				
1	講義内容		中学校教育における生徒指導の位置づけ(オリエンテーション)			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読んで、毎回の授業内容を確認し、自分との関連などを考えておく。			時間
		復習	資料を読み直し、授業の概要を確認し、生徒指導を学ぶ意味を理解する。			時間
2	講義内容		問題行動への対応(1)校則・生徒心得について			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			時間
3	講義内容		問題行動への対応(2)懲戒・体罰について			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			時間
4	講義内容		問題行動への対応(3)不登校・ひきこもりについて■			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			時間
5	講義内容		問題行動への対応(4)いじめについて■			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。			時間
6	講義内容		問題行動への対応(5)非行について			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。			時間

		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
7	講義内容	他分野との連携(1)生徒指導と情報教育(各種メディア、情報リテラシーなど)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
8	講義内容	他分野との連携(2)生徒指導と学習指導(授業における指導など)■		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
9	講義内容	他分野との連携(3)生徒指導と進路指導(キャリア教育など)■		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
10	講義内容	他分野との連携(4)小学校や高等学校・地域や家庭との連携、中間まとめ・小テスト		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
11	講義内容	グループ発表(1)校則・生徒心得の事例		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
12	講義内容	グループ発表(2)懲戒・体罰の事例		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
13	講義内容	グループ発表(3)不登校・ひきこもりの事例■		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
14	講義内容	グループ発表(4)いじめの事例■		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
15	講義内容	グループ発表(5)非行の事例		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	時間
		復習	資料を読み直し、講義内容を理解する。	時間
備考	オフィスアワー：水曜 6 限、木曜 6 限 メールアドレス：konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室：8 号館 4 階 409 号室 担当者が専門分野を講義し、その後に小テストで理解度を確認していく、という方法で行う。 予習・復習については、小テストの学習等で補完すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	中等キャリア教育論(保育・教育の方法技術)			CEW308	講義
英文名	Secondary Career Education				
担当教員	吉田 浩之				
科目に関連した実務経験	公立学校教員(経験), 教育委員会のアドバイザー及び委員等(現在)				
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	本講義は、中学校及び高校の教諭を目指す上で理解しておくべき進路指導及びキャリア教育に関する基礎的知識と具体的な方法論を学ぶ。				
到達目標	1. 教育課程における進路指導・キャリア教育の意義や原理について述べることができる。 2. 学級・ホームルームの進路指導・キャリア教育の年間計画案を作成することができる。■ 3. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った指導の考え方と在り方について論じることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎時実施の確認シート記述(40%), 課題レポート(60%)				
課題に対するフィードバック	・前時確認シート記述状況について、次時に取り上げ、全体あるいは個別に解説する。 ・課題提出前後に、出題意図を説明する。				
使用教材	授業者作成資料を配付し使用する。				
1	講義内容	進路指導・キャリア教育の意義・目的			
	該当する到達目標 1	予習	中学校・高等学校学習指導要領総則(キャリア教育の充実)を読むこと。		1 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		2 時間
2	講義内容	学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方			
	該当する到達目標 1	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
3	講義内容	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制と家庭・関係機関との連携 ■			
	該当する到達目標 1, 2, 3	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
4	講義内容	学級・ホームルームにおける進路指導・キャリア教育の年間計画作成の方法 ■			
	該当する到達目標 2	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
5	講義内容	学級・ホームルームにおける進路指導・キャリア教育の実践 ■			
	該当する到達目標 2	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
6	講義内容	個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方 ■			
	該当する到達目標 2	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間
		復習	本時確認シートのまとめておくこと。		1.5 時間
7	講義内容	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った人生設計の考え方と方法 ■			
	該当する到達目標	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。		1.5 時間

	3	復習	本時確認シートのまとめておくこと。	1.5 時間
8	講義内容	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読み、全体的に内容を理解しておくこと。	1.5 時間
	3	復習	本時確認シートのまとめておくこと。	1.5 時間
備考	連絡先(e-mail : yoshida-h@gunma-u.ac.jp) 授業の進め方(進路指導・キャリア教育の意義や目的を理解した上で、全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方と、生徒個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方について、配付資料等を通じて具体例を示し、学生相互の討議・発表等を取り入れ、講義を進めていく。) 参考文献(中学校・高等学校学習指導要領解説・総則編, 中学校・高等学校学習指導要領解説・特別活動編) ■:実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	子どもの英語コミュニケーション指導(保育・教育の方法技術)			CEW507	講義
英文名	Teaching English Communication to Children				
担当教員	中村 博生 スティシー・クローズ 村田 美和				
科目に関連した実務経験	中村:英語教師として中学校に勤務(経験) 村田:地域の子どものみたちに対する英語コミュニケーション指導(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	子どもの英語コミュニケーション指導を行うにあたり、必要な英語運用能力と英語指導に関する知識と技能を学ぶ。多様な子どもに対応できるように、ICT を駆使した教材提示やインターアクションの方法を身につける。				
到達目標	1. 英語コミュニケーション指導を理解し、子どもに対応できる資質や能力、教育的愛情や社会性とともに対人関係能力を備えることができる。 2. 英語コミュニケーション指導に必要な英語運用能力(クラスルームイングリッシュなど)と指導技術(英語の歌や言語活動など)の知識と技能を身につけることができる。■ 3. 多様な学習者(障がいのある子どもを含む)に対応した教材の提示やインターアクションが可能な、ICT 機器を活用した指導ができる。 ■ 4. 自ら進んで多様な子どもの英語コミュニケーション指導に携わる意欲を高めることができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	レポート(感想シート)40%、授業内の発表や貢献度 60%で評価する。 総合 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポート(感想シート)にはコメントをつけて返却する。 授業中の発表や貢献についてはその都度評価する。				
使用教材	『英語の歌&アクティビティ集』(アルクキッズ英語編集部編、アルク、2014、2,380 円)				
	講義内容	ガイダンス(中村・クローズ・村田)			
1	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
	1,4	復習	子どもの第二言語習得と講義の進め方が理解できる。		1.5 時間
	講義内容	英語を理解するための子どもの認知処理過程について(村田)			
2	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通し、子どもの思考についてイメージする。		1.5 時間
	1,3,4	復習	子どもが英語を理解する認知処理過程について振り返る。		1.5 時間
	講義内容	多様な学習者を想定した英語活動(村田)■			
3	該当する到達目標	予習	特別支援教育の対象者とその特性についてまとめる。		1.5 時間
	1,3,4	復習	多様な学習者を想定した英語活動について振り返る。		1.5 時間
	講義内容	子どものための英語音韻指導(村田)			
4	該当する到達目標	予習	英語の音韻について、調べる。		1.5 時間
	1,3,4	復習	初期学習者に対する音韻指導の重要性について振り返る。		1.5 時間
5	講義内容	ICT を活用した英語指導(村田)■			

	該当する到達目標 1,3,4	予習	自分の持っている ICT の中でできる英語指導教材について調べる。	1.5 時間
		復習	ICT を活用した英語指導について、自分の持っているデバイスで試してみる。	1.5 時間
6	講義内容	世界と繋がるテレビ電話を活用した英語指導(村田)■		
	該当する到達目標 1,3,4	予習	世界と繋がることの重要性について考える。	1.5 時間
		復習	教育業界で使われている世界と繋がる技術についてまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	1～3 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト1～3 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	1.5 時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	1.5 時間
8	講義内容	4～6 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 4～6 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	1.5 時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
9	講義内容	7～9 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 7～9 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	1.5 時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
10	講義内容	10～12 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 10～12 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	1.5 時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	1.5 時間
11	講義内容	13～15 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 13～15 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
12	講義内容	16～18 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 16～18 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
13	講義内容	19～21 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 19～21 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
14	講義内容	22～24 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 22～24 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
15	講義内容	25～27 の歌とアクティビティに基づく子どもの英語コミュニケーション指導の実践練習(中村・クローズ)■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	テキスト 25～27 の歌とアクティビティに目を通し、歌詞と振り付けを確認する。	時間
		復習	子どもの多様性を踏まえたコミュニケーション指導(やり取り)ができる。	時間
備考	中村: オフィスアワーは、火曜日の 3 限(質問はメールでも受け付ける): nakamura-h@takasaki-u.ac.jp クローズ: オフィスアワーは、月曜日の 2 限、(質問はメールでも受け付ける): stacy-c@takasaki-u.ac.jp 村田: オフィスアワーは、月曜日の 2 限、(質問はメールでも受け付ける): murata-m@takasaki-u.ac.jp ・歌やアクティビティを学修した後、子どもへの指導方法をグループで考える。また ICT を活用しながら多様な子どもの認知過程を考慮した授業指導を行う工夫をする。授業は、学修、協働学習、実践的指導の練習の各段階を設定して進める。 ■: 実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	学校危機管理論(保育・教育の方法技術)			CEW508	講義
英文名	Risk Management in Schools				
担当教員	吉田 恵子				
科目に関連した実務経験	公立小・中・高校の教歴あり。担任、学年主任、登下校指導、生徒指導/パトロール、保健衛生担当(経験)。学校のいじめ・暴力等事案の相談業務及び関係機関との連絡調整業務(経験・現在)。キャンプやトレイルランニング等、野外活動における児童生徒の救護活動(現在)。教育・保育関係者対象の危機管理講習講師(現在)、県災害救助ボランティア・学校評議委員として学校・地域の危機管理活動に務める(現在)。				
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	子ども達を安全な環境で教育・指導しなければならない学校園であるが、現実には日々大小の事故が生じ、教師はその対応に苦慮することが少なくない。学校事故について、事前・発生時・事後の危機管理を事例をもとに考え、学校危機管理の実践力をつける。				
到達目標	1.学校事故の事例を通して、危機管理の理論を理解することができる。 2.学校事故の事例を通して、安全教育の理論を理解することができる。 3.危機管理の実践力をつけることができる。■ 4.安全教育の指導法を習得し、実践することができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中に行う 3 回の小テストに 70%、授業貢献度に 30%を配分して総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回提出する活動・感想シートはコメントを付けて返却する。 小テストは、返却時に解説をする。				
使用教材	資料を配布する				
1	講義内容	オリエンテーション、安全の概念			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、講義目標や内容を理解する。		1.5 時間
	1	復習	安全の概念について資料をまとめ、理解する。		1.5 時間
2	講義内容	学校事故発生における援用法規			
	該当する到達目標	予習	学校事故と法的責任について調べる。		1.5 時間
	1	復習	援用法規について配布資料をまとめ、理解する。		1.5 時間
3	講義内容	危険予知と安全教育■			
	該当する到達目標	予習	安全教育について調べる。		1.5 時間
	1,2	復習	危険予知トレーニングの理論と方法を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	事前の危機管理■			
	該当する到達目標	予習	事前の危機管理について調べる。		1.5 時間
	1,2,3	復習	事前の危機管理について、事例ワークを復習する。		1.5 時間
5	講義内容	事故発生時の危機管理■ 第 1 回小テスト			
	該当する到達目標	予習	事故発生時の危機管理について調べる。		1.5 時間
	1,2,3	復習	事故発生時の事例ワークを復習する。		1.5 時間
6	講義内容	事後の危機管理■			

	該当する到達目標	予習	事後の危機管理について調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	事後の危機管理と対応について理解し、事例を復習する。	1.5 時間
7	講義内容	学校安全の死角■		
	該当する到達目標	予習	学校安全の死角とは何か調べる。	1.5 時間
	2.4	復習	安全の死角について、事例ワークを復習する。	1.5 時間
8	講義内容	体育祭・運動会の事故■		
	該当する到達目標	予習	体育祭・運動会の事故事例を調べる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	事例から得た知見を基に、事故防止策をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	部活をめぐる事故■		
	該当する到達目標	予習	部活の事故について資料を調べる。	1.5 時間
	1,2,3	復習	事例をもとに、部活における事故防止について理解し、まとめる。	1.5 時間
10	講義内容	登下校の事故・事件■ 第2回小テスト		
	該当する到達目標	予習	登下校の安全教育について、学校・地域の取り組みを調べる。	1.5 時間
	1,2,4	復習	事例をもとに地域の連携と事故防止について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	プール事故■		
	該当する到達目標	予習	プール事故について調べる。	1.5 時間
	1,2,4	復習	事例をもとに、プール指導における危機管理について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校給食と死亡事故■		
	該当する到達目標	予習	食物アレルギーについて調べる。	1.5 時間
	1,3,4	復習	除去食と児童の指導についてまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	いじめ自殺■		
	該当する到達目標	予習	いじめ自殺と相当因果関係について調べる。	1.5 時間
	1,3	復習	内外の自殺防止教育について理解する。チーム援助理論を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	自然災害と学校■		
	該当する到達目標	予習	自然災害による学校事故について調べる。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	災害時の対応について、シミュレーションを重ねる。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 第3回小テスト		
	該当する到達目標	予習	授業資料を整理する。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	授業を振り返り、学校危機管理の実践力を蓄える。	1.5 時間
備考	オフィスアワー：月曜1限、水曜1限 授業期間全体を通じた授業の進め方：学校危機管理の理論を習得すると共に、ロールプレイやグループワークを繰り返しながら、危機対応の実践力を付けていきます。 担当教員メールアドレス： yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室：8号館 503 研究室 事故対応のロールプレイやグループワークがある。意欲的に授業に参加すること。 ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	心理検査法(保育・教育の方法技術)			CEW509	講義
英文名	Psychological Testing				
担当教員	板津 裕己				
科目に関連した実務経験	心理テスト出版会社にて教育・研究業務(経験)、児童相談所にて心理判定業務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	こころの特徴理解の方法の1つとして心理検査法が用いられている。本講義では、心理検査の中で、質問紙法、作業検査法及び発達検査について、その検査実施上の注意点や処理方法などを学ぶ。なお、投影法は、その検査実施や結果処理を習熟するために相当な経験を要するため、基礎事項学習にとどめる。				
到達目標	1.心理検査の長所とその限界を含めた心理検査についての正しい理解ができるようになる。 ■ 2.各種検査法の正確な実施法と適切な結果の読み取りができるようになる。 ■ 3.心理検査を受検することで自己理解を深める。 ■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	評価は、個人ワークやグループワークなどで得られたデータによるレポート課題(70点)と予習課題の提出状況(30点)に基づく。				
課題に対するフィードバック	レポート課題は、コメントを付けた後に返却する。 予習課題シートは、内容確認の後に返却をする。				
使用教材	板津裕己 生徒理解と心理テスト 日本・精神技術研究所 1995 この他に、授業進行に従いプリントや予習課題を配布する。 参考書・補助教材 大村・花沢・佐藤 新訂心理検査の理論と実際 1986 各種心理テストのマニュアルや解説書				
1	講義内容	オリエンテーション ―心理検査の歴史と基本的な考え方―			
	該当する到達目標	予習	「こころの特徴理解の方法」にどのようなものがあるのかを考えておく。		1.5 時間
	1.	復習	心理検査の歴史と基本的な考え方についての理解を深めておく。		1.5 時間
2	講義内容	心理検査で何がわかる？			
	該当する到達目標	予習	「生徒理解と心理テスト」をよく読んでおく。		1.5 時間
	1.	復習	心理テスト理論や心理検査で得られる情報などについての理解を深めておく。		1.5 時間
3	講義内容	質問紙法検査の概要と自己観に係わるテスト ■			
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。		1.5 時間
	1,2,3.	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。		1.5 時間
4	講義内容	質問紙法検査の実習① -類型論や特性論に基づくパーソナリティテスト- ■			
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。		1.5 時間
	1,2,3	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さ		1.5 時間

			らに、自己成長に役立てる。	
5	講義内容	質問紙法検査の実習② -特性論に基づくパーソナリティテスト- ■		
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。	1.5 時間
6	講義内容	質問紙法検査の実習③ -規模の大きなパーソナリティテスト- ■		
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3.	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。	1.5 時間
7	講義内容	質問紙法検査の実習④ -青年期の発達に係わるテスト- ■		
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3.	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。	1.5 時間
8	講義内容	作業検査法の概要とテスト実習- ■		
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。	1.5 時間
9	講義内容	作業検査法検査結果の着眼点と読み取り方 ■		
	該当する到達目標	予習	テキスト他を参考に作業検査法について理解を深めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。	1.5 時間
10	講義内容	作業検査法検査の結果整理の実習 ■		
	該当する到達目標	予習	テキスト他を参考に作業検査法について理解を深めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	作業検査法の学習内容について復習をしておく。	1.5 時間
11	講義内容	投影法検査		
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	投影法検査法の学習内容について復習をしておく。	1.5 時間
12	講義内容	知能検査の実習① -概要と集団式知能検査- ■		
	該当する到達目標	予習	本時に実施する検査の理論背景について学習をする。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	知能検査法の学習内容について復習をしておく。	1.5 時間
13	講義内容	知能検査の実習② -個別式知能検査- ■		
	該当する到達目標	予習	集団式と個別式知能検査の特徴について学習をしておく。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2,3	復習	自分自身の結果を見直して自己理解を深めるとともに、レポートを作成する。さらに、自己成長に役立てる。	1.5 時間
14	講義内容	乳幼児発達検査の実習① -概要と質問紙検査- ■		
	該当する到達目標	予習	テキスト他を参考に発達検査法について理解を深めておく。予習課題を進めて	1.5 時間

	1,2		おく。	
		復習	発達検査の学習内容について復習をしておく。	1.5 時間
15	講義内容	乳幼児発達検査の実習② -個別簡易検査- ■		
	該当する到達目標	予習	テキスト他を参考に発達検査法について理解を深めておく。予習課題を進めておく。	1.5 時間
	1,2			
		復習	全 15 回の学習内容について復習を行う。	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 2 時限、木曜日 3 時限 メールアドレス:itatsu@takasaki-u.ac.jp 研究室:9 号館 3 階 301 ・前週に授業内容の予習課題を配布して、受検予定の心理テストの背景になる理論などを事前学習してもらいます。授業は、講義のほか心理テストを受検してもらいます。心理テストによっては、受検者と実施者の役割を交互にしてもらいます。これらの作業を通して、自己理解を深められるようにします。 ・なお、授業時間内でテスト実習および結果処理などができなかった場合、履修学生は、時間外を利用して、個人あるいはグループで責任をもって課題を終えるようにしてください。 ・検査器具、検査用紙や実施マニュアルなどは、科目担当者が用意します。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	家族療法(保育・教育の方法技術)			CEW510	講義
英文名	Family Therapy				
担当教員	千葉 千恵美				
科目に関連した実務経験	過去の場合:保育士として市立保育園に勤務経験 現在の場合:大学内「子ども家族支援センター」で保育士、心理相談員として勤務				
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	家族と人間を発達的な視点からとらえ、家族が抱える臨床的問題と対応を学び、家族背景等、ジェノグラムの作成を行い、家族にむけた理論と実践を総合的に学ぶ。また困難事例検討を行い、問題解決にむけての力量習得を目指す。				
到達目標	1.家族療法の理論と技術を理解する事が出来る。■ 2.家族を視野に置いた支援方法を理解する事が出来る。 3.困難事例を検討しながら、解決策を考える事が出来る。■ 4.実践的な対応を行うことや応用的な面接技法を習得する事が出来る。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業終了後に提出する感想シート 20% 並びに定期試験を判断する 80%				
課題に対するフィードバック	感想シートや質問については授業を通してコメントを行う。試験の課題についてフィードバックをする				
使用教材	家族の心理 変わる家族の新しいかたち 小田切紀子 野口康彦 青木聡 金剛出版 2017				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	家族について事前に配布した資料を読み予習をする		1.5 時間
	1	復習	家族について学んだ事を復習する		1.5 時間
2	講義内容	家族とは何か■			
	該当する到達目標	予習	家族療法の定義や特徴、家族の変化について事前に p3-p9 を読書し予習する		1.5 時間
	1,2	復習	講義で学んだ家族の発展や変化等を復習する		1.5 時間
3	講義内容	健康な家族と役割について■			
	該当する到達目標	予習	健康な家族と役割について事前に p13-p24 を読書し予習する		1.5 時間
	1,2,3	復習	健康な家庭と家族関係について学んだ事を復習する		1.5 時間
4	講義内容	家族の成長について(家庭生活のストレスを含む)			
	該当する到達目標	予習	家族の成長について事前に p27-p42 まで読書し理論を予習する		1.5 時間
	1,2,3	復習	家族の成長について学んだ事を復習する		1.5 時間
5	講義内容	家族の様々な場面と対応について(養育問題を含む)■			
	該当する到達目標	予習	家族の様々な場面と対応について p47-p59 を読書し予習をする		1.5 時間
	1,2,3	復習	家族の様々な場面について学んだ事を復習する		1.5 時間
6	講義内容	家族のアセスメントについて(再婚家庭と子ども)■			
	該当する到達目標	予習	様々な方法を用いたアセスメントについて p71ーp81 読書し予習する		1.5 時間
	1,2,3,4	復習	他機関との連携を含む複雑な事例についての検討内容を復習する		1.5 時間
7	講義内容	子どもの発達と家族にむけた支援について			

	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	子どもの発達と家族に向けた支援について事前に p85-p97 を読書し予習を行う	1.5 時間
		復習	子どもの発達と家族に向けた支援について学んだ事を復習する	1.5 時間
8	講義内容	中年期・老年期家族に向けた支援について		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	中年期・老年期家族に向けた支援について事前に p121-p131 を読書し予習する	1.5 時間
		復習	中年期・老年期家族に向けた支援について整理し学んだ事を復習する	1.5 時間
9	講義内容	家族治療に向けた支援(児童虐待発生から再生)■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	家族治療を始める前に事前に p121-p131 を読書し予習する	1.5 時間
		復習	家族治療で学んだ事を整理し復習する	1.5 時間
10	講義内容	家族の課題とその支援■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	家族の関係性から生じる非行について事前に p139-p158 を読書し予習する	1.5 時間
		復習	家族の関係性から生じる非行について学んだ事を復習する	1.5 時間
11	講義内容	事例検討(1) —児童虐待と被虐待児(者)の心理—■		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	児童虐待事例について事前に p159-p161 を読書し予習をする	1.5 時間
		復習	事例検討を行い整理し学んだ事を復習する	1.5 時間
12	講義内容	事例検討(2) —児童虐待と虐待する親の心理について—■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	児童虐待する親とその要因について事前に p162 を読書し予習を行う	1.5 時間
		復習	児童虐待する親とその要因について学んだ事を復習する	1.5 時間
13	講義内容	家族療法について		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	家族療法についての理解 p173 を読書し予習をする	1.5 時間
		復習	家族療法について学んだ事を復習する	1.5 時間
14	講義内容	家族の歴史とジェノグラム作成		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	家族の歴史とジェノグラム作成について事前に p182 を読書し予習する	1.5 時間
		復習	家族の歴史とジェノグラム作成について学んだ事を復習する	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 様々な家庭、家族を対象にする面接方法を総合的に学ぶ		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	対応出来ない特殊事例にはどのような事例があるか事前に調べ予習をする	1.5 時間
		復習	家族療法に必要な支援内容等学んだ事を総合的に復習する	1.5 時間
備考	授業の進め方: 家族問題解決を行うためにグループワークによって得た学びを、感想シートに記載しまとめをする。 オフィスアワー火曜日 4, 5 限目 chiba@takasaki-u.ac.jp KEY WORD 家族療法 家族支援 困難事例 ジェノグラム (■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	保育方法論(保育・教育の方法技術)				CEW118	講義
英文名	Child Care Methodology					
担当教員	千葉 千恵美					
科目に関連した実務経験	過去の場合: 保育士として市立保育所に勤務経験 現在の場合: 大学内「子ども家族支援センター」にて保育士、心理相談員として勤務					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位			
講義目標	子育て支援に必要な保育方法の知識や技術を習得し、親子関係の関わりについて学び、理解を深める					
到達目標	1. 保育方法の理解と子育て支援に必要な知識と技術を習得し、虐待防止について考える事が出来る■ 2. 具体的な観察を行うことで様々な親子関係や育児や保育の方法について理解する事が出来る■ 3. 子育て支援の方法を観察したことを踏まえ、フォードバックすることで応用的に理解する事が出来る■ 4. 子どもの発達課題と親子関係の支援の必要性について理解する事が出来る■ 5. 理論と実践を通し、子育て支援に必要な専門性を総合的に理解する事が出来る■					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	実践参加レポート 20% 定期試験 80%とする。					
課題に対するフィードバック	授業後に内容を確認しフィードバックする。質問や感想シートへのフィードバックを授業中に行う。試験について課題がある場合はコメントをする。					
使用教材	子育て・子育て支援 寺見陽子 保育出版社 2014					
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標 1	予習	子育て支援に必要な保育方法を事前に第 1 章 1 節 2 節を読み予習する	1.5 時間		
		復習	子育て支援にむけた保育方法について内容を整理し復習する	1.5 時間		
2	講義内容	日本における保育方法の現状とニーズについて				
	該当する到達目標 1,2	予習	子育て支援の現状について事前に第 2 章第 1 節 2 節を読み予習する	1.5 時間		
		復習	子育て支援の現状と具体的なニーズを整理し必要事項を復習する	1.5 時間		
3	講義内容	保育方法に必要な児童家庭福祉の知識について■				
	該当する到達目標 1,2	予習	児童虐待の背景や予防と現状について事前に第 4 章第 6 節を予習する	1.5 時間		
		復習	子育て支援と児童虐待防止につながる知識技術を確認し復習をする	1.5 時間		
4	講義内容	親支援に必要な関わりと子どもの育ちについて ■				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	子育て支援に必要な親の関わりを事前に第 4 章第 1 節を読み予習をする	1.5 時間		
		復習	親支援に必要な関わりと子どもの育ちの関連性を整理し復習をする	1.5 時間		
5	講義内容	子どもと家族関係について(親の心理、障害児と家族、夫婦関係を含む)■				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	子どもの障害と家族の関係性、育児不安について第 6 章を事前に予習する	1.5 時間		
		復習	子どもの置かれた障害と育児不安の状況を整理し復習をする	1.5 時間		
6	講義内容	保育所・幼稚園でみられる子どもの課題と対応について■				
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	子どもの行動や課題の背景について事前に第 9 章第 3 節を予習する	1.5 時間		
		復習	子どもが示す様々な課題や問題行動について必要事項を整理し復習する	1.5 時間		
7	講義内容	子育て支援にむけた観察の視点と支援方法について(留意点を含む)■				

	該当する到達目標 3,4	予習	子育て支援の観察方法や視点について事前に第 9 章を読み予習する	1.5 時間
		復習	子育て支援に必要な観察や支援方法について必要事項を整理し復習する	1.5 時間
8	講義内容 子育て支援の相談技術の基礎1(支援センターの活動後のレポート、指導案作成)■			
	該当する到達目標 2,4	予習	支援センターの活動内容について事前に第 11 章を読み予習をする	1.5 時間
		復習	実践活動と観察に必要なレポート、指導案等必要な事項を整理し復習する	1.5 時間
9	講義内容 子育て支援の相談技術の基礎2(支援センター活動後のグループ・ディスカッション)■			
	該当する到達目標 3,4	予習	活動後にむけて必要な子育て支援について事前に第 12 章を読み予習する	1.5 時間
		復習	活動後具体的な子育て支援や必要な方法について整理し復習をする	1.5 時間
10	講義内容 事例検討による具体的な支援方法について1(親子の遊びの場面からの観察)■			
	該当する到達目標 2,3,4	予習	親子の関係性から見えてくる関わりを調べ事前に第 10 章を読み予習する	1.5 時間
		復習	事例を通じて観察できた親子の関係性から関わりを整理し復習をする	1.5 時間
11	講義内容 事例検討による具体的な支援方法について2(親子の活動から見えた支援)■			
	該当する到達目標 2,3,4	予習	事例検討する内容や状況を事前に第 3 章第 4 節第 5 節を読み予習する	1.5 時間
		復習	事例検討から見えてきた支援方法について振り返り復習をする	1.5 時間
12	講義内容 事例検討による具体的な支援方法について3(関わりが難しい親子支援と方法)■			
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	関わりが築けない親子の関係性を事前に第 12 章を読み予習する	1.5 時間
		復習	親子の関わりが築けない親子の状況から見えた事項を整理し復習する	1.5 時間
13	講義内容 地域子育て支援施設見学(インターナショナル認定こども園、幼稚園、保育所等)■			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	様々な地域の子育て施設にむけた保育実践を事前に第 11 章を調べ予習する	1.5 時間
		復習	地域の様々な子育て支援の取り組みについて整理し復習する	1.5 時間
14	講義内容 親子に必要な子育て支援についての理論と実践、支援方法について■			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	子育てに必要な親子の関係性について事前に第 10 章を読み予習する	1.5 時間
		復習	子育て支援に必要な親子の関わりや支援方法を整理し必要事項を復習する	1.5 時間
15	講義内容 まとめ 保育方法と今後必要な子育て支援と専門性について			
	該当する到達目標 1,2,3,4,5	予習	子育て支援の方法について事前に第 12 章第 5 節を調べ予習する	1.5 時間
		復習	保育について学習した技術、方法、課題を総合的に理解し復習する	1.5 時間
備考	授業の進め方:講義とともに「子ども家族支援センター」にて、実践的活動に参加し、親子の問題理解を具体的に学び整理していく。オフィスアワー 火曜日 4, 5 限 chiba@takasaki-u.ac.jp KEY WORD 保育の方法 親子関係 支援と実践 子育て支援			

科目名	心身の発達と学習過程(保育・教育の方法技術)			CEW119	講義
英文名	Psychological, Physical Development and Learning Processes				
担当教員	角野 善司				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位 教員養成コース 選択 2 単位		
講義目標	「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」のうち、主に幼児期までの発達と学習が、その後の生涯にわたる発達と学習にどのように関わっていくかに重点を置いて学んでいく。そのうえで、心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。				
到達目標	1. 生涯にわたる発達、中でも幼児期までの心身の発達の過程及び特徴を理解する。 2. 生涯にわたる学習、中でも幼児期までの学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回の宿題(復習課題) 15%、学期中 3 回程度のレポート 30%、学期末の筆記試験 55%。				
課題に対するフィードバック	宿題・レポートは毎回授業時に、学期末テストは事後に講評解説の機会を設ける。				
使用教材	教科書は使用しない。参考書・参考資料等は以下のとおりである。 文部科学省「幼稚園教育要領 平成 29 年 3 月」 内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 29 年 3 月」 厚生労働省「保育所保育指針 平成 29 年 3 月」				
1	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(1): 生涯発達とは			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスを読んで講義の目標などを理解する。		1.5 時間
		復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。		1.5 時間
2	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(2): 発達段階と発達課題			
	該当する到達目標 1	予習	参考書の関連箇所を精読する。		1.5 時間
		復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。		1.5 時間
3	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(3): 社会・文化と人間発達			
	該当する到達目標 1	予習	参考書の関連箇所を精読する。		1.5 時間
		復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。		1.5 時間
4	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(4): 胎生期の発達			
	該当する到達目標 1	予習	参考書の関連箇所を精読する。		1.5 時間
		復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。		1.5 時間

5	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(5): 新生児期の発達		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	1	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
6	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(6): 乳児期の発達		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	1	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
7	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(7): 幼児期前期の発達		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	1	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
8	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(8): 幼児期後期の発達		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	1	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
9	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(9): 児童期・青年期の発達		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	1	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
10	講義内容	生涯発達に幼児期までの発達を位置づける(10): 成人期・老年期の発達		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	1	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
11	講義内容	子どもの発達と学習について考える(1): 初期学習		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	2	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を始める。	1.5 時間
12	講義内容	子どもの発達と学習について考える(2): 発達を導く教育		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	2	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
13	講義内容	子どもの発達と学習について考える(3): 幼児期における基本的生活習慣の学習		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	2	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
14	講義内容	子どもの主体的学習について考える(1): 子どものやる気		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間
	2	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートの作成に向けた学習を重ねる。	1.5 時間
15	講義内容	子どもの主体的学習について考える(2): 主体的学習を支える指導		
	該当する到達目標	予習	参考書の関連箇所を精読する。	1.5 時間

	2	復習	参考書の関連箇所・配布資料・ノートを再読する。復習課題に解答する。課題レポートを作成する。	1.5 時間
備考	・オフィスアワー[前期]: 月曜 3 限、木曜 4 限 研究室: 8 号館 4 階 405 室 ・メールアドレス: zsumino@takasaki-u.ac.jp ・授業期間全体を通じた授業の進め方: 基本的に、毎回の授業は、①講義 と ②授業テーマと関連したグループディスカッション の二相から構成される。特に②は、実習での経験なども振り返りつつ積極的に討論してもらいたい。			

科目名	子育て支援(保育・教育の方法技術)			CEW153	演習
英文名	Child Rearing Support				
担当教員	千葉 千恵美				
科目に関連した実務経験	過去の場合: 保育士として市立保育所に勤務経験 現在の場合: 大学内「子ども家族支援センター」内で保育士、心理相談員として勤務				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	子育て支援の応用と事例検討・分析し、支援が必要な対象者への理解を深める。				
到達目標	1.子育て支援の理論と意義について理解することができる。■ 2.具体的な子育て支援について方法・技術を理解し事例検討を行い支援方法と実践を考える事が出来る。 3.保育ソーシャルワークを理解するとともに、児童虐待防止にむけ支援する事が出来る。■ 4.子育て支援の過程と記録や評価について必要性を理解する事が出来る。■ 5.他機関連携の相談援助必要性や地域社会の資源と役割についても総合的に理解する事が出来る。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中の積極的な参加と毎回到記述する感想シート 20% 定期試験を判断する 80%				
課題に対するフィードバック	授業終了後に学生から出された感想シートや質問についてフィードバックする。試験課題についてコメントをする				
使用教材	日常の保育を基盤とした子育て支援 萌文書林				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	子育て支援について指定教科書に目を通しておく		0.5 時間
		復習	子育て支援についての概要を復習する		0.5 時間
2	講義内容	子育て支援について■			
	該当する到達目標	予習	社会や家族形態の変化と子育て支援についてp1～p3を読み予習をする		0.5 時間
		復習	子育て支援の具体的な内容について復習する		0.5 時間
3	講義内容	保護者支援について■			
	該当する到達目標	予習	保護者支援においてp4～p6を読み予習をする		0.5 時間
		復習	保護者支援の必要性について復習をする		0.5 時間
4	講義内容	保育の特性―「養護」と「教育」について■			
	該当する到達目標	予習	保育と養護・教育の関連性についてp6を読み予習する		0.5 時間
		復習	保育と養護・教育の関連性を復習する		0.5 時間
5	講義内容	子どもの最善の利益とはなにか			
	該当する到達目標	予習	子どもの最善の利益とはなにかp8～p14を読んで予習する		0.5 時間
		復習	子どもの最善の利益について復習をする		0.5 時間
6	講義内容	子育て支援の基本理解について■			
	該当する到達目標	予習	自分らしく生きる力を育てるp15～p17を読んで予習をする		0.5 時間
		復習	子育ての基本である育てる力を復習する		0.5 時間
7	講義内容	子育ての基本である保護者との関係をつくる			

	該当する到達目標	予習	保護者との関係性で必要な事項p18～p21 を読んで予習する	0.5 時間
		復習	保護者との関係性で必要な事項を復習する	0.5 時間
8	講義内容	保育者の行う子育て支援の特性■		
	該当する到達目標	予習	子どもの保育とともにを行う保護者の支援p42～p50 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	保護者との共感性や共有など連携して行う事項について復習をする	0.5 時間
9	講義内容	日常的・継続的な関わりに必要な保護者との相互作用(地域子育て支援を含む)■		
	該当する到達目標	予習	日常的・継続的な関わりに必要な事項についてp64～p67 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	日常的・継続的な関わりに必要な事項について復習をする	0.5 時間
10	講義内容	子育て家庭の抱える支援ニーズの気づきと多面的な理解について■		
	該当する到達目標	予習	子育て家庭のニーズや総合的理解についてp70～p72 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	子育て家庭のニーズ並びに家族理解に必要な児童を復習する	0.5 時間
11	講義内容	保育者の行う子育て支援の展開について(子どもの虐待予防と対応を含む)■		
	該当する到達目標	予習	子どもや保護者の実態の把握、支援計画をp77～p98 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	子どもや保護者の実情把握、支援計画を復習する	0.5 時間
12	講義内容	子育て支援に必要な職員間の連携・協働(社会資源の活用)■		
	該当する到達目標	予習	子育て支援に必要な職員間・多機関連携p110～p120 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	子育て支援に必要な関係機関と職場の関連性について復習する	0.5 時間
13	講義内容	保育者の行う子育て支援とその実際(内容・方法・技術)■		
	該当する到達目標	予習	園における子育て支援内容についてp128～p148 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	園における子育て支援内容について復習をする	0.5 時間
14	講義内容	障害のある子どもその家庭や家族にむけた子育て支援■		
	該当する到達目標	予習	障害のある子どもと子育て支援についてp162～p176 を読んで予習する	0.5 時間
		復習	障害のある子どもと子育て支援について復習をする	0.5 時間
15	講義内容	要保護児童家庭に関する支援とまとめ		
	該当する到達目標	予習	要保護児童について子育て支援についてp198～p210 を読んで予習をする	0.5 時間
		復習	子育て支援の総まとめとして復習をする	0.5 時間
備考	授業の進め方: 講義のあとグループワークで、学んだことを出し得られたことを感想シートに記載し各自のまとめを行う。 オフィスアワー火曜日 4, 5 限目 chiba@takasaki-u.ac.jp KEY WORD 子育て支援 家族支援 困難事例 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	チーム医療アプローチ演習(保育・教育の方法技術)			CEW511	演習
英文名	Practical Team Approach to Health Care				
担当教員	各学科担当教員				
科目に関連した実務経験	病院における経営企画室に 15 年従事し、病院経営、医療政策、新規事業の立ち上げなどを行ってきた。同時に診療情報管理士としても 5 年間 ICD コーディングや統計業務などを行ってきた。				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	チーム医療が必要な事例を用いて、福祉・医療系の各専門職の役割・活動および患者、家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらにチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性、および専門職の連携の課題について学ぶ。				
到達目標	1.各専門職の役割と活動について理解できる。■ 2.患者・家族に必要な福祉・医療活動が理解できる。■ 3.チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性が理解できる。■ 4.チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	演習参加への積極性 20%、レポート 50%、グループ発表の内容 30%の総合評価				
課題に対するフィードバック	模擬症例検討を行う際には教員がファシリテートし、グループごとに結果をまとめて発表させ、それに対して教員と他チームの学生による検討を行いフィードバックする。				
使用教材	関連する資料を随時プリントして配布する。				
1	講義内容	ガイダンス／チーム医療アプローチについて■			
	該当する到達目標	予習	チーム医療について調べておく。	1 時間	
	1,2,3,4	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1 時間	
2	講義内容	チームビルディング■			
	該当する到達目標	予習	専門職について調べておく	1 時間	
	1,2,3,4	復習	チーム内の他職種について学習しておく	1 時間	
3	講義内容	模擬症例検討・報告書作成①■			
	該当する到達目標	予習	症例解析について学んでおく。	1 時間	
	1,2,3,4	復習	模擬症例について学習する。	1 時間	
4	講義内容	模擬症例検討・報告書作成②■			
	該当する到達目標	予習	疾病と治療について学習し、専門職としてのかかわり方を学習する。	1 時間	
	1,2,3,4	復習	グループ内で各専門職の観点から模擬症例を読み合わせておく。	1 時間	
5	講義内容	模擬症例検討・報告書作成③■			
	該当する到達目標	予習	疾病と治療について学習し、各専門職のかかわり方を学習する。	1 時間	
	1,2,3,4	復習	グループ内で専門職の役割と活動について意見交換をし、学習を深める。	1 時間	
6	講義内容	発表・フィードバック①			
	該当する到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1 時間	
	1,2,3,4	復習	発表された各症例について復習しておく。	1 時間	
7	講義内容	発表・フィードバック②			

	該当する到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	発表された各症例について復習しておく。	1 時間
8	講義内容	発表・フィードバック③		
	該当する到達目標	予習	発表の準備をしておく。	1 時間
	1,2,3,4	復習	発表された各症例について復習しておく。	1 時間
	備考	【授業期間全体を通じた授業の進め方】 講義初めに、各専門職の役割と活動について復習し、チーム医療と多職種協働について理解を深めたうえで、症例検討を通して専門職としての関わりと他職種との協働を考える。検討内容は発表する。 予習・復習については、試験前後の学習にて補完すること。 キーワード: 専門職、チーム医療、多職種連携 オフィスアワー: 木村(情報) 月曜 1・2 限(1 号館 610 研究室) ■: 実務経験に基づく内容を示す。		

科目名	保育実習Ⅰ（実習）		CEF151	実習
英文名	Practice in Early Childhood Education and CareⅠ			
担当教員	保育実習Ⅰ担当教員			
科目に関連した実務経験	野田：指導員（社会福祉士・介護福祉士）として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務（経験）			
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 4 単位	
講義目標	保育実習Ⅰを通じて保育士の業務内容や職業倫理についての知識および技術習得をめざす。また、保育専門職としての健康管理能力や責任感を身につけさせる。各実習種の具体的目標は以下のとおりとする。 ▼保育所における実習 子どもと関わることを通して、子どもへの理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の業務内容、職業倫理を具体的に学ぶ。 ▼児童福祉施設等における実習 生活や支援活動に参加し、児童・利用者との関わりや支援活動を通して児童・利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設などの機能や保育士・施設職員の役割及び職務内容などに関する知識・技術習得をめざす。			
到達目標	1.保育所、児童福祉施設の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。■ 2.観察やかかわりを通して利用児者の状態像を多面的に把握し、説明できる。 3.保育所、児童福祉施設における職務を理解し行動できる。■			
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養		
	✓	専門的知識		
	✓	問題発見・解決力		
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）		
	✓	自律的・意欲的に学習する力		
評価方法	実習日誌 50%（保育所 25%，施設 25%）と評価票 50%（保育所 25%，施設 25%）より総合的に評価する。			
課題に対するフィードバック	事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。			
使用教材	実習先により適宜			
講義内容	保育所に概ね 2 週間（1 日 8 時間、週 5～6 日）12 日間程度通う、また児童福祉施設等に概ね 2 週間（1 日 8 時間、週 5～6 日）12 日間程度、宿泊もしくは通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。			
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認		実習中適宜
	復習	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備		実習中適宜
備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。また、実習指導の履修登録が必要。担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 また、報告会を適宜予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。			

科目名	保育実習指導 I (実習)			CEF152	演習
英文名	Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care I				
担当教員	保育実習 I 担当教員				
科目に関連した実務経験	指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期	2・3 年 通年	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位		
講義目標	保育実習 I に向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下を目標とする。 ・保育実習の意義、目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。				
到達目標	1.事前に保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場面をイメージした目標や行動指針が立てられるようになる。■ 2.子ども・利用者との関わりや観察を通じた記録、振り返りができるようになる。■ 3.今後の実習に向け具体的な学習と目標設定ができるようになる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	提出課題 40%, ディスカッションへの参加度 30%, 平常点(出席, 授業態度)30%				
課題に対するフィードバック	提出された課題は、コメントを付けて返却する。				
使用教材	高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1, その2 保育所保育指針解説書 教科書:小田豊監修・岡上直子・鈴木みゆき・酒井幸子編著「教育・保育実習と実習指導」光生館 OHC(書画映写機), スライド、DVD ビデオ等も使用する。				
1	講義内容	保育所実習に向かう心構えと準備			
	該当する到達目標	1	予習	1 年次の実習を振り返り, 自身の課題を明確化する	0.5 時間
		1	復習	授業内容を踏まえ, 実習に向けて必要な準備について整理する	0.5 時間
2	講義内容	保育所実習の実習先を決めるに向けて			
	該当する到達目標	1	予習	希望する実習先を調べる	0.5 時間
		1	復習	実習先の候補園の保育内容を調べる	0.5 時間
3	講義内容	保育所における乳幼児の発達の理解を深める			
	該当する到達目標	1,2	予習	これまでの授業を振り返り, 乳幼児の発達を復習しておく	0.5 時間
		1,2	復習	保育所保育指針解説書 p32～p37 を読み, 授業内容を振り返る	0.5 時間
4	講義内容	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める ①3 歳未満児			
	該当する到達目標	1	予習	保育所保育指針解説書 p38～p46 を読み, 3 歳未満児の発達とその配慮につ	0.5 時間

	1,2		いて予習する	
		復習	保育所保育指針解説書 p108～p115 を読み, 3 歳未満児への援助と配慮について復習する	0.5 時間
5	講義内容	保育所保育における援助と配慮に対する理解を深める ②3 歳以上児		
	該当する到達目標	予習	保育所保育指針 p46～54 を読み, 3 歳以上児の発達とその配慮について予習する	0.5 時間
	1,2	復習	保育所保育指針 p116～122 を読み, 3 歳以上児の発達とその配慮について復習する	0.5 時間
6	講義内容	保育所実習の日誌の書き方 ①時系列の記録について		
	該当する到達目標	予習	1 年次に記録した実習日誌を読み返し, 自身の課題を明確化する	0.5 時間
	1,2	復習	自身の課題に合わせて, 授業内容を踏まえて, 保育記録の留意点を復習する	0.5 時間
7	講義内容	保育所実習の日誌の書き方 ②エピソード記録について		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.5 時間
	1,2	復習	記録する上での留意点を復習する	0.5 時間
8	講義内容	保育所実習の日誌の書き方 ③環境について		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.5 時間
	1,2	復習	記録する上での留意点を復習する	0.5 時間
9	講義内容	保育所実習の目的と意義		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.5 時間
	1,2	復習	授業内容を踏まえ, 自己課題を考える	0.5 時間
10	講義内容	保育所実習に向けての自己課題		
	該当する到達目標	予習	自己課題を整理する	0.5 時間
	1,2	復習	自己課題を完成させる	0.5 時間
11	講義内容	保育所実習に向かうための手続きや諸準備		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.5 時間
	1,2	復習	保育所実習に向かうための手続きや諸準備に関する今後の計画を確認する	0.5 時間
12	講義内容	保育所実習の指導案の作成		
	該当する到達目標	予習	責任実習に使用したい指導案を作成する	0.5 時間
	1,2	復習	指導を踏まえて, 指導案を修正する	0.5 時間
13	講義内容	保育所実習事後指導 ①実習態度に対する振り返り		
	該当する到達目標	予習	実習日誌を読み, 自身の実習態度を振り返る	0.5 時間
	3	復習	次の実習に向けた自己課題を考える	0.5 時間
14	講義内容	保育所実習事後指導 ②実習内容に対する振り返り		
	該当する到達目標	予習	実習日誌を読み, 自身の実習内容を振り返る	0.5 時間
	3	復習	次の実習に向けた自己課題を考える	0.5 時間
15	講義内容	保育所実習事後指導 ③事例検討		
	該当する到達目標	予習	実習日誌を読み, 印象に残った子どもの姿や場面を振り返る	0.5 時間
	3	復習	次の実習に向けた自己課題を整理する	0.5 時間
16	講義内容	施設実習に向かう心構えと配属に向けて■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 全体編を読んでおく。	0.5 時間
	1	復習	配布資料に基づき各児童福祉施設の目的・実習の特徴を調べる。	0.5 時間
17	講義内容	施設実習の配属調整・決定		

	該当する到達目標	予習	前回授業時の配布資料を確認し配属希望が出せるようにしておく。	0.5 時間
	1	復習	配属実習種別の運営指針をダウンロードし目を通しておく。	0.5 時間
18	講義内容	施設実習に関連する事務手続きとスケジュール・体調管理		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その1を読んでおく。	0.5 時間
	1	復習	個人票の記入・提出。実習スケジュール自己管理表の記入・確認。	0.5 時間
19	講義内容	施設実習の目的・目標・内容■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅰ，Ⅱを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設実習の目的・目標などを理解する。	0.5 時間
20	講義内容	施設実習の実際 ①実習施設の事前学習■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設種別の特徴、実習の相違点について理解する	0.5 時間
21	講義内容	施設実習の実際 ②事前オリエンテーションと準備物■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	事前オリエンテーションに向けた手順、内容、留意点を理解する。	0.5 時間
22	講義内容	施設実習の実際 ③施設実習日誌の書き方■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設実習日誌の書き方と留意点などを理解する。	0.5 時間
23	講義内容	施設実習の実際 ④実習中の心構え■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅳを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実習中におけるトラブルシューティングを理解する。	0.5 時間
24	講義内容	施設実習の実際 ⑤事後指導の内容と方法		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅰ（施設）の部Ⅴを読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	事後指導の内容と方法を理解できる。	0.5 時間
25	講義内容	施設実習事後集団指導 ①報告書の作成および指導		
	該当する到達目標	予習	実習報告書の下書きを完成させる。	0.5 時間
	2,3	復習	添削指導のコメントをもとに加筆修正および報告会発表準備をする。	0.5 時間
26	講義内容	施設実習事後集団指導 ②実習報告会（児童養護施設）■		
	該当する到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
27	講義内容	施設実習事後集団指導 ③実習報告会（乳児院・母子生活支援施設）■		
	該当する到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
28	講義内容	施設実習事後集団指導 ④実習報告会（障害児入所施設・障害者支援施設）■		
	該当する到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
29	講義内容	施設実習事後個別指導 ①（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）■		
	該当する到達目標	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5 時間
	2,3	復習	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5 時間
30	講義内容	施設実習事後個別指導 ①（障害児入所施設・障害者支援施設）■		
	該当する到達目標	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5 時間
	2,3	復習	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5 時間

備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示する。 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	保育実習Ⅱ(保育所)(実習)			CEF153	実習
英文名	Practice in Early Childhood Education and Care II (Nursery)				
担当教員	岡本 拓子 富田 純喜 今井 麻美				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位		
講義目標	既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児に対する保育実践、保護者支援を総合的に理解し、自らの実践力を向上させる。				
到達目標	1.自分なりの課題や問題意識を持ちながら実習に取り組むことができる。 2.一人一人に応じる保育方法や援助方法について、試行錯誤する姿勢を持てる。 3.保育士としての自己の課題を明確化する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習日誌 50%, 評価票 50%				
課題に対するフィードバック	事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。				
使用教材	高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1, その2 OHC(書画映写機), スライド、DVD ビデオ等も使用する。				
講義内容	保育所に概ね 2 週間(1 日 8 時間、週 5〜6 日)12 日間程度通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。				
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認			実習中適宜
	復習	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備			実習中適宜
備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。また、実習指導の履修登録が必要。担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず学んだことや調べたことをチェックし、帰宅後も必ず思い出して指示されたことや学んだことを書き出すなどの行為が必要である。 担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示する。				

科目名	保育実習Ⅲ(施設)(実習)			CEF154	実習
英文名	Practice in Early Childhood Education and Care III (Welfare Facilities)				
担当教員	石原 綱成 野田 敦史				
科目に関連した実務経験	野田:指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 4 単位		
講義目標	保育実習Ⅰで習得した保育士の業務内容や職業倫理についての基本的な知識・技術を踏まえて、より高度な保育・養護実践の経験を通じて汎用性のある実践力を養うことをめざす。具体的目標は以下のとおりとする。 1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4.保育士としての自己の課題を明確化する。				
到達目標	1.児童福祉施設の目的や職員の役割などを具体的に説明できる。■ 2.観察やかかわりを通して利用児者の状態像を多面的に把握・アセスメントできる。■ 3.利用児者の生活課題を抽出し個別の支援計画を立案できる。■ 4.児童福祉施設における職務・倫理を理解し社会福祉援助技術実践ができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習日誌 50%と評価票 50%により総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	事後指導において実習日誌、評価表、提出物等を材料に適宜、口頭もしくはコメントを付してフィードバックする。				
使用教材	実習先により適宜				
講義内容	児童福祉施設等に概ね2週間(1日8時間、週5～6日)12日間程度、宿泊もしくは通う。上記の到達目標達成に向けて実習を受講する。				
	予習	実習先に関する予習、実習指導で準備した資料の確認			実習中適宜
	復習	実習日誌の記入。実習先で教わったことの再確認、現場で得た実体験のまとめ、報告会用資料準備			実習中適宜
備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。また、実習指導の履修登録が必要。担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示する。予習、復習に必要な時間は特に明記しないが、実習期間中は現場に入る前に必ず教わったことや調べたことをチェックし、帰宅後は必ず思い出して指示されたことや教わったことを書き出すなどの行為が必要である。 また、報告会を適宜予定しているため、実習期間中から報告会資料の作成に着手することを勧める。 ■:実務経験に基づく内容				

科目名		保育実習指導Ⅱ(実習)			CEF155	演習
英文名		Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care II				
担当教員		岡本 拡子 富田 純喜 今井 麻美				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		4 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位		
講義目標		既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児に対する保育実践、保護者支援に対する理解を総合的に深め、実践力を養う。保育の記録、および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。				
到達目標		1.保育実習Ⅰや既習の教科の内容を踏まえ、事前指導において、自己の課題を明確にすることができる。 2.保育の様々な記録様式を学び、それぞれの利点と欠点について理解することができる。 3.自身の保育実践を多角的な視点から省察する態度を持つことができる。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		提出課題 40%, ディスカッションへの参加度 30%, 平常点(出席, 授業態度)30%				
課題に対するフィードバック		提出された課題にはコメントを付けて返却する				
使用教材		高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1, その2 保育所保育指針解説書				
1	講義内容	保育実習Ⅱの目的と意義				
	該当する到達目標 1	予習	「保育・教育の手引き」の該当箇所を読み予習する			0.5 時間
		復習	保育実習Ⅱの目的と意義について理解を深める			0.5 時間
2	講義内容	実習園決定に向けて				
	該当する到達目標 1	予習	希望する実習先を考えたり, 調べたりする			1 時間
		復習	実習先の候補園の保育内容を調べる			1 時間
3	講義内容	保育実習Ⅰの振り返り ①記録				
	該当する到達目標 1,3	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り, 自身の課題を考える			0.5 時間
		復習	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する			0.5 時間
4	講義内容	保育実習Ⅰの振り返り ②自身の子どもへの関わり				
	該当する到達目標 1,3	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り, 自身の課題を考える			0.5 時間
		復習	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する			0.5 時間
5	講義内容	保育実習Ⅰの振り返り ③3 歳未満児の保育実践				
	該当する到達目標 1,3	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り, 疑問点などを明らかにする			0.5 時間
		復習	保育実習Ⅱに向けた自身の課題を明確化する			0.5 時間
6	講義内容	保育実習Ⅱの実習日誌における記録方法 ①新たな記録方法を学ぶ				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り, 自身の課題を明確にする			0 時間
		復習	新たな記録方法を復習する			0.5 時間

7	講義内容	保育実習Ⅱの実習日誌における記録方法 ②新たな記録方法で記録してみる		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	これまで学んだ記録方法について、それぞれにおけるメリットデメリットについて考える	0 時間
		復習	新たな記録方法の留意点を整理して理解を深める	0.5 時間
8	講義内容	保育所実習に向けての自己課題		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	保育実習Ⅱの自己課題を考える	0.5 時間
		復習	保育実習Ⅱの自己課題を明確化する	0.5 時間
9	講義内容	保育実習Ⅱに向かうための手続きや諸準備		
	該当する到達目標 1	予習	「教育・保育の手引き」の該当箇所を読み予習する	0.5 時間
		復習	保育実習Ⅱに向かうための手続きや諸準備に関する今後の予定を確認する	0.5 時間
10	講義内容	事後指導 ①グループディスカッション 自身の子どもへの関わり		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
		復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
11	講義内容	事後指導 ②グループディスカッション 保育者の援助から学んだこと		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
		復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
12	講義内容	事後指導 ③グループディスカッション 子どもの経験と保育環境		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
		復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
13	講義内容	事後指導 ④グループディスカッション 記録		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
		復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
14	講義内容	事後指導 ⑤グループディスカッション 責任実習		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	グループディスカッションで共有したい出来事や内容を整理する	0.5 時間
		復習	グループディスカッションを通して得た気づきを整理する	0.5 時間
15	講義内容	事後指導 ⑥ まとめ		
	該当する到達目標 1,2,3	予習	グループディスカッションを通して、気づいた自己課題を整理する	0.5 時間
		復習	保育士としての自己の課題を明確化する	0.5 時間
備考	授業では、保育実習Ⅰの日誌を用いて実習を振り返りながら、次の実習に対する課題を見つけていきます。 また、仲間と対話しながら学びを深めることを大事にして、授業を進めていきます。 担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示します。			

科目名		保育実習指導Ⅲ(実習)			CEF156	実習
英文名		Pre and Post Guidance for Practice in Early Childhood Education and Care III				
担当教員		石原 綱成 野田 敦史				
科目に関連した実務経験		指導員(社会福祉士・介護福祉士)として障害者支援施設・福祉型障害児入所施設に勤務(経験)				
学年・開講期		4 年 前期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位		
講義目標		保育実習Ⅲに向けて円滑に準備ができ、実習中および実習後の学びの深化をめざす。具体的には以下を目標とする。 ・保育実習の意義、目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。				
到達目標		1.事前に児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実習場面をイメージした目標や行動指針が立てられるようになる。■ 2.子ども・利用者との関わりや観察を通じた記録、振り返りができるようになる。■ 3.社会福祉援助技術を活用した保育実践ができるようになる。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		提出課題 40%, ディスカッションへの参加度 30%, 平常点(出席, 授業態度)30%				
課題に対するフィードバック		提出された課題は、コメントを付けて返却する。				
使用教材		高崎健康福祉大学人間発達学部「教育・保育の手引き」その1, その2 厚生労働省HP所管 各事業実施要綱およびガイドライン 教科書:小田豊監修・岡上直子・鈴木みゆき・酒井幸子編著「教育・保育実習と実習指導」光生館 OHC(書画映写機), スライド、DVDビデオ等も使用する。				
1	講義内容	施設実習に向かう心構えと配属に向けて				
	該当する到達目標 1	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 全体編を読んでおく。			0.5 時間
		復習	配布資料に基づき各児童福祉施設の目的・実習の特徴を調べる。			0.5 時間
2	講義内容	施設実習の配属調整・決定				
	該当する到達目標 1	予習	前回授業時の配布資料を確認し配属希望が出せるようにしておく。			0.5 時間
		復習	配属実習種別の運営指針をダウンロードし目を通しておく。			0.5 時間
3	講義内容	施設実習に関連する事務手続きとスケジュール・体調管理				
	該当する到達目標 1	予習	「教育・保育実習の手引き」その1を読んでおく。			0.5 時間
		復習	個人票の記入・提出。実習スケジュール自己管理表の記入・確認。			0.5 時間
4	講義内容	施設実習の目的・目標・内容■				
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その2 保育実習Ⅲ(施設)の部Ⅰ, Ⅱを読んでおく。			0.5 時間

	1,2	復習	施設実習の目的・目標などを理解する。	0.5 時間
5	講義内容	施設実習の実際 ①実習施設の事前学習■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 保育実習Ⅲ(施設)の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設種別の特徴、実習の相違点について理解する	0.5 時間
6	講義内容	施設実習の実際 ②事前オリエンテーションと準備物■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 保育実習Ⅲ(施設)の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	事前オリエンテーションに向けた手順、内容、留意点を理解する。	0.5 時間
7	講義内容	施設実習の実際 ③施設実習日誌の書き方■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 保育実習Ⅰ(施設)の部Ⅲを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	施設実習日誌の書き方と留意点などを理解する。	0.5 時間
8	講義内容	施設実習の実際 ④実習中の心構え■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 保育実習Ⅰ(施設)の部Ⅳを読んでおく。	0.5 時間
	1,2	復習	実習中におけるトラブルシューティングを理解する。	0.5 時間
9	講義内容	施設実習の実際 ⑤事後指導の内容と方法■		
	該当する到達目標	予習	「教育・保育実習の手引き」その 2 保育実習Ⅰ(施設)の部Ⅴを読んでおく。	0.5 時間
	2,3	復習	事後指導の内容と方法を理解できる。	0.5 時間
10	講義内容	施設実習事後集団指導 ①報告書の作成および指導		
	該当する到達目標	予習	実習報告書の下書きを完成させる。	0.5 時間
	2,3	復習	添削指導のコメントをもとに加筆修正および報告会発表準備をする。	0.5 時間
11	講義内容	施設実習事後集団指導 ②実習報告会 (児童養護施設・乳児院)■		
	該当する到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
12	講義内容	施設実習事後集団指導 ③実習報告会 (児童発達支援センター)■		
	該当する到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
13	講義内容	施設実習事後集団指導 ④実習報告会 (障害児入所施設・障害者支援施設)■		
	該当する到達目標	予習	報告会発表準備をする。	0.5 時間
	2,3	復習	リフレクションカードの記入と報告書加筆修正。	0.5 時間
14	講義内容	施設実習事後個別指導 ①(乳児院・児童養護施設)■		
	該当する到達目標	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5 時間
	2,3	復習	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5 時間
15	講義内容	施設実習事後個別指導 ②(障害児入所施設・障害者支援施設 その他の施設)■		
	該当する到達目標	予習	個別指導の諮問を想定したレクチャーの練習。	0.5 時間
	2,3	復習	選択実習に向けたリフレクションカードの記入。	0.5 時間
備考	履修にあたっては要件科目があるため確認を要する。担当教員のメールアドレスおよびオフィスアワーは、実習指導の授業において一覧で提示する。			

科目名	幼稚園教育基礎実習(実習)			CEF101	実習
英文名	Basic Teaching Practice in Kindergarten				
担当教員	今井 邦枝 山西 加織 内田 祥子				
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園に勤務(経験: 今井) 現職の幼稚園教諭をゲストスピーカーとして招く(第 2 回)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 1 単位		
講義目標	幼稚園教育基礎実習とは、幼稚園に出向いて 1 週間の教育実習をするもので、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等について主に観察を通じて学ぶことが目的である。 また、幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。				
到達目標	1.実習における自己課題を明確にする 2.幼児期の教育の基本を理解し説明することができる 3.幼児期の発達について理解し説明することができる 4.日誌の記載方法を理解し、適切に記載できる 5.実習に向けて主体的に準備に取り組む 6.事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	提出課題にはコメントをつけて返却する				
使用教材	「幼稚園教育要領解説」「日誌の書き方」「教育基礎実習の手引き」				
講義内容	・事前指導では、幼児教育の基本・子どもの発達と遊び・保育のねらいと実習のねらい・日誌の記載などについて確認し、実習に際しての自己課題を明確にする。また実習のために必要な準備事項の確認をしたり、実習生として相応しい態度を身に付ける。 ・実習では、主に観察実習を通じて、幼稚園での教師の役割や幼児の実態等、一日の保育の流れ等について主に学ぶ。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。 ・事後指導では、基礎実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。				
	予習	事前に「実習の手引き」の該当部分を読んでくること			5 時間
	復習	実習の手続きに必要な課題や実習の準備、実習中の日誌提出、実習後の課題提出			10 時間
備考	提出物は期日厳守で提出すること。無断での遅刻欠席は厳禁。 授業は講義形式及びグループワーク形式で実施する。				

科目名	小学校教育基礎実習(事前事後指導含む)(実習)			CEF201	実習
英文名	Basic Teaching Practice in Elementary School				
担当教員	片山 豪 角野 善司 小西 尚之				
科目に関連した実務経験	片山:教諭(理科)として高等学校に勤務(経験), 小西:教諭(教諭)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 1 単位 教員養成コース 必修 1 単位		
講義目標	小学校で1週間の基礎的な実習を行うことによって、3年生の小学校教育実習に向けての基本的な準備と事前学習となるものである。				
到達目標	1.小学校で教育活動に従事している教職員の仕事や児童の学びについて、実践を通して基礎的な観察・体験を行い、大学での学修に一層の動機づけをすることができる。 2.小学校で教育活動に従事している教職員の仕事や児童の学びについて、実践を通して基礎的な観察・体験を行い、学校・教育・教師・児童への理解を深めることができる。 3.教職員の仕事に関して、教師の目線で考えることができる。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習の評価(実習校による評価、実習日誌等)(80%)、事前事後指導の評価(課題の提出状況および内容、実習報告書、実習報告会におけるプレゼンテーション、授業参加度等)(20%)。				
課題に対するフィードバック	実習後には報告書をもとに面談を行う。				
使用教材	『教育・保育実習の手引 その1(心構え・事務手続き 共通編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部) 『教育・保育実習の手引 その2(事前・事後指導編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部)				
講義内容	・実習前は、実習の準備や実習校との打ち合わせ方を指導する。また、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・接遇等について指導する。■ ・実習中は実習校の担当教員の指導を第一としつつ、大学の担当教員が実習校を訪問して、実習生に対する指導を行う。 ・実習後は、面談、実習報告会などを通じて、実習での学びや今後の学修・進路にどのような意味を持ったか等を報告し合い、指導助言を与える。■				
	予習	事前指導の課題(実習の目標、外部講師講演会の感想)を仕上げる。実習校からの指示を準備する。日誌の事前に書くべきところを書いておく。			5 時間
	復習	実習日誌に記述不十分な箇所がないか確認し、適宜加筆し完成させる。実習報告書を書く。実習報告会のプレゼンテーション資料を作成する。			10 時間
備考	実習前は、実習の手引きや教員の自作資料で実習の事前指導を行う。実習後は、実習報告を教員との面談形式で進め(報告書の作成)、班分けしたグループで報告会を行う。 提出物等は、期日時間厳守で提出すること。 実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。 (片山) オフィスアワー: 水曜 3 限、金曜 2 限 メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室				

	(角野) オフィスアワー: 【前期】 月曜 3 限、木曜 4 限 【後期】 火曜 3 限、木曜 3 限 メールアドレス: zsumino@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 405 研究室 (小西) オフィスアワー: 火曜 5 限、金曜 2 限 メールアドレス: konishi@takasaki-u.ac.jp ■: 実務経験に基づく内容を示す。

科目名	中学校教育基礎実習(実習)			CEF301	講義
英文名	Basic Teaching Practice in Junior High School				
担当教員	中村博生・嶋田和成・松田幸子				
科目に関連した実務経験	中村:英語教師として中学校に勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	必修 1 単位		
講義目標	中学校教員免許(英語)を取得するにあたって、中学校に出向いて1週間の基礎的な教育実習をするもので、実習が確実にできるよう、実習校と密に連携協力しながら、巡回等の方法で指導する。				
到達目標	1. 中学校に出向いて、そこで教育活動に従事している教職員の仕事、役割等について、実践を通して基礎的な観察・体験を行う。 2. 基礎的な実習を行うことで、大学での学修にいつそうの動機づけをする。 3. 基礎実習に基づいて、現場での学校・教育・教師についての理解を深める。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習の実際(実習日誌、研究授業等)(50%)、実習校の評価(40%)、事前事後指導(報告会、出席状況)(10%)の総合評価。				
課題に対するフィードバック	実習日誌等については添削・コメントを付したのち返却する。				
使用教材	『保育・教育基礎実習の手引き』				
講義内容	・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。 ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問することで、実習生に対する指導を行う。 ・実習校に出向くにあたっては、事前の準備を周到に行う。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、報告会を開催するなど事後の指導を入念に行う。■				
	予習	学習指導要領の通読・理解			8.0 時間
	復習	観察授業のまとめ、報告書の作成			7.0 時間
備考	講義は主に現場での実習からなる。事前事後指導は、教員との個別面談と、資料・パワーポイント等を用いた学生の報告会によって進める。 中村(nakamura-h@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜 4 限と木曜 4 限 研究室:9 号館 3 階 302 号室 嶋田(shimada-k@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜 3 限 研究室:9 号館 303 号室 松田(matsuda-y@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー:水曜 3 限 研究室:9 号館 304 号室 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	幼稚園教育実習(事前事後指導含む)(実習)			CEF102	実習
英文名	Teaching Practice in Kindergarten (Including Pre/Post Guidance)				
担当教員	今井 邦枝 山西 加織 内田 祥子				
科目に関連した実務経験	非常勤講師として幼稚園に勤務(経験:今井)				
学年・開講期	3 年 通年	必選・単位数	保育・教育コース 必修 4 単位		
講義目標	幼稚園教育実習とは 1 年次におこなった基礎実習での学びを基礎とし、保育者の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高めることを目的とする。 幼稚園教育実習事前事後指導では、スムーズに実習に取り組めるよう実習の事前準備を行い、実習後には報告会などを通じて実習での学びの定着と課題の意識化をはかる。				
到達目標	1.基礎実習時の課題を踏まえ、本実習に向けての自己課題を明確にもつ 2.日誌の記載方法の理解し、適切に記載できる 3.責任実習に向けて指導計画をたてることことができる 4.教材研究の重要性を知り、実際におこなうことができる 5.指導計画に基づき適切に保育を展開できる 6.事後指導では、グループワークを通じて実習での経験を共有すると共に、自らの学びを振り返ることで課題を明確にする。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習園における評価をもとに、事前事後指導への取り組み、実習記録の記入状況、実習報告会の内容を参考にしながら、実習担当者が総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	課題にコメントをつけて返却する				
使用教材	「教育・保育実習の手引」「幼稚園教育要領解説」「実習日誌の書き方」				
講義内容	・事前指導では、日誌の書き方を確認すると共に、模擬保育・指導案作成などを通じて責任実習に向けての準備をおこなう。また基礎実習での学びを振り返り、本実習での自己課題を明確にする。また実習のために必要な準備事項の確認をし、実習生として相応しい態度を身に付ける。 ・実習では、主に保育者の役割や保育の展開方法について責任実習などを通じて理解を深め実践力を高める。また毎日日誌を記載し、園に提出をする。 ・事後指導では、基礎実習での学びを、グループワークなどを通じて振り返り共有することで、新たな課題意識を持つことを目指す。				
	予習	事前に「実習の手引き」の該当部分を読んでくこと・指導案作成と模擬保育準備			10 時間
	復習	実習の手続きに必要な課題や実習の準備・実習中の日誌提出・実習後の課題提出			5 時間
備考	提出物は期日厳守で提出すること。無断での遅刻欠席は厳禁。 授業は講義形式及びグループワーク形式で実施する。				

科目名	小学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)			CEF202	実習
英文名	Teaching Practice in Elementary School (Including Pre/Post Guidance)				
担当教員	片山 豪 角野 善司 小西 尚之				
科目に関連した実務経験	片山;教諭(理科)として高等学校に勤務(経験), 小西;教諭(英語)として高等学校に勤務(経験)				
学年・開講期	3 年 通年	必選・単位数	保育・教育コース 選択 4 単位 教員養成コース 必修 4 単位		
講義目標	・小学校で実習を行う学生が、実習先での勤務の仕方、待遇等について事前指導を受け、3週間の教育実習を行う。 ・実習中は実習校の指導を受けながら、研究授業等を行う。 ・実習後は報告会に参加し、他の実習生たちの体験を聞くことを通して、学校・教師・児童への理解と実践的力量について認識し、教師としての自覚を深める。				
到達目標	1.実習校に出向くにあたって、種々の心構え・態度等を身につけることができる。 2.実習中は、実習校の指導のもと、観察・参加・授業実習に携わり、学校・教師・児童への理解を深め、実践力を養うことができる。 3.実習後は、教育に対する使命感を確立することができる。 4.授業を行うにあたって、留意すべきことを理解することができる。■				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習の評価(実習校による評価、実習日誌、研究授業等)(80%)、事前事後指導の評価(課題の提出状況および内容、実習報告書、実習報告会におけるプレゼンテーション、授業参加度等)(20%)。				
課題に対するフィードバック	実習後には報告書をもとに面談を行う。				
使用教材	『教育・保育実習の手引 その1(心構え・事務手続き 共通編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部) 『教育・保育実習の手引 その2(事前・事後指導編)』(高崎健康福祉大学人間発達学部)				
講義内容	・実習前は、実習の準備や実習校との打ち合わせ方を指導する。また、実習校の教育方針等を理解させ、言葉遣い・待遇等について指導する。■ ・実習中は、実習校の担当教員の指導を第一としつつ、大学の担当教員が適宜訪問したり、Eメールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。 ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができない時はEメール等を用い、実習校の指導教員とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。 ・実習後は、面談、実習報告会などを通じて、実習での学びや今後の学修・進路にどのような意味を持ったか等を報告し合い、指導助言を与える。■				
	予習	事前指導の課題(実習の目標、外部講師講演会の感想)を仕上げる。実習校からの指示を準備する。日誌の事前を書くべきところを書いておく。学習指導案の書き方を学び準備をする。			5 時間
	復習	実習日誌、実習中に書いた学習指導案に記述不十分な箇所がないか確認し、適宜加筆し完成させる。実習報告書を書く。実習報告会のプレゼンテーション資料を作成する。			10 時間

備考	提出物等は、期日時間厳守で提出すること。 実習日誌については、実習校の指導担当教員に提出して指導を受けること。 実習前は、実習の手引きや教員の自作資料で実習の事前指導を行う。実習後は、実習報告を教員との面談形式で進め(報告書の作成)、班分けしたグループで報告会を行う。 (片山) オフィスアワー: 水曜 3 限、金曜 2 限 メールアドレス: katayama@takasaki-u.ac.jp 研究室: 9 号館 4 階 411 研究室 (角野) オフィスアワー: 【前期】 月曜 3 限、木曜 4 限 【後期】 火曜 3 限、木曜 3 限 メールアドレス: zsumino@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 405 研究室 (小西) オフィスアワー: 火曜 5 限、金曜 2 限 メールアドレス: konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 409 研究室 ■:実務経験に基づく内容を示す。

科目名	中学校教育実習(事前事後指導含む)(実習)			CEF302	講義
英文名	Teaching Practice in Junior High School (Including Pre/Post Guidance)				
担当教員	中村博生・嶋田和成・松田幸子				
科目に関連した実務経験	中村:英語教師として中学校に勤務(経験)				
学年・開講期	3 年 通年	必選・単位数	必修 3 単位		
講義目標	中学校教員免許(英語)を取得するにあたって、中学校に出向いて3週間の教育実習をするもので、実習が確実にできるように、実習校と密に連携協力しながら、巡回及び研究授業参加等の方法で指導する。				
到達目標	1. 中学校に出向き、教職員の仕事、役割、生徒の状況等について把握する。 2. 大学での学修を生かしながら、実際に授業を行い、授業実践力を身につける。 3. 教育実習を踏まえて、授業実践、生徒指導、教室運営などについての理解を深める。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習の実際(実習日誌、研究授業等)(50%)、実習校の評価(40%)、事前事後指導(報告会、出席状況)(10%)の総合評価。				
課題に対するフィードバック	実習日誌・報告書については添削・コメントを付したのち返却する。				
使用教材	『保育・教育実習の手引き』				
講義内容	・実習の前には大学において必要な事前指導を行うとともに、実習校との打ち合わせを緊密に行う。 ・実習中は実習校の担当教師の指導を第一としつつ、大学の担当教員が当該校を適宜訪問したり電話や E メールを用いたりしながら、実習生に対する指導を行う。 ・研究授業に際しては大学の担当教員が出向くことを原則とし、それができないときは電話や E メールを用い、実習校の指導教師とともに、実習生が実施した授業について必要な指導・助言を行う。 ・3 週間にわたる実習に臨むにあたっては、実習校と事前の準備を周到に行う。実習中も当該校及び当該校の担当教師と連絡をとりながら、実習が確実にできるよう、また、確実にできているかどうかを確認するため巡回し、適宜実習生に助言指導する。実習終了後は、学生たちにその記録を提出させ、実習報告会を開催して体験を報告させるなど事後の指導を入念に行う。■				
	予習	実際に中学校で授業を行うための、指導要領の通読、教材研究、指導案の作成			10 時間
	復習	研究授業のまとめ、報告書の作成			5 時間
備考	講義は主に現場での実習となる。事前事後指導は、教員との個別面談と、資料・パワーポイント等を用いた学生の報告会によって進める。 中村(nakamura-h@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜日の 3 限、質問はメールでも受け付ける。 嶋田(shimada-k@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜 3 限 研究室:9 号館 303 号室 松田(matsuda-y@takasaki-u.ac.jp) オフィスアワー:水曜 3 限 研究室:9 号館 304 号室 ■:実務経験に基づく内容を示す。				

科目名	特別支援学校教育基礎実習(実習)			CEF401	実習
英文名	Basic Teaching Practice in Special Needs School				
担当教員	小竹 利夫 五十嵐 一徳 村田 美和				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 1 単位		
講義目標	学生は、特別支援学校(知的障害、肢体不自由、病弱)でどのような教育が実際に行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・日々の授業について、基礎的な事柄を具体的に学ぶ。特に、担当教員が児童生徒の実態をどのように把握し、どのように目標を設定して授業を組み立てているか、教材の準備・同僚との打ち合わせ・チームティーチング・授業後の振り返りなどをどのように行っているかを観察し理解する。教員の指示の下で、授業の補助的な役割を体験する。特別支援学校における講話や実習記録を振り返り、自らの課題を明らかにする。				
到達目標	特別支援学校でどのような教育が行われているか、児童生徒の実態・教育課程・時間割・授業などについて、基礎的な事柄を理解すること。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習校における評価と実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見(50%)、事前事後指導(報告会・レポートなど)(50%)から総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	事後報告会において適宜コメントを行い、3 年次の教育実習で必要となる知識等についての気づきを促す。				
使用教材	教育基礎実習の手引				
講義内容	1. 事前学習として、実習生としての心構え、必要な基本的マナー、特別支援学校教育の概要、基礎実習の目的、実習記録の書き方などを講義する(3コマ)。 2. 5 日間(1 日 8 時間、計 40 時間)の特別支援学校教育基礎実習を実施する。そこでは、児童生徒の実態、教育課程、時間割、毎回の授業の目標設定、使用する教材、授業実践、授業後の振り返り(評価)などについて、実習校からの説明を受け、担当クラスあるいは学習グループにおいて参与観察を行う。また、教員の指示により、授業の補助を行う。毎日、実習記録を書き、実習校の担当教員に提出する。人間発達学部の教員が実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。 3. 事後学習として報告会を実施し、特別支援学校における講話や指導、実習記録を振り返り、3 年次の特別支援学校教育実習に向けて各自が取り組むべき課題を明らかにする(3コマ)。				
	予習	教育基礎実習の手引を読んでおくこと			8 時間
	復習	児童生徒の実態、教育課程、授業実践などについて理解する			7 時間
備考	・基礎実習の手引きや日誌を事前に読んでおくこと。また、事前指導で配布する資料を必ず授業後に繰り返し読むこと。不明な点については、特別支援教育大事典や教育小六法などで理解できるようにしておくこと。 ・1 年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。 ・特別支援学校教育基礎実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。 ・小竹利夫(オフィスアワー:月 3 限、火 4 限 メールアドレス:kotake@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 4 階				

	403 号室) ・五十嵐一徳(オフィスアワー:木曜日 2 限目、金曜日 2 限目 メールアドレス:igarashi-k@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 5 階 506 ・村田美和(オフィスアワー:火曜 2 限、金曜 2 限 メールアドレス:murata-m@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 502 号室)

科目名	特別支援学校教育実習(事前事後指導を含む)(実習)			CEF402	実習
英文名	Teaching Practice in Special Needs School (Including Pre/Post Guidance)				
担当教員	小竹 利夫 五十嵐 一徳 村田 美和				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 通年	必選・単位数	選択 3 単位		
講義目標	学生は、特別支援教育基礎実習で明らかになった課題について、教育実習においてどのように取り組むか、事前指導で具体的に検討し、教育実習の目的・方法を明確に自覚する。教育実習では、学生は特別支援学校での児童生徒との係わり方、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・評価・学級経営など、教員に求められる基礎基本を修得する。事後指導において、学生は教育実習を振り返り、自らの課題達成状況や新たな課題を明確にする。				
到達目標	教育実習の目的・方法を自覚し、児童生徒の実態把握・指導案作成・教材作成・授業実践・授業記録・評価・学級経営などの基礎基本を修得すること				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実習校における評価と実習記録の記入状況・提出状況・指導教員所見(50%)、事前事後指導(報告会、レポートなど)(50%)から総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	事後報告会において適宜コメントを行い、就職後必要となる知識等についての気づきを促す。				
使用教材	教育・保育実習の手引				
講義内容	・事前指導(25 時間)として、実習にあたっての心構え・身だしなみ・言葉づかいなど、障害のある児童生徒の心身・健康の理解、特別支援学校及び教員の仕事について、学習指導案の書き方、優れた教育実践の紹介等を行い、各自の課題を明確に意識させる。 ・特別支援学校における実習(1 日 8 時間、10 日間、計 80 時間)では、参与観察も行いつつ、児童・生徒との係わり方、実態把握・指導案作成・授業実践・授業記録・評価・学級運営など、教員に求められる基礎基本の修得を促す。大学の教員が研究授業の日以外にも実習校を訪問し、実習生の状況を把握するとともに、実習生の指導について担当教員と情報交換を行う。 ・事後指導(15 時間)として、学生による実習体験の報告、研究授業内容の検討・確認、指導経験の報告、教職に向けての指導・助言などを行い、さらなる専門性と実践力の向上につなげる。				
	予習	・教育・保育実習の手引を読んでおくこと ・3 年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を振り返り、理解を深めておくこと			10 時間
	復習	児童生徒の実態、教育課程、授業実践などについて理解する			5 時間
備考	・実習の手引きや日誌を事前に読んでおくこと。また、事前指導で配布する資料を必ず授業後に繰り返し読むこと。不明な点については、特別支援教育大事典や教育小六法などで理解できるようにしておくこと。 ・3 年前期までに開講されている特別支援教育関連の授業内容を十分に振り返り、理解を深めておくこと。 ・特別支援学校教育実習の実習校の教員や事後報告会で学生あるいは担当教員から指摘されたことについて、十分に振り返りを行うこと。				

	・小竹利夫(オフィスアワー:月3限、火4限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 研究室8号館4階403室:) ・五十嵐一徳(オフィスアワー:木曜日2限目、金曜日2限目 メールアドレス: igarashi-k@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館5階506 ・村田美和(オフィスアワー:火曜2限、金曜2限 メールアドレス: murata-m@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館502号室)

科目名	保育・教職実践演習(幼)(実践演習)			CEF601	演習
英文名	Seminar on Teaching Practice for Students of Early Childhood Education				
担当教員	千葉 千恵美 山西 加織 内田 祥子 富田 純喜				
科目に関連した実務経験	過去の場合:保育士として公立保育所に勤務経験(千葉)				
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 必修 2 単位		
講義目標	これまでの授業・実習を通して得た個々の課題を学生相互に共有しあい、それぞれの課題にグループごとに取り組みながら解決を見出す。授業はグループワーク、発表形式、模擬保育などの演習を中心に行う。また、保育現場におけるフィールドワークも行い、子どもや親との関わりを通して問題解決をはかる。				
到達目標	1.保育者としての使命感・責任感をもち、愛情をもって子どもと関わる力を身につける。■ 2.保育者に必要な社会性や倫理観、対人関係能力を身につける。■ 3.乳幼児の理解や学級運営に関する知識・能力を身につける。■ 4.保育内容の指導にむけた知識・能力を身につける。				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	グループワーク(フィールドワークを含む)での取り組み:60%、発表:20%、個人レポート:20%				
課題に対するフィードバック	個人レポートは、担当教員が適宜返却する。				
使用教材	必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	オリエンテーション、これまでに授業や実習で身につけた保育者の専門性を分析してみよう			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、本授業の目標・内容を予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	担当教員から説明があった点、今後の授業内容について復習する。		0.5 時間
2	講義内容	保育現場における現代的課題を考えよう(個人)			
	該当する到達目標	予習	これまでの授業・実習を振り返り、課題について予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	考えた課題について復習する。		0.5 時間
3	講義内容	保育現場における現代的課題を話し合おう(グループワーク① 具体的事例を出し合いながら検討する)			
	該当する到達目標	予習	課題と授業目標を照らし合わせ、グループワークの準備をする。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークで出された事例をもとに、課題をより具体化し復習する。		0.5 時間
4	講義内容	保育現場における現代的課題を話し合おう(グループワーク② フィールドワークにおいて見出すべき課題を設定する)■			
	該当する到達目標	予習	具体化した課題の問題点を掲げ予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	問題の本質を明確にする。		0.5 時間
5	講義内容	保育現場における現代的課題を話し合おう(グループワーク③ 設定した課題をもとにフィールドワークの方法を計画する)■			
	該当する到達目標	予習	課題の確認とフィールドワークの方法を予習する。		0.5 時間
	1,2,3,4	復習	フィールドワークの準備と確認を行う。		0.5 時間
6	講義内容	フィールドワーク① 幼稚園・こども園			
	該当する到達目標	予習	フィールドワークにおいて見出すべき課題とフィールドワークの方法を確認す		0.5 時間

	1,2,3,4		る。	
		復習	得られた記録を整理し復習する。	0.5 時間
7	講義内容	フィールドワーク② 保育所 ■		
	該当する到達目標	予習	フィールドワークにおいて見出すべき課題とフィールドワークの方法を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	得られた記録を整理し復習する。	0.5 時間
8	講義内容	フィールドワーク③ 福祉施設・子育て支援センター等 ■		
	該当する到達目標	予習	フィールドワークにおいて見出すべき課題とフィールドワークの方法を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	得られた記録を整理し復習する。	0.5 時間
9	講義内容	フィールドワークを振り返ろう(グループワーク① フィールドワークを通して得た記録から問題点を話し合う)■		
	該当する到達目標	予習	課題と記録を事前に整理し予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークで出た問題点を復習する。	0.5 時間
10	講義内容	フィールドワークを振り返ろう(グループワーク② 問題解決方法を見出す)		
	該当する到達目標	予習	グループワークで出た問題点を整理する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	グループワークで検討した問題解決方法について復習する。	0.5 時間
11	講義内容	問題解決方法を共有しよう(発表① 各グループで見出した問題解決方法を発表する)		
	該当する到達目標	予習	発表資料を作成し、準備する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	他グループの発表を思い出し、自分たちの発表に活かせる手法など検討したことを復習する。	0.5 時間
12	講義内容	問題解決方法を共有しよう(発表② 全体討議)		
	該当する到達目標	予習	各グループの発表内容を確認する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	討論した内容について、各自で感じたことなどをまとめ復習する。	0.5 時間
13	講義内容	保育者としての自己課題を明らかにしよう ■		
	該当する到達目標	予習	保育者としての自己課題を挙げ予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	明らかにした自己課題についてノートにまとめる。	0.5 時間
14	講義内容	保育者としての自己課題を文章化しよう		
	該当する到達目標	予習	保育者としての自己課題を明確にしておく。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	保育者としての自己課題についてレポートを作成する。	0.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	指示を受けた授業内容を確認して予習する。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	本授業で得られた成果を再度確認し復習する。	0.5 時間
備考	授業の進め方:4 人の教員によるオムニバスで 4 年生の総合のまとめを行う。これまで学んだ保育現場を踏まえ、フィールドワークを行う中で、各グループによるまとめと発表形式で授業を行う。 Key words:4 年間の総まとめ 個々の課題整理と解決策、フィールドワークによる振り返り 各教員のメールアドレス、オフィスアワーは次の通りである:千葉千恵美 chiba@takasaki-u.ac.jp 火曜日 4, 5 限目 山西加織 yamanishi@takasaki-u.ac.jp 月曜日5, 6限目 内田祥子 uchida-s@takasaki-u.ac.jp 月曜日 2, 3 限目 富田純喜 tomita-t@takasaki-u.ac.jp 火曜日 2 限目 水曜日 3 限目			

科目名	教職実践演習（小中）（実践演習）				CEF602	演習	
英文名	Seminar on Teaching Practice for Students of Elementary and Secondary Education						
担当教員	教職実践演習（小中）担当教員						
科目に関連した実務経験	中村：英語教諭として中学校に勤務（経験） 吉田：教諭（音楽・英語・他）として小学校・中学校・高等学校に勤務（経験） 小竹：障害児母子通所施設支援員・代表として勤務（経験）						
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	保育・教育コース 選択 2 単位 教員養成コース 必修 2 単位				
講義目標	教員をめざす4年間の学修の総仕上げとして、講義・講話・討論・事例研究（学校訪問など）をととして、教育現場の様々な現象を認識し、それに伴う諸問題に対応できる力を身に付けることを目標とする。講義・講話では教科指導、生徒指導、特別支援、職場環境、保護者や地域との連携などの観点から、教育現場の多様性を理解する。また、実習や学校訪問の経験などをもとに討論を行い、教育現場の多様性に対処するための柔軟な指導力の習得をめざす。学校訪問では、学校現場の様々な現象を観察し、教師としての自覚と責任感を養い、学校教育に携わろうとする意欲を高める。						
到達目標	1.教育現場の様々な現象を、教科指導、生徒指導、特別支援、職場環境、保護者や地域との連携などの観点から認識することができる。■ 2.教育現場の多様性を理解し、それぞれの観点から諸問題に対応できる力を身に付けることができる。 3.実習や学校訪問の経験などをもとに討論を行い、現場での諸問題に対処するための指導の在り方の理解を深め、柔軟な指導力を身に付けることができる。 4.教師として教育現場で、児童生徒に対応できる資質・能力、及び、使命感や責任感、教育的愛情、さらには、社会性や対人関係能力等を備え、学校教育に携わろうとする意欲を高めることができる。						
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養					
	✓	専門的知識					
	✓	問題発見・解決力					
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力（多様性理解）					
	✓	自律的・意欲的に学習する力					
評価方法	毎回提出するレポート70%、授業への貢献度等30%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。						
課題に対するフィードバック	レポートにはコメントをつけて返却する。 授業中の貢献度についてはその都度評価する。						
使用教材	各教員による自作のプリント等						
1	講義内容	実践演習の意義、教師となるにあたっての学生同士の討論（中村・吉田）■					
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、実習の体験をもとに講義の目標や内容を理解する。			1.5 時間	
	3,4	復習	講義の方針を確認するとともに、討論で得た教育現場の諸問題を理解する。			1.5 時間	
2	講義内容	学校の教職員の実務理解（栗原・小西）					
	該当する到達目標	予習	これまでの講義や実習での経験をもとに、教職員に求められる実務について考えておく。			1.5 時間	
	2,4	復習	資料を読んで講義の内容を振り返り、学校の教職員に求められる実務について理解する。			1.5 時間	
3	講義内容	学校における同僚教職員・保護者・地域住民との連携協力（吉田）■					
	該当する到達目標	予習	学校へのクレーム・事件について、新聞・ニュース等資料を収集しておく。			1.5 時間	
	1,2,3,4	復習	学校における地域・社会との連携について、現状と課題を理解し、まとめる。			1.5 時間	
4	講義内容	理系教科の指導について（片山・小泉）					

	該当する到達目標	予習	教育実習の経験を振り返り、理系教科の指導の特徴をまとめておく。	1.5 時間
	2, 3	復習	自分の考えとディスカッションした内容を整理してまとめておく。	1.5 時間
5	講義内容	文系教科の指導について（松田幸・菅野）		
	該当する到達目標	予習	モジュール授業について配布の資料を読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	文系教科でどのようにモジュール授業が生かせるのか、授業プランを考える。	1.5 時間
6	講義内容	実技系教科について（吉田）■		
	該当する到達目標	予習	自らの小・中学校の実技に関する行事や授業を振り返り、指導目的を考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実技教科の目的及び技術指導の目的を理解し、指導の留意点をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	英語の指導について（嶋田・クローズ）		
	該当する到達目標	予習	小学校外国語活動・英語の指導方法に関する資料に目を通す。	1.5 時間
	1, 3, 4	復習	講義で扱った小学校外国語活動・英語の具体的な指導方法を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	特別支援教育について（小竹・五十嵐）■		
	該当する到達目標	予習	実習の経験やこれまでの講義内容を振り返る。	1.5 時間
	1	復習	特別支援教育の視点からの自己理解を深め、インクルーシブ教育下での学び続ける教師像を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	学校現場の教師を招いての講話（中村）		
	該当する到達目標	予習	現在の学校現場をめぐる諸問題について、新聞・インターネット・書籍などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,4	復習	講話を振り返り、自分の問題意識を整理して文章化する。	1.5 時間
10	講義内容	学校現場の教師の講話（前回）に関する学生同士の討議（村田）		
	該当する到達目標	予習	前回の講話について振り返り、自分の意見をまとめる。	1.5 時間
	2,3,4	復習	他の学生から出た意見を参考に、自分になかった視点について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	近隣の学校現場訪問（学校長などの講話）（コース教員）		
	該当する到達目標	予習	訪問する学校のホームページなどをもとに、観察の視点を定める。	1.5 時間
	1,2,4	復習	学校長などの講話をもとに、観察の視点に基づき学校現場の現状を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	近隣の学校現場訪問（授業参観、生徒指導など）（コース教員）		
	該当する到達目標	予習	実習の経験をもとに、学習指導や生徒指導に関する視点を定める。	1.5 時間
	1,2,4	復習	授業参観などで教育現場の実態を理解し、教職への意欲を高める。	1.5 時間
13	講義内容	近隣の学校現場訪問に関する討論（角野・中村）■		
	該当する到達目標	予習	学校現場訪問について振り返り、授業内で相互に報告する準備を行う。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	学生相互の報告・討論を振り返り、現場訪問での学びをさらに深める。	1.5 時間
14	講義内容	学校事故等と教師の対応・役割（吉田）■		
	該当する到達目標	予習	小・中学校における安全教育について、実践例を調べる。	1.5 時間
	1,2	復習	安全教育の観点をまとめ、危機管理シミュレーションを行う。	1.5 時間
15	講義内容	児童・生徒指導における教師の役割／教師になる意思の確認（吉田）		
	該当する到達目標	予習	事例をあげ、児童・生徒指導上の教師の役割を考える。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	これまでの講義を振り返り、教職への意欲を高める。	1.5 時間
備考	・中村(オフィスアワー:火曜 2 限 木曜 2 限 メールアドレス:nakamura-h@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 1 階 学部長室) ・吉田(オフィスアワー:月曜 1 限、火曜 1 限 メールアドレス:yoshikei@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 5 階 503) ・小西(オフィスアワー:火曜 5 限、金曜 2 限 メールアドレス:konishi@takasaki-u.ac.jp 研究室:8 号館 4 階			

409)

・松田幸(オフィスアワー:木曜3限、金曜2限 メールアドレス:matsuda-y@takasaki-u.ac.jp 研究室9号館3階304)

・片山(オフィスアワー:火曜3限、金曜1限 メールアドレス:katayama@takasaki-u.ac.jp 研究室:9号館4階411)

・嶋田(オフィスアワー:木曜3限、金曜5限 メールアドレス:shimada-k@takasaki-u.ac.jp 研究室:9号館303)

・五十嵐(オフィスアワー:木曜2限、金曜2限 メールアドレス:igarashi-k@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館5階506)

・村田(オフィスアワー:火曜2限、金曜3限 メールアドレス:murata-m@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館5階502)

・角野(オフィスアワー:月曜4限、火曜4限(後期) メールアドレス:zsumino@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館5階405)

・小竹(オフィスアワー:月曜3限、火曜4限メールアドレス:kotake-t@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館4階403)

・栗原(オフィスアワー:水曜2限、金曜2限メールアドレス:kurihara-y@takasaki-u.ac.jp 研究室:9号館3階305)

・クローズ(オフィスアワー:(前期)月2限、火3 後期、(後期)月4限、火3限メールアドレス:stacy-c@takasaki-u.ac.jp 研究室:9号館3階307)

・小泉(オフィスアワー:月曜2限、月曜4限メールアドレス:koizumi@takasaki-u.ac.jp 研究室:9号館3階302)

・菅野(オフィスアワー:水曜2限、金曜2限メールアドレス:kanno-y@takasaki-u.ac.jp)

講義、講話、討論、学校訪問など様々な形で情報を収集することを促し、授業で得た内容、実習や学校訪問での経験などを基に、学生間で充実した情報交換や意見の集約ができるように進める。

科目名	卒業研究(卒業研究)			CET601	演習
英文名	Research for Graduation Thesis				
担当教員	子ども教育学科各ゼミ担当教員				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 通年	必選・単位数	必修 4 単位		
講義目標	学生の興味・関心による選択に基づいて研究テーマを設定し、学生の自主性を最大限尊重して指導する。この卒業研究でのテーマとなりうるのは、保育・教育に関わる諸課題であり、事実に基づく実証的論文であることが目標である。音楽・美術などの実技的分野においては、表現発表も可能であるが、その場合でも論文を作成することが求められる。(詳細は卒業研究に関する学科の申し合わせを参照すること)				
到達目標	1. 保育・教育を巡る諸課題に関する明確な問題意識を持つことができる。 2. 問題を整理し、先行研究を踏まえて研究目的を明確にすることができる。 3. 研究目的にふさわしい研究方法を考え、具体化することができる。 4. 研究方法に基づいて、先行論文等を読み、データを収集することができる。 5. データを適切な方法で整理し、分析することができる。 6. 研究目的に照らしてデータから言えることは何かを検討することができる。 7. 問題意識に照らして、今後の検討課題は何であるかを検討することができる。 8. 学科の定めた卒業論文の様式に従って文章化することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	テーマの内容、問題意識、文献の検索、取り組みへの積極性、執筆に際しての主体性、執筆内容、ゼミでの発言、発表の仕方等を総合して評価する。				
課題に対するフィードバック	学生の研究テーマや研究方法はそれぞれ異なることから、ゼミの担当教員は随時学生に必要なフィードバックを行う。なお、学生の自主性・自律性を最大限尊重するために、教員からのアドバイスは必要最小限に留める。				
使用教材	卒業研究に必要な教材は、随時紹介または提供する。				
1	講義内容	卒業研究とは			
	該当する到達目標 1,2	予習	先輩の卒論や抄録を読み、卒論の構想を考える。		1.5 時間
		復習	ゼミで出た意見を参考にして構想を深める。		1.5 時間
2	講義内容	保育・教育を巡る諸課題についての検討(その 1)ー研究テーマの検討			
	該当する到達目標 1,2	予習	自分の関心事に関する新聞記事やインターネットのニュースを読む。		1.5 時間
		復習	ゼミで出た意見を参考にして、テーマ設定について考える。		1.5 時間
3	講義内容	保育・教育を巡る諸課題についての検討(その 2)ー暫定的研究テーマの決定			
	該当する到達目標 1,2	予習	新聞記事やインターネット、書籍等の資料に目を通し、研究テーマを考える。		1.5 時間
		復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究テーマの暫定案を決める。		1.5 時間
4	講義内容	研究テーマに関連する先行研究の検討(その 1)ー先行研究の探索			
	該当する到達目標 1,2	予習	研究テーマに関連する先行研究を探し、目を通す。		1.5 時間
		復習	ゼミで出た意見を参考にして、さらに先行研究を探し、目を通す。		1.5 時間

5	講義内容	研究テーマに関連する先行研究の検討(その 2)ー問題意識のすり合わせ		
	該当する到達目標	予習	先行研究に目を通し、自分の問題意識とすり合わせる。	1.5 時間
	1,2	復習	ゼミで出た意見を参考にして、先行研究を概括する。	1.5 時間
6	講義内容	研究目的に関する検討(その 1)ー研究目的の明確化		
	該当する到達目標	予習	自分の問題意識と先行研究をもとにして、研究目的の明確化を図る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究目的について検討を深める。	1.5 時間
7	講義内容	研究目的に関する検討(その 2)ー研究目的の文章化		
	該当する到達目標	予習	研究目的の文章化を図る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究目的の文章を整える。	1.5 時間
8	講義内容	研究方法に関する検討(その 1)ー研究方法の明確化		
	該当する到達目標	予習	研究目的に適した研究方法について検討する。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究方法の明確化を図る。	1.5 時間
9	講義内容	研究方法に関する検討(その 2)ー研究方法の文章化		
	該当する到達目標	予習	研究方法の文章化を図る。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ゼミで出た意見を参考にして、研究方法の文章を整える。	1.5 時間
10	講義内容	データの整理方法についての検討(その 1)ーデータ整理に関する先行研究参照		
	該当する到達目標	予習	データの整理方法について先行研究も参考にして調べる。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について考える。	1.5 時間
11	講義内容	データの整理方法についての検討(その 2)ーデータ整理の明確化		
	該当する到達目標	予習	データの整理方法について明確化を図る。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について明確化を図る。	1.5 時間
12	講義内容	データの整理方法についての検討(その 3)ーデータ整理の文章化		
	該当する到達目標	予習	データの整理方法について文章を整える。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データの整理方法について文章を整える。	1.5 時間
13	講義内容	データの分析方法についての検討(その 1)ーデータ分析の準備		
	該当する到達目標	予習	データの分析方法について下調べをする。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析の方法について検討を加える。	1.5 時間
14	講義内容	データの分析方法についての検討(その 2)ーデータ分析方針の検討		
	該当する到達目標	予習	データ分析の方針を検討する。	1.5 時間
	4,5	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析の方法を決める。	1.5 時間
15	講義内容	データの分析結果についての検討(その 1)ーデータ分析の概括		
	該当する到達目標	予習	データの分析に着手し、結果の概括を進める。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析を進める。	1.5 時間
16	講義内容	データの分析結果についての検討(その 2)ーデータ分析の進化		
	該当する到達目標	予習	データ分析を進める。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を参考にして、データ分析を進める。	1.5 時間
17	講義内容	データの分析結果についての検討(その 3)ーデータ分析の文章化		
	該当する到達目標	予習	結果の概括を踏まえて文章化を進める。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を参考にして、結果の総括を文章化する。	1.5 時間
18	講義内容	データの分析結果についての検討(その 4)ーデータ分析の文章整理		
	該当する到達目標	予習	結果の文章を整える。	1.5 時間
	5,6	復習	ゼミで出た意見を踏まえて、結果の文章を整える。	1.5 時間

19	講義内容	考察の検討(その 1)―考察の柱立て		
	該当する到達目標	予習	考察の柱立てを考える。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、考察の柱立てと内容を考える。	1.5 時間
20	講義内容	考察の検討(その 2)―考察の文章化		
	該当する到達目標	予習	考察の柱に沿って、文章化に着手する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、文章化を進める。	1.5 時間
21	講義内容	考察の検討(その 3)―考察の深化		
	該当する到達目標	予習	考察全体の文章化を進める。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、考察の文章を整える。	1.5 時間
22	講義内容	論文全体を通しての検討		
	該当する到達目標	予習	論文全体の構成や文章を見直す。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、論文全体を整える。	1.5 時間
23	講義内容	卒論提出に向けての最終チェック(その 1)―論文の整合性チェック		
	該当する到達目標	予習	研究テーマ・研究方法・研究結果・考察・文献など、内容の整合性を検討する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、論文全体を見直す。	1.5 時間
24	講義内容	卒論提出に向けての最終チェック(その 2)―論文様式のチェック		
	該当する到達目標	予習	論文の様式が学部指定の様式に合致しているか検討する。	1.5 時間
	8	復習	ゼミで出た意見を参考にして、論文の様式を確認し、必要な修正を加える。	1.5 時間
25	講義内容	卒論を提出した後の振り返り		
	該当する到達目標	予習	卒業研究を通して学んだことを振り返る。	1.5 時間
	1,2,6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、卒業研究全体を振り返る。	1.5 時間
26	講義内容	卒論の抄録用原稿作成		
	該当する到達目標	予習	抄録用の原稿を作成する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、抄録用の原稿を完成させる。	1.5 時間
27	講義内容	卒論発表会のパワーポイント作成		
	該当する到達目標	予習	卒論発表会用のパワーポイントを作成する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、パワーポイントを完成させる。	1.5 時間
28	講義内容	卒論発表会のリハーサル(その 1)―発表原稿の作成		
	該当する到達目標	予習	卒論発表会用の原稿を作成する。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミでのリハーサルで出た意見を参考にして、発表用原稿を整える。	1.5 時間
29	講義内容	卒論発表会のリハーサル(その 2)―発表原稿の修正		
	該当する到達目標	予習	発表の練習を繰り返し、原稿の修正を行う。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミでのリハーサルで出た意見を参考にして、原稿を完成させる。	1.5 時間
30	講義内容	卒論発表会の振り返り		
	該当する到達目標	予習	パワーポイントと発表原稿が意を尽くしていたか、振り返る。	1.5 時間
	6,7	復習	ゼミで出た意見を参考にして、今後の課題を考える。	1.5 時間
備考	・ゼミ教員のオフィスアワー、メールアドレスは省略する。 ・各ゼミでは、保育・教育をめぐる諸問題に関して明確な問題意識を持ち、先行研究を踏まえて研究目的を明確にするよう促す。研究によってはデータを収集し、整理し、分析させ、研究目的に照らしてデータから言えることは何かを検討するよう助言する。今後の検討課題は何であるか明らかにするとともに、学科の定めた卒業論文の様式に従って文章化するよう促す。			

科目名	特別支援教育概論(特別支援)			CEE111	講義
英文名	Introduction to Special Needs Education				
担当教員	小竹 利夫				
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生が 2007 年から実施されている特別支援教育の趣旨、実践事例などについて理解すること。				
到達目標	1. 特別支援教育の目的を理解する。 2. 特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常学級それぞれの役割を理解する。 3. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援の実際について理解する。■				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のリアクションペーパーまたはプリント(30%)、レポート(30%)、作品(10%)を総合して評価する。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーまたはプリントやレポートには授業の感想・疑問・意見等を書いてもらい、次回の授業の冒頭で補足説明や感じたことを伝える。				
使用教材	教科書「小竹利夫(子どもや障害がある人の心の世界)川島書店」を使用する。必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。				
1	講義内容	オリエンテーション			
	該当する到達目標	予習	教科書を概観し、構成について理解する。	1.5 時間	
	1	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
2	講義内容	特別支援教育の意義と本質			
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間	
	1,2	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
3	講義内容	特別支援教育の実際■			
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
4	講義内容	障害の意味と子どもの見方■			
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
5	講義内容	視覚障害とその教育(点字を含む)			
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
6	講義内容	聴覚障害とその教育(手話・指文字を含む)			
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
7	講義内容	言語障害および運動障害とその教育			
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間	

	1,2,3,	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	遊び・学習支援の工夫(教材の製作を含む)■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	3	復習	授業で製作した教材を試す。	1.5 時間
9	講義内容	インクルーシブ教育		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	1,2,3,	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	知的障害とその教育■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	発達障害とその教育■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	自閉症・情緒障害とその教育■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	重度・重複障害とその教育		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	被虐待児とその教育		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努めること。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書全体を概観し理解を深めること。	2.0 時間
	1,2,3	復習	授業内容と紹介したビデオについて振り返る。	2.0 時間
備考	オフィスアワー: 月 3 限、火 4 限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 授業は教科書を読んだり映像を見たりしながら、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。 (■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	特別支援教育の課題と実践(特別支援)			CEE131	講義
英文名	Future Issues and Practice of Special Needs Education				
担当教員	五十嵐 一徳				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生が特別支援教育に関する基礎的事項、特別支援教育に関する現状と課題、特別なニーズを要する子どもへの支援方法について理解すること。				
到達目標	1.特別支援教育に関する基礎的事項について説明できる。 2.特別支援教育に関する現状と課題について説明できる。 3.特別なニーズを要する子どもへの支援方法について説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	試験の成績を 90%、レポート・授業態度 10%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。				
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する				
1	講義内容	ガイダンス。特別支援教育について			
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5 時間	
2	講義内容	特別支援教育体制の現状と課題Ⅰ(特別支援学校)			
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間	
	2	復習	特別支援学校における現状と課題について振り返る。	1.5 時間	
3	講義内容	特別支援教育体制の現状と課題Ⅱ(特別支援学級)			
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間	
	2	復習	特別支援学級における特別支援教育の現状と課題について振り返る。	1.5 時間	
4	講義内容	特別支援教育体制の現状と課題Ⅲ(通常学級)			
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間	
	2	復習	通常学級における特別支援教育の現状と課題について振り返る。	1.5 時間	
5	講義内容	特別支援教育の実際Ⅰ(知的障害)			
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間	
	2,3	復習	知的障害児への対応について振り返る。	1.5 時間	
6	講義内容	特別支援教育の実際Ⅱ(病弱)			
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間	
	2,3	復習	病弱児への対応について振り返る。	1.5 時間	
7	講義内容	特別支援教育の実際Ⅲ(肢体不自由)			

	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	2,3	復習	肢体不自由児への対応について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	子どもの生活面における課題とその対応 I (幼児)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	幼児の生活面における課題とその対応について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	子どもの生活面における課題とその対応 II (小・中学生)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	小・中学生の生活面における課題と対応について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	特別支援教育を推進する条件の整備 I (特別支援教育コーディネーター)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	特別支援教育コーディネーターの役割等について振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	特別支援教育を推進する条件の整備 II (家族支援、放課後保障)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	家族支援、放課後保障について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	特別支援学校の授業づくり I (教科)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	特別支援学校の授業づくり II (自立活動)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	特別支援学校の授業づくり III (教科等合わせた指導)		
	該当する到達目標	予習	2 年次までの特別支援教育に関連する授業内容を振り返る。	1 時間
	3	復習	特別支援学校の授業づくりについて振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	14 回までの講義内容を復習する。	0.5 時間
	1,2,3	復習	前 15 回の講義内容を復習する。	2 時間
備考	・オフィスアワー: 五十嵐: 木曜日 2 限目、金曜日 2 限目、質問はメールでも受け付ける。 ・授業期間全体を通じた授業の進め方: 配付プリントに基づく説明とグループワークを行います。 ・メール: igarashi-k@takasaki-u.ac.jp ・研究室 8 号館 5 階 506 ・予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名		知的障害児の心理・生理・病理			CEE121	講義
英文名		Psychological and Medical Understanding of Children with Intellectual Disabilities				
担当教員		村田 美和				
科目に関連した実務経験		知的障害児に対する学習支援、NIRS を用いた知的障害児に対する脳機能研究				
学年・開講期		2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		知的障害児の状態像を心理的側面や生理的側面、病理的側面、脳科学の側面から理解し、知的障害児の適切な実態把握や教育的視点からの対応ができるようになることを目指す。知的障害の中核的障害は認知機能の障害であり、特に、知覚、認知、記憶、言語、注意、情動などに関係する脳の仕組み、および脳の損傷によって起こるこれらの心理機能の障害を中心に学ぶ。また、知的障害と関連する発達障害について最新の脳科学の知見を学び、障害の理解を深める。				
到達目標		1. 知的障害児の心理・生理・病理について説明できる。 2. 脳の損傷によって起こる様々な認知機能の障害を説明できる。 3. 知的障害児を脳科学の観点から説明できる。■ 4. 知的障害児の認知機能(知覚、認知、記憶、言語、注意、情動)を理解し指導と関連付けて説明できる。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		試験 80%、発言及びリアクションペーパー20%で評価する。				
課題に対するフィードバック		毎回のリアクションペーパーに書かれた感想・疑問・意見について、次回の冒頭で補足説明を伝える。				
使用教材		教科書は使用しないが、参考図書として、①「新脳の探検上」フロイト・E・ブルーム著、中村克樹・久保田木競監訳(講談社)ISBN4-06-257431-4C0247、②「新脳の探検下」フロイト・E・ブルーム著、中村克樹・久保田木競監訳(講談社)ISBN4-06-257432-2C0247、③「知的障害児の心理学」小池俊英・北島善夫著(北大路書房)ISBN4-7628-2215-9、④「脳科学と発達障害」榊原洋一著(中央法規)ISBN978-4-8058-3008-6C0047 を推薦する。				
1	講義内容	オリエンテーション				
	該当する到達目標	1	予習	シラバスの内容に目を通し、本講義の目標を理解する。		1.5 時間
		1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	知的障害の心理特性■				
	該当する到達目標	1,4	予習	参考図書などを読んで、知的障害の心理特性についてまとめておく。		1.5 時間
		1,4	復習	知的障害の心理特性を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	知的障害の原因と病理				
	該当する到達目標	1,2,3,4	予習	参考図書などを読んで、知的障害の原因と病理についてまとめておく。		1.5 時間
		1,2,3,4	復習	知的障害の原因と病理を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	知的障害の心理学的・生理学的研究方法				

	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	参考図書などを読んで、知的障害の心理学的・生理学的研究方法についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	知的障害の心理学的・生理学的研究方法を理解する。	1.5 時間
5	講義内容	脳の構造と機能(その1)脳の区分および大脳の感覚野と連合野の機能■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、脳の区分および大脳の感覚野と連合野の機能についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	脳の区分および大脳の感覚野と連合野の機能を理解する。	1.5 時間
6	講義内容	脳の構造と機能(その2)脳の損傷と心理機能の障害との関係■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、脳の損傷と心理機能の障害との関係についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	脳の損傷と心理機能の障害との関係を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	知的障害の認知の側面■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、認知機能についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	認知機能およびその障害と脳との関連を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	知的障害の言語の側面■		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、言語機能についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	言語機能およびその障害と脳との関連を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	知的障害の記憶の側面		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、記憶についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	記憶およびその障害と脳との関連を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	知的障害の注意の側面		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、注意についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	注意およびその障害と脳との関連を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	知的障害の情動の側面		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、情動についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	情動およびその障害と脳との関連を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	自閉症スペクトラム障害と脳科学		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、自閉症スペクトラム障害と脳科学についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	自閉症スペクトラム障害と脳科学を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	注意欠陥多動性障害と脳科学		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、注意欠陥多動性障害と脳科学についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	注意欠陥多動性障害と脳科学を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	学習障害(主に読み書き障害)と脳科学		
	該当する到達目標 2,3,4	予習	参考図書などを読んで、学習障害(主に読み書き障害)と脳科学についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	学習障害(主に読み書き障害)と脳科学を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	知的障害の心理・生理・病理の理解のまとめ		
	該当する到達目標 1,2,3,4	予習	これまでに学習してきた事柄についてまとめておく。	1.5 時間
		復習	知的障害の心理・生理・病理について理解する。	1.5 時間
備考	それぞれの内容について、適宜ディスカッションの場を設けながら授業を進めていく。 オフィスアワー：月曜 3 限質問はメールでも受け付ける。メールアドレス：murata-m@takasaki-u.ac.jp			

科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理(特別支援)			CEE122	講義
英文名	Psychological and Medical Understanding of Children with Physical Handicaps				
担当教員	小竹 利夫				
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)				
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生が肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の発達状態を教育的視点から理解すること、また、医学的・心理学的な背景も理解すること。				
到達目標	1.肢体不自由児の感覚・認知面、運動面などの基礎的能力の障害状況について理解すること。 2.肢体不自由児の発達状態を医学的・心理学的な背景も含めて理解すること。 3.肢体不自由児の支援の方法を把握する基本的視点を理解すること。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のリアクションペーパーまたはプリント(30%)、レポート(30%)、作品(10%)を総合して評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーまたはプリントやレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想・意見を伝える。				
使用教材	教科書「小竹利夫(子どもや障害がある人の心の世界)川島書店)を使用する。必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。				
1	講義内容	オリエンテーションー肢体不自由という概念について			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書を概観し、構成について理解する。	1.5 時間	
		復習	授業内容と紹介したビデオを振り返る。	1.5 時間	
2	講義内容	肢体不自由児の状態像			
	該当する到達目標 1,2,3	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間	
		復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
3	講義内容	肢体不自由児の医学的側面			
	該当する到達目標 2	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間	
		復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
4	講義内容	肢体不自由児の心理学的側面			
	該当する到達目標 2	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間	
		復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
5	講義内容	運動面の実態(車椅子体験含む)			
	該当する到達目標 1	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間	
		復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
6	講義内容	感覚・認知面の実態			
	該当する到達目標 1	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間	
		復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
7	講義内容	コミュニケーションの実態(その 1)ー受信面■			

	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	コミュニケーションの実態(その 2)－発信面 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	日常生活動作の実態(その 1)－食事・排泄		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活動作の実態(その 2)－着脱・清潔・移動		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	学習支援の工夫(教材の製作を含む)■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	余暇活動の実態(教材の製作を含む)■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	肢体不自由児の学校教育と卒後の生活		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	運動機能の低下について		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書を読み理解に努める。	2.0 時間
	1,2,3	復習	授業内容をと紹介したビデオについて振り返る。	2.0 時間
備考	オフィスアワー： 月 3 限、火 4 限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 授業は教科書を読んだり映像を見たりしながら、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	病弱児の心理・生理・病理(特別支援)			CEE123	講義
英文名	Psychological and Medical Understanding of Children with Health Impairments				
担当教員	吉野 浩之				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	病弱児について、身体・心理・社会的な観点から解説する。疾患特性に合わせた個々の乳幼児・児童・生徒への教育的アプローチや、その子の親やきょうだい児を含めた家族の支援について学ぶ。また、近年の小児医療の急激な進歩に伴う、教育現場や子どもの成育環境の変遷についても学ぶ。				
到達目標	1.病弱児をめぐる、教育・医療・福祉などの社会的要因を理解する。 2.病弱児の身体的特性(病態生理、心身の虚弱性、疾患ごとの特性など)を理解する。 3.病弱児の心理的特性(疾患ごとの感情や葛藤、死や障害との向き合いなど)について説明できる。 4.病弱児本人はもちろん、親やきょうだい児などをふくめて総合的に理解する。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験(100%)で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	期末試験の後に出题の意図を明らかにし、解説を行う。				
使用教材	教員の自作のプリントを使用する。				
1	講義内容	ガイダンス、病弱児の概念			
	該当する到達目標	予習	シラバスを読み、病弱児について考察する		1 時間
	1	復習	講義の意味を理解し、病弱児の概念を理解する		2 時間
2	講義内容	各県における病弱児教育と医療の関係性			
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習		1 時間
	1,2	復習	医療と教育の関係を正しく理解する		2 時間
3	講義内容	群馬県における病弱児教育と医療の課題			
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習		1 時間
	1	復習	群馬県の教育の特殊性と医療との関係を理解する		2 時間
4	講義内容	病弱児における心理的諸問題Ⅰ			
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習		1 時間
	1,3,4	復習	病弱児教育の場である病院の理解と児童生徒の心を理解する		2 時間
5	講義内容	病弱児における心理的諸問題Ⅱ			
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習		1 時間
	2,3	復習	精神医学を含む心の問題を理解する		2 時間
6	講義内容	小児がんと教育Ⅰ			
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習		1 時間
	2	復習	小児がん患児の心理的特性と医療の変化を理解する		2 時間
7	講義内容	小児がんと教育Ⅱ			

	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	1,2	復習	疾患の特殊性と教育の関係を理解する	2 時間
8	講義内容	肢体不自由児と病弱児の境界領域		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	1,2,4	復習	県により異なる境界について理解する	2 時間
9	講義内容	腎疾患と病弱教育		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	2	復習	腎疾患の治療の変化と教育の関係を理解する	2 時間
10	講義内容	呼吸器疾患と病弱教育(感染症を含む)		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	2	復習	呼吸器疾患の特殊性と共通性について理解する	2 時間
11	講義内容	消化器疾患と病弱教育		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	1,2,3	復習	食と教育についてしっかり理解する	2 時間
12	講義内容	自己免疫疾患と病弱教育		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	2	復習	様々な自己免疫疾患について理解し、教育の現状を理解する	2 時間
13	講義内容	心疾患と病弱教育		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	1,2	復習	感染症の変化と教育現場について理解する	2 時間
14	講義内容	循環器疾患の特殊性と共通性について理解する		
	該当する到達目標	予習	プリントの事前学習	1 時間
	3,4	復習	命の教育について考察する	2 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	講義全体の振り返り	1 時間
	1,2,3,4	復習	講義全体の理解	2 時間
備考	オフィスアワー:講義終了後の時間に受け付ける。メールはいつでも可。 メールアドレス:hyoshino@gunma-u.ac.jp 研究室:非常勤控え室(講義日以外は群馬大学) 予習復習については、試験前の学習で補完すること。 授業期間全体を通じた授業の進め方:毎回、講義後に確認レポートを配布・記入してもらう。その中の、質問や理解度を次の講義に反映しつつ、定着をはかる。			

科目名	障害児の発達診断(特別支援)			CEE201	講義
英文名	Developmental Diagnosis of Children with Special Needs				
担当教員	五十嵐 一徳				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	本講義では児童生徒や園児の実態把握に必要な不可欠な発達診断の技術を習得することを目指す。学生が①乳幼児期の発達の様相、②代表的な知能検査である WISC－Ⅳと田中ビネー知能検査Ⅴ、③言語・コミュニケーション発達スケールについて理解すること。				
到達目標	1.発達障害児や発達障害が疑われる児童に対するアセスメントの意義や方法について説明できる。 2.乳幼児期の発達の様相について説明できる。 3.代表的な知能検査である WISC－Ⅳと田中ビネー知能検査Ⅴについて説明できる。 4.言語・コミュニケーション発達スケールについて説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	試験の成績を 90%、レポート・授業態度 10%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。				
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する				
1	講義内容	ガイダンス。検査について。			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。	1 時間	
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。	1.5 時間	
2	講義内容	乳幼児期の社会性およびことばの発達			
	該当する到達目標	予習	乳幼児期の社会性およびことばの発達を調べてくる	1 時間	
	2	復習	配付資料やノートを読みなおす	1.5 時間	
3	講義内容	乳幼児期の認知および情動の発達			
	該当する到達目標	予習	乳幼児期の認知および情動の発達を調べてくる	1 時間	
	2	復習	配付資料やノートを読みなおす	1.5 時間	
4	講義内容	WISC－Ⅳ①検査の目的・内容・実施方法			
	該当する到達目標	予習	手引書などを読んで、検査の目的・内容・実施方法をまとめておく。	1 時間	
	3	復習	WISC－Ⅳの検査の目的・内容・実施方法を理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	WISC－Ⅳ②検査の実施			
	該当する到達目標	予習	WISC－Ⅳの実施の手引きを熟読しておく。	1 時間	
	3	復習	WISC－Ⅳの実施方法を理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	WISC－Ⅳ③検査の実施			
	該当する到達目標	予習	手引書などを読んで、検査の目的・内容・実施方法をまとめておく。	1 時間	

	3	復習	WISC－Ⅳの検査の目的・内容・実施方法を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	WISC－Ⅳ④結果の解釈と支援の立案		
	該当する到達目標	予習	WISC－Ⅳの手引書を読んで、採点方法をまとめておく。	1 時間
	3	復習	WISC－Ⅳの採点方法を理解する。	1.5 時間
8	講義内容	WISC－Ⅳ⑤結果の解釈と支援の立案		
	該当する到達目標		WISC－Ⅳの手引書を読んで、採点方法をまとめておく。	1 時間
	3		WISC－Ⅳの採点方法を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	田中ビネー知能検査Ⅴ①検査の目的・内容・実施方法		
	該当する到達目標	予習	手引書などを読んで、検査の目的・内容・実施方法をまとめておく。	1 時間
	3	復習	田中ビネー知能検査Ⅴの目的・内容・実施方法を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	田中ビネー知能検査Ⅴ②検査の実施		
	該当する到達目標	予習	田中ビネー知能検査Ⅴの実施の手引きを熟読しておく。	1 時間
	3	復習	田中ビネー知能検査Ⅴの実施方法を理解する。	1.5 時間
11	講義内容	田中ビネー知能検査Ⅴ③結果のまとめ		
	該当する到達目標	予習	田中ビネー知能検査Ⅴの手引書を読んで、採点方法をまとめておく。	1 時間
	3	復習	田中ビネー知能検査Ⅴの採点方法を理解する。	1.5 時間
12	講義内容	言語・コミュニケーション発達スケール①検査の目的・内容・方法		
	該当する到達目標	予習	手引書を読んで、検査の目的・内容・実施方法をまとめておく。	1 時間
	4	復習	言語・コミュニケーション発達スケールの目的・内容・実施方法を理解する。	1.5 時間
13	講義内容	言語・コミュニケーション発達スケール②検査の実施		
	該当する到達目標	予習	手引書を読んで、検査の内容・実施方法をまとめておく。	1 時間
	4	復習	言語・コミュニケーション発達スケールの実施方法・採点方法を理解する。	1.5 時間
14	講義内容	言語・コミュニケーション発達スケール③結果のまとめ		
	該当する到達目標	予習	実施方法と採点方法を熟読しておく。	1 時間
	4	復習	言語・コミュニケーション発達スケールの実施方法・採点方法を理解する。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	14 回までの講義内容を振り返る。	0.5 時間
	1,2,3,4	復習	全 15 回の学習内容を復習しておく。	2 時間
備考	・オフィスアワー:五十嵐:木曜日 2 限目、金曜日 2 限目、質問はメールでも受け付ける。 ・授業期間全体を通じた授業の進め方:配付プリントに基づく説明とグループワークを行います。 ・メール:igarashi-k@takasaki-u.ac.jp ・研究室 8 号館 5 階 506 ・予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	知的障害児の指導(特別支援)			CEE141	講義
英文名	Curriculum and Teaching Methods for Children with Intellectual Disabilities				
担当教員	浦崎 源次				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 後期	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標	知的障害児学校や学級で授業を計画し実践するために必要な知識を得る。さらに、知的障害教育における授業の通常の学校における授業との共通点と差異点を知る。				
到達目標	1. 知的障害特別支援学校の教育課程の特徴を理解する。 2. 知的障害教育における教科の特徴を理解する。 3. 知的障害教育における指導内容のスマールステップをつくることができる。 4. 指導案を作成できる。 5. 授業における教師の言動を評価する視点をもつ				
学位授与方針	✓	豊かな人間性と教養			
との対応	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験 70%、レポート 30%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	講義中にコメントする。 定期試験の前に、出題について口頭で示す。				
使用教材	教科書は使用しないが、特別支援学校学習指導要領とその解説を読むことを予習課題としている回があるので、各自購入していることが望ましい。				
1	講義内容	知的障害特別支援学校の教育課程			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	1.	復習	特別支援学校における教育課程の特徴、知的障害特別支援学校の教育課程の特徴をまとめる。		1.5 時間
2	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(1)―生活科の意義			
	該当する到達目標	予習	小学校と特別支援学校の学習指導要領の生活科の部分を読む。		1.5 時間
	1.2. 4	復習	知的障害教育における生活科の特徴を小学校と比較してまとめる。		1.5 時間
3	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(2)―生活科の内容			
	該当する到達目標	予習	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領と解説の生活科の部分を読む。		1.5 時間
	1.2.3.4	復習	生活科の内容を教科内容の視点で整理する。		1.5 時間
4	講義内容	知的障害特別支援学校における自立活動			
	該当する到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編における知的障害に関する箇所を読む。		1.5 時間
	1.2.3.	復習	生活科と自立活動、他の教科と自立活動の関係を整理する。		1.5 時間
5	講義内容	スマールステップによる指導内容の系列化			
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。		1.5 時間
	2. 3.	復習	ある指導内容についてスマールステップをつくる。		1.5 時間

6	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(3)—国語		
	該当する到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領の小学部国語科の箇所を読む。	1.5 時間
	1.2.3.4.	復習	1段階の「話す・聞く」2段階までの「読む」、「書く」の内容を教科内容の視点で整理する。	1.5 時間
7	講義内容	知的障害特別支援学校の教科内容(5)—算数		
	該当する到達目標	予習	特別支援学校学習指導要領の小学部算数科の箇所を読む。	1.5 時間
	1.2.3.4	復習	「10までの数」、「長さ」の学習を教科内容の視点で整理する。	1.5 時間
8	講義内容	授業におけるノンバーバルコミュニケーション		
	該当する到達目標	予習	言葉を使わずに何かが伝わる例を考えたり、思い出したり、みつける。	1.5 時間
	5	復習	ノンバーバルコミュニケーションの種類と例をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	授業におけるバーバルコミュニケーション		
	該当する到達目標	予習	言葉を使っているのに伝わらない例を考えたり、思い出したり、みつける	1.5 時間
	5	復習	言葉かけのポイントをまとめる。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活の指導		
	該当する到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、優れた点、問題点をみつける。	1.5 時間
	1.2.3.4.5	復習	朝の活動の一部の略案を作成する。	1.5 時間
11	講義内容	遊びの指導		
	該当する到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、2つの指導案の問題点をみつける。	1.5 時間
	1.2.3.4.5	復習	遊びの指導の略案を作成する。	1.5 時間
12	講義内容	生活単元学習		
	該当する到達目標	予習	配付資料(指導案)を読んで、2つの指導案の問題点をみつける。	1.5 時間
	1.2.3.4.5	復習	生活単元学習の略案を作成する・	1.5 時間
13	講義内容	授業の検討—ストップモーション法		
	該当する到達目標	予習	授業におけるコミュニケーションの復習をしておく。	1.5 時間
	5.	復習	授業改善の方法をまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	・授業の検討—KG 法		
	該当する到達目標	予習	授業記録を読む。	1.5 時間
	5.	復習	授業評価を行う。	1.5 時間
15	講義内容	知的障害教育方法史		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2,5	復習	教科別の指導と合わせた指導の長短をまとめる。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: メールアドレス:g-urasaki@takasaki-u.ac.jp 研究室:8号館4階407 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。 学習指導要領の検討、指導案の検討、授業の検討という流れで進める。第10回以降は受講生の意見交換を重視する。			

科目名	肢体不自由児の指導(特別支援)				CEE142	講義
英文名	Curriculum and Teaching Methods for Children with Physical Handicaps					
担当教員	小竹 利夫					
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)					
学年・開講期	2 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位			
講義目標	学生が肢体不自由児(単一障害、重複障害)に対して、個々の実態に適した支援のあり方を具体的に理解すること。					
到達目標	1.肢体不自由のある幼児・児童・生徒に対して就学前の機関(保育所・幼稚園・療育機関等)で実践されている支援方法の要点を理解すること。 2.肢体不自由のある児童生徒を対象とする特別支援学校や特別支援学級で実践されている教育課程や主な支援方法の要点を理解すること。 3.一人一人の児童・生徒の実態を把握して支援の方針を考える基礎を身に付けること。■					
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のリアクションペーパーまたはプリント(30%)、レポート(30%)、作品(10%)を総合して評価する。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーまたはプリントやレポートに書かれた感想・疑問・意見について、次回の授業の冒頭で取り上げ、補足説明や感想を伝える。					
使用教材	教科書「小竹利夫(子どもや障害がある人の心の世界)川島書店」を使用する。必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。					
1	講義内容	オリエンテーションー肢体不自由児の状態像の多様性				
	該当する到達目標	予習	肢体不自由児の心理・生理・病理で学んだことを振り返る。			1.5 時間
	3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。			1.5 時間
2	講義内容	特別支援学校における教育課程				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。			1.5 時間
	2.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。			1.5 時間
3	講義内容	特別支援学級における教育課程				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。			1.5 時間
	2.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。			1.5 時間
4	講義内容	個別の指導計画と自立活動の支援(教材の紹介を含む)■				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。			1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。			1.5 時間
5	講義内容	運動面の支援				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。			1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。			1.5 時間
6	講義内容	感覚・認知面の支援(教材の製作を含む)■				
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。			1.5 時間

	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
7	講義内容	コミュニケーションの支援(その 1)－発信面■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	コミュニケーションの支援(その 2)－受信面■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	探索活動の支援(教材の製作を含む)■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	日常生活動作の支援(その 1)－食事について		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	日常生活動作の支援(その 2)－移動について		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	作業動作の支援		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	余暇活動の支援(教材の製作を含む)■		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	進路の支援		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	教科書を読んで理解に努める。	2.0 時間
	1.2.3.	復習	授業で配付した資料と紹介したビデオについて振り返る。	2.0 時間
備考	オフィスアワー： 月 3 限、火 4 限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 授業は教科書を読んだり映像を見たりしながら、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名		病弱児の指導(特別支援)			CEE143	講義
英文名		Curriculum and Teaching Methods for Children with Health Impairments				
担当教員		村田美和				
科目に関連した実務経験		病弱児に対する学習支援				
学年・開講期		3 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		学生が病弱児を対とする特別支援学校・特別支援学級の教育について概要を理解し、種々の病気に罹患している児童生徒一人ひとりの実態に適した教育を具体的に考えること。				
到達目標		1.病弱児教育の骨格を理解する。 2.児童生徒の病状と学校教育の場の関係について理解する。 3.病弱教育の教育課程、指導上の配慮について理解する。■				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		授業中の発言(20%)、毎回のリアクションペーパー(20%)、試験(60%)を総合して評価する。				
課題に対するフィードバック		毎回のリアクションペーパーに書かれた感想・疑問・意見について、次回の冒頭で補足説明を伝える。				
使用教材		必要な資料は随時配布する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。				
1	講義内容	オリエンテーションー病弱児の実態と教育課程				
	該当する到達目標 1,2	予習	病弱児を受け入れる特別支援学校のホームページを検索して、病弱児教育の骨格について理解に努める。			1.5 時間
		復習	授業で配布した資料について振り返る。			1.5 時間
2	講義内容	病弱児教育の変遷と全国および群馬県の現状				
	該当する到達目標 1,2	予習	群馬県の病弱児教育について調べる。			1.5 時間
		復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。			1.5 時間
3	講義内容	病弱児への教科指導と自立活動の指導				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	自立活動について理解を深めておく。			1.5 時間
		復習	授業で配布した資料について振り返る。			1.5 時間
4	講義内容	呼吸器疾患を伴う児童生徒の指導■				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	呼吸器疾患について理解に努める。			1.5 時間
		復習	授業で配布した資料について振り返る。			1.5 時間
5	講義内容	心臓疾患を伴う児童生徒の指導				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	心臓疾患について理解に努める。			1.5 時間
		復習	授業で配布した資料について振り返る。			1.5 時間
6	講義内容	腎臓・泌尿器疾患を伴う児童生徒の指導				
	該当する到達目標 1,2,3	予習	腎臓・泌尿器疾患について理解に努める。			1.5 時間
		復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。			1.5 時間
7	講義内容	消化器疾患を伴う児童生徒の指導				
	該当する到達目標	予習	消化器疾患について理解に努める。			1.5 時間

	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	骨・関節疾患および二分脊椎を伴う児童生徒の指導		
	該当する到達目標	予習	骨・関節疾患と二分脊椎について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	進行性筋ジストロフィ症を伴う児童生徒の指導■		
	該当する到達目標	予習	進行性筋ジストロフィ症について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	脳性まひを伴う児童生徒の指導■		
	該当する到達目標	予習	脳性まひについて理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	心身症・精神疾患を伴う児童生徒の指導		
	該当する到達目標	予習	心身症・精神疾患について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	内分泌・代謝疾患および肥満を伴う児童生徒の指導		
	該当する到達目標	予習	内分泌・代謝疾患について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	悪性腫瘍を伴う児童生徒の指導		
	該当する到達目標	予習	悪性腫瘍について理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	死に瀕した児童生徒および周囲の人への指導		
	該当する到達目標	予習	死に瀕した児童生徒への教育的係わりについて考える。	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料について振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめー多職種連携について		
	該当する到達目標	予習	医療関係者・福祉関係者と教育者の連携について考える。	2.0 時間
	1,2,3	復習	授業で配布した資料とビデオについて振り返る。	2.0 時間
備考	それぞれの内容について、適宜ディスカッションの場を設けながら授業を進めていく。 オフィスアワー：月曜日 3 限目 メールアドレス：murata-m@takasaki-u.ac.jp			

科目名		知的障害児教育演習(特別支援)			CEE301	演習
英文名		Teaching Practice for Children with Intellectual Disabilities				
担当教員		浦崎 源次				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		4 年 通年	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		障害児教育の問題は情緒的に語られたり、経験至上主義に陥ることが多々ある。そこで、まず、理論的に考える習慣をみにつけたい。次に実践について多角的にみる習慣をみにつけたい。				
到達目標		1. 障害児教育の諸問題について自分なりの意見を論理的に表現できる。 2. 知的障害教育の諸問題について自分なりの意見を論理的に表現できる。 3. PDCAの視点をもって授業を実践する態度をみにつける。 4. 研究的な視点をもって子どもとかかわる態度をみにつける。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養				
	✓	専門的知識				
	✓	問題発見・解決力				
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)				
	✓	自律的・意欲的に学習する力				
評価方法		レポート 60%、演習中の発言 40%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック		演習中に適宜コメントする。				
使用教材		原則として検討する教材は学会誌などから学生がみつけたものとする。 指導案の検討においてはできれば学生が教育実習において作成した指導案を教材としたい。適当なものがない場合は学生が見つけた指導案を教材とする。				
1	講義内容		授業の概要と進め方(オリエンテーション)			
	該当する到達目標	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。			1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針、成績評価方法などを確認する。			1.5 時間
2	講義内容		指導案の検討(1)日常生活の指導－指導計画について			
	該当する到達目標 2.3.4	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。			1.5 時間
		復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる。			1.5 時間
3	講義内容		指導案の検討(2)日常生活の指導－授業の展開について			
	該当する到達目標 2.3.4	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。			1.5 時間
		復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる			1.5 時間
4	講義内容		指導案の検討(3)遊びの指導－指導計画について			
	該当する到達目標 2.3.4	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。			1.5 時間
		復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる			1.5 時間
5	講義内容		指導案の検討(4)遊びの指導－授業の展開について			
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。			1.5 時間

	2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	1.5 時間
6	講義内容	指導案の検討(5)生活単元学習－指導計画について		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1.5 時間
	2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	1.5 時間
7	講義内容	指導案の検討(5)生活単元学習－授業の展開について		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで優れた点、問題点を整理する。	1.5 時間
	2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に配付資料の優れた点、問題点をまとめる	1.5 時間
8	講義内容	「障害児教育は教育の原点である」について考える(1)語られ方と機能		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1.2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
9	講義内容	「障害児教育は教育の原点である」について考える(2)原点の意味		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
10	講義内容	「障害は個性である」について考える(1)積極的主張の立場		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
11	講義内容	「障害は個性である」について考える(2)懐疑的立場		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
12	講義内容	出生前診断について考える		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
13	講義内容	早期発見・早期治療(支援)について考える		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
14	講義内容	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える(1)生活重視の立場		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
15	講義内容	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える(2)教科重視の立場		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
16	講義内容	「知的障害教育の本質は生活か教科か」問題を考える(3)「教科も生活も」は可能か		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
17	講義内容	知的障害教育における学力について考える		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
18	講義内容	インクルーシブ教育時代における知的障害教育の課題)		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間

	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
19	講義内容	知的障害児の言語発達に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
20	講義内容	知的障害児の国語科に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
21	講義内容	知的障害児の算数能力の発達に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
22	講義内容	知的障害児の算数・数学科に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
23	講義内容	知的障害児の運動発達に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
24	講義内容	知的障害児の描画発達に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
25	講義内容	知的障害児の音楽能力に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
26	講義内容	知的障害児の言語障害に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
27	講義内容	知的障害児の青年期教育に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1.2.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
28	講義内容	知的障害児教育の幼児教育・療育に関する文献を読む		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1.2.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
29	講義内容	知的障害教育における専門性について考える(1)関連領域の職種との関係において		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1.2.3.4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
30	講義内容	知的障害教育における専門性について考える(2)他の教職との関係において		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読む。配付資料に示されている参考文献を1つ探して読む。	1.5 時間
	1,2,3,4	復習	メンバーの意見や教員のコメントを参考に自分の意見をまとめる	1.5 時間
備考	オフィスアワー: メールアドレス: g-urasaki@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8号館 4階 407 受講生が輪番で文献等を選択し、発表し、それを受講生全員で討議する形式で進める。受講生の興味・関心によってはテーマの変更もありうる。			

科目名	肢体不自由児教育演習(特別支援)			CEE302	演習
英文名	Teaching Practice for Children with Physical Handicaps				
担当教員	小竹 利夫				
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 通年	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	多様な状態像を示す肢体不自由児の実態をとのようにつえ、どのような保育・教育を試みるか、様々な実践事例を読み、理解を深め、自分が担当であれば具体的にどのような改善を図るか考える場にしたい。また、実践研究論文作成の参考になる演習にしたい。				
到達目標	1.肢体不自由児の実態を理解する。 2.肢体不自由児に対する保育・教育の実践を理解する。■ 3.肢体不自由児に対する教育実践論文を主体的、批判的に読む力を付ける。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	実践論文の紹介、意見交換において、理解力 70%・発表力 30%で評価する。				
課題に対するフィードバック	実践論文について読み、発表する。その質疑応答・意見交換のなかで、補足説明やコメントを述べる。比較的読みやすい実践論文から始めて、やや難易度の高い実践論文へとステップアップしていく。				
使用教材	「障害児教育学研究」、「重度重複障害児の事例研究」等から学生が選択する教育実践論文。学習指導要領を随時参照する。				
1	講義内容	オリエンテーション、実践論文の選択、発表の順番を決定			
	該当する到達目標	予習	肢体不自由児について 3 年間に学んだことを振り返る。	1.5 時間	
	1	復習	自分が紹介する実践論文を読む。	1.5 時間	
2	講義内容	幼児期の肢体不自由児の保育実践事例(その 1)			
	該当する到達目標	予習	保育実践事例(その 1)を読む。■	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間	
3	講義内容	幼児期の肢体不自由児の保育実践事例(その 2)			
	該当する到達目標	予習	保育実践事例(その 2)を読む	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間	
4	講義内容	幼児期の肢体不自由児の保育実践事例(その 3)			
	該当する到達目標	予習	保育実践事例(その 3)を読む	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間	
5	講義内容	幼児期の肢体不自由児の保育実践事例(その 4)			
	該当する到達目標	予習	保育実践事例(その 4)を読む	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間	
6	講義内容	幼児期の肢体不自由児の保育実践事例(その 5)			
	該当する到達目標	予習	保育実践事例(その 5)を読む	1.5 時間	
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間	
7	講義内容	小学部低学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 1)■			

	該当する到達目標	予習	小学部低学年の教育実践事例(その 1)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	小学部低学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 2)		
	該当する到達目標	予習	小学部低学年の教育実践事例(その 2)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	小学部低学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 3)		
	該当する到達目標	予習	小学部低学年の教育実践事例(その 3)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
10	講義内容	小学部低学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 4)		
	該当する到達目標	予習	小学部低学年の教育実践事例(その 4)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
11	講義内容	小学部低学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 5)		
	該当する到達目標	予習	小学部低学年の教育実践事例(その 5)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
12	講義内容	小学部高学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 1)		
	該当する到達目標	予習	小学部高学年の教育実践事例(その 1)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
13	講義内容	小学部高学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 2)		
	該当する到達目標	予習	小学部高学年の教育実践事例(その 2)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
14	講義内容	小学部高学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 3)		
	該当する到達目標	予習	小学部高学年の教育実践事例(その 3)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
15	講義内容	小学部高学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 4)		
	該当する到達目標	予習	小学部高学年の教育実践事例(その 4)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
16	講義内容	小学部高学年の肢体不自由児の教育実践事例(その 5)		
	該当する到達目標	予習	小学部高学年の教育実践事例(その 5)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
17	講義内容	中学部の肢体不自由児の教育実践事例(その 1)		
	該当する到達目標	予習	中学部の教育実践事例(その 1)を読む■	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
18	講義内容	中学部の肢体不自由児の教育実践事例(その 2)		
	該当する到達目標	予習	中学部の教育実践事例(その 2)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
19	講義内容	中学部の肢体不自由児の教育実践事例(その 3)		
	該当する到達目標	予習	中学部の教育実践事例(その 3)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
20	講義内容	中学部の肢体不自由児の教育実践事例(その 4)		
	該当する到達目標	予習	中学部の教育実践事例(その 4)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
21	講義内容	中学部の肢体不自由児の教育実践事例(その 5)		

	該当する到達目標	予習	中学部の教育実践事例(その 5)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
22	講義内容	高等部の肢体不自由児の教育実践事例(その 1)		
	該当する到達目標	予習	高等部の教育実践事例(その 1)を読む■	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
23	講義内容	高等部の肢体不自由児の教育実践事例(その 2)		
	該当する到達目標	予習	高等部の教育実践事例(その 2)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
24	講義内容	高等部の肢体不自由児の教育実践事例(その 3)		
	該当する到達目標	予習	高等部の教育実践事例(その 3)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
25	講義内容	高等部の肢体不自由児の教育実践事例(その 4)		
	該当する到達目標	予習	高等部の教育実践事例(その 4)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
26	講義内容	高等部の肢体不自由児の教育実践事例(その 5)		
	該当する到達目標	予習	高等部の教育実践事例(その 5)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
27	講義内容	卒後の教育実践事例(その 1)		
	該当する到達目標	予習	卒後の教育実践事例(その 1)を読む■	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
28	講義内容	卒後の教育実践事例(その 2)		
	該当する到達目標	予習	卒後の教育実践事例(その 2)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
29	講義内容	卒後の教育実践事例(その 3)		
	該当する到達目標	予習	卒後の教育実践事例(その 3)を読む	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
30	講義内容	この演習で学んだことを振り返る		
	該当する到達目標	予習	これまで読んできた教育実践で特に関心を持った事例を読み返す	1.5 時間
	1,2,3	復習	授業を振り返り、理解を深める。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: 月 3 限、火 4 限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 毎回の発表者は、実践論文の要点をまとめたレジュメを用意し、内容を紹介すると共に、自分が担任であったとしたらどのような保育・教育実践を試みるかについても発表し、他の受講生と意見交換を活発に行う。難易度^oの高い実践論文については、数名のグループで読み進め、不明な事項は確実に解明していく。 (■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	病弱児教育演習			CEE303	演習
英文名	Teaching Practice for Children with Health Impairments				
担当教員	村田 美和				
科目に関連した実務経験	病弱児、不登校児に対する学習支援を実施(現在)				
学年・開講期	4 年 通年	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標	病弱児一人ひとりの実態に応じた教育課程、指導計画、指導実践の資料を理解し、具体的な支援についての考えを深めていく。病弱児特別支援学校や病弱児特別支援学級に在籍している児童・生徒を対象とした事例研究に関する研究的な討議を行い、多様な病状にある子どもの個々の状態に応じた合理的配慮について検討し、そういった子どもたちに対する教育の実践力を身につけていくことを目的とする。				
到達目標	1.多様な病状にある病弱児の実態に応じた支援について説明できる。 2.病弱児教育の実践事例をもとに、研究的な議論ができる。■ 3.病弱児の実態に応じた合理的配慮について説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	収集した資料の内容、資料整理の状態を 50%、研究討議における発言、報告会での発表を 50%として評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポート(感想シート)にはコメントをつけて返却する。 疑問点や不明点について、質問を受け付ける。				
使用教材	学習指導要領。その他、必要な資料を授業内で配布する。				

	講義内容	オリエンテーション		
1	該当する到達目標	予習	シラバスの内容に目を通し、本講義の目標を理解する。	1.5 時間
	1	復習	講義内容、到達目標、学位授与方針などを確認する。	1.5 時間
	講義内容	病弱児の心理等の実態について		
2	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	病弱児の心理等の実態について理解する。	1.5 時間
	講義内容	病弱児の教育課程について		
3	該当する到達目標	予習	学習指導要領に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	病弱児の教育課程について理解する。	1.5 時間
	講義内容	病弱児の指導法について		
4	該当する到達目標	予習	学習指導要領に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	病弱児の指導法について理解する。	1.5 時間
	講義内容	病弱児を対象とした実践研究について		
5	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	実践研究の論文の読み方について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	研究対象児および保護者、所属機関に対する配慮について		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間

	1	復習	保護者や所属機関に対する配慮について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	実践研究のまとめ方について		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実践研究のまとめ方について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	病弱児教育に関する参考文献の活用について		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	参考文献の活用について理解し、文献を実際に探してみる。	1.5 時間
9	講義内容	実践研究の事例紹介		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	悪性新生物の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	悪性新生物と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	筋ジストロフィーの状態等に応じた実践事例に対する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	筋ジストロフィーと実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	ぜん息の状態等に応じた実践事例に対する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	ぜん息と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	食物アレルギーの状態等に応じた実践事例に対する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	食物アレルギーと実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	糖尿病の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	糖尿病と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	実践事例の中間報告会		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	他の人の発表を理解し、今後の自分の発表に生かせる部分についてまとめる。	1.5 時間
16	講義内容	腎臓病の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	腎臓病と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
17	講義内容	統合失調症の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	統合失調症と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
18	講義内容	うつ病等の気分障害の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	うつ病と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
19	講義内容	摂食障害の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	摂食障害と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
20	講義内容	発達障害の状態等に応じた実践事例に対する研究討議■		

	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	発達障害と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
21	講義内容	不登校の状態等に応じた実践事例に対する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	不登校と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
	講義内容	緘黙の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
22	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	緘黙と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
23	講義内容	心臓病の状態等に応じた実践事例に対する研究討議		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	心臓病と実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
	講義内容	てんかんの状態等に応じた実践事例に対する研究討議■		
24	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	てんかんと実践研究の事例について理解する。	1.5 時間
25	講義内容	病弱児を支える社会とテクノロジーに関する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	病弱児を支える社会とテクノロジーについて理解する。	1.5 時間
	講義内容	病弱児を支える社会とテクノロジーに関するまとめ■		
26	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	病弱児を支える社会とテクノロジーについて自分の考えをまとめる。	1.5 時間
27	講義内容	実践事例を踏まえた病弱児の環境等の整備に関する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	病弱児の環境等の整備について理解を深める。	1.5 時間
	講義内容	実践事例を踏まえた病弱児の環境等の整備に関するまとめ■		
28	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	病弱児の環境等の整備についてまとめる。	1.5 時間
29	講義内容	実践事例を踏まえた病弱児の合理的配慮に関する研究討議■		
	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	病弱児の合理的配慮について再確認する。	1.5 時間
	講義内容	実践事例を踏まえた病弱児の合理的配慮に関するまとめ■		
30	該当する到達目標	予習	参考資料に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	病弱児の合理的配慮について再確認する。	1.5 時間
備考	これまで学習してきた知識を生かし、具体的な病気に合わせた指導とその周辺知識について演習する。それぞれの内容について、意見を交換しながら授業を進めていく。 オフィスアワー: 月曜 3 限 メールアドレス: murata-m@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 5 階 502 号室			

科目名	視覚障害・聴覚障害教育総論(特別支援)			CEE101	講義
英文名	Education for Children with Visual and Hearing Impairments				
担当教員	金澤 貴之 中村 保和				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	2 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	視覚障害教育および聴覚障害教育の概要と特徴について理解し、視覚障害児および聴覚障害児の指導の基本について理解を深め、こうした子どもたちに対する特別支援教育の視点を養う。				
到達目標	1.視覚障害および聴覚障害の生理・病理の基礎的事項について説明することができる。 2.視覚障害児および聴覚障害児の心理について理解し、教育場面や生活場面における心理面への対応を説明することができる。 3.視覚障害教育および聴覚障害教育の歴史や制度等について、保育や教育に関する基礎的事項を説明することができる。 4.視覚障害教育および聴覚障害教育の特徴を踏まえて、こうした子どもたちの教育課程や指導法の概要について説明することができる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	視覚障害教育に関する最終レポート(50%)と聴覚障害教育に関する最終レポート(50%)を総合して評価し、総合評価60%以上を合格とする。なお、これらの最終レポートは本講義数(全15回)の2／3以上を出席した者が提出できるものとし、出席回数が満たない者のレポートは評価の対象としない。				
課題に対するフィードバック	特に行わない。質問等があれば個別に応じる。				
使用教材	講義のスライドを随時プリントして配布する。				
	講義内容	ガイダンス			
1	該当する到達目標	予習	シラバス内容を読んで講義の目標等を理解する。		1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与の方針、成績評価方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	視覚障害Ⅰ：視覚障害教育とは？視覚障害の定義、視覚障害教育の歴史と変遷、教育課程			
	該当する到達目標	予習	視覚障害教育の概要を文献等で調べ確認する。		1 時間
	3	復習	視覚障害の定義を踏まえたうえで、視覚障害教育の概要を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	視覚障害Ⅱ：視覚障害の理解① ものを見る仕組みとその障害			
	該当する到達目標	予習	通常の目の働きについて、図書やインターネットを通して把握しておく。		1 時間
	1	復習	目のしくみやその障害について、理解する。		1.5 時間
4	講義内容	視覚障害Ⅲ：視覚障害の理解② 見え方の個人差と視機能評価			
	該当する到達目標	予習	ものの見え方や視力検査の方法などについて図書やインターネットで調べる。		1 時間
	1,2	復習	眼疾患ごとの見え方の違いについて理解し、視機能評価の種類について知る。		1.5 時間
5	講義内容	視覚障害Ⅳ：シミュレーションレンズによる弱視疑似体験、体験の振り返りと共有			
	該当する到達目標	予習	屈折異常や視野狭窄など種々の視覚障害の種類や程度について調べておく。		1 時間

	1, 2	復習	疑似体験で感じたことを振り返り、視覚障害の程度や種類の理解を深める。	1.5 時間
6	講義内容	視覚障害Ⅴ: 視覚障害の子どもが日常生活および学校生活で遭遇する困難とそれへの配慮		
	該当する到達目標	予習	視覚障害児の抱える困難について調べておく。	1 時間
	2	復習	視覚障害がもたらす生活・学習上の困難とそれへの配慮について理解する。	1.5 時間
7	講義内容	視覚障害Ⅵ: 視覚重複障害—盲ろう二重障害を中心に—		
	該当する到達目標	予習	知的障害や肢体不自由病弱などの他の障害種の特徴について確認しておく。	1 時間
	3	復習	視覚障害に他の障害を有する子ども達の発達上の困難について理解を深める。	1.5 時間
8	講義内容	視覚障害Ⅶ: 初期学習と概念形成—点字導入に向けて—		
	該当する到達目標	予習	盲学校(視覚特別支援学校)における学習内容や教育課程について調べておく。	1 時間
	4	復習	触覚による概念形成の特徴や点字学習の基礎について理解を深める。	1.5 時間
9	講義内容	聴覚障害Ⅰ: 「聴覚障害」とは？		
	該当する到達目標	予習	「聴覚障害」の概要を文献等で調べ確認する。	1 時間
	1,2	復習	聴覚障害の定義、特性を理解する。	1.5 時間
10	講義内容	聴覚障害Ⅱ: 聴覚特別支援学校(聾学校)の教育課程・指導法		
	該当する到達目標	予習	聾学校(聴覚特別支援学校)の教育課程と指導法について文献で調べておく。	1 時間
	3	復習	聾学校(聴覚特別支援学校)の教育課程の構造を確認し、指導法を整理する。	1.5 時間
11	講義内容	聴覚障害Ⅲ: 乳幼児期の関わり方		
	該当する到達目標	予習	乳幼児期の聴覚障害児への関わり方について、インターネット等で調べておく。	1 時間
	1,2	復習	乳幼児期の関わり方において大切なことを理解する。	1.5 時間
12	講義内容	聴覚障害Ⅳ: 言語獲得の課題(話し言葉)		
	該当する到達目標	予習	聴覚障害児の話し言葉の獲得を巡る諸課題について、インターネット等で調べておく。	1 時間
	3	復習	言語指導の変遷および言語獲得のポイントを整理し、理解する。	1.5 時間
13	講義内容	聴覚障害Ⅴ: 言語獲得の課題(書き言葉)		
	該当する到達目標	予習	聴覚障害児の書記日本語の習得を巡る諸課題について、インターネット等で調べておく。	1 時間
	3	復習	書記日本語の獲得を巡る課題および改善に向けた方策について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	聴覚障害Ⅵ: 手話の位置づけ		
	該当する到達目標	予習	「手話」について、文献およびインターネット等で調べる。	1 時間
	3	復習	言語としての手話について理解を深め、その使用を巡る聾教育での課題について整理し、理解する。	1.5 時間
15	講義内容	聴覚障害Ⅶ: 重複障害児者の教育および卒後の支援		
	該当する到達目標	予習	「聾重複」について、文献およびインターネット等で調べる。	1 時間
	3,4	復習	聾重複障害児者の教育および卒後の支援について、構造的に理解する。	1.5 時間
備考	講義時および講義後の質問は積極的に受け付ける。講義担当者は非常勤講師のため、講義外での質問はメールで受け付ける。代表メールアドレス: ynakamur@gunma-u.ac.jp 講義中に適宜、質問の時間を確保したり、講義後にリプライカードを配付したりして、受講生の授業に対する理解度を把握し、定着を図りながら講義を進めていく。予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名		知的障害者教育総論(特別支援)			CEE102	講義
英文名		Education for Children with Intellectual Disabilities				
担当教員		浦崎 源次				
科目に関連した実務経験						
学年・開講期		1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標		後に履修する知的障害に関する心理・生理・病理や教育課程・指導法などの各論を学習するための基礎学習として、知的障害教育にかかる全般についての概念や用語など基礎的な知識を得る。				
到達目標		1. 知的障害の概念を理解する。 2. 知的障害教育の現状を理解する。 3. 知的障害児の行動特性を理解する。 4. 知的障害の原因を理解する。 5. 特別支援教育史における知的障害児教育の歴史の特徴を理解する。 6. 知的障害児教育の教育課程の特徴を理解する。				
学位授与方針との対応		✓	豊かな人間性と教養			
		✓	専門的知識			
		✓	問題発見・解決力			
		✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
		✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法		定期試験 90%、授業中の発言等 10%で評価する。 総合評価 60%以上を合格とする				
課題に対するフィードバック		講義中にコメントする。				
使用教材		教科書は使用しない。 なお、第 12 回～第 13 回の講義では特別支援学校学習指導要領とその解説を読むことを予習課題にしているので各自購入しておくことが望ましい。				
1	講義内容	「知的障害」の概念と定義				
	該当する到達目標	1	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		1	復習	知的障害の定義と診断についてまとめる。	1.5 時間	
2	講義内容	知的障害児の心理Ⅰ－知覚と記憶				
	該当する到達目標	1,3	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		1,3	復習	知的障害児の知覚や記憶の特徴についてまとめる。	1.5 時間	
3	講義内容	知的障害児の心理Ⅱ－言語と認知				
	該当する到達目標	1,3	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		1,3	復習	知的障害児の言語や認知の特徴についてまとめる	1.5 時間	
4	講義内容	知的障害者のライフコース				
	該当する到達目標	2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		2	復習	知的障害者の就学前、就学後の生活の問題について	1.5 時間	
5	講義内容	知的障害児の教育制度				
	該当する到達目標	2	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間	
		2	復習	知的障害児の就学手続き、教育の場についてまとめる。	1.5 時間	

6	講義内容	知的障害の生理・病理Ⅰ－出生前(染色体異常)		
	該当する到達目標	予習	配付資料の染色体異常に関する箇所に目を通す。	1.5 時間
	4	復習	染色体異常と知的障害の関係をまとめる。	1.5 時間
7	講義内容	知的障害の生理・病理Ⅱ－出生前(代謝異常、その他)		
	該当する到達目標	予習	配付資料の周代謝異常とその他の箇所に目を通す。	1.5 時間
	4	復習	代謝異常等と知的障害の関係をまとめる。	1.5 時間
8	講義内容	知的障害の生理・病理Ⅱ－周産期、出生後		
	該当する到達目標	予習	配付資料の周産期、出生後の箇所に目を通す。	1.5 時間
	4	復習	知的障害の周産期、出生後の原因をまとめる。	1.5 時間
9	講義内容	知的障害教育の歴史－西洋		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,5	復習	欧米における知的障害教育の創始と発展を他の障害と比較しながらまとめる	1.5 時間
10	講義内容	知的障害教育の歴史－日本(昭和 10 年代まで)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,5	復習	日本における知的障害教育の創始を他の障害や欧米と比較しながらまとめる	1.5 時間
11	講義内容	知的障害教育の歴史－日本(昭和 20 年代以降)		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,5	復習	知的障害教育の義務化の過程を他の障害と比較しながらまとめる。	1.5 時間
12	講義内容	特別支援学校の教育課程		
	該当する到達目標	予習	『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領』と『特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』の総則の章を読む。	1.5 時間
	6、	復習	特別支援学校の教育課程の特徴を小学校、中学校と比較しながらまとめる。	1.5 時間
13	講義内容	知的障害特別支援学校の教育課程と教科		
	該当する到達目標	予習	『特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』の「第3編小学部・中学部学習指導要領解説」の「第2部小学部・中学部学習指導要領総則等の解説」の「第3章知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」を読む。	1.5 時間
	6、	復習	知的障害特別支援学校の教育課程と教科の特徴を他の障害と比較しながらまとめる。	1.5 時間
14	講義内容	各教科等を合わせた指導		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	6	復習	「合わせた指導」と「教科別の指導」の長短についてまとめる。	1.5 時間
15	講義内容	知的障害児の理解と啓発		
	該当する到達目標	予習	講義内容に関連する項目について、関連する図書などで調べておく。	1.5 時間
	1,2, 3	復習	知的障害児への理解を深めるために何ができるか、自分なりに考える。	1.5 時間
備考	オフィスアワー: メールアドレス: g-urasaki@takasaki-u.ac.jp 研究室: 8 号館 4 階 407 パワーポイントを利用しながら講義形式で進める。偶数回の冒頭では、知的障害児の指導に関するトピックを thinking time と題してとりあげる。 予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	重複障害児教育総論(特別支援)			CEE103	講義
英文名	Education for Children with Multiple Handicaps				
担当教員	小竹 利夫				
科目に関連した実務経験	障害児母子通所施設の支援員・代表として勤務(経験)				
学年・開講期	1 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学生が感覚障害、運動障害、知的障害など多様な状態像を示す重複障害児を教育的な視点からどのように理解し、どのような教育課程を設定して具体的な支援を試みればよいかを理解すること。				
到達目標	1. 重複障害児の多様性を理解する。 2. 重複障害児の実態を把握する際の心理学的、医学的な視点を疑似体験も踏まえて理解する。 3. 重複障害児に対して具体的な支援を試みる際の基本的な留意点を理解する。■				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	授業中の態度(30%)、毎回のリアクションペーパーまたはプリント(30%)、レポート(40%)を総合して評価する。				
課題に対するフィードバック	毎回の資料(ビデオ、文字資料など)に関するリアクションペーパーまたはプリント、レポートに書かれた疑問・感想・意見などについて、次の授業の冒頭で取り上げ、学生の理解の修正と深化を図る。				
使用教材	必要な資料は随時配布する。毎回、重複障害児の教育実践ビデオを使用する。盲聾疑似体験教材も使用する。特別支援学校学習指導要領を随時参照する。				
1	講義内容	重複障害という概念について			
	該当する到達目標	予習	重複障害児について、インターネット等で調べる。	1.5 時間	
	1	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
2	講義内容	重複障害児の状態像			
	該当する到達目標	予習	重複障害児の多様性について調べる。	1.5 時間	
	1,2	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
3	講義内容	重複障害児教育の歴史と現状			
	該当する到達目標	予習	重複障害児教育の歴史について調べる。	1.5 時間	
	1,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
4	講義内容	重複障害児の就学と教育課程			
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間	
	1,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
5	講義内容	重複障害児の実態把握(医学的側面)			
	該当する到達目標	予習	重複障害児の医学的側面について、配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間	
	1,2	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
6	講義内容	重複障害児の実態把握(心理学的側面)			
	該当する到達目標	予習	重複障害児の心理学的側面について、配布資料を読んで理解に努める。	1.5 時間	
	1,2	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間	
7	講義内容	重複障害児の指導計画(その 1)ー指導計画の構成と内容			
	該当する到達目標	予習	重複障害児の指導計画について、配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間	

	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
8	講義内容	重複障害児の指導計画(その 2)―指導計画の具体例		
	該当する到達目標	予習	指導計画の具体例について、配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
9	講義内容	重複障害児の探索活動■		
	該当する到達目標	予習	探索活動に関する配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
10	講義内容	重複障害児のコミュニケーション活動(その 1)―係わり手のあり方■		
	該当する到達目標	予習	重複障害児のコミュニケーション活動に関する配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
11	講義内容	重複障害児のコミュニケーション活動(その 2)―盲聾疑似体験		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付資料と盲聾疑似体験について振り返る。	1.5 時間
12	講義内容	医療的ケアを必要とする重複障害児の支援		
		予習	配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
13	講義内容	重複障害児の就学前の支援■		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
14	講義内容	重複障害児の就学後の支援■		
	該当する到達目標	予習	配付資料を読んで理解に努める。	1.5 時間
	1,2,3.	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	1.5 時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	14 回までの配付資料に目を通す。	2.0 時間
	1,2,3	復習	配付資料と授業で紹介したビデオについて振り返る。	2.0 時間
備考	オフィスアワー: 月 3 限、火 4 限 メールアドレス: kotake@takasaki-u.ac.jp 授業は配布資料を読んだり映像を見たりしながら、教員が作成するプリントに記入する形式で進める。 (■: 実務経験に基づく内容を示す。)			

科目名	発達障害児教育総論(特別支援)			CEE104	講義
英文名	Education for Children with Developmental Disabilities				
担当教員	五十嵐 一徳 村田 美和				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	1 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	「見えない障害」と称される発達障害の概念や具体的な障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害など)の特性について理解することにより、幼稚園・保育所および通常学級に通う子どもたちの多様性を捉える力をもつようになる。そして、子どもの実態を捉える方法(アセスメント)の結果に基づき指導方法・指導の手立てについて、ディスカッションも交えながら検討していくことで、基礎的な実践力を身につけていくことを目的とする。				
到達目標	1.発達障害の定義や障害種について説明できる。 2.発達障害に対するアセスメントについて説明できる。 3.発達障害に対する支援方法について説明できる。				
学位授与方針との対応	✓	豊かな人間性と教養			
	✓	専門的知識			
	✓	問題発見・解決力			
	✓	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	✓	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	試験の成績を 70%、レポート・授業態度 30%として評価する。 総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	随時、わからないことなどについて質問を受け付ける。				
使用教材	講義のスライド等を随時プリントして配付する				
1	講義内容	ガイダンス 発達障害とは			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。		1 時間
		復習	講義内容、到達目標、学位授与方針などを確認する。 発達障害の定義について理解する。		1.5 時間
2	講義内容	発達障害児の理解Ⅰ(LD)			
	該当する到達目標 1	予習	参考図書に目を通す。		1 時間
		復習	LD について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	発達障害児の理解Ⅱ(ADHD)			
	該当する到達目標 1	予習	参考図書に目を通す。		1 時間
		復習	ADHD について理解する。		1.5 時間
4	講義内容	発達障害児の理解Ⅲ(自閉症スペクトラム障害)			
	該当する到達目標 1	予習	参考図書に目を通す。		1 時間
		復習	自閉症スペクトラム障害について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	学習面におけるアセスメントⅠ(読み書きの速度と ICT の評価)			
	該当する到達目標 2	予習	参考図書①第 3、4 章に目を通す。		1 時間
		復習	学習面においてなぜアセスメントが必要なのか理解する。		1.5 時間
6	講義内容	学習面におけるアセスメントⅡ(認知機能の評価)			

	該当する到達目標	予習	参考図書①第2章に目を通す	1時間
	2	復習	学習面におけるアセスメントの内容と種類について理解する。	1.5時間
7	講義内容	学習面における支援方法Ⅰ(学校のリソースとICTについて)		
	該当する到達目標	予習	参考図書①第5,6,10章に目を通す。	1時間
	3	復習	支援方法の根拠となる資料の解釈について理解する。	1.5時間
8	講義内容	学習面における支援方法Ⅱ(小中学校における事例)		
	該当する到達目標	予習	参考図書①第7,8章に目を通す	1時間
	3	復習	ICTを活用した支援方法について理解する。	1.5時間
9	講義内容	学習面における支援のまとめ		
	該当する到達目標	予習	参考図書①第1章に目を通す。	1時間
	2,3	復習	学習面の困難さの多様性について理解する。	1.5時間
10	講義内容	社会的コミュニケーションに対するアセスメント		
	該当する到達目標	予習	参考図書に目を通す。	1時間
	2	復習	社会的コミュニケーションに対するアセスメントを理解する。	1.5時間
11	講義内容	社会的コミュニケーションに対する支援方法		
	該当する到達目標	予習	参考図書に目を通す。	1時間
	3	復習	社会的コミュニケーションに対する支援方法について理解する。	1.5時間
12	講義内容	行動問題に対するアセスメント		
	該当する到達目標	予習	参考図書②に目を通す。	1時間
	2	復習	行動問題に対するアセスメントについて理解する。	1.5時間
13	講義内容	行動問題に対する支援方法		
	該当する到達目標	予習	参考図書②に目を通す。	1時間
	3	復習	行動問題に対する支援方法について理解する。	1.5時間
14	講義内容	社会的コミュニケーション・行動問題に対する支援のまとめ		
	該当する到達目標	予習	参考図書②に目を通す。	1時間
	2,3	復習	社会的コミュニケーションと行動問題に対する支援について理解する。	1.5時間
15	講義内容	まとめ		
	該当する到達目標	予習	14回目までの講義内容を振り返る。	0.5時間
	1,2,3	復習	14回目までの講義内容を振り返り、発達障害に対する支援の全体像を理解する。	2時間
備考	・質問はメールでも受け付ける。 ・担当教員情報 五十嵐 オフィスアワー:木曜日2限目、金曜日2限目, メール igarashi-k@takasaki-u.ac.jp, 研究室:8号館5階506 村田 オフィスアワー:火曜2限、金曜2限, メール:murata-m@takasaki-u.ac.jp, 研究室:8号館5階502 ・授業期間全体を通じた授業の進め方:配付プリントに基づき視覚機器を用いながらの説明やグループワークを行います。 ・参考図書① 学校でのICT利用による読み書き支援(金子書房)近藤武夫 編著 ・参考図書②「行動問題」解決ケーススタディ やさしく学べる応用行動分析(中央法規出版)小笠原恵 編著 ・その他の参考図書については、ガイダンス等で紹介する。 ・予習・復習については、試験前の学習で補完すること。			

科目名	学校経営と学校図書館(司書教諭)			—	講義
英文名	School Management and School Library				
担当教員	井ノ口 雄久				
科目に関連した実務経験	学校図書館での勤務経験あり				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	情報メディアの収集・整理・保存・提供する図書館サービスを基本として、学校を経営する観点を持ち、社会的変化に対応した学校教育を支える機関としての機運が高まっている。教師と司書教諭による協働(コラボレーション)の大切さを理解し、学校の教育活動における学校図書館活動の課題と展望を考察する。				
到達目標	1.学校教育における学校図書館活動の重要性を理解する 2.実際の学校教育に生かすために、学校現場に定着する方法を考え、実践できるようになる■				
学位 授与方針との対応	—	豊かな人間性と教養			
	—	専門的知識			
	—	問題発見・解決力			
	—	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	—	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	毎回の課題提出 40%、レポート 2 回 60%で評価する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	毎回の課題と授業の振り返りの提出を受けて、次回の授業で学生の疑問点やさらに解説が必要な事項について解説する。レポートは課題に対して評価できる点、不足している点のコメントを付けて返却する。				
使用教材	教科書「学校経営と学校図書館」 中村百合子編著 樹村房刊 ISBN978-4-88367-251-6 次回の課題、および必要に応じて資料を配布する。				
1	講義内容	ガイダンス 司書教諭になるための学習及び話し合い学習の方法・授業評価について説明する			
	該当する到達目標 1	予習	シラバス、教科書の序文を読んで、講義の目標などを理解する。 第 1 章に目を通す。		1.5 時間
		復習	講義内容、到達目標、成績評価方法などを確認する。		1.5 時間
2	講義内容	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会			
	該当する到達目標 1	予習	第 2 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。		1.5 時間
		復習	専門的知識の限界と知の民主化が必要となった現代社会の知のあり方について理解する。		1.5 時間
3	講義内容	これからの学校教育とあるべき学びの形			
	該当する到達目標 1	予習	第 3 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。		1.5 時間
		復習	新しい知のあり方とは、専門家と市民が協同探求する知である。その知のあり方を実現するための学校教育のあり方と学び方を理解する。		1.5 時間
4	講義内容	メディアと人間の循環			
	該当する到達目標 1	予習	第 4 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。		1.5 時間
		復習	新しい知のあり方のための学校教育において、学校図書館はどうあるべきか		1.5 時間

			を理解する。	
5	講義内容	学校の中の図書館		
	該当する到達目標	予習	第 5 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	日本における学校図書館を含む図書館制度及びその目的、そして学校図書館の目的実現の方法について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	学校図書館の歴史(アメリカ)		
	該当する到達目標	予習	第 6 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	学校図書館の本質を具現化していると考えられるアメリカの学校図書館史を理解する。	1.5 時間
7	講義内容	学校図書館の歴史(日本)		
	該当する到達目標	予習	第 7 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	日本の学校図書館の源流について学び、近年どのように関心が寄せられているか理解する。	1.5 時間
8	講義内容	日本の学校図書館の現状■		
	該当する到達目標	予習	第 8 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	日本の学校図書館の最新の実態により現状を把握し、新しい学校図書館のあり方を理解する。	1.5 時間
9	講義内容	学校図書館の目的と機能		
	該当する到達目標	予習	第 9 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	近代的学校教育の問題解決のための教育改革の中で誕生・発展してきた学校図書館の目的と機能を総合的に理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校図書館の図書館サービス■		
	該当する到達目標	予習	第 10 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	奉仕機関であり、指導機関である学校図書館の各種のサービスについて理解する。	1.5 時間
11	講義内容	学校図書館の教育活動■		
	該当する到達目標	予習	第 11 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	「読み」の教育、教育内容の改革、教育方法の改革の観点から、学校図書館に期待される教育活動について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校図書館の担当者■		
	該当する到達目標	予習	第 12 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
		復習	学校図書館運営のための協力体制と学校図書館専門職の成立の可能性の課題について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	学校図書館のマネジメント■		
	該当する到達目標	予習	第 13 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によつ	1.5 時間

	1,2		ては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	
		復習	学校図書館の「マネジメント」とその活動の「評価」の課題について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	学校図書館の設計■		
	該当する到達目標	予習	第 14 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
	1,2			
		復習	学校図書館の目的・機能・活動のための施設設計どうあるべきかを理解する。	1.5 時間
15	講義内容	学校図書館研究と学校図書館の発展		
	該当する到達目標	予習	第 15 章に目を通して、課題を考える。自分の関心・疑問を整理し、場合によっては調べてみる。さらに疑問や関心事項をメールで講師に連絡する。	1.5 時間
	2			
		復習	学校図書館の発展のために何が社会的課題か、何をなすべきかを話し合ったことを整理して自分なりの学校図書館像を考えてみる。	1.5 時間
備考	授業の方法は、グループ学習(3～4人)をベースとする。予習により学生自身が考えてきたことを話し合い、さらに考えを深めてもらう。話し合いを通して考えたことや更なる疑問等を各自コメント用紙に記入・提出してもらい、次回の授業前に講師の考えを添付し各自に返却する。学生のコメント内容を踏まえ、前回の授業の補足説明を行う。 受講生の実習との兼ね合いで、できれば学校図書館見学を実施する予定。 復習については、講師からのコメント回答により再考すること。 オフィスアワー：質問等は適宜受け付ける。メールで予約すること。 メールアドレス： katsuino1949@gmail.com ■：実務経験に基づく内容を示す。			

科目名	学校図書館メディアの構成(司書教諭)			-	講義
英文名	Selection and Organization of School Library Media Resources				
担当教員	小柳 聡美				
科目に関連した実務経験	学校図書館司書として公立小中学校に勤務(経験) 教務職員として進学塾に勤務(経験)				
学年・開講期	4 年 前期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を習得する。				
到達目標	1.学校図書館メディアの構成について、基本的な知識を身につける。 2.日本十進分類法による分類を説明できる。 3.学校図書館メディアを日本十進分類法により、組織化できる。 4.学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。 5.学校図書館メディアの配架ができる。				
学位授与方針との対応	-	豊かな人間性と教養			
	-	専門的知識			
	-	問題発見・解決力			
	-	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	-	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	定期試験70%、授業参加度・授業態度・レポート(2 回)30%で評価する。 総合評価60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	レポートは講義内で発表時間を設け、講評する。 最終講義時、提出物(講義内容まとめ)へコメントをつけて返却する。 筆記試験の意図は、第1回の講義で説明する。				
使用教材	教科書『情報資源組織法 第2版』志保田務 高鷲忠美 編著 平井尊士 共著(第一法規) ISBN978-4-474-05430-1				
1	講義内容	学校図書館メディアの意義・役割			
	該当する到達目標 1	予習	シラバスの内容を読んで講義の目標などを理解する。 なぜ司書教諭免許を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介ができるようにしておく。		1.5 時間
		復習	学校図書館メディアの構成とは何かを理解する。		1.5 時間
2	講義内容	学校図書館メディアの種類・特性 ■			
	該当する到達目標 1	予習	奥付とは何かを理解し、実例を挙げられるようにしておく。		1.5 時間
		復習	学校図書館メディアの定義・種類・特性を理解する。		1.5 時間
3	講義内容	学校図書館メディアの選択と構成			
	該当する到達目標 1,4	予習	「図書館の自由に関する宣言」(日本図書館協会)を調べ、目を通しておく。		1.5 時間
		復習	資料選択方針について、理解する。		1.5 時間
4	講義内容	学校図書館メディアの組織化(1)分類の意義と機能			
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書p6～10(「分類」ということ)、p184～187(資料分類表)に目を通す。		1.5 時間
		復習	分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表の歴史について理解する。		1.5 時間
5	講義内容	学校図書館メディアの組織化(2)日本十進分類法の概要			
	該当する到達目標	予習	教科書のp187～200に目を通す。		1.5 時間

	1,2	復習	類目表、綱目表、要目表について理解する。	1.5 時間
6	講義内容	学校図書館メディアの組織化(3) 日本十進分類法の使い方①		
	該当する到達目標	予習	教科書のP200～256(分類作業、分類規定と各種概説)に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	講義中に行った分類演習について復習する。	1.5 時間
7	講義内容	学校図書館メディアの組織化(4) 日本十進分類法の使い方②		
	該当する到達目標	予習	教科書のp256～262に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	別置法、「図書記号」法について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	学校図書館メディアの組織化(5) 日本十進分類法の使い方③ レポート1提出 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書p263～269に目を通す。	1.5 時間
	1,2,3	復習	図書以外の資料(メディア)の保管と運用について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	学校図書館メディアの組織化(6) 件名標目表		
	該当する到達目標	予習	教科書のp165～182(主題からのアプローチ1)に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	件名標目表、シソーラス、分類表について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	学校図書館メディアの組織化(7) 目録の意義と機能		
	該当する到達目標	予習	教科書のp13～36(目録法総論)に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	目録とは何かを理解する。	1.5 時間
11	講義内容	学校図書館メディアの組織化(8) 日本目録規則の概要		
	該当する到達目標	予習	教科書のp37～48(目録規則)に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	目録規則の意義と構成について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校図書館メディアの組織化(9) 日本目録規則の使い方① レポート2提出 ■		
	該当する到達目標	予習	教科書のp49～134(和資料記入の作成)に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	欧米の目録規則の歴史、日本の目録規則の歴史、書誌記録の国際標準化について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	学校図書館メディアの組織化(10) 日本目録規則の使い方②		
	該当する到達目標	予習	教科書のp135～163(洋資料記入の作成)に目を通す。	1.5 時間
	1,4	復習	目録記入の実例集に目を通す。	1.5 時間
14	講義内容	学校図書館メディアの組織化(11) 目録の電算化		
	該当する到達目標	予習	身近にあるコンピュータ目録は何かを確認する。	1.5 時間
	1,4	復習	コンピュータ目録の作成と検索について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	多様な学習環境と学校図書館メディアの配置 ■		
	該当する到達目標	予習	自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長、改善点について考察する。	1.5 時間
	1,5	復習	全講義、振り返り。	1.5 時間
備考	・オフィスアワー: 質問には授業開始前もしくは終了後に教室等で応じます。 ・第2回より、導入で前回の講義内容を400字でまとめて提出。 ・■実務経験に基づく内容を示す。 ・授業外学習: 日本十進分類法 第2次区分表を暗記すること(教科書に収録されている)。			

科目名	学習指導と学校図書館(司書教諭)			—	講義
英文名	School Curriculum and School Library				
担当教員	斎藤 順二				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学校図書館が教師の学ぶ場となり、司書教諭が教師の学習活動を支援することができるように、学校図書館メディアの活用について理解を図ることができる。				
到達目標	1.児童生徒が、発達段階に応じて学校図書館メディアを活用できる。 2.学習指導において、教師の学校図書館メディア活用を支援できる。				
学位授与方針との対応	—	豊かな人間性と教養			
	—	専門的知識			
	—	問題発見・解決力			
	—	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	—	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	まとめのミニレポート(各章の要約と朗読 CD の感想)15 回で 90%評価する。授業参加度を 10%加味する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	まとめのミニレポートは毎回提出してもらい、次回採点・評価して返却する。				
使用教材	堀川照代編集『学習指導と学校図書館』(樹村房) 定価(1850 円＋税)				
1	講義内容	学習指導のめざすもの			
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書の第 1 章に目を通す。	1.5 時間	
		復習	教育課程の展開について理解する。	1.5 時間	
2	講義内容	情報化社会におけるリテラシーと学習指導			
	該当する到達目標 2	予習	教科書の第 2 章に目を通す。	1.5 時間	
		復習	学校教育と学校図書館について理解する。	1.5 時間	
3	講義内容	新しい学習指導と学校図書館			
	該当する到達目標 2	予習	教科書の第 3 章に目を通す。	1.5 時間	
		復習	カリキュラム編成と学校図書館について理解する。	1.5 時間	
4	講義内容	学校図書館利用指導からリテラシー教育へ			
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書の第 4 章に目を通す。	1.5 時間	
		復習	学習情報センターとしての学校図書館について理解する。	1.5 時間	
5	講義内容	情報活用能力を育む指導			
	該当する到達目標 1,2	予習	教科書の第 5 章に目を通す。	1.5 時間	
		復習	発達段階に応じた学習指導の在り方について理解する。	1.5 時間	
6	講義内容	テーマの設定と情報探索の計画			
	該当する到達目標 1	予習	教科書の第 6 章に目を通す。	1.5 時間	
		復習	生涯学習の理念と学校図書館について理解する。	1.5 時間	
7	講義内容	情報・資料の探索と収集			
	該当する到達目標	予習	教科書の第 7 章に目を通す。	1.5 時間	

	1	復習	メディア活用能力について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	情報・資料の活用		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 8 章に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	図書館利用指導の目的と理念について理解する。	1.5 時間
9	講義内容	情報・資料のまとめと伝達・保存		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 9 章に目を通す。	1.5 時間
	1	復習	図書館利用指導の内容について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	問題解決学習の活動の評価		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 10 章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	図書館利用指導の方法と評価について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	情報活用能力の育成と学校図書館		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 11 章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	メディア活用の諸問題について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	学校図書館メディア活用能力の指導計画		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 12 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	レファレンス・サービスの実際について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	学校図書館メディア活用能力指導計画の実施		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 13 章に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	情報の収集と提供について理解する。	1.5 時間
14	講義内容	学習指導における司書教諭の積極的な役割		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 14 章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	情報サービスの実際について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	情報教育の一翼を担う司書教諭		
	該当する到達目標	予習	教科書の第 15 章に目を通す。	1.5 時間
	2	復習	ネットワーク情報資源の活用について理解する。	1.5 時間
備考	司書教諭資格科目 授業では、テキストを單元ごとに読解し要約する。また「児童文学」の朗読 CD を補助教材として使用する。 なお、質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。			

科目名	読書と豊かな人間性(司書教諭)			—	講義
英文名	Theories of Reading and Personal Development in Schools				
担当教員	斎藤 順二				
科目に関連した実務経験					
学年・開講期	4 年 後期	必選・単位数	選択 2 単位		
講義目標	学校図書館の読書センターとしての役割の実際を把握し、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法への理解を図ることができる。				
到達目標	1.読書の意義と目的を理解し、心の教育としての読書習慣の指導ができる。 2.発達段階に応じた読書の指導と計画が立案できる。 3.児童生徒向け図書の種類を理解し、有効活用の支援ができる。				
学位授与方針との対応	-	豊かな人間性と教養			
	-	専門的知識			
	-	問題発見・解決力			
	-	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	-	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	まとめのミニレポート(各章の要約と朗読CDの感想)15 回で 90%評価する。授業参加度を 10%加味する。総合評価 60%以上を合格とする。				
課題に対するフィードバック	まとめのミニレポートは毎回提出してもらい、次回採点・評価して返却する。				
使用教材	朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』(樹村房)定価(1850 円+税)				
	講義内容	現代における読書の意義			
1	該当する到達目標	予習	教科書の第 1 章に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	子どもたちの読書状況について理解する。		1.5 時間
	講義内容	学校教育における読書(1)識字教育としての読書、心の教育としての読書			
2	該当する到達目標	予習	教科書の第 2 章 1・2 に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	識字教育・心の教育としての読書について理解する。		1.5 時間
	講義内容	学校教育における読書(2)文学教育としての読書、科学教育としての読書			
3	該当する到達目標	予習	教科書の第 2 章 3・4 に目を通す。		1.5 時間
	1	復習	文学教育・科学教育としての読書について理解する。		1.5 時間
	講義内容	発達段階と読書(1)発達課題と読書興味、幼少期の読書とその指導			
4	該当する到達目標	予習	教科書の第 3 章 1・2 に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	発達課題と読書興味について理解する。		1.5 時間
	講義内容	発達段階と読書(2)小学校期・中学校期・高等学校期の読書とその指導			
5	該当する到達目標	予習	教科書の第 3 章 3・4・5 に目を通す。		1.5 時間
	1,2	復習	幼少期、小・中・高校期の読書とその指導について理解する。		1.5 時間
	講義内容	読書指導の実際(1)読書環境の整備、学校図書館における読書指導計画			
6	該当する到達目標	予習	教科書の第 4 章 1・2 に目を通す。		1.5 時間
	2	復習	読書環境の整備と読書指導計画について理解する。		1.5 時間
	講義内容	読書指導の実際(2)教科指導と読書指導、生活指導と読書指導			
7	該当する到達目標	予習	教科書の第 4 章 3・4 に目を通す。		1.5 時間

	2	復習	教科指導・生活指導と読書指導について理解する。	1.5 時間
8	講義内容	読書指導の方法(1)ミニシアターのいろいろ、読み聞かせとストーリーテリング		
	該当する到達目標	予習	教科書の第5章1・2に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	読書指導のいろいろについて理解する。	1.5 時間
9	講義内容	読書指導の方法(2)ブックトークとブックリスト、アニメーションと読書会		
	該当する到達目標	予習	教科書の第5章3・4に目を通す。	1.5 時間
	1,2	復習	読書感想文・読書発表会等について理解する。	1.5 時間
10	講義内容	生涯学習への読書(1)選択能力の育成、批判能力・討論能力の育成		
	該当する到達目標	予習	教科書の第6章1・2に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	選択能力・批判能力・討論能力について理解する。	1.5 時間
11	講義内容	生涯学習への読書(2)家庭・地域との連携、公共図書館との連携		
	該当する到達目標	予習	教科書の第6章3・4に目を通す。	1.5 時間
	1,3	復習	家庭・地域、公共図書館との連携について理解する。	1.5 時間
12	講義内容	読書材の選択(1)書物の本質と構造、子どものための本		
	該当する到達目標	予習	教科書の第7章1・2に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	書物の本質と構造、子どものための本について理解する。	1.5 時間
13	講義内容	読書材の選択(2)現代の出版流通、「読書センター」のコレクション作り		
	該当する到達目標	予習	教科書の第7章3・4に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	現代の出版流通・読書センターについて理解する。	1.5 時間
14	講義内容	読書活動における司書教諭の役割		
	該当する到達目標	予習	教科書の第8章に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	学校図書館の整備と司書教諭の役割について理解する。	1.5 時間
15	講義内容	子どもの読書活動の推進		
	該当する到達目標	予習	教科書の第9章に目を通す。	1.5 時間
	3	復習	子どもの読書活動推進法と学校図書館構想について理解する。	1.5 時間
備考	司書教諭資格科目 授業では、テキストを單元ごとに読解し要約する。また「児童文学」の朗読CDを補助教材として使用する。 なお、質問等は、授業開始前もしくは終了後に応じる。			

科目名	情報メディアの活用(司書教諭)			-	講義
英文名	Utilization of School Library Media				
担当教員	太田 克子				
科目に関連した実務経験	司書として県立図書館に勤務(経験)、学校司書として県立高校に勤務(経験)、司書として県総合教育センター教育専門図書館を担当(経験)				
学年・開講期	4 年 後期	必修・単位数	選択 2 単位		
講義目標	児童生徒が日常の疑問を解決するために、情報メディア(一般図書・図鑑・辞書事典・地図・新聞・リーフレット・紙芝居・視聴覚資料等)を求めて学校図書館にやってきます。探究的な学習において、学校図書館はなくてはならない存在です。児童生徒にとって、学校図書館は、教科、特別活動等で学んだことを更に深めたり広げたりする恰好の実践場であります。 児童生徒のみならず教員にも多種多様な情報メディアを提供することが役割である学校図書館の担当者には、メディアの特性を理解し評価しその活用を図る能力が必須となります。 授業では、なるべく多くの情報メディアを扱い、その活用に結び付けることを目標とします。				
到達目標	1. 情報メディアの特性を理解し評価できる。 2. 授業を想定して、メディアを活用できる。■				
学位授与方針との対応	-	豊かな人間性と教養			
	-	専門的知識			
	-	問題発見・解決力			
	-	多様な社会・背景を理解し対応する能力(多様性理解)			
	-	自律的・意欲的に学習する力			
評価方法	レポート課題・パワーポイント課題・POP 制作・リーフレット制作 40%、発表 20%、ミニレポート・授業貢献度 40%を総合評価 60%で合格とする				
課題に対するフィードバック	ミニレポートにコメントを付けて返却する。				
使用教材	レポート課題:『みんなでつくろう学校図書館』 成田康子著(岩波ジュニア新書) 講義中にプリントを配付する。				
	講義内容	ガイダンス 情報メディアの基礎			
1	該当する到達目標	予習	どのような司書教諭になりたいか考えておくこと		1.5 時間
	1	復習	「一切のメディアがなくなったら市民生活への影響はなにか」について提出		1.5 時間
	講義内容	学校図書館の意義 学校図書館はなぜ必要か■			
2	該当する到達目標	予習	「学校図書館法」を読んでおく		1.5 時間
	1	復習	学校図書館における情報メディアについてまとめる		1.5 時間
	講義内容	紙芝居の特性			
3	該当する到達目標	予習	児童生徒に演じる「紙芝居」を選択する		1.5 時間
	1,2	復習	紙芝居と絵本の特性の違いをまとめて提出		1.5 時間
	講義内容	レファレンスブックを知ろう 課題で調べたことをグループで発表し合う■			
4	該当する到達目標	予習	課題を各自図書館で、調べる		1.5 時間
	1,2	復習	発表を聞いて、印象的だったレファレンスブックの感想と評価を記述すること		1.5 時間
	講義内容	POP の発表			
5	該当する到達目標	予習	自図書館で人に紹介したいレファレンスブックを 1 冊選んで POP にする		1.5 時間
	1,2	復習	発表を聞いて、印象的だったレファレンスブックの感想と評価をする		1.5 時間

6	講義内容	インターネットの情報源をつかってみよう■		
	該当する到達目標	予習	インターネットで子供向けの図鑑のページを探しておくこと	1.5 時間
	1,2	復習	課題に従って、各自インターネットの情報源を検索すること	1.5 時間
7	講義内容	イメージに合う画像をつかって、詩を表現する(発表)		
	該当する到達目標	予習	自分の好きな詩と写真の画像データを数枚用意しパワーポイントで制作する	3.0 時間
	1,2	復習		0 時間
8	講義内容	調べ学習のテーマを決め方&インタビュー■		
	該当する到達目標	予習	課題解決型学習について、具体的な教科単元を考えて、方針を決めておくこと	1.5 時間
	1,2	復習	ウェビングやドーナツチャートなど発想するためのツールをまとめる	1.5 時間
9	講義内容	卒業旅行のリーフレット制作(1) (必ず教育関係施設の見学を含むこと)		
	該当する到達目標	予習	テーマ、目的地、方針を決めておくこと	1.5 時間
	1,2	復習	参考文献リストを作成すること	1.5 時間
10	講義内容	卒業旅行のリーフレット制作(2)		
	該当する到達目標	予習	リーフレット制作に必要な情報を収集する	1.5 時間
	1,2	復習	リーフレット制作に必要な情報を収集して制作する	1.5 時間
11	講義内容	書画カメラを使って卒業旅行リーフレット(発表)		
	該当する到達目標	予習	卒業旅行リーフレットを制作して提出	3.0 時間
	1,2	復習		0 時間
12	講義内容	特別な配慮が必要な子どもたちへの支援		
	該当する到達目標	予習	特別支援で利用できる情報メディアを考えてくる	1.5 時間
	1,2	復習	社会的な支援体制を調べて提出	1.5 時間
13	講義内容	レファレンスブックの特性と評価■		
	該当する到達目標	予習	各自図書館で指定されたレファレンスブックの特性を記し、評価して提出	1.5 時間
	1,2	復習	対象別・教科別にレファレンスブックをまとめる	1.5 時間
14	講義内容	高度情報化社会における倫理と法、著作権・図書委員会活動でのメディア活動など■		
	該当する到達目標	予習	ネチケットについて調べておく	1.5 時間
	1,2	復習	学校教育における著作権についてまとめる	1.5 時間
15	講義内容	まとめ 学年別メディア活用表		
	該当する到達目標	予習	情報メディアを活用した授業を考えてシートにまとめて提出	1.5 時間
	1,2	復習	各自、もう一度、様々な情報メディアを活用する	1.5 時間
備考	オフィスアワー:水曜日 3 限 研究室:2 号館 5 階 509 質問はメールでも受け付けます。 e-mail:ota-y@takasaki-u.ac.jp 【授業の進め方】 講義において、前半は教員の作成するプリントや参考資料を説明する。後半はワークショップやアクティブラーニングの形式で行う。パワーポイントによる提示を行っていく。 【参考文献】 『読書の力』 太田克子[ほか] 著 三省堂書店 2010 年 『子どもはハテナでぐんぐん育つ』 調べ学習研究会「調之森」編著 岩崎書店 2017 年 『学校司書たちの開拓記』 五十嵐絹子[ほか]編著 国土社 2012 年 (■:実務経験に基づく内容を示す。)			